

茨城県教育財団文化財調査報告第311集

田 島 遺 跡

(三 面 寺 地 区)

一般国道6号千代田石岡バイパス
(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)
事業地内埋蔵文化財調査報告書3

上 巻

平成21年3月

国 土 交 通 省
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第311集

た じま
田 島 遺 跡
（ さん めん じ 寺 地 区 ）

一般国道6号千代田石岡バイパス
（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）
事業地内埋蔵文化財調査報告書3

上 巻

平成21年3月

国 土 交 通 省
財団法人茨城県教育財団

序

茨城県では、県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために、高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備を図るとともに、広域的な交通ネットワークの整備を進めています。

その一環として整備する千代田石岡バイパスは、石岡市内を中心に発生している交通渋滞を解消する上で極めて重要な役割を果たすものです。

しかしながら、この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である田島遺跡（田島下地区，南光院地区・南光院下地区，三面寺地区）が所在することから、これらを記録保存の方法により保護する必要があるため、当財団が国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所から埋蔵文化財発掘調査の委託を受け、平成16年1月から平成20年3月までの4年間余にわたってこれを実施しました。そのうち、平成15～18年度に実施した調査の成果については、既に当財団の『文化財調査報告』第253集，第287集として刊行したところです。

本書は、第287集に続き、田島遺跡（三面寺地区）の平成19年度の調査の成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもちろんのこと、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者であります国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会，石岡市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導，御協力に対しまして深く感謝申し上げます。

平成21年3月

財団法人茨城県教育財団
理事長 稲葉節生

例 言

- 1 本書は、国土交通省の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成19年度に発掘調査を実施した、茨城県石岡市田島5,554番地ほかに所在する^{たじま}田島遺跡^{さんめんじ}（三面寺地区）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調 査 平成19年4月2日～平成20年3月31日
整 理 平成20年6月2日～平成21年3月31日
- 3 発掘調査は、調査課長瓦吹堅のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 藤田哲也
主任調査員 田原康司 平成19年6月1日～平成19年6月29日
主任調査員 飯田浩彦 平成19年4月2日～平成20年1月31日
主任調査員 杉澤季展 平成20年2月1日～平成20年3月31日
主任調査員 本橋弘巳 平成19年7月2日～平成19年7月31日
副 主 査 齋藤弘道
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、以下のものが担当した。
主任調査員 飯田浩彦 第1章第1節～第3章第3節1(1), 2(1), 3(1), 5(1), 第4節
主任調査員 大関 武 第3章第3節1(2), 2(2)・(3), 3(2), 4(1)~(7), 5(2)・(3)・(5)
主任調査員 小野政美 第3章第3節4(9)・(10), 5(4)
主任調査員 齋藤和浩 第3章第3節3(3), 4(8)
- 5 本書の作成にあたり、出土炭化材の樹種同定・自然科学分析についてはパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、考察を付章として巻末に掲載した。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし、 $X = +19,920\text{m}$ 、 $Y = +39,840\text{m}$ の交点を基準点 (A 1 a1) とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C...、西から東へ1、2、3...とし、「A 1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c...j、西から東へ1、2、3...0とし、名称は大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」のように呼称した。

2 遺構・遺物・土層の実測図、一覧表、遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 SI - 竪穴住居跡 SB - 掘立柱建物跡 UP - 地下式坑 SK - 土坑 SE - 井戸跡

SD - 溝跡

遺物 P - 土器・陶磁器 TP - 拓本記録土器 DP - 土製品 Q - 石器・石製品 M - 金属製品

W - 木製品 T - 瓦

土層 K - 攪乱

3 土層観察と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。


4 土層解説中の含有物については、各々総量で解説した。

5 遺構・遺物実測図の縮尺は、次のとおりである。


(1) 遺構全体図は300分の1、遺構実測図は原則として60分の1で掲載した。

(2) 遺物実測図は原則として3分の1で掲載した。種類や大きさにより異なる場合があり、それらについては個々に縮尺を表示した。

(3) 遺構及び遺物の実測図中の表示は次のとおりである。

 焼土・赤彩・施釉・朱墨

 炉・火床面・繊維土器断面

 竈部材・粘土範囲・黒色処理

 煤・柱痕

土器 土製品 石器・石製品 金属製品・古銭 木製品 瓦

炭化材 ----- 硬化面

6 遺物観察表及び遺構一覧表の作成方法は、次のとおりである。

(1) 遺物番号は通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

(2) 計測値の単位はcm及びgで示した。

(3) 遺物観察表及び遺構一覧表とも()は現存値、[]は推定値を示した。

(4) 備考欄は、土器の現存率及び写真図版番号の他に、必要と思われる事項を記した。

7 竪穴住居跡の主軸は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した（例 N - 10° - E）。

目 次

- 上 卷 -

序	
例言	
凡例	
目次	
概要	
第1章 調査経緯	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査経過	5
第2章 位置と環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 調査の成果	11
第1節 調査の概要	11
第2節 基本層序	11
第3節 遺構と遺物	12
1 古墳時代の遺構と遺物	12
(1) 竪穴住居跡	12
(2) 土坑	118
2 奈良時代の遺構と遺物	120
(1) 竪穴住居跡	120
(2) 掘立柱建物跡	198
(3) 土坑	203
3 平安時代の遺構と遺物	204
(1) 竪穴住居跡	205

- 下 卷 -

(2) 土坑	245
(3) 井戸跡	246
4 中世の遺構と遺物	248
(1) 掘立柱建物跡	248
(2) 方形竪穴遺構	252
(3) 地下式坑	266
(4) 火葬土坑	277
(5) 粘土貼土坑	279
(6) 墓坑	282
(7) 土坑	285
(8) 井戸跡	305
(9) 堀跡	311
(10) 溝跡	313
5 その他の遺構と遺物	317
(1) 竪穴住居跡	317
(2) 掘立柱建物跡	321
(3) 土坑	324
(4) 溝跡	342
(5) 遺構外出土遺物	345
第4節 まとめ	353
付 章 田島遺跡(三面寺地区)から出土した炭化材の樹種について	361
写真図版	
抄録	
付図	

田島遺跡（三面寺地区）の概要



【調査のあらまし】

現在、国道6号線の渋滞緩和のためにバイパス工事が行われています。その予定地には、田島遺跡があります。この遺跡を記録保存するために、茨城県教育財団が発掘調査を行いました。

【調査の内容】

古墳時代中期（約1550年前）の竪穴住居跡。右側の壁についている二の字形に見えるものは竈で、この地方で住居内に竈が作られ始めた頃のもので、右隅の四角形の穴は貯蔵穴といい、食料などを貯めておく穴です。床面に四角形に並ぶ丸い穴は、柱を立てていた支柱穴です。手前の穴は、出入り口用の梯子などを立てていた出入り口ピットです。



古墳時代後期（約1500年前）の竪穴住居跡から出土した土器。これは土師器の甕で、中に見えるものは、甕を支える役目をする支脚です。甕は竈に据えられ、水や食物の煮炊きなどで使われます。そのため、土器の表面には煤が付いている場合があります。右の甕は、竈が崩れたときに押しつぶされ、支脚に突き破られた状態です。





奈良時代(約1300年前)の竪穴住居跡。
律令が整えられた奈良時代になると、住居のつくり方や大きさが、統一されるようになります。住居跡内には竈が作られ、主柱穴や出入り口ピット、壁際に掘り込まれた壁溝も、ほとんどの住居跡から確認されています。



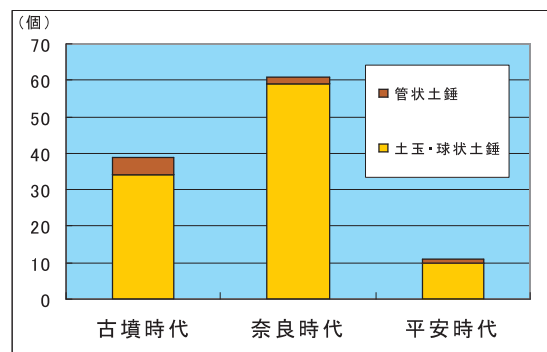
奈良時代(約1300年前)の竪穴住居跡。
上屋が焼失してしまった住居跡で、焼け残った炭化材は、柱材や屋根材・壁材とみられます。この炭化材を分析した結果、コナラやイネ・タケであったことが分かりました。床面からは、土師器の坏や甕、須恵器の坏や壺などの土器が、そのままの形で、たくさん出土しました。



奈良時代(約1300年前)の竪穴住居跡から出土した球状土錘。この住居跡の床面や壁際からは、網のおもりとして使われた球状土錘が33個も出土しました。近くの恋瀬川などで魚をとっていたものと思われま

	古墳時代	奈良時代	平安時代
田島遺跡の住居跡(軒)	52	32	22
土錘が見つかった住居跡(軒)	20	14	5
出土率(%)	38.5	43.8	22.7

田島遺跡の住居跡数と土玉・球状土錘、管状土錘が見つかった住居跡数および出土率

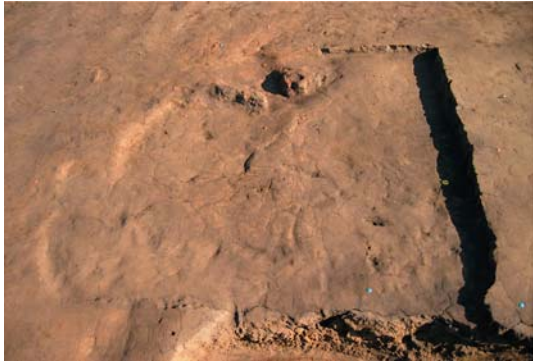


田島遺跡の住居跡から出土した土玉・球状土錘、管状土錘の出土数

上の表やグラフから分かるように、39軒の住居跡から、合計111個の土玉・球状土錘、管状土錘が見つかりました。出土数・出土率とも、奈良時代が最も高く、平安時代になるとやや減っています。



^{へいあん}平安時代(約1200年前)の竪穴住居跡。
この時代になると、住居の規模が小さくなるとともに、内部に支柱穴をもたなくなります。この住居跡は、面積が約9㎡ほどの大きさです。



平安時代(約1150年前)の竪穴住居跡。
竈の左側が床よりも高くなっています。これは、^{たな}棚のようなものと考えられています。この遺跡からは、棚をもつ住居跡が3軒確認されました。

^{ちゅうせい}中世(約600年前)の^{ちか}地下式^か坑。2基が並んで見つかりました。現在の愛知県瀬戸地方で焼かれた陶器の三耳壺が出土しました。この遺跡からは、合わせて9基の地下式坑が確認されました。



中世(約500年前)の^か火葬^{そう}土坑。上から見るとT字形をしています。縦に延びる溝は、^{つう}燃焼をよくするために風を通す^{ふう}通風溝の役目をします。また、土師質土器の皿が2枚重なって出土しました。この遺跡からは、合わせて3基の火葬土坑が確認されました。



中世(約500年前)の^ぼ墓^{こう}坑。埋葬された人骨とともに、土師質土器の皿が2枚出土しました。この遺跡からは、人骨や馬骨が見つかり、墓坑と分かったものが5基確認されました。



【調査して分かったこと】

田島遺跡(三面寺地区)は、石岡市の南東部、恋瀬川左岸の河岸段丘上に位置しています。発掘調査の結果、竪穴住居跡110軒が見つかりました。

集落は、古墳時代前期(約1700年前)に営まれ始まりますが、長くは続かないで途絶えてしまいます。約150年後、古墳時代中期の後半(約1500年前)になるとふたたび営まれ、奈良時代の後半(約1200年前)に最も栄えた時期を迎えることとなります。その後、集落の規模は小さくなりますが、平安時代中期の前半(約1050年前)まで継続して営まれていました。

このように、長期にわたり営まれた田島遺跡の集落の様子は、大規模な住居を中心に数軒がひとまとまりとなっている時期や、住居のほかに掘立柱建物も建てられている時期、小規模な住居が散らばって存在している時期など、いろいろ変わっていったことが分かりました。

また、住居跡からは、坏・蓋・鉢・壺・甕・甑など、生活用具としての遺物もたくさん出土しました。特徴的なものは、網のおもりとして使われた土玉・球状土錘や管状土錘が多くの住居跡からたくさん出土したことです。この遺跡は、周辺の沖積低地を利用した稲作とともに、南側を流れる恋瀬川を利用した漁労にも携わっていた集落跡で、半農半漁のような生活をしていたものと考えられます。

中世の後半(約600年～500年前)では、地下式坑・火葬土坑・粘土貼土坑・墓坑・土坑・井戸跡・堀跡・溝跡などの遺構が確認されるようになります。このような遺構がたくさん見つかったことから、集落が終わってから約500年後には、墓地としてこの地が利用されていたことが分かりました。

【むずかしい言葉】

土師器...700～800 の温度で焼かれた赤褐色の土器のこと。

須恵器...1000 以上の温度で、窯を使って焼かれた青灰色の土器のこと。

土玉・球状土錘...魚をとる網に用いる土製のおもりで球状のもの。直径が2 cm未満を土玉，2 cm以上を球状土錘としました。

管状土錘...魚をとる網に用いる土製のおもりで管状のもの。

土師質土器...中世以降に土師器と同じ焼き方で作られた土器のこと。

地下式坑...地表面に竪穴を深く掘り，さらに横へ向かって掘り進め，奥に主室を設けた土坑のこと。

火葬土坑...遺体を焼くために掘られた土坑のこと。

粘土貼土坑...掘られた穴の内側に粘土を貼り付けた土坑のこと。

墓坑...遺体・遺骨などを埋葬するために掘られた土坑のこと。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成10年11月12日、建設省関東地方建設局常陸工事事務所長（現：国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長）は茨城県教育委員会教育長に対して一般国道6号千代田石岡バイパス（千代田町市川～石岡市東大橋）における埋蔵文化財の所在の有無及び取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成11年2月8日～3月3日に現地踏査を、平成12年8月22～24日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成12年11月21日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに、事業地内に田島遺跡が所在する旨及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成15年3月10日、国土交通省関東地方整備局長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3（現第94条）に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成15年3月12日、国土交通省関東地方整備局長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成19年1月31日、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道6号（千代田石岡BP）に係わる埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成19年2月22日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに、田島遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

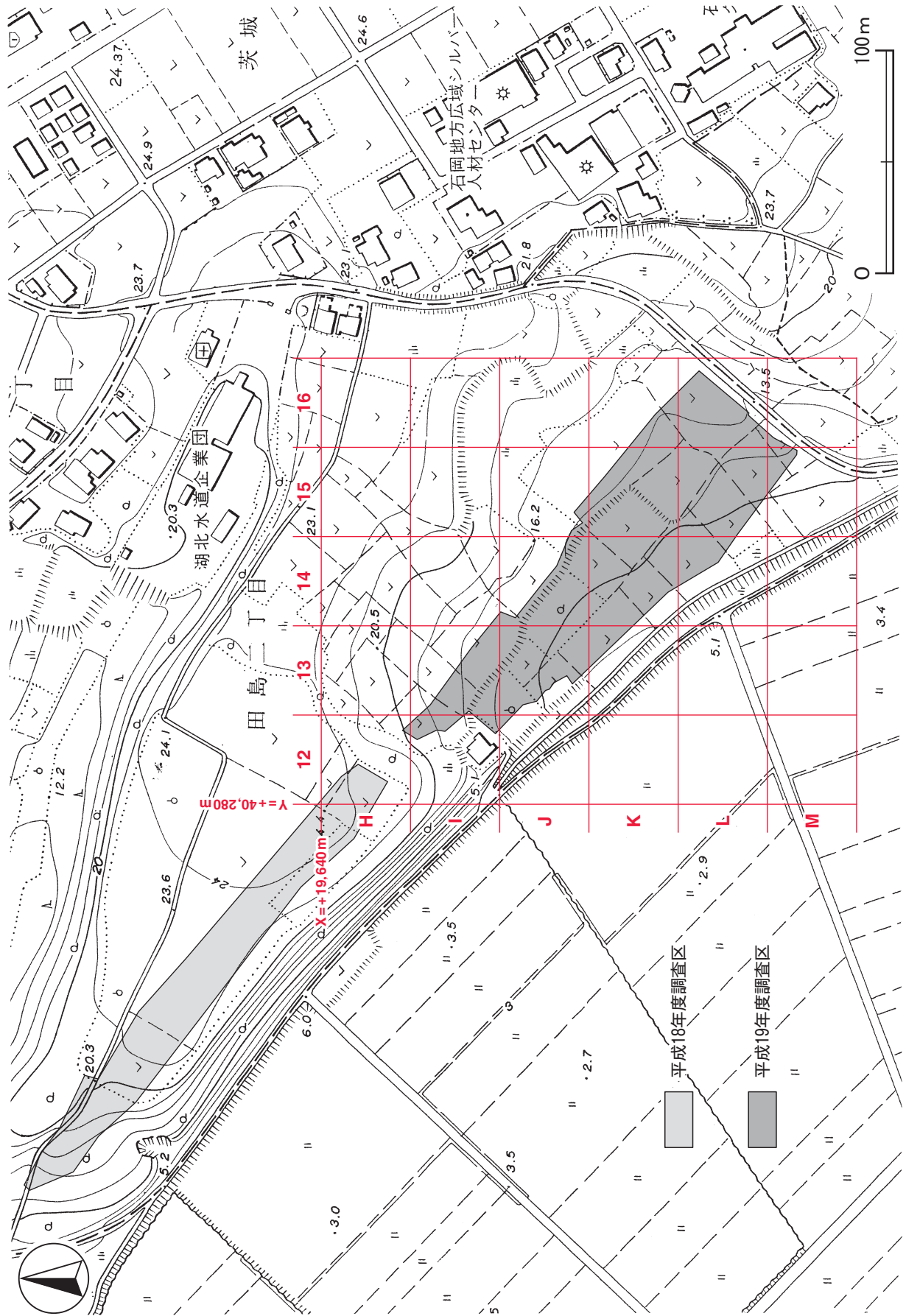
財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成19年4月2日～平成20年3月31日まで田島遺跡（三面寺地区）の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

調査は、平成19年4月2日から平成20年3月31日まで実施した。以下、その概要を表で記載する。

【調査経過】

工程	期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認		■											
遺構調査			■										
遺物洗浄 注記作業 写真整理			■										
補足調査 撤収													■



第1図 田島遺跡（三面寺地区）調査区設定図

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

田島遺跡（三面寺地区）は、茨城県石岡市田島5,554番地ほかに所在している。

石岡地域の地勢は、霞ヶ浦の北西、県中央部に広がる洪積台地を主体としている。筑波山系の加波山に源を発する恋瀬川が、北西から南東方向に流れながら霞ヶ浦の高浜入に注ぎ、両岸には標高20～30mのゆるやかな台地が広がっている。北西域は恋瀬川とその支流によって、高地、台地、低地と起伏に富んだ地形が形成され、恋瀬川右岸の台地上には、柿岡地区を中心とした旧八郷市街地が発達している。南東域は南端の高浜から地域の中央部に位置する竜神山麓まで、約8kmにわたり幅約1.5kmの狭長な台地が形成され、恋瀬川と園部川、その中間を流れる山王川によって支谷が刻まれている。恋瀬川左岸に位置するこの台地は石岡台地と呼ばれ、石岡市街地が発達している。

地質は、未固結の砂を主とする石崎層、浅海成の貝化石を産する海成の砂層である見和層を基盤とし、その上に茨城粘土層と呼ばれる粘土層、さらに褐色の関東ローム層が連続して堆積し、最上部は腐食土層となっている¹⁾。

当遺跡（三面寺地区）は、恋瀬川左岸の標高7～19mの河岸段丘低位段丘から上位段丘にかけて立地しており、現況は畑地である。低位段丘部の南西側は10mほどの崖となっており、崖下の低地部は恋瀬川まで続く沖積低地で水田地帯である。

第2節 歴史的環境

田島遺跡は、縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。当遺跡周辺には多くの遺跡が存在している²⁾。ここでは、当遺跡に関連する周辺遺跡の分布概要について時代ごとに述べる。

旧石器時代の遺跡は、現在のところ市域では最古と考えられている正月平遺跡のほか、宮平遺跡²⁾、十三塚C遺跡や弾正C遺跡が確認されている³⁾。

縄文時代の遺跡は、草創期から晩期にかけて各時期のものが確認されている。当遺跡周辺では、外城遺跡⁴⁾ 3、小目代遺跡⁴⁾ 4、三面寺遺跡⁵⁾ 5、田崎遺跡⁶⁾ 6、平成15～18年度にかけて調査された田島遺跡（田島下地区⁵⁾ 7、南光院・南光院下地区⁶⁾ 8）、外山遺跡⁷⁾ 9、大谷津遺跡⁸⁾ 10、餓鬼塚遺跡⁹⁾ 11、宮部遺跡⁹⁾ 12、新池台遺跡¹⁰⁾ 13 などがある。これらの遺跡も旧石器時代の遺跡と同様に、恋瀬川から霞ヶ浦にかけての舌状台地上に分布しており、集落が営まれていたと考えられる¹¹⁾。

弥生時代の遺跡は、新池台遺跡、宮平遺跡、外山遺跡などがあり、その分布を見ると、恋瀬川や園部川から延びる谷津を望む台地縁辺部に集中しており、谷津地形を利用して集落を形成していたと考えられる。その他、兵崎遺跡¹⁴⁾ 14、田崎遺跡、中津川遺跡¹⁵⁾ 15 などが確認されている。

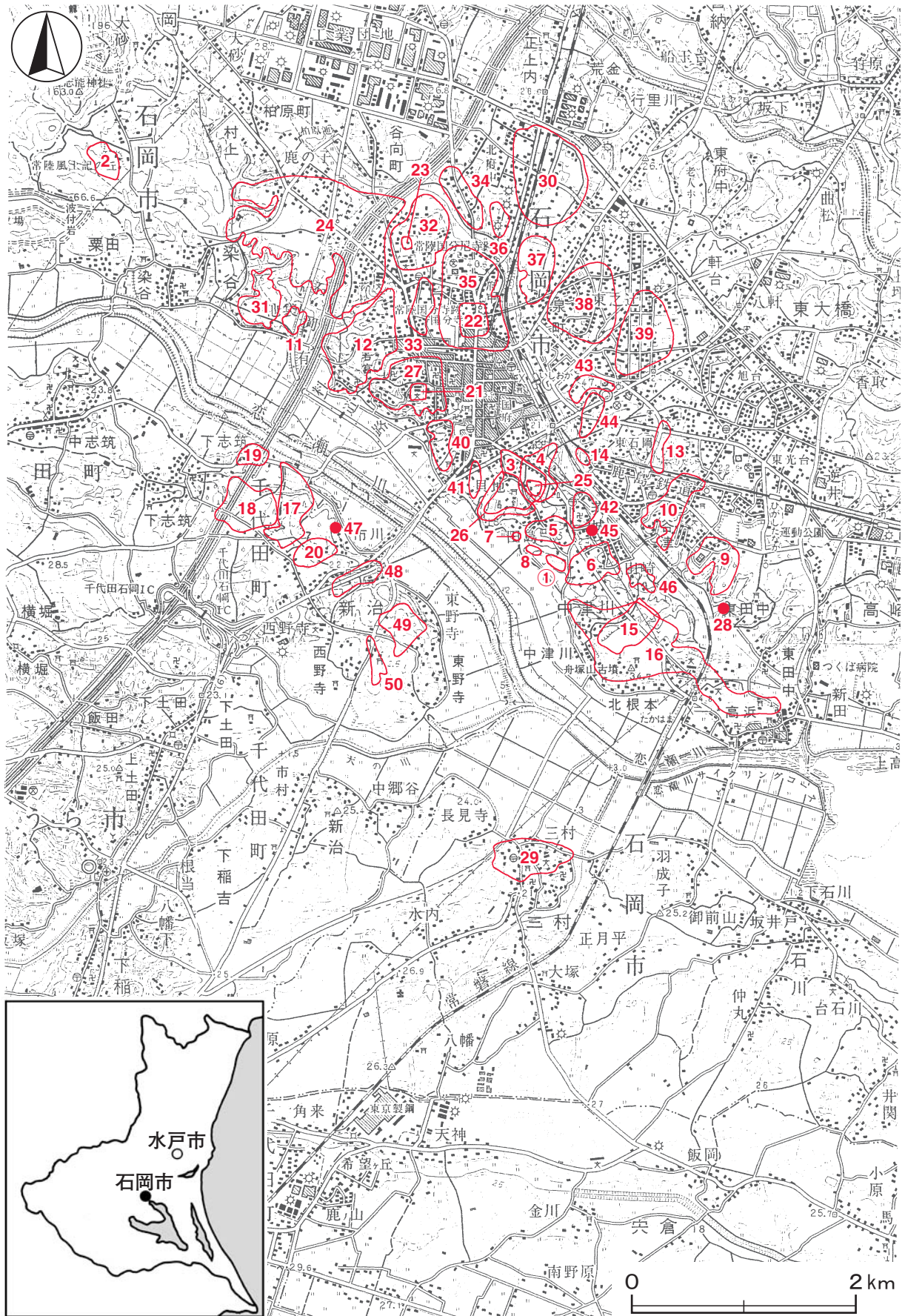
古墳時代になると、集落跡や古墳など、遺跡数の増加が顕著となる。市域における集落跡は、園部川、山王川、恋瀬川流域、及び霞ヶ浦沿岸部などの台地上や縁辺部から57か所が確認されている。主な集落跡は前期の外山遺跡、後期の餓鬼塚遺跡、新池台遺跡などが確認され、そのほかには、田島遺跡（田島下地区、南光院・南光院下地区）、石岡別所遺跡¹²⁾ 17、中津川遺跡、松延遺跡¹⁸⁾ 18、六枚遺跡¹⁹⁾ 19、市川遺跡²⁰⁾ 20、宮平遺跡などがある。古墳、古墳群のほとんどは恋瀬川主流の柿岡盆地の中戸、瓦谷、野田、柿岡地区、恋瀬川支

流域の下青柳地区，高浜入りの恋瀬川左岸の中津川，北根本地区にみられ，その他は染谷，三村，石川地区などに分布している。市域における最古の古墳では，4世紀後半代の築造と考えられている柿岡の丸山1号墳があげられる¹³⁾。本墳は，県内最古級の古墳として，周辺地域に点在する古墳群の盟主的な性格を有する存在として位置づけられている。5世紀中葉になると，東国第2位の規模を誇る舟塚山古墳が築造される。本墳の墳丘形態は畿内のウワナベ古墳などに共通する特徴を有していることから，被葬者は大和政権と強い結びつきをもった豪族と考えられ，霞ヶ浦や恋瀬川の水運を管理していた集団の首長であったとみられている。この舟塚山古墳を盟主とする舟塚山古墳群は，愛宕山古墳，平足塚古墳，大日塚古墳など大形古墳を含んでおり，この地における有力豪族の存在を裏付けている¹⁴⁾。

奈良・平安時代には律令制により国・郡・里（郷）制がしかれ，石岡市域は茨城郡に属し，常陸国府が置かれた。常陸国衙跡¹⁵⁾ 21 は従来から現石岡小学校敷地説が有力であったが，近年の継続的な調査によって，1町四方の区画内に正殿，前殿が置かれ，その東西には脇殿が整然と配された国庁跡が確認され，石岡小学校敷地が常陸国衙の中核部である国庁であったことが判明した¹⁶⁾。国衙跡の北方には常陸国分寺跡¹⁷⁾ 22，常陸国

表1 田島遺跡（三面寺地区）周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
①	田島遺跡(三面寺地区)								26	茨城郡衙跡							
2	宮平遺跡								27	府中城跡							
3	外城遺跡								28	高野浜城跡							
4	小目代遺跡								29	三村城跡							
5	三面寺遺跡								30	木間塚遺跡							
6	田崎遺跡								31	高根遺跡							
7	田島遺跡(田島下地区)								32	尼寺ヶ原遺跡							
8	田島遺跡(南光院・南光院下地区)								33	一本杉遺跡							
9	外山遺跡								34	北ノ谷遺跡							
10	大谷津遺跡								35	国分遺跡							
11	餓鬼塚遺跡								36	木間長者屋敷遺跡							
12	宮部遺跡								37	杉ノ井遺跡							
13	新池台遺跡								38	東ノ辻遺跡							
14	兵崎遺跡								39	大塚遺跡							
15	中津川遺跡								40	幸町遺跡							
16	舟塚山古墳群								41	通安寺遺跡							
17	石岡別所遺跡								42	税所屋敷遺跡							
18	松延遺跡								43	山王遺跡							
19	六枚遺跡								44	兵崎箕輪遺跡							
20	市川遺跡								45	茨城古墳							
21	常陸国衙跡								46	石岡田崎遺跡							
22	常陸国分寺跡								47	三王原遺跡							
23	常陸国分尼寺跡								48	姥久保遺跡							
24	鹿の子遺跡								49	東野寺遺跡							
25	茨城廃寺跡								50	宮台遺跡							



第2図 田島遺跡(三面寺地区)周辺遺跡分布図(国土地理院5万分の1「真壁」「石岡」「土浦」「玉造」)

分尼寺跡¹⁸⁾ 23, 常陸国分尼寺跡の北西方には多量の漆紙文書が出土したことで著名な, 国衙に付属する工房跡である鹿の子C遺跡¹⁹⁾や一般集落跡である鹿の子A遺跡を含む鹿の子遺跡 24 が広がっている。また, 当遺跡が存在している石岡市街地の南部には, 茨城郡の寺である茨城廃寺跡²⁰⁾ 25 や茨城郡衙跡 26 に推定されている外城跡が所在するなど, 石岡台地上には当時代の遺跡が多数存在し, 市域が隆盛を保っていた様子をうかがい知ることができる。なお, 古代における当遺跡が所在する付近を含めた石岡市街地は, 茨城郡の茨城郷に属していた。

中世には武家が台頭して勢力争いが起こり, 戦国乱世へ流れていく中, 各地に城郭の築造が見られるようになる。石岡市域では, 鎌倉時代に常陸国衙において政務を執っていた大掾資幹が外城の地に石岡城を築城した。南北朝時代には, 大掾氏と小田氏との間で抗争が激化し, 八代詮国は現在の石岡小学校の場所に城を移して府中城跡 27 とした。これにより石岡城は外城として, 府中城の出城としての性格を強めた。その他, 市域には高野浜城跡 28 や三村城跡²¹⁾ 29 などがあり, これらはこの時期に築城された出城跡である。

大掾氏や小田氏等の抗争の中, 中世末期は北から勢力を伸ばしてきた佐竹氏の支配下に入り, やがて徳川家康が江戸に幕府を開くと, 徳川頼隆を藩祖とする府中藩となり, 陣屋が置かれた。古来から水運交通に恵まれていた石岡の地は, 周辺集落や各地からの物産集散地としての性格を色濃くし, 近世になると特に酒・醤油など醸造業を中心とした商人層の活躍が目覚ましかった。

なお, 三面寺地区の名称については, 中・近世においてこの地に三面寺という寺があったことに由来する。三面寺の末寺は南光院で, 三面寺が衰えた文明の頃から暫く栄えたが, 幕末に廃寺となっている。三面寺は税所氏の菩提寺で, 仁和年間以前に同氏によって建立され鎌倉時代まで続いたのち, 文明十三年に万福寺に継承された。当地区は三面寺地区とされているが, 南光院の南東に位置していることから, 三面寺の推定地より南側の地域にあった²²⁾。

文中の 内の番号は, 表 1 及び第 2 図の該当番号と同じである。

註

- 1) 石岡市史編さん委員会『石岡市史 下巻』石岡市 1985年3月
- 2) 茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図(地名表編, 地図編)』茨城県教育委員会 2001年3月
- 3) 石岡市文化財関係資料編纂会『石岡市の遺跡』石岡市教育委員会 1995年3月
- 4) 石岡市教育委員会『外城遺跡発掘調査報告』1986年3月
- 5) 飯泉達司「田島遺跡(田島下地区)一般国道6号千代田石岡バイパス(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第253集 2006年3月
- 6) 小野政美「田島遺跡(南光院・南光院下地区)一般国道6号千代田石岡バイパス(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第287集 2008年3月
- 7) 山本静男「石岡都市計画事業南台土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 兵崎遺跡 大谷津A遺跡 対馬塚遺跡 大谷津B遺跡 大谷津C遺跡 外山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』Ⅻ 1982年3月
- 8) 註7に同じ
- 9) 佐藤正好・渡辺俊夫「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書4-宮部遺跡 鹿の子A遺跡 砂川遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』ⅩⅥ 1982年3月
- 10) 和田雄次「石岡都市計画事業南台土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2 新池台遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第17集 1983年3月
- 11) 石岡市文化財関係資料編纂会『常府石岡の歴史』石岡市教育委員会 1997年3月
- 12) 後藤孝行「石岡別所遺跡 一般国道石岡つくば線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第244集 2004年3月
- 13) 八郷町史編さん委員会『八郷町史』八郷町 2005年3月
- 14) 註7に同じ
- 15) 箕輪健一『常陸国衙跡Ⅳ 国衙域の第4次調査概要』石岡市教育委員会 2006年3月
- 16) 石岡市教育委員会『常陸国衙跡』国衙域の第6次(西脇殿・推定書司地区)調査現地説明会資料 2007年3月
- 17) 安藤敏孝『常陸国分寺発掘調査報告』石岡市教育委員会 1995年3月
- 18) 安藤敏孝『常陸国分寺発掘調査概報』石岡市教育委員会 1996年3月
- 19) 佐藤正好・川井正一「常磐自動車道関係埋蔵文化財調査報告書5 鹿の子C遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第20集 1983年3月
- 20) 小笠原好彦・黒澤彰哉『茨城廃寺Ⅰ』石岡市教育委員会 1980年3月
- 21) 栗田功「三村城跡 一般県道飯岡石岡線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第299集 2008年3月
- 22) 石岡市史編纂委員会『石岡市史 上巻』石岡市 1990年7月

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

田島遺跡(三面寺地区)は、恋瀬川左岸の標高7~19mの河岸段丘低位段丘から上位段丘にかけて立地している。調査区は、この段丘部を南北幅220m、東西幅10~60mに設定され、調査面積は11,106㎡である。調査前の現況は畑地である。

今回の調査によって、古墳時代から中世までの遺構と遺物が確認でき、確認した遺構は、竪穴住居跡110軒(古墳時代52, 奈良時代32, 平安時代22, 時期不明4), 掘立柱建物跡9棟(奈良時代3, 中世3, 時期不明3), 方形竪穴遺構19基(中世), 地下式坑9基(中世), 溝跡19条(中世3, 時期不明16), 井戸跡10基(平安時代2, 中世8), 土坑331基(古墳時代2, 奈良時代2, 平安時代2, 中世32, 時期不明293), 地下式坑9基, 火葬土坑3基, 粘土貼土坑5基, 墓坑5基, 土坑32基(中世)である。

遺物は、遺物コンテナ(60×40×20cm)に130箱出土している。主な遺物は旧石器(ナイフ形石器・剥片・尖頭器), 縄文土器(浅鉢・深鉢), 弥生土器(壺), 土師器(坏・椀・高台付坏・蓋・皿・埴・炉器台・壺・高坏・甕・甑・ミニチュア土器), 須恵器(坏・高台付坏・蓋・高盤・捏鉢・長頸瓶・甕・甑), 灰釉陶器(椀・長頸瓶), 陶器(瓶子・三耳壺), 土師質土器(小皿・内耳鍋), 土製品(球状土錘・管状土錘・支脚・紡錘車), 石器(石鏃・磨製石斧・砥石), 石製品(紡錘車・双孔円板), 金属製品(刀子・鎌・鉸具・釘), 木製品(剝物桶カ), 瓦(軒丸瓦・丸瓦・平瓦), 古銭などである。

第2節 基本層序

調査区は、台地上の低位段丘から上位段丘にかけて位置しており、比高があるため上位段丘上のI12d0区にテストピット1を、低位段丘上のL15f2区にテストピット2を設定し、基本土層の堆積状況を観察した。テストピット1は地表面の標高が16.5mで、表土を除去した確認面から約2.7mほど掘り下げ、第3図左のような堆積状況を確認した。テストピット2は地表面の標高が9.2mで、表土を除去した確認面から約1.5mほど掘り下げ、第3図右のような堆積状況を確認した。

土層は、色調・構成粒子・含有物・粘性などから11層に細分される。観察結果は、以下の通りである。

第1層は、暗褐色の表土で、層厚は50~160cmである。

第2層は、にぶい黄褐色を呈する再堆積層で、ロームブロック・粘土粒子を中量含んでいる。粘性は普通で締まりが強い。層厚は40~60cmである。

第3層は、黄褐色を呈するハードローム層で、細礫を微量含み、粘性・締まりともに強い。層厚は30~100cmである。

第4層は、黄褐色を呈するハードローム層で、粘性・締まりともに強い。層厚は30cm前後である。

第5層は、にぶい黄色を呈するハードローム層で、粘性・締まりともに強い。層厚は40~60cmである。

第6層は、褐色を呈するハードローム層で、粘性・締まりともに強い。層厚は30cm前後である。

第7層は、黄褐色を呈する砂層への漸移層で、細礫を多量含み、粘性・締まりともに弱い。層厚は30~50cmである。

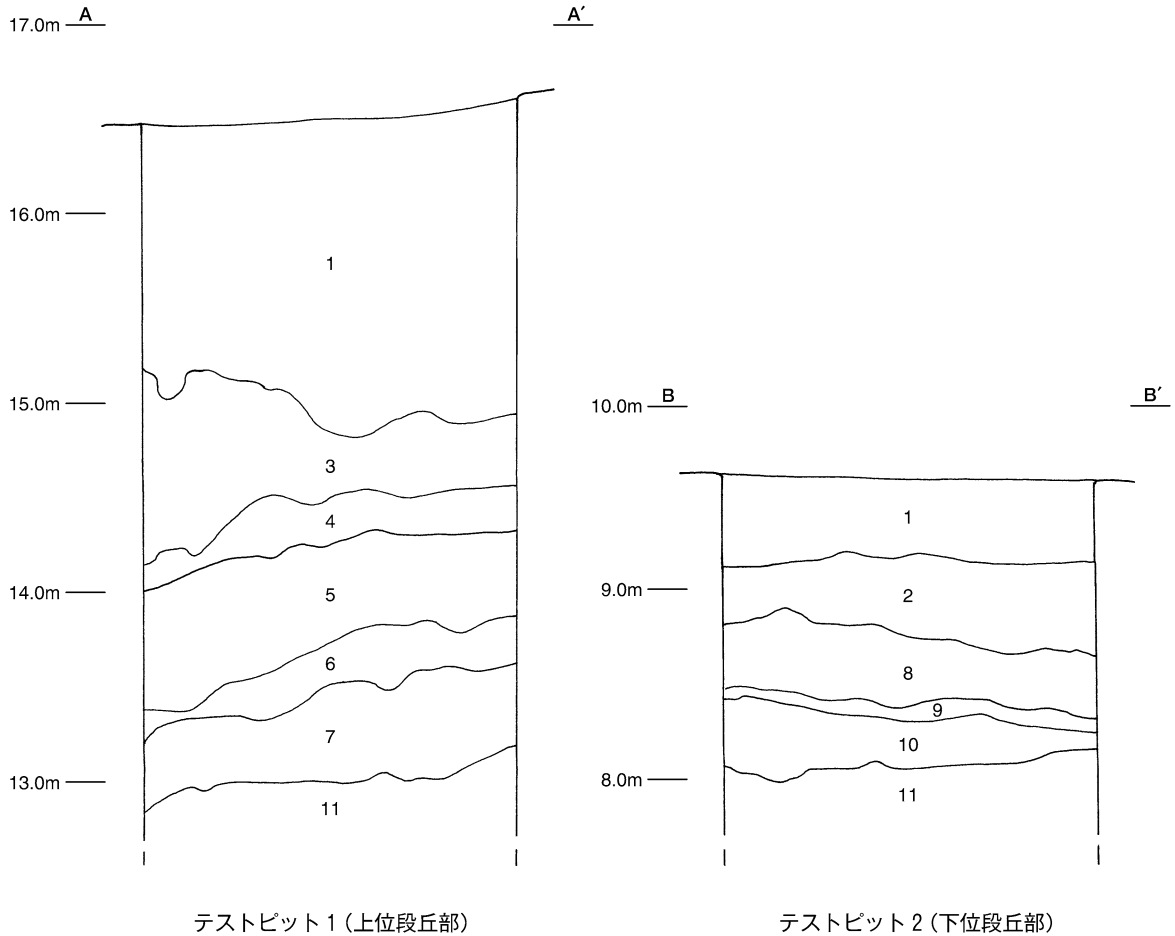
第8層は、明黄褐色を呈する粘土純層で、粘性・締まりともに強い。層厚は30～50cmである。

第9層は、明黄褐色を呈する粘土層下層で、粘土粒子多量の中に沈着した鉄分を含み、粘性・締まりともに強い。層厚は10～15cmである。

第10層は、明黄褐色を呈する粘土純層から砂層への漸移層で、粘土粒子を多量、砂粒子を微量に含み、粘性・締まりともに強い。層厚は10～50cmである。

第11層は暗オリーブ褐色を呈する砂層で、粘性は弱い。下層は未掘のため本来の層厚は不明である。

なお、遺構の多くが上位段丘上では第3層，低位段丘上では第2層上面でそれぞれ確認されている。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

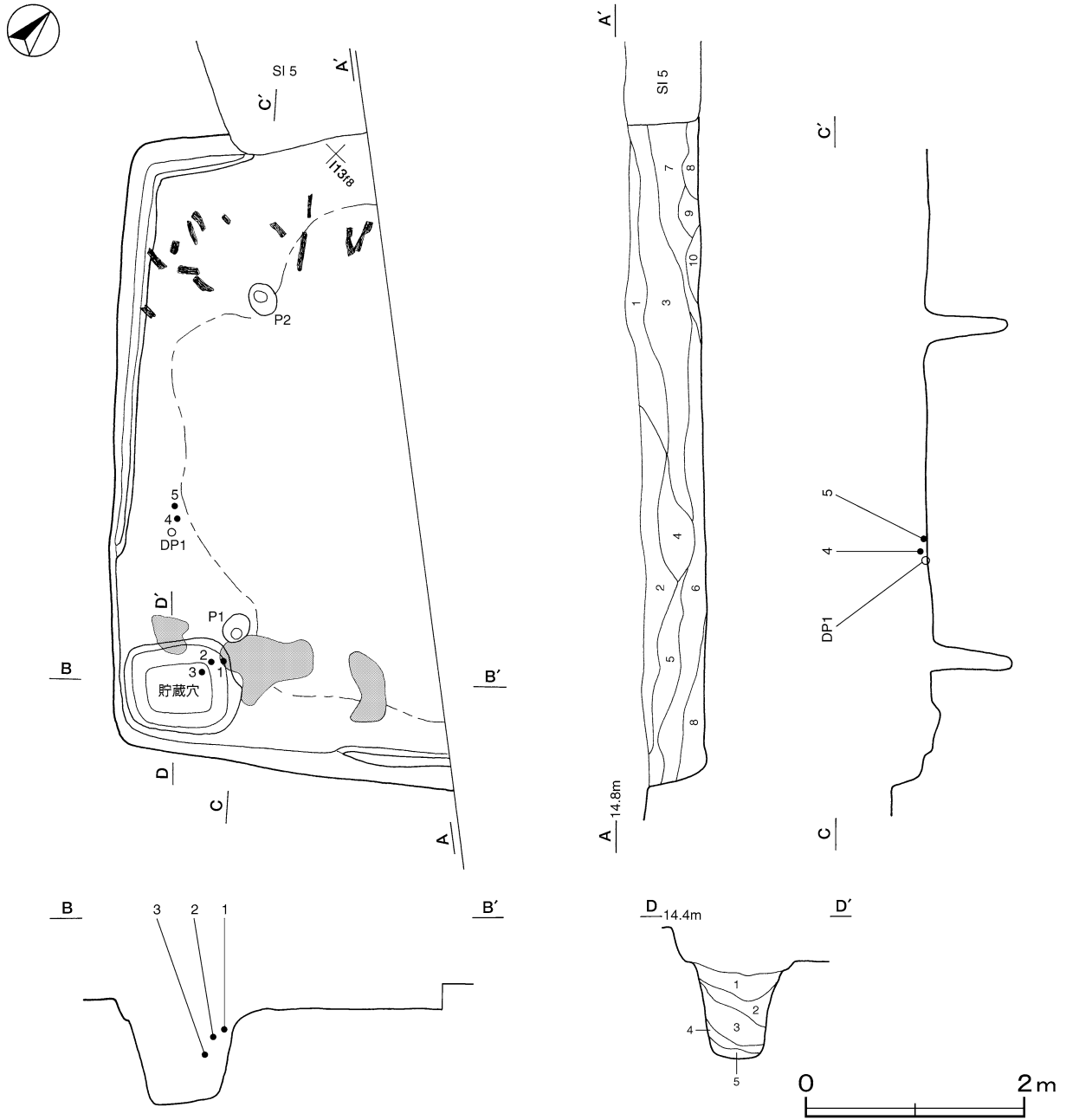
1 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡52軒，土坑2基が確認されている。以下，確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第2号住居跡 (第4・5図)

位置 調査区北西部のI13f8区，標高14.5mの河岸段丘上位の平坦部に位置している。



第4図 第2号住居跡実測図

重複関係 北西壁を第5号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北東壁が調査区域外へ延びているため、北西・南東軸は5.70mで、北東・南西軸は2.97mが確認されただけである。遺存する壁から主軸方向がN - 44° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は19~60cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が西コーナー部から南西壁まで確認されている。また炭化材が西コーナー部付近、焼土が南コーナー部の床面からそれぞれ確認されている。

ピット 2か所。P1は深さ74cm、P2は深さ75cmで、規模と位置から支柱穴である。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長軸98cm、短軸88cmの長方形で、深さは85cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ロームブロックや炭化材を含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化材・ローム粒子少量，焼土ブロック微量 | 4 黒褐色 炭化物・ローム粒子多量，焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 炭化材少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 ローム粒子多量，炭化物少量，焼土粒子微量 |
| 3 褐色 ロームブロック多量，炭化物少量，焼土粒子微量 | |

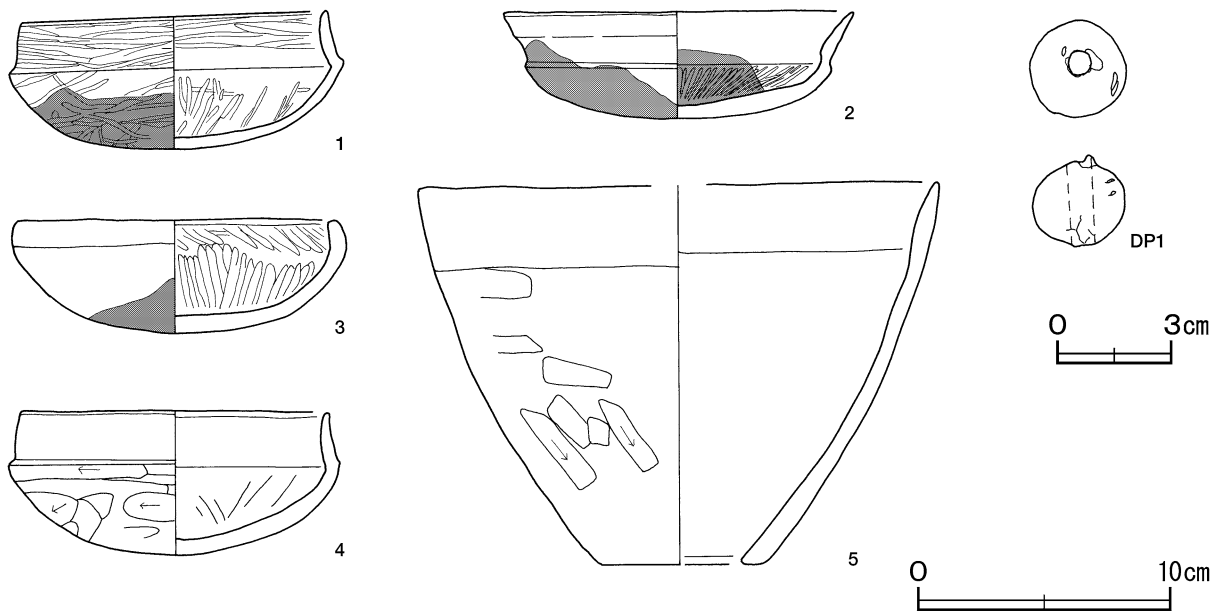
覆土 10層に分層できる。大半の層に炭化物を含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量 | 7 褐色 炭化物・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 炭化物少量，ローム粒子微量 | 9 暗褐色 炭化物・ローム粒子・砂粒微量 |
| 5 褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量 | 10 黒褐色 焼土粒子・砂粒少量，炭化物微量 |

遺物出土状況 土師器片285点（坏42，甕242，甌1），土製品1点（球状土錘）が貯蔵穴と南コーナー部を中心に出土している。その他，流れ込んだ縄文土器片2点，混入した須恵器片27点，瓦片，不明鉄製品も出土している。1～3は貯蔵穴の覆土中層，5，DP1は南西壁際の床面，4は南西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 焼土や炭化材の出土状況から焼失住居である。時期は，出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第5図 第2号住居跡出土遺物実測図

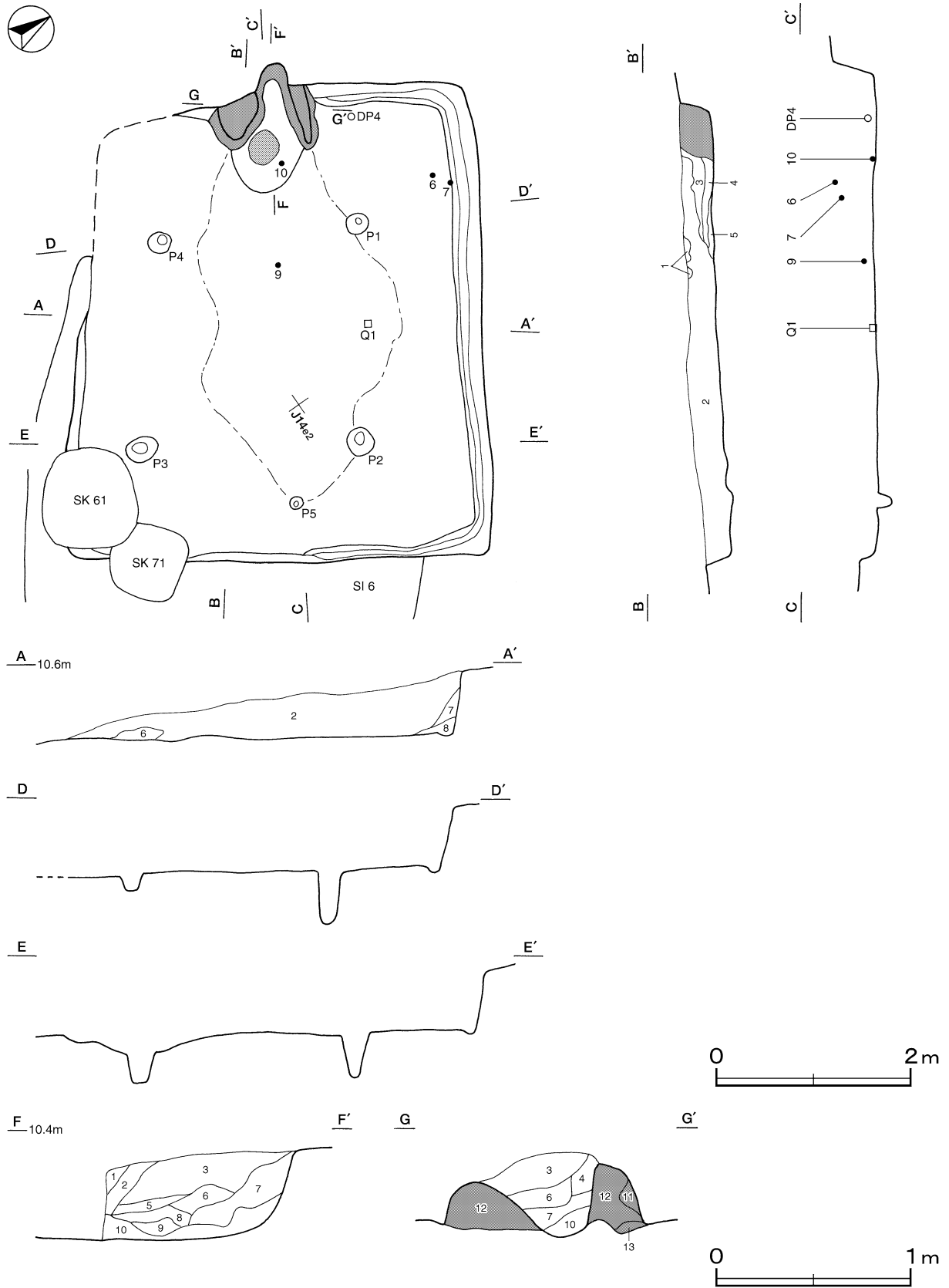
第2号住居跡出土遺物観察表（第5図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.0	5.5	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面へら削り後，へら磨き 内面放射状のへら磨き	貯蔵穴	100% PL26
2	土師器	坏	13.7	4.2	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部内面放射状のへら磨き	貯蔵穴	100% PL27
3	土師器	坏	12.5	4.6	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面ナデ 体部内面放射状のへら磨き	貯蔵穴	95%
4	土師器	坏	12.1	5.7	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面へら削り 内面へら当て痕	覆土下層	95%
5	土師器	甌	[20.3]	15.2	[6.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面へら削り後，ナデ 内面ナデ	床面	60% PL40

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP1	球状土錘	2.4	2.6	0.6	12.6	雲母	丁寧なナデ 一方向からの穿孔	床面	PL45

第3号住居跡 (第6・7図)

位置 調査区中央部のJ14d1区, 標高10.5mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。



第6図 第3号住居跡実測図

重複関係 第6号住居跡を掘り込み、第61・71号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.92m，短軸4.42mの長方形で，西コーナー部が削平されている。主軸方向はN - 56° - Wである。壁高は15～54cmで，外傾して立ち上がっている。

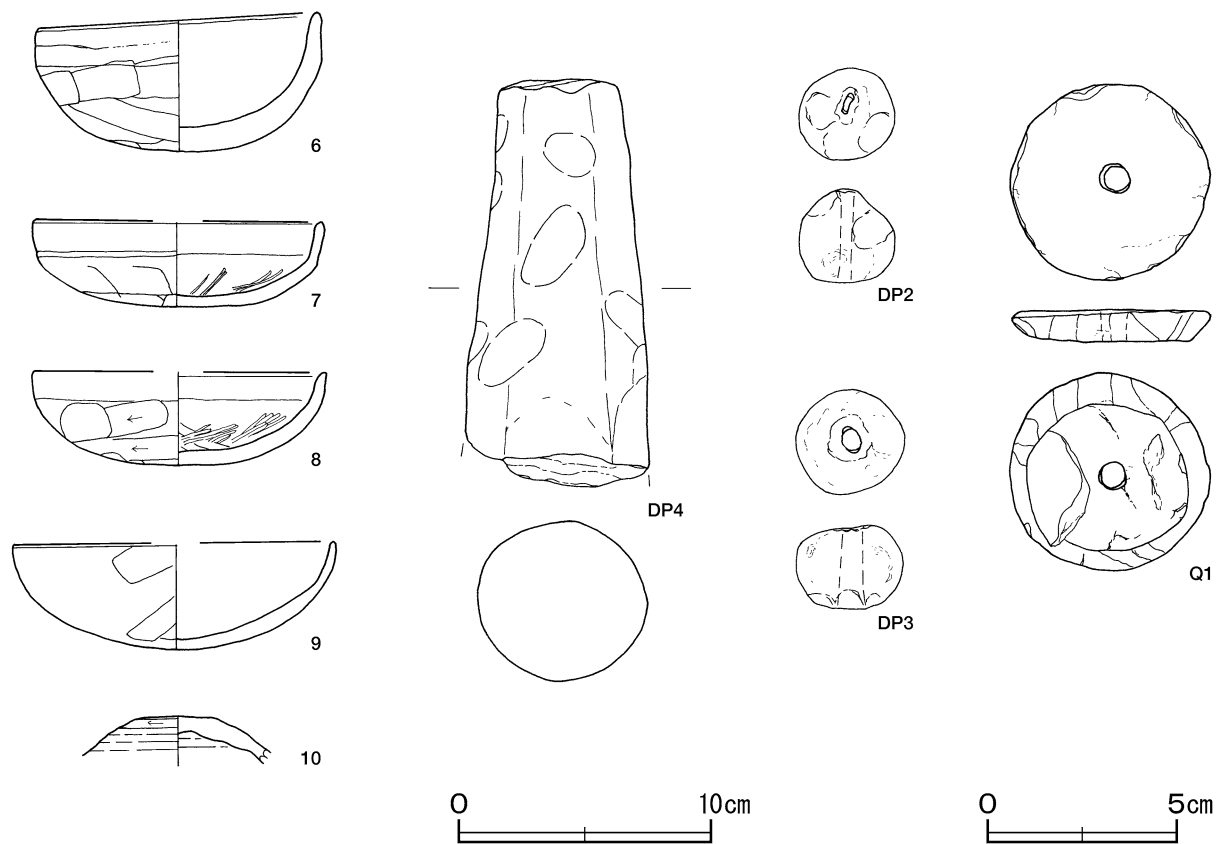
床 ほぼ平坦で，竈手前から出入り口ピットにかけて踏み固められている。壁溝が竈東側から東コーナー部まで確認されている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで130cm，燃烧部幅は64cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上に褐色土を積み上げて構築されている。第11～13層は袖部の土層である。火床部は床面を浅く掘りくぼめ，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に23cm掘り込まれ，火床面から水平に延び端部で直立している。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量，焼土粒子少量，ロームブロック微量 | 7 暗赤色 焼土粒子多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 にぶい褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量，炭化粒子極微量 | 8 明赤褐色 粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗赤色 焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量 |
| 4 褐色 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 黒褐色 炭化粒子中量，焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 5 褐色 粘土ブロック少量，ローム粒子微量，焼土粒子・炭化粒子極微量 | 11 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，炭化物少量，焼土ブロック微量 |
| 6 褐色 粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量，炭化粒子極微量 | 12 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒子・細礫中量 |
| | 13 褐色 炭化粒子少量，焼土ブロック微量，粘土粒子少量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ20～50cmで，規模と位置から支柱穴である。P5は深さ15cmで，南東壁際の中央に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。



第7図 第3号住居跡出土遺物実測図

覆土 8層に分層できる。砂質粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量 | 5 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック少量,炭化物微量 |
| 2 黒 褐色 ローム粒子中量,炭化物・焼土粒子少量 | 6 にぶい黄褐色 炭化物・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい褐色 焼土ブロック多量,炭化物中量 | 7 にぶい黄褐色 ローム粒子多量,焼土粒子微量 |
| 4 灰黄褐色 炭化物少量,ローム粒子微量 | 8 黒 褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片255点(坏68,甕186,甑1),須恵器片12点(坏11,蓋1),土製品3点(球状土錘2,支脚1),石製品1点(紡錘車)が出土している。その他,混入した須恵器片3点,陶器片1点も出土している。10は竈の火床面,Q1は中央部の床面から,9は中央部の覆土下層から,DP4は竈袖部付近の覆土下層から横位で,6・7は北コーナー部壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は,出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表(第7図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
6	土師器	坏	11.0	5.4	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外面へラ削り後,ナデ 内面ナデ	覆土上層	90% PL27
7	土師器	坏	[11.4]	3.4	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後,ナデ 内面放射状のへラ磨き	覆土上層	45%
8	土師器	坏	[11.6]	3.7	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ後,へラ磨き	覆土中	40%
9	土師器	坏	[12.7]	4.2	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り	覆土下層	40%
10	須恵器	坏蓋	-	(1.9)	-	長石・石英	褐色	普通	体部内・外面口クロナデ 天井部回転へラ削り	火床面	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP2	球状土錘	2.4	2.5	0.7	13.7	長石・石英	丁寧なナデ 一方向からの穿孔 指頭圧痕	覆土中	PL45
DP3	球状土錘	2.8	2.2	0.7	14.6	長石・石英	丁寧なナデ 一方向からの穿孔 指頭圧痕	覆土中	PL45

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP4	支脚	(16.0)	7.2	4.7	(701.0)	長石・石英	指頭圧痕 下部欠損	覆土下層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	紡錘車	5.2	0.8	0.8	(26.7)	凝灰岩	断面台形 両方向からの穿孔 下端欠け	床面	PL47

第6号住居跡(第8図)

位置 調査区中央部のJ14e1区,標高10.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第3号住居と第61・71号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.13m,短軸3.87mの方形で,主軸方向はN-52°-Wである。壁高は18~38cmで,外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で,中央部が踏み固められている。北西壁付近の床が焼土化し,炭化材が中央部で確認されている。

ピット 4か所。P1は深さ34cmで,南東壁際の中央部に位置していることから,出入り口施設に伴うピットである。P2~P4は深さ11~15cmで,P1の北側に位置しているが性格は不明である。

覆土 11層に分層できる。大半の層に焼土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

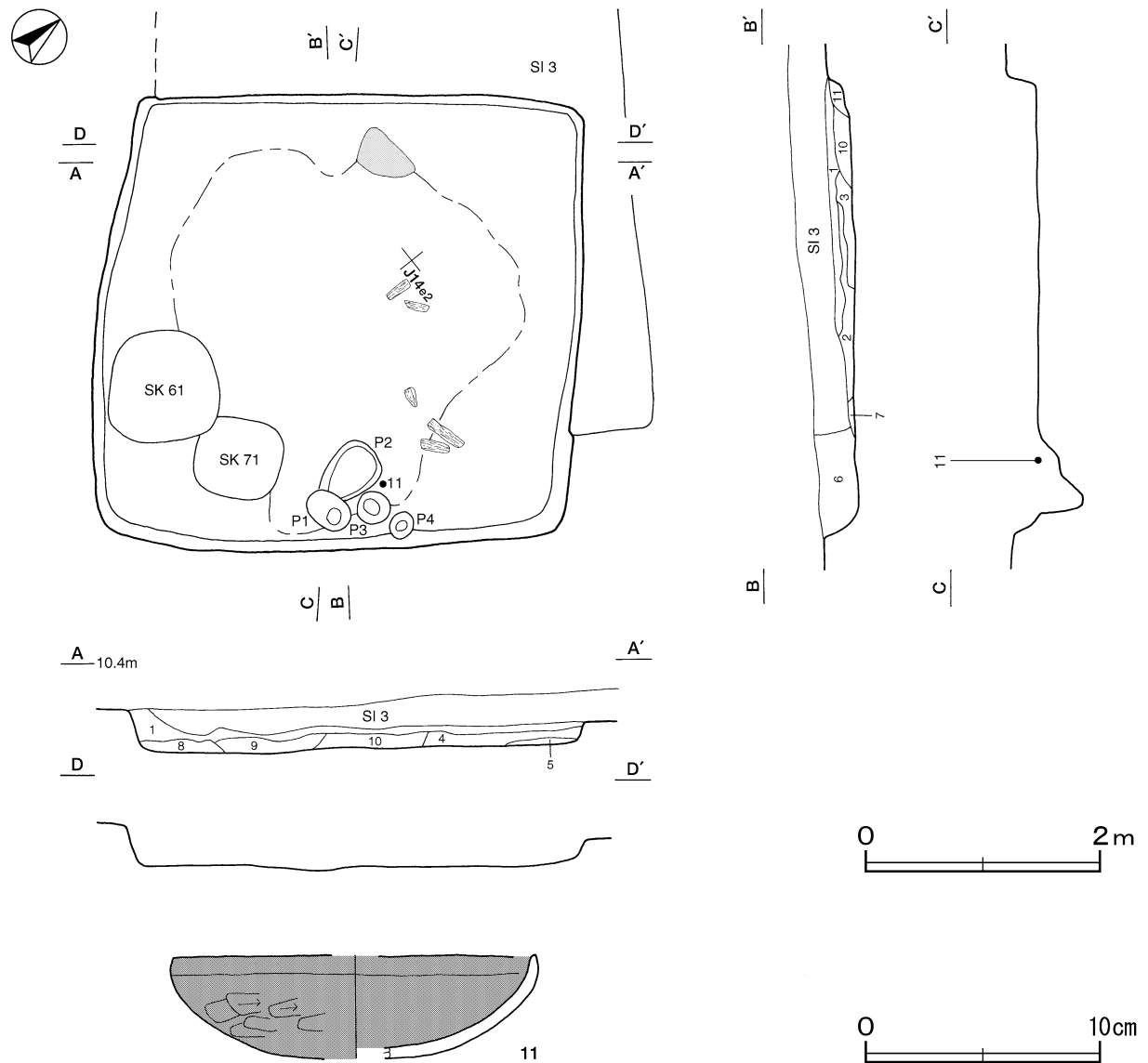
土層解説

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 褐色 焼土ブロック多量,炭化物中量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 6 灰黄褐色 炭化物中量,ローム粒子少量,焼土ブロック微量 |
| 3 灰黄色 炭化物・ローム粒子少量,焼土ブロック微量 | 7 にぶい黄褐色 炭化材・ローム粒子中量 |
| 4 にぶい黄褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量,炭化粒子少量 |

- 9 褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
 10 にぶい黄褐色 炭化材多量, 焼土粒子少量
 11 にぶい黄褐色 焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況 土師器片66点(坏9, 埴4, 甕52, 甑1), 土製品2点(支脚)が出土している。その他, 混入した須恵器片6点も出土している。11は南東壁際付近の床面から出土している。炭化材が北, 東コーナー部へ向け放射状に出土している。

所見 焼土や炭化材が床面から出土していることから焼失住居である。時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。



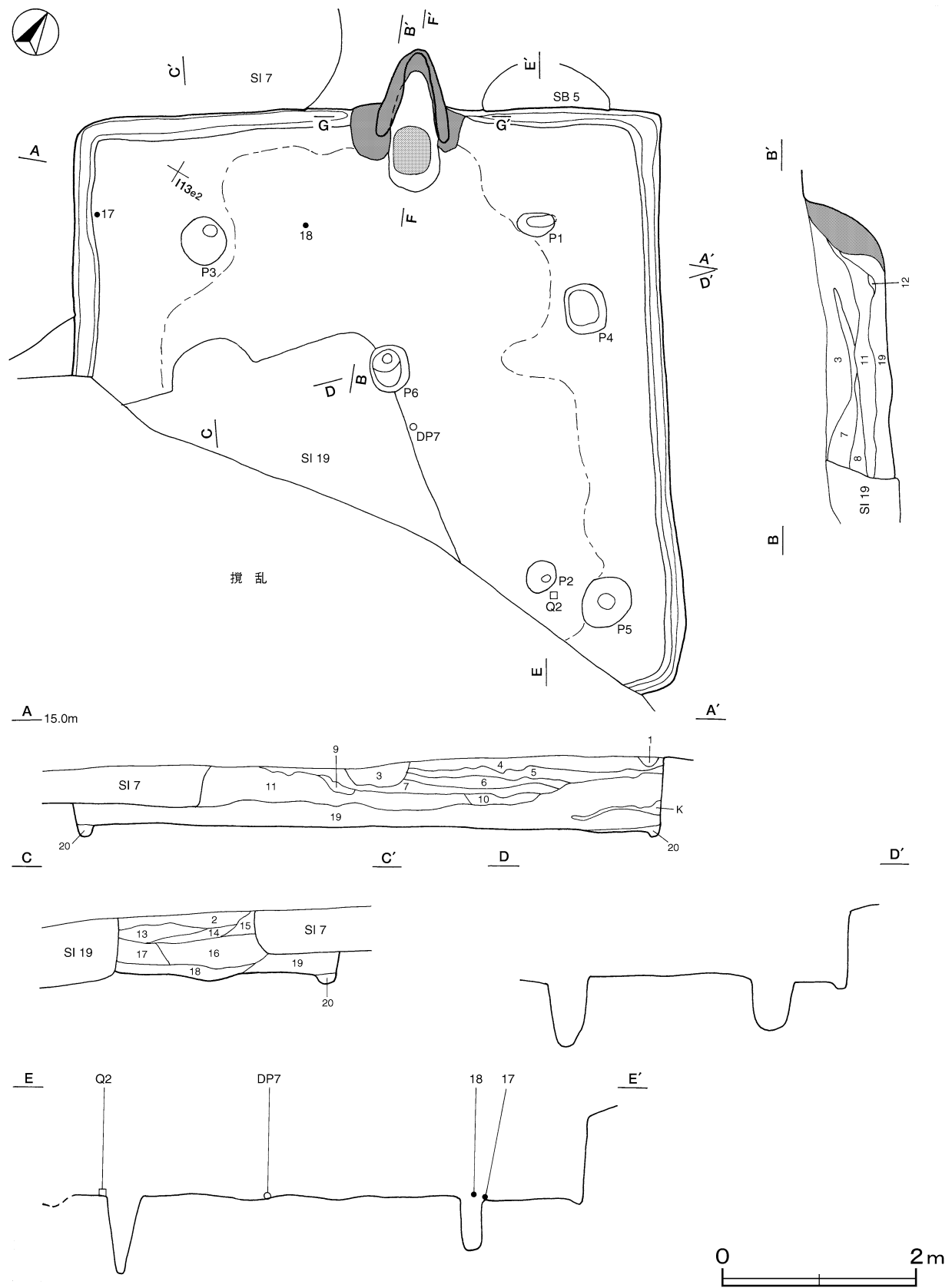
第8図 第6号住居跡・出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表(第8図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
11	土師器	坏	[15.4]	4.4	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部外面へラ削り後, ナデ 内面ナデ	床面	40%

第8号住居跡 (第9~11図)

位置 調査区北西部のI13e2区, 標高15.0mの河岸段丘上位の傾斜部に位置している。



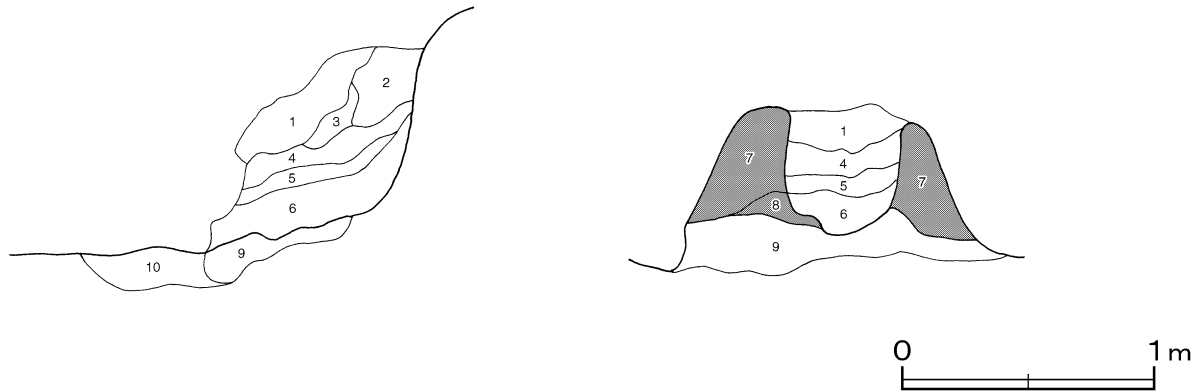
第9図 第8号住居跡実測図(1)

F 16.0m

F'

G

G'



第10図 第8号住居跡実測図(2)

重複関係 西コーナー部を第7号住居，南部を第19号住居，北西壁を第5号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 北西軸6.07m，北東軸6.04mの方形で，主軸方向はN - 34° - Wである。壁高は20～72cmで，ほぼ直立している。南東壁と，南西壁の一部が削平されている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が確認された部分で巡っている。

竈 北西壁東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで142cm，燃烧部幅は50cmである。袖部および燃烧部は地山を40cmほど掘り込んで，褐色土を埋めた上に灰黄褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面をやや掘りくぼめ，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に62cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。第7・8層は袖部の構築土，第9・10層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒中量，細礫少量，ローム粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 粘土ブロック・砂粒中量，ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 6 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 暗褐色 炭化物・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量 | 7 灰黄褐色 砂粒中量，粘土ブロック少量，焼土ブロック微量 |
| 4 暗赤褐色 灰少量，焼土ブロック・ローム粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子・砂粒中量，粘土粒子少量 |
| | 9 極暗褐色 炭化粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| | 10 赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量 |

ピット 6か所。P1～P3は深さ42～81cmで，規模と位置から支柱穴である。P4～P6はそれぞれ深さが19～54cmで，性格は不明である。

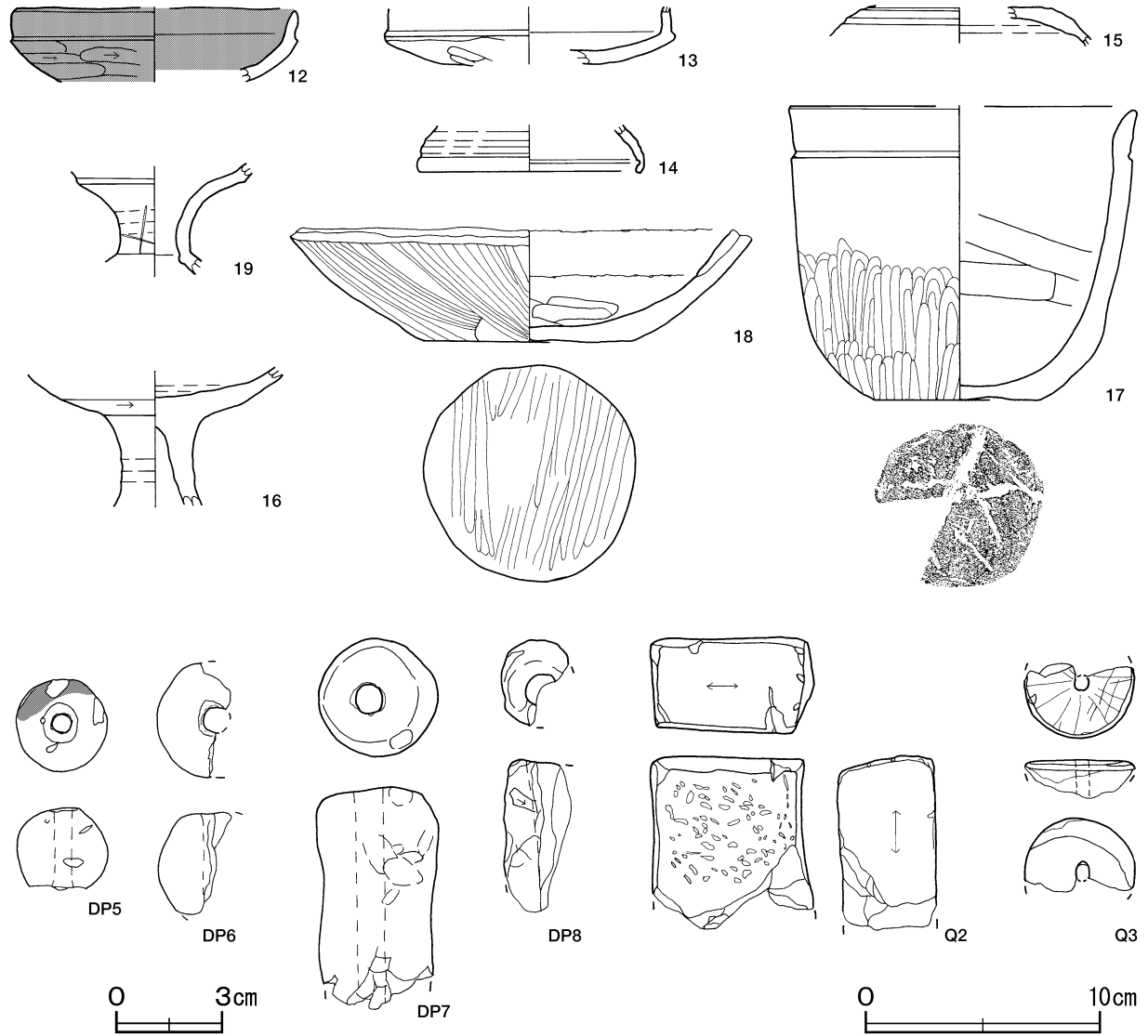
覆土 20層に分層できる。大半の層にブロック状の焼土，ローム，砂質粘土を含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1 暗褐色 砂質粘土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 炭化物多量，焼土ブロック中量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | 13 暗褐色 砂質粘土ブロック多量，ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 炭化物微量 | 14 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量 | 15 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい黄褐色 炭化物・焼土粒子微量 | 16 黒褐色 焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量 |
| 6 暗褐色 炭化物少量，焼土粒子微量 | 17 黒褐色 焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量 |
| 7 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子多量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 暗褐色 砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 19 暗褐色 焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量 |
| 9 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 20 灰黄褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量 |
| 10 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | |
| 11 黒褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片319点(坏47, 鉢2, 甕269, ミニチュア土器1), 須恵器片38点(坏8, 蓋3, 高坏1, 甕1, 甕25), 土製品4点(球状土錘2, 管状土錘2), 石器1点(砥石), 石製品1点(紡錘車), 鉄製品1点(刀子)が出土している。その他, 混入した須恵器片50点も出土している。Q2は東コーナー部付近の床面から, 17が南西壁際, 18・DP7は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第11図 第8号住居跡出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表(第11図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	土師器	坏	[12.0]	(3.1)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面ナデ 体部外面ヘラナデ	覆土中	5%
13	土師器	坏	-	(2.5)	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	体部外面ヘラ削り後, ナデ	覆土中	5%
14	須恵器	坏蓋	[9.4]	(2.0)	-	長石	灰	良好	天井部回転ヘラ削り 外面口クロナデ	覆土中	5%
15	須恵器	坏蓋	-	(1.5)	-	長石・黒色粒子	灰	良好	天井部回転ヘラ削り 外面口クロナデ	覆土中	5%
16	須恵器	高坏	-	(5.9)	-	長石・石英	黄灰	良好	坏部外面回転ヘラ削り 脚部内面ヘラナデ	覆土中	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	土師器	鉢	[14.6]	12.6	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後、ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	50% PL36
18	土師器	甕	18.0	4.8	8.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部外面ヘラ磨き 鉢転用カ	覆土下層	100% PL28
19	須恵器	甕	-	(4.6)	-	黒色粒子	灰黄	良好	ロクロナデ 頸部外面ヘラ記号『x』	覆土中	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP5	球状土錘	2.6	(2.4)	0.5	(15.0)	長石・石英・赤色粒子	丁寧なナデ 一方向からの穿孔 一部欠け	覆土中	PL45
DP6	球状土錘	(3.3)	(2.9)	0.8	(11.3)	長石・石英・赤色粒子	丁寧なナデ 一方向からの穿孔 欠け	覆土中	

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP7	管状土錘	(9.5)	5.2	1.3	(227.0)	長石・雲母	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕一部欠け	覆土下層	
DP8	管状土錘	(6.6)	(2.8)	1.4	(46.3)	長石・雲母	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕 片側欠損	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q2	砥石	(7.5)	7.0	4.2	(297.0)	凝灰岩	砥面2面	床面	PL48

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q3	紡錘車	4.7	1.6	0.6	(16.4)	滑石	表面研磨 側面磨き 上面線刻 上部半分欠け 半部欠損 一方向からの穿孔	覆土中	

第9号住居跡(第12・13図)

位置 調査区東部のK16g2区、標高13.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第64号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.43m、短軸4.25mの方形で、主軸方向はN-35°-Wである。壁高は20~43cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は南東コーナー部を除いて巡っている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで116cm、燃焼部幅は56cmである。袖部および燃焼部は地山を20cmほど掘り込んで、にぶい黄褐色土を埋めた上ににぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面をやや掘りくぼめ、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に45cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。第11層は袖部の構築土、第12・13層は掘方への埋土である。

竈土層解説

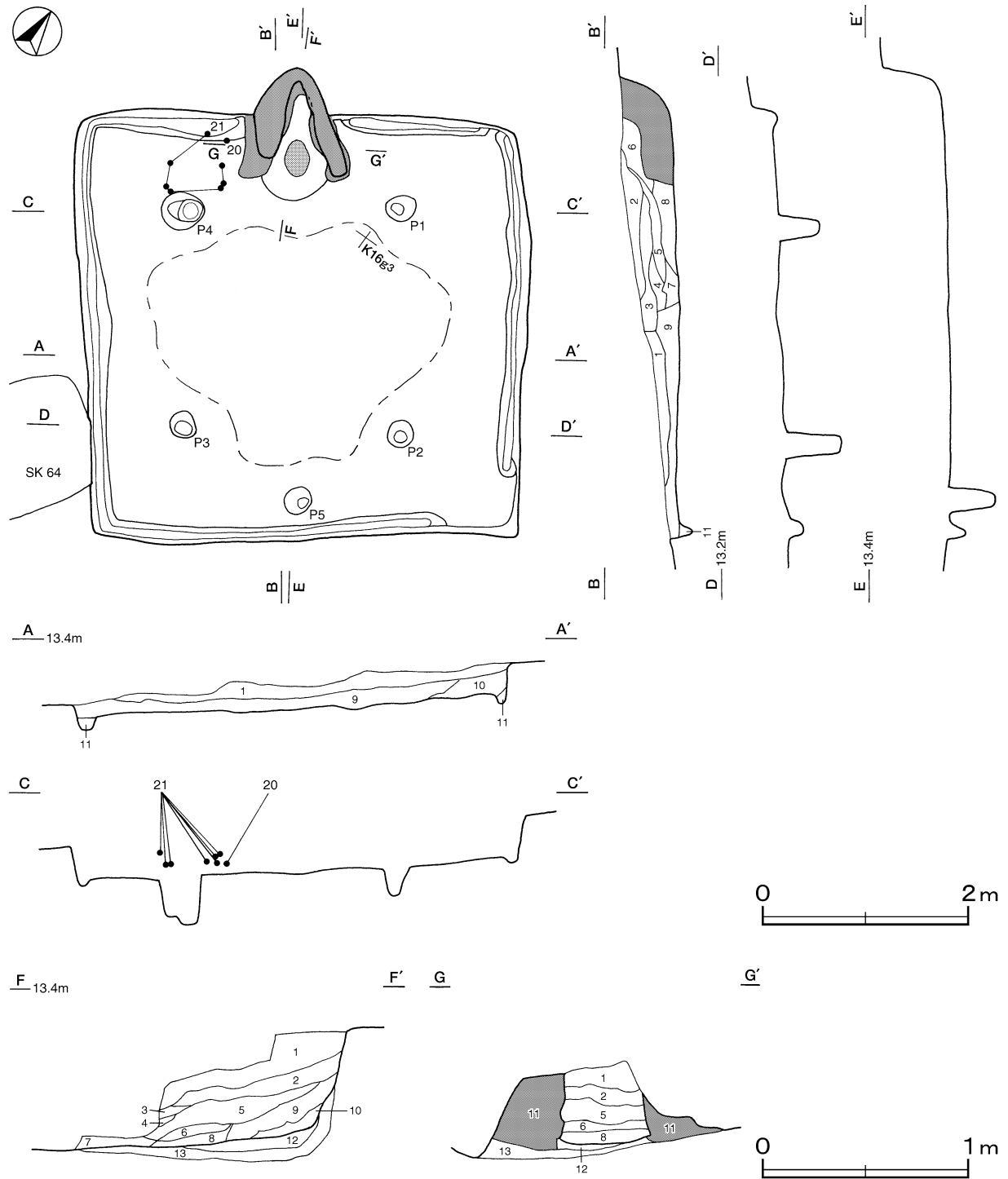
- | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 炭化物・焼土粒子少量 |
| 2 灰黄褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック中量、炭化粒子少量 | 8 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量 |
| 3 明赤褐色 焼土ブロック多量 | 9 黒褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 炭化物多量、焼土粒子中量 | 10 灰黄褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 焼土ブロック多量、炭化物中量 | 11 黒褐色 焼土ブロック多量、炭化物中量 |
| 6 明赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物微量 | 12 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量 |
| | 13 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 5か所。P1~P4は深さ26~54cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ44cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 11層に分層できる。大半の層にブロック状のローム・焼土・砂質粘土を含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

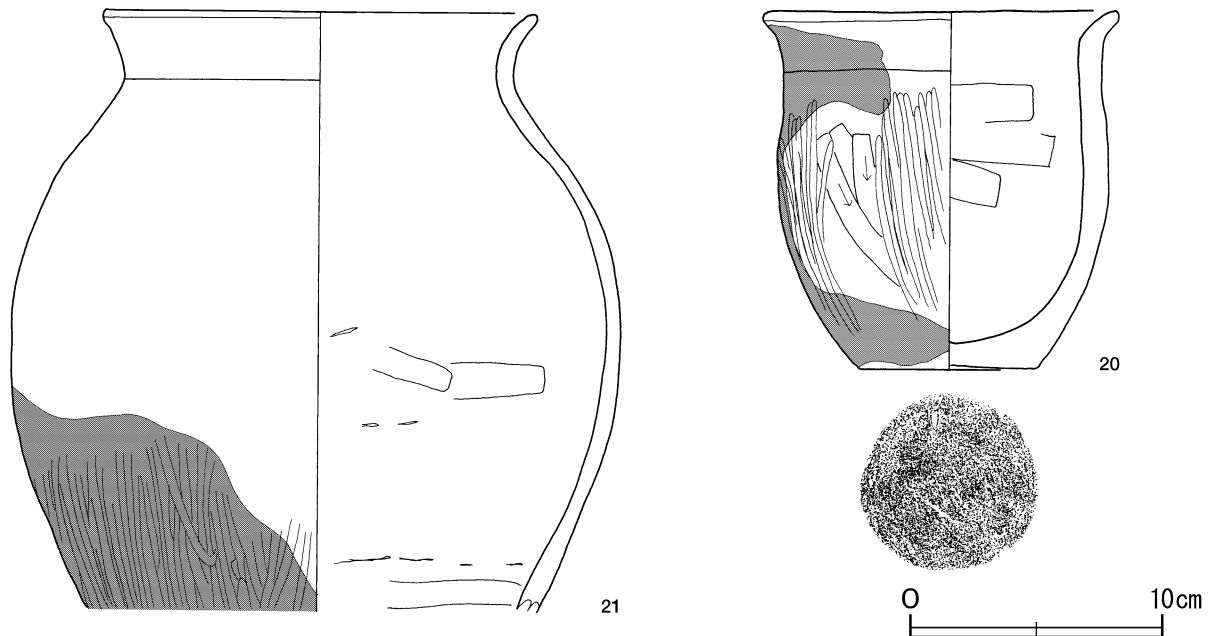
- | | | | |
|----------|---------------------------------|---------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 | 9 黒色 | 砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 灰黄褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 炭化粒子少量 |
| 6 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 炭化物少量, 焼土ブロック微量 | | |



第12図 第9号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片200点（坏12，甕187，小形甕1），須恵器片18点（坏2，椀1，甕15）が出土している。その他，流れ込んだ縄文土器片3点，石製品1点も出土している。20，21は西部の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第13図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表（第13図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
20	土師器	小形甕	13.7	14.3	7.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	90% PL38
21	土師器	甕	16.9	(23.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土下層	70%

第10号住居跡（第14図）

位置 調査区東部のK15d8区，標高16.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第109号住居跡を掘り込み，南東部を第290～292号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東軸は推定4.12m，南東軸は推定4.10mで，遺存する壁と竈から主軸方向がN - 53° - Eの方形または長方形と推測される。

床 ほぼ平坦である。

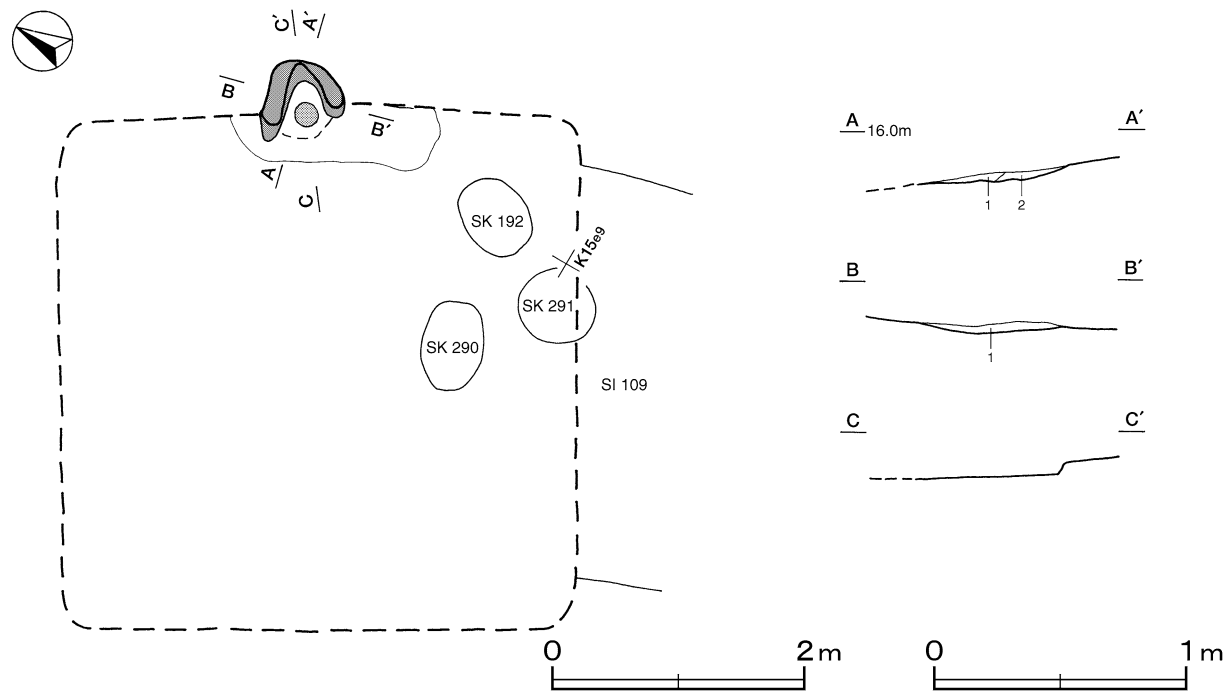
竈 東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで60cm，燃烧部幅は34cmである。袖部は床面と同じ高さの地山に砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面を浅く掘りくぼめ，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 2 黄褐色 砂質粘土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片12点（坏12）が出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第14図 第10号住居跡実測図

第11号住居跡 (第15図)

位置 調査区東部のK15i0区，標高12.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 南コーナー部を第12号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.36m，短軸2.57mの長方形で，主軸方向はN - 31° - Wである。壁高は20～40cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が北西壁・南東壁の中央部を除いて確認されている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで83cm，燃烧部幅は26cmである。袖部は床面と同じ高さの地山に灰褐色土を積み上げて構築されており，内面が火を受けて赤変している。第8層は袖部の構築土である。火床部は床面を浅く掘りくぼめている。煙道部は壁外に27cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック・炭化物少量 | 6 黒褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子少量 |
| 2 褐灰色 焼土粒子多量，炭化粒子中量 | 7 黒褐色 砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 8 灰黄褐色 砂質粘土ブロック多量 |
| 4 黒色 焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック・砂質粘土ブロック微量 | |
| 5 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量，砂質粘土ブロック微量 | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ14～29cmで，規模と位置から支柱穴である。P5は深さ32cmで，南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットである。

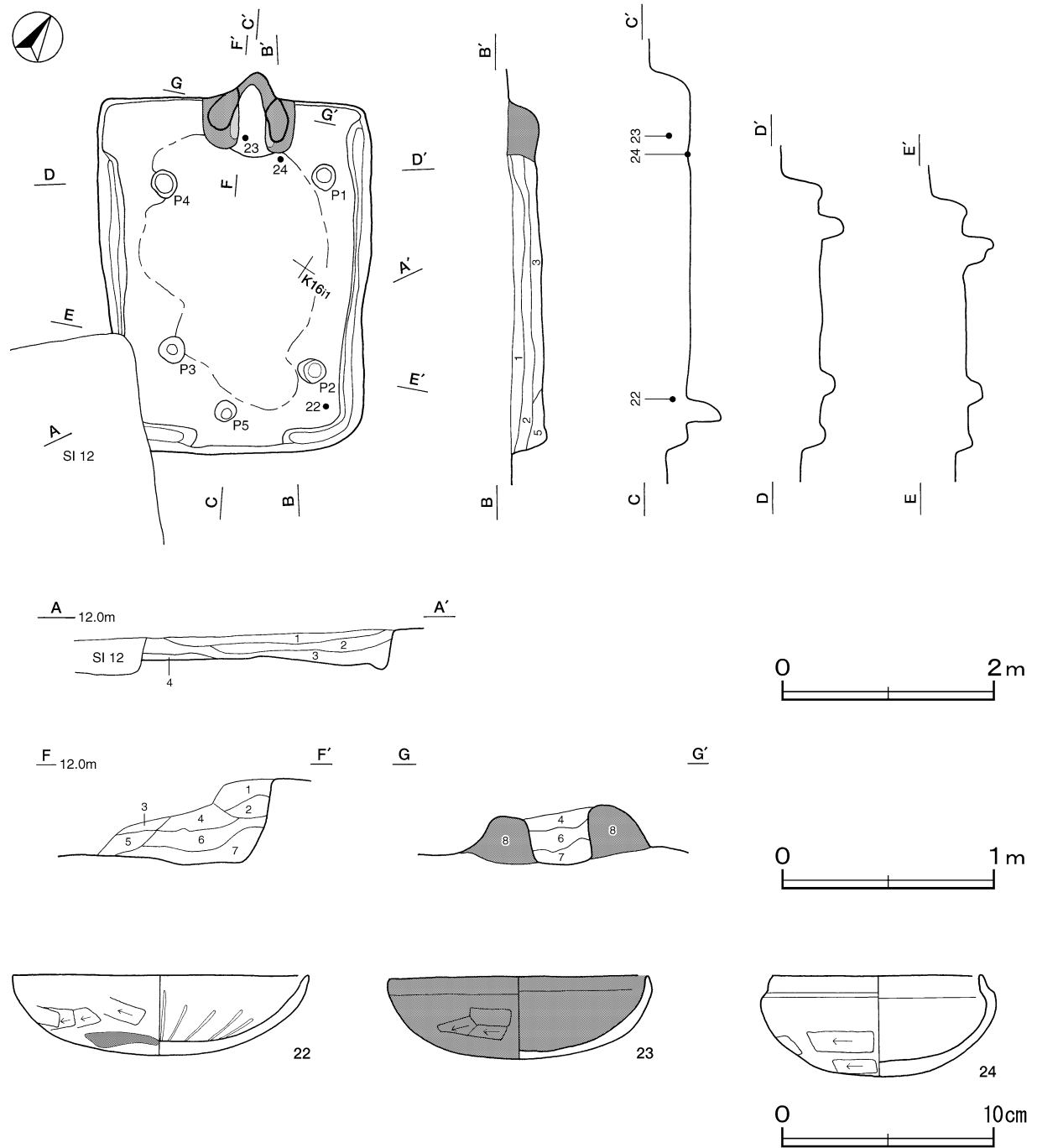
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 黒色 ロームブロック・砂質粘土ブロック微量 | 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 5 極黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片74点(坏15, 甕58, 甌 1)が出土している。23は竈内の覆土中層, 24は北部の床面, 22は南東コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第15図 第11号住居跡・出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表 (第15図)

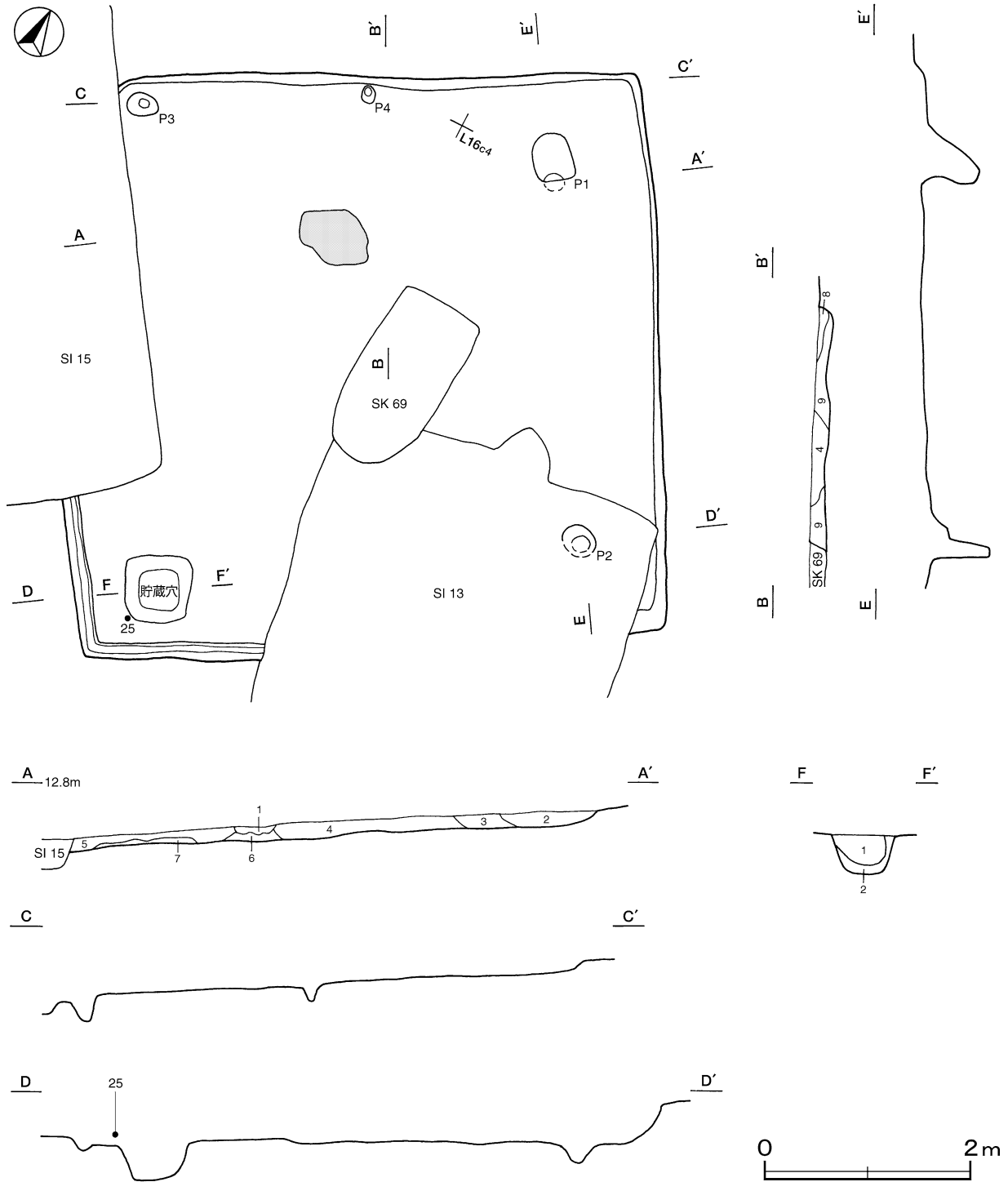
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
22	土師器	坏	13.9	3.9	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土中層	100%
23	土師器	坏	12.2	3.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後, ヘラナデ 内面ナデ	竈内	95% PL27
24	土師器	坏	9.7	4.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	100%

第14号住居跡 (第16・17図)

位置 調査区南東部のL16c3区, 標高13.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 南東壁を第13号住居, 南西壁を第15号住居, 中央部を第69号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.82m, 短軸5.68mの方形で, 主軸方向はN - 28° - Wである。壁高は12~40cmで, 外傾して立ち上がっている。



第16図 第14号住居跡実測図

床 ほぼ平坦である。壁溝が南コーナー部の壁際で確認されている。中央部やや北西側から、焼土塊が確認されている。

ピット 4か所。P1は深さ46cmで、規模と位置から主柱穴である。P2～P4は深さ15～23cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長軸65cm，短軸63cmの方形で、深さは37cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は不自然な堆積状況から埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 砂質粘土ブロック多量，炭化粒子微量

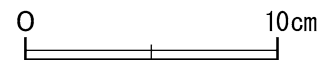
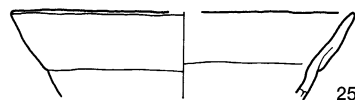
覆土 9層に分層できる。砂質粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 にぶい褐色 焼土ブロック多量，炭化粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量
- 4 黒褐色 砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量
- 5 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 6 褐色 砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量
- 7 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 炭化粒子微量
- 9 にぶい赤褐色 砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片38点(椀11，甕27)が出土している。25は南コーナー部壁際の床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から4世紀と考えられる。



第17図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表(第17図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
25	土師器	椀	[13.6]	(3.4)	-	長石・石英・雲母	黄褐	普通	体部内・外面器面摩滅	床面	5%

第15号住居跡(第18・19図)

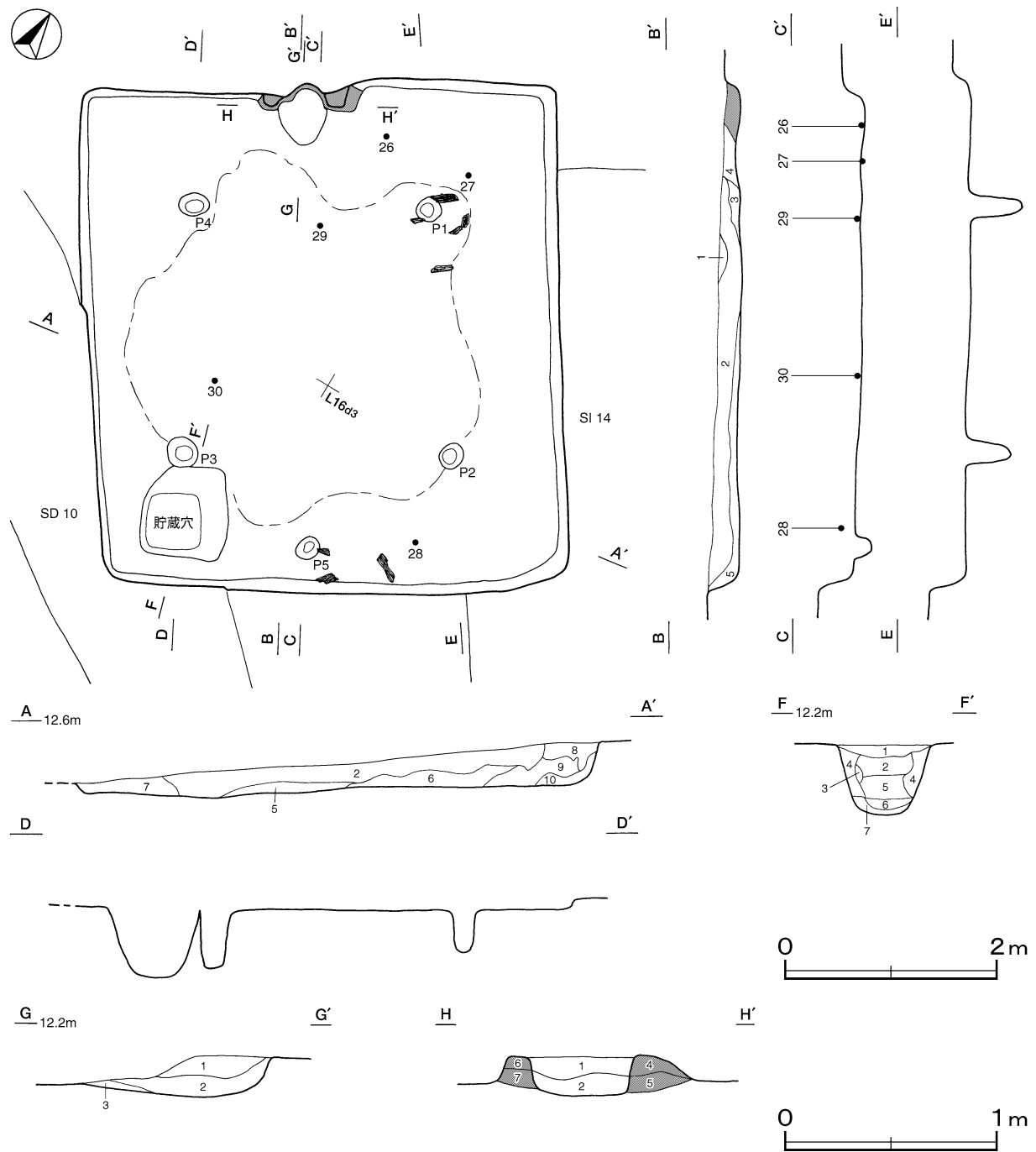
位置 調査区南東部のL16c2区，標高12.5mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第14号住居跡を掘り込み，南コーナー部を第10号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.87m，短軸4.52mの方形で，主軸方向はN-29°-Wである。壁高は10～34cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで58cm，燃烧部幅は48cmである。袖部は床面と同じ高さの地山に黒褐色土を積み上げて構築されている。第4～7層は袖部の構築土である。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ，火床面から緩やかに外傾して立ち上がり端部で直立している。



第18図 第15号住居跡実測図

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 5 黒褐色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子極微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| | 7 黒褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ40～56cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ16cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長軸85cm, 短軸82cmの方形で、深さは65cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は不自然な堆積状況から埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | | |
| 5 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

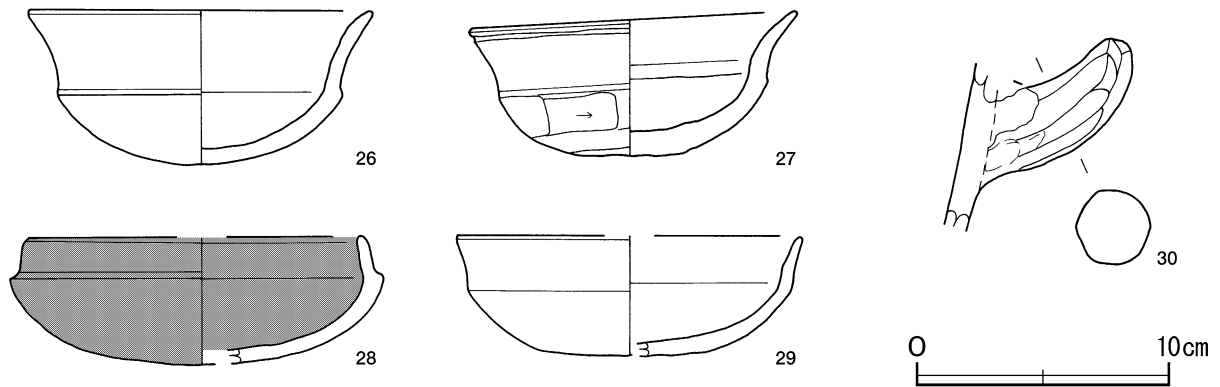
覆土 10層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|---------|------------------------|
| 1 黒色 | 焼土粒子・炭化物微量 | 6 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 炭化粒子中量, 焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 8 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 | 10 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片207点（坏12，高坏5，甕163，甌26，手捏土器1）が出土している。その他，流れ込んだ石製品2点，混入した須恵器片4点も出土している。26は北西壁際，27は北コーナー部付近，29・30は中央部の床面からそれぞれ出土している。28は南東壁付近の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀前葉と考えられる。



第19図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
26	土師器	坏	13.4	6.1	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り後，ナデ	床面	95% PL26
27	土師器	坏	12.7	5.7	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後，ナデ	床面	80%
28	土師器	坏	[13.2]	5.0	-	赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り後，ナデ 内面ナデ	覆土下層	40%
29	土師器	坏	[13.6]	4.7	-	長石・石英・雲母	褐	普通	体部内・外面器面摩滅	床面	30%
30	土師器	甌	-	(7.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ 把手貼付後，ナデ 指頭圧痕	床面	10%

第16号住居跡（第20・21図）

位置 調査区東部のL16b5区，標高13.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

規模と形状 長軸2.86m，短軸2.80mの方形で，主軸方向はN-36°-Wである。確認された壁高は10～32cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで62cm，燃烧部幅は34cmである。火床部は床面を浅く掘りくぼめ，火床面は火を受けてわずかに赤変している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。第4層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子微量 | 3 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 灰 黄 褐色 砂質粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量 |

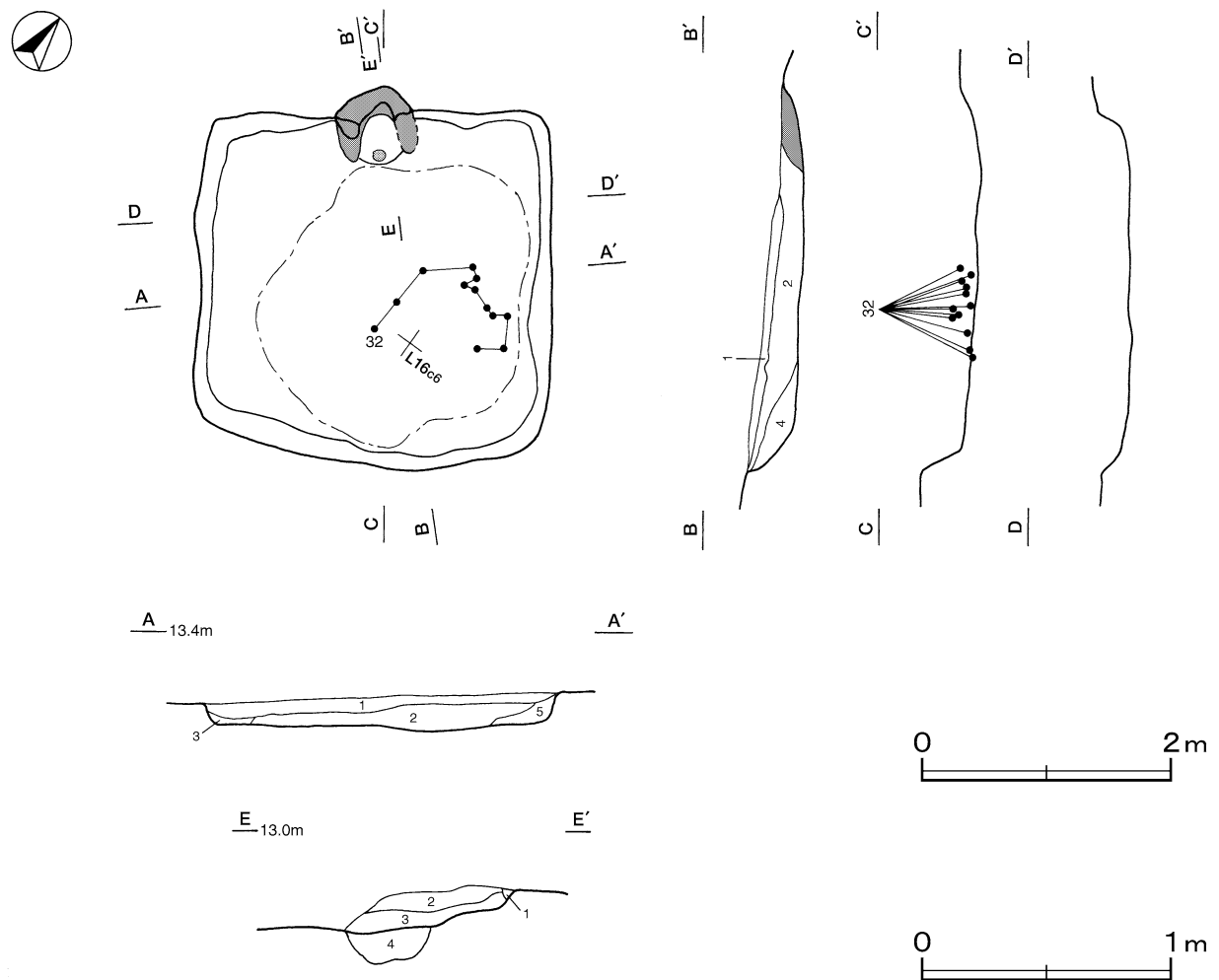
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

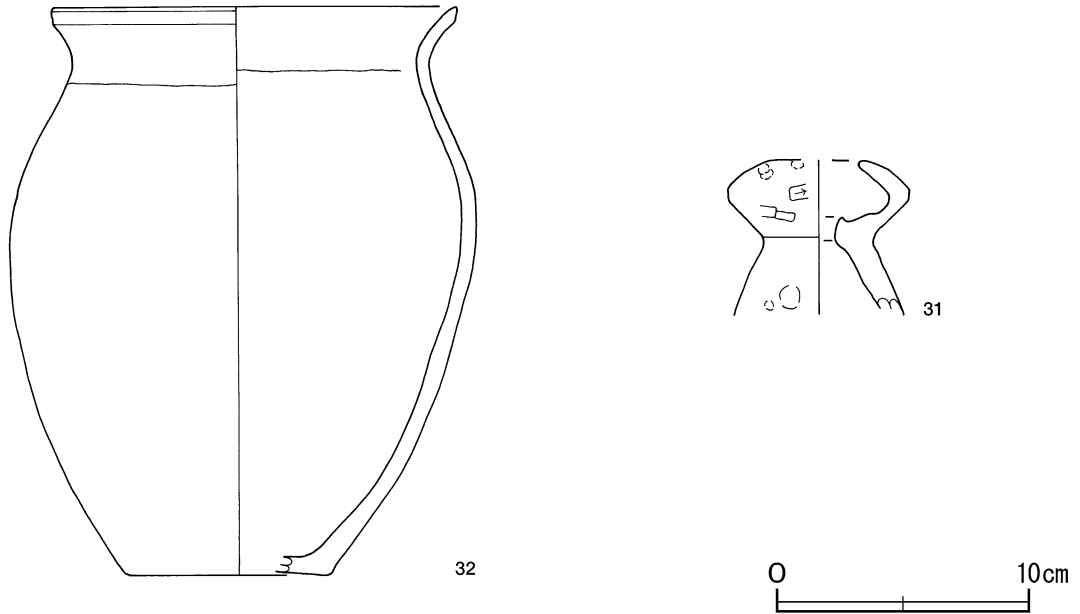
- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒 褐 色 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 灰 黄 褐色 砂質粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック中量，ローム粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片215点（坏1，炉器台1，甕212，甑1）が出土している。その他，混入した陶器片1点，磁器片3点も出土している。32は北東壁付近から中央部にかけての覆土下層および床面から出土した破片が接合したもので，出土状況から廃絶後に投棄されたものと考えられる。31は覆土中から出土しており，流れ込んだものである。

所見 時期は，出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第20図 第16号住居跡実測図



第21図 第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表 (第21図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
31	土師器	炉器台	[3.4] (6.2)	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗灰黄	普通	器受部内・外面ナデ 指頭押圧 外面一部ヘラ 削り 脚部外面ナデ 一部ヘラ削り	覆土中	40% PL42
32	土師器	甕	16.0	22.4	8.0	長石・石英・雲母	黄褐	普通	内・外面剥離	覆土下層・床面	70% PL39

第17号住居跡 (第22～25図)

位置 調査区南東部のL16d5区、標高13.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 南西壁を第28号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.02m、短軸5.88mの方形で、主軸方向はN - 30° - Eである。壁高は17～40cmで、外傾して立ち上がっている。

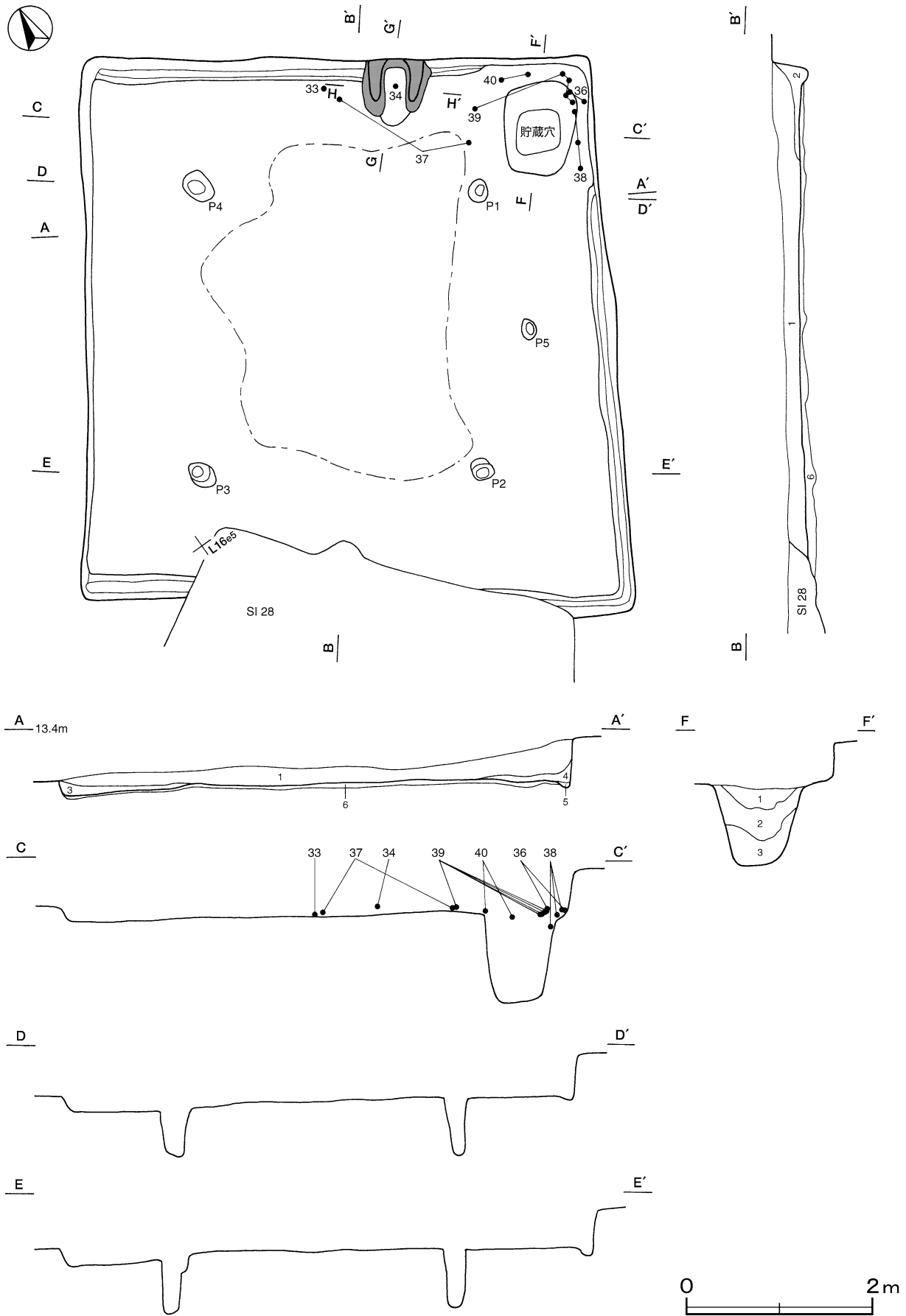
床 ほぼ平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁溝が東コーナーと北西壁を除いて確認されている。貼床は、ロームブロック主体のにぶい黄褐色土を埋めて構築している。

竈 北東壁東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで70cm、燃烧部幅は24cmである。袖部および燃烧部は地山を10cmほど掘り込んで、にぶい黄褐色土を埋めた上に黒褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さである。壁外への掘り込みはなく、煙道部は壁内でほぼ直立している。第4・5層は袖部の構築土、第6層は掘方への埋土である。

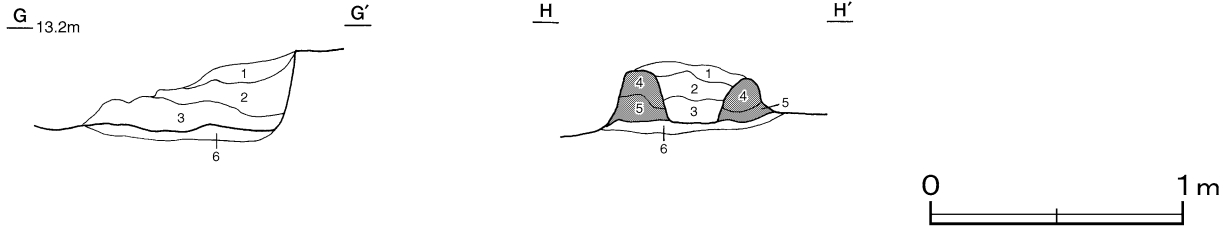
竈土層解説

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子微量 | 4 黒褐色 粘土粒子多量、焼土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック中量 粘土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 5 黒褐色 粘土ブロック・砂粒少量、ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子多量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ50～65cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ29cmで、南東壁に近い中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットとみられる。



第22图 第17号住居跡実測图(1)



第23図 第17号住居跡実測図(2)

貯蔵穴 東コーナー部に位置している。長軸102cm，短軸78cmの長方形で，深さは95cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。覆土はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|------------------|-----------------------------|
| 1 黒色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒色 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒色 炭化粒子微量 | |

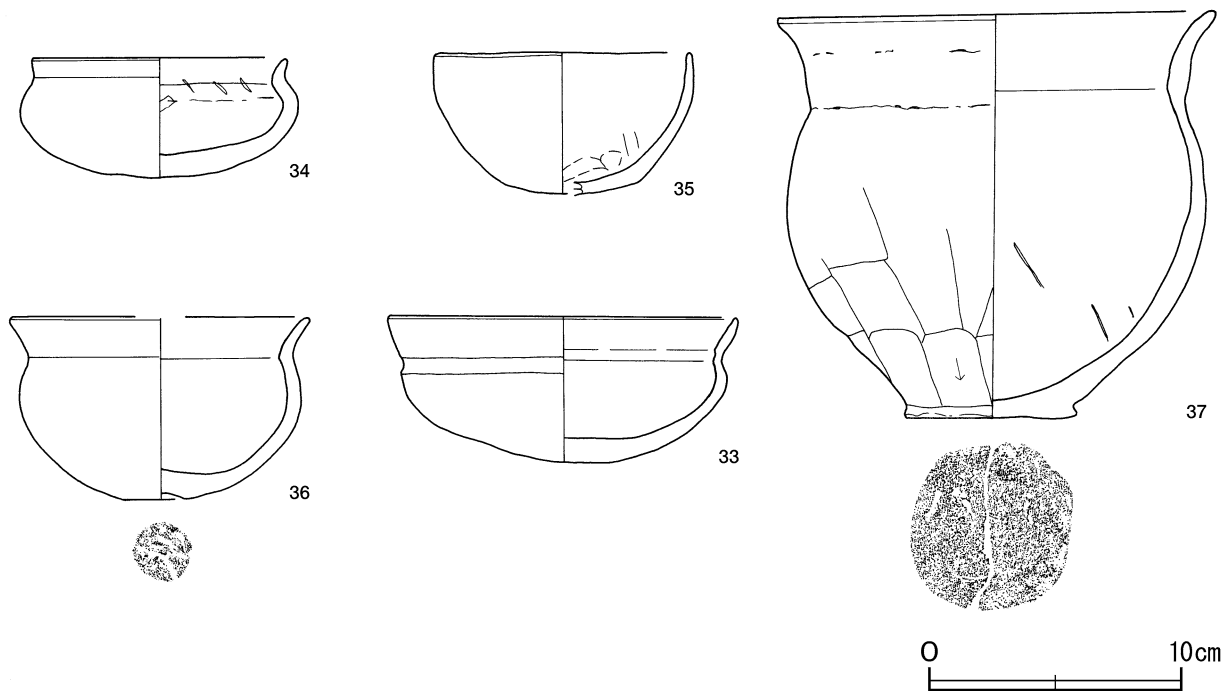
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。第6層は貼床の構築土である。

土層解説

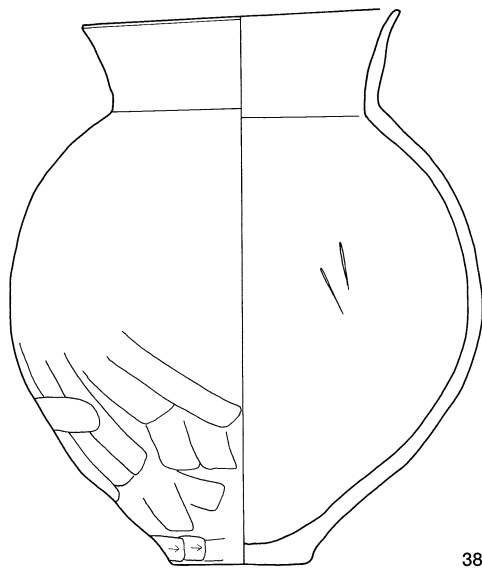
- | | |
|-------------------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子・砂粒少量 | 5 にぶい黄褐色 粘土粒子中量，ローム粒子微量 |
| 3 極暗褐色 粘土粒子中量，ローム粒子・砂粒少量 | 6 にぶい黄褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片342点（坏13，椀5，高坏1，甕320，小形甕2，甑1）が竈周辺と東コーナー部から出土している。混入した土師器片26点も出土している。33は北東壁際の床面，34は竈火床部の覆土下層，35は覆土中からそれぞれ出土している。36・38～40は東コーナー部の床面からそれぞれ出土した破片が接合したものである。37は竈付近の床面から出土している。36～40は出土状況からいずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

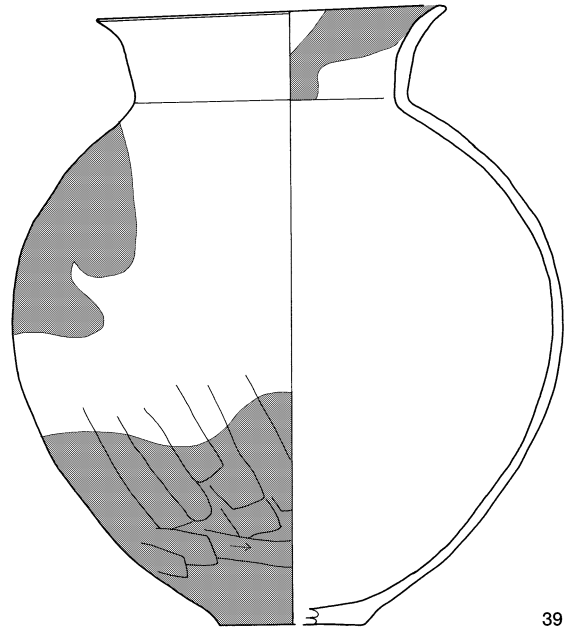
所見 煙道部が壁外への掘り込みをもたない竈の形状であることや竈と隣接して付設されている貯蔵穴などが特徴の住居である。時期は，出土土器から5世紀後葉と考えられる。



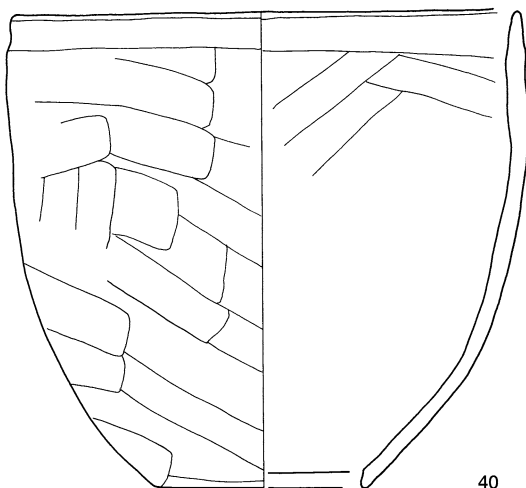
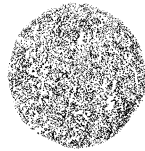
第24図 第17号住居跡出土遺物実測図(1)



38



39



40



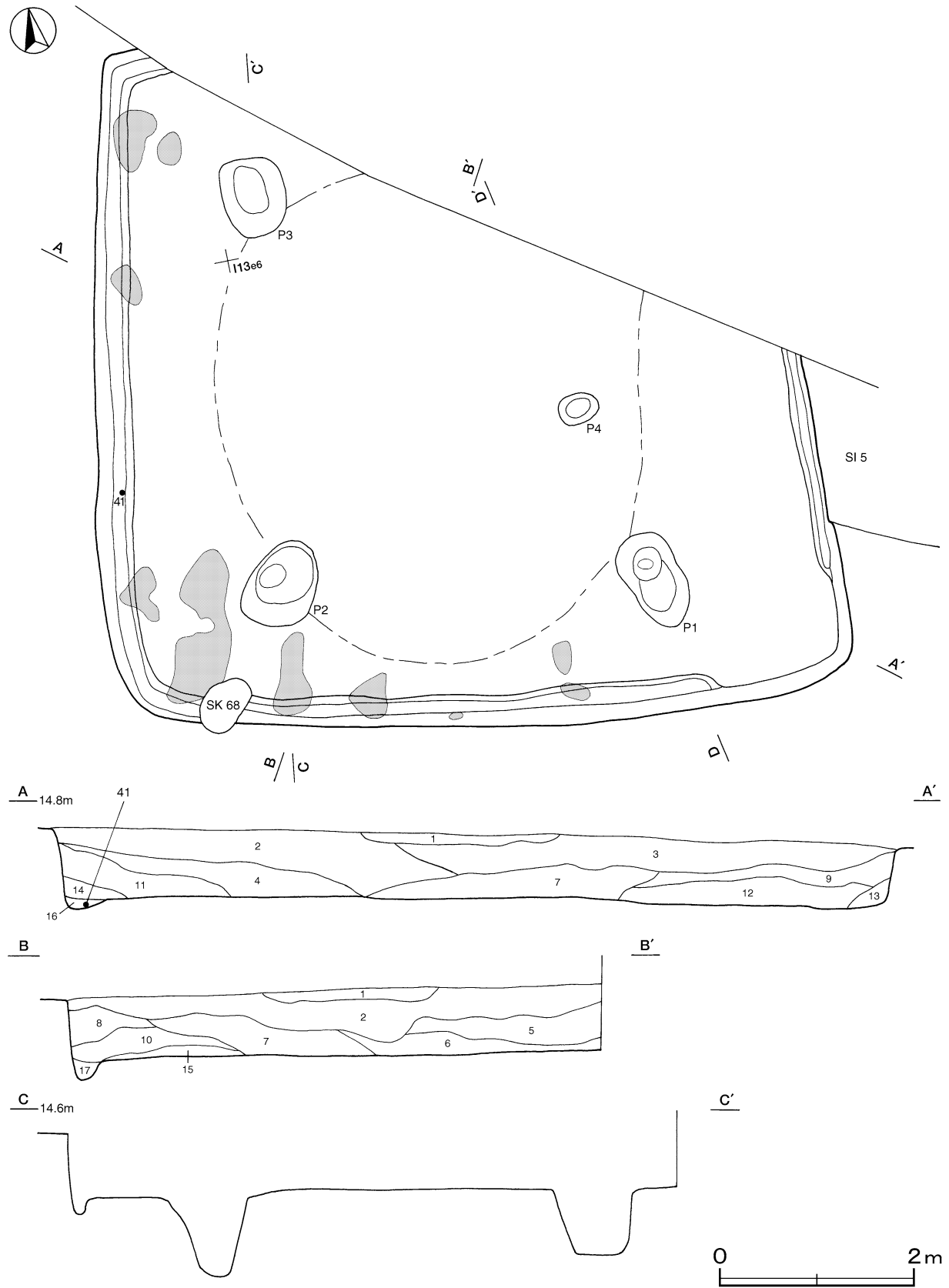
第25図 第17号住居跡出土遺物実測図(2)

第17号住居跡出土遺物観察表 (第24・25図)

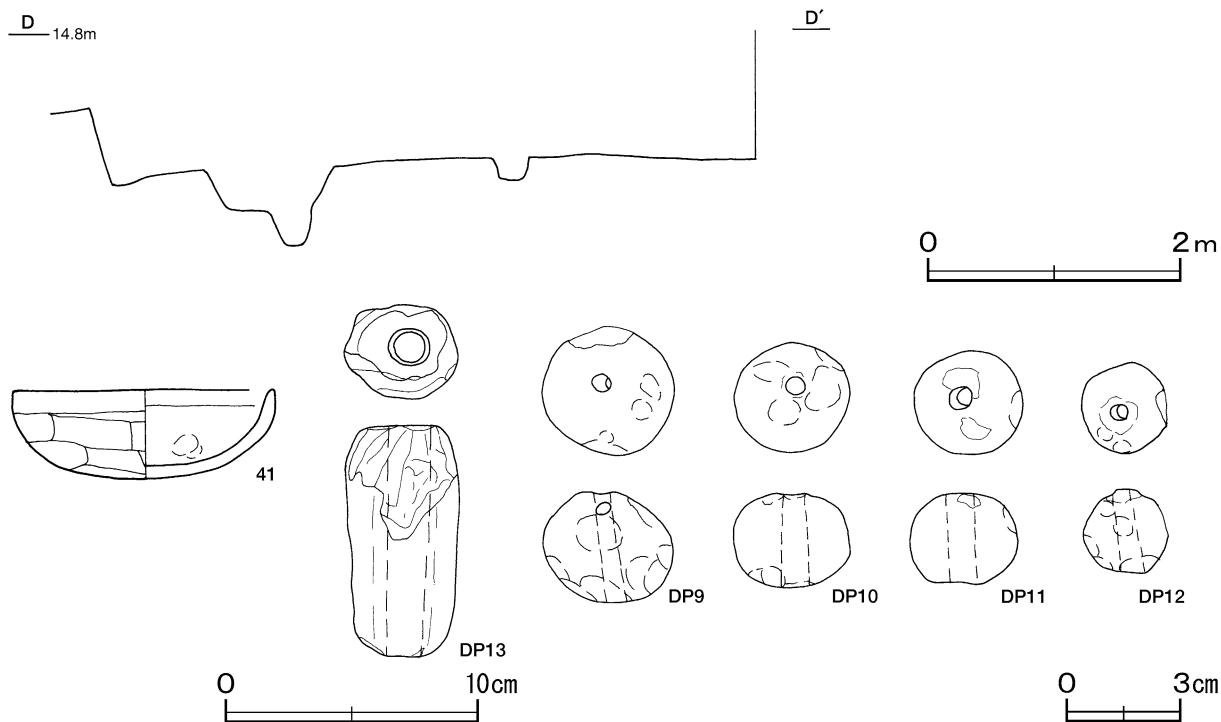
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
33	土師器	椀	13.7	5.8	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面へら削り後, ナデ 内面ナデ 二次焼成	床面	95% PL27
34	土師器	椀	9.9	4.7	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面へら削り後, ナデ 二次焼成	竈内	80% PL27
35	土師器	椀	10.1	5.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面へら削り後, ナデ 内面へら削り後 指頭圧痕	覆土中	80%
36	土師器	椀	[11.7]	7.2	2.3	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面へら削り後, ナデ 二次焼成	床面	60%
37	土師器	甕	17.0	16.0	6.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へら削り後, ナデ 内面へら当て痕 二次焼成 口縁部輪積痕	床面	100% PL38
38	土師器	甕	16.8	29.1	7.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	体部外面へら削り後, ナデ 下端へら削り 内面ナデ 二次焼成	床面	80% PL39
39	土師器	甕	18.2	32.5	[7.5]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面上半へらナデ 下端へら削り 二次焼成	床面	65%
40	土師器	甕	20.0	19.2	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面へら削り後, へらナデ 内面へら当て痕 二次焼成	床面	75% PL40

第18号住居跡 (第26・27図)

位置 調査区北西部のI 13e6区, 標高14.5mの河岸段丘上位の平坦部に位置している。



第26図 第18号住居跡実測図



第27図 第18号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 東壁を第5号住居，南壁を第68号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部が調査区域外に延びているため，東西軸は7.54mで，南北軸は6.88mが確認できただけである。平面形は方形で，主軸方向はN - 8° - Eと推測される。壁高は55～80cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が南東コーナー部を除いて確認されている。北西コーナー部および南壁際付近において焼土が確認されている。

ピット 4か所。P1～P3は深さ62～85cmで，規模と位置から支柱穴である。P4は深さ18cmで，性格は不明である。

覆土 17層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1 暗褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 炭化物少量，ロームブロック微量 | 10 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 11 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック少量，ロームブロック微量 | 12 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量 |
| 5 黒褐色 炭化物中量，ロームブロック・焼土ブロック微量 | 13 黒褐色 焼土ブロック多量，炭化物中量，ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック中量，炭化物少量，焼土ブロック微量 | 14 暗褐色 焼土ブロック・炭化物中量，ロームブロック少量 |
| 7 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量 | 15 にぶい黄褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | 17 黒褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片454点（坏153，甕301），土製品13点（球状土錘4，管状土錘1，支脚8）が出土している。その他，流れ込んだ縄文土器片1点，混入した須恵器片151点，陶器片2点，鉄製品2点，鉄滓5点も出土している。41は西壁溝の覆土下層から出土している。DP9～DP13は覆土中から出土している。

所見 北西コーナー部および南壁際付近において焼土が確認されていることから焼失住居とみられる。時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第18号住居跡出土遺物観察表（第27図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
41	土師器	坏	10.2	3.5	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外面へう削り 内面ナデ 指頭痕	壁溝内	95% PL27

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP9	球状土錘	3.4	2.9	0.5	(33.3)	石英・雲母	丁寧なナデ 一方向からの穿孔 指頭圧痕 一部欠け	覆土中	PL45
DP10	球状土錘	3.0	2.4	0.5	18.5	長石・雲母	丁寧なナデ 一方向からの穿孔 指頭圧痕	覆土中	PL45
DP11	球状土錘	2.8	2.4	0.6	(16.9)	雲母	丁寧なナデ 一方向からの穿孔 一部欠け	覆土中	PL45
DP12	球状土錘	2.4	2.2	0.4	(10.1)	雲母	丁寧なナデ 一方向からの穿孔 一部欠け	覆土中	PL45

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP13	管状土錘	9.1	4.5	1.5	(139.3)	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕 一部欠け	覆土中	

第20号住居跡（第28図）

位置 調査区北西部のI 13h0区，標高14.0mの河岸段丘上位の平坦部に位置している。

重複関係 南東壁を第59号土坑，南西部を第8号溝，北西壁を第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北東壁は調査区域外へ延びていることや重複関係から，北西・南東軸は5.92mで，北東・南西軸は3.84mが確認されただけである。主軸方向がN - 53° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は9cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北西壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで135cmで，燃烧部幅は50cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に明赤褐色土を積み上げて構築されている。第7層は袖部の構築土である。火床部は床面を浅く掘りくぼめ火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外に52cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|--------------------------|---|------|--------------------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量 | 6 | 黒褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子微量 |
| 2 | 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量，砂質粘土ブロック少量 | 7 | 赤褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量 | 8 | 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 | 黒赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 9 | 明赤褐色 | 焼土ブロック多量，ローム粒子・砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量 |
| 5 | 黒褐色 | 炭化粒子少量，焼土粒子微量 | | | |

ピット 8か所。P1・P2は深さ50cm・62cmで，規模と位置から主柱穴である。P3は深さ44cmで南東壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。P4～P8は深さ20～37cmで，性格は不明である。

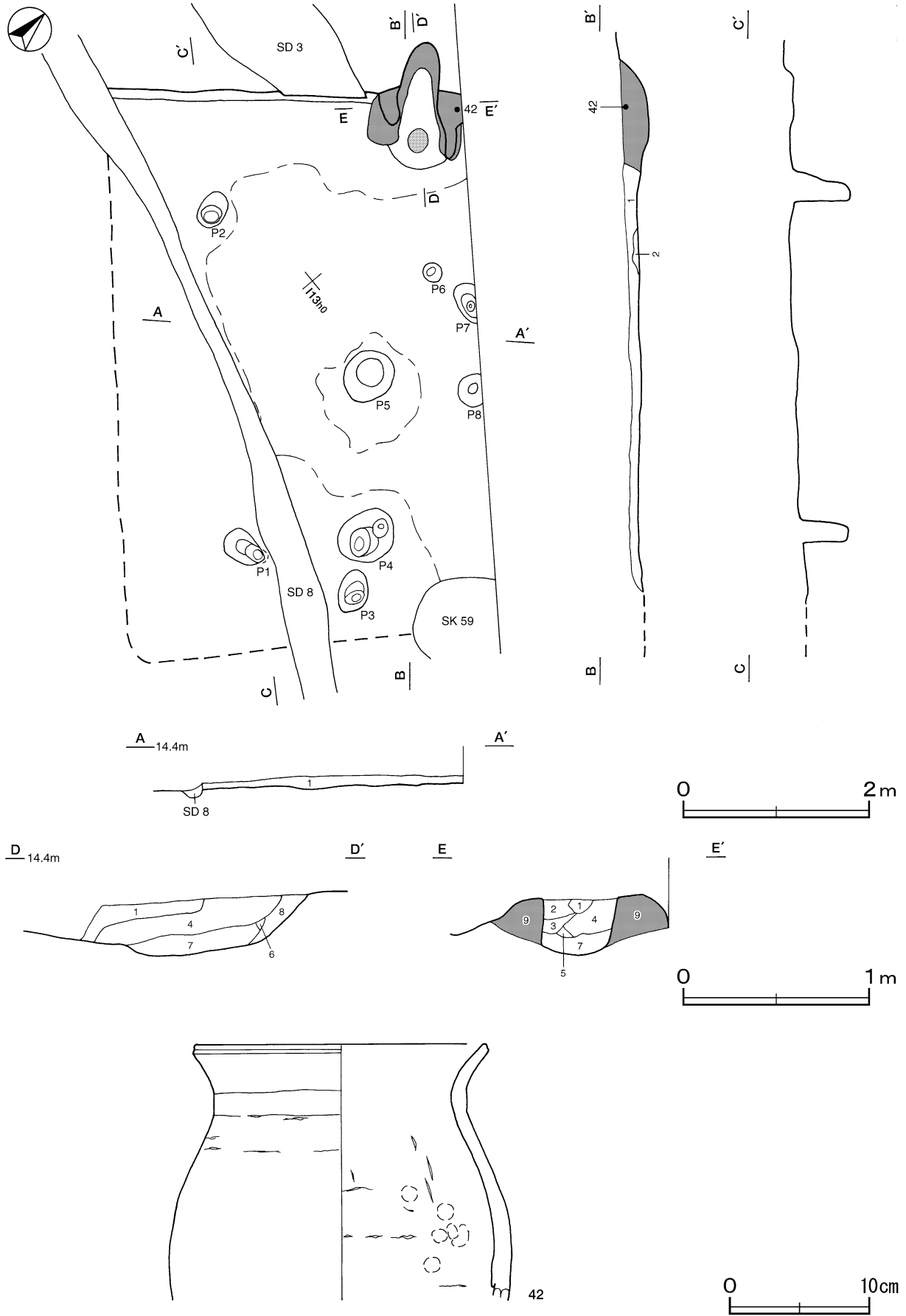
覆土 2層に分層できる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|--------------|---|--------|----------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 炭化物少量，焼土粒子微量 | 2 | にぶい黄褐色 | 炭化物多量，焼土ブロック中量 |
|---|--------|--------------|---|--------|----------------|

遺物出土状況 土師器片146点（坏9，甕137）が出土している。42は竈右袖部から出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第28图 第20号住居跡・出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表 (第28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
42	土師器	甕	20.5	(18.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後、ナデ 内・外面輪積痕 内面指頭痕	電袖部	30%

第22号住居跡 (第29・30図)

位置 調査区東部のK15c0区、標高13.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

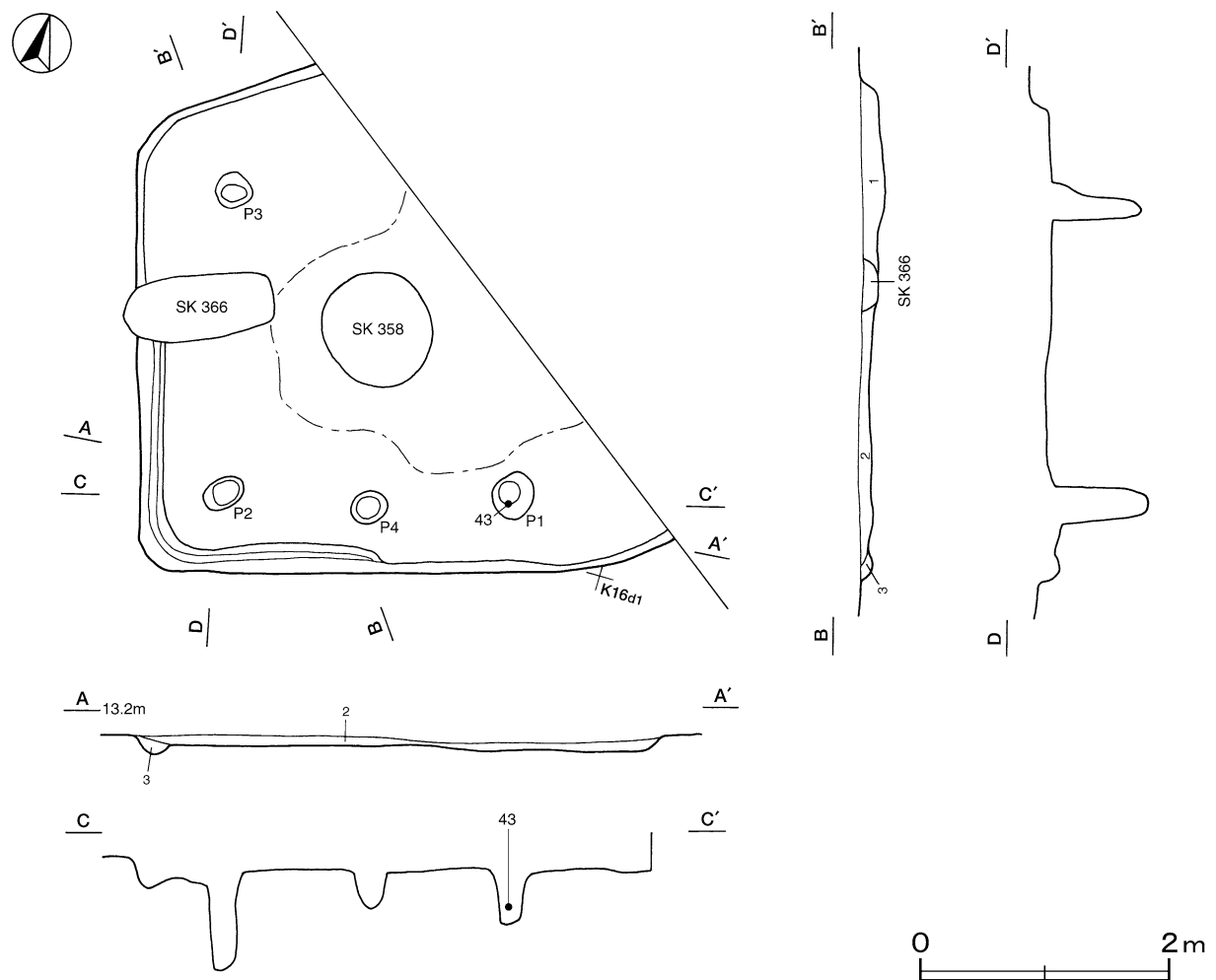
重複関係 中央部を第358号土坑、西壁を第366号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東半部が調査区域外へ延びているため、南北軸は4.04mで、東西軸は4.25mが確認されただけである。遺存する壁から主軸方向がN - 20° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は12~18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が南西コーナー部で確認されている。

ピット 4か所。P1~P3は深さ44~80cmで、規模と位置から支柱穴である。P4は深さ32cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 3層に分層できる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。



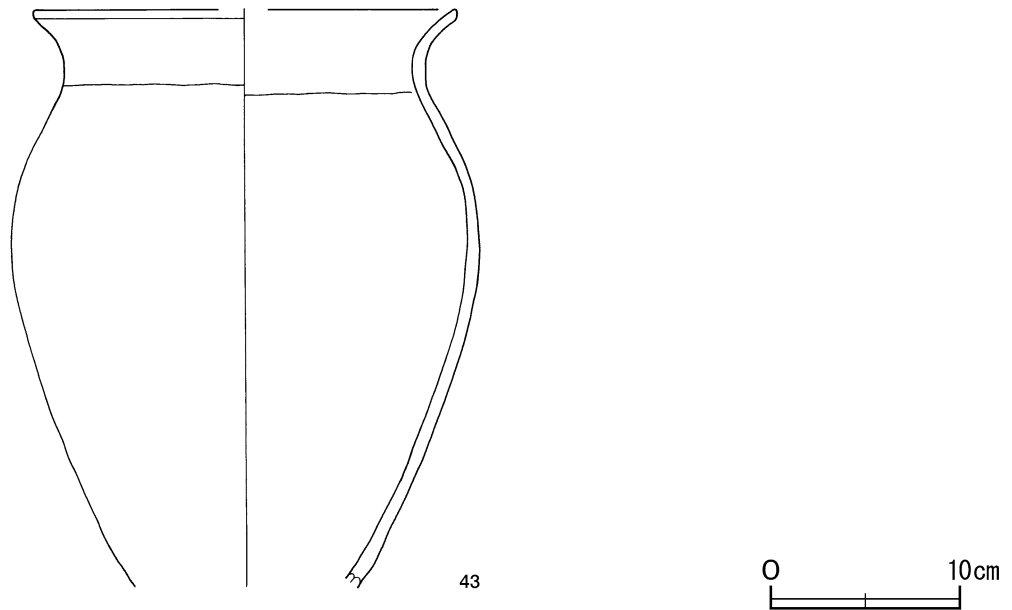
第29図 第22号住居跡実測図

土層解説

- 1 黒褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 3 黒褐色 砂質粘土ブロック少量
 2 黒褐色 砂質粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片10点(坏6，甕4)が出土している。その他，混入した須恵器片2点も出土している。43はP1の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第30図 第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表（第30図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
43	土師器	甕	[22.0]	(30.1)	-	石英・雲母	褐	普通	体部内・外面器面摩滅	P1下層	30%

第24号住居跡（第31・32図）

位置 調査区南東部のL16f6区，標高14.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

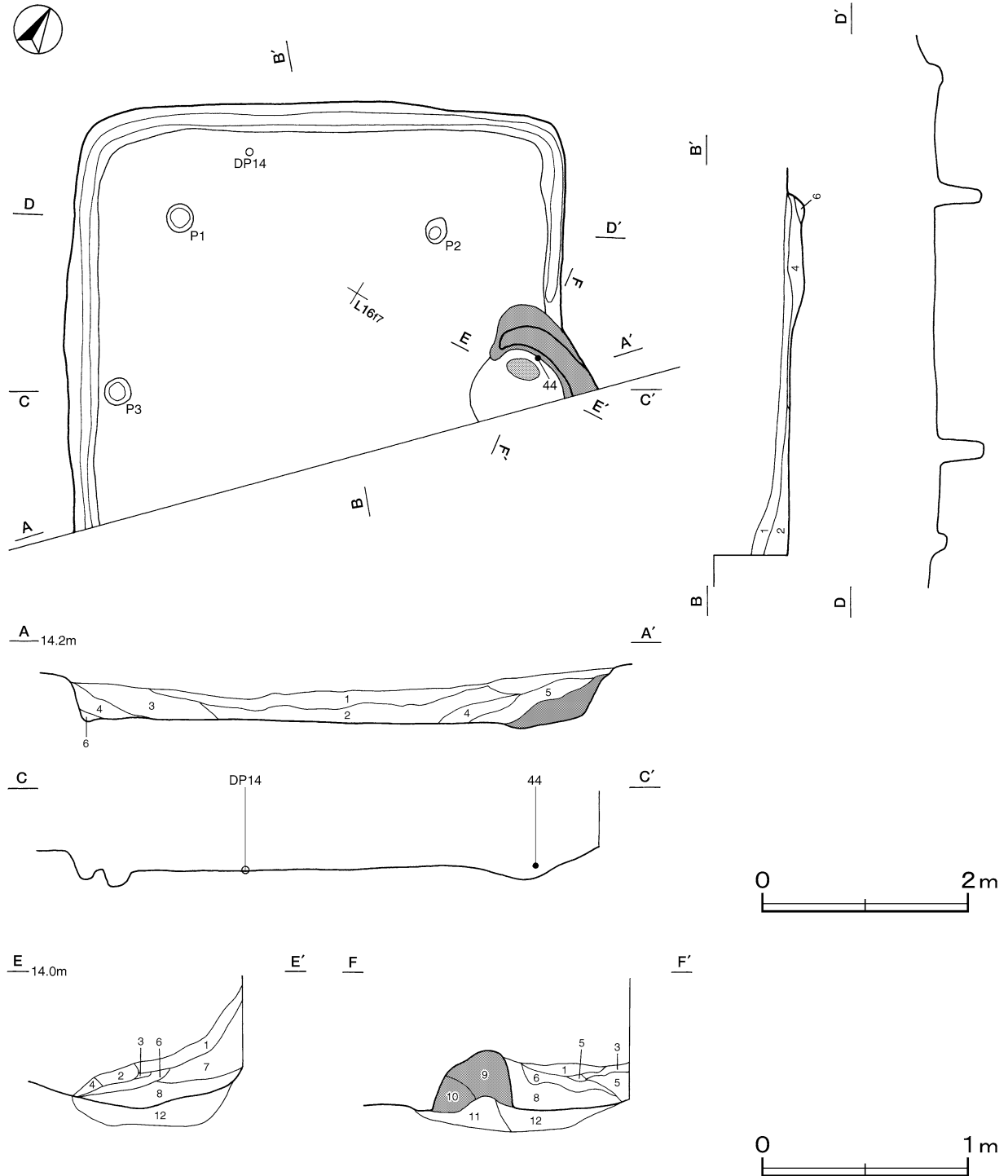
規模と形状 南東部が調査区域外へ延びているため，北東・南西軸は4.84mで，北西・南東軸は3.92mが確認できただけである。壁と竈から主軸方向がN - 59° - Eの方形または長方形と推測される。壁高は10～42cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。確認された範囲では，壁溝が巡っている。

竈 北東壁に付設されている。右袖部が調査区域外であるため，規模は焚口部から煙道部までは100cm，燃燒部幅は62cmが確認されただけである。袖部および燃燒部は地山を20cmほど掘り込んで，明黄褐色土を埋めた上に暗褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面を浅く掘りくぼめ，火床面には焼土が確認されている。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がり端部で直立している。第9・10層が袖部の構築土，第11・12層が掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|-----------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量,炭化粒子微量 | 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量,炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック中量,炭化粒子微量 | 7 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量,炭化物微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量,焼土ブロック・炭化粒子少量 | 8 灰黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量,炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化物中量,焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック中量,ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 にぶい黄褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| | | 11 明黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量 |
| | | 12 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量,砂質粘土ブロック微量 |



第31図 第24号住居跡実測図

ピット 3か所。P1・P2の深さは共に43cmで、規模と位置から主柱穴である。P3は深さ17cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

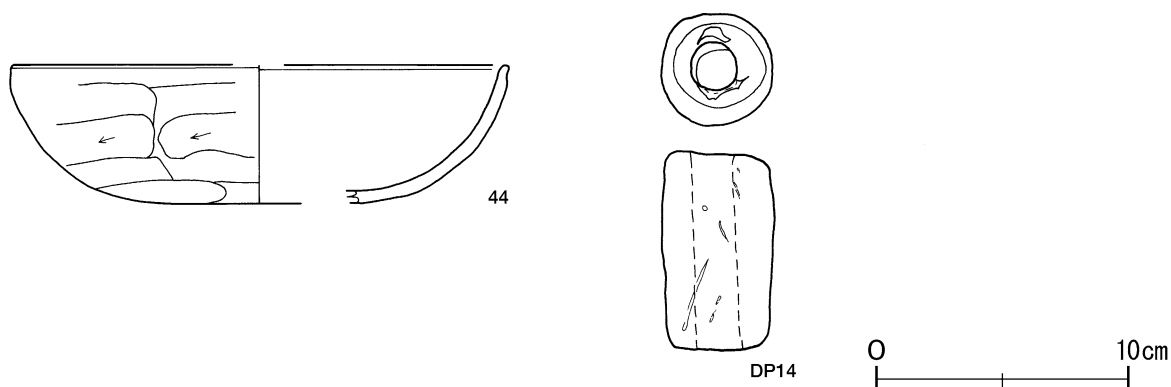
覆土 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|---|
| 1 黒褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片91点(坏20, 椀1, 高台付坏2, 甕67, ミニチュア土器1), 土製品3点(管状土錘2, 支脚1)が出土している。その他, 混入した須恵器片4点も出土している。44は竈左袖, DP14は北西壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀前葉と考えられる。



第32図 第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表 (第32図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
44	土師器	坏	[19.6]	(5.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後, ナデ 内面ナデ	竈左袖	15%

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP14	管状土錘	7.9	4.4	1.7	170.0	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔 二次焼成	床面	PL46

第25号住居跡 (第33・34図)

位置 調査区南東部のL16d8区, 標高14.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

規模と形状 南東部が調査区域外へ延びているため, 北東・南西軸は5.92mで, 北西・南東軸は3.20mが確認できただけである。遺存する壁と炉から, 主軸方向がN-33°-Wの方形または長方形と推測される。壁高は12~35cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。確認された範囲では, 壁溝が巡っている。

炉 中央部のやや北西寄りに位置している。長径40cm, 短径30cmの楕円形で, 床面を5cm掘りくぼめている。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量 炭化粒子少量, ローム粒子微量

ピット 2か所。P1の深さは53cm, P2の深さは55cmで, 規模と位置から支柱穴である。

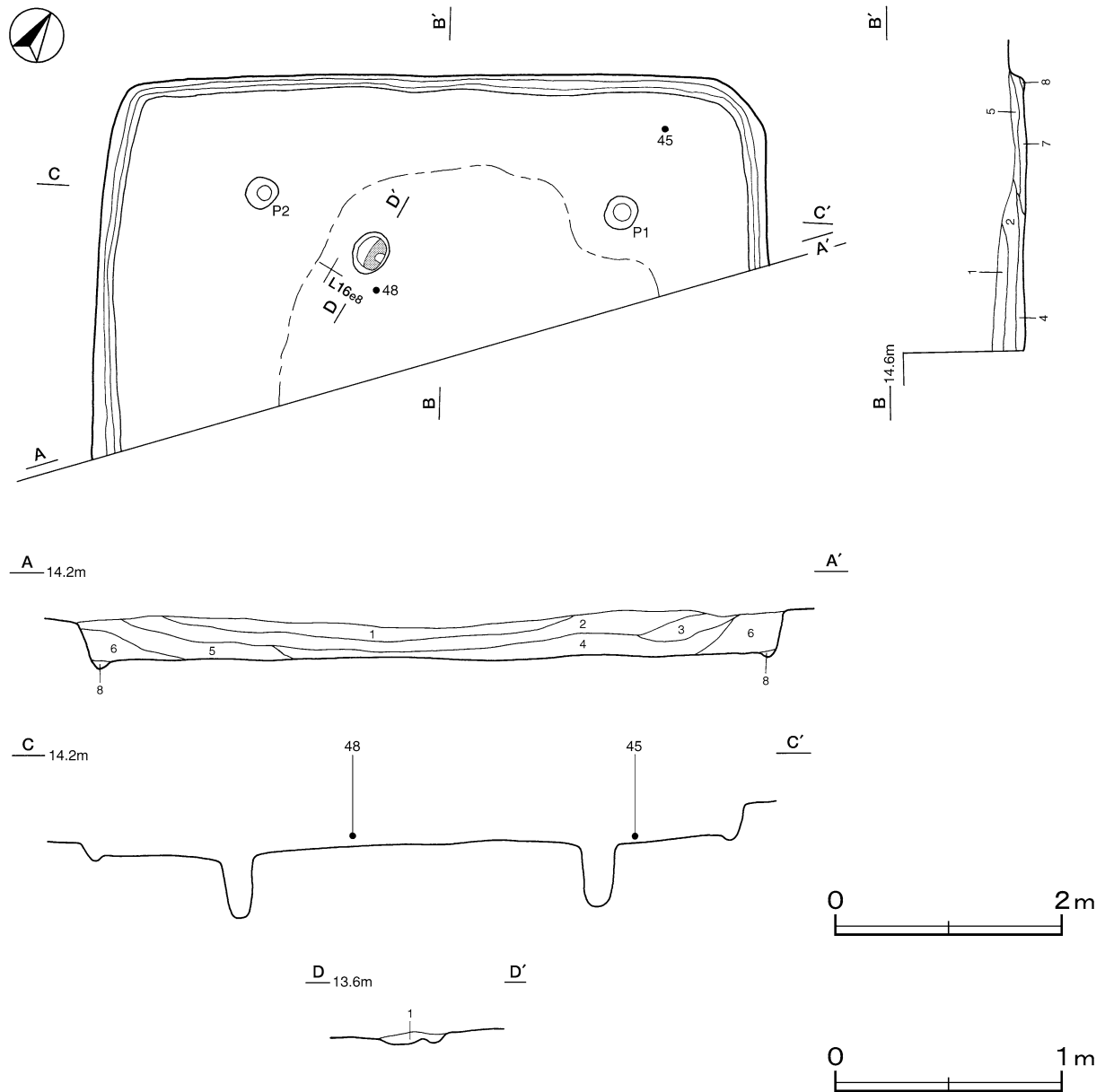
覆土 8層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

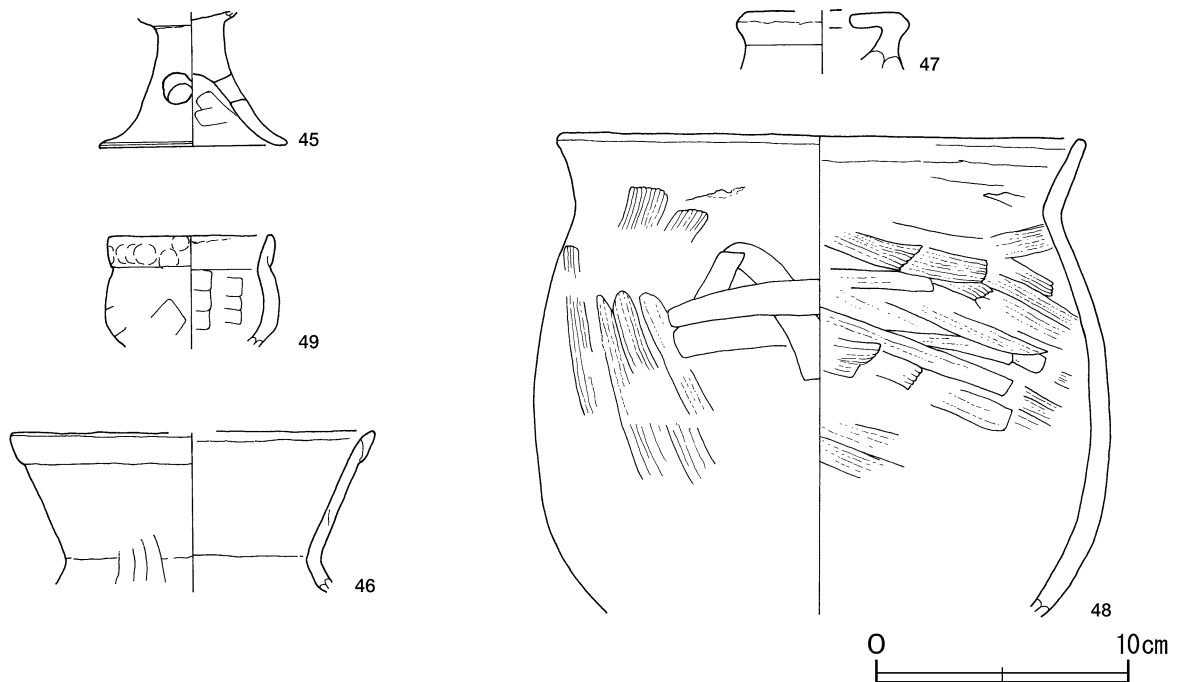
- | | | | |
|--------|------------------------|-------|--------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片83点(椀11, 埴3, 高坏3, 鉢3, 壺1, 炉器台1, 甕60, 小形甕1)が出土している。45は北壁際の覆土下層から, 48は炉付近の覆土下層から, 46・49は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から4世紀と考えられる。



第33図 第25号住居跡実測図



第34図 第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
45	土師器	高坏	-	(5.3)	7.4	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	脚部外面ナデ 内面ヘラナデ 3孔式脚部	覆土下層	40%
46	土師器	壺	[14.4]	(6.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面ナデ 頸部外面ヘラナデ	覆土中	5%
47	土師器	炉器台	[6.2]	(2.5)	-	長石・石英	橙	普通	器受部外面ナデ 内面一部ヘラ削り 一方への穿孔	覆土中	10%
48	土師器	甕	20.6	(19.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部輪積痕 体部内・外面ハケ目調整後 強いナデ 二次焼成	覆土下層	40%
49	土師器	小形甕	6.3	(4.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外面指頭痕 内面輪積痕 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中	60%

第26号住居跡（第35図）

位置 調査区南東部のL16c8区，標高14.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

規模と形状 南東部が調査区域外へ延びているため，北東・南西軸は5.04mで，北西・南東軸は3.73mが確認できただけである。遺存する壁から主軸方向がN - 58° - Eの方形または長方形と推測される。壁高は12cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

覆土 2層に分層できる。層厚は薄いが砂質粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

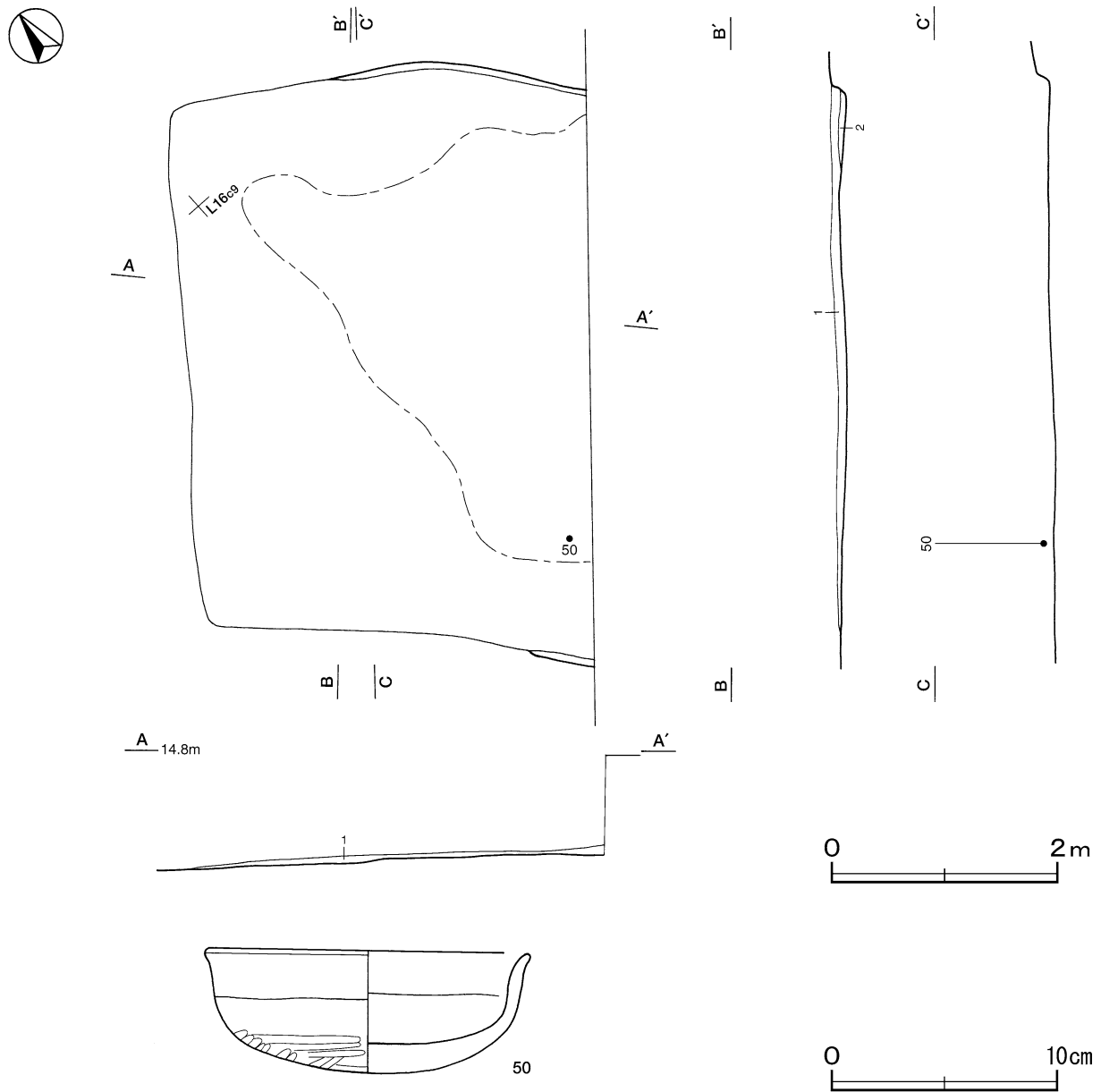
土層解説

1 黒褐色 炭化物少量，焼土ブロック微量

2 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片5点（坏1，甕4）が出土している。50は南部の覆土中層から出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第35図 第26号住居跡・出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表（第35図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
50	土師器	坏	14.2	5.4	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ磨き 内面ナデ 二次焼成	覆土中層	100% PL27

第28号住居跡（第36図）

位置 調査区南東部の L 16e4区，標高13.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第17号住居跡を掘り込み，中央部から南部を第27号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.45m，短軸3.35mの長方形で，主軸方向はN - 38° - Eである。壁高は16～40cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。北東壁際の床面で，焼土が確認されている。

竈 北東壁の北寄りに付設されている。焚口部の一部を第27号住居に掘り込まれているため、規模は焚口部から煙道部まで60cm、燃焼部幅42cmが確認できただけである。煙道部は壁外に16cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 黒褐色 砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子 微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量，炭化物少量
- 3 黒褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

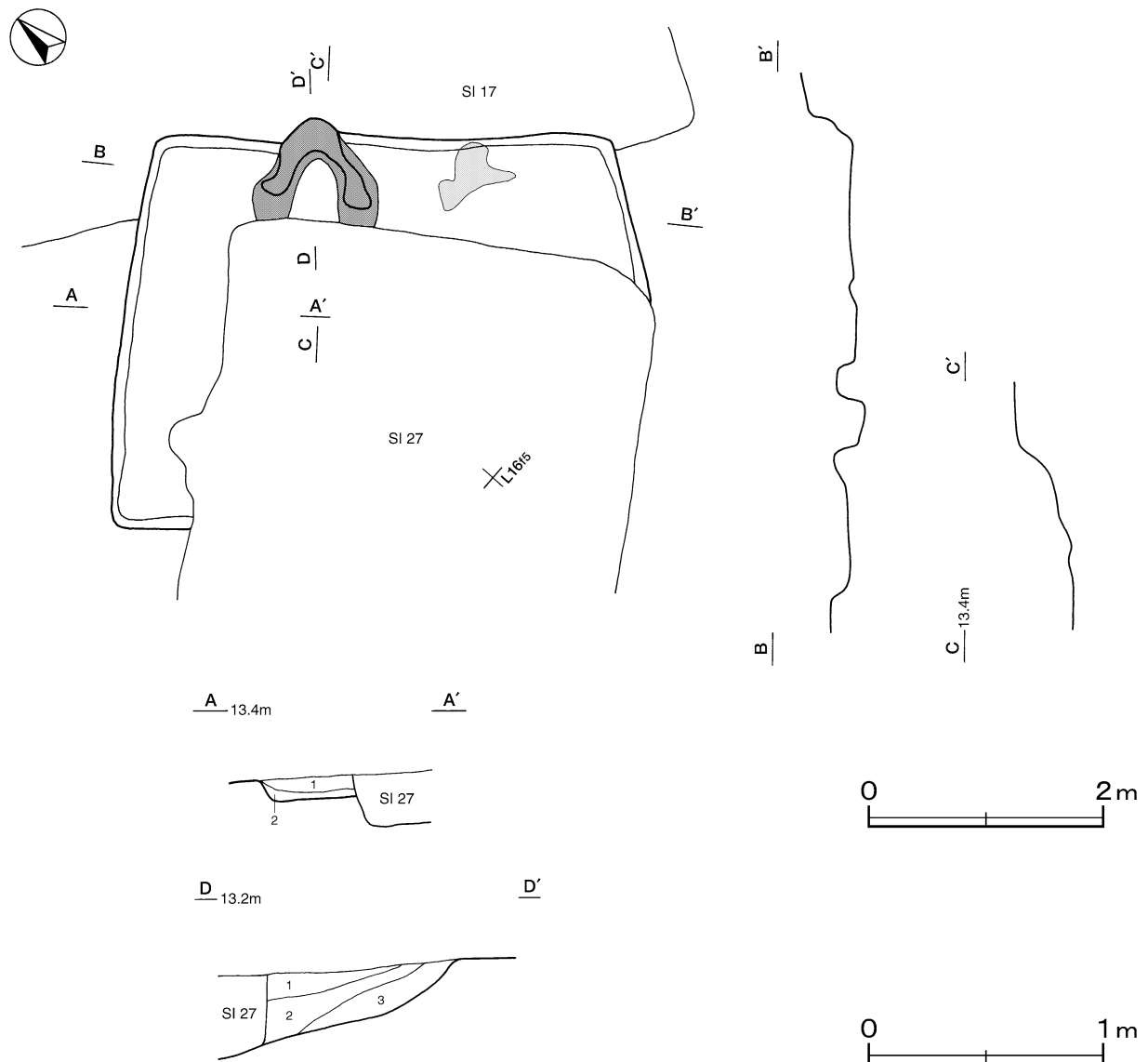
覆土 2層に分層できる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片58点（坏9，甕49）が出土しているが，細片のため図示できなかった。

所見 時期は，重複関係から7世紀後葉と考えられる。



第36図 第28号住居跡実測図

第29号住居跡 (第37・38図)

位置 調査区南東部のL16f5区、標高13.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 北部を第27号住居、南部を第42号住居に掘り込まれている。

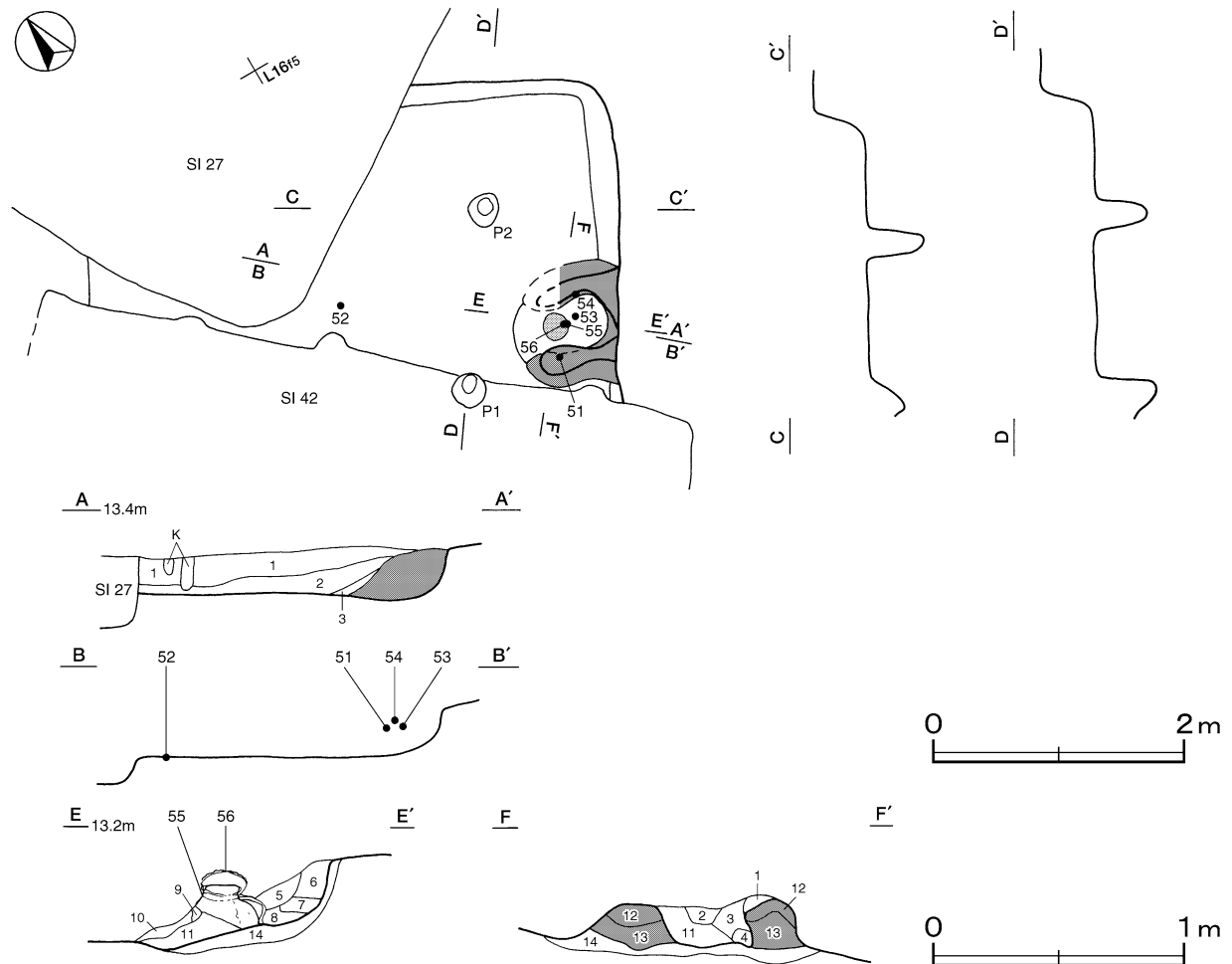
規模と形状 北西・南東軸は4.25mで、北東・南西軸は2.40mが確認できただけである。遺存する壁と竈から主軸方向がN - 117° - Eの方形または長方形と推測される。壁高は40~42cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

竈 南東壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで82cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部および燃焼部は地山を18cmほど掘り込んで、にぶい褐色土を埋めた上に暗褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面を浅く掘りくぼめ、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外への掘り込みがなく、火床面から外傾し壁内で立ち上がっている。第12・13層は袖部の構築土、第14層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|-----------|----------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・細礫少量, ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 4 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | 粘土粒子中量, 細礫・砂粒少量, ローム粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化物微量 | 14 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | | |
| 7 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物微量 | | |
| 8 暗褐色 | 炭化物少量, 焼土粒子微量 | | |
| 9 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | | |



第37図 第29号住居跡実測図

ピット 2か所。P1・P2は深さが共に46cmで、規模と位置から主柱穴である。

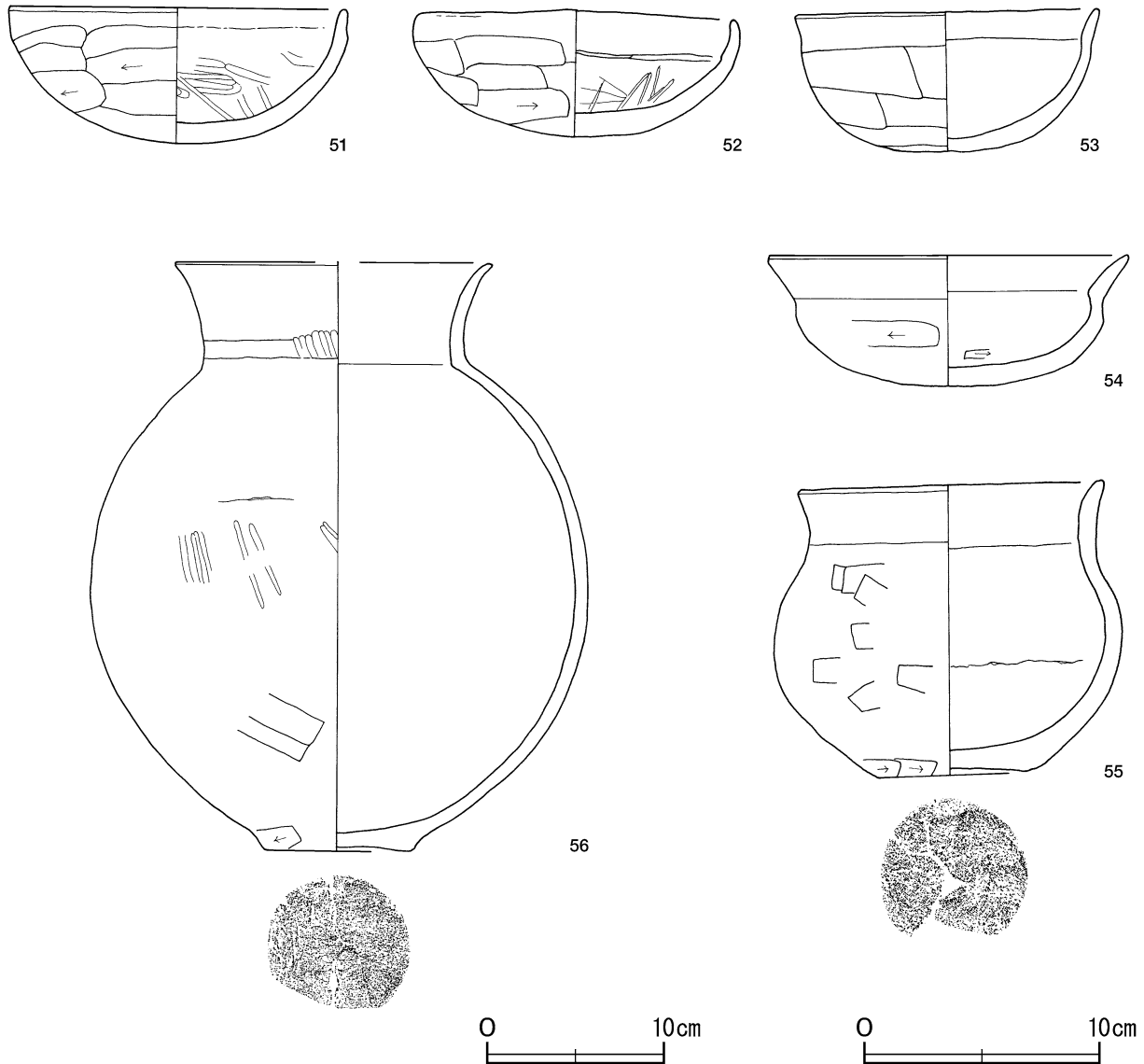
覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 粘土粒子中量, 炭化物・砂粒少量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 粘土粒子・砂粒中量, 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片151点(坏18, 高坏3, 甕129, 小形甕1)が出土している。その他, 流れ込んだ縄文土器片2点, 弥生土器片1点, 混入した須恵器片6点, 陶器片1点も出土している。51・54は竈の袖部, 53は竈の覆土上層からそれぞれ出土している。55は竈の火床面に逆位で据えられて出土しており, 支脚として転用されていたものである。56は55の上に重なっていたものが押しつぶされた状態で出土している。52は中央部の床面から出土している。

所見 煙道部が壁外への掘り込みをもたない竈の形状であることが特徴の住居である。時期は, 出土土器から6世紀前葉と考えられる。



第38図 第29号住居跡出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表 (第38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
51	土師器	坏	14.1	5.8	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後, ナデ 内面ヘラ磨き 二次焼成	竈右袖部	100%
52	土師器	坏	13.4	5.4	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り 放射状のヘラ磨き 二次焼成	床面	100% PL27
53	土師器	坏	12.8	6.0	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面器面荒れ	竈内	100% PL27
54	土師器	坏	15.2	5.5	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラ削り後, ナデ 二次焼成	竈左袖部	80% PL26
55	土師器	小形甕	12.8	12.3	6.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後, ナデ 内面ナデ 二次焼成	竈内	95% PL38
56	土師器	甕	[17.7]	32.9	8.2	長石・石英・雲母	暗褐	普通	頸部外面上半ヘラ磨き, 体部外面ヘラ削り後, ナデ 下半ヘラナデ 輪積痕	竈内	80% PL39

第30号住居跡 (第39・40図)

位置 調査区中央部のJ14f5区, 標高10.5mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 南部を第88号土坑, 北西壁を第89号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.36m, 短軸6.06mの方形で, 主軸方向はN - 52° - Wである。壁高は30~42cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床であるが, 南西部に向かって若干傾斜している。やや軟質で特に踏み固められている部分は認められない。貼床は, ロームブロック主体の暗褐色土を埋めて構築している。壁溝が北西壁から南東壁まで確認されている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで95cmで, 燃烧部幅は60cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山ににぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。第10層は袖部の構築土である。火床部は床面を浅く掘りくぼめ火床面はわずかに赤変している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ, 火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量	7 暗褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子中量, 炭化物少量	8 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物中量, ローム粒子・灰少量
3 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子中量	9 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量
4 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化物・ローム粒子・砂粒少量	10 にぶい黄褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・細礫少量, 焼土粒子微量
5 暗褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・灰少量		
6 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量, ローム粒子微量		

ピット 8か所。P1~P4は深さ54~100cmで, 規模と位置から支柱穴である。P5は深さ16cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットである。P6~P8は深さ32~51cmで, P4の東側に位置しているが性格は不明である。P1・P4の底面からは, 柱のあたりが確認されている。

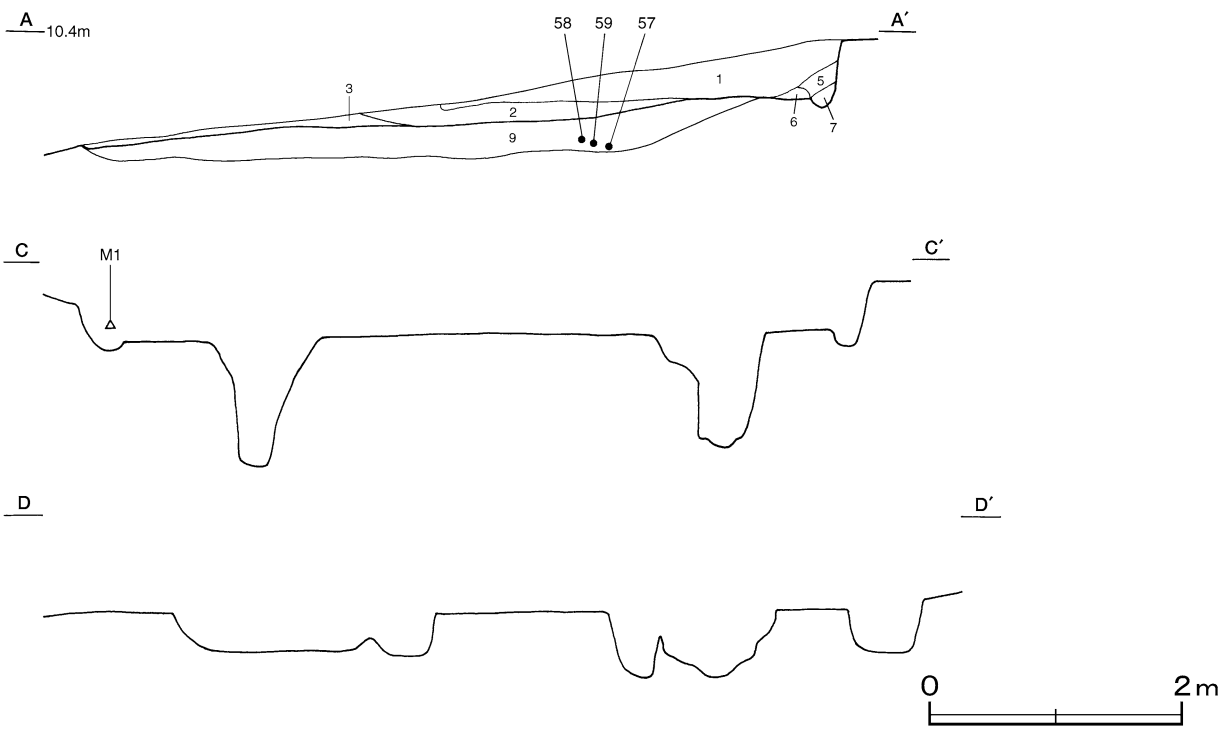
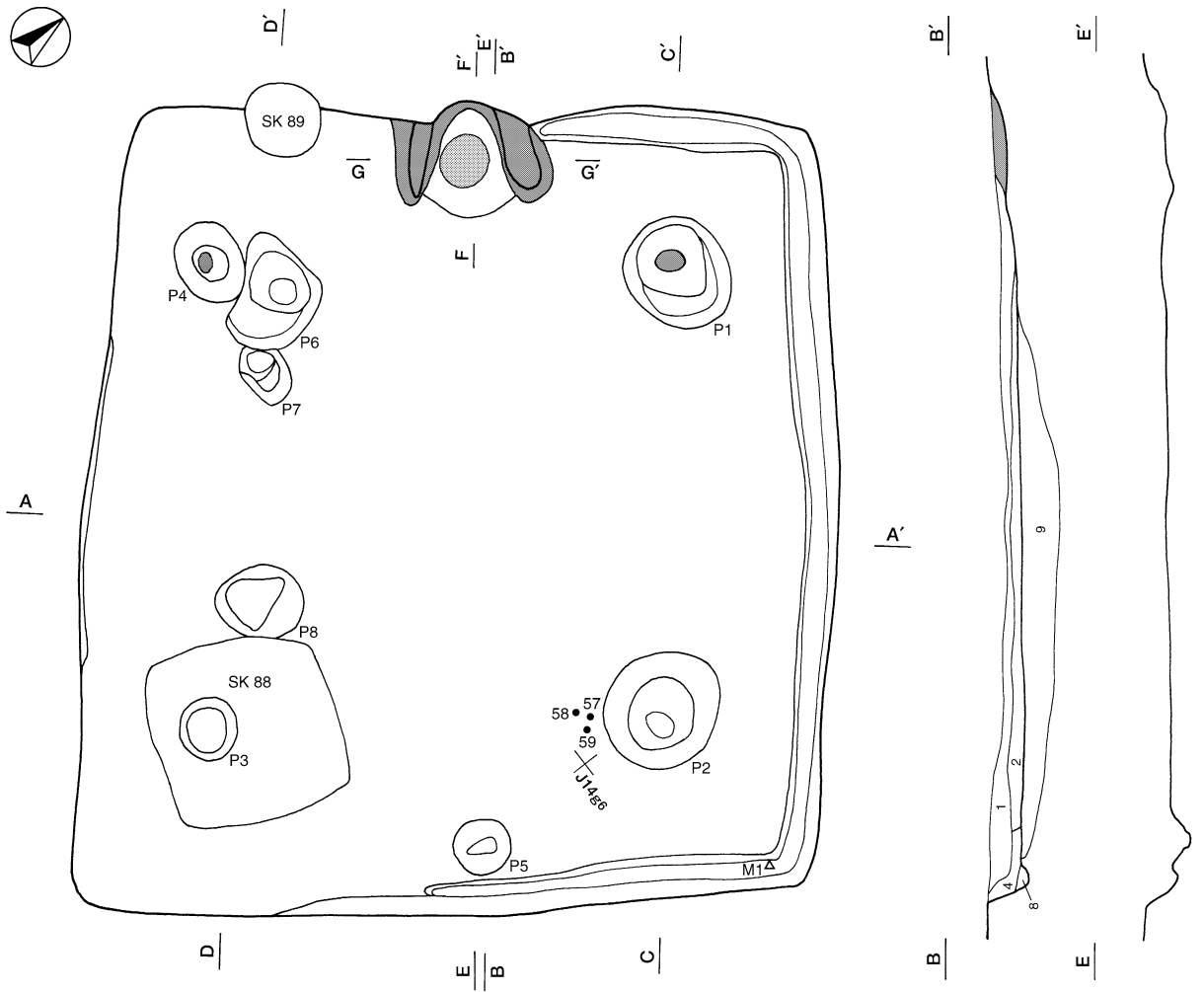
覆土 8層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。第9層は貼床の構築土である。

土層解説

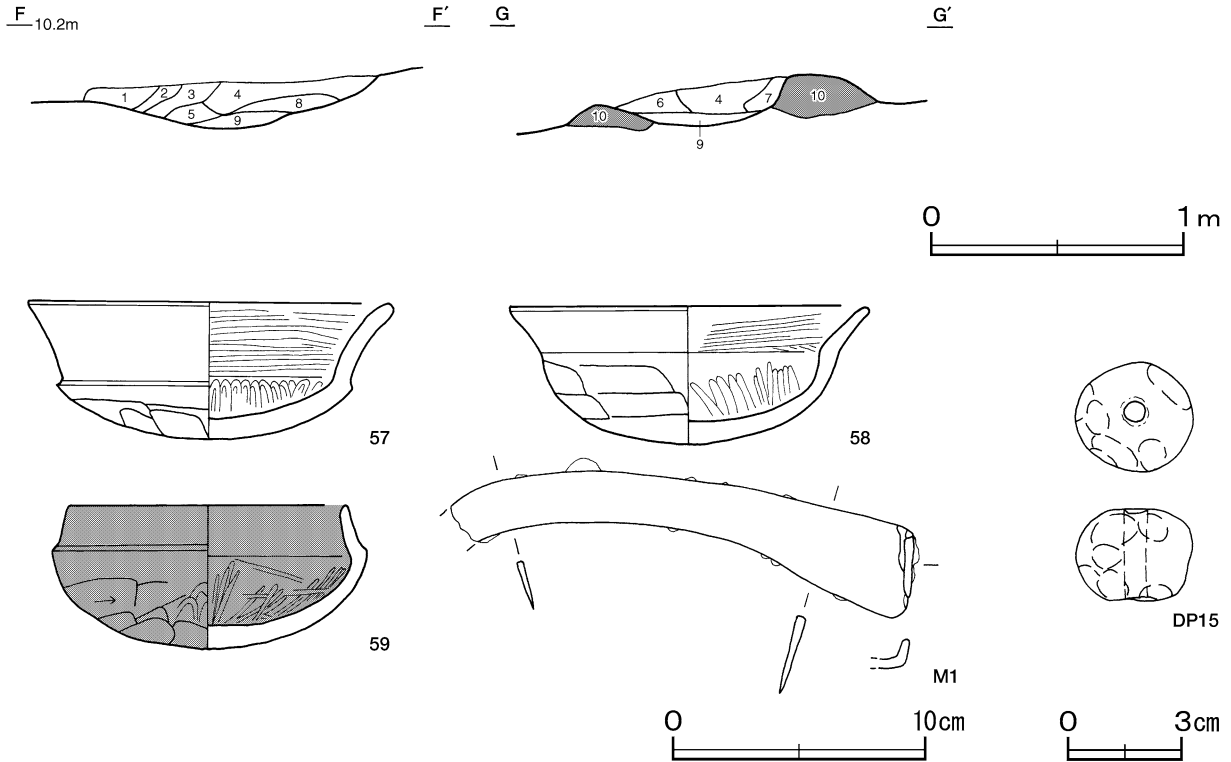
1 暗褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化物微量	5 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色	ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化物中量, 砂質粘土ブロック少量	6 にぶい黄褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色	炭化物・焼土粒子微量	7 黒褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4 にぶい黄褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量	8 にぶい黄褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
		9 暗褐色	ロームブロック多量, 炭化物少量

遺物出土状況 土師器片514点(坏43, 蓋4, 甕467), 土製品4点(球状土錘1, 支脚3)が竈付近の覆土中から出土している。その他, 流れ込んだ弥生土器片16点, 混入した須恵器片85点, 磁器片1点, 石器1点, 金属製品2点も出土している。57~59は貼床の構築土から出土している。DP15は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第39图 第30号住居跡実測图



第40図 第30号住居跡・出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表（第40図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
57	土師器	坏	14.2	5.4	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り 口縁部・体部内面へラ磨き 内面放射状のへラ磨き 二次焼成	貼床中層	100%
58	土師器	坏	14.2	5.4	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面へラ削り後、ナデ 内面へラ磨き 二次焼成	貼床中層	95% PL26
59	土師器	坏	10.9	5.6	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面へラ削り後、ナデ 体底部外面へラ削り 内面放射状のへラ磨き	貼床中層	95% PL26

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP15	球状土錘	3.1	2.4	0.6	18.0	長石・石英・赤色粒子	丁寧なナデ 一方向からの穿孔 指頭圧痕	覆土中	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	鎌	(18.5)	5.7	0.4	(79.4)	鉄	弓状に彎曲 断面三角形 一部欠損	覆土下層	PL49

第32号住居跡（第41・42図）

位置 調査区中央部のJ14i7区，標高10.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 北コーナー部を第31号住居，西コーナー部を第51号住居，中央部を第76号土坑，東コーナー部を第323号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.80m，短軸3.56mの方形で，主軸方向はN-43°-Wである。壁高は10～18cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であるが，南西部に向かって若干傾斜している。中央部が踏み固められている。壁溝が北西壁と北東壁の一部に確認されている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで55cmで，燃烧部幅は35cmである。火床部は

床面を浅く掘りくぼめ、火床面はわずかに赤変している。煙道部は壁外に45cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量, ローム粒 子微量 2 黄褐色 粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子少量

ピット 6か所。P2～P4は深さ20～24cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ15cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。P1・P6は深さ20cm・18cmで、性格は不明である。

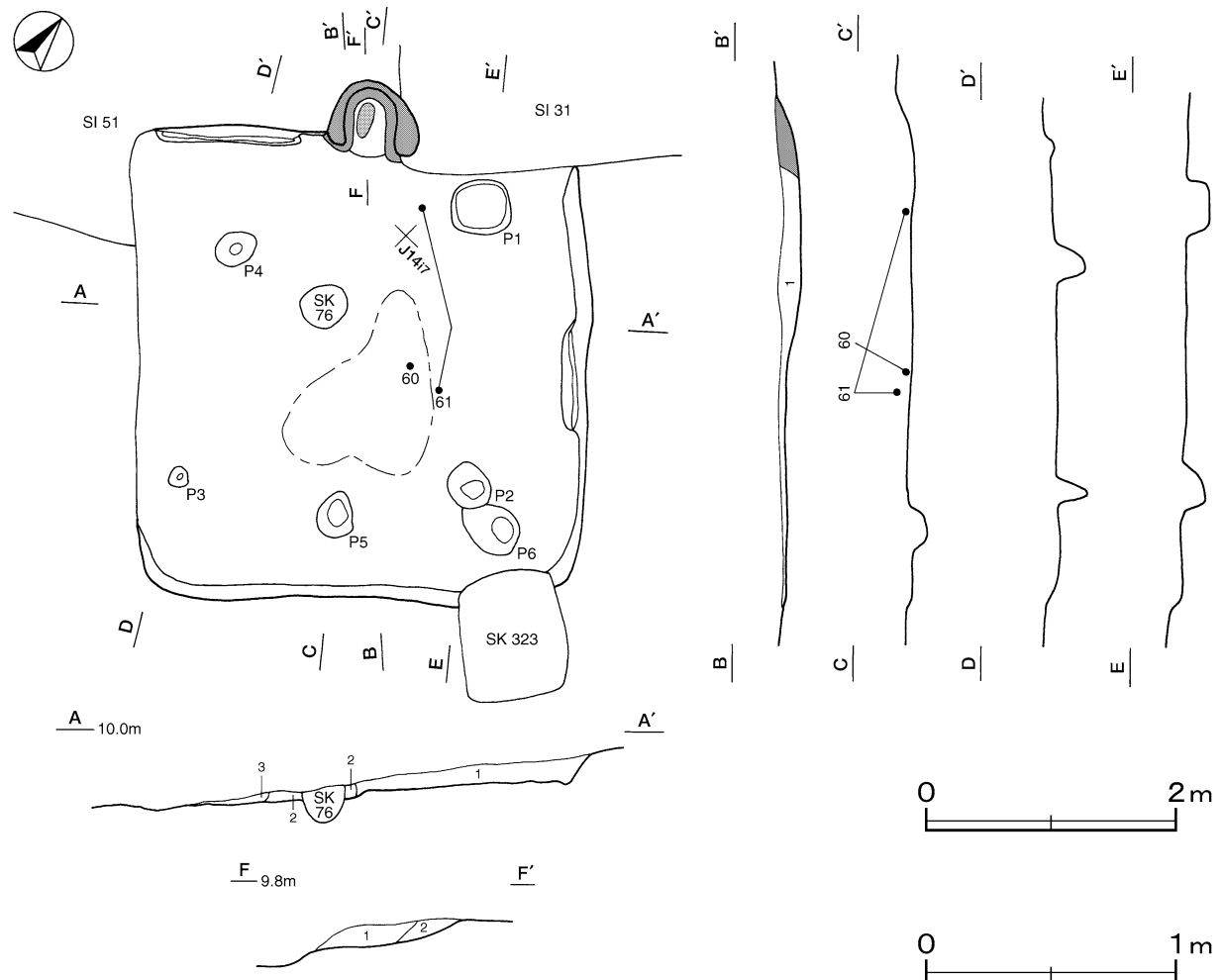
覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

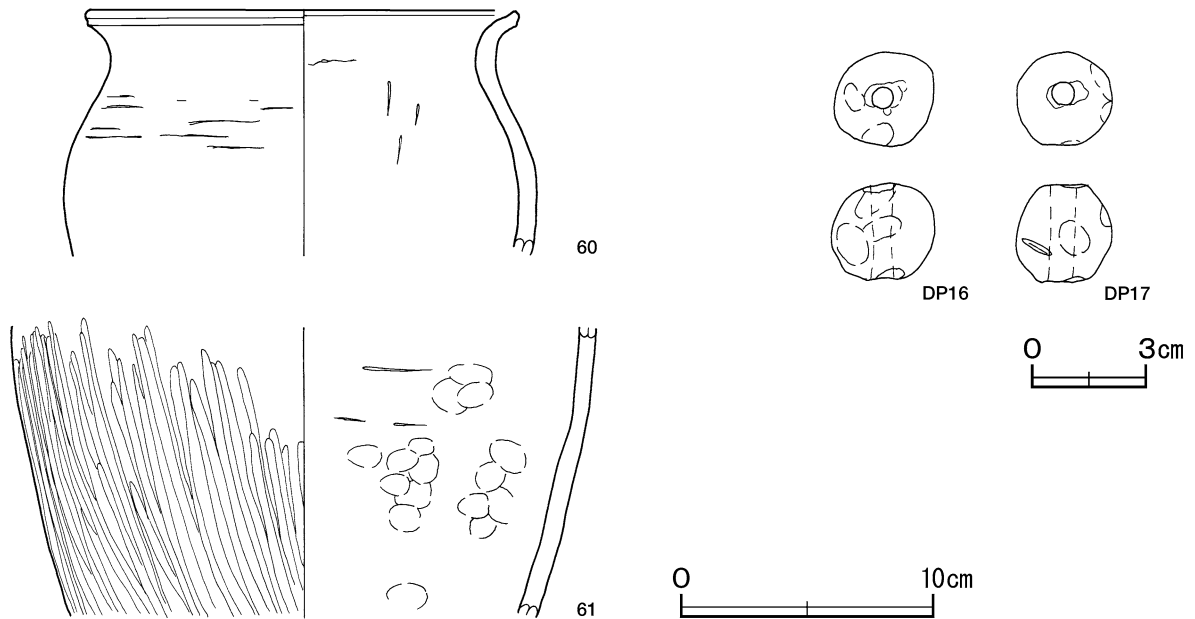
- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量

遺物出土状況 土師器片174点(坏11, 盤1, 甕162), 土製品2点(球状土錘2)が竈付近の覆土中から出土している。その他, 流れ込んだ縄文土器片2点, 混入した須恵器片13点, 陶器片1点も出土している。60は中央部の床面, 61は中央部と竈の東側付近の覆土下層からそれぞれ出土している。DP16・DP17は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第41図 第32号住居跡実測図



第42図 第32号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表（第42図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
60	土師器	甕	16.9	(9.7)	-	長石・石英・雲母	赤	普通	体部外面ナデ 内面ヘラ当て痕	床面	30%
61	土師器	甕	-	(11.5)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外面ヘラ削り後、ヘラ磨き 内面ナデ 輪襷痕 指頭痕	覆土下層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP16	球状土錘	2.7	2.5	0.6	17.6	長石・石英・雲母	丁寧なナデ 一方向からの穿孔 指頭圧痕	覆土中	PL45
DP17	球状土錘	2.5	2.6	0.6	14.5	長石・石英・雲母	丁寧なナデ 一方向からの穿孔 指頭圧痕	覆土中	PL45

第34号住居跡（第43・44図）

位置 調査区中央部のJ14j7区，標高9.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第47号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.12m，短軸5.10mの方形で，主軸方向はN - 28° - Wである。壁高は34～46cmで，外傾して立ち上がっている。

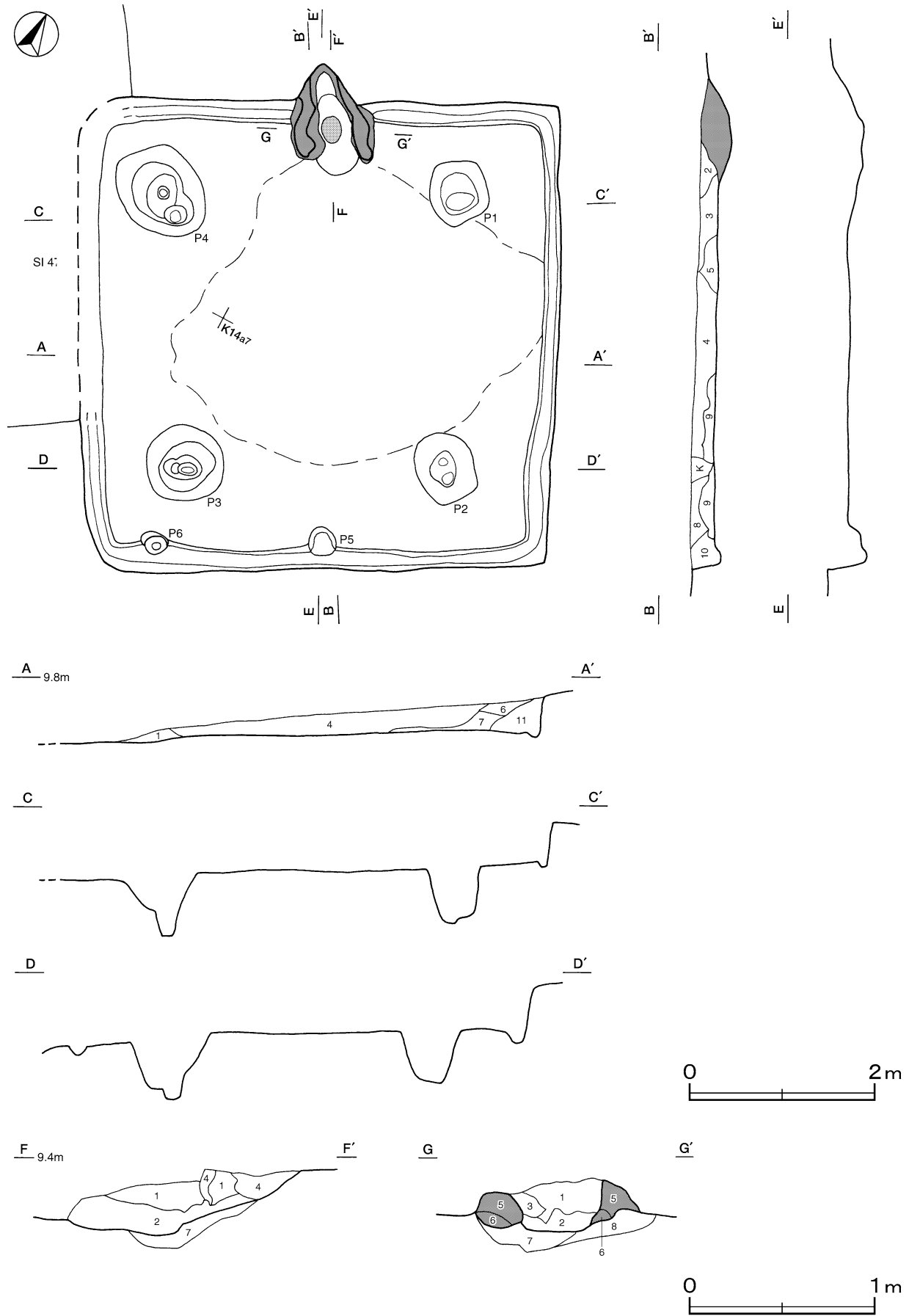
床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで112cmで，燃烧部幅は45cmである。袖部および燃烧部は地山を20cmほど掘り込んで，褐色土を埋めた上ににぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。

火床部は床面を浅く掘りくぼめ，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。第5・6層は袖部の構築土，第7・8層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------------|----------|----------------------------|
| 1 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化物微量 | 6 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック中量，炭化粒子少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量，砂質粘土ブロック少量 |
| 3 灰褐色 | 砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 8 褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |
| 5 暗褐色 | 砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック中量，炭化物少量 | | |



第43图 第34号住居跡実測图

ピット 6か所。P1～P4は深さ22～46cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ30cmで南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ28cmで、性格は不明である。

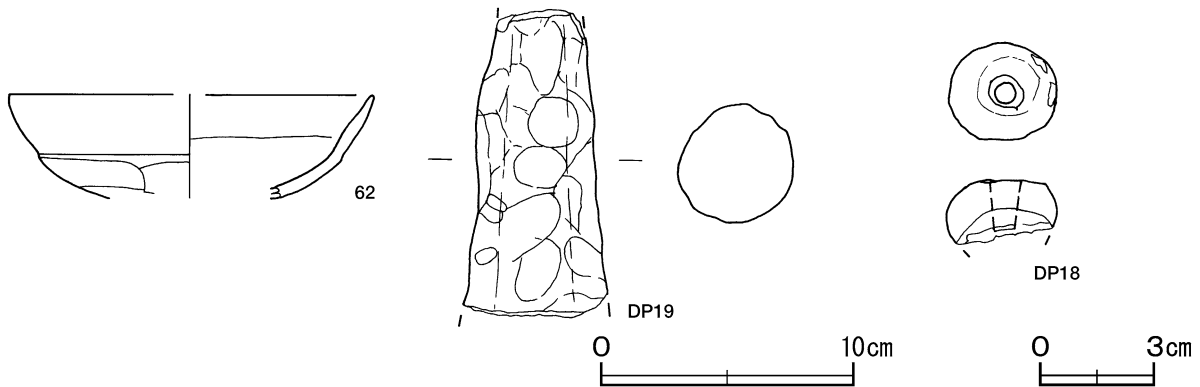
覆土 11層に分層できる。砂質粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量, 炭化物少量 | 7 暗褐色 | 砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 5 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 11 黒褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片155(坏9, 鉢4, 甕142), 土製品2点(球状土錘, 支脚)が竈付近の覆土中から出土している。その他, 流れ込んだ石器1点, 混入した須恵器片8点も出土している。62, DP18・DP19は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第44図 第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表(第44図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
62	土師器	坏	[14.4]	(4.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面へう削り後, ナデ 内面ナデ 外面指頭圧痕	覆土中	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP18	球状土錘	2.9	(1.7)	0.9	(10.6)	長石・石英・雲母	丁寧なナデ 一方向からの穿孔 指頭圧痕 欠け	覆土中	

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP19	支脚	(12.0)	5.6	3.3	(334.0)	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 一部欠け	覆土中	

第37号住居跡(第45・46図)

位置 調査区南東部のL15f0区, 標高11.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第4号地下式坑に掘り込まれている。

規模と形状 西壁が削平されているため, 南北軸は5.00mで, 東西軸は4.65mが確認できただけである。主軸方向がN-3°-Wの方形または長方形と推測される。壁高は8～16cmで, 外傾して立ち上がっている。

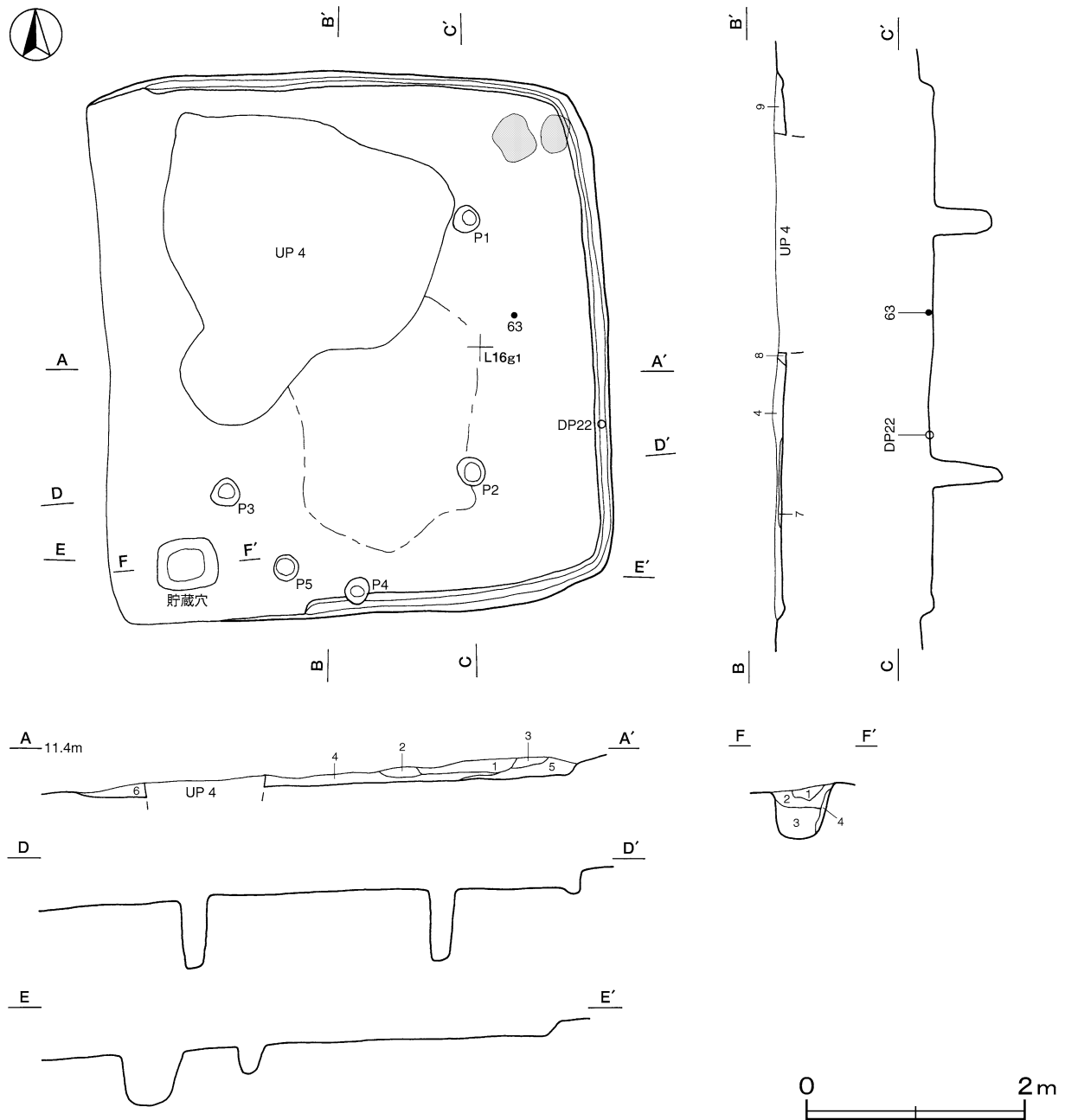
床 ほぼ平坦で、中央部から南部にかけて踏み固められている。北東コーナー部際の床面で、焼土が確認されている。

ピット 5か所。P1～P3は深さ50～65cmで、規模と位置から支柱穴である。P4は深さ24cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。P5は深さ24cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 南西コーナー部に位置している。長軸56cm、短軸47cmの長方形で、深さは50cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土はロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 明黄褐色 | 炭化物中量, ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |



第45図 第37号住居跡実測図

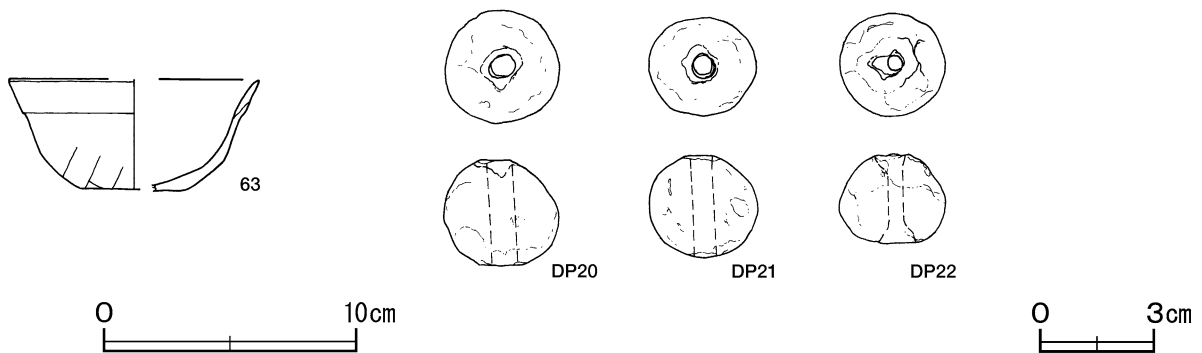
覆土 9層に分層できる。ロームブロック・粘土ブロック等を含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|-----------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 炭化物少量, 焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片65点(椀1, 埴3, 甕61), 土製品3点(球状土錘)が出土している。その他, 混入した須恵器片2点が出土している。63は東壁付近の覆土下層, DP22は床面からそれぞれ出土している。

所見 焼土が北東コーナー部際の床面で確認されていることから焼失住居と見られる。時期は, 出土土器から4世紀と考えられる。



第46図 第37号住居跡出土遺物実測図

第37号住居跡出土遺物観察表(第46図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
63	土師器	椀	[9.8]	4.3	[3.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面八ヶ目調整後, ナデ	覆土下層	50%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP20	球状土錘	3.0	2.7	0.7	21.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中	PL45
DP21	球状土錘	2.8	3.1	0.7	17.8	長石・石英・赤色粒子	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中	PL45
DP22	球状土錘	2.8	2.3	0.5	16.1	長石・石英・赤色粒子	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	床面	PL45

第38号住居跡(第47・48図)

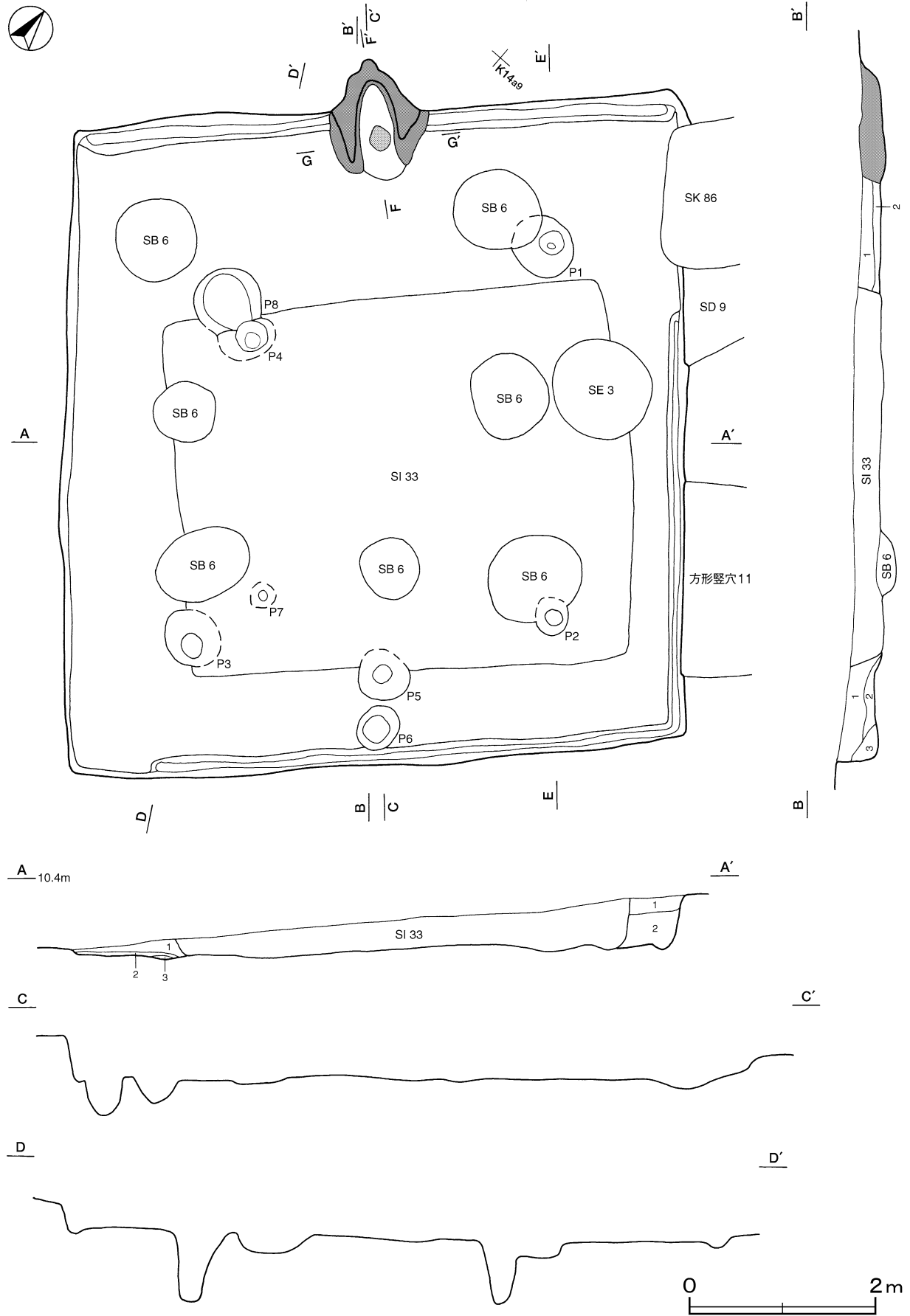
位置 調査区中央部のK14a9区, 標高10.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 中央部を第33号住居と第6号掘立柱建物, 北東壁を第11号方形竪穴遺構, 第86号土坑と第3号井戸および第9号溝に掘り込まれている。

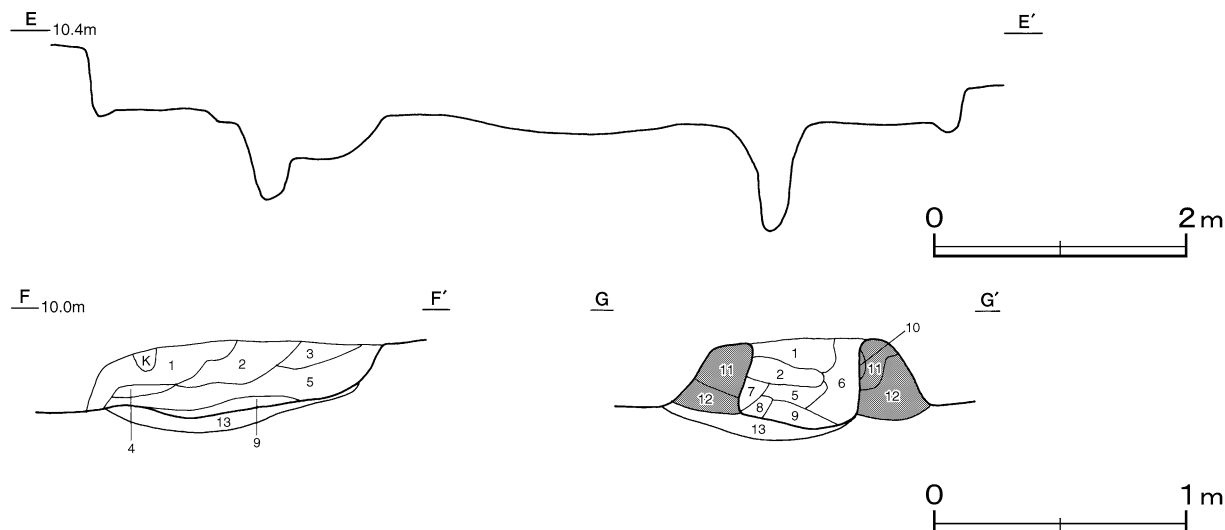
規模と形状 長軸7.12m, 短軸6.70mの方形で, 主軸方向はN-42°-Wである。壁高は10~47cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。壁溝が南西壁を除いて確認されている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで108cmで, 燃焼部幅は48cmである。袖部は床面12cmほど掘り込んで, 暗赤褐色土を埋めた上に暗褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面を浅く掘りくぼめ, 火床面はわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外に52cm掘り込まれ, 火床面から緩やかに立ち上がっている。第10~12層が袖部の構築土, 第13層が掘方への埋土である。



第47图 第38号住居跡実測图(1)



第48図 第38号住居跡実測図(2)

覆土層解説

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 2 にぶい黄褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 3 灰黄褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 10 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 4 赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子中量 |
| 5 暗褐色 焼土ブロック多量, 炭化物中量, ローム粒子微量 | 12 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 6 にぶい黄褐色 焼土ブロック多量, 炭化物微量 | 13 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 7 暗褐色 焼土ブロック多量, 炭化物中量 | |

ピット 8か所。P1～P4は深さ63～83cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ28cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。P6～P8は深さ18～43cmで、性格は不明である。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 3 暗褐色 粘土粒子中量, ロームブロック・砂粒少量 |
| 2 黒褐色 粘土粒子中量, ロームブロック・炭化物・砂粒少量 | |

遺物出土状況 土師器片111点(坏19, 高坏1, 甕91)が覆土中から出土しているが、細片のため図示できない。その他、混入した須恵器片64点, 灰釉陶器片1点, 鉄滓1点も出土している。

所見 時期は、重複関係から7世紀後葉と考えられる。

第42号住居跡(第49図)

位置 調査区南東部のL16f4区, 標高13.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第29号住居跡を掘り込み, 北コーナー部付近の北西壁から南東壁の中央部にかけて第10号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西半部が削平されているため北西・南東軸は5.37mで, 北東・南西軸は2.35mが確認できただけである。遺存する壁から主軸方向がN-49°-Wの方形または長方形と推測される。壁高は54cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦である。壁溝が北東壁から南東壁まで確認されている。

ピット 4か所。P1～P4は深さ17～21cmで、性格は不明である。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

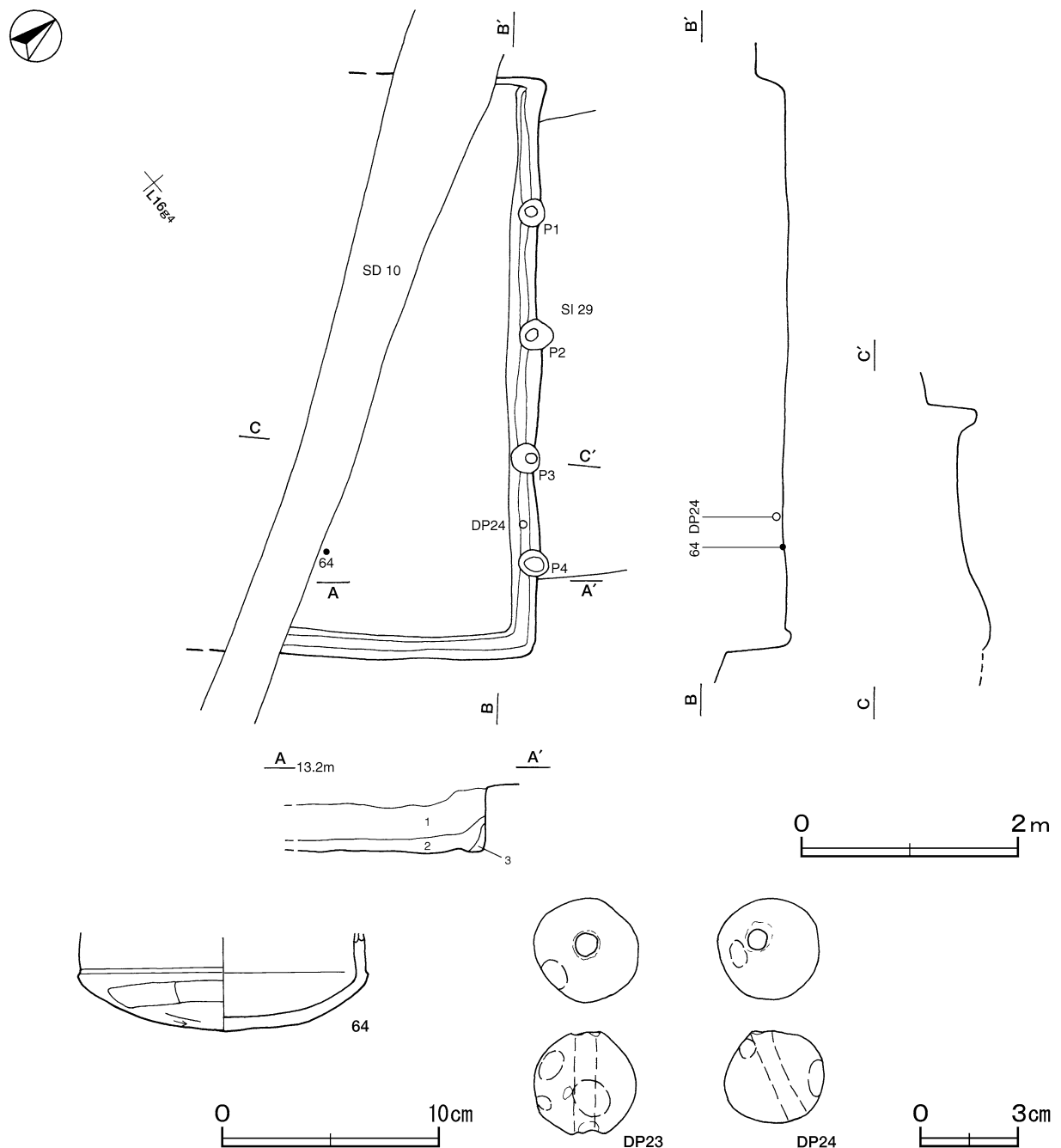
土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化物・粘土粒子少量，ローム粒子微量
- 3 極暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片23点（坏1，甕22），須恵器片2点（坏），土製品2点（球状土錘）が出土している。

その他，混入した須恵器片3点も出土している。64は南東壁付近の床面，DP24は東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第49図 第42号住居跡・出土遺物実測図

第42号住居跡出土遺物観察表 (第49図)

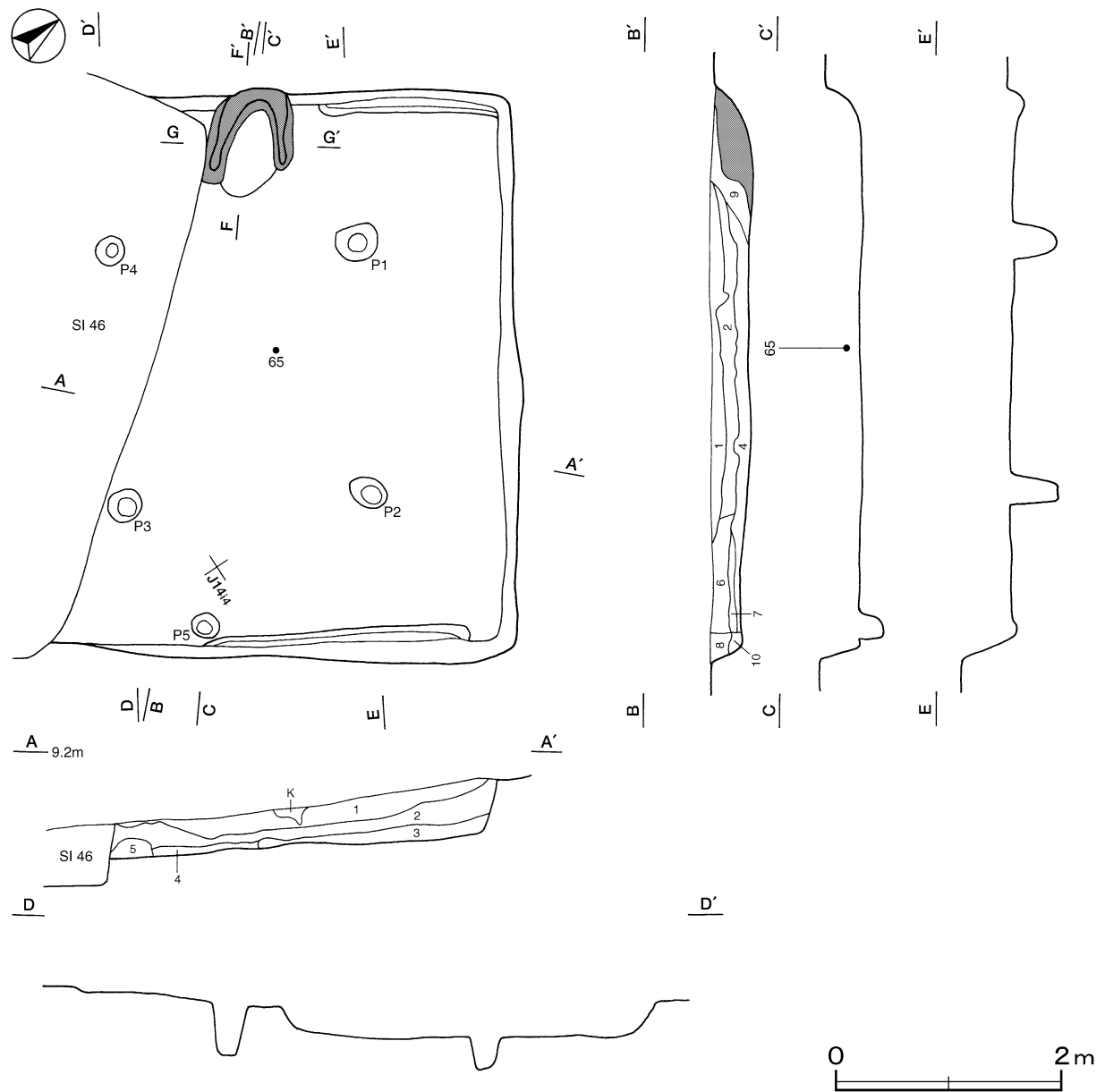
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
64	土師器	坏	-	(4.5)	-	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後,ヘラナデ 内面ナデ 二次焼成	床面	60%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP23	球状土錘	3.2	3.2	0.7	25.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中	PL45
DP24	球状土錘	3.2	2.8	0.6	23.4	長石・石英・赤色粒子	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土下層	PL45

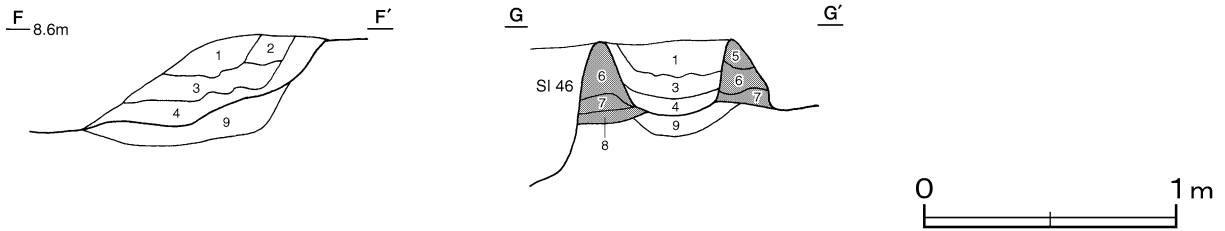
第43号住居跡 (第50~52図)

位置 調査区中央部のJ 14h3区, 標高8.5mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 南西部を第46号住居に掘り込まれている。



第50図 第43号住居跡実測図(1)



第51図 第43号住居跡実測図(2)

規模と形状 北西・南東軸は5.06mで、北東・南西軸は3.80mが確認できただけである。主軸方向がN - 57° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は8 ~ 44cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。壁溝が北西壁と南東壁で確認されている。

竈 北西壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで86cmで、燃烧部幅は40cmである。袖部の一部および燃烧部は地山を20cmほど掘り込んで、褐色土を埋めた上に黄褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面を浅く掘りくぼめられている。煙道部は壁外へわずかに掘り込まれ、緩やかに立ち上がっている。第5 ~ 8層が袖部の構築土、第9層が掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|----------|------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 炭化粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, 砂粒中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量, 炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック多量, ローム粒子少量 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量 | | |

ピット 5か所。P1 ~ P4は深さ30 ~ 46cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ42cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

覆土 10層に分層できる。ブロック状の不自然な堆積状況から埋め戻されている。

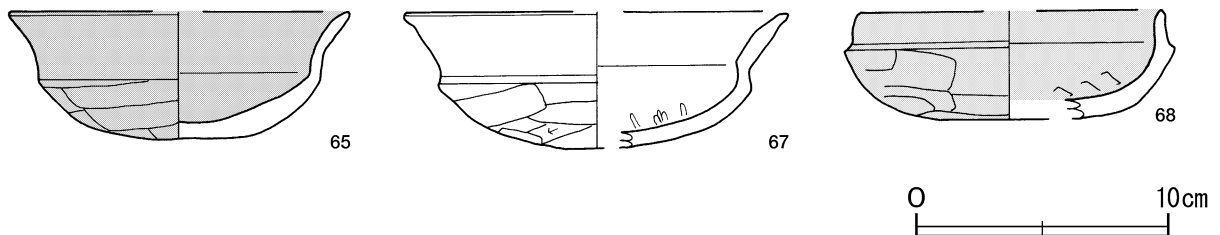
土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物少量, ロームブロック微量 | 6 黒褐色 | 砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片613点(坏158, 甗452, 甑3), 土製品2点(球状土錘)が覆土中から出土している。

その他, 混入した須恵器片44点も出土している。65は中央部の覆土下層から出土している。

所見 煙道部が壁外への掘り込みをわずかにもつ竈の形状であることが特徴の住居である。時期は, 出土土器から6世紀前葉と考えられる。



第52図 第43号住居跡出土遺物実測図

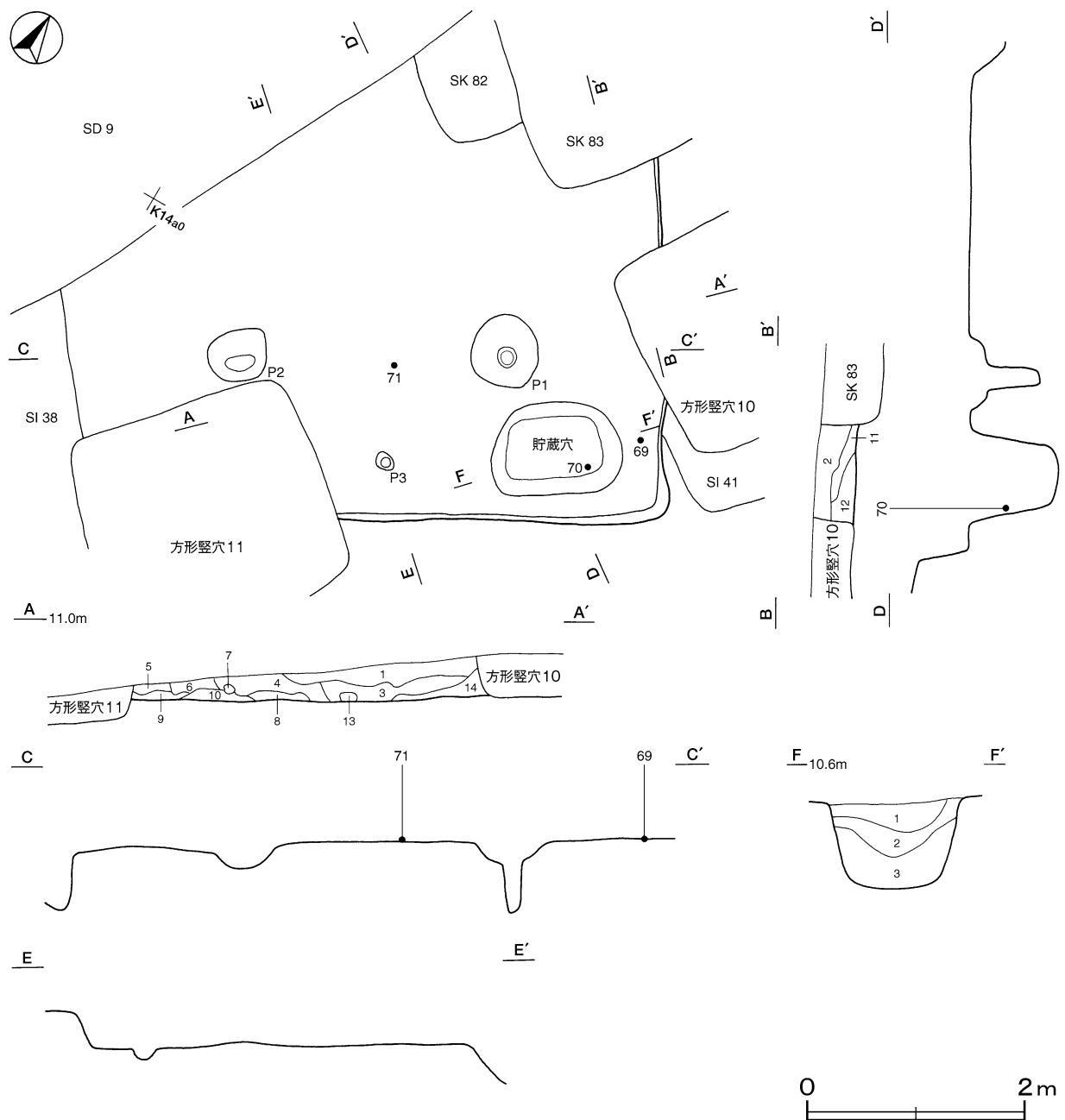
第43号住居跡出土遺物観察表 (第52図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
65	土師器	坏	[13.3]	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面へラ削り後, へラナデ 内面剥離	覆土下層	50%
67	土師器	坏	[15.0](5.3)	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り後, へラナデ 内面へラ磨き	覆土中	30%
68	土師器	坏	[12.0](4.3)	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面へラ削り	覆土中	20%

第44号住居跡 (第53・54図)

位置 調査区中央部のJ14j0区, 標高11.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 南コーナー部を第38号住居と第11号方形竪穴遺構, 北東壁を第41号住居と第10号方形竪穴遺構, 北部を第82・83号土坑, 北西部を第9号溝に掘り込まれている。



第53図 第44号住居跡実測図

規模と形状 北東・南西軸は5.40mで、北西・南東軸は4.18mが確認されただけである。遺存する壁と主柱穴から主軸方向がN - 32° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は32～48cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

ピット 3か所。P1・P2は深さ65cm・18cmで、規模と位置から主柱穴である。P3は深さ15cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

貯蔵穴 東コーナー部に位置している。長軸118cm、短軸80cmの長方形で、深さは66cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ブロック状の不自然な堆積状況から埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | 炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子少量 | | |

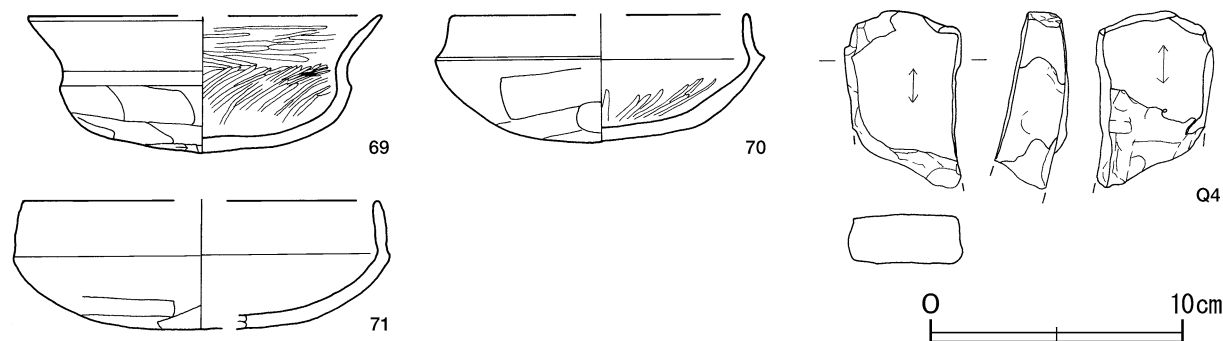
覆土 14層に分層できる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-----------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、砂質粘土ブロック微量 | 14 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片102点（坏30，甕72），石器1点（砥石）が出土している。その他、流れ込んだ縄文土器片1点，混入した須恵器片7点も出土している。70は貯蔵穴の覆土中層，71は中央部の床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀前葉と考えられる。



第54図 第44号住居跡出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表（第54図）

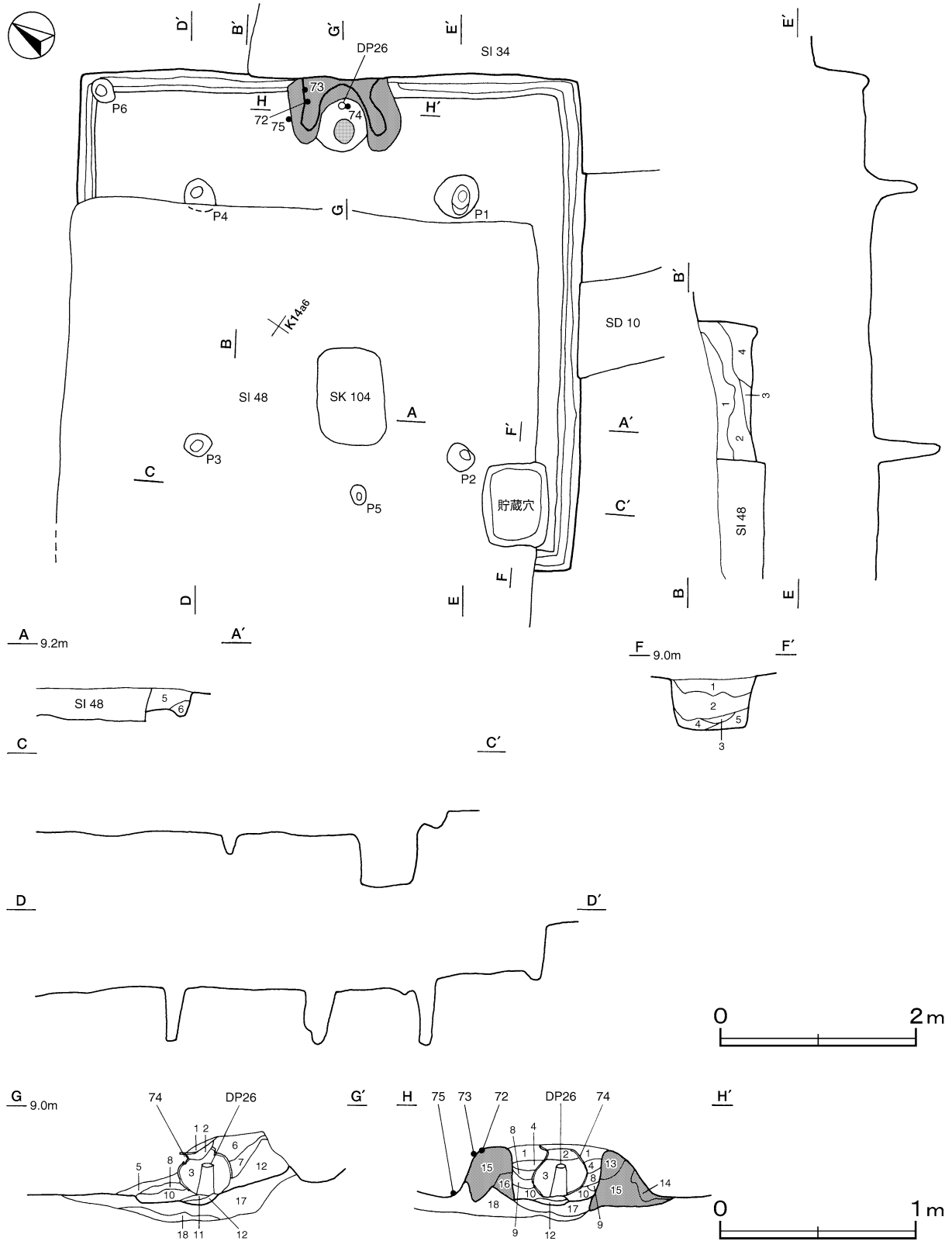
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
69	土師器	坏	[13.8]	5.5	-	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面ヘラ磨き 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	55% PL26
70	土師器	坏	[11.6]	5.1	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラナデ 内面放射状のヘラ磨き	貯蔵穴	80% PL26
71	土師器	坏	[14.0]	5.1	-	長石・石英・雲母	赤	普通	体部外面ヘラ削り後、ヘラナデ 内面器面荒れ 二次焼成	床面	25%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	砥石	(7.0)	4.7	2.8	(99.0)	凝灰岩	砥面2面 端部欠損	覆土中	

第47号住居跡 (第55～57図)

位置 調査区中央部のJ14j6区, 標高9.0mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 東コーナー部から竈上部を第34号住居, 中央部から西部を第48号住居, 中央部を第104号土坑, 南東壁を第10号溝に掘り込まれている。



第55図 第47号住居跡実測図

規模と形状 長軸5.16m，短軸5.05mの方形で，主軸方向はN - 56° - Eである。壁高は32～52cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。壁溝が北コーナー部から南コーナー部まで確認されている。

竈 北東壁中央部に付設されている。煙道部が第34号住居に掘り込まれているため，規模は焚口部から煙道部まで70cmが確認できただけで，燃烧部幅は50cmである。右袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に暗褐色土を積み上げて構築されている。左袖部および燃烧部は地山を20cmほど掘り込んで，黒褐色土を埋土した上に黄褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面を浅く掘りくぼめ，火床面は火を受けて赤変硬化している。第13～16層が袖部の構築土，第17・18層が掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土粒子中量，細礫・砂粒少量，ローム粒子微量 | 11 赤褐色 焼土ブロック多量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 12 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，砂粒少量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量 | 13 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，焼土ブロック・細礫少量 |
| 4 黒褐色 粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 14 極暗褐色 炭化物少量，ロームブロック・粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 焼土粒子少量，ローム粒子微量 | 15 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子中量，焼土ブロック・砂粒少量 |
| 6 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 16 暗赤褐色 焼土粒子中量，粘土粒子少量 |
| 7 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 17 黒褐色 ロームブロック中量，焼土粒子微量 |
| 8 暗褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子少量 | 18 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 9 にぶい黒褐色 粘土粒子中量，砂粒少量 | |
| 10 極暗褐色 焼土粒子少量，ロームブロック微量 | |

ピット 6か所。P1～P4は深さ42～65cmで，規模と位置から支柱穴である。P5は深さ20cmで，規模と位置から出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ12cmで，性格は不明である。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長軸90cm，短軸70cmの長方形で，深さは55cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 ローム粒子中量，炭化物少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | |

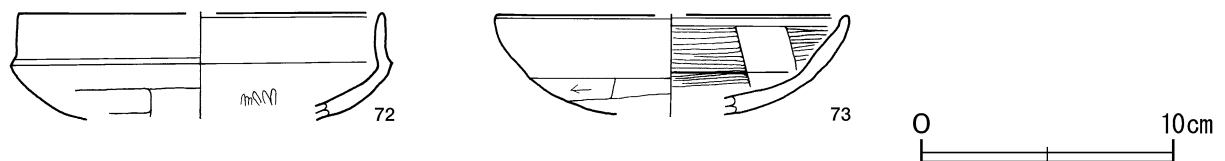
覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

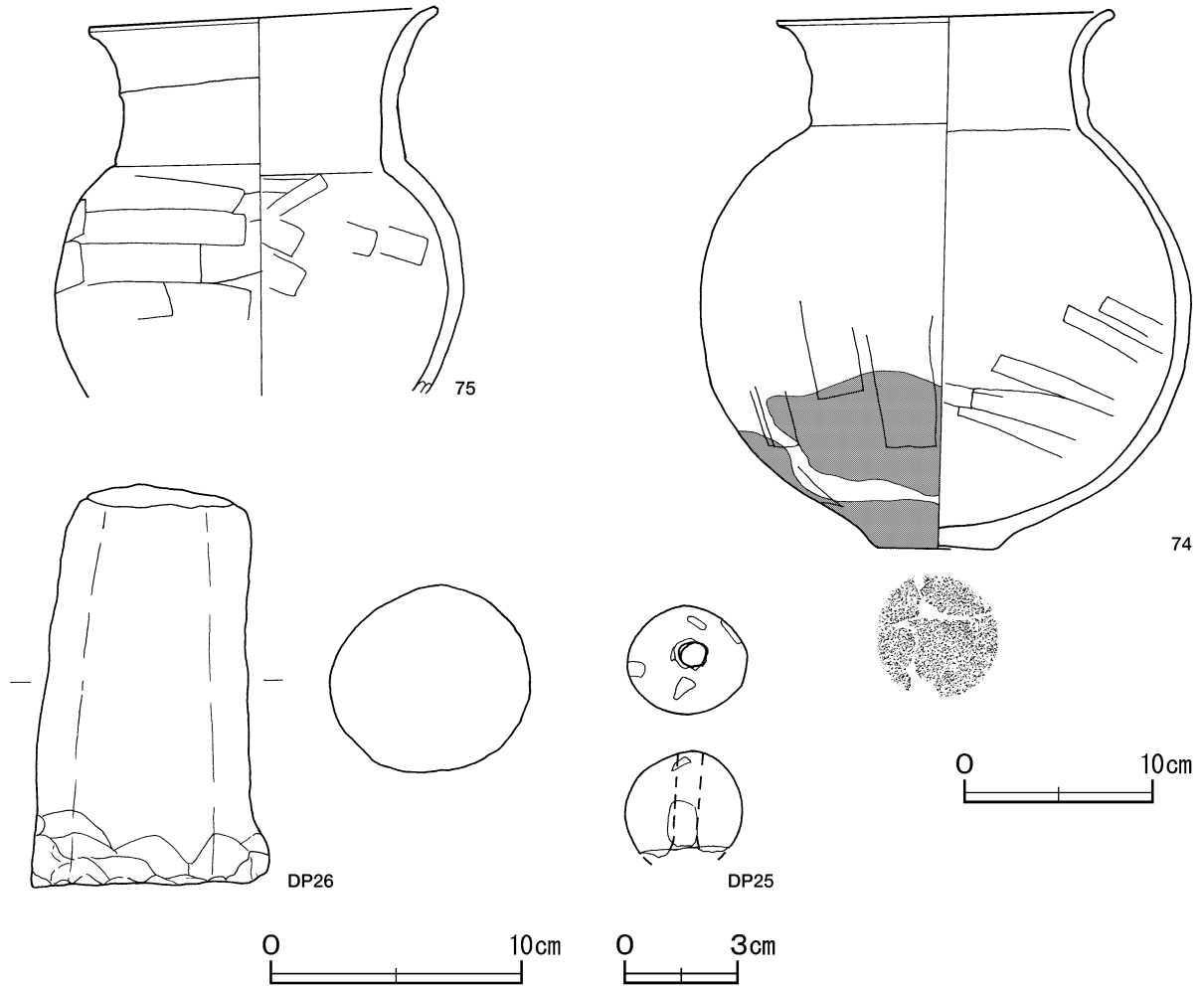
- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片161点（坏21，椀1，鉢1，広口壺1，甕137），須恵器片1点（坏），土製品2点（球状土錘，支脚）が竈付近および覆土中から出土している。その他，混入した須恵器片1点も出土している。DP25は覆土中から出土している。DP26は竈の火床面に据えられており，74はDP26の上に重なっていたものが押しつぶされた状態で出土している。75は竈左袖部付近の床面，72・73は竈左袖上部から，それぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀前葉と考えられる。



第56図 第47号住居跡出土遺物実測図(1)



第57図 第47号住居跡出土遺物実測図(2)

第47号住居跡出土遺物観察表 (第56・57図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
72	土師器	坏	[14.3]	(4.2)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り後,ヘラナデ 内面放射状のヘラ磨き 二次焼成	竈左袖	20%
73	土師器	坏	[13.7]	(4.0)	-	長石・石英・雲母	にがい黄褐色	普通	口縁部内面ヘラ磨き 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	竈左袖	20%
75	土師器	広口壺	13.8	(15.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り後,ヘラナデ 内面ヘラナデ 二次焼成	床面	60%
74	土師器	甕	17.4	28.4	6.4	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	竈火床面	90% PL39

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP25	球状土錘	3.2	(2.9)	0.7	(23.4)	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP26	支脚	16.0	9.4	6.7	(1336.0)	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 一部欠け	竈内	

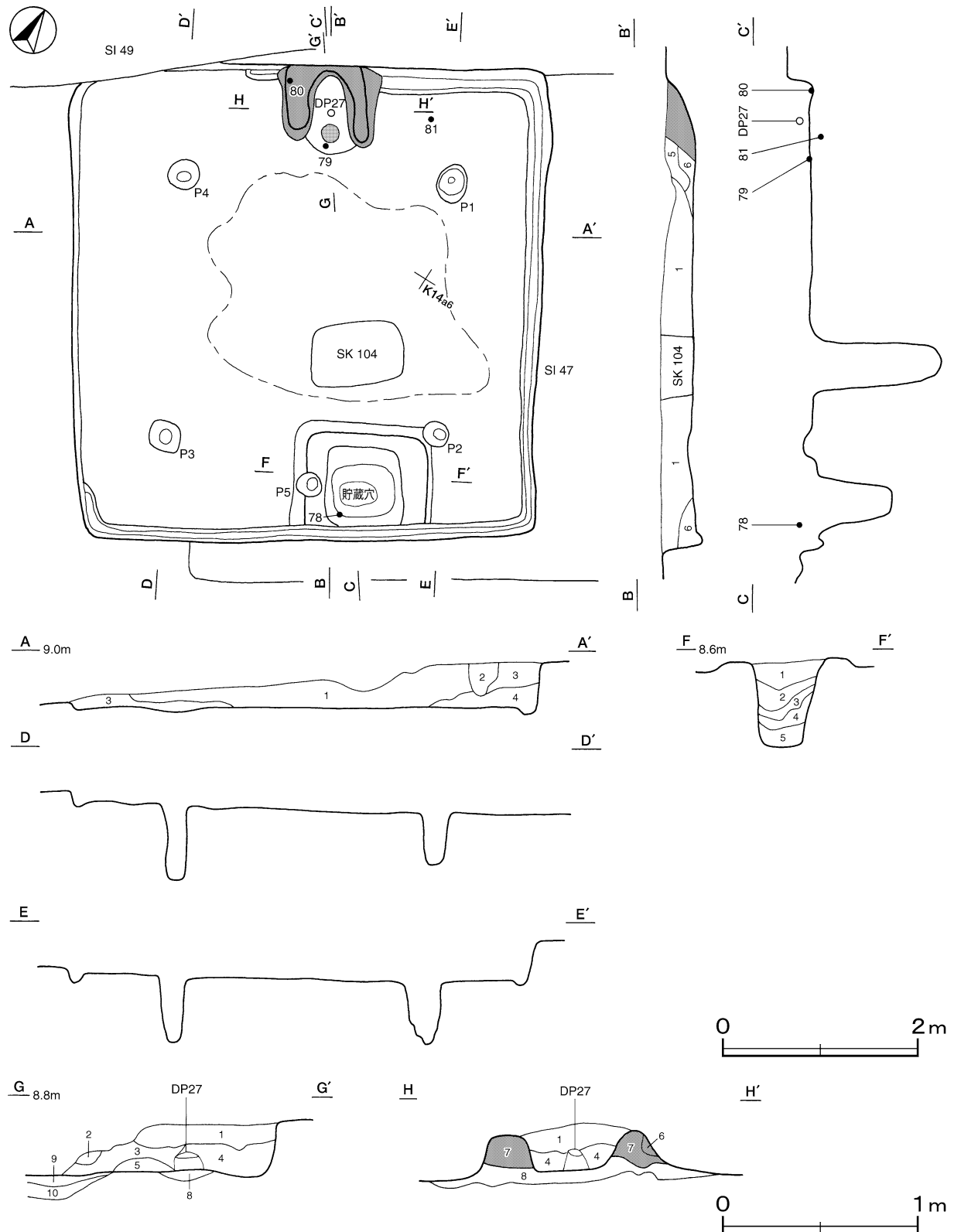
第48号住居跡 (第58~60図)

位置 調査区中央部のK14a5区,標高9.0mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第47号住居跡を掘り込み,西コーナー部を第49号住居,中央部を第104号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.82m, 短軸4.76mの方形で, 主軸方向はN - 34° - Wである。壁高は12~40cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝が北西壁から南コーナー部まで確認されている。貯蔵穴の周囲には高さ5cmの高まりが確認されている。



第58図 第48号住居跡実測図

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで85cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部および燃焼部は地山を22cmほど掘り込んで、暗褐色土を埋めた上に黄褐色土を積み上げて構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外への掘り込みがなく、火床面から外傾し壁内で立ち上がっている。第6・7層が袖部の構築土、第8～10層が掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 粘土粒子中量，細礫少量，ローム粒子微量 |
| 2 にぶい橙色 焼土ブロック少量，炭化粒子微量 | 7 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，細礫・砂粒少量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子中量，ロームブロック微量 | 8 極暗褐色 ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 焼土ブロック少量，炭化物微量 | 9 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量，焼土ブロック微量 | 10 暗褐色 ローム粒子中量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ55～78cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ18cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

貯蔵穴 南東壁際に位置している。長軸80cm，短軸75cmの方形で、深さは80cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。砂質粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 ローム粒子多量，炭化粒子中量，焼土粒子少量 | 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 灰黄褐色 砂質粘土ブロック多量，ローム粒子少量，炭化物微量 |
| 3 褐色 粘土ブロック多量，ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 | |

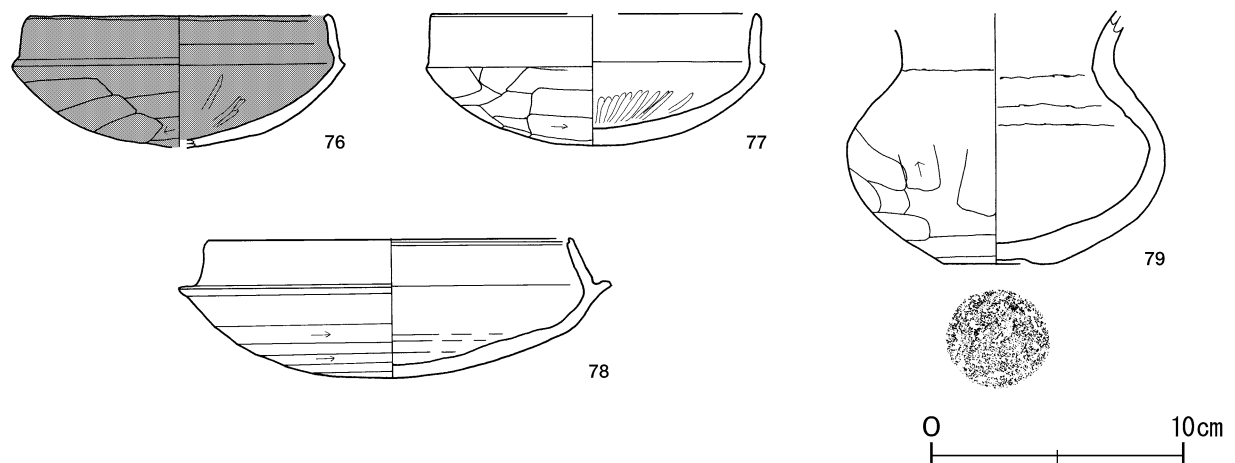
覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

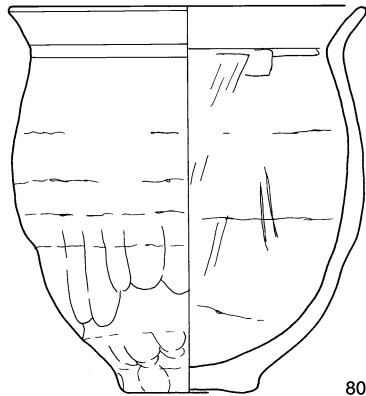
- | | |
|------------------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 4 黒褐色 炭化物中量，ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子，炭化粒子少量 | 5 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 | 6 黒褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片269点（坏40，壺1，甕227，甑1），須恵器片1点（坏身），土製品1点（支脚），石器1点（砥石）が出土している。DP27は竈の火床面に据えられた状態で出土しており，79は竈火床部，81は北西壁付近の床面，80は竈の左袖部内，78は南東壁付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

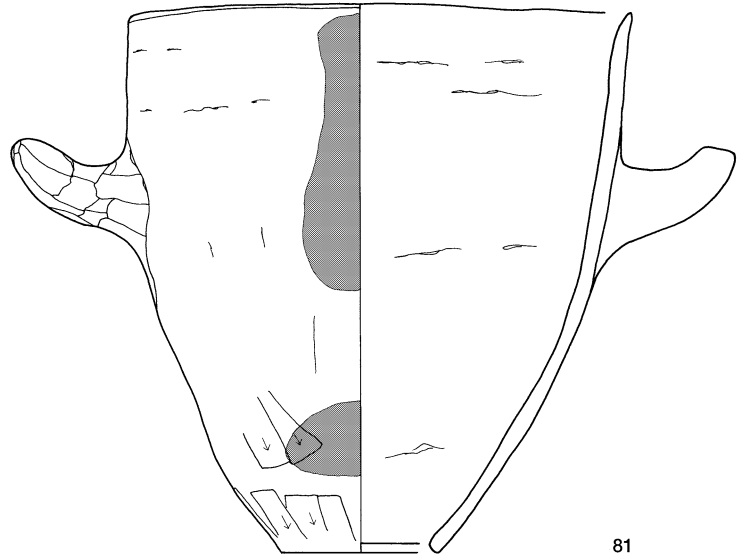
所見 煙道部が壁外への掘り込みをもたない竈の形状であることが特徴の住居である。時期は，出土土器から6世紀中葉と考えられる。



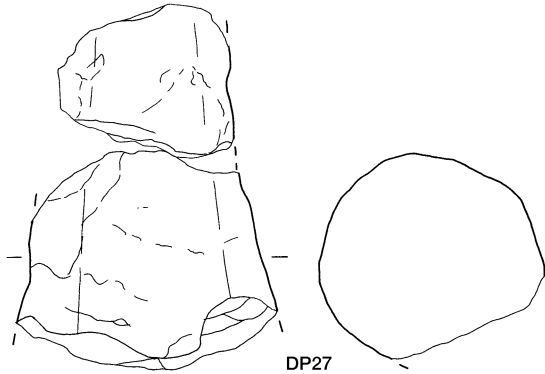
第59図 第48号住居跡出土遺物実測図(1)



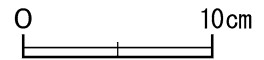
80



81



DP27



第60図 第48号住居跡出土遺物実測図(2)

第48号住居跡出土遺物観察表 (第59・60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
76	土師器	坏	11.9	5.2	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	70% PL26
77	土師器	坏	[12.8]	5.3	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部外面ヘラ削り後,ヘラナデ 内面放射状のヘラ磨き	覆土中	25%
78	須恵器	坏身	14.3	5.4	-	長石・石英	灰	良好	口縁部内面沈線有り 底部外面回転ヘラ削り	覆土下層	95% PL26
79	土師器	壺	-	(9.9)	4.0	長石・石英・雲母・赤粘土	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り後,ヘラナデ 内面ナデ 輪積痕	竈火床面	80%
80	土師器	甕	[18.4]	20.2	6.8	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラナデ 下端ヘラ当て痕 内・外面輪積痕 内面ヘラ当て痕 底部木葉痕	竈左袖	70%
81	土師器	甗	26.3	28.5	8.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラナデ 下端ヘラ削り 内・外面輪積痕 把手貼付後,ナデ	床面	90% PL41

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP27	支脚	(19.3)	13.5	-	(1905.0)	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 一部欠け	竈火床面	

第49号住居跡 (第61・62図)

位置 調査区中央部のJ14j3区,標高9.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第48・71号住居跡を掘り込み,北西部を第50号住居に掘り込まれている。

規模と形状 一辺5.09mの方形で、主軸方向はN - 40° - Wである。壁高は14~36cmで、外傾して立ち上がっている。

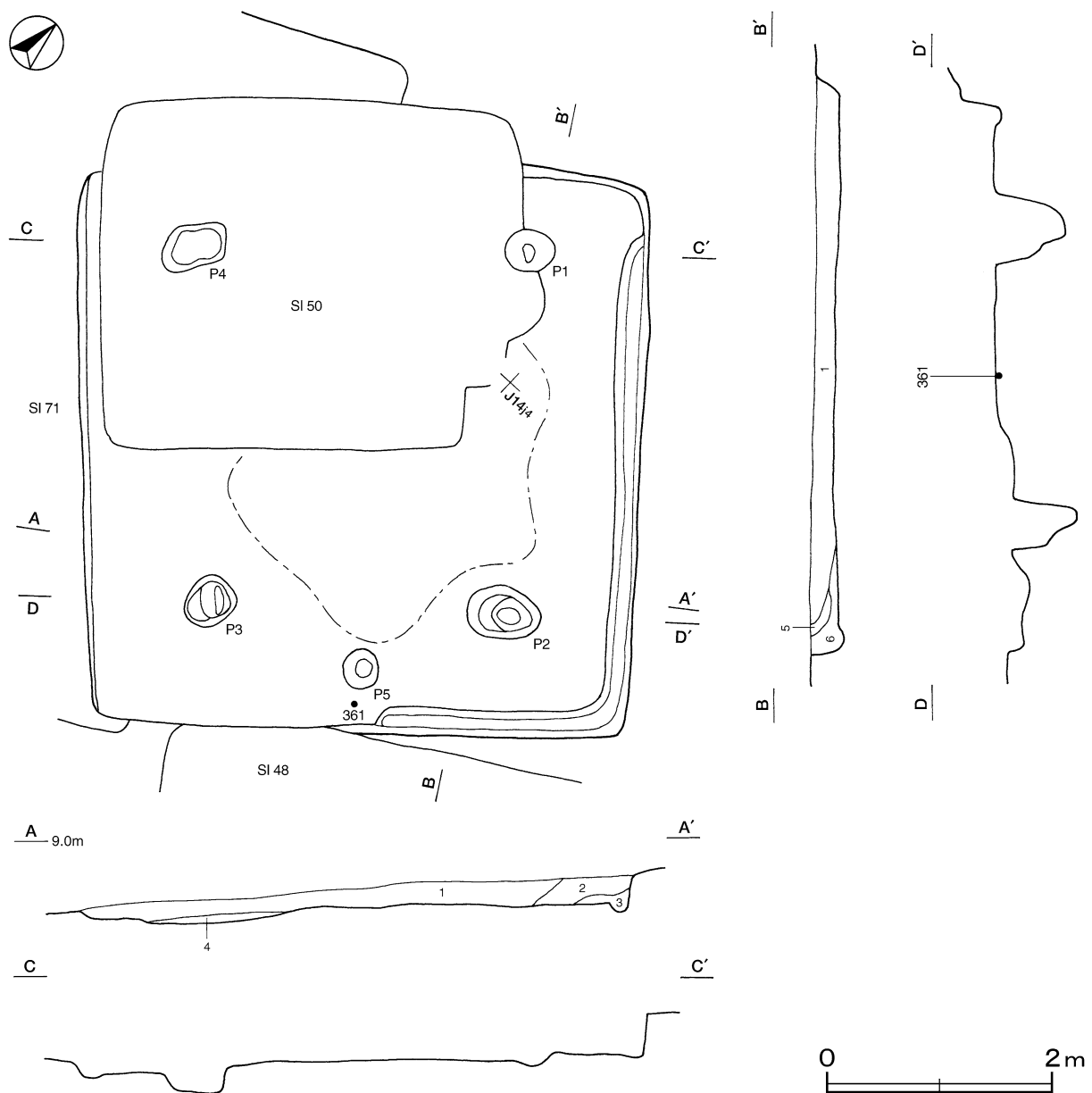
床 南西部がやや低くなっている。南部が踏み固められている。壁溝が北東壁から南東壁中央付近まで確認されている。

ピット 5か所。P1 ~ P4は深さ10~68cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ23cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

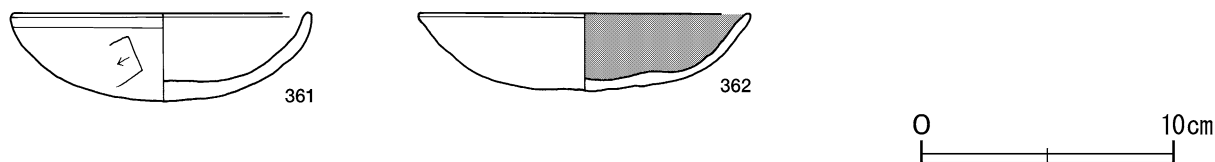
- | | | | |
|--------|-------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量 |



第61図 第49号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片138点（坏41，高台付坏2，甕95），石器1点（砥石）が出土している。361は南東壁際の床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀後葉と考えられる。



第62図 第49号住居跡出土遺物実測図

第49号住居跡出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
361	土師器	坏	11.6	3.4	-	赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	80% PL28
362	土師器	坏	[13.2]	3.0	-	長石・石英	橙	普通	体部内・外面器面荒れ	覆土中	40%

第51号住居跡（第63・64図）

位置 調査区中央部のJ14h5区，標高10.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第32号住居跡を掘り込み，北東壁を第31号住居，第101号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が削平されているため北西・南東軸は6.14mで，北東・南西軸は5.00mしか確認できなかったが，主軸方向がN-35°-Wの方形または長方形と推測される。壁高は40cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。中央部が踏み固められている。壁溝が北西壁から南東壁まで確認されている。

竈 北西壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cmで，燃烧部幅は40cmである。火床部は床面を浅く掘りくぼめ，火床面はわずかに赤変している。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 にぶい黄褐色 粘土粒子中量，ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 粘土粒子中量，ロームブロック少量 | 5 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 明赤褐色 焼土粒子多量 | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ58～68cmで，規模と位置から支柱穴である。P5は深さ24cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットである。

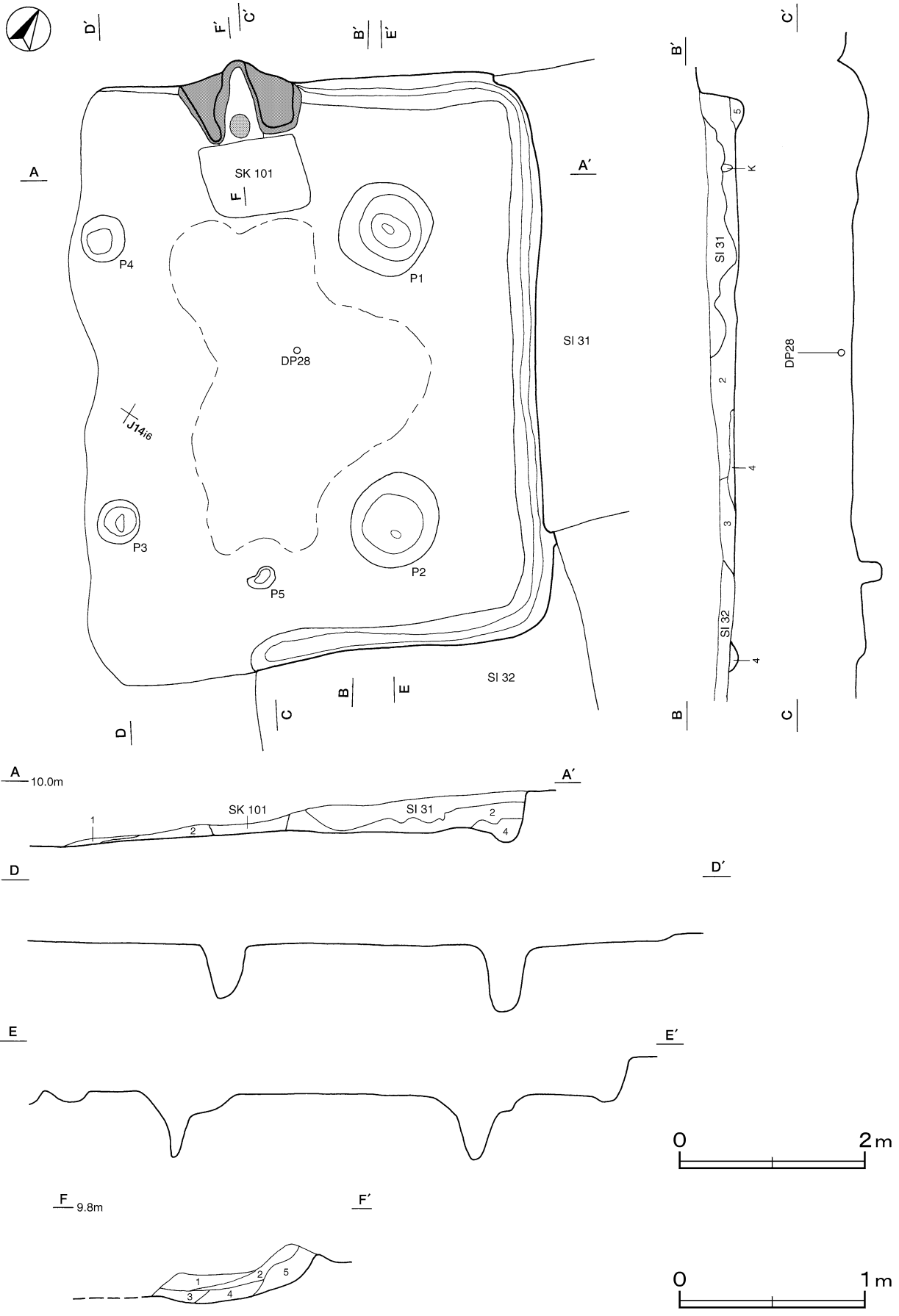
覆土 5層に分層できる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

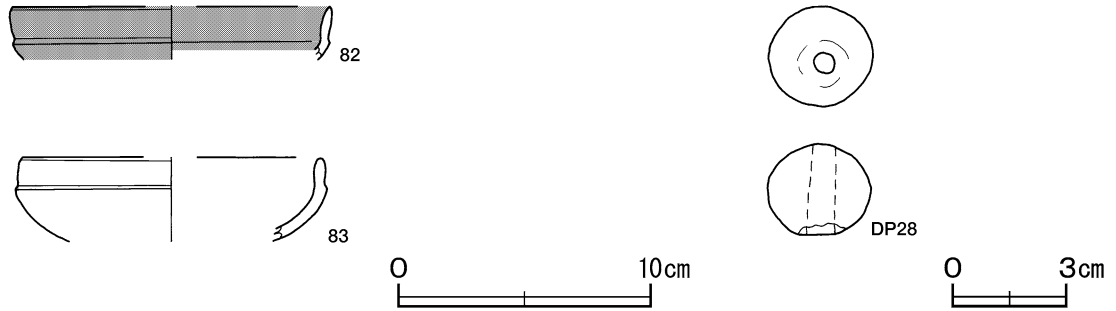
- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量 | 5 暗褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物中量 | |

遺物出土状況 土師器片123点（坏21，甕102），須恵器片12点（坏身），土製品1点（球状土錘）が出土している。82・83覆土中から出土している。DP28は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第63图 第51号住居跡実測图



第64図 第51号住居跡出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表 (第64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
82	土師器	坏	[12.6]	(2.1)	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面ナデ	覆土中	5%
83	土師器	坏	[11.8]	(3.3)	-	長石・雲母	黄灰	普通	内・外面器面摩滅	覆土中	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP28	球状土錘	2.8	2.4	0.5	15.8	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL45

第54号住居跡 (第65・66図)

位置 調査区中央部のK14b3区, 標高8.0mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第71号住居跡を掘り込み, 北壁を第72号住居, 南西コーナー部付近を第105号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.56m, 短軸5.38mの方形で, 主軸方向はN-22°-Wである。壁高は14~30cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床である。貼床は, 粘土ブロック主体の暗褐色土を埋めて構築している。壁溝が北東壁から南東壁まで確認されている。北東コーナー部および東壁付近, 南東壁際から焼土が確認されている。

竈 北壁東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cmで, 燃烧部幅は80cmである。煙道部は壁外に68cm掘り込まれ, 火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量 | 5 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量 | 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子中量 |
| 4 暗褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 8 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |

ピット 4か所。P1~P4は深さ44~64cmで, 規模と位置から支柱穴である。

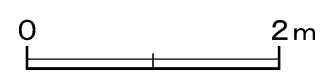
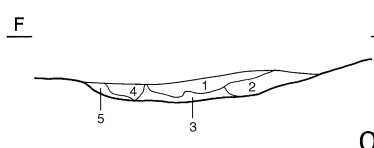
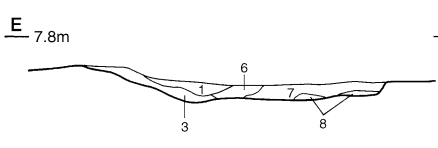
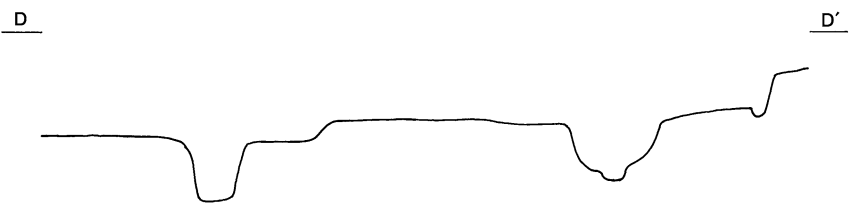
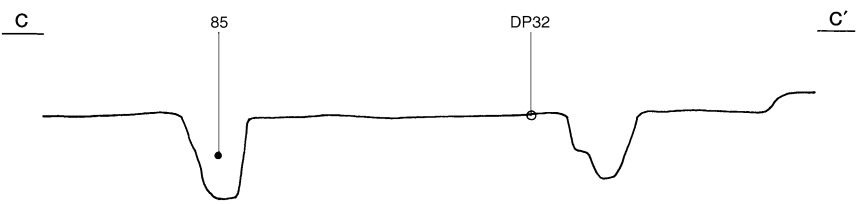
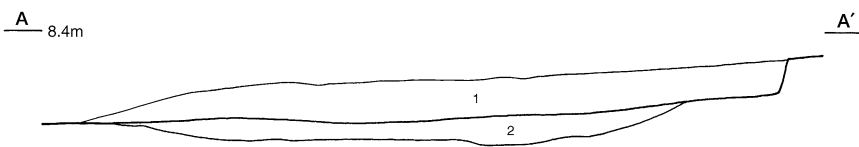
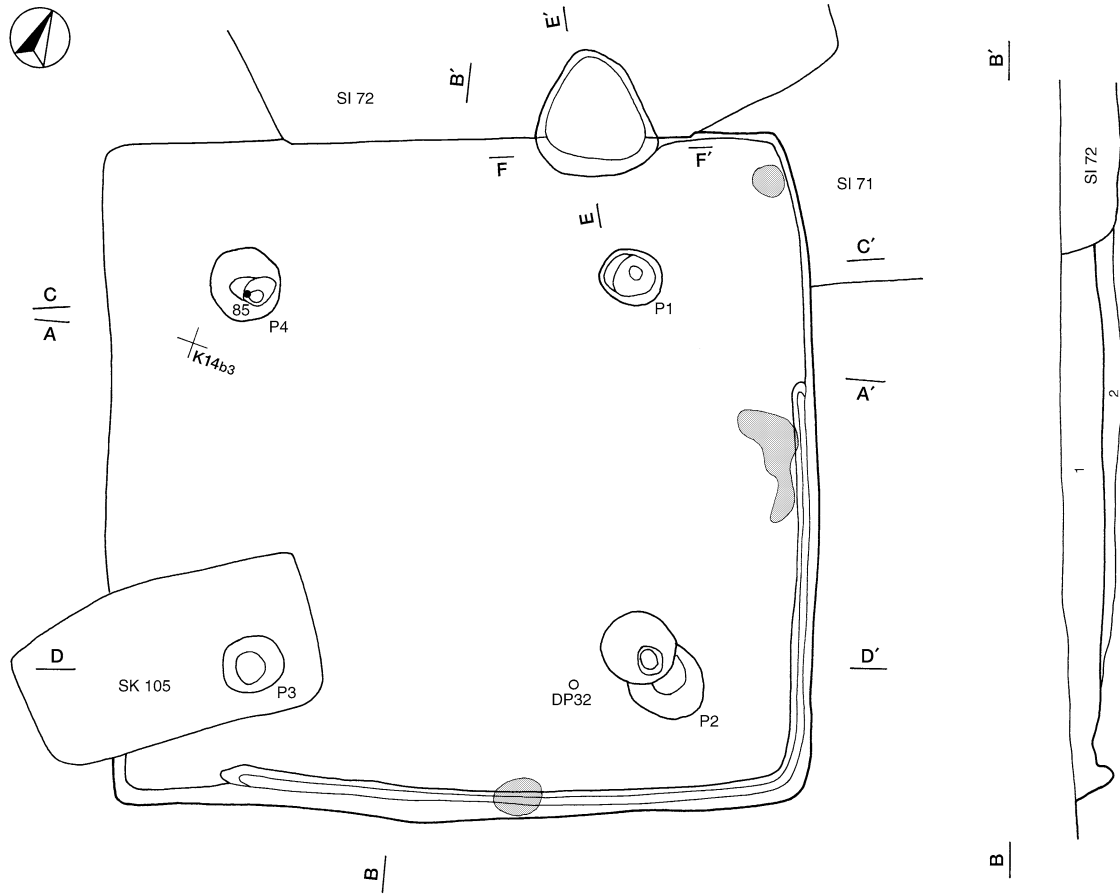
覆土 単一層である。第2層は掘方への埋土である。粘土ブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

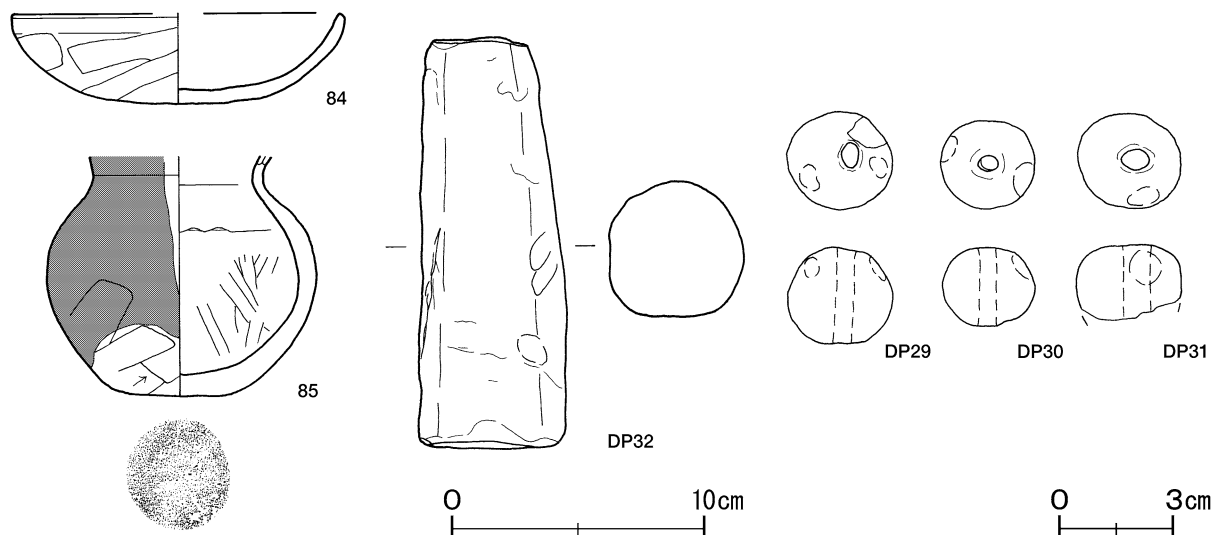
- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 2 暗褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量, 炭化物少量 |
|--------------------------|---------------------------------|

遺物出土状況 土師器片825点(坏184, 甕641)が出土している。その他, 混入した須恵器片60点も出土している。DP32は南東壁付近の床面, 85はP4の覆土中層から出土している。

所見 北東コーナー部および東壁付近, 南東壁際から焼土が確認されていることから焼失住居とみられる。時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第65图 第54号住居跡実測图



第66図 第54号住居跡出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表（第66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
84	土師器	坏	[13.0]	(3.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ 内面ナデ	覆土中	40%
85	土師器	甕	-	(9.5)	4.0	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ 内面ヘラナデ 輪積痕	P 4 覆土中層	70% PL38

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP29	球状土錘	2.8	2.5	0.7	17.7	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中	PL45
DP30	球状土錘	2.5	2.1	0.5	11.6	長石・石英・雲母	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中	PL45
DP31	球状土錘	2.7	(2.0)	0.7	(10.6)	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP32	支脚	16.4	5.8	3.8	603.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 指頭圧痕	床面	PL47

第55号住居跡（第67～69図）

位置 調査区東部のL15j0区，標高11.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

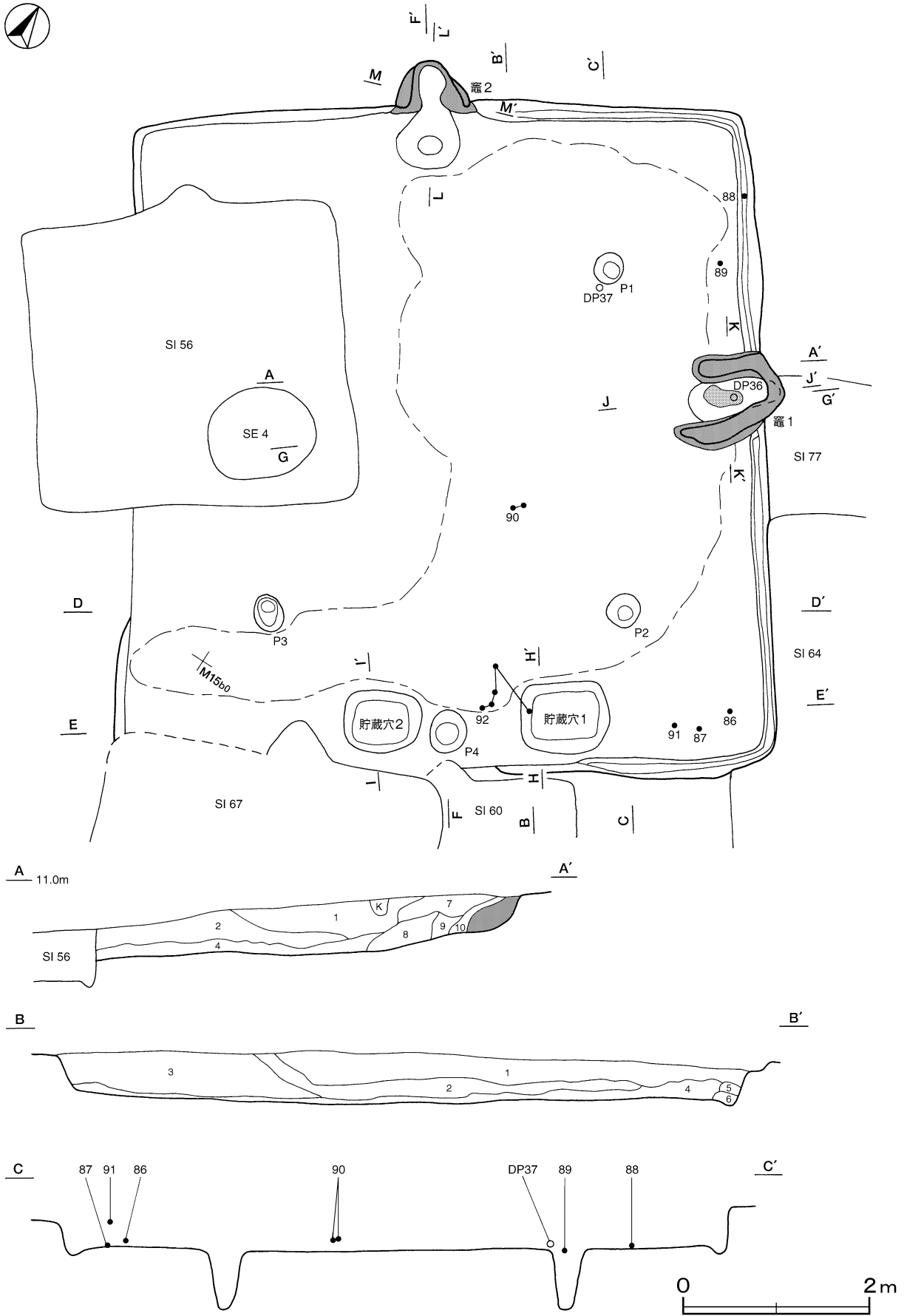
重複関係 第77号住居跡を掘り込み，西部を第56号住居と第4号井戸，南部を第60・67住居，東部を第64号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.20m，短軸7.11mの方形で，主軸方向はN-34°-Wである。壁高は26～42cmで，外傾して立ち上がっている。

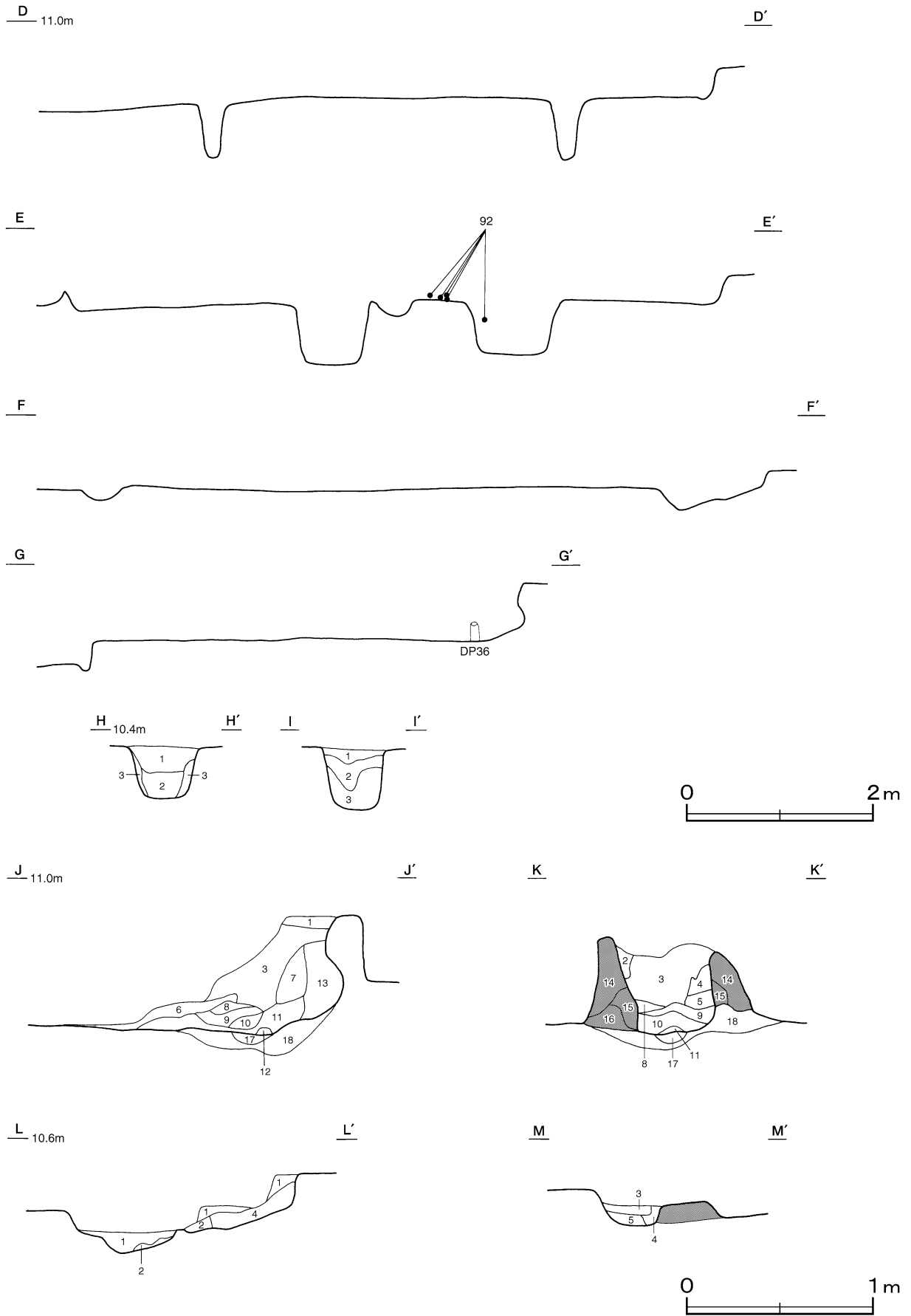
床 ほぼ平坦で，北部から南部にかけて踏み固められている。

竈 2か所。竈1は北東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cmで，燃烧部幅は40cmである。袖部および燃烧部は地山を5cmほど掘り込んで，暗褐色土を埋めた上に黄褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面を浅く掘りくぼめ，火床面は火を受け赤変硬化している。煙道部は壁外に21cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。第14～16層が袖部の構築土，第17・18層が掘方への埋土である。

竈2は北西壁中央部に付設されている。作り替えのため遺存状態が悪く，規模は焚口部から煙道部まで116cm，燃烧部幅は25cmが確認できただけである。火床面付近に浅い掘り込みが確認されている。長径72cm，短径



第67图 第55号住居跡実測图(1)



第68图 第55号住居跡実測图(2)

54cmの楕円形で、深さ13cmである。覆土から少量の焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・灰・砂粒が確認されている。規模から火床部とみられる。煙道部は壁外に42cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。袖部の遺存状態から、竈2から竈1へ作り替えられている。

竈1土層解説

1 黒褐色	粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量	11 極暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2 暗褐色	粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・細礫少量
3 にぶい黄褐色	粘土粒子中量, 砂粒少量, 炭化粒子微量	13 黒褐色	ローム粒子微量
4 黒褐色	粘土粒子中量, ローム粒子微量	14 にぶい黄褐色	細礫・砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子少量
5 にぶい黄褐色	粘土粒子中量, 焼土ブロック少量	15 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・細礫中量
6 黒褐色	焼土粒子・粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	16 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子・細礫中量
7 にぶい黄褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・砂粒少量	17 暗褐色	ロームブロック中量
8 赤褐色	焼土粒子多量	18 暗褐色	ローム粒子中量
9 黒褐色	焼土粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量		
10 灰黄褐色	灰多量		

竈2土層解説

1 にぶい黄褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	4 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量
2 にぶい黄褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	5 褐色	炭化物・焼土粒子微量
3 にぶい黄褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量		

ピット 4か所。P1～P3は深さ56～65cmで、規模と位置から支柱穴である。P4は深さ12cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1はP4の東側に位置している。長軸98cm, 短軸76cmの長方形で、深さは54cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

貯蔵穴2はP4の南側に位置している。長軸85cm, 短軸65cmの方形で、深さは64cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土はレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

貯蔵穴1土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量		

貯蔵穴2土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	3 褐色	ローム粒子多量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量		

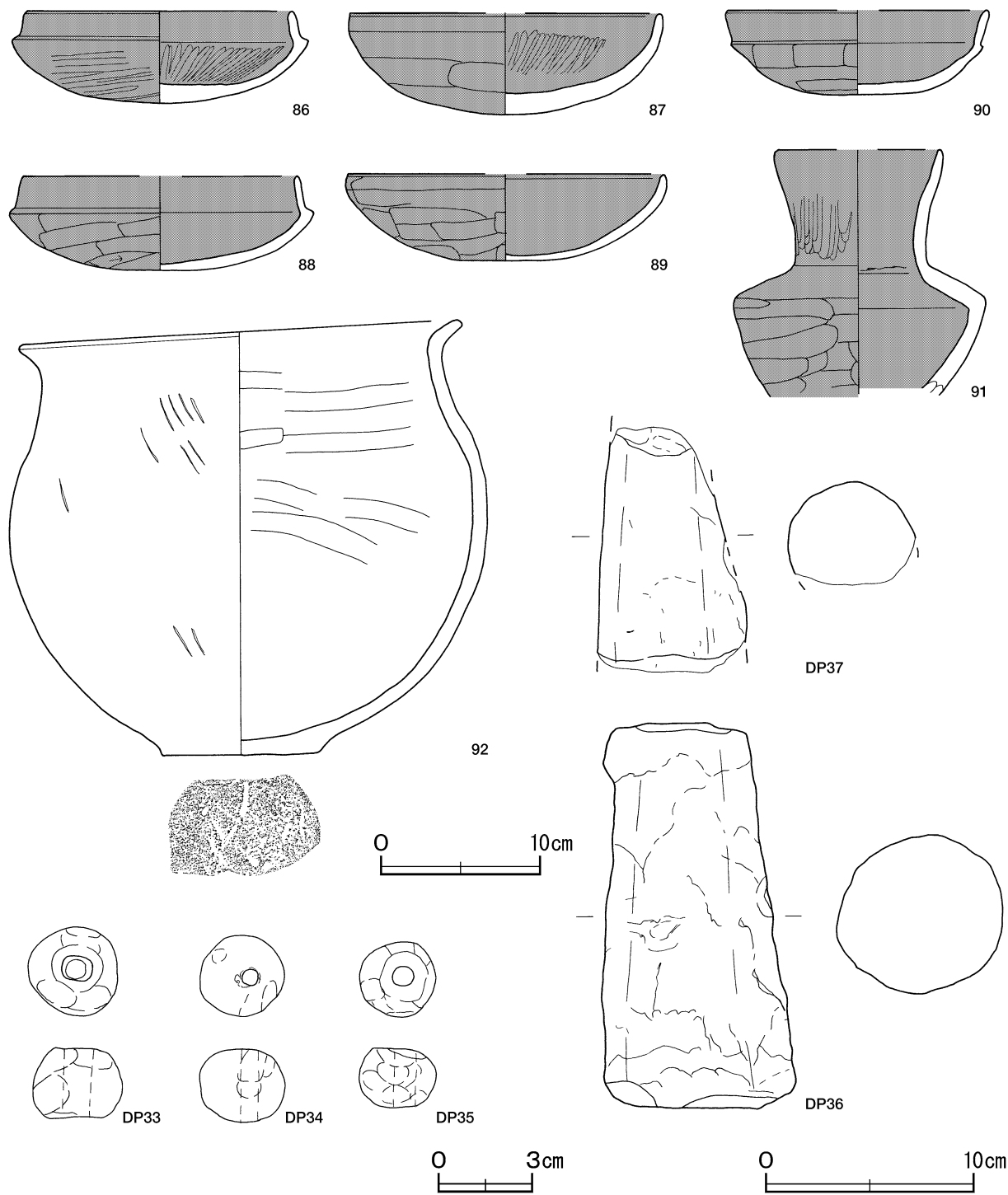
覆土 10層に分層できる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 極暗褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
3 黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	10 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子中量, 粘土ブロック・ローム粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量		
5 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量		
6 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片1,358点(坏348, 高坏7, 壺8, 直口壺1, 甕994), 須恵器片10点(坏), 土製品8点(球状土錘5, 支脚3)が中央部から東コーナー部にかけて出土している。その他, 流れ込んだ縄文土器片5点, 混入した土師器片1点, 須恵器片9点, 陶器片1点, 土製品1点も出土している。87は東コーナー部, 89は北コーナー部の床面からそれぞれ出土している。92は南東壁際の床面と貯蔵穴1の覆土中層から出土した破片が接合したものである。86は東コーナー部, 90は中央部, DP37は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。91は東コーナー部の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第69図 第55号住居跡出土遺物実測図

第55号住居跡出土遺物観察表 (第69図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
86	土師器	坏	12.7	4.4	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面放射状のヘラ磨き	覆土下層	70%
87	土師器	坏	[14.8]	4.9	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面ヘラ削り後, ヘラナデ 内面放射状のヘラ磨き	床面	45%
88	土師器	坏	[13.1]	4.5	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面ヘラ削り後, ヘラナデ 内面器面摩滅	床面	45%
89	土師器	坏	[15.2]	4.2	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部内・外面ヘラ削り後, ヘラナデ 内面器面摩滅	床面	50%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
90	土師器	坏	[12.3]	4.0	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	60%
91	土師器	直口壺	[7.9]	(11.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部外面ナデ後、ヘラ磨き 内面ナデ 体部外面ヘラ削り後、ヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土上層	60% PL37
92	土師器	甕	27.6	27.4	[10.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面工具痕有り 内面ハケ状工具によるナデ	覆土下層-床面	60%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP33	球状土錘	2.9	2.3	1.0	9.7	長石・雲母・赤色粒子	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中	PL46
DP34	球状土錘	2.6	2.4	0.5	15.8	長石・雲母・赤色粒子	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中	PL46
DP35	球状土錘	2.5	1.9	0.7	16.5	雲母	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中	PL46

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP36	支脚	18.5	9.3	6.3	(1396.0)	長石・石英	ナデ 指頭圧痕	竈内	PL47
DP37	支脚	(11.8)	[7.0]	-	(361.0)	長石・石英	ナデ	覆土下層	

第63号住居跡（第70図）

位置 調査区南東部のL16j2区，標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 西部を第64号住居，南部を第61号住居，北壁を第111号土坑と第128号土坑，中央部を第112号土坑，北西部を第12号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 南部が調査区域外に延びていることと重複関係から南北軸は4.38m，東西軸は3.91mが確認できただけである。遺存する壁と竈から主軸方向がN-18°-Wの方形または長方形と推測される。壁高は8～14cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦ある。中央部が踏み固められている。壁溝が東壁下で確認されている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで80cmで，燃烧部幅は32cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に暗褐色土を積み上げて構築されている。第11層は袖部の構築土である。火床部は床面をやや掘りくぼめ，火床面は火を受けてわずかに赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|-----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック中量，ローム粒子少量 | 10 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量 砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 深さが40cmで，規模と位置から主柱穴である。

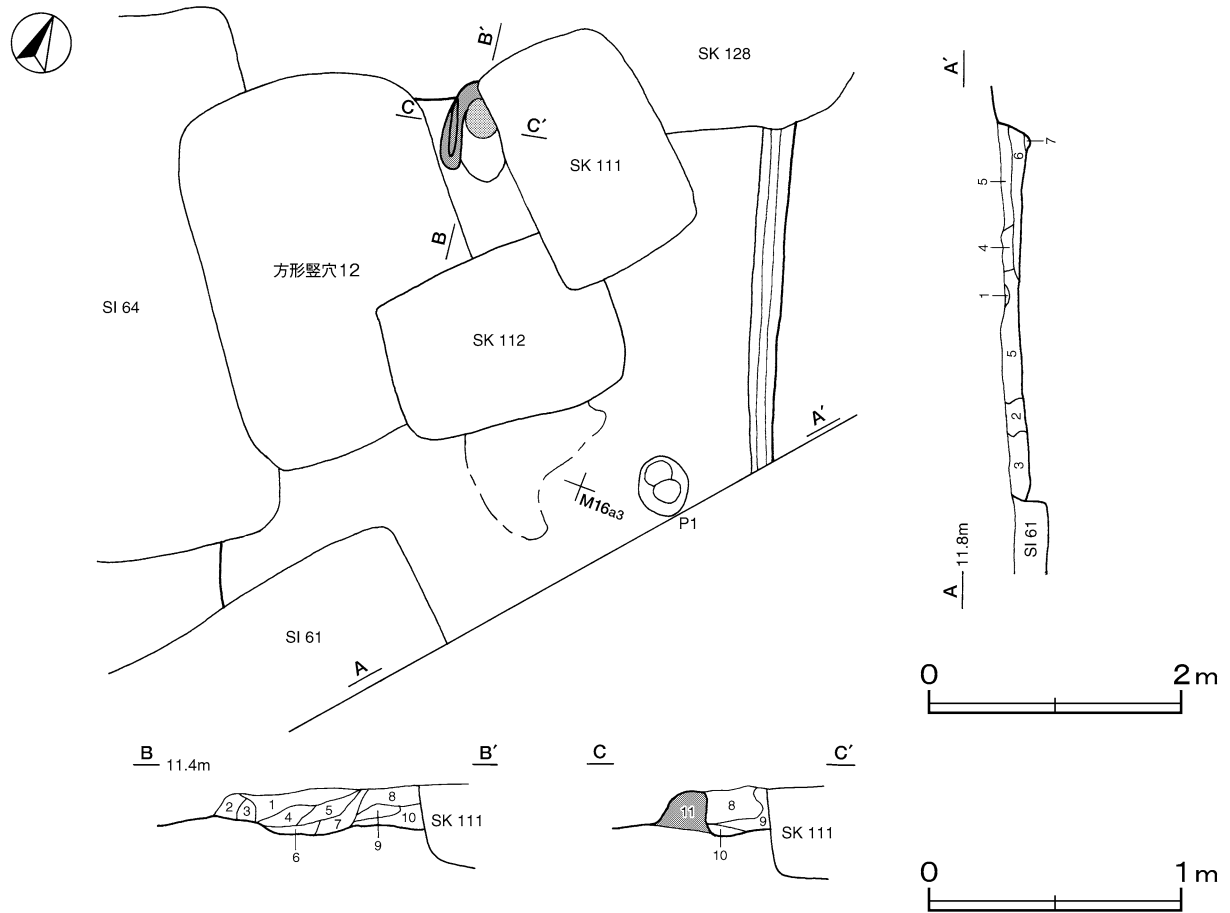
覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量 炭化粒子少量 焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片49点（坏3，甕46）が出土しているが，細片のため図示できない。その他，流れ込んだ縄文土器片1点，混入した須恵器片7点も出土している。

所見 時期は，8世紀後葉に比定されている第61号住居に掘り込まれていることや同一の方向軸に竈をもつ他の住居跡から，6世紀中葉と考えられる。



第70図 第63号住居跡実測図

第65号住居跡（第71図）

位置 調査区南東部のL15e9区、標高11.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

規模と形状 西半部は削平されているが、長軸4.46m、短軸4.05mの長方形で、主軸方向はN - 36° - Wである。壁高は8～14cmで、外傾して立ち上がっている。

床 北西側へ傾斜している。壁溝が北東壁から南コーナー部まで確認されている。

炉 東コーナー部付近に付設されている。長径40cm、短径38cmの円形で、床面を5cm掘りくぼめている。

炉土層解説

- 1 にぶい黄褐色 焼土ブロック少量，炭化粒子微量

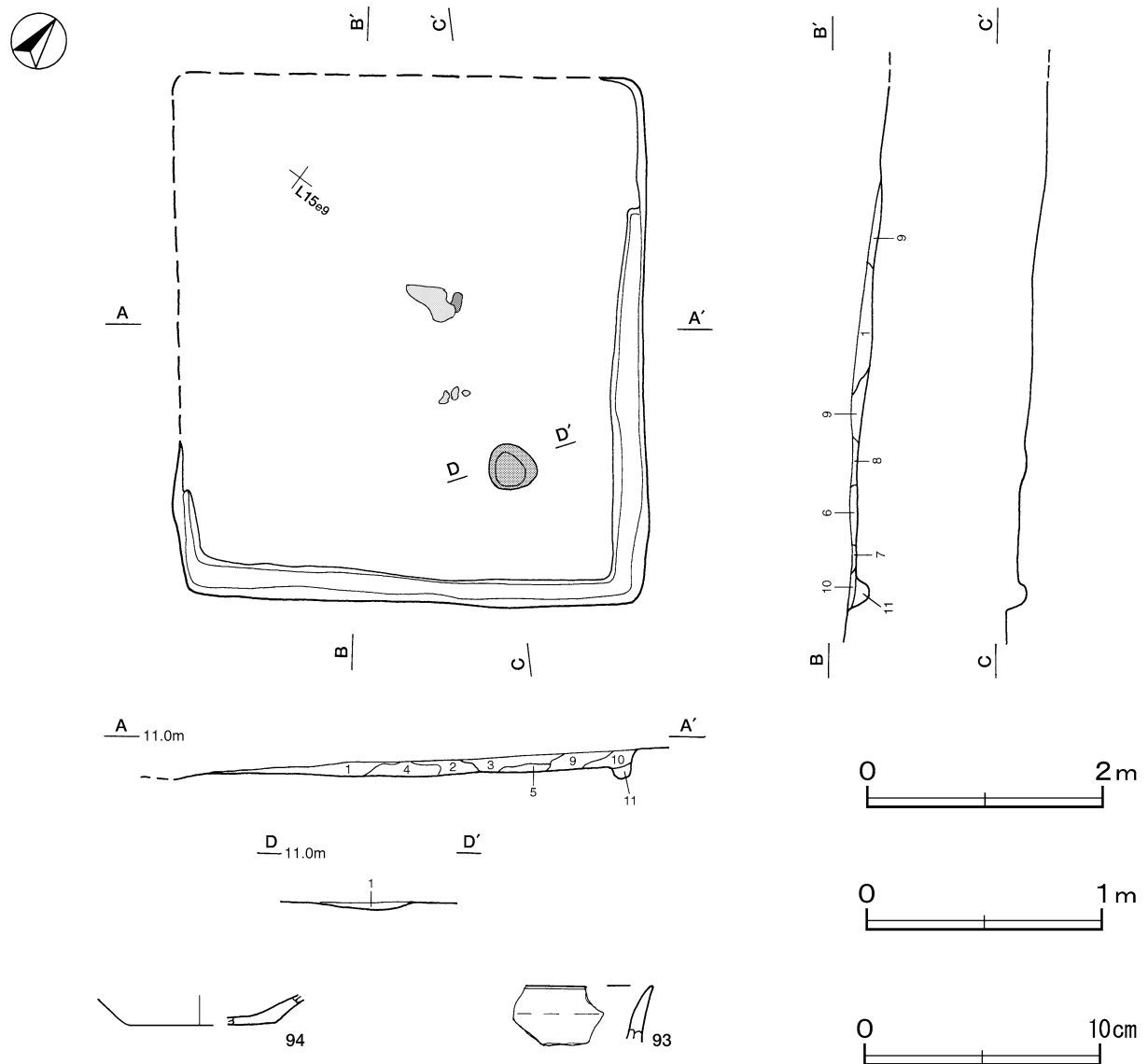
覆土 11層に分層できる。大半の層にロームブロックや炭化物を含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量 | 6 極暗褐色 炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 炭化物中量，焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量 | 7 黒褐色 粘土粒子中量，ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量，炭化物・粘土粒子少量，焼土粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子中量，粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量，粘土粒子少量 | 9 にぶい黄褐色 粘土粒子中量，炭化物少量，ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 粘土粒子少量，ローム粒子微量 | 10 極暗褐色 粘土粒子中量，炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量 |
| | 11 極暗褐色 粘土粒子中量，ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片58点（坏32，壺1，甕25）が出土している。その他，混入した須恵器片1点も出土している。93・94は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から，4世紀と考えられる。



第71図 第65号住居跡・出土遺物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
93	土師器	甕	-	(2.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面ナデ	覆土中	5%
94	土師器	甕	-	(1.3)	[6.2]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部内・外面器面摩滅	覆土中	5%

第68号住居跡（第72図）

位置 調査区南東部のL16h1区，標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 北部を第69号住居と第116号土坑，西部を第70号住居，南部を第115・117号土坑，中央部を第13号方形竪穴遺構と第118号土坑，北東壁を第121号土坑，東コーナー部を第7号地下式坑と第131号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.48m，短軸は推定4.37mで，主軸方向がN - 40° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は30cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

竈 北西壁に付設されている。袖部が第13号方形竈遺構に掘り込まれているため，規模は焚口部から煙道部まで70cmで，燃烧部幅は50cmが確認できただけである。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。第5層は，袖部の構築土である。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|------------------------|---|----|------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化物少量 | 4 | 褐色 | 焼土ブロック少量，炭化物微量 |
| 2 | 黄褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 | 褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物微量 |
| 3 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量 | | | |

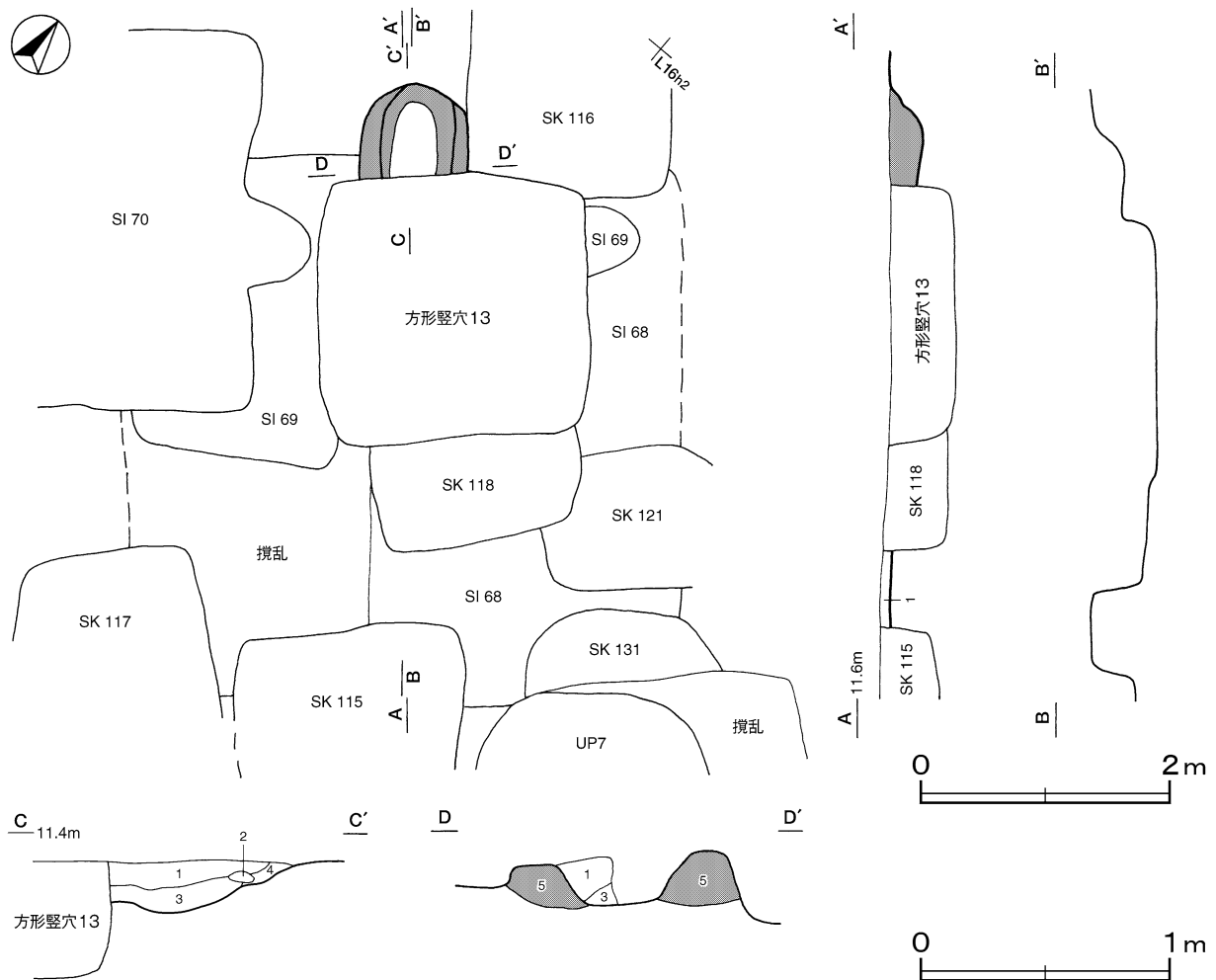
覆土 単一層である。層厚が薄いため，堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | |
|---|-----|-----------------------|
| 1 | 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量 |
|---|-----|-----------------------|

遺物出土状況 土師器片2点（坏，甕）が出土しているが，細片のため図示できない。

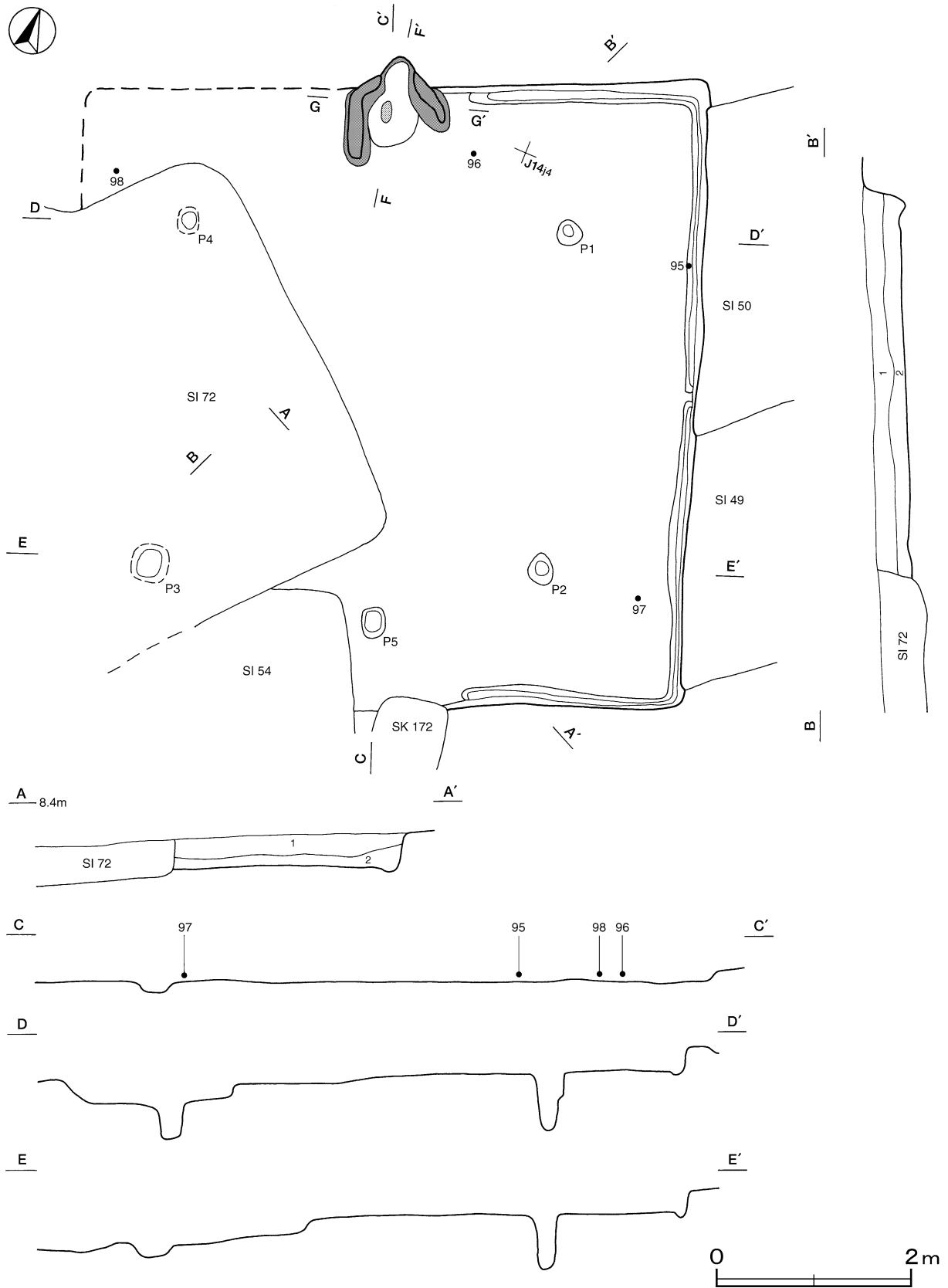
所見 出土土器が少ないため，明確な時期判定は困難であるが，竈が設けられていることと重複関係から古墳時代後期で7世紀後葉と考えられる。



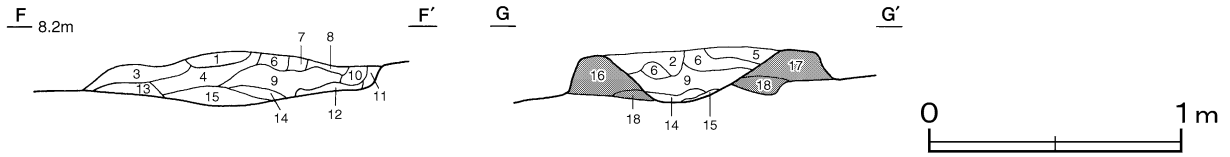
第72図 第68号住居跡実測図

第71号住居跡 (第73~75図)

位置 調査区中央部のJ14j3区, 標高8.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。



第73図 第71号住居跡実測図(1)



第74図 第71号住居跡実測図(2)

重複関係 東壁を第49・50号住居，南東部を第54号住居と第172号土坑，西部を第72号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.42m，短軸は推定6.40mで，壁と竈から主軸方向がN - 20° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は32~38cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。壁溝が北壁から南壁まで確認されている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm，燃烧部幅60cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に褐色土を積み上げて構築されている。第16~18層が袖部の構築土である。火床部は床面を浅く掘りくぼめ，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|------------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量 | 11 にぶい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，粘土ブロック微量 | 12 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 13 にぶい黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 焼土粒子少量，粘土ブロック・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 焼土粒子中量，炭化粒子少量，粘土ブロック微量 |
| 5 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 暗褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子少量 |
| 6 黄褐色 焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 16 暗褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子少量，粘土ブロック微量 |
| 7 にぶい赤褐色 焼土粒子中量，炭化粒子微量 | 17 赤褐色 焼土粒子多量 |
| 8 黒褐色 焼土粒子中量，炭化粒子少量 | 18 にぶい黄褐色 粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 9 暗褐色 焼土ブロック多量，粘土ブロック中量，炭化粒子少量 | |
| 10 黒褐色 焼土ブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子少量 | |

ピット 5か所。P1~P4は深さ50~60cmで，規模と位置から主柱穴である。P5は深さ13cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。

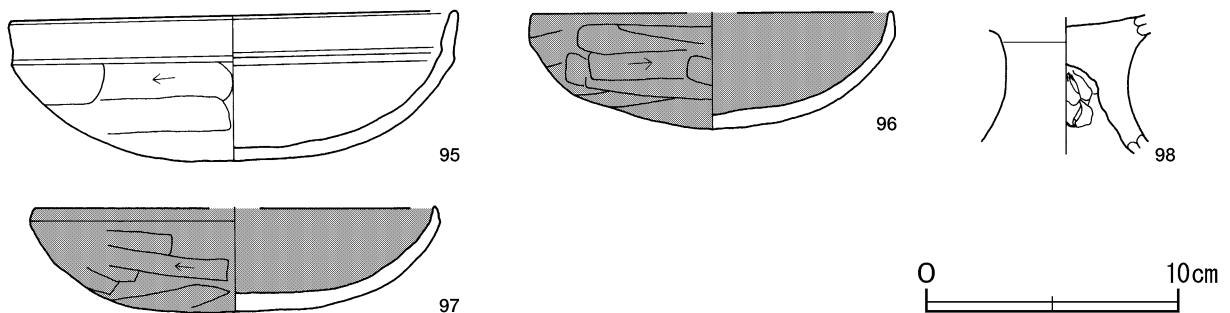
覆土 2層に分層できる。粘土ブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量 | 2 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化物微量 |
|---------------------------|---------------------------|

遺物出土状況 土師器片149点（坏35，高坏1，甕112，甑1），須恵器片2点（坏）が出土している。95・97は東壁際，98は西部，96は北壁付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第75図 第71号住居跡出土遺物実測図

第71号住居跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
95	土師器	坏	17.6	5.8	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部沈線有り 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	50%
96	土師器	坏	[14.2]	4.6	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土下層	75%
97	土師器	坏	[15.8]	4.1	-	赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り 内面器面摩滅	覆土下層	40%
98	土師器	高坏	-	(5.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面器面摩滅 内面へラ削り後、ナデ	覆土下層	20%

第74号住居跡（第76図）

位置 調査区南部のL15e2区，標高9.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

確認状況 南西壁が耕作による削平を受けている。竈やピットの配置から形状を推定した。

規模と形状 推定長軸4.30m，短軸4.10mの方形または長方形で，主軸方向はN - 31° - Wである。壁高は8～25cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。壁溝が北東壁から南西壁まで確認されている。

竈 北西壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm，燃烧部幅45cmである。袖部および燃烧部は地山を5cmほど掘り込んで，にぶい褐色土を埋めた上に黄褐色土を積み上げて構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ，火床面からほぼ直立している。第11～13層は袖部の構築土，第14・15層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 9 黒褐色 焼土粒子中量，炭化物少量，粘土ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物中量，ローム粒子少量 | 10 暗褐色 砂質粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量 | 11 にぶい黄褐色 粘土粒子・細礫・砂粒中量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量 | 12 暗褐色 粘土粒子中量，ローム粒子・細礫少量 |
| 5 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量，炭化物少量，炭化粒子微量 | 13 にぶい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 黒褐色 炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 7 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量 | 15 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量，砂粒少量，炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量 | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ33～47cmで，規模と位置から支柱穴である。P5は深さ15cmで，南東壁付近の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットとみられる。

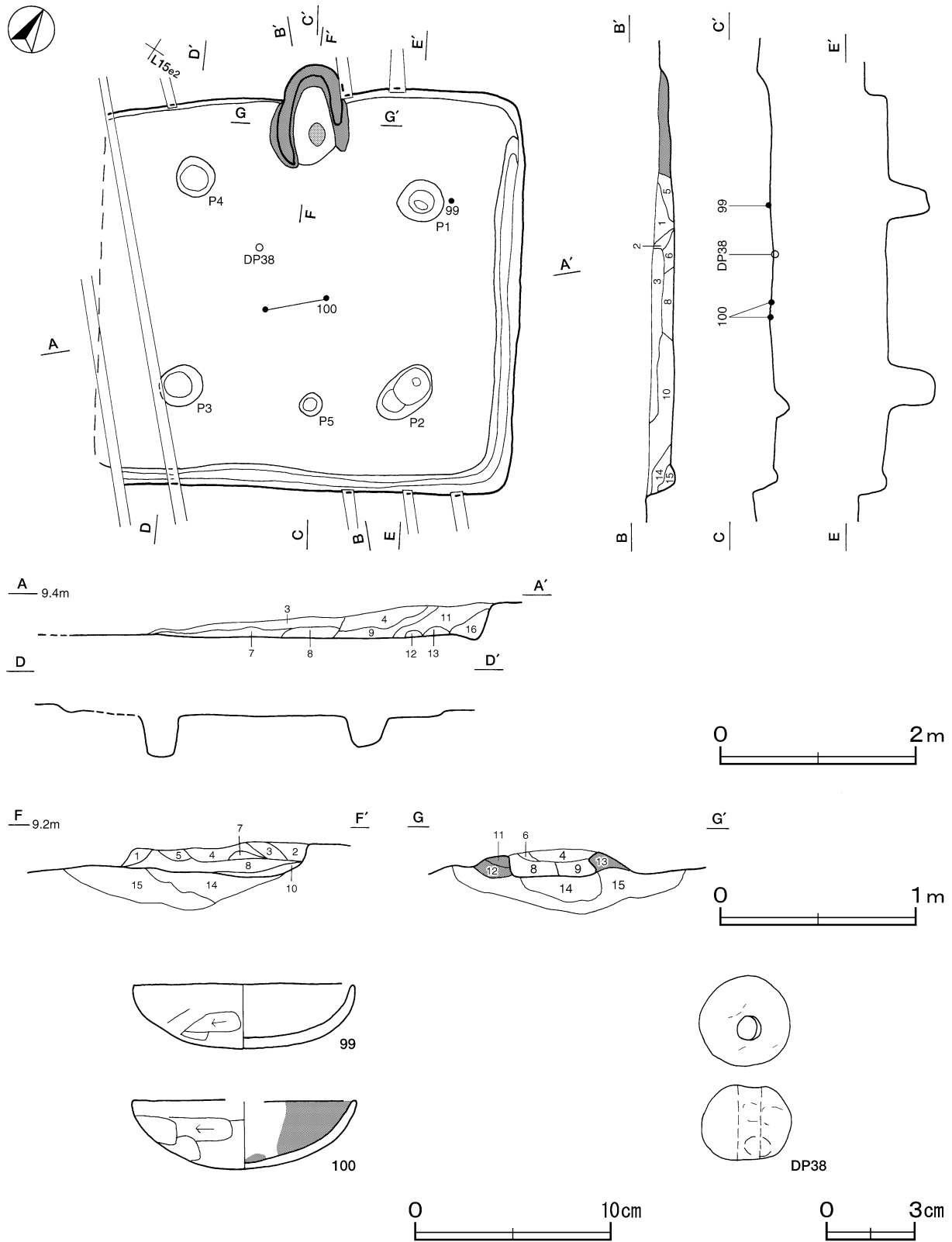
覆土 16層に分層できる。焼土ブロックや粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，粘土ブロック微量 | 9 黒褐色 焼土ブロック中量，炭化物・焼土粒子少量 |
| 2 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量，焼土ブロック中量，炭化粒子少量 | 10 灰黄褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 炭化粒子少量，粘土ブロック・焼土粒子微量 | 11 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 粘土ブロック中量，炭化物・焼土粒子少量 | 12 黒褐色 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 焼土ブロック中量，炭化物少量，粘土ブロック微量 | 13 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 6 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | 14 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 焼土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 15 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 8 暗褐色 焼土ブロック・炭化物中量，粘土ブロック少量 | 16 黒褐色 粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片125点（坏40，椀1，高坏1，甕83），須恵器片11点（坏6，蓋2，甕3），土製品1点（球状土錘）が出土している。その他，流れ込んだ土師器片1点も出土している。99は北コーナー部付近，100とDP38は中央部の床面付近からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第76図 第74号住居跡・出土遺物実測図

第74号住居跡出土遺物観察表（第76図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
99	土師器	坏	11.1	3.2	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り後、ヘラナデ 内面ナデ	床面	80% PL27

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
100	土師器	坏	[11.3]	3.5	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ 内面ナデ	床面	60%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP38	球状土錘	3.1	2.5	0.8	(21.8)	長石・石英・赤色粒子	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	床面	PL45

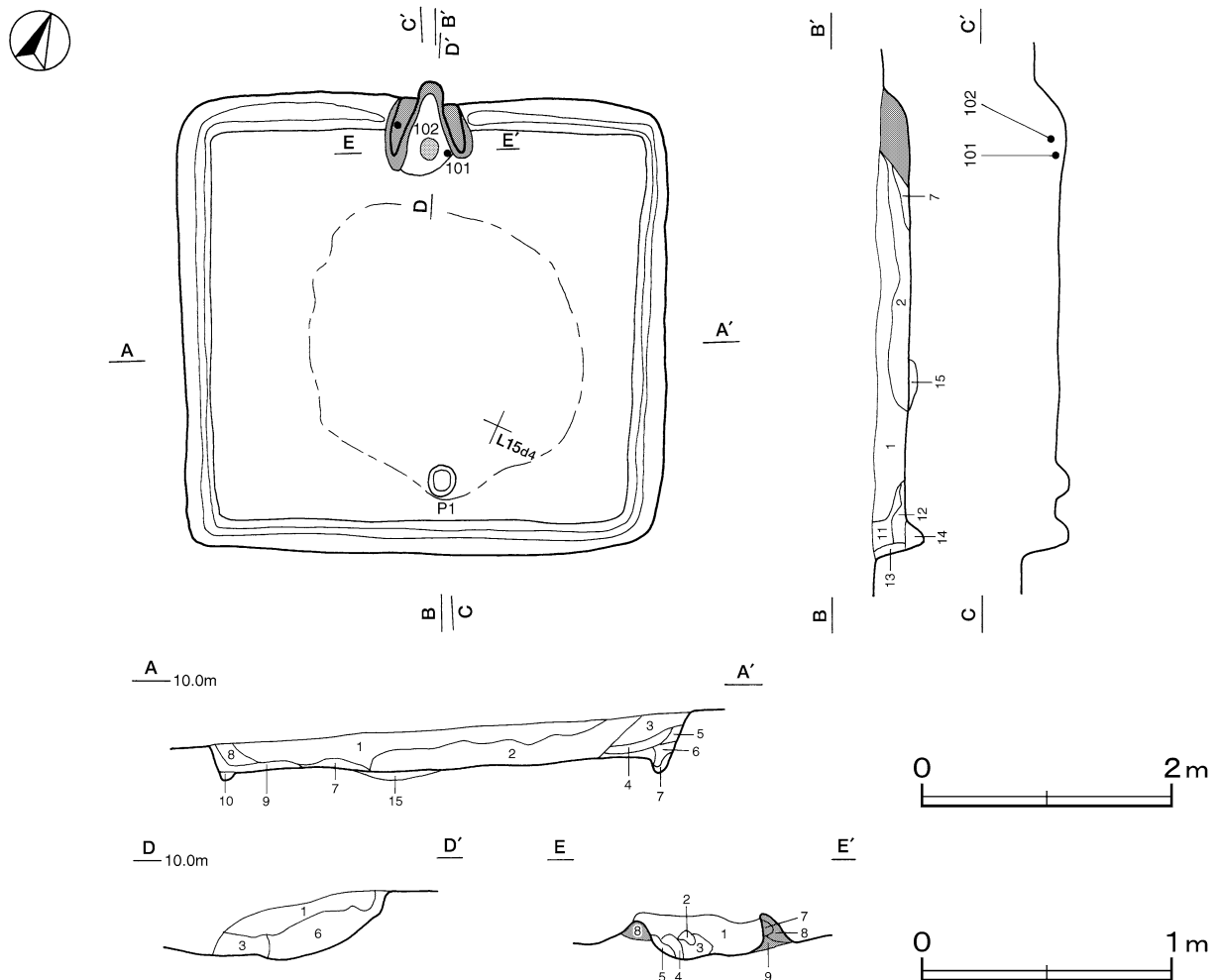
第75号住居跡 (第77・78図)

位置 調査区南部のL15c3区，標高9.5mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

規模と形状 長軸3.95m，短軸3.66mの方形で，主軸方向はN - 26° - Wである。壁高は23～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで76cm，燃烧部幅40cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山の上にローム粒子主体の褐色土を積み上げて構築されている。第7～9層は袖部の構築土である。火床部は床面を浅く掘りくぼめ，火床面は火を受け赤変硬化している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。



第77図 第75号住居跡実測図

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量 | 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量 |
| 2 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量, 砂粒微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量 | 8 褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 9 暗赤褐色 砂粒少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | |

ピット 深さは14cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

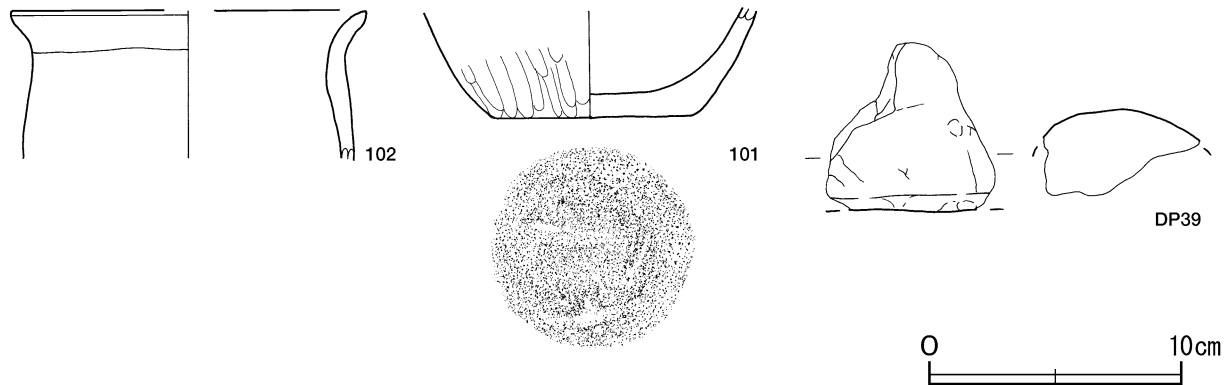
覆土 14層に分層できる。大半の層に粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。第15層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 黒褐色 粘土ブロック微量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 11 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 12 黒褐色 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 13 黒褐色 炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 14 暗褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| | 15 暗褐色 砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片124点(坏23, 高坏1, 甕100), 土製品1点(支脚)が出土している。その他, 混入した須恵器片3点, 陶器片1点, 瓦片1点も出土している。101は竈の火床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第78図 第75号住居跡出土遺物実測図

第75号住居跡出土遺物観察表 (第78図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
101	土師器	甕	-	(4.2)	7.8	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	体部外面へラ磨き 内面器面荒れ	竈内	10%
102	土師器	甕	[14.0]	(5.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内・外面器面荒れ	竈内	10%

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP39	支脚	(6.6)	(6.7)	-	(123.6)	長石・石英・赤色粒子	ナデ 指頭圧痕	覆土中	

第76号住居跡 (第79・80図)

位置 調査区南部のL15c1区, 標高9.0mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

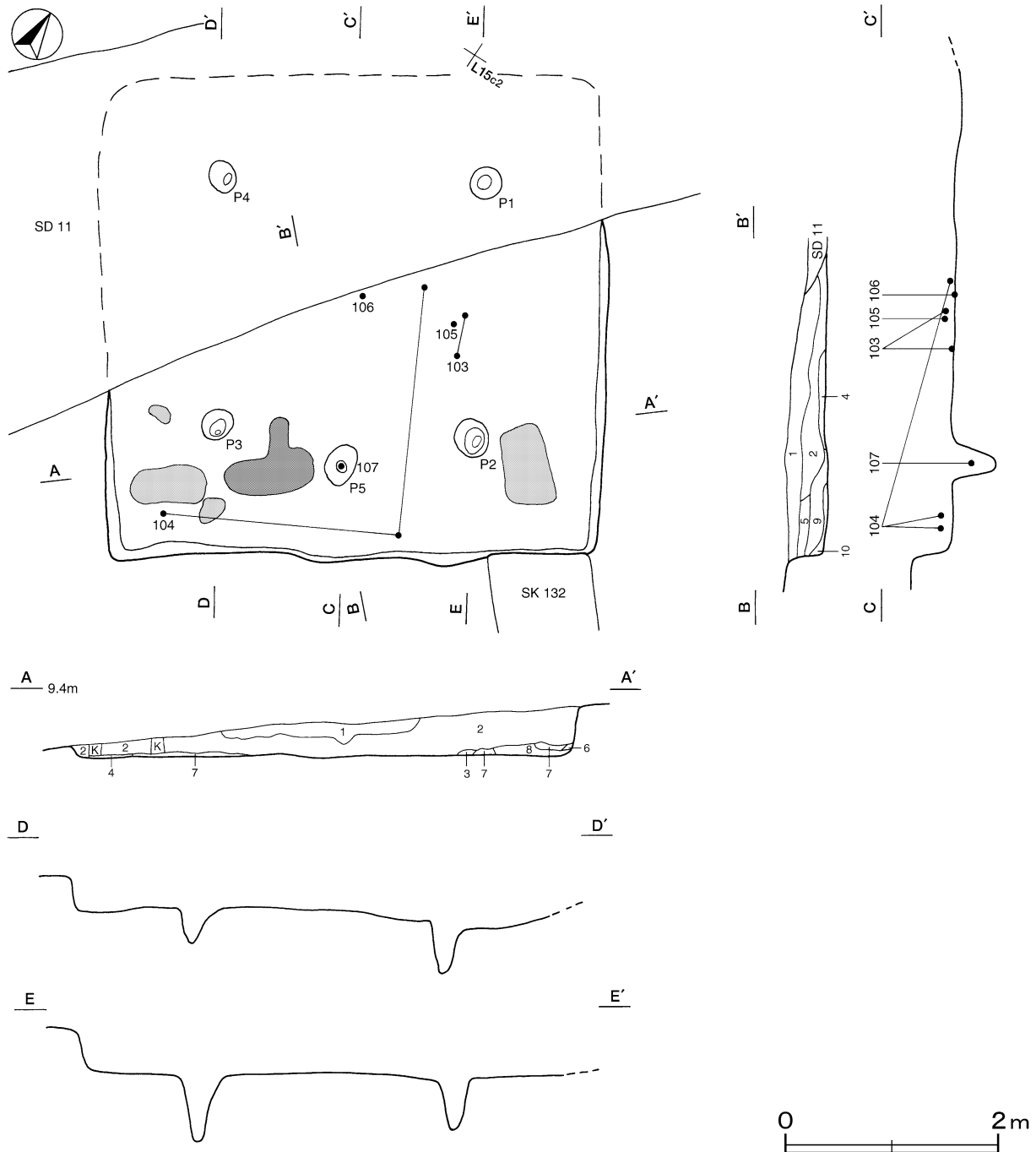
重複関係 中央から北西部にかけて第11号溝, 東コーナー部を第132号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が削平されているため北東・南西軸は4.70m、北西・南東軸は推定4.60mで、主軸方向がN-29°-Wの方形または長方形と推測される。壁高は34~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。焼土と粘土が南部の床面から確認されている。

ピット 5か所。P1~P4は深さ32~62cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ42cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 10層に分層できる。ブロック状の不自然な堆積状況から埋め戻されている。



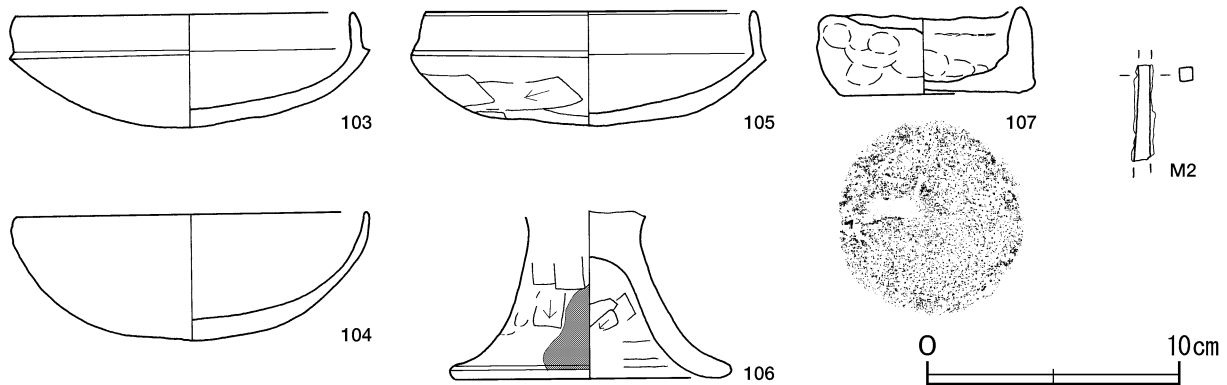
第79図 第76号住居跡実測図

土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 炭化物・焼土粒子少量, ロームブロック微量 | 7 にぶい黄褐色 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 8 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子多量, 炭化物中量 | 9 褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 にぶい黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片156点(坏33, 高坏3, 甕101, 小形甕3, 甑15, 手捏土器1)が出土している。その他, 流れ込んだ土師器片1点, 石製品2点, 不明鉄製品1点, 混入した須恵器片16点, 陶器片9点, 磁器片1点, ガラス製品1点, 瓦片3点も出土している。107はP5の覆土中層から出土している。103と106は中央部の床面から出土している。104は中央部と南東壁際, 105は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 南部の床面に焼土が確認されていることから焼失住居とみられる。時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第80図 第76号住居跡出土遺物実測図

第76号住居跡出土遺物観察表(第80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
103	土師器	坏	13.3	4.6	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部内・外面器面摩滅	床面	80%
104	土師器	坏	13.8	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部内・外面器面摩滅	覆土下層	80%
105	土師器	坏	13.0	4.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面へら削り 内面器面摩滅	覆土下層	50% PL26
106	土師器	高坏	-	(6.6)	10.5	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	脚部外面へら削り後, ナデ 指頭痕 下端ナデ 内面へら削り後, ナデ	床面	50%
107	土師器	手捏土器	7.6	3.4	7.3	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	体部外面へら削り 内・外面指頭痕	P 5 中層	100% PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 2	不明	(3.9)	1.0	0.5	(4.3)	鉄	断面方形	覆土中	

第77号住居跡(第81図)

位置 調査区南東部のM16a1区, 標高11.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第55・60・64号住居と第108~110号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西・南東軸は4.97mで, 北東・南西軸は3.50mが確認できただけである。主軸方向がN - 33° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は24~38cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 確認された部分では壁溝が巡っている。

ピット 4か所。P1~P4は深さ48~74cmで, 規模と位置から支柱穴である。

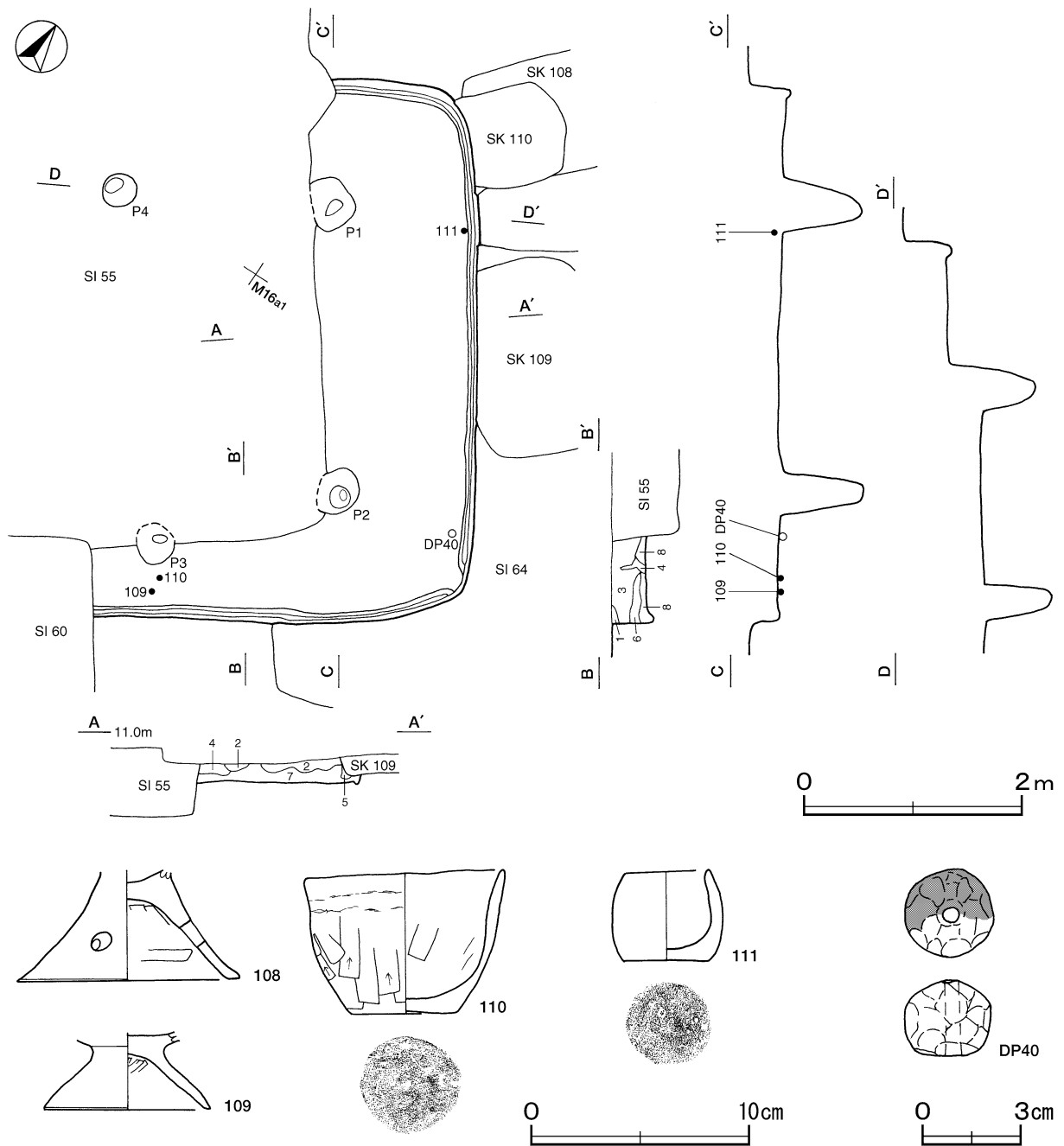
覆土 8層に分層できる。大半の層にロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量， |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片44点（坏3，高坏3，埴3，鉢3，甕30，ミニチュア土器2），土製品1点（球状土錘）が出土している。その他，混入した須恵器片2点も出土している。109，110は南側壁際の床面，111は東側壁際の覆土下層，DP40は南東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から4世紀と考えられる。



第81図 第77号住居跡・出土遺物実測図

第77号住居跡出土遺物観察表 (第81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
108	土師器	高坏	-	(5.1)	10.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ナデ 内面へら削り後,へらナデ 3孔式脚部	覆土中	45%
109	土師器	高坏	-	(3.6)	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部外面ナデ 内面へら削り後,ナデ	床面	50%
110	土師器	鉢	9.0	6.6	4.7	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部へら当て痕 輪積痕 体部内・外面へら削り後,ナデ	床面	100% PL36
111	土師器	ミチユア土器	3.9	4.2	3.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内外面ナデ	覆土下層	100% PL42

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP40	球状土錘	2.7	2.3	0.5	15.4	長石・石英・雲母	全面ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	床面	PL45

第78号住居跡 (第82・83図)

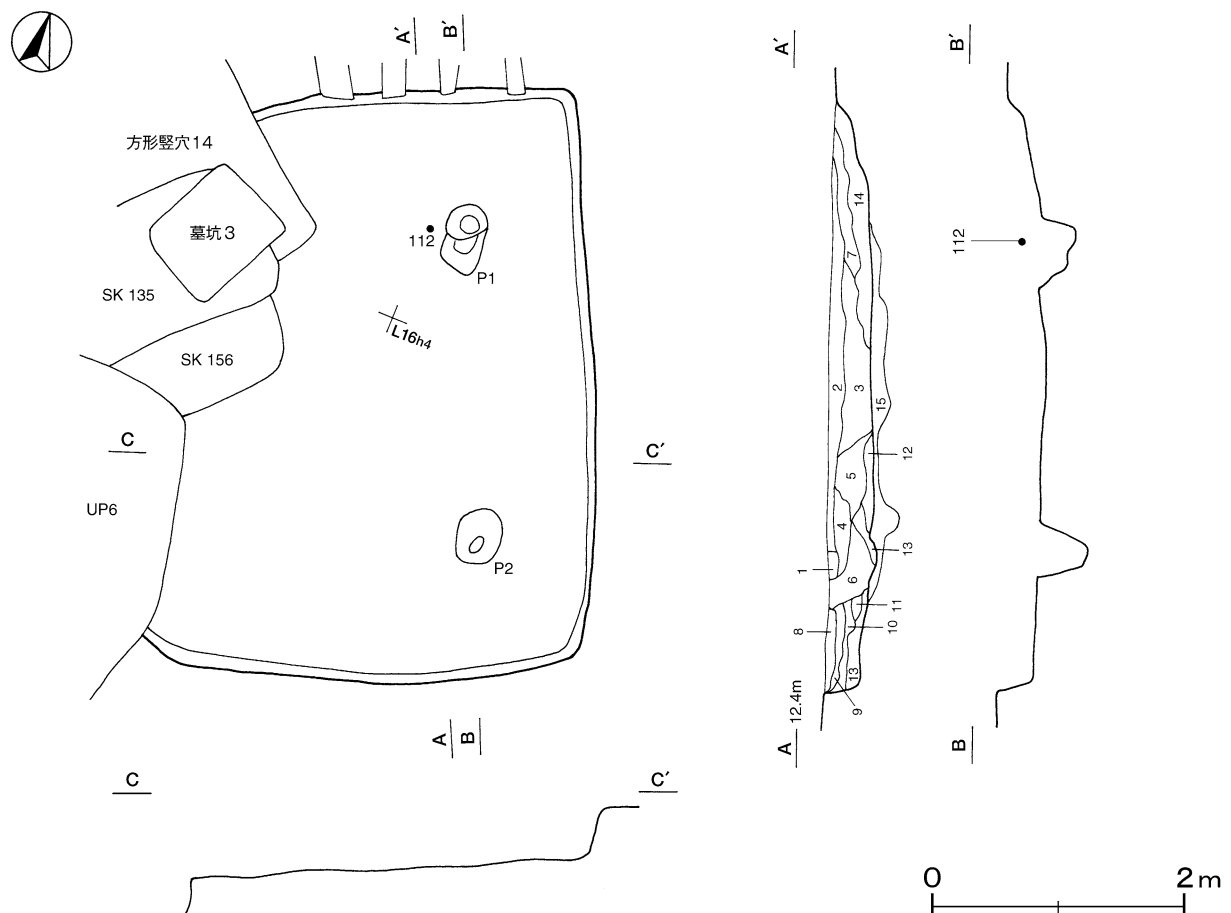
位置 調査区南東部のL16h4区, 標高12.5mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第6号地下式坑, 第14号方形竪穴遺構, 第3号墓坑, 第135・156号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は4.65mで, 東西軸は3.38mが確認できただけである。主軸方向がN - 23° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は15~40cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 全体的にほぼ平坦な貼床である。貼床は, 粘土ブロック主体のにぶい黄褐色土を埋めて構築している。

ピット 2か所。P1は深さ30cm, P2は深さ40cmで, 規模と位置から支柱穴である。



第82図 第78号住居跡実測図

覆土 14層に分層できる。大半の層に細礫，ロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。
第15層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------|-----------|----------------------------------|
| 1 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 細礫多量，焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量 | 9 暗褐色 | 粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック・細礫多量，ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | 炭化物中量，ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量， | 11 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | 細礫中量，ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| | | 15 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片223点（坏47，甕176）が出土している。その他，混入した土師器片1点，須恵器片8点が出土している。112はP1付近の覆土中層，113は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第83図 第78号住居跡出土遺物実測図

第78号住居跡出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
112	土師器	坏	[14.8]	4.2	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外面へラ削り後，ナデ	覆土中層	40%
113	土師器	坏	[12.5]	(3.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外面へラ削り後，ナデ	覆土中	30%

第95号住居跡（第84図）

位置 調査区中央部のK14c5区，標高8.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 南東部を第12号溝，北西部を第15号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北東・南西軸4.26m，北西・南東軸は3.65mが確認できただけである。主軸方向がN - 48° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は5～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が北東壁と南コーナー部で確認されている。

竈 北西部に付設されていたとみられるが，第15号溝に掘り込まれているため火床部の一部が遺存しているだけである。規模や形状は不明である。火床面は火を受け赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|--------|-----------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量，粘土ブロック・炭化粒子少量 | 4 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 粘土ブロック中量，炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ26～54cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ16cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

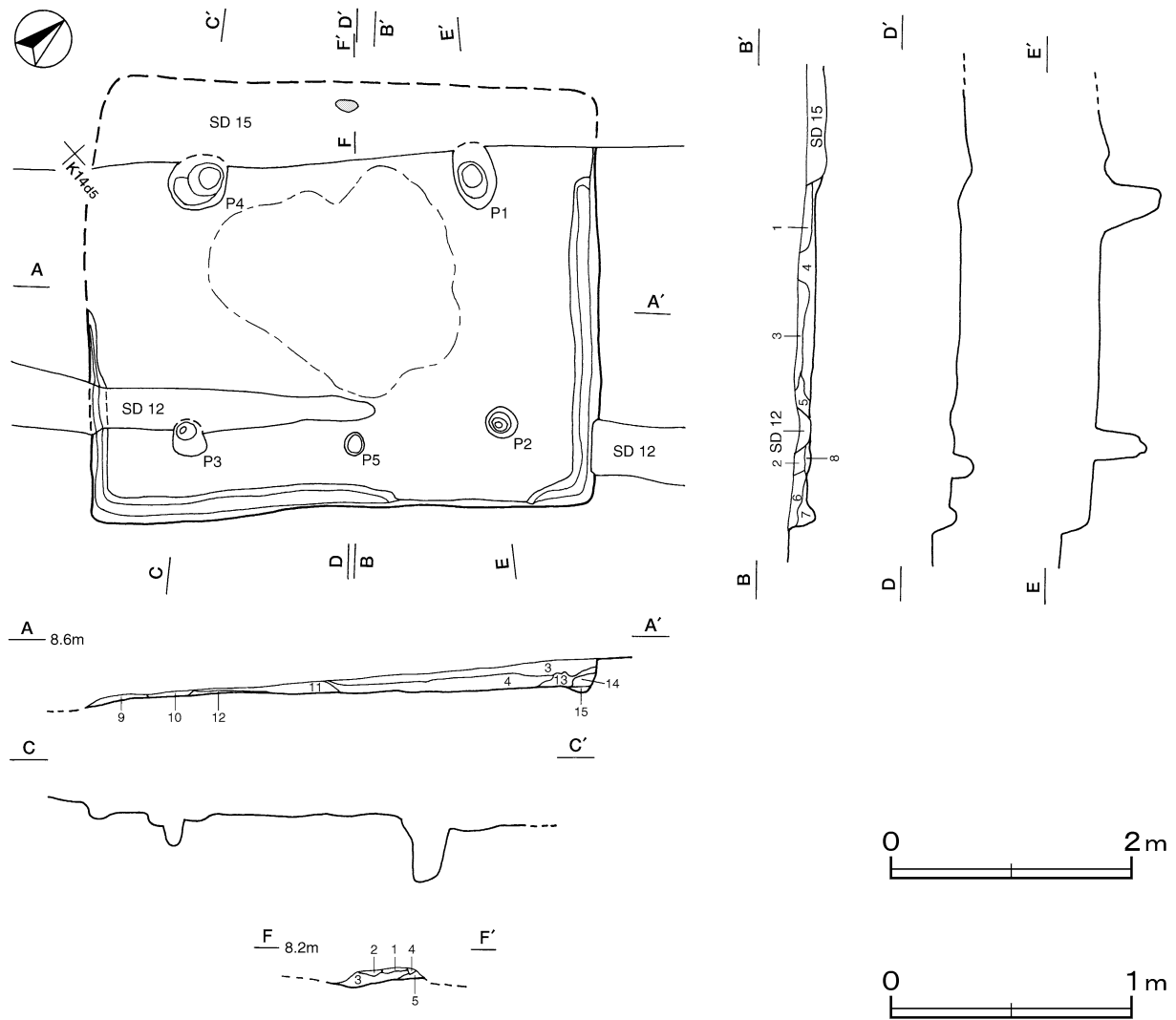
覆土 15層に分層できる。焼土ブロックや粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 灰黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黄褐色 粘土ブロック多量,炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 粘土ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 にぶい黄褐色 炭化粒子少量,焼土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 12 褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 炭化粒子少量,焼土粒子微量 | 13 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 炭化粒子少量,ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 7 黒褐色 粘土ブロック・炭化物少量,焼土粒子微量 | 15 黒褐色 炭化粒子少量,粘土ブロック微量 |
| 8 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量,粘土ブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片92点(坏12,甕80)が出土している。その他,混入した須恵器片11点,陶器片3点,磁器片2点,瓦片2点も出土している。

所見 出土土器が少ないため,明確な時期判定は困難であるが,6世紀後葉の土師器片がみられることから,当該期まで使用されていたと考えられる。

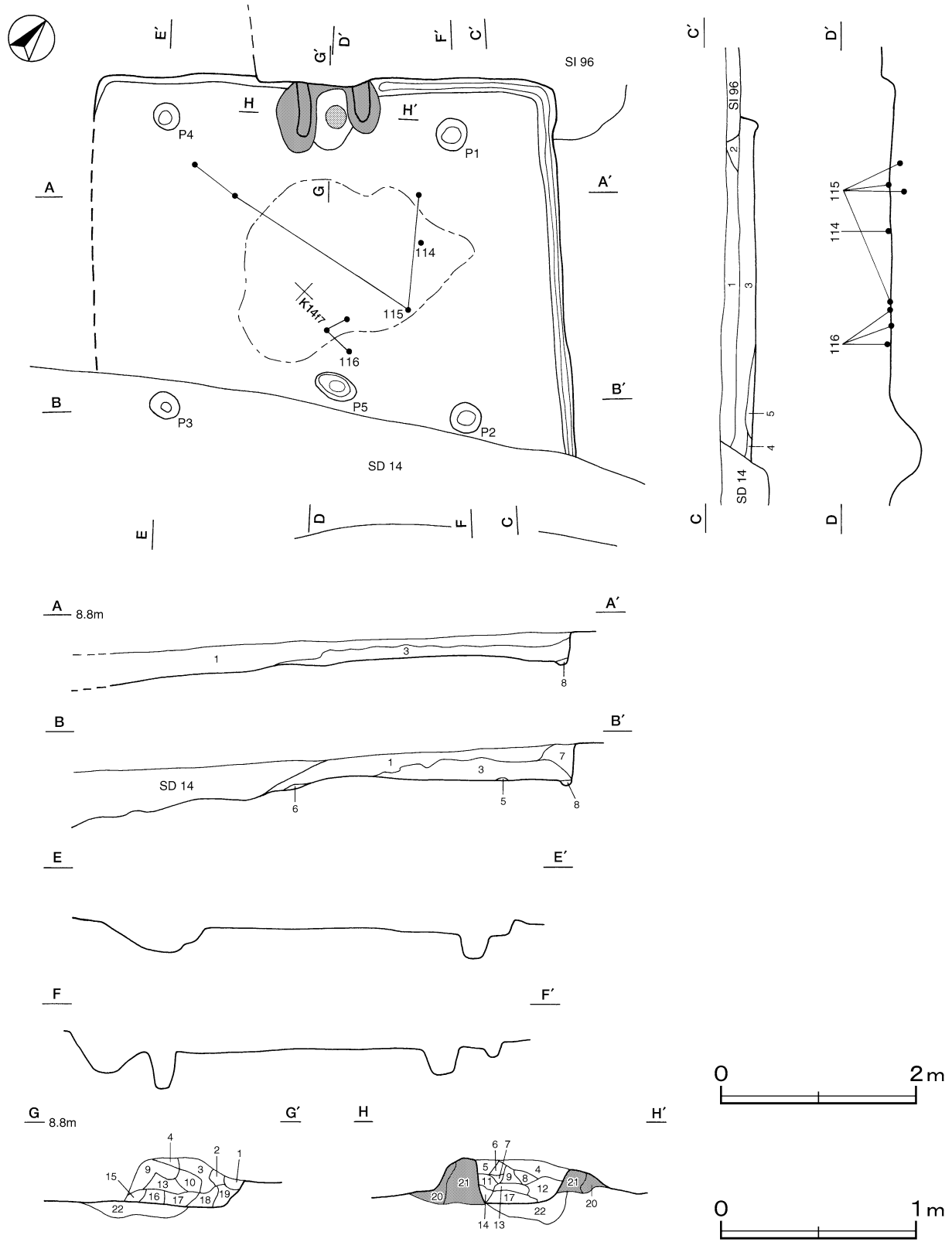


第84図 第95号住居跡実測図

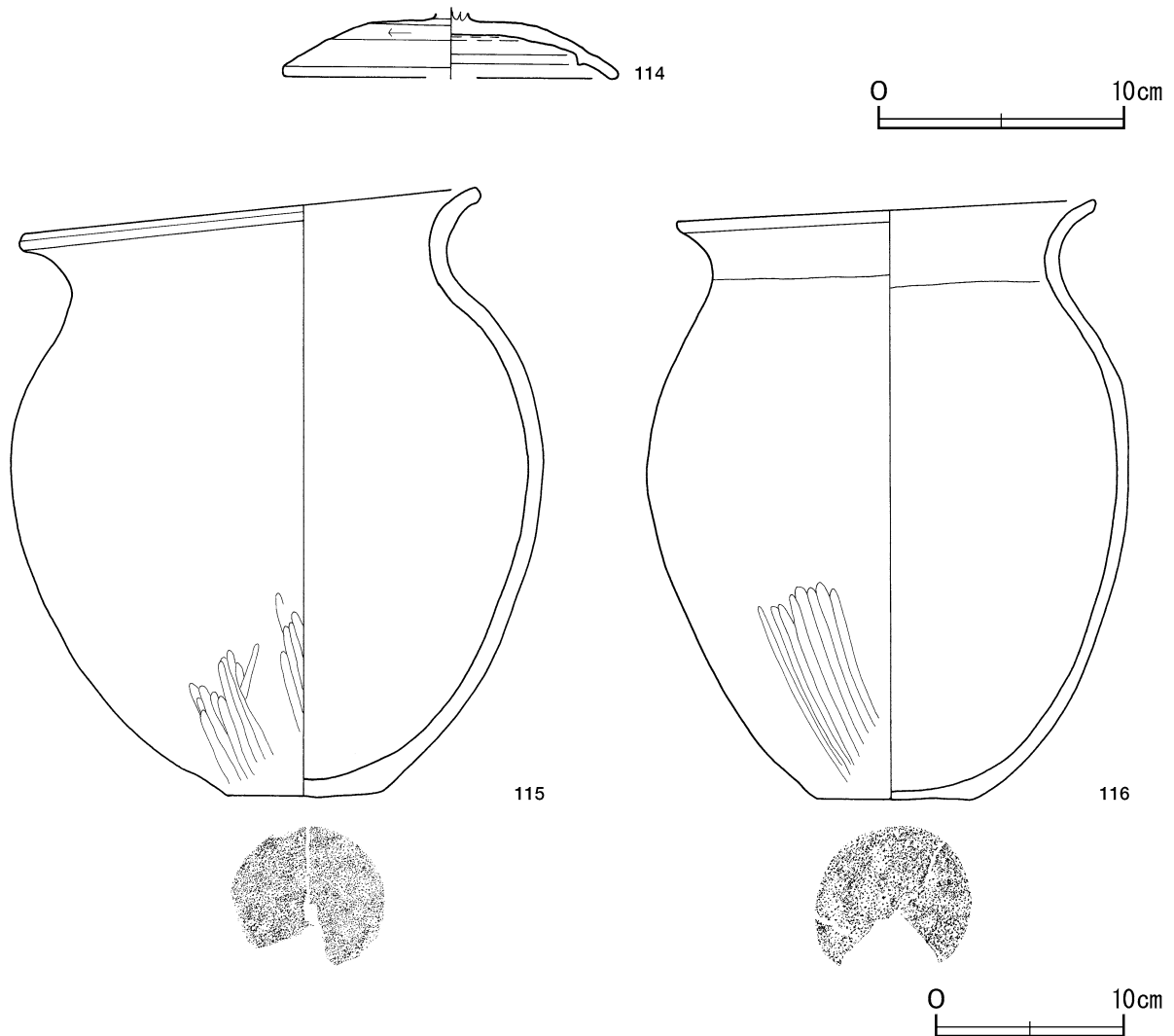
第97号住居跡 (第85・86図)

位置 調査区中央部のK14e7区, 標高8.5mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 北西壁を第96号住居, 南東部を第14号溝に掘り込まれている。



第85図 第97号住居跡実測図



第86図 第97号住居跡出土遺物実測図

規模と形状 北東・南西軸4.87m，北西・南東軸は3.80mが確認できただけである。主軸方向がN - 45° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は8～35cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が北コーナー部から北東壁まで確認されている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで66cm，燃烧部幅40cmである。袖部および燃烧部は地山を12cmほど掘り込んで，黒褐色土を埋めた上に黄褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面よりやや低く，火床面は火を受けて赤変硬化している。第20・21層は袖部の構築土，第22層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 13 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 14 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | 15 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 焼土粒子少量，粘土ブロック・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子微量 |
| 5 灰黄褐色 炭化粒子少量，焼土ブロック微量 | 17 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子微量 |
| 6 にぶい黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 にぶい黄褐色 焼土粒子多量，粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 7 にぶい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 | 19 暗褐色 焼土ブロック中量，炭化物少量 |
| 8 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 20 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 9 にぶい黄褐色 焼土ブロック少量，炭化粒子微量 | 21 にぶい黄褐色 粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子・細礫・砂粒少量 |
| 10 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 22 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量 |
| 11 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子少量 | |
| 12 黒褐色 粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ25～43cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ25cmで、南東壁付近の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットとみられる。

覆土 8層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量，粘土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック少量，粘土ブロック・炭化物微量 | 7 黒褐色 炭化粒子少量，粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 にぶい黄褐色 粘土ブロック少量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片236点（坏16，高坏1，鉢1，甕212，小形甕2，甑4），須恵器片38点（坏15，高台付坏3，蓋9，甕11）が出土している。114と116は中央部の床面から出土している。115は中央部と西コーナ部の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器から7世紀後葉と考えられる。

第97号住居跡出土遺物観察表（第86図）

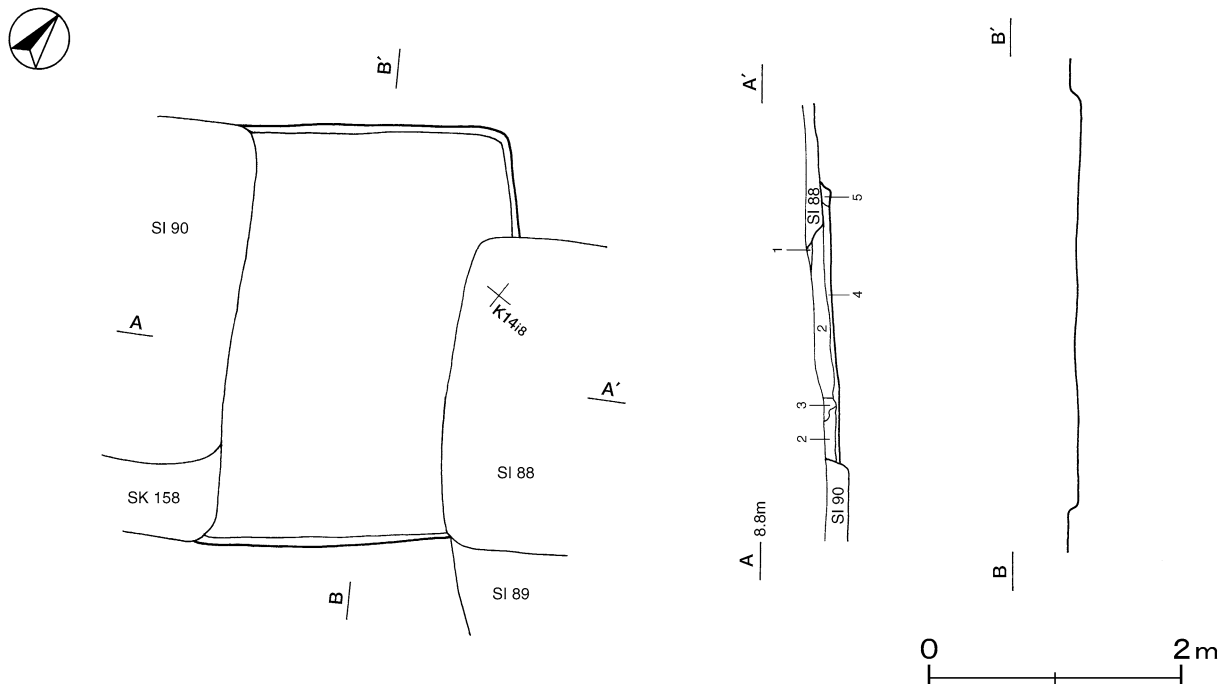
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
114	須恵器	坏蓋	[13.4]	(2.9)	-	長石	灰	良好	体部内・外面口クロナデ 天井部回転ヘラ削り	床面	45%
115	土師器	甕	24.4	32.6	8.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面器面荒れ	床面	85% PL39
116	土師器	甕	22.4	32.3	8.4	石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面器面荒れ	床面	70% PL39

第98号住居跡（第87・88図）

位置 調査区南部のK14i7区，標高8.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 東部を第88・89号住居，南西部を第90号住居と第158号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西・南東軸は3.34mで，北東・南西軸は2.08mが確認できただけである。平面形は遺存する壁から主軸方向がN-40°-Wの方形または長方形と推測される。壁高は10～13cmで，外傾して立ち上がっている。



第87図 第98号住居跡実測図

床 ほぼ平坦である。

覆土 5層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

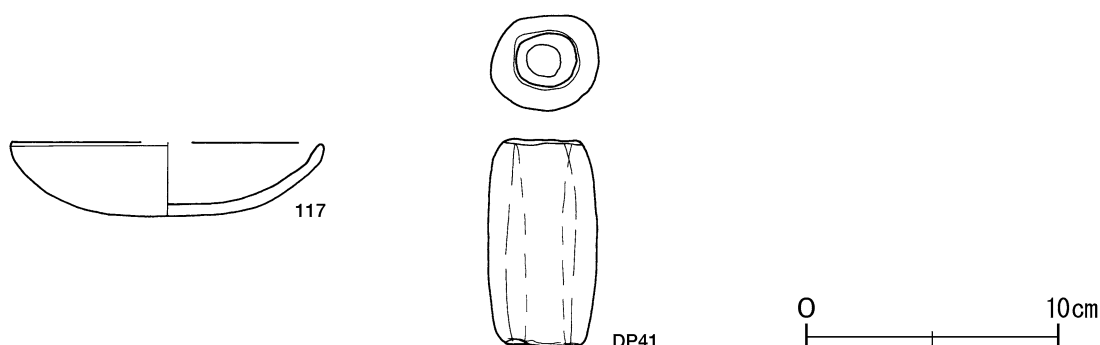
土層解説

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化材微量 | 5 暗褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片11点(坏1, 甕10), 須恵器片1点(蓋), 土製品1点(管状土錘)が出土している。

117・DP41は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀後葉と考えられる。



第88図 第98号住居跡出土遺物実測図

第98号住居跡出土遺物観察表(第88図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
117	土師器	坏	[12.3]	2.9	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面器面摩滅 内面ナデ	覆土中	25%

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP41	管状土錘	8.2	4.4	1.8~2.5	130.3	長石・石英・赤色粒子	ナデ 両方向からの穿孔	覆土中	

第100号住居跡(第89・90図)

位置 調査区南部のL15b5区, 標高10.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第171号土坑を掘り込み, 中央部から東壁にかけて第170・173号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は4.35m, 東西軸は3.90mの長方形で, 主軸方向はN-18°-Wである。壁高は16~46cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで104cm, 燃烧部幅45cmである。袖部および燃烧部は地山を21cmほど掘り込んで, 暗褐色土を埋めた上に黄褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面よりやや低く, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ, 火床面から緩やかに立ち上がっている。第10~13層は袖部の構築土, 第14~16層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 1 灰黄褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 5 にぶい黄褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, ロームブロック・細礫・砂粒少量 |
| 6 にぶい黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 12 にぶい黄褐色 粘土粒子多量, 細礫中量 |
| 7 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 13 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子中量, 細礫少量 |
| 8 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 赤褐色 焼土粒子多量 |
| 9 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 10 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量 | 16 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子少量 |

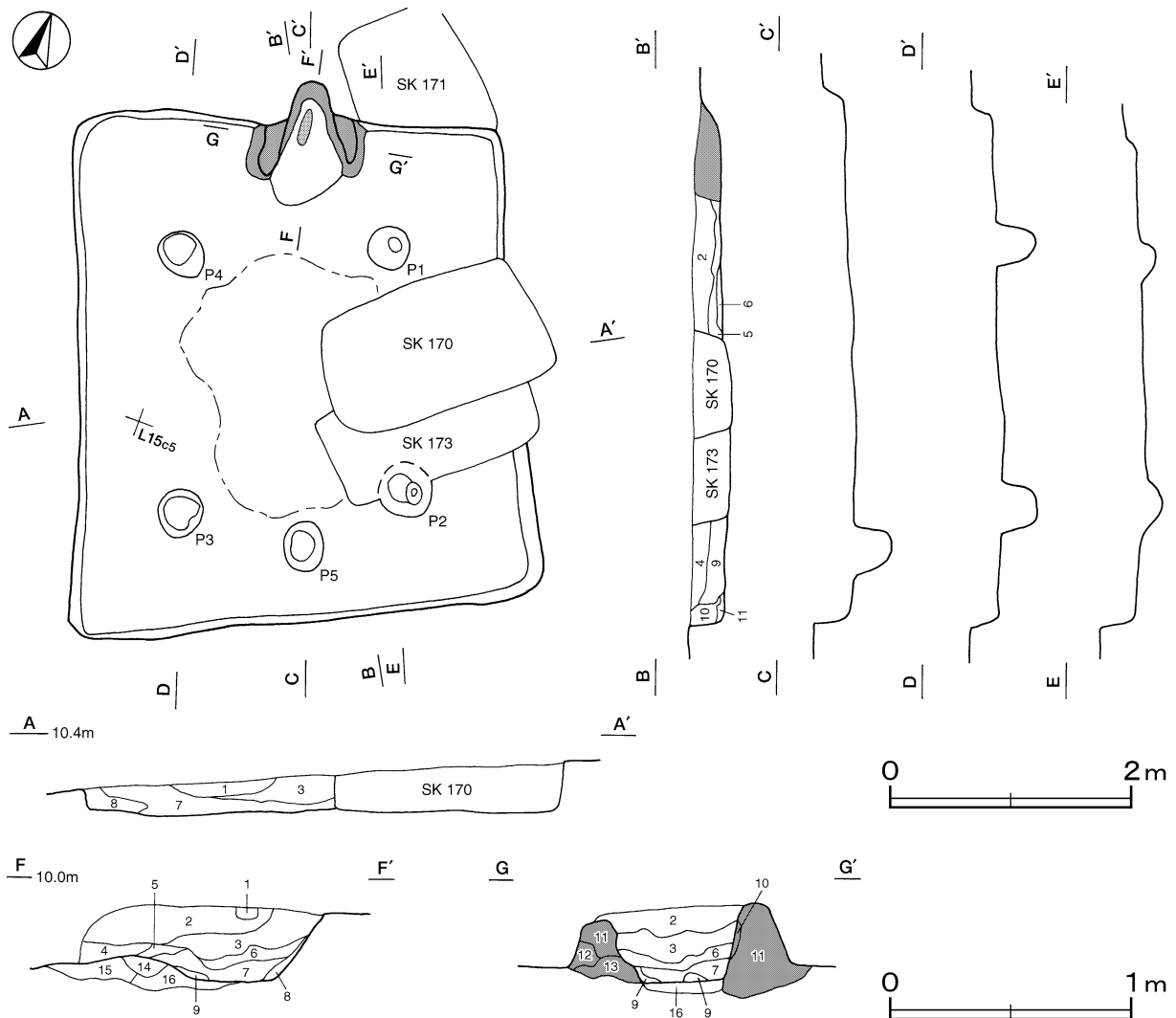
ピット 5か所。P1～P4は深さ12～31cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ30cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 11層に分層できる。大半の層に粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

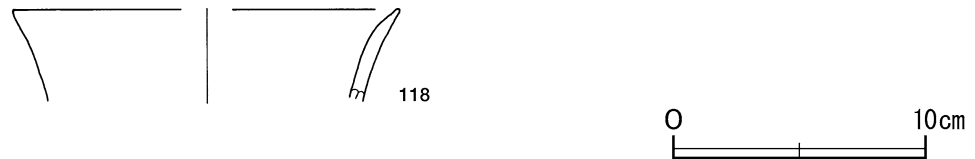
- | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 にぶい暗黄褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 8 暗褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 10 黒褐色 炭化粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 粘土ブロック少量, 炭化物微量 | 11 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片19点(坏2, 甕17), 土製品1点(管状土錘)が出土している。その他, 混入した須恵器片8点も出土している。118は覆土中から出土している。



第89図 第100号住居跡実測図

所見 出土土器が少ないため、明確な時期判定は困難であるが、6世紀後葉の土師器片がみられることから、当該期まで使用されていたと考えられる。



第90図 第100号住居跡出土遺物実測図

第100号住居跡出土遺物観察表（第90図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
118	土師器	甕	[15.2]	(3.8)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	5%

第103号住居跡（第91～94図）

位置 調査区中央部のK14c8区、標高9.5mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 南西壁を第15号方形竪穴遺構、第199号土坑、P3の北西側を第196号土坑、中央部を第197号土坑、北東壁付近を第198号土坑、北西壁から北東壁にかけて第10号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北西・南東軸は9.00mで、北東・南西軸は2.13mが確認できただけである。主軸方向がN - 50° - Eの方形または長方形と推測される。壁高は30～40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈付近が踏み固められている。壁溝が北コーナー部から東コーナー部まで確認されている。間仕切り溝が、北東壁から4条確認されている。

竈 北東壁の西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで118cmで、燃焼部幅は60cmである。袖部は床面と同じ高さの地山に褐色土を積み上げて構築されている。第11～14層は袖部の構築土である。火床部は床面をやや浅く掘りくぼめ、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に5cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

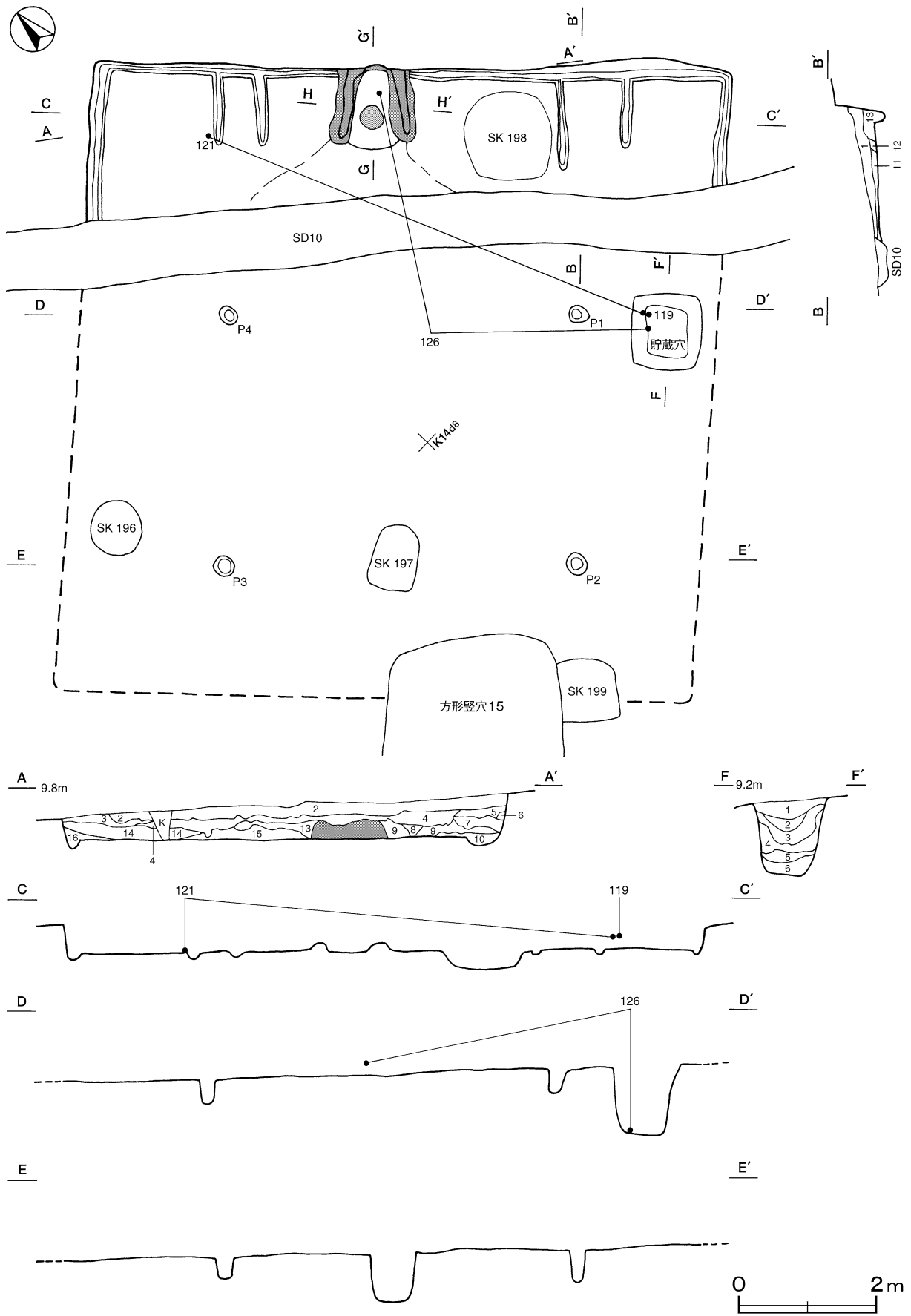
- | | | | |
|----------|------------------------|-----------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量，粘土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量，細礫少量 | 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，細礫微量 | 11 黒褐色 | 粘土粒子中量，焼土ブロック・細礫・砂粒少量 |
| 4 明赤褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子微量 | 12 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量，細礫少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 13 灰黄褐色 | 粘土粒子中量，細礫・砂粒少量 |
| 6 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量，細礫・砂粒少量，ローム粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 7 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量，ローム粒子微量 | | |
| 8 暗褐色 | ローム粒子中量，粘土粒子少量 | | |

貯蔵穴 南東壁の東寄りに位置している。長軸107cm，短軸98cmの方形で、深さは98cmである。底面は平坦で、壁は直立している。覆土は粘土ブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

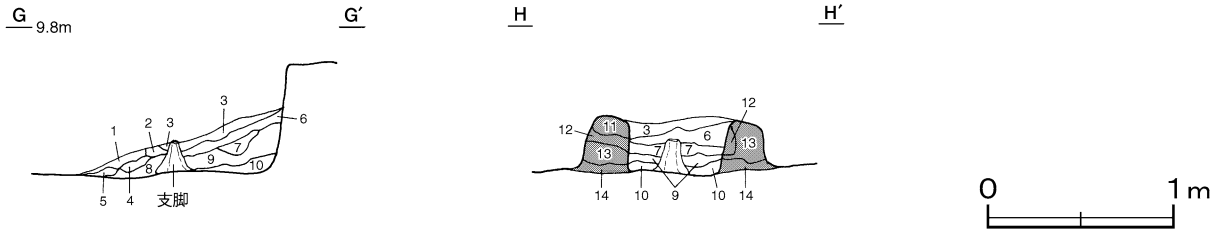
貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|----------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量，焼土ブロック微量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | 粘土ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子中量，焼土ブロック少量 | 6 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量，炭化粒子微量 |

ピット 4か所。P1～P4は深さ28～48cmで、規模と位置から主柱穴である。



第91图 第103号住居跡実測图(1)



第92図 第103号住居跡実測図(2)

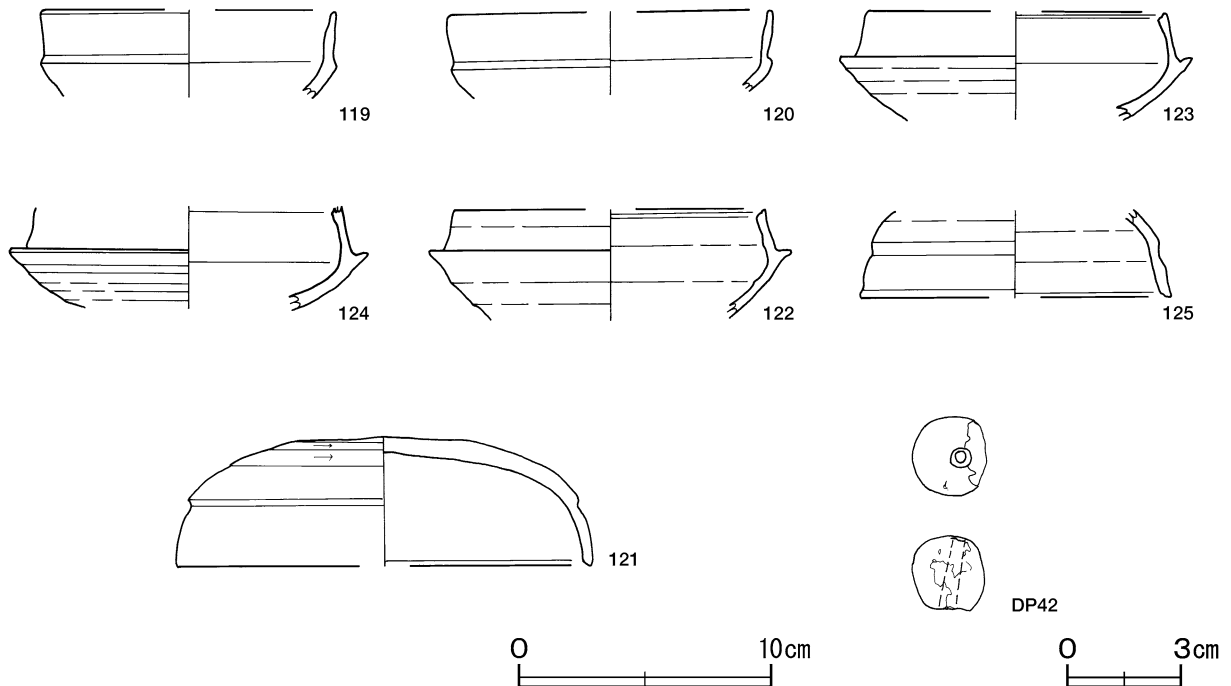
覆土 16層に分層できる。不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

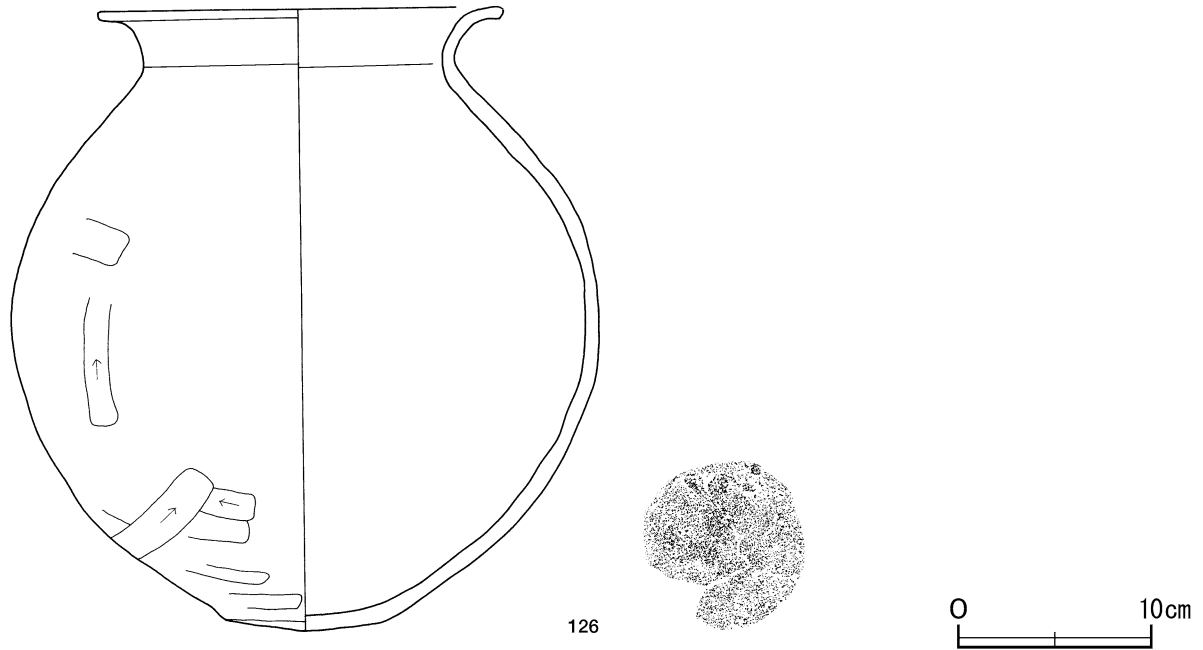
1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック・粘土ブロック微量
2 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	10 にぶい黄褐色	粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	細礫多量，焼土粒子・炭化粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土ブロック微量	12 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	13 黒褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 にぶい黄褐色	焼土粒子少量，粘土ブロック・炭化粒子微量	14 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
7 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	15 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，粘土ブロック微量	16 暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片200点（坏41，埴14，鉢1，甕143，小形甕1），須恵器片9点（坏3，蓋6），土製品3点（球状土錘2，支脚1）が出土している。その他，混入した須恵器片10点，磁器片1点も出土している。126は竈の火床部と貯蔵穴の底面から出土した破片が接合したものである。121は北東壁の間仕切り溝付近の床面と南東壁付近の覆土中層からそれぞれ出土した破片を接合したものである。119は南東壁付近の覆土中層から出土している。土製支脚は竈の火床面に据えられた状態で出土している。120・122・DP42は覆土中から出土している。

所見 煙道部が壁外への掘り込みをほとんどもない竈の形状であることが特徴の住居である。時期は，出土土器から6世紀前葉と考えられる。



第93図 第103号住居跡出土遺物実測図(1)



第94図 第103号住居跡出土遺物実測図(2)

第103号住居跡出土遺物観察表 (第93・94図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
119	土師器	坏	[11.6]	(3.4)	-	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面ナデ	覆土中層	5%
120	土師器	坏	[12.7]	(3.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面器面摩滅 内面ナデ	覆土中	5%
122	須恵器	坏身	[12.3]	(4.4)	-	長石・石英	灰	良好	ロクロ成形	覆土中	10%
123	須恵器	坏身	[11.8]	(4.3)	-	長石	灰	良好	ロクロ成形	覆土中	5%
124	須恵器	坏身	-	(4.1)	-	長石	灰	良好	ロクロ成形	覆土中	5%
121	須恵器	坏蓋	[16.6]	5.1	-	長石	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土中層・床面	30%
125	須恵器	坏蓋	[12.2]	(3.4)	-	長石・石英	暗灰黄	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土中	5%
126	土師器	甕	21.2	32.4	8.8	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	貯蔵穴	85% PL40

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP42	球状土錘	2.1	2.0	0.4	(7.5)	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠け	覆土中	PL45

第106号住居跡 (第95～97図)

位置 調査区中央部のK15b1区, 標高10.5mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第288号土坑を掘り込み, 南部を第104号住居, 北コーナー部を第194号土坑, 北東壁から南西壁までを第17号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.25m, 短軸4.85mの方形で, 主軸方向はN-38°-Wである。壁高は10～52cmで, 外傾して立ち上がっている。

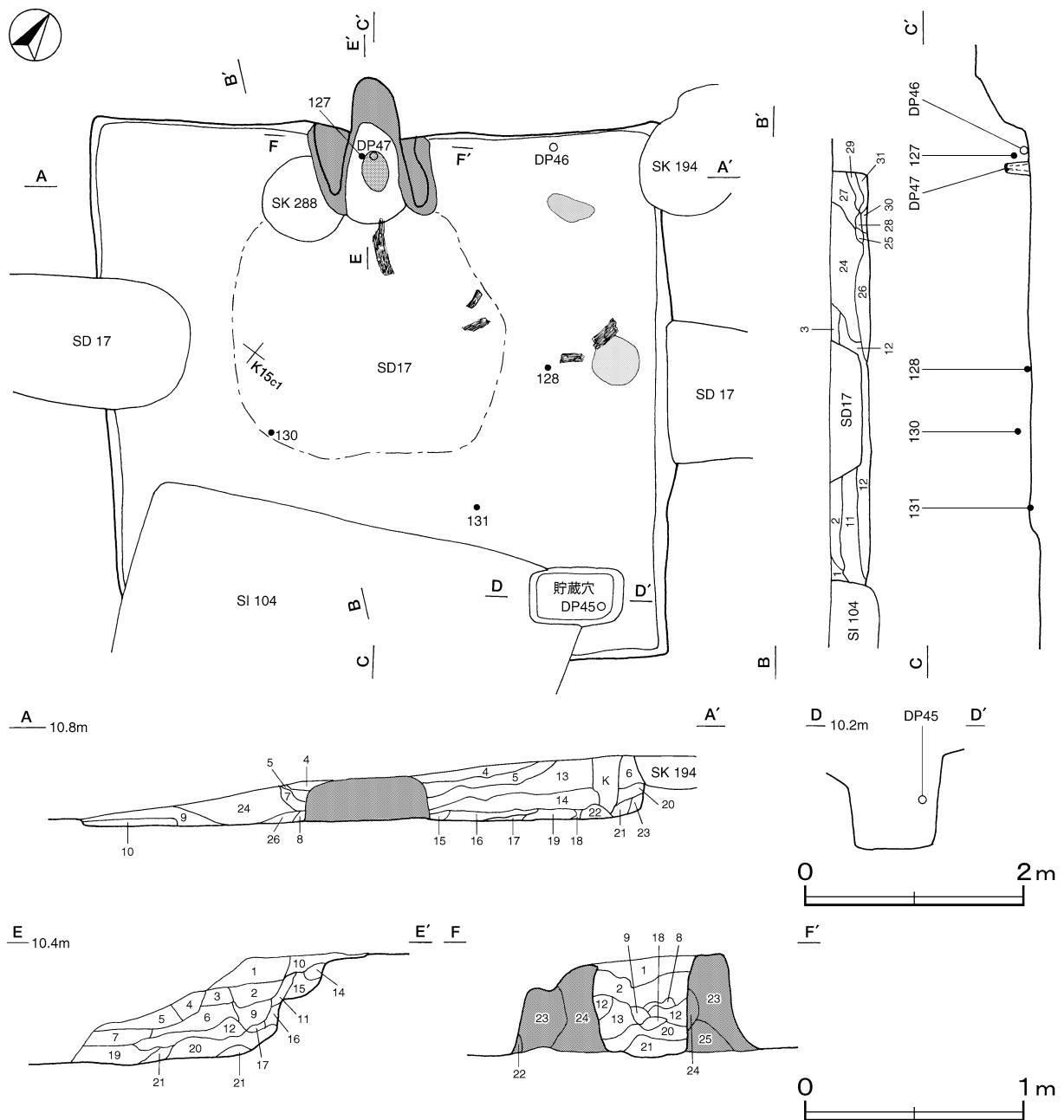
床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。炭化材と焼土が北部で確認されている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで136cm, 燃焼部幅55cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に黄橙色土を積み上げて構築されている。第22～25層は袖部の構築土である。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ, 火床面が

ら緩やかに立ち上がっている。

土層解説

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 15 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 16 暗褐色 炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 炭化物中量, 粘土ブロック・焼土粒子少量 | 17 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 18 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量 | 19 暗褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 | 20 にぶい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 | 21 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 8 褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物中量 | 22 にぶい黄褐色 粘土粒子多量, 焼土ブロック・細礫・砂粒少量, 炭化物微量 |
| 9 明赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化物中量 | 23 暗褐色 粘土粒子中量, 焼土ブロック・砂粒少量, ロームブロック・炭化物微量 |
| 10 明褐色 焼土ブロック・炭化物中量, 粘土ブロック少量 | 24 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子中量, 砂粒少量 |
| 11 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 25 にぶい黄褐色 粘土粒子多量, 細礫・砂粒少量 |
| 12 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | |
| 13 暗褐色 焼土粒子中量, 粘土ブロック少量, 炭化物微量 | |
| 14 明赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子微量 | |



第95図 第106号住居跡実測図

貯蔵穴 東コーナー部に位置している。長軸85cm，短軸55cmの長方形で，深さは85cmである。底面は平坦で，壁は直立している。

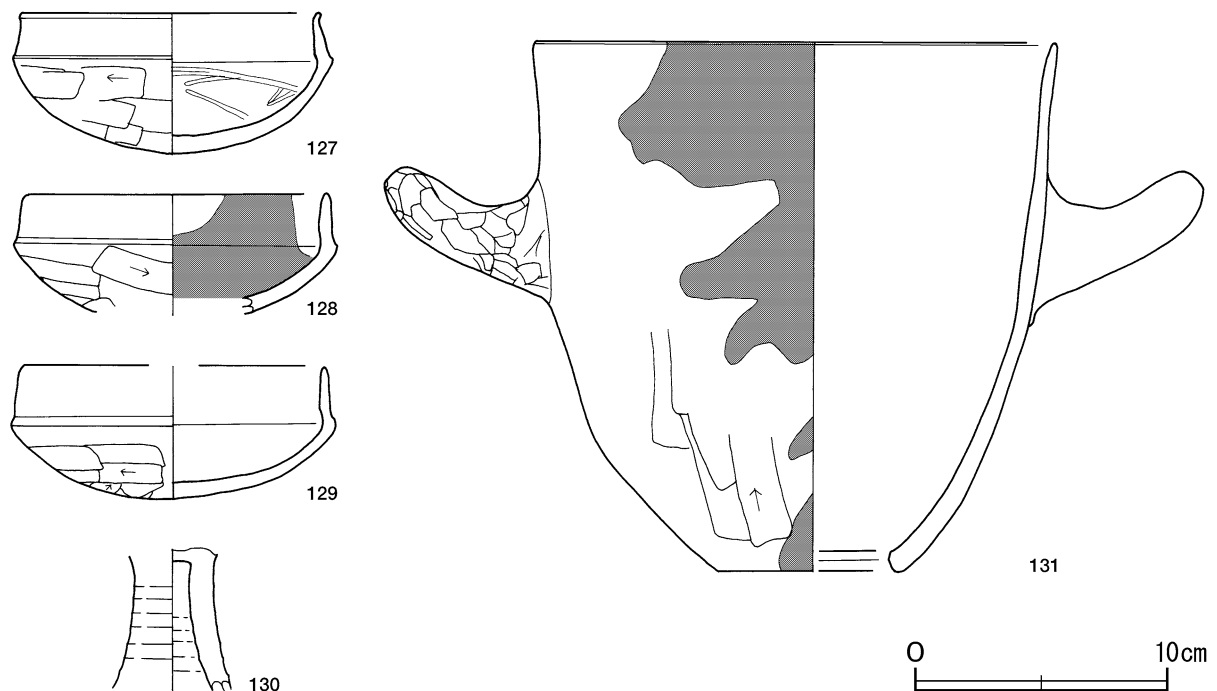
覆土 31層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

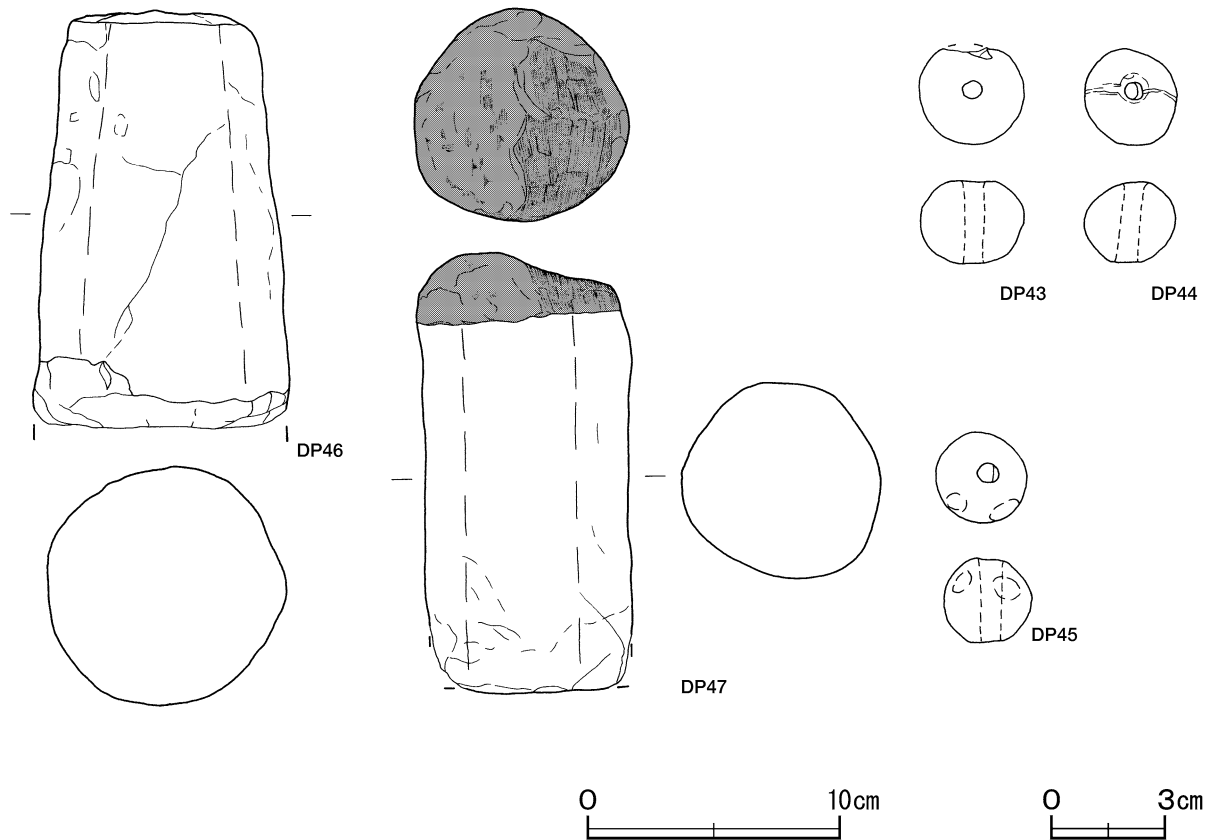
1 黒褐色	炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量	17 暗褐色	焼土ブロック・炭化物中量，粘土ブロック少量
2 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	18 にぶい黄褐色	粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
3 褐色	粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量	19 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，炭化物中量
4 暗褐色	粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	20 暗褐色	炭化粒子少量，焼土粒子微量
5 黒褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	21 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
6 暗褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	22 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，粘土ブロック・炭化物微量
7 暗褐色	粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量	23 黒褐色	炭化粒子中量，焼土粒子微量
8 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量，炭化物・焼土粒子微量	24 黒褐色	粘土ブロック中量，炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
9 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量	25 暗褐色	粘土ブロック中量，炭化粒子微量
10 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量	26 黒褐色	粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
11 黒褐色	炭化物少量，焼土ブロック微量	27 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
12 黒褐色	炭化粒子少量，焼土ブロック微量	28 暗褐色	粘土ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
13 暗褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	29 黒褐色	粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
14 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量	30 にぶい黄褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
15 暗褐色	粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量	31 灰黄褐色	粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
16 褐色	焼土ブロック・炭化物微量		

遺物出土状況 土師器片377点（坏49，甕326，甑1，ミニチュア土器1），須恵器片1点（高坏），土製品7点（球状土錘4，支脚3）が出土している。その他，混入した須恵器片30点も出土している。DP47は竈の火床面に据えられて出土しており，上面には多量の炭化物の付着が確認されている。127は竈内，DP45は貯蔵穴の覆土中層からそれぞれ出土している。131は中央部，DP46は北西壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見 焼土や炭化材が床面から出土していることから焼失住居の可能性が高い。時期は，出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第96図 第106号住居跡出土遺物実測図(1)



第97図 第106号住居跡出土遺物実測図(2)

第106号住居跡出土遺物観察表 (第96・97図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
127	土師器	坏	11.7	5.5	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面へラ削り 内面へラ磨き	竈内	100%
128	土師器	坏	11.9 (4.7)	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ 底部円形状に欠け 支脚転用カ	床面	85%
129	土師器	坏	[11.8]	5.3	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土中	60%
130	須恵器	高坏	-	(5.6)	-	長石・石英	黄灰	良好	脚部内・外面口クロナデ	覆土下層	30%
131	土師器	甌	20.6	20.9	7.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り 把手貼付後, ナデ	床面	70%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP43	球状土錘	2.7	2.2	0.5	(14.9)	長石・石英・雲母	丁寧なナデ 一方向からの穿孔 一部欠け	覆土中	
DP44	球状土錘	2.5	2.2	0.6	11.6	長石・石英・雲母	丁寧なナデ 一方向からの穿孔 焼成時の裂痕有り	覆土中	PL46
DP45	球状土錘	2.4	2.2	0.6	11.4	長石・石英・雲母	丁寧なナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	貯蔵穴	PL46

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP46	支脚	(16.5)	10.0	7.0	(1876.0)	長石・石英	ナデ 指頭痕 一部欠け	床面	
DP47	支脚	15.3	8.5	8.0	(1246.0)	長石・石英	ナデ 指頭痕 一部欠け 上面炭化物付着	竈内	

第109号住居跡 (第98・99図)

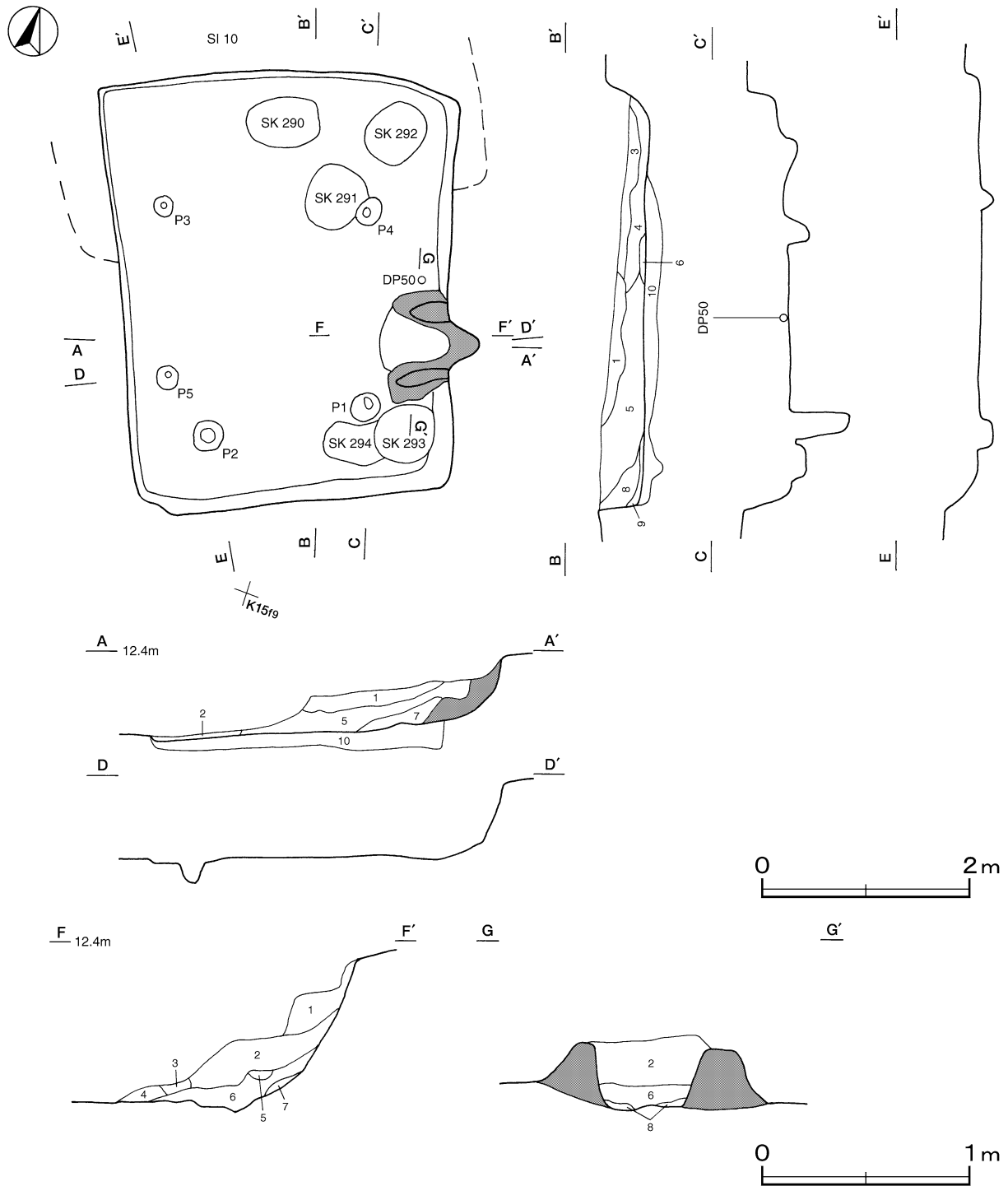
位置 調査区東部のK15e8区, 標高12.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 北部を第10号住居, 第290~292号土坑, 南東コーナー部付近を第293・294号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.20m，短軸3.45mの長方形で，主軸方向はN - 68° - Eである。壁高は12~45cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床である。貼床は，ローム粒子主体の黒褐色土を埋めて構築している。

竈 東壁の東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm，燃烧部幅45cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に粘土ブロックを積み上げて構築されている。火床部は床面を浅く掘りくぼめている。煙道部は壁外に15cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。



第98図 第109号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|--------|--------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗赤褐色 | 炭化粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | | |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ14～57cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ20cmで、西壁際の南寄りに位置し、竈と正対していることから、出入口施設に伴うピットとみられる。

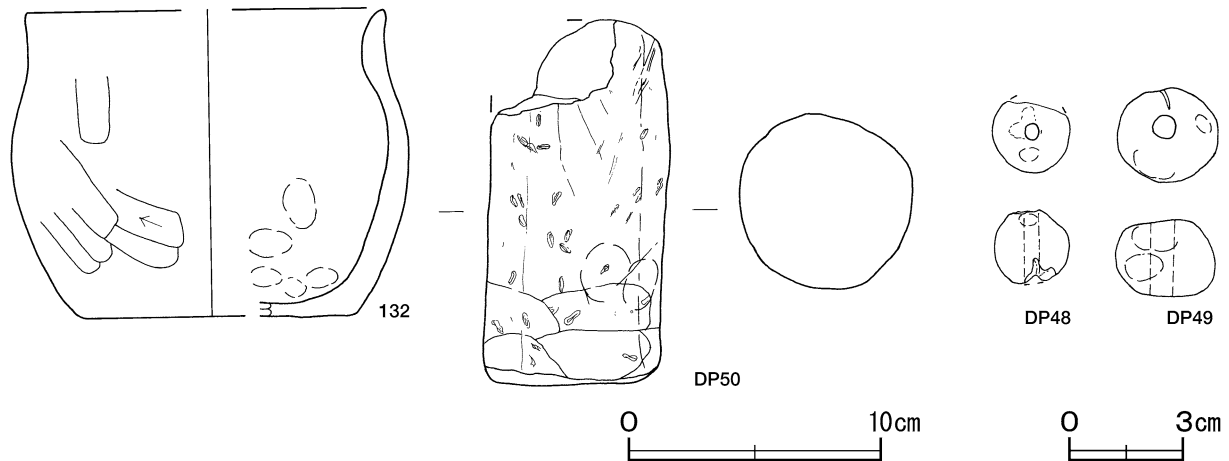
覆土 9層に分層できる。粘土ブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。第10層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------|----------|---------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 6 暗褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物中量, 粘土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量 | 8 暗褐色 | 焼土ブロック少量, 粘土ブロック・炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 9 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片371点(坏25, 高台付坏3, 甕342, 小形甕1), 土製品3点(球状土錘2, 支脚1)が出土している。その他、混入した須恵器片72点, 陶器片3点, 瓦片2点も出土している。DP50は東壁際の覆土下層から出土している。132は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第99図 第109号住居跡出土遺物実測図

第109号住居跡出土遺物観察表(第99図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
132	土師器	小形甕	[14.2]	12.2	[10.9]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り 内面指頭痕 内・外面器面荒れ	覆土中	30%
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特 徴		出土位置	備考	
DP48	球状土錘	2.0	1.9	0.4	(5.4)	長石・石英・赤色粒子	丁寧なナデ	指頭圧痕 一方向からの穿孔 一部欠け	覆土中		
DP49	球状土錘	2.6	2.0	0.4	12.7	長石・石英・赤色粒子	丁寧なナデ	指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中	PL45	
番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特 徴		出土位置	備考	
DP50	支脚	(14.4)	7.0	-	(699.0)	長石・石英・赤色粒子	ナデ	指頭圧痕 一部欠け 粗穀痕	覆土下層		

第111号住居跡（第100図）

位置 調査区北西部のI14j1区，標高12.5mの河岸段丘上位の傾斜部に位置している。

規模と形状 南側が削平されているため，北西・南東軸は2.75m，北東・南西軸は1.70mが確認できただけである。遺存する壁とピットから主軸方向がN - 58° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は25cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。焼土が北東壁付近で確認されている。

ピット 深さが30cmで，規模と位置から主柱穴である。

覆土 11層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

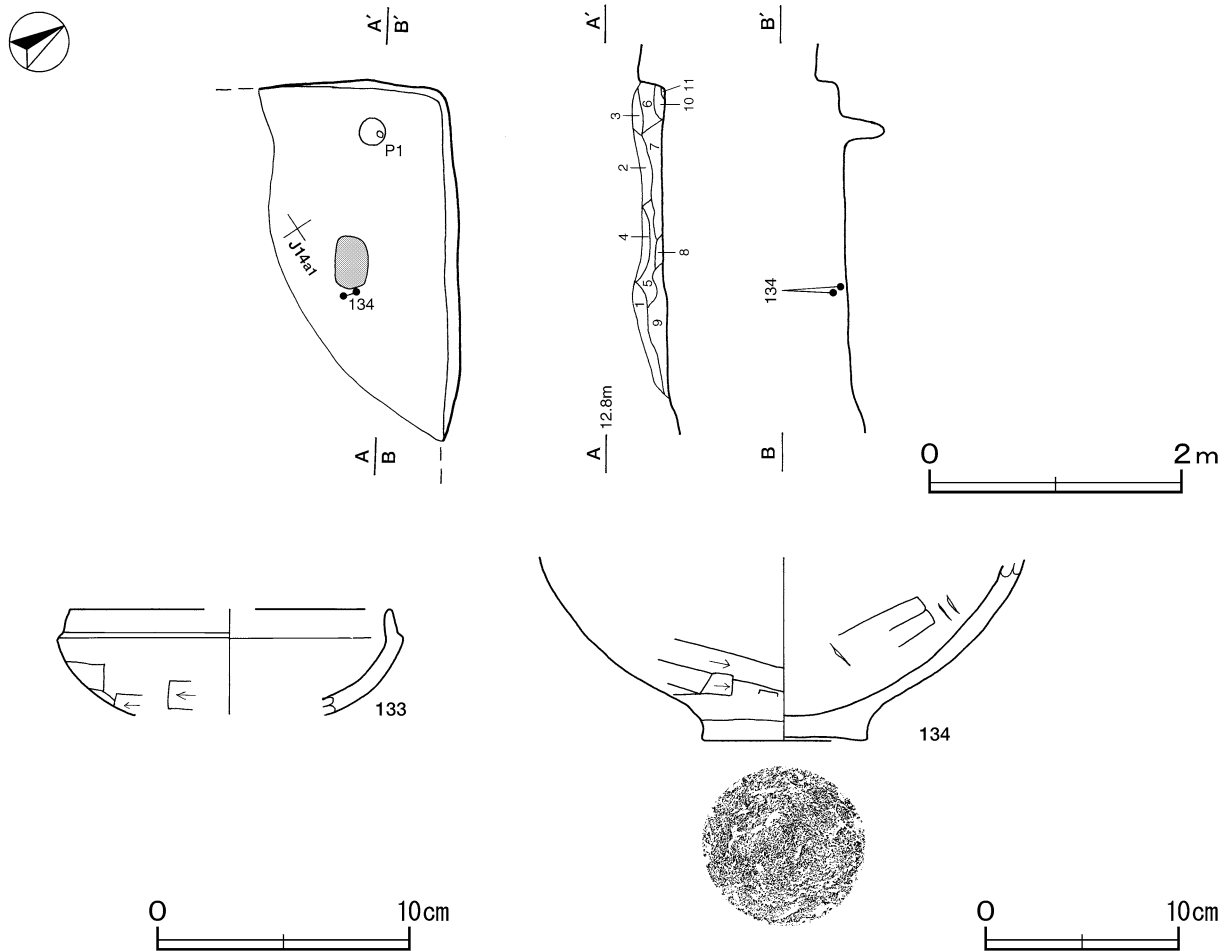
土層解説

1 褐色	粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量	7 灰黄褐色	焼土ブロック中量，炭化物少量
2 暗褐色	粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量	8 にぶい黄褐色	焼土ブロック中量，炭化物少量
3 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	9 暗褐色	粘土ブロック中量，炭化物少量，焼土ブロック微量
4 暗褐色	炭化物中量，焼土ブロック少量	10 黒褐色	炭化物多量，焼土ブロック中量
5 暗褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	11 にぶい黄褐色	炭化粒子少量，焼土ブロック微量
6 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量		

遺物出土状況 土師器片26点(坏3，甕23)が出土している。その他，混入した須恵器片1点も出土している。

133は覆土中，134は覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀前葉と考えられる。



第100図 第111号住居跡・出土遺物実測図

第111号住居跡出土遺物観察表（第100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
133	土師器	坏	[12.6]	(4.2)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外面へラ削り後，ナデ 内面ナデ	覆土中	10%
134	土師器	甕	-	(9.5)	8.6	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ	覆土下層	30%

第112号住居跡（第101・102図）

位置 調査区東部のJ15i4区，標高12.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

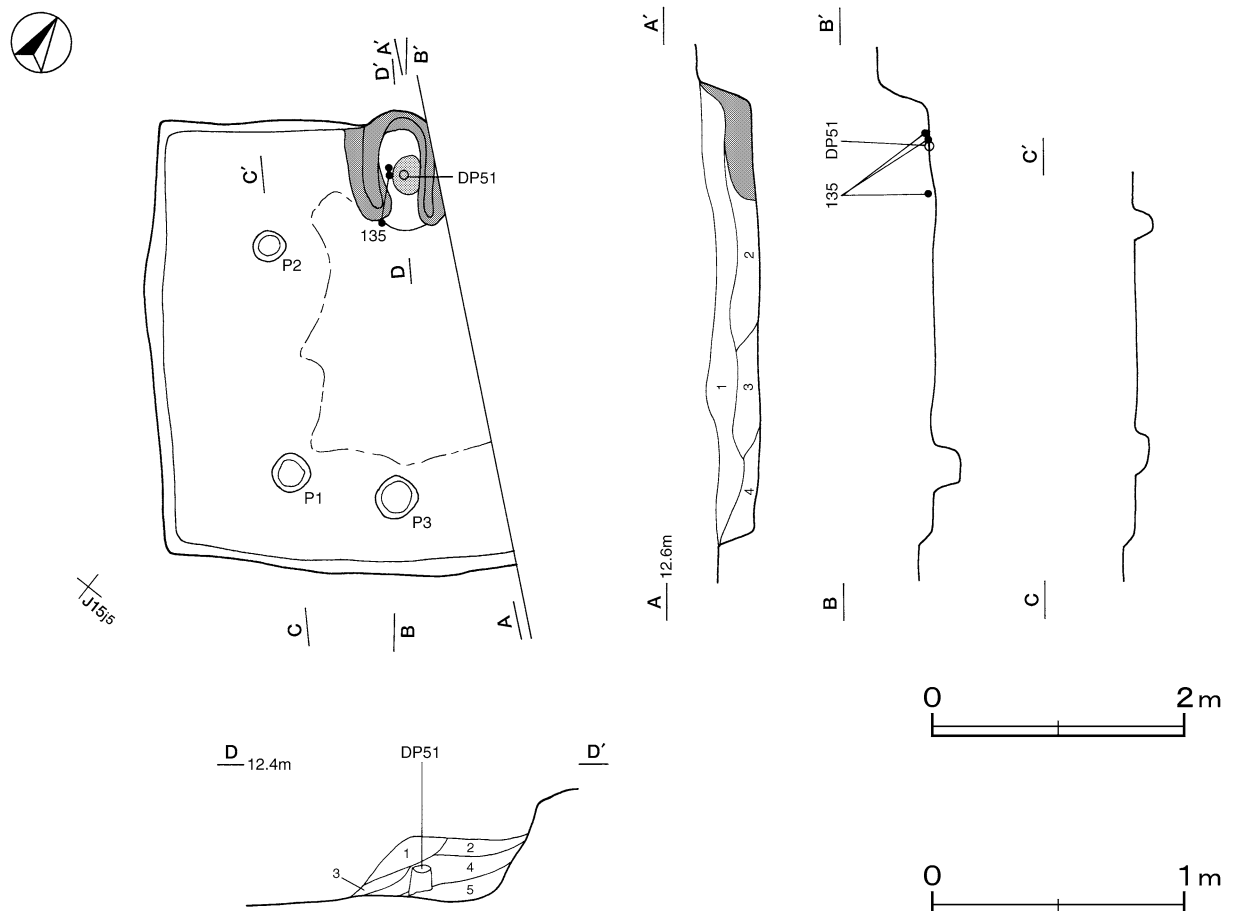
規模と形状 北東部が調査区域外へ延びているため，北西・南東軸は3.55mで，北東・南西軸は2.70mが確認されただけである。壁と竈から主軸方向がN - 42° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は10～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北西壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで86cm，燃烧部幅35cmである。火床部は床面を浅く掘りくぼめ，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------|----------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック少量，ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量，粘土ブロック微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック中量，炭化粒子微量 | | |



第101図 第112号住居跡実測図

ピット 3か所。P1・P2は深さが16cm・12cmで、規模と位置から支柱穴である。P3は深さ22cmで、南東壁際に位置しており、竈と正対していることから、出入り口施設に伴うピットとみられる。

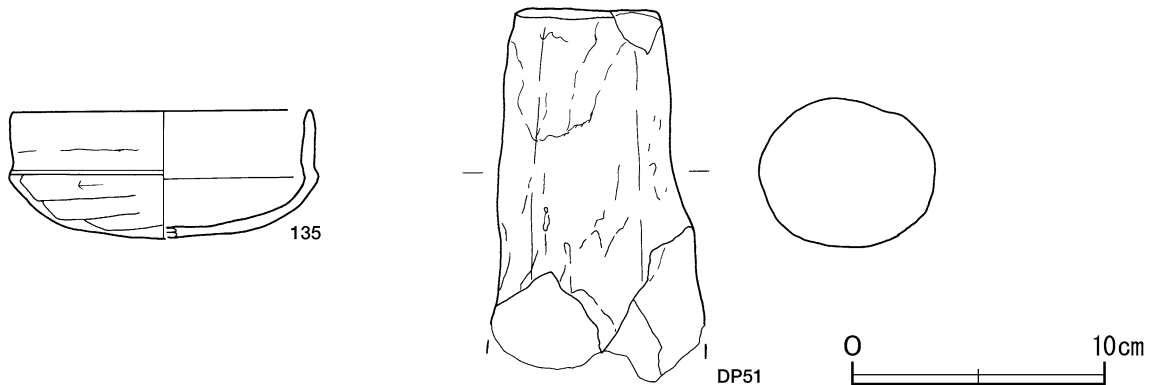
覆土 4層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 3 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック・砂粒少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・砂粒微量 | 4 褐色 | 粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片11点（坏1，甕10），土製品1点（支脚）が出土している。その他、混入した須恵器片10点も出土している。135は竈の火床部，DP51は竈の火床面に据えられて出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀前葉と考えられる。



第102図 第112号住居跡出土遺物実測図

第112号住居跡出土遺物観察表（第102図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
135	土師器	坏	11.8	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内・外面ヘラ削り後，ヘラナデ	竈内	80% PL26

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP51	支脚	(15.0)	8.4	5.7	(760.0)	長石・石英	ナデ 下部欠け	竈内	

第113号住居跡（第103・104図）

位置 調査区東部のK15c9区，標高12.5mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

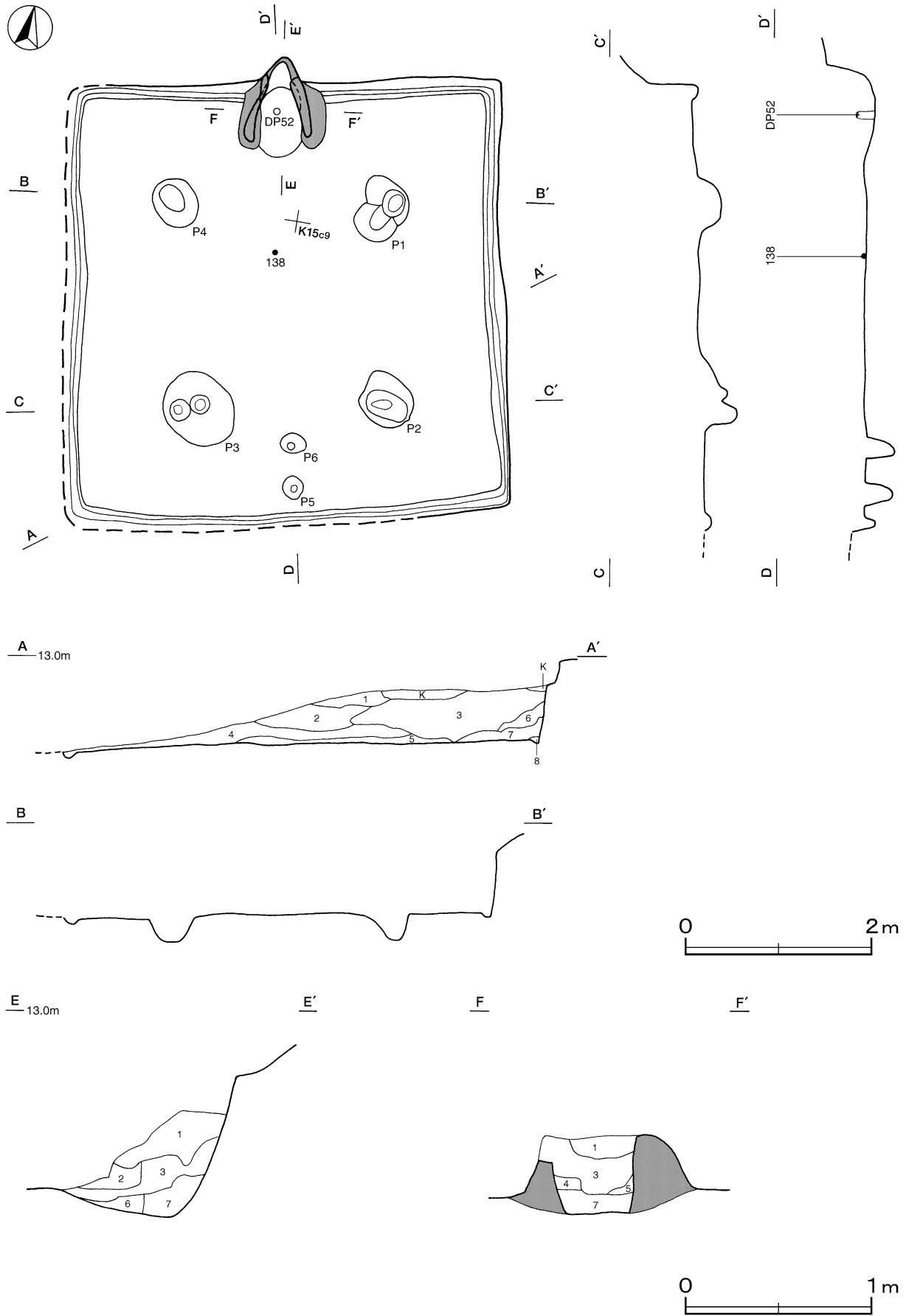
規模と形状 西部が削平されているため長軸4.75m，短軸は推定4.70mで，主軸方向がN-10°-Wの方形と推測される。壁高は30~70cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで102cm，燃烧部幅45cmである。袖部は地山を10cmほど掘り込んだ上に積み上げて構築されている。火床部は床面を30cmほど掘りくぼめている。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ，火床面からほぼ直立している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|----------|------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量 | 5 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物中量 |
| 2 灰黄褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック多量，炭化粒子中量 | 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物中量，焼土ブロック少量 | 7 灰黄褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物中量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化粒子少量 | | |



第103图 第113号住居跡実測图

ピット 6か所。P1～P4は深さ25～36cmで、規模と位置から主柱穴である。P3は柱穴痕が2か所確認されている。P5・P6は深さがそれぞれ30cmで、南壁の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットとみられる。

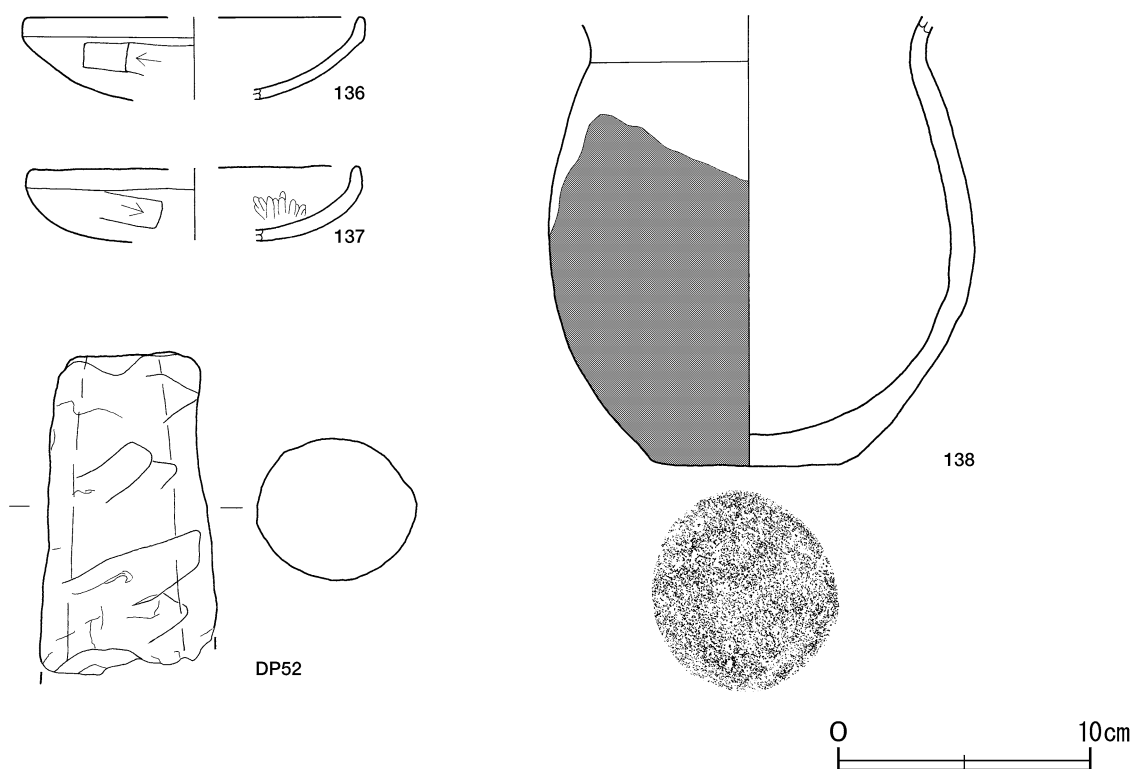
覆土 8層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 | 5 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック少量, 粘土ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 7 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 粘土ブロック多量, 炭化粒子中量, 焼土ブロック微量 | 8 黒褐色 粘土ブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片88点(坏16, 甕71, 甑1), 須恵器片3点(坏), 土製品1点(支脚)が出土している。その他, 混入した須恵器片4点も出土している。DP52は竈の火床面に据えられた状態で出土している。138は中央部の床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀中葉と考えられる。



第104図 第113号住居跡出土遺物実測図

第113号住居跡出土遺物観察表 (第104図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
136	土師器	坏	[13.3]	(3.3)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外面へら削り 内面ナデ	覆土中	30%
137	土師器	坏	[13.0]	(2.9)	-	長石・雲母	橙	普通	体部外面へら削り 内面放射状のへら磨き	覆土中	5%
138	土師器	甕	-	(17.9)	7.4	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部内・外面器面摩滅	床面	60%

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP52	支脚	(12.8)	6.9	5.2	(520.0)	長石・石英・赤色粒子	へらナデ 下部欠損	竈内	

表2 竪穴住居跡一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴					
2	I13f8	N-44°-W	[方形]	5.70 x (2.97)	19~60	平坦	一部	2	-	-	-	1	人為	土師器, 土製品	6世紀中葉	本跡→SI5	
3	J14d1	N-56°-W	長方形	4.92 x 4.42	15~54	平坦	一部	4	1	-	1	-	人為	土師器, 土製品, 石製品	7世紀前葉	SI6→本跡→SK61・71	
6	J14e1	N-52°-W	方形	4.13 x 3.87	18~38	平坦	-	-	1	3	-	-	人為	土師器, 土製品	6世紀後葉	本跡→SI3, SK61・71	
8	I13e2	N-34°-W	方形	6.07 x 6.04	20~72	平坦	(全周)	3	-	3	1	-	人為	土師器, 須惠器, 土製品, 金屬製品	6世紀中葉	本跡→SI7・19, SB5	
9	K16g2	N-35°-W	方形	4.43 x 4.25	20~43	平坦	ほぼ全周	4	1	-	1	-	人為	土師器, 須惠器	7世紀前葉	本跡→SK64	
10	K15d8	N-53°-E	[方形・長方形]	[4.12]x[4.10]	-	平坦	-	-	-	-	1	-	-	土師器	7世紀中葉	SI109→本跡→SK290~292	
11	K15i0	N-31°-W	長方形	3.36 x 2.57	20~40	平坦	一部	4	1	-	1	-	自然	土師器	7世紀前葉	本跡→SI12	
14	L16c3	N-28°-W	方形	5.82 x 5.68	12~40	平坦	一部	1	-	3	-	1	人為	土師器	4世紀	本跡→SI13・15, SK69	
15	L16c2	N-29°-W	方形	4.87 x 4.52	10~34	平坦	-	4	1	-	1	1	自然	土師器	6世紀前葉	SI14→本跡→SD10	
16	L16b5	N-36°-W	方形	2.86 x 2.80	10~32	平坦	-	-	-	-	1	-	自然	土師器	7世紀中葉		
17	L16d5	N-30°-E	方形	6.02 x 5.88	17~40	平坦	一部	4	1	-	1	1	自然	土師器	5世紀後葉	本跡→SI28	
18	I13e6	N-8°-E	方形	7.54 x 6.88	55~80	平坦	一部	3	-	1	-	-	人為	土師器, 土製品	7世紀前葉	本跡→SI5, SK68	
20	I13h0	N-53°-W	[方形・長方形]	[5.92]x[3.84]	9	平坦	-	2	1	5	1	-	不明	土師器	6世紀中葉	本跡→SK59, SD3・8	
22	K15c0	N-20°-W	[方形・長方形]	(4.25)x 4.04	12~18	平坦	一部	3	1	-	-	-	不明	土師器	6世紀中葉	本跡→SK358・366	
24	L16f6	N-59°-E	[方形・長方形]	4.84 x (3.92)	10~42	平坦	(全周)	2	1	-	1	-	自然	土師器, 土製品	6世紀前葉		
25	L16d8	N-33°-W	[方形・長方形]	5.92 x (3.20)	12~35	平坦	(全周)	2	-	-	炉1	-	自然	土師器	4世紀		
26	L16c8	N-58°-E	[方形・長方形]	5.04 x (3.73)	12	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器	7世紀前葉		
28	L16e4	N-38°-E	長方形	4.45 x 3.35	16~40	平坦	-	-	-	-	1	-	不明	土師器	7世紀後葉	SI17→本跡→SI27	
29	L16f5	N-117°-E	[方形・長方形]	(4.25)x(2.40)	40~42	平坦	-	2	-	-	1	-	自然	土師器	6世紀前葉	本跡→SI27・42	
30	J14f5	N-52°-W	方形	6.36 x 6.06	30~42	平坦	一部	4	1	3	1	-	自然	土師器, 土製品	6世紀中葉	本跡→SK88・89	
32	J14i7	N-43°-W	方形	3.80 x 3.56	10~18	平坦	一部	3	1	2	1	-	自然	土師器, 土製品	6世紀後葉	本跡→SI51・31, SK76・323	
34	J14j7	N-28°-W	方形	5.12 x 5.10	34~46	平坦	ほぼ全周	4	1	1	1	-	人為	土師器, 土製品	6世紀後葉	SI47→本跡	
37	L15f0	N-3°-W	[方形・長方形]	5.00 x (4.65)	8~16	平坦	一部	3	1	1	-	1	人為	土師器, 土製品	4世紀	本跡→UP4	
38	K14a9	N-42°-W	方形	7.12 x 6.70	10~47	平坦	一部	4	1	3	1	-	自然	土師器	7世紀後葉	本跡→SI33, SB6, 方形竪穴11, SK86, SE3, SD9	
42	L16f4	N-49°-W	[方形・長方形]	5.37 x (2.35)	54	平坦	一部	-	-	4	-	-	自然	土師器, 須惠器, 土製品	6世紀中葉	SI29→本跡→SD10	
43	J14h3	N-57°-W	[方形・長方形]	5.06 x (3.80)	8~44	平坦	一部	4	1	-	1	-	人為	土師器, 土製品	6世紀前葉	本跡→SI46	
44	J14j0	N-32°-W	[方形・長方形]	(5.40)x(4.18)	32~48	平坦	-	2	1	-	-	1	人為	土師器, 石器	6世紀前葉	本跡→SI38・41, 方形竪穴10・11, SK82・83, SD9	
47	J14j6	N-56°-E	方形	5.16 x 5.05	32~52	平坦	一部	4	1	1	1	1	人為	土師器, 須惠器, 土製品	6世紀前葉	本跡→SI34・48, SK104, SD10	
48	K14a5	N-34°-W	方形	4.82 x 4.76	12~40	平坦	一部	4	1	-	1	1	人為	土師器, 須惠器, 土製品, 石器	6世紀中葉	SI47→本跡→SI49, SK104	
49	J14j3	N-40°-W	方形	5.09 x 5.09	14~36	平坦	一部	4	1	-	-	-	人為	土師器, 石器	7世紀後葉	SI48・71→本跡→SI50	
51	J14h5	N-35°-W	[方形・長方形]	6.14 x (5.00)	40	平坦	一部	4	1	-	1	-	不明	土師器, 須惠器, 土製品	7世紀中葉	SI32→本跡→SI31, SK101	
54	K14b3	N-22°-W	方形	5.56 x 5.38	14~30	平坦	一部	4	-	-	1	-	人為	土師器	7世紀前葉	SI71→本跡→SI72, SK105	
55	L15j0	N-34°-W	方形	7.20 x 7.11	26~42	平坦	一部	3	1	-	2	2	人為	土師器, 須惠器, 土製品	6世紀後葉	SI77→本跡→SI56・60・64・67, SE4	
63	L16j2	N-18°-W	[方形・長方形]	(4.38)x(3.91)	8~14	平坦	一部	1	-	-	1	-	人為	土師器	6世紀中葉	本跡→SI61・64, SK111・112・128, 方形竪穴12	
65	L15e9	N-36°-W	[長方形]	[4.46]x 4.05	8~14	平坦	一部	-	-	-	炉1	-	人為	土師器	4世紀		
68	L16h1	N-40°-W	[方形・長方形]	[4.48]x[4.37]	30	平坦	-	-	-	-	1	-	不明	土師器	7世紀後葉	本跡→SI69・70, 方形竪穴13, UP7, SK115~118・121・131	
71	J14j3	N-20°-W	[方形・長方形]	6.42 x [6.40]	32~38	平坦	一部	4	1	-	1	-	人為	土師器, 須惠器	6世紀後葉	本跡→SI49・50・54・72, SK172	
74	L15e2	N-31°-W	[方形・長方形]	[4.30]x 4.10	8~25	平坦	一部	4	1	-	1	-	人為	土師器, 須惠器, 土製品	7世紀前葉		
75	L15c3	N-26°-W	方形	3.95 x 3.66	23~30	平坦	全周	-	1	-	1	-	人為	土師器, 土製品	7世紀前葉		
76	L15c1	N-29°-W	[方形・長方形]	4.70 x [4.60]	34~40	平坦	-	4	1	-	-	-	人為	土師器	6世紀後葉	本跡→SK132, SD11	
77	M16a1	N-33°-W	[方形・長方形]	4.97 x (3.50)	24~38	平坦	一部	4	-	-	-	-	人為	土師器, 土製品	4世紀	本跡→SI55・60・64, SK108~110	
78	L16h4	N-23°-W	[方形・長方形]	4.65 x (3.38)	15~40	平坦	-	2	-	-	-	-	人為	土師器	7世紀中葉	本跡→方形竪穴14, JUP6, 墓坑3, SK135・156	
95	K14c5	N-48°-W	[方形・長方形]	4.26 x [3.65]	5~20	平坦	一部	4	1	-	1	-	人為	土師器	6世紀後葉	本跡→SD12・15	
97	K14e7	N-45°-W	[方形・長方形]	4.87 x (3.80)	8~35	平坦	一部	4	1	-	1	-	人為	土師器, 須惠器	7世紀後葉	本跡→SI96, SD14	
98	K14i7	N-40°-W	[方形・長方形]	3.34 x (2.08)	10~13	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須惠器, 土製品	7世紀後葉	本跡→SI88~90, SK158	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
100	L15b5	N-18°-W	長方形	4.35 × 3.90	16~46	平坦	-	4	1	-	1	-	人為	土師器, 土製品	6世紀後葉	SK171→本跡→SK170・173
103	K14c8	N-50°-E	[方形・長方形]	9.00 × (2.13)	30~40	平坦	一部	4	-	-	1	1	人為	土師器, 須恵器, 土製品	6世紀前葉	本跡→方形竪穴15, SK196~199, SD10
106	K15b1	N-38°-W	方形	5.25 × 4.85	10~52	平坦	-	-	-	-	1	1	人為	土師器, 須恵器, 土製品	6世紀中葉	SK288→本跡→SI104, SK194, SD17
109	K15e8	N-68°-E	長方形	4.20 × 3.45	12~45	平坦	-	4	1	-	1	-	人為	土師器, 土製品	6世紀中葉	本跡→SI10, SK290~294
111	I14j1	N-58°-W	[方形・長方形]	(2.75)×(1.70)	25	平坦	-	1	-	-	-	-	人為	土師器	6世紀前葉	
112	J15i4	N-42°-W	[方形・長方形]	3.55 × (2.70)	10~30	平坦	-	2	1	-	1	-	人為	土師器, 土製品	6世紀前葉	
113	K15c9	N-10°-W	[方形]	4.75 × [4.70]	30~70	平坦	全周	4	2	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	7世紀中葉	

(2) 土坑

第172号土坑(第105図)

位置 調査区中央部のK14a4区, 標高8.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第71号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.92m, 短軸0.74mの長方形で, 長軸方向はN-9°-Wである。深さは18cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片5点(坏4, 甕1)が出土している。141~143は覆土下層から出土している。

所見 時期は出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。性格は不明である。

第325号土坑(第105図)

位置 調査区北部のJ13d8区, 標高9.5mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第1号堀に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.30m, 短径2.24mの円形である。深さは80cmで, 底面に深さ16cmのピットを有し, 壁面は外傾して立ち上がっている。

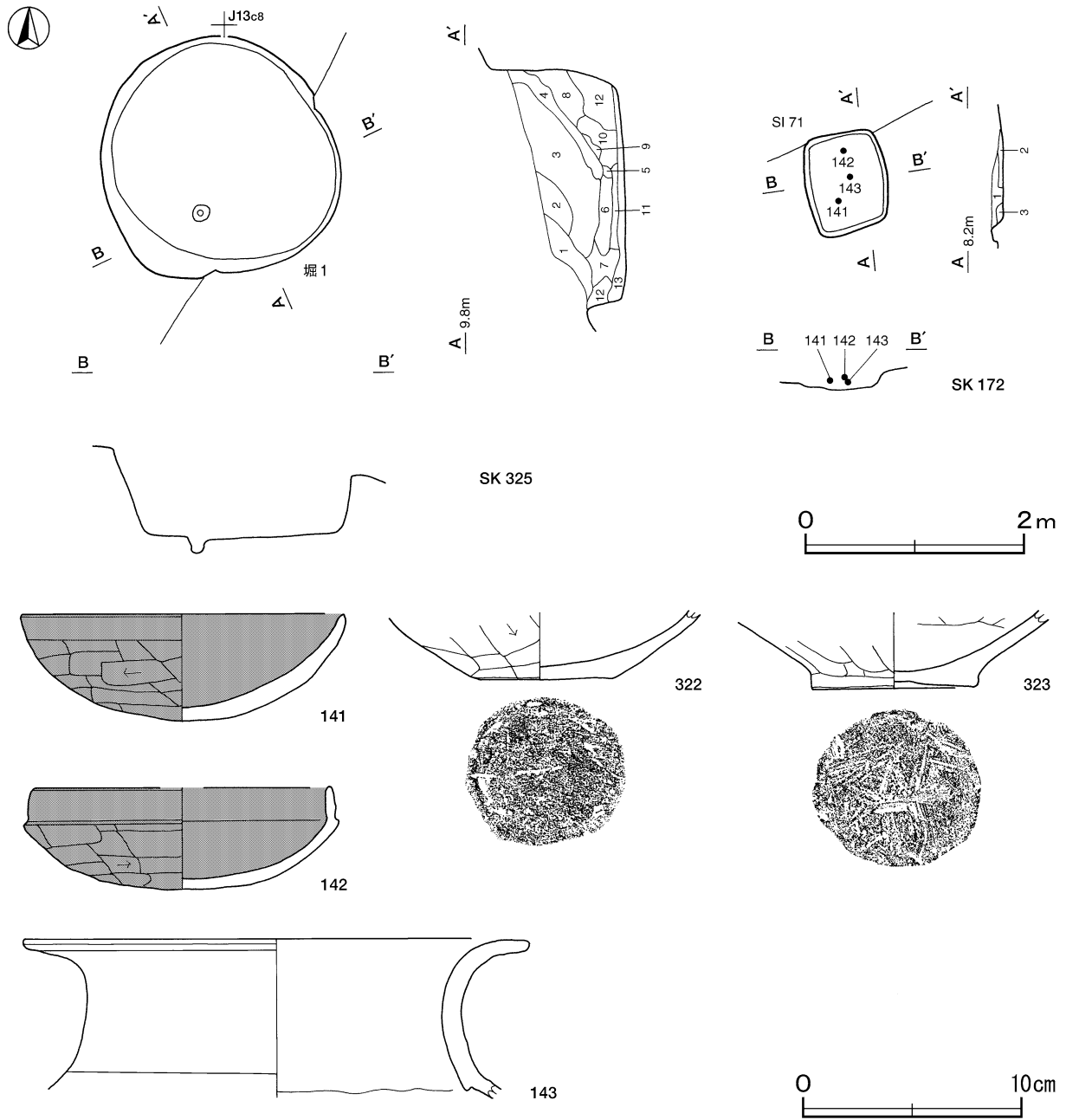
覆土 13層に分層できる。焼土ブロック・粘土ブロックや炭化物を含み, 不規則な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 8 褐色 | 粘土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | 粘土粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量, 粘土ブロック微量 | 10 にぶい暗褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, 粘土ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | 粘土粒子・炭化粒子少量 | 12 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 灰黄褐色 | 粘土ブロック・炭化物中量, 焼土粒子少量 |
| 7 暗褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片127点(坏・椀22, 甕103, 甗1, 手捏土器1)が出土している。322・323は覆土中から出土している。その他, 混入した須恵器片8点(坏4, 蓋1, 甕3)が覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器や重複関係から5世紀後葉と考えられる。性格は不明である。



第105図 第172・325号土坑・出土遺物実測図

第172号土坑出土遺物観察表（第105図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
141	土師器	坏	14.6	4.9	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面横位のヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	95% PL27
142	土師器	坏	[13.6]	4.7	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面横位のヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	70% PL26
143	土師器	甕	23.0	(7.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ	覆土下層	10%

第325号土坑出土遺物観察表（第105図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
322	土師器	甕	-	(3.1)	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部下端縦位のヘラ削り 内面ナデ 底部ヘラ削り	覆土中	5%
323	土師器	甕	-	(3.5)	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端縦位のヘラナデ 内面ヘラナデ 底部ヘラナデ	覆土中	5%

表3 土坑一覧表

番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
172	K14a4	N - 9° - W	長方形	0.92 × 0.74	18	平坦	外傾	人為	土師器	6世紀中葉	SI71→本跡
325	J13d8	-	円形	2.30 × 2.24	80	平坦 ピット有	外傾	人為	土師器	5世紀後葉	本跡→堀1

2 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡32軒、掘立柱建物跡3棟、土坑2基が確認されている。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第5号住居跡(第106～110図)

位置 調査区北西部のI13e7区、標高14.5mの河岸段丘上位の平坦部に位置している。

重複関係 第2・18号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北東部の大半が調査区域外へ延びているため、北西・南東軸は4.50mで、北東・南西軸は1.80mが確認できただけである。遺存する壁から主軸方向がN - 66° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は48～52cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が南コーナー部から南西壁まで確認されている。炭化材が床のほぼ全域から出土している。

ピット 2か所。P1・P2は深さ42cm・48cmで、規模と配置から支柱穴である。

覆土 10層に分層できる。大半の層にロームブロックや焼土ブロック、炭化材を含み不自然な堆積状況から埋め戻されている。

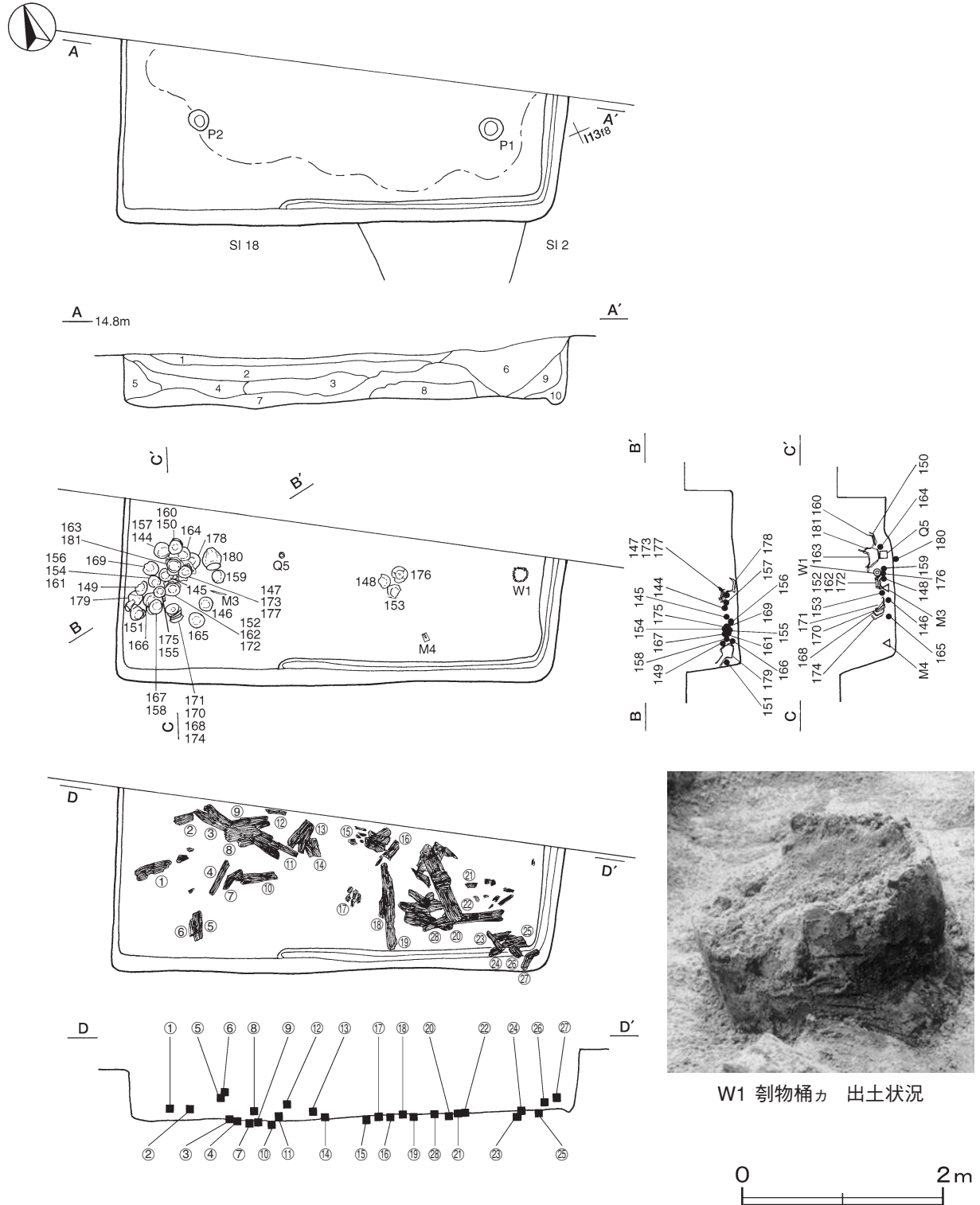
土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 にぶい黄褐色	炭化材多量 焼土ブロック中量、ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	7 にぶい黄褐色	ロームブロック・炭化材中量、焼土粒子少量
3 黒褐色	炭化材多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量	8 にぶい黄褐色	ロームブロック・炭化材多量、焼土ブロック少量
4 暗褐色	炭化材多量、ロームブロック中量、焼土粒子少量	9 褐色	炭化物・ローム粒子多量、焼土ブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化材中量、焼土粒子少量	10 暗褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化材中量

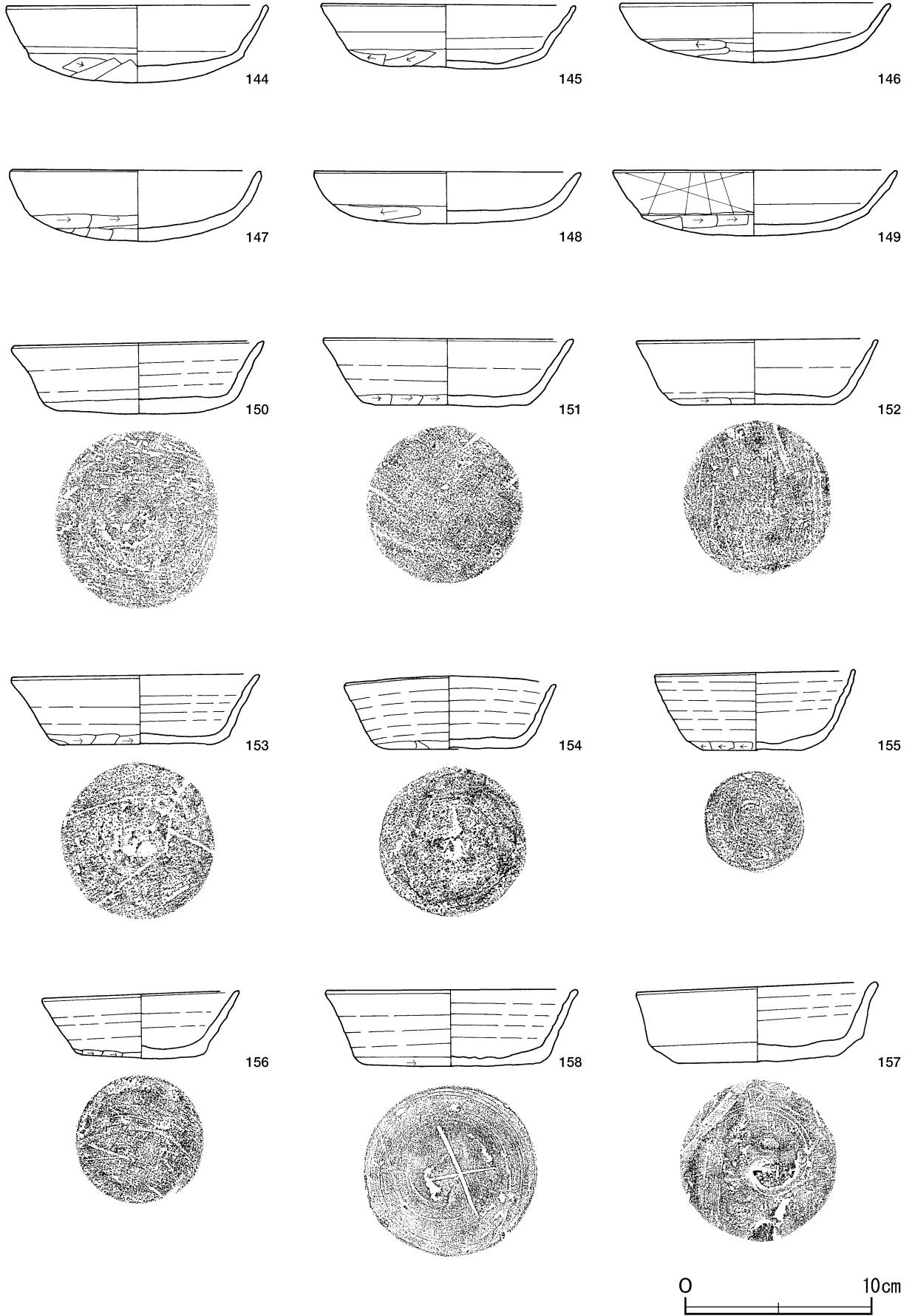
遺物出土状況 土師器片135点(坏20, 鉢1, 甕112, 小形甕2), 須恵器片50点(坏39, 蓋7, 捏鉢1, 長頸瓶1, 甕1, 香炉カ1), 土製品2点(支脚), 石製品1点(紡錘車), 金属製品2点(刀子, 鉄斧), 木製品1点(剝物桶カ)が中央部と南東壁際の床面および北西壁付近の覆土下層を中心に出土している。その他、炭化材が床面および覆土下層から出土している。W1は南東壁際の床面, 146・151・159・165・166・179・180は北西壁付近, 148・153・176・Q5は中央部, M4は南西壁付近の覆土下層からそれぞれ出土している。160・150, 147・173・177, 163・181はそれぞれ正位で, 171・170・168・174は正位から崩れた状態で, 152・162・172, 156・154・161, 167・158, 175・155はそれぞれ逆位で, 北西壁付近の覆土下層からそれぞれ重なった状態で出土している。炭化材は, ⑭は中央部, ⑰・⑱・⑳は南西壁付近, ㉑は南東部の床面, ㉒・㉓は南西壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。遺物の多くは焼失に伴い煤が付着している。

所見 炭化材が中央部から南東部までの床面, 北西壁付近の覆土下層で確認されていることから焼失住居である。北西壁付近では, 焼土や炭化材を含まない覆土の上に, 完形の土師器坏や小形甕あるいは須恵器坏などが正位や逆位で, 重ねられた状態で出土している。また, 炭化材がこれより上位で出土していることから, 不測

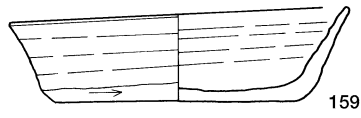
の焼失による廃絶と考えられる。時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。なお、住居構築材と思われる炭化材及び木製品・紐状炭化物については樹種同定を行い、ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節、イネ科タケ亜科、イネ科、及びバラ科サクラ属という分析結果を得ている（付章参照）。



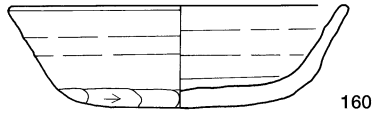
第106図 第5号住居跡実測図



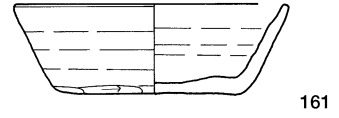
第107图 第5号住居跡出土遺物実測図(1)



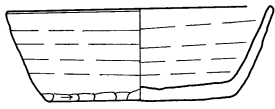
159



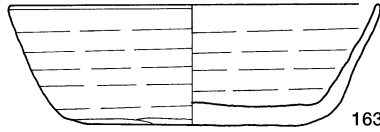
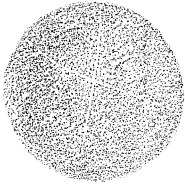
160



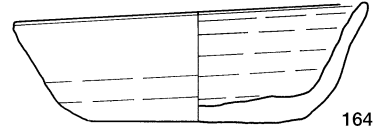
161



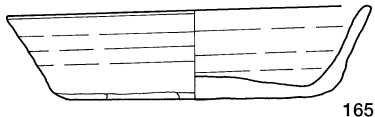
162



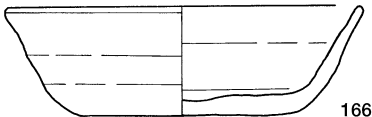
163



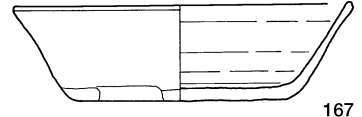
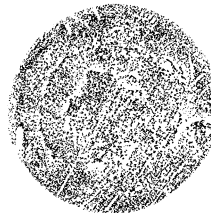
164



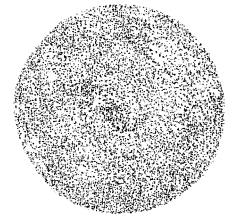
165



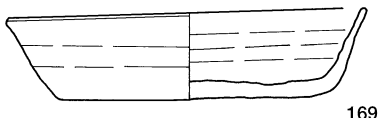
166



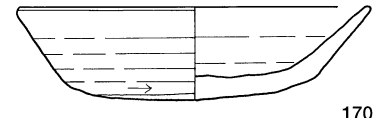
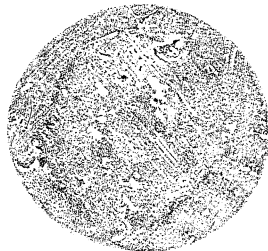
167



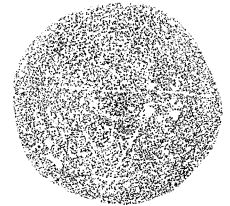
168



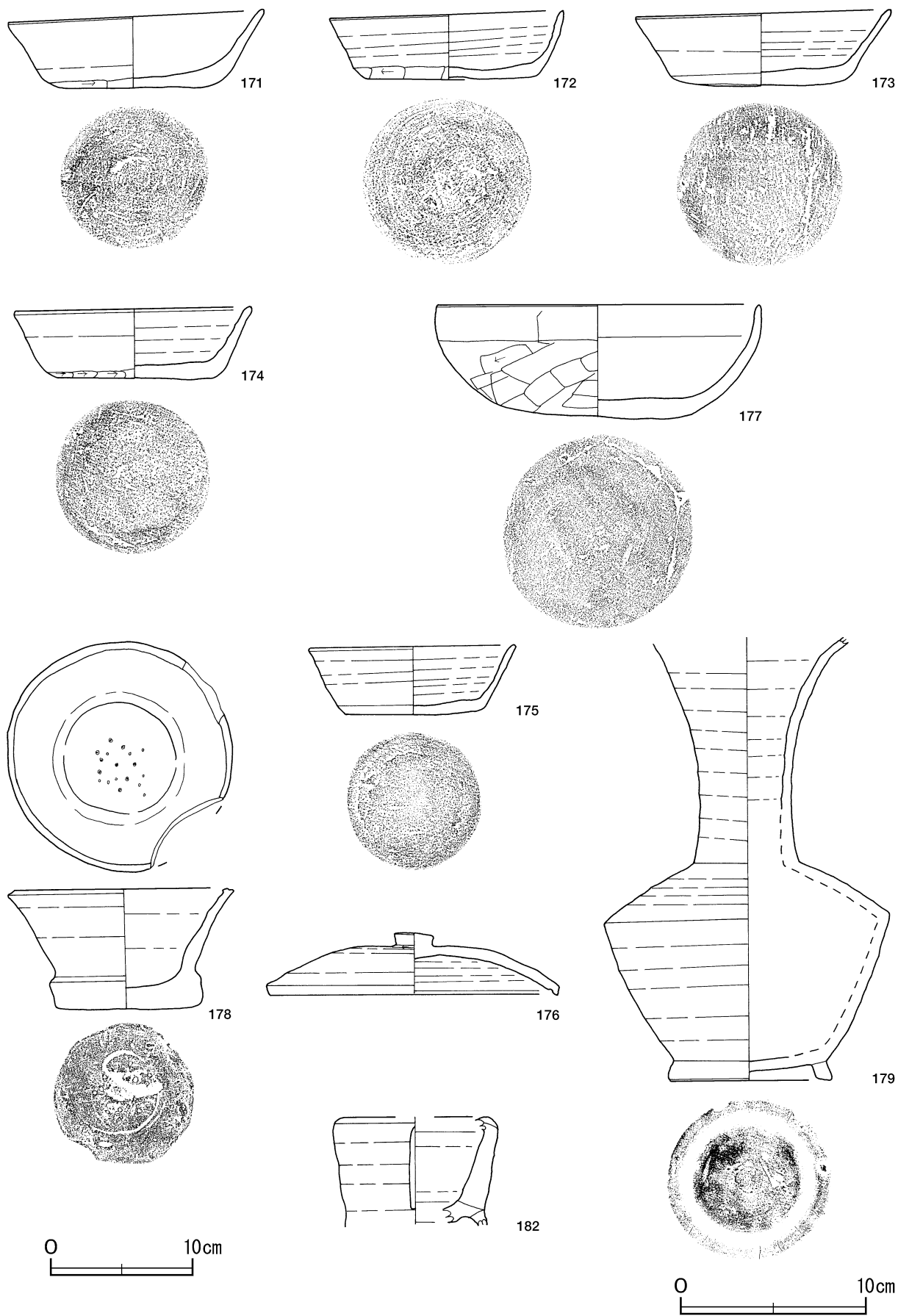
169



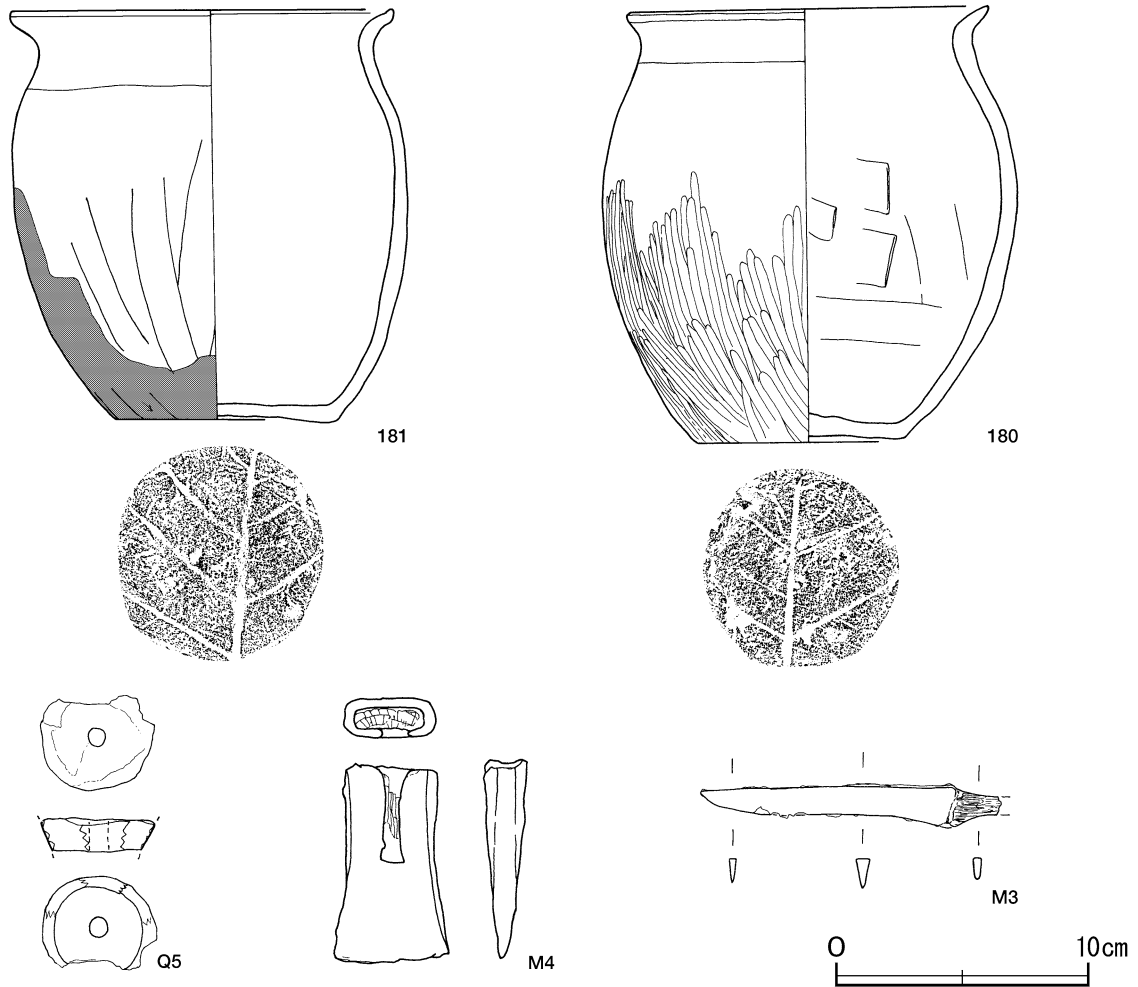
170



第108图 第5号住居跡出土遺物実測図(2)



第109图 第5号住居跡出土遺物実測図(3)



第110図 第5号住居跡出土遺物実測図(4)

第5号住居跡出土遺物観察表(第107~110図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
144	土師器	坏	14.0	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	100% PL27
145	土師器	坏	13.4	3.4	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部外面へら削り 二次焼成	覆土下層	100% PL28
146	土師器	坏	14.4	3.2	-	長石・石英	明赤褐	普通	底部外面へら削り 内面ナデ 二次焼成	覆土下層	95% PL28
147	土師器	坏	13.5	4.0	-	長石・石英	にぶい褐	普通	底部外面へら削り 内面ナデ 二次焼成	覆土下層	95% PL28
148	土師器	坏	14.2	2.8	-	長石・石英	橙	普通	底部外面へら削り 内面ナデ 二次焼成	覆土下層	90%
149	土師器	坏	15.1	3.5	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	底部外面へら削り 内面ナデ 二次焼成 刻書『』	覆土下層	65% PL28
150	須恵器	坏	13.7	4.0	9.4	長石・石英	灰	良好	底部回転へら切り痕を残す不定方向のへら削り	覆土下層	100%
151	須恵器	坏	13.2	3.6	8.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端へら削り 底部不定方向のへら削り 二次焼成	覆土下層	100% PL29
152	須恵器	坏	12.8	3.5	8.1	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端へら削り 底部不定方向のへら削り 二次焼成	覆土下層	100% PL29
153	須恵器	坏	13.3	3.8	8.5	長石・石英・雲母	灰黄	良好	体部下端へら削り 底部回転へら切り痕を残す不定方向のへら削り 二次焼成	覆土下層	95%
154	須恵器	坏	11.3	3.9	7.2	長石・石英	灰	良好	底部外周部不定方向のへら削り 中央部一方向のへら削り	覆土下層	100%
155	須恵器	坏	10.7	4.3	5.4	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端へら削り 底部回転へら削り	覆土下層	100% PL29
156	須恵器	坏	10.5	3.7	7.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部下端へら削り 底部不定方向のへら削り 二次焼成	覆土下層	100% PL30
157	須恵器	坏	12.8	4.2	8.5	長石・石英・雲母	灰白	良好	底部回転へら切り痕を残す不定方向のへら削り 二次焼成	覆土下層	100% PL29・43
158	須恵器	坏	13.3	4.2	9.4	石英・雲母	灰黄	良好	体部下端, 底部回転へら削り 底部外面へら書き『×』 二次焼成	覆土下層	95% PL29・43
159	須恵器	坏	13.3	3.8	9.5	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部下端, 底部回転へら削り 底部外面へら書き『×』 二次焼成	覆土下層	90% PL29・43
160	須恵器	坏	13.2	4.2	8.3	長石・石英・赤色粒子	黄灰	良好	体部下端へら削り 底部回転へら削り	覆土下層	95% PL29・43

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
161	須恵器	坏	10.6	3.6	6.9	長石・石英	灰	良好	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り ヘラ書き × _a 二次焼成	覆土下層	100% PL29・43
162	須恵器	坏	10.5	3.7	7.3	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端ヘラ削り 底部一方方向のヘラ削り 底部外面ヘラ書き × _a 二次焼成	覆土下層	95% PL43
163	須恵器	坏	14.6	4.8	8.2	長石・雲母	灰黄	良好	底部回転ヘラ削り後、雑なナデ	覆土下層	95% PL29
164	須恵器	坏	14.0	4.7	8.4	長石・石英・雲母	灰オリブ	良好	底部一方方向のヘラ削り 二次焼成	覆土下層	100% PL29
165	須恵器	坏	14.3	3.7	10.0	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り	覆土下層	100% PL29
166	須恵器	坏	13.8	4.4	8.7	長石・石英・雲母	暗灰黄	良好	底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り 二次焼成	覆土下層	90% PL29
167	須恵器	坏	13.4	3.9	8.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部一方方向のヘラ削り 二次焼成	覆土下層	100% PL30
168	須恵器	坏	14.2	4.4	7.0	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端ヘラ削り 底部外周回転ヘラ削り 中央一方方向のヘラ削り	覆土下層	95%
169	須恵器	坏	14.1	3.6	10.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	良好	底部外周不定方向のヘラ削り 中央一方方向のヘラ削り	覆土下層	90%
170	須恵器	坏	14.0	3.7	8.0	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 二次焼成	覆土下層	95%
171	須恵器	坏	13.5	4.2	8.0	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土下層	90%
172	須恵器	坏	12.5	3.9	9.2	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す回転ヘラ削り	覆土下層	100% PL30
173	須恵器	坏	13.6	4.2	8.7	長石・石英・雲母	灰	良好	底部不定方向のヘラ削り 二次焼成	覆土下層	80%
174	須恵器	坏	12.7	4.0	8.4	長石・石英	灰	良好	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り 二次焼成	覆土下層	100% PL30
175	須恵器	坏	11.0	4.9	7.3	長石・石英・雲母	黄灰	良好	底部回転ヘラ切り後、一方方向のヘラ削り 二次焼成	覆土下層	95% PL30
176	須恵器	蓋	15.5	3.3	-	長石・石英	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土下層	100% PL33
177	土師器	鉢	17.2	6.2	10.3	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後、ナデ 内面ナデ	覆土下層	90% PL36
178	須恵器	捏鉢	16.0	8.7	10.2	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り 一方方向からの穿孔 13孔	覆土下層	95% PL36
179	須恵器	長頸瓶	-	(23.9)	8.6	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け 二次焼成	覆土下層	85% PL37
180	土師器	小形甕	14.2	17.3	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積痕 底部木葉痕	床面	100% PL38
181	土師器	小形甕	15.2	16.7	8.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラナデ 下端ヘラ削り 内面ナデ 底部木葉痕 二次焼成	覆土下層	95% PL38
182	須恵器	香炉カ	-	(5.9)	7.4	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部内・外面口ロナデ 透し孔方向へのヘラ削り 3孔	覆土中	25% PL42

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 5	紡錘車	(4.5)	(1.4)	0.8	(23.5)	蛇紋岩	上部、側部一部欠け 側面に楔状の線刻	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 3	刀子	(11.7)	(1.6)	0.5	(10.3)	鉄	刃部断面三角形 茎部断面長方形 木質付着	覆土下層	PL49
M 4	鉄斧	8.0	4.5	1.7	(134.1)	鉄	方形の袋部を有し、刃部は幅広 袋部内木質付着	覆土下層	PL49

番号	種別	器種	口径	器高	底径	材質	特徴	出土位置	備考
W 1	木製品	割物桶カ	17.0	-	-	バラ科の樹木 (サクラ属)	円筒形 外面鑿状工具痕	床面	

第7号住居跡 (第111～113図)

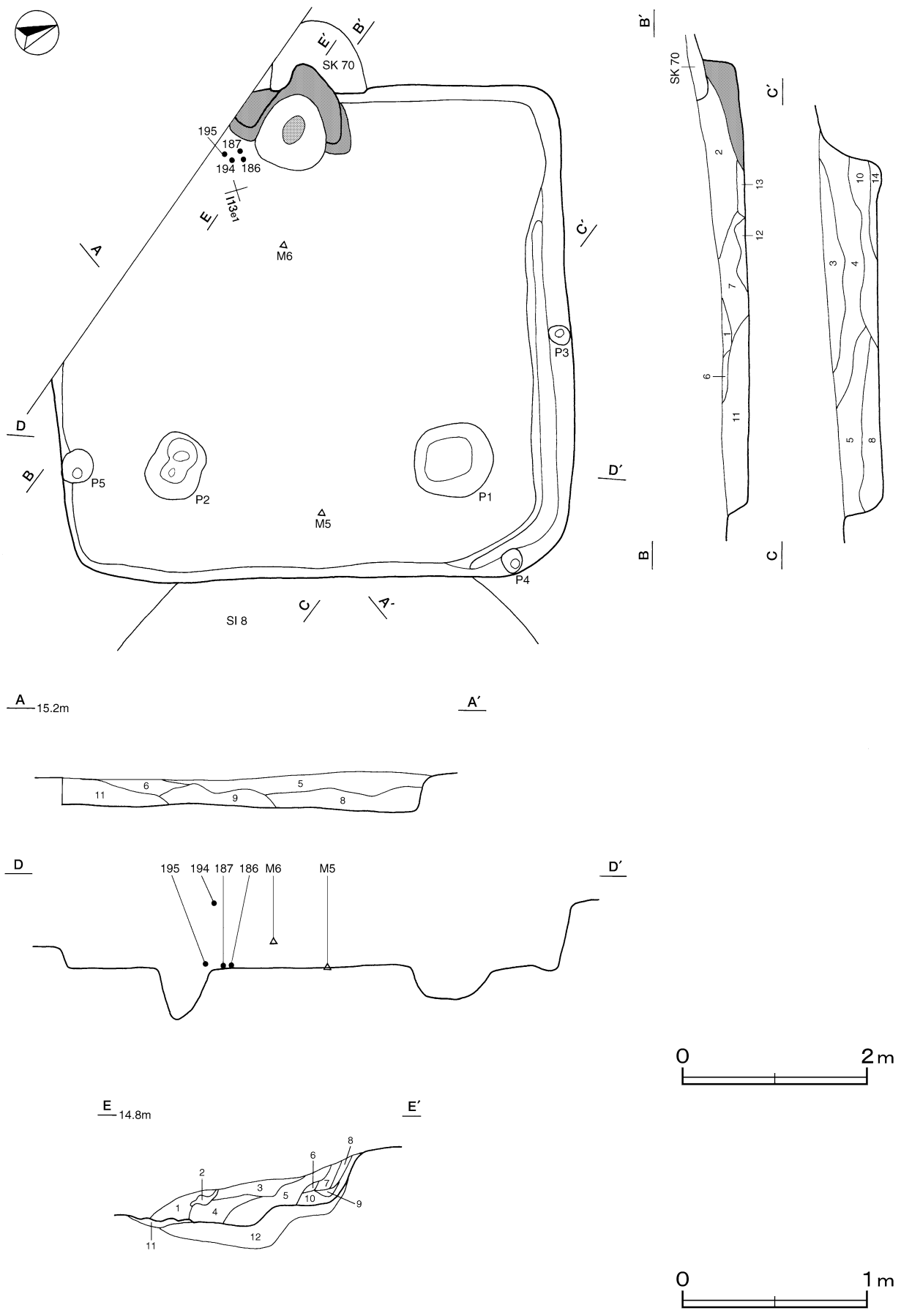
位置 調査区北西部の I 13d1区、標高15.0mの河岸段丘上位の平坦部に位置している。

重複関係 第8号住居跡を掘り込み、竈の煙道部を第7号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区域外へ延びているが、長軸5.65m、短軸5.25mで、主軸方向がN - 72° - Wの方形または長方形である。壁高は28～75cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。壁溝が北壁で確認されている。

竈 北西壁に付設されている。煙道部を第7号土坑に掘り込まれているため、規模は焚口部から煙道部まで110cm、燃烧部幅70cmが確認できただけである。袖部および燃烧部は地山を15cmほど掘り込んで、褐色土を埋土して構築されている。火床部は床面を浅く掘りくぼめ、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ20cm掘り込み、火床面から緩やかに外傾し立ち上がっている。第11・12層は掘方への埋土である。



第111图 第7号住居跡実測图

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------------|-----------|-------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量, 炭化物少量 | 6 褐色 | 炭化物微量 |
| 2 明赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量 |
| 3 褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 8 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック・炭化物少量 | 10 にぶい黄褐色 | 炭化粒子微量 |
| | | 11 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| | | 12 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |

ピット 5か所。P1・P2は深さ35cm・55cmで、規模と配置から主柱穴である。P3～P5は深さ25～56cmで、配列と規模から壁柱穴とみられる。

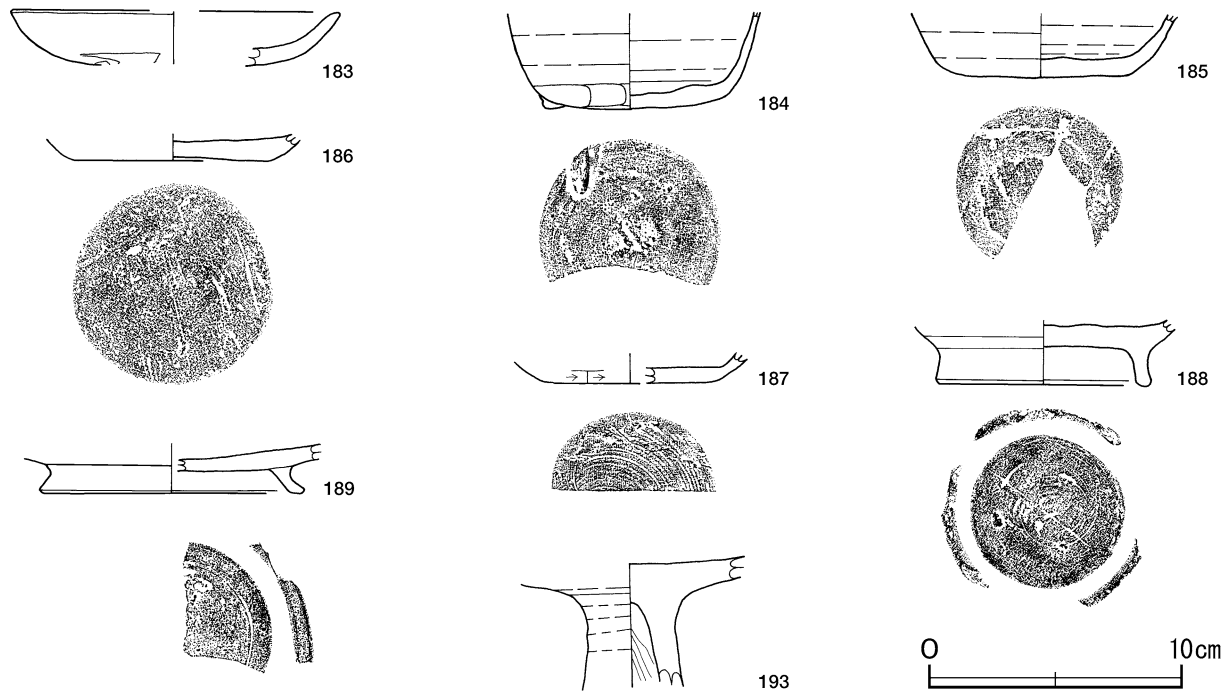
覆土 14層に分層できる。ロームブロック等を含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

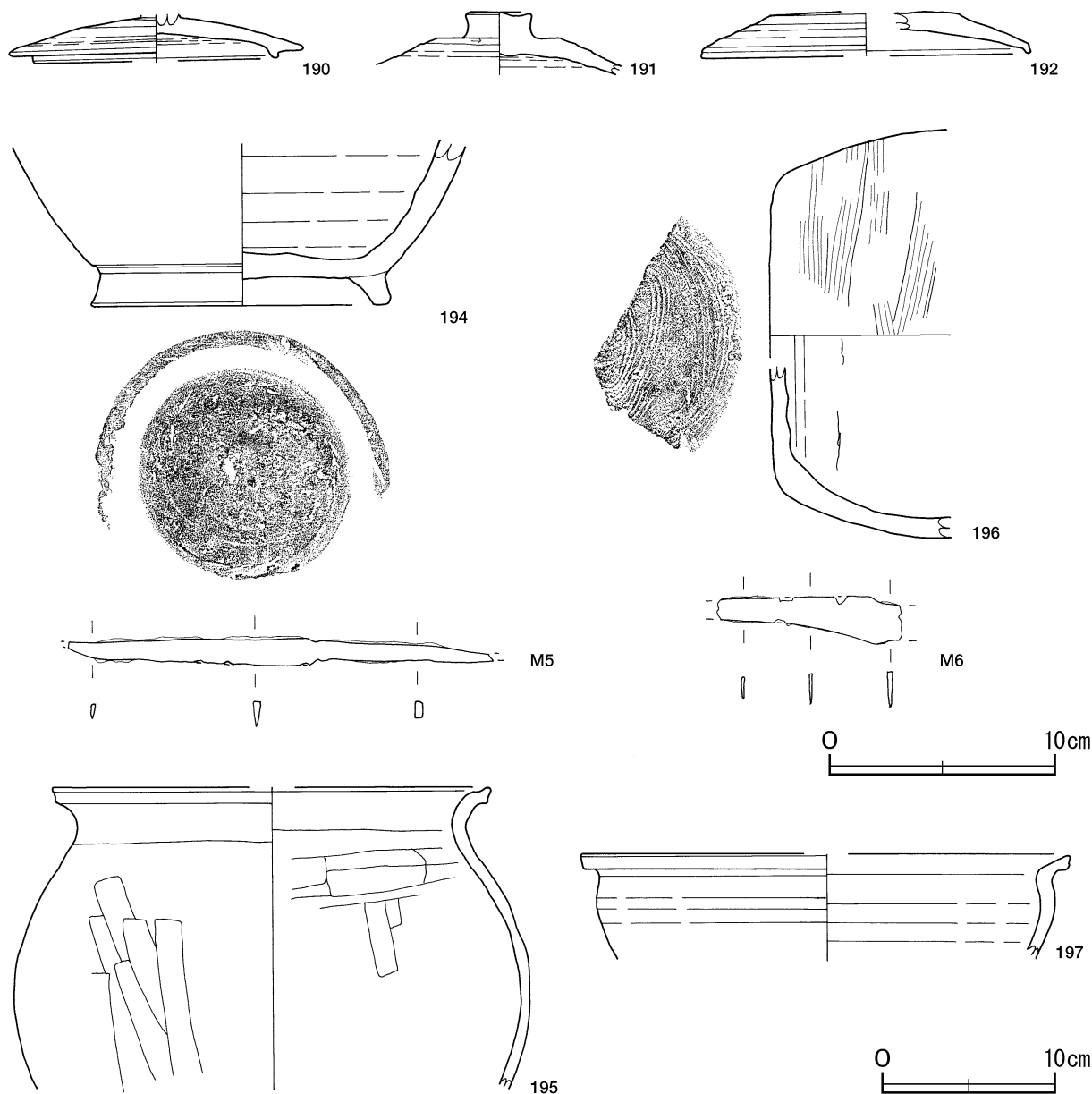
- | | | | |
|----------|-------------------------------------|-----------|-----------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 黄褐色 | ローム粒子多量 | 10 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量, 砂質粘土ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子少量, 砂質粘土ブロック微量 | 13 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 14 灰黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量 |
| 7 褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック多量, 炭化粒子少量 | | |
| 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土ブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片445点(坏43, 甕401, 小形甕1), 須恵器片58点(坏31, 高台付坏2, 蓋13, 高盤3, 鉢1, 短頸壺1, 横瓶カ1, 甕6), 土製品1点(管状土錘), 金属製品4点(刀子2, 不明2)が出土している。その他, 流れ込んだ縄文土器片6点, 混入した陶器片1点も出土している。186・187・195は竈付近, M5は南東壁付近の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第112図 第7号住居跡出土遺物実測図(1)



第113図 第7号住居跡出土遺物実測図(2)

第7号住居跡出土遺物観察表(第112・113図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
183	土師器	坏	[13.0]	(2.1)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラナデ底部ヘラ削り	覆土中	5%
184	須恵器	坏	-	(3.8)	7.3	長石・石英	灰白	良好	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土中	35%
185	須恵器	坏	-	(2.6)	6.6	長石・石英	灰	良好	底部一方向のヘラ削り	覆土中	30%
186	須恵器	坏	-	(1.1)	7.6	長石・石英・雲母	灰黄	良好	底部不定方向のヘラ削り	床面	30%
187	須恵器	坏	-	(1.2)	[6.5]	長石・石英	黄灰	良好	体部下端ヘラ削り 底部回転糸切り	床面	15%
188	須恵器	高台付坏	-	(2.6)	(8.2)	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ切り痕を残す高台貼り付け	覆土中	30%
189	須恵器	高台付坏	-	(2.0)	[10.2]	石英	灰	良好	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	覆土中	10%
190	須恵器	蓋	[10.8]	(2.0)	-	長石・石英・雲母	灰オリーブ	良好	天井部回転ヘラ削り後, つまみ貼り付け	覆土中	50%
191	須恵器	蓋	-	(2.8)	-	長石・石英	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後, つまみ貼り付け	覆土中	20%
192	須恵器	蓋	[14.4]	(2.0)	-	長石・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%
193	須恵器	高盤	-	(5.1)	-	長石・石英・雲母	灰	良好	外面口クロナデ 脚部内面ヘラ削り	覆土中	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
197	須恵器	鉢	[28.2]	(6.2)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	良好	体部内・外面口クロナデ	覆土中	5 %
194	須恵器	短頸壺	-	(7.3)	13.2	石英	浅黄	良好	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	覆土上層	10%
196	須恵器	横瓶カ	-	(18.2)	-	長石・石英・雲母	灰黄	良好	体部外面掻き目調整 内面ヘラナデ	覆土中	10%
195	土師器	甕	[25.4]	(17.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 5	刀子	(18.9)	1.2	0.4	(20.3)	鉄	断面三角形	床面	PL49
M 6	刀子	(8.2)	2.2	0.3	(7.7)	鉄	断面三角形	覆土中層	PL49

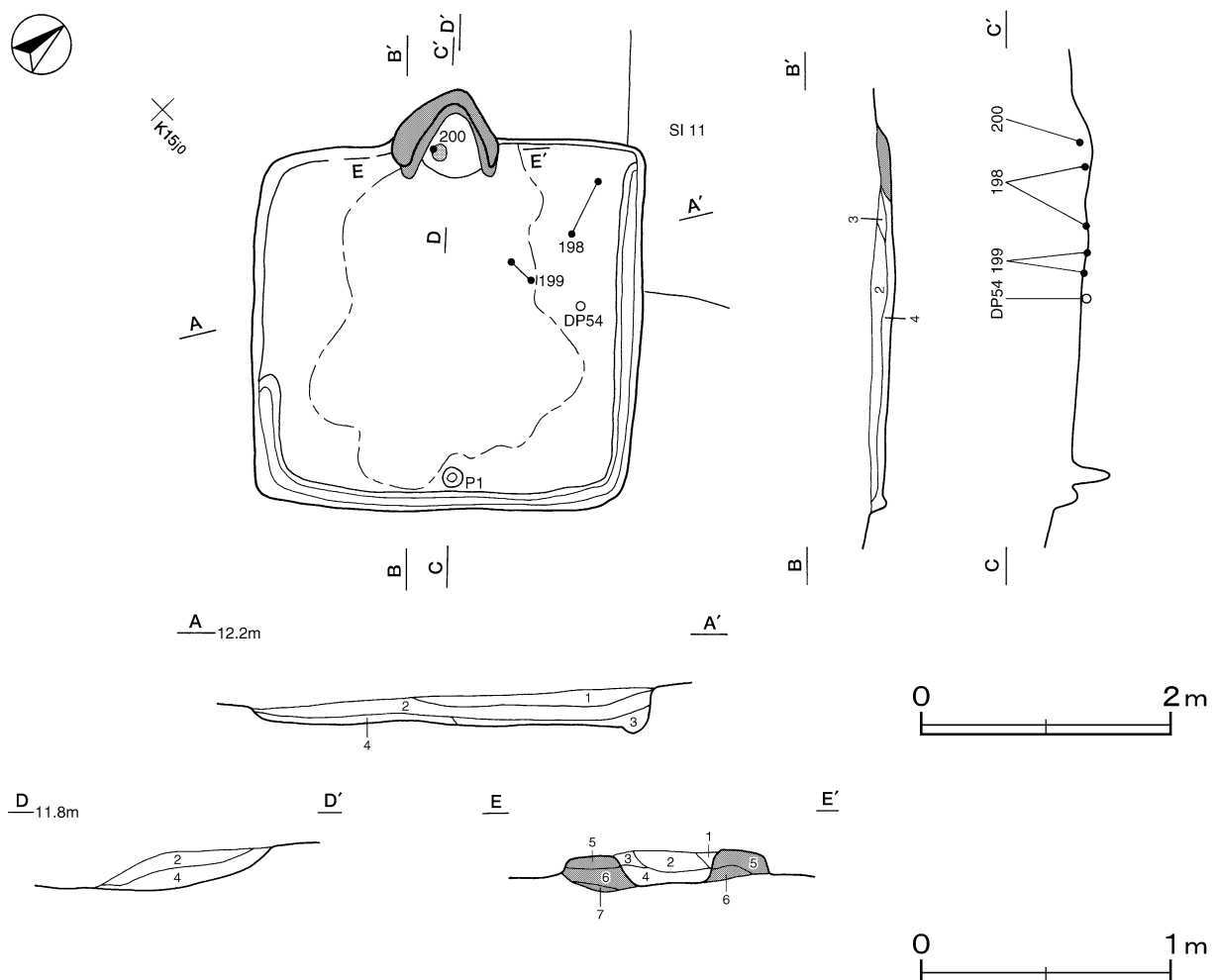
第12号住居跡 (第114・115図)

位置 調査区南東部のK15i0区, 標高12.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第11号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.12m, 短軸2.97mの方形で, 主軸方向はN - 35° - Wである。壁高は13~32cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝が北東壁から南コーナー部まで確認されている。



第114図 第12号住居跡実測図

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで58cm，燃烧部幅50cmである。袖部および燃烧部は地山を12cmほど掘り込んで，黒褐色土を積み上げて構築されている。第5～7層は袖部の構築土である。火床部は床面を浅く掘りくぼめ，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 黒褐色 炭化物・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量 | 6 黒褐色 粘土粒子中量 |
| 3 暗褐色 砂質粘土ブロック少量 焼土ブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量 | |

ピット 深さ30cmで，南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットである。

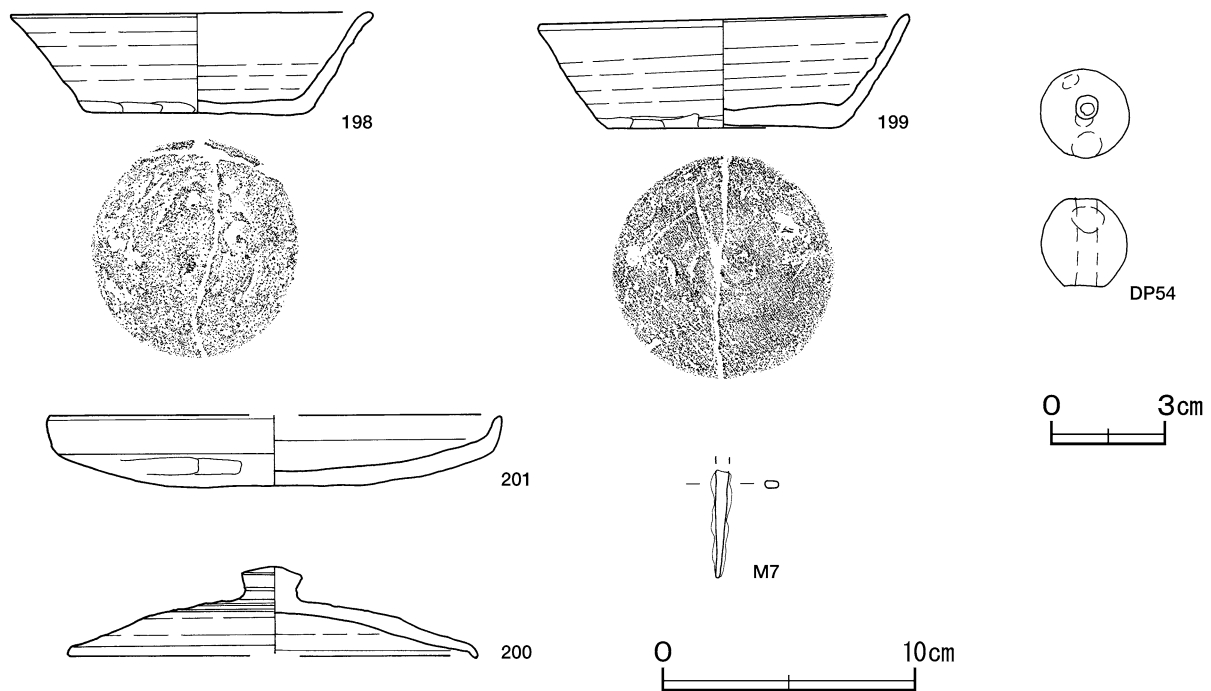
覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 砂質粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片89点（坏4，椀6，皿1，甕78），須恵器片7点（坏3，高台付坏3，蓋1），土製品4点（球状土錘1，支脚3），金属製品1点（釘）が出土している。200は竈の火床部から出土している。198は北コーナー部，199は中央部，DP54は北東壁付近の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第115図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表（第115図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
198	須恵器	坏	14.3	4.1	8.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り 二次焼成	床面	80%
199	須恵器	坏	14.6	4.5	9.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄	良好	底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り 二次焼成	床面	75% PL30

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
200	須恵器	蓋	[16.2]	3.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	良好	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	竈火床部	10%
201	土師器	皿	[18.0]	2.9	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中	60% PL34

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP54	球状土錘	2.3	2.3	0.5	12.8	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	床面	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M 7	釘	(4.3)	0.6	0.4	(3.1)	鉄	角釘 断面長方形	覆土中	PL49

第13号住居跡（第116・117図）

位置 調査区南東部のL16d4区，標高13.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第14号住居跡を掘り込み，北西コーナー部を第69号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.37m，短軸3.34mの方形で，主軸方向はN - 7° - Wである。壁高は20～40cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。貼床は，粘土ブロックを主体とする暗褐色土を埋めて構築されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで75cm，燃烧部幅40cmである。袖部および燃烧部は床面とほぼ同じ高さの地山を10cmほど掘り込んで，黒褐色土の上ににぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。第9層は袖部の構築土，第10・11層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック多量，炭化粒子・焼土粒子少量	6	にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子微量
2	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	7	黒 色	焼土ブロック・炭化物中量
3	にぶい黄褐色	焼土粒子中量，炭化粒子少量	8	黒 褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子微量
4	黒 褐色	砂質粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量	9	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック・細礫多量
5	黒 褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量	10	にぶい黄褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
			11	黒 褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は深さ45～48cmで，規模と配置から支柱穴である。P5は深さ14cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。

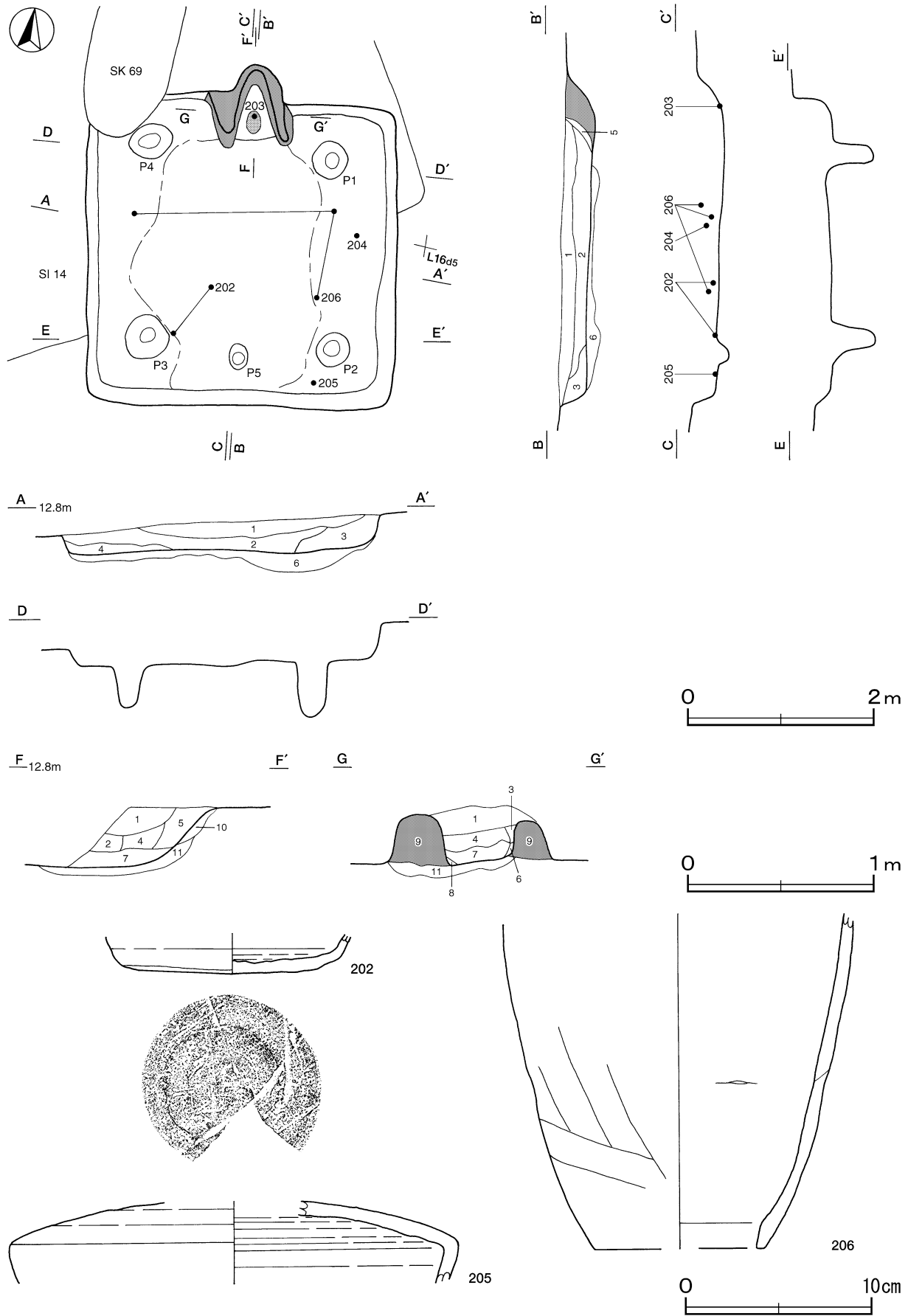
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。第6層は貼床の構築土である。

土層解説

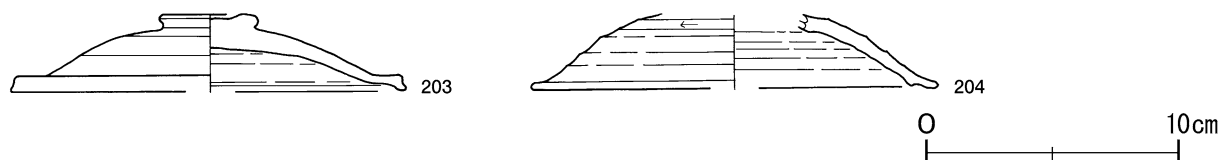
1	黒 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量	5	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子中量
2	黒 褐色	炭化粒子少量，ロームブロック微量	6	暗 褐色	粘土ブロック少量，ロームブロック微量
3	黒 褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量			
4	黒 褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片290点（坏37，蓋1，高坏2，甕248，甗2），須恵器片10点（坏2，蓋5，長頸瓶1，甕2）が出土している。203は竈の火床部から出土している。202は中央部，205は南壁付近の床面からそれぞれ出土している。206は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第116图 第13号住居跡・出土遺物実測図



第117図 第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表 (第116・117図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
202	須恵器	坏	-	(2.2)	10.0	長石・石英・雲母	灰白	良好	底部回転ヘラ切り	床面	45%
203	須恵器	蓋	[15.5]	3.0	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	竈火床部	60%
204	須恵器	蓋	[15.9]	(2.9)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	30%
205	須恵器	長頸瓶	-	(4.4)	-	長石・石英	灰黄	良好	体内内・外面口口ロナデ	床面	5%
206	土師器	甌	-	(18.1)	[8.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体外外面ヘラ削り 内面ナデ 輪積痕	覆土下層	20%

第23号住居跡 (第118・119図)

位置 調査区東部のJ15j3区, 標高12.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

規模と形状 長軸4.54m, 短軸4.30mの方形で, 主軸方向はN-30°-Wである。壁高は15~46cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 粘土ブロックを主体とする黒褐色土を埋めて構築されている。壁溝が全周している。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで78cm, 燃焼部幅50cmである。袖部および燃焼部は地山を18cmほど掘り込んで, にぶい黄褐色土の上に暗赤褐色土を積み上げて構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ, 火床面から外傾し立ち上がっている。第7・8層は袖部の構築土, 第9層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	砂粒少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物・砂粒微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	6	黒褐色	ローム粒子・砂粒少量, 焼土ブロック微量
3	暗褐色	砂粒中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	7	暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量, 炭化物・焼土粒子少量
4	にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量	8	暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
			9	にぶい黄褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1~P4は深さ53~75cmで, 規模と配置から主柱穴である。P5は深さ8cmで, 南東壁際の中央部に位置していることから, 出入口口施設に伴うピットである。

覆土 17層に分層できる。ブロック状の不自然な堆積状況から埋め戻されている。第18層は貼床の構築土である。

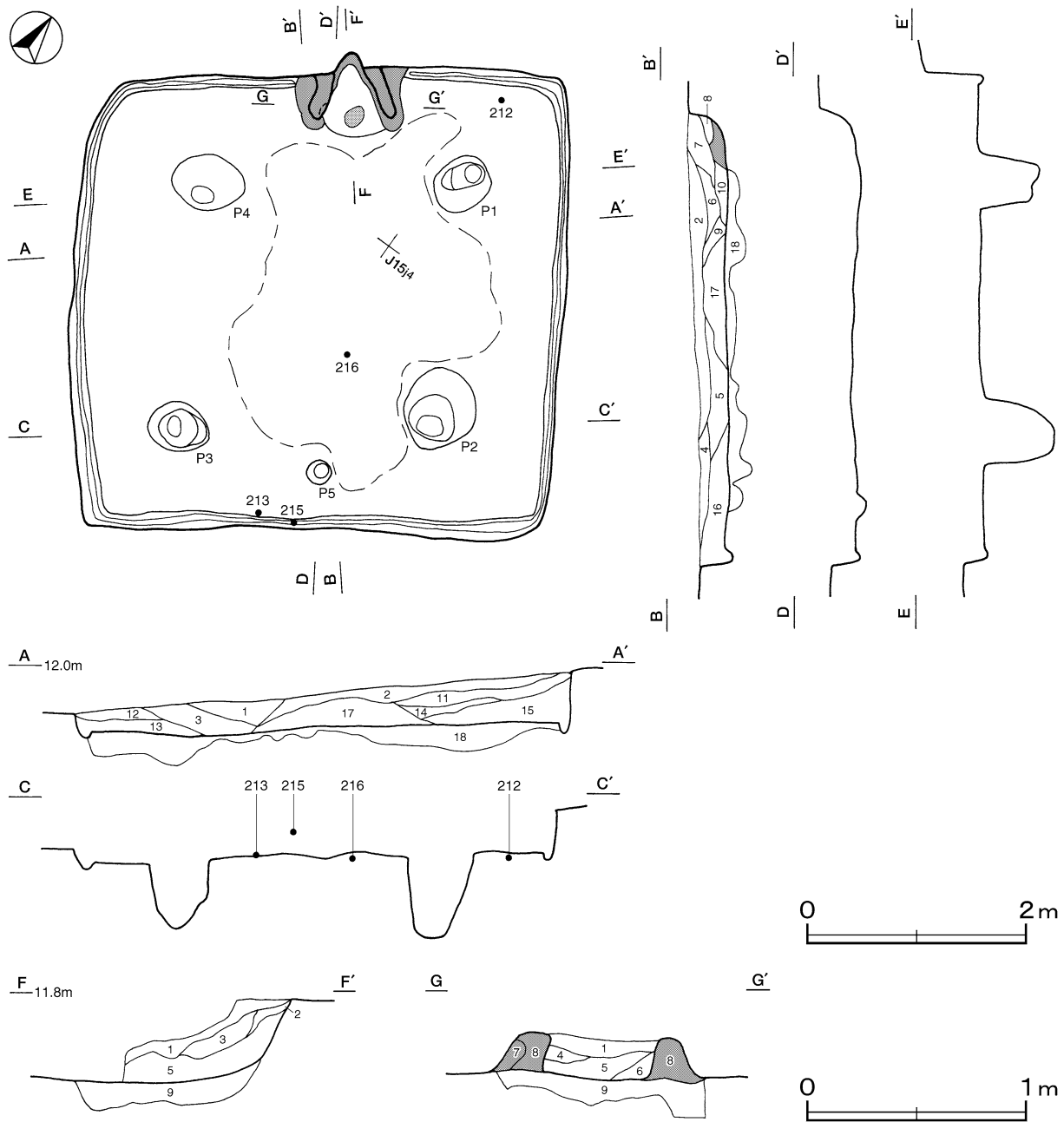
土層解説

1	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土ブロック微量	8	暗褐色	砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化物中量
2	暗褐色	砂質粘土ブロック・炭化物少量, ロームブロック・焼土ブロック微量	9	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化物微量
3	黒褐色	砂質粘土ブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量	10	暗褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化物少量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	11	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
5	暗褐色	ロームブロック・炭化物中量, 焼土ブロック少量	12	暗褐色	炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
6	黒褐色	焼土ブロック・炭化物中量, 砂質粘土ブロック少量	13	灰黄褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量
7	暗褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック・炭化物少量			

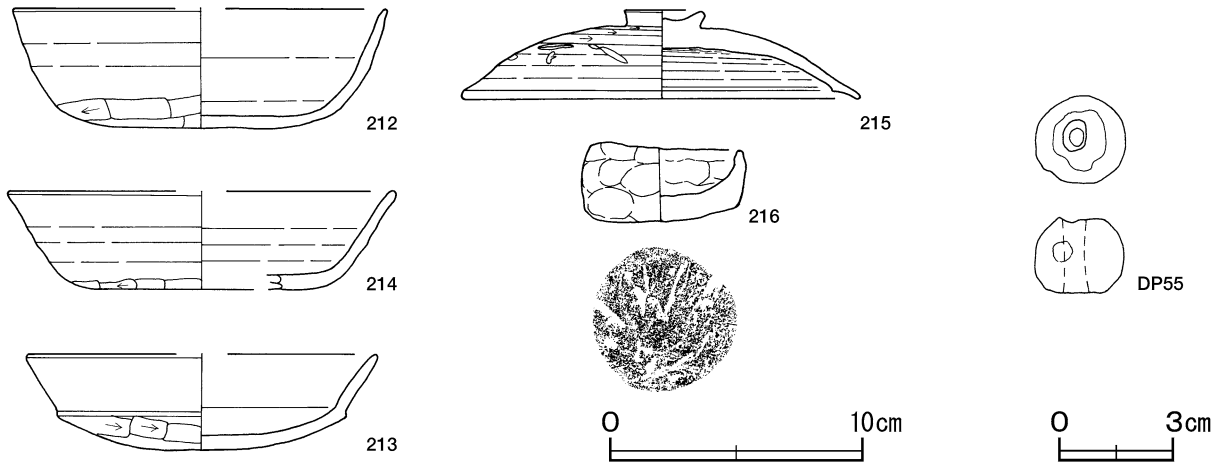
- | | | | |
|----------|----------------------------------|----------|---------------------------------|
| 14 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 17 黒 褐 色 | 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 15 暗 褐 色 | 砂質粘土ブロック・炭化物少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 18 黒 褐 色 | 粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 16 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片172点(坏37, 高台付坏1, 壺1, 甕133, 手捏土器1), 須恵器片8点(坏2, 蓋3, 甕3), 土製品1点(球状土錘)が出土している。その他, 混入した須恵器片2点も出土している。212は北コーナ一部分付近, 213は南東壁際, 215は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第118図 第23号住居跡実測図



第119図 第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表（第119図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
212	土師器	坏	[14.1]	4.8	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部下端へら削り 底部不定方向のへら削り	床面	60%
213	土師器	坏	[13.6]	3.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	底部外面へら削り 内面ナデ	床面	30%
214	須恵器	坏	[15.2]	3.9	[8.4]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部下端へら削り 底部回転へら削り	覆土中	20%
215	須恵器	蓋	15.5	3.5	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転へら削り後、つまみ貼り付け	覆土中層	75% PL33
216	土師器	手捏土器	5.9	3.3	6.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面指頭痕 内面ナデ	床面	90%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP55	球状土錘	2.4	2.0	0.7	11.2	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL45

第27号住居跡（第120図）

位置 調査区南東部のL16e4区、標高13.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第28・29号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.90m、短軸3.65mの方形で、主軸方向はN-35°-Wである。壁高は40～45cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで98cm、燃烧部幅45cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に褐色土を積み上げて構築されている。第4～6層は袖部の構築土である。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ、火床面から外傾し立ち上がっている。

竈土層解説

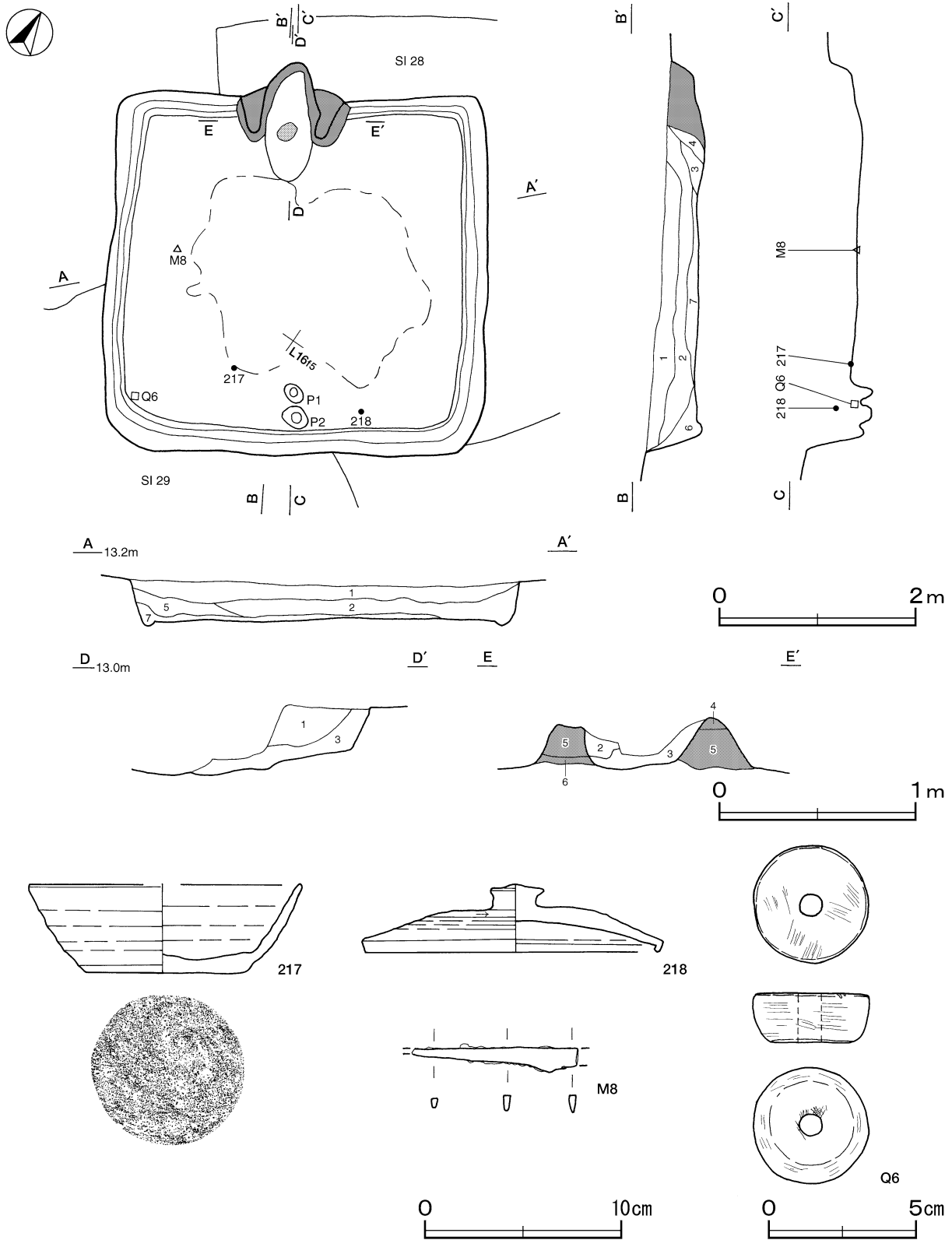
- | | |
|-------------------------------------|-------------------|
| 1 極暗褐色 粘土粒子中量、炭化物・砂粒少量、焼土ブロック
微量 | 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量 | 5 にぶい黄褐色 砂粒多量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 2か所。P1・P2は深さ18cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 7層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量 | 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化物中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| | 7 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量 |



第120図 第27号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片235点（坏20，高坏3，甕212），須恵器片19点（坏13，高台付坏1，蓋1，甕4），土製品1点（紡錘車），石製品1点（紡錘車），金属製品1点（刀子）が出土している。その他，流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。217は中央部，Q6は南コーナー部付近，M8は南西壁付近の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第27号住居跡出土遺物観察表（第120図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
217	須恵器	坏	[13.7]	4.5	8.0	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部外面器面摩滅 底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り	床面	50%
218	須恵器	蓋	14.9	3.5	-	長石・石英	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け	床面	100% PL33

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q6	紡錘車	4.0	1.7	0.8	46.4	蛇紋岩	無文 側面がわずかに膨らむ円錐台形	床面	PL47

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M8	刀子	(8.4)	1.3	0.4	(6.8)	鉄	刃部断面三角形 片刃	床面	PL49

第31号住居跡（第121図）

位置 調査区中央部のJ14g6区，標高10.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第32・51号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南西部が削平されているため，北西・南東軸は4.87mで，北東・南西軸は4.70mが確認できただけである。遺存する壁と竈の位置から主軸方向がN-46°-Eの方形または長方形と推測される。壁高は20～25cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が北西壁から南東壁まで確認されている。

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで96cm，燃烧部幅45cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に褐色土を積み上げて構築されている。第6～10層は袖部の構築土である。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ，火床面から外傾し立ち上がっている。

竈土層解説

1 極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量	5 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
2 極暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	6 褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量	7 暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量	8 褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
		9 暗褐色	ロームブロック・炭化物中量，炭化物少量
		10 褐色	ロームブロック中量

ピット 6か所。P1～P4は深さ30～42cmで，規模と配置から主柱穴である。P5は深さ27cmで，竈と正対していることから，出入り口施設に伴うピットとみられる。P6は深さ15cmで，性格は不明である。

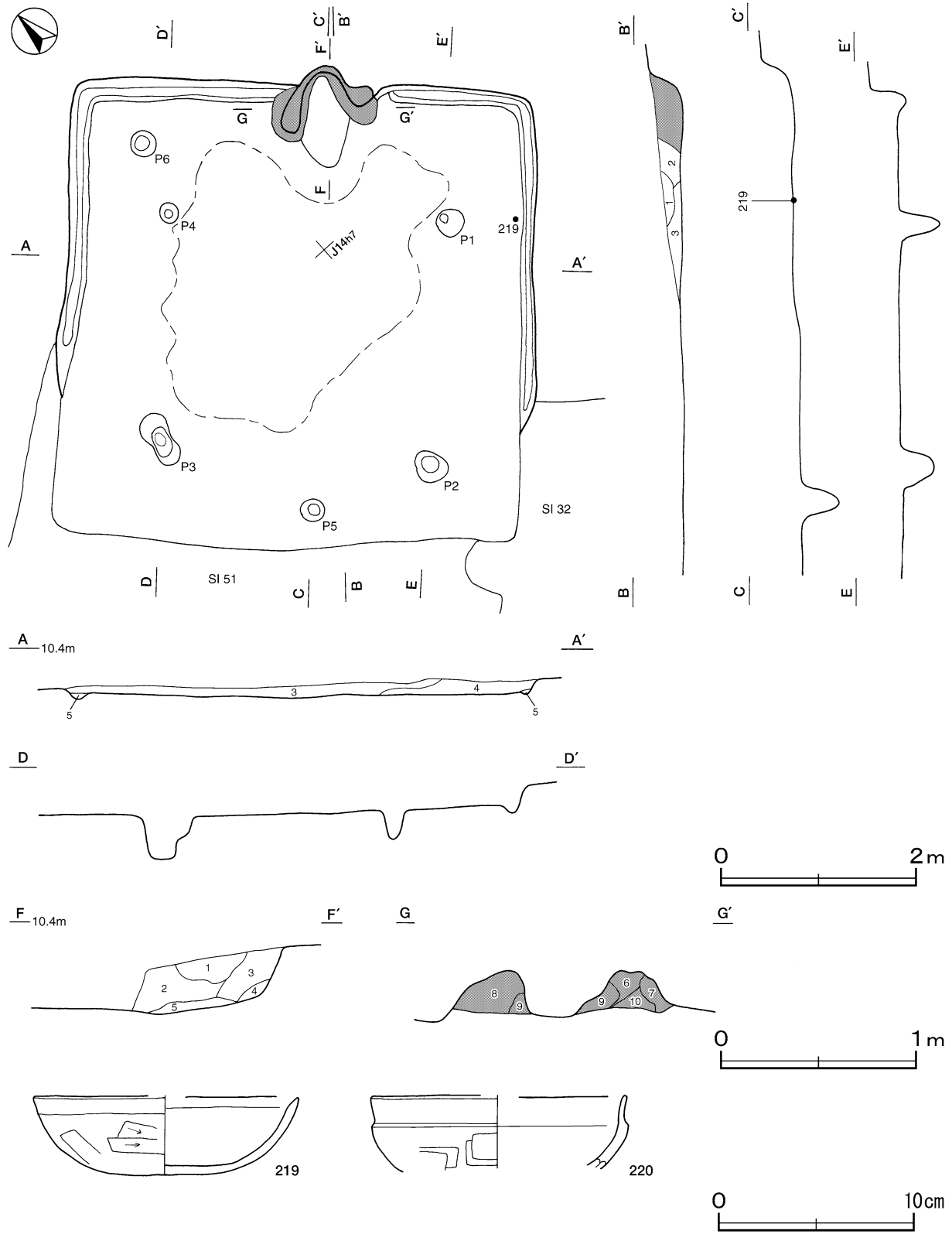
覆土 5層に分層できる。大半の層にロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 褐色	焼土ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子中量	4 暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子少量	5 暗褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片77点（坏21，甕56）が出土している。その他，流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。219は南東壁際の床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第121図 第31号住居跡・出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表 (第121図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
219	土師器	坏	[13.4]	4.0	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後, ナデ 内面ナデ 指頭痕	床面	60%
220	土師器	坏	[12.9]	(3.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ 内面ナデ	覆土中	10%

第35号住居跡 (第122・123図)

位置 調査区中央部のJ13h0区, 標高8.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

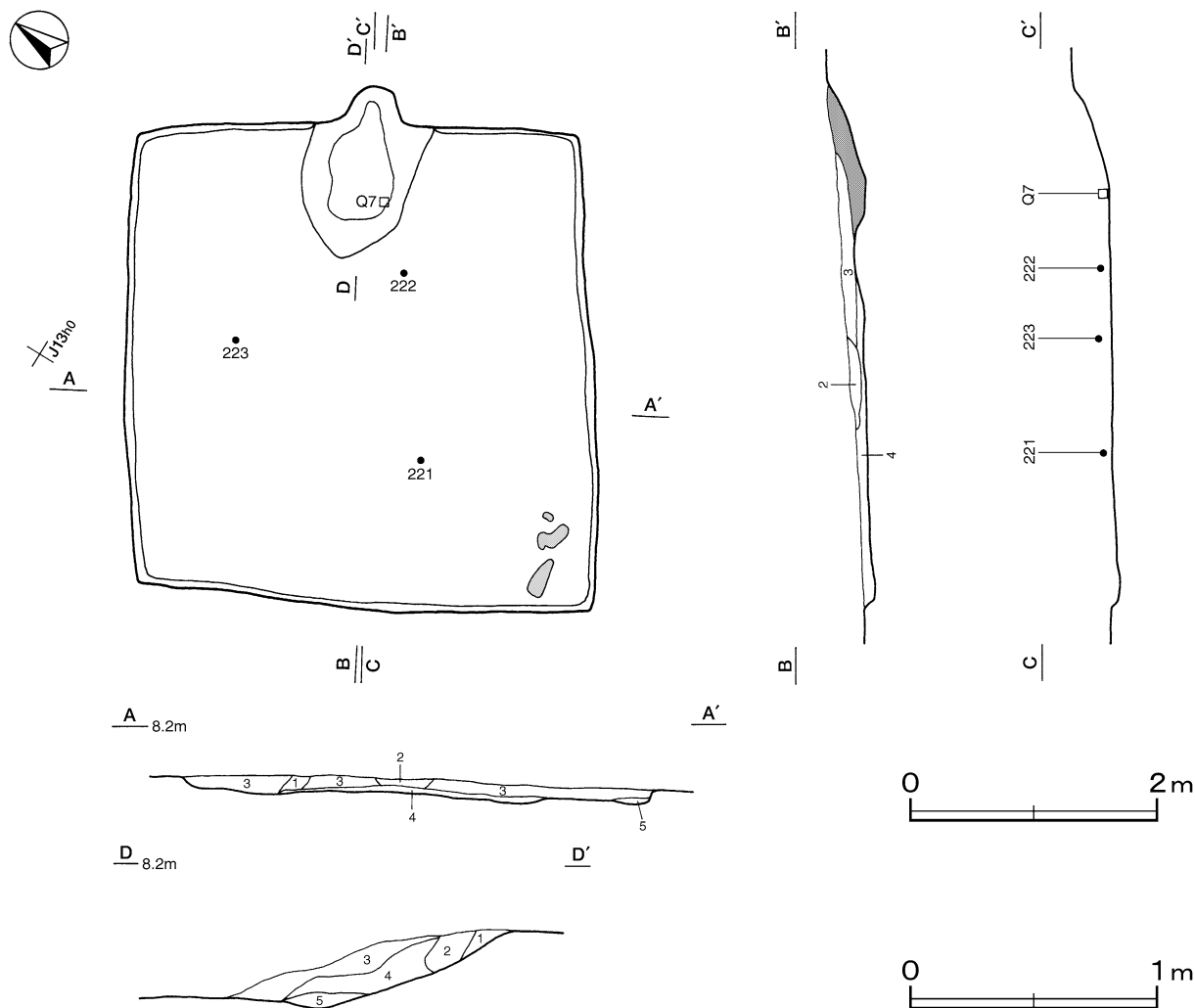
規模と形状 長軸3.95m, 短軸3.75mの方形で, 主軸方向はN - 32° - Eである。壁高は8 ~ 16cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。焼土が南コーナー部で確認されている。

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで140cmである。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ, 火床面から外傾し立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子・粘土粒子少量 | 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック, 炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | |



第122図 第35号住居跡実測図

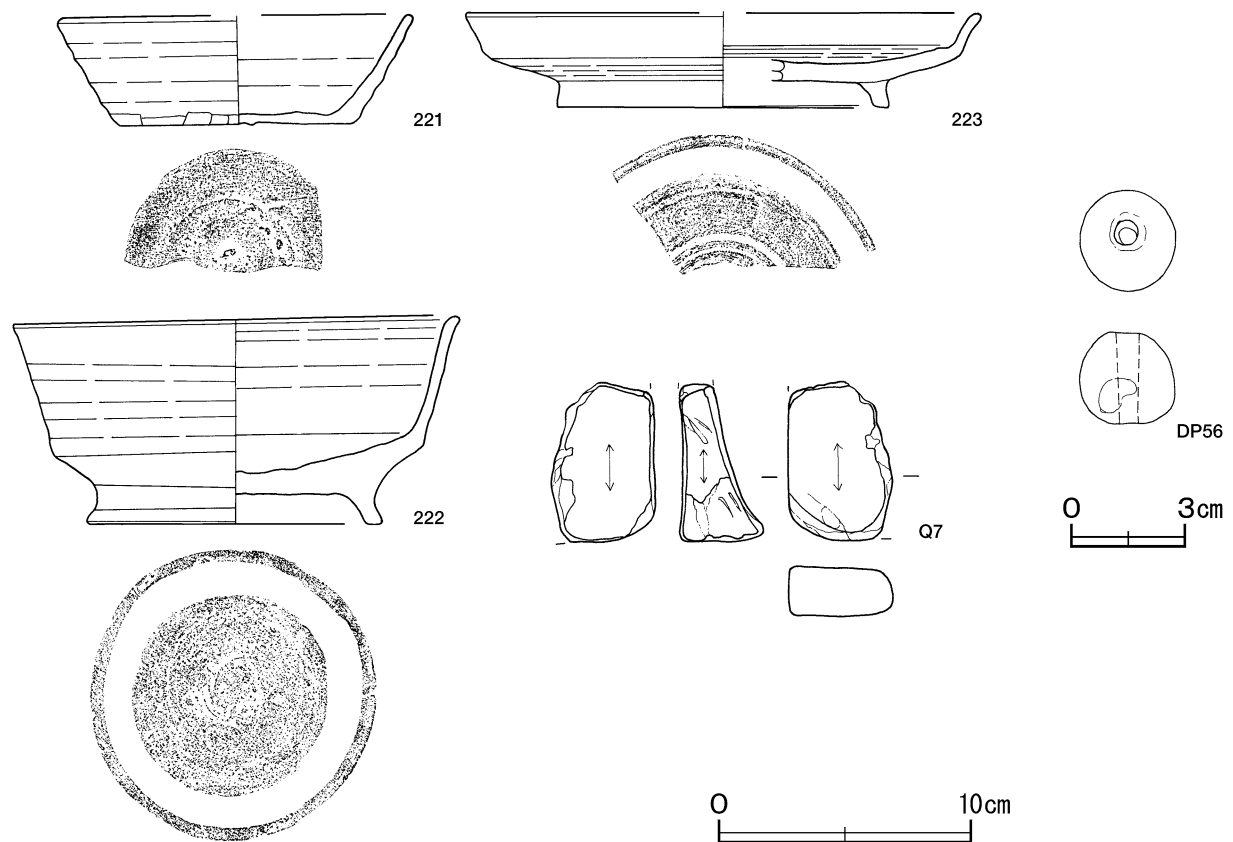
覆土 5層に分層できる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|--------------------------|---|-----|-----------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 | 暗褐色 | 焼土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | 焼土粒子少量，炭化物微量 | 4 | 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | | 5 | 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片178点(坏11, 甕167), 須恵器片42点(坏25, 高台付坏1, 蓋4, 高台付皿1, 盤1, 甕10), 土製品2点(球状土錘, 支脚), 石器1点(砥石)が出土している。221~223は中央部の覆土下層, Q7は竈の火床部からそれぞれ出土している。

所見 焼土が南コーナー部で確認されていることから焼失住居である。時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第123図 第35号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表 (第123図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
221	須恵器	坏	[14.0]	4.3	[9.4]	長石・石英	灰	良好	体部下端へら削り，底部回転へら切り痕を残す不定方向のへら削り	覆土下層	35%
222	須恵器	高台付坏	17.5	8.3	11.7	長石・石英	灰	良好	底部回転へら切り後，高台貼り付け	覆土下層	80% PL32
223	須恵器	盤	[20.2]	3.8	[13.0]	長石・石英	灰	良好	底部回転へら切り後，高台貼り付け	覆土下層	25%

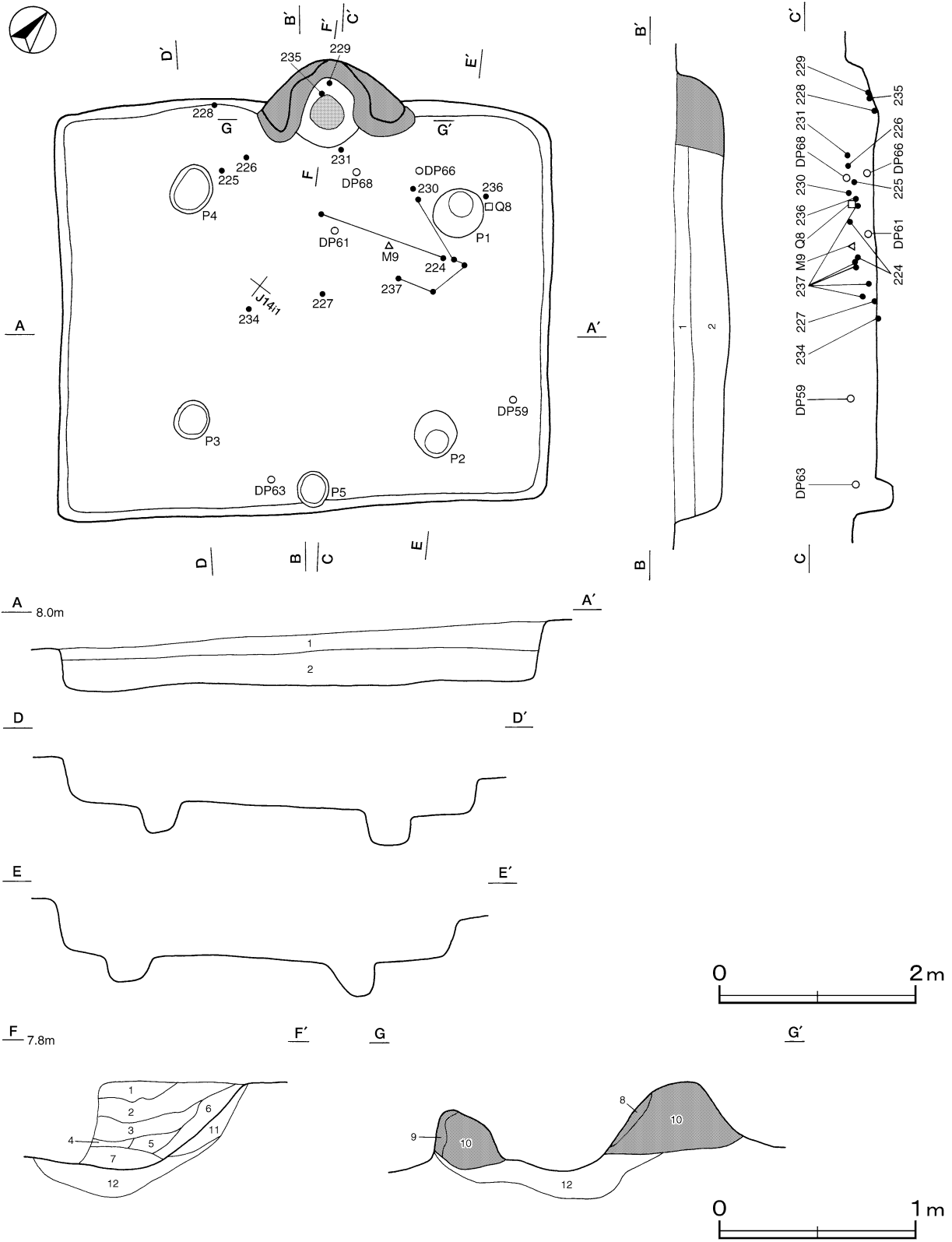
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP56	球状土錘	2.6	2.4	0.6	16.1	長石・石英・雲母	丁寧なナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q7	砥石	(6.4)	4.2	3.3	(78.8)	凝灰岩	砥面3面 端部欠損	床面	PL48

第36号住居跡 (第124~127図)

位置 調査区中央部のJ13i0区, 標高8.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.00m, 短軸4.23mの長方形で, 主軸方向はN - 37° - Wである。壁高は20~56cmで, ほぼ直立している。



第124図 第36号住居跡実測図

床 ほぼ平坦である。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm，燃烧部幅62cmである。袖部および燃烧部は地山を20cmほど掘り込んで，にぶい黄褐色土の上に粘土粒子と砂粒を混ぜたにぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面を浅く掘りくぼめ，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。第8～10層は袖部の構築土，第11・12層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1 黒色 粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子微量	7 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子微量
2 黒色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量	8 にぶい黄褐色 砂粒多量，焼土粒子・粘土粒子中量，細礫少量
3 黒色 炭化物・粘土粒子少量，ロームブロック微量	9 にぶい黄褐色 砂粒多量，粘土粒子中量，細礫少量，ローム粒子微量
4 暗赤褐色 焼土粒子多量	10 にぶい黄褐色 砂粒多量，細礫中量，粘土粒子少量
5 黒色 粘土粒子中量，ローム粒子微量	11 にぶい黄褐色 砂粒多量，粘土粒子中量，焼土ブロック少量
6 黒色 粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量	12 黒色 粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は深さ26～36cmで，規模と配置から支柱穴である。P5は深さ15cmで，南東壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。

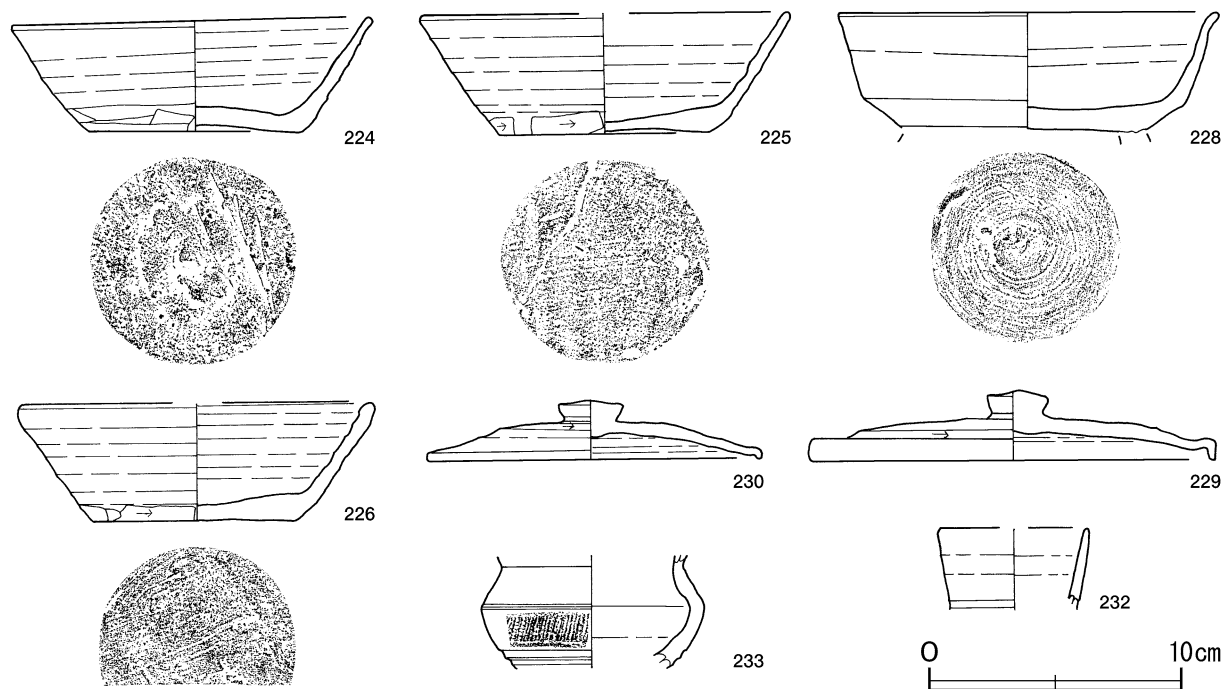
覆土 2層に分層できる。ほぼ水平に堆積されていることから埋め戻されている。

土層解説

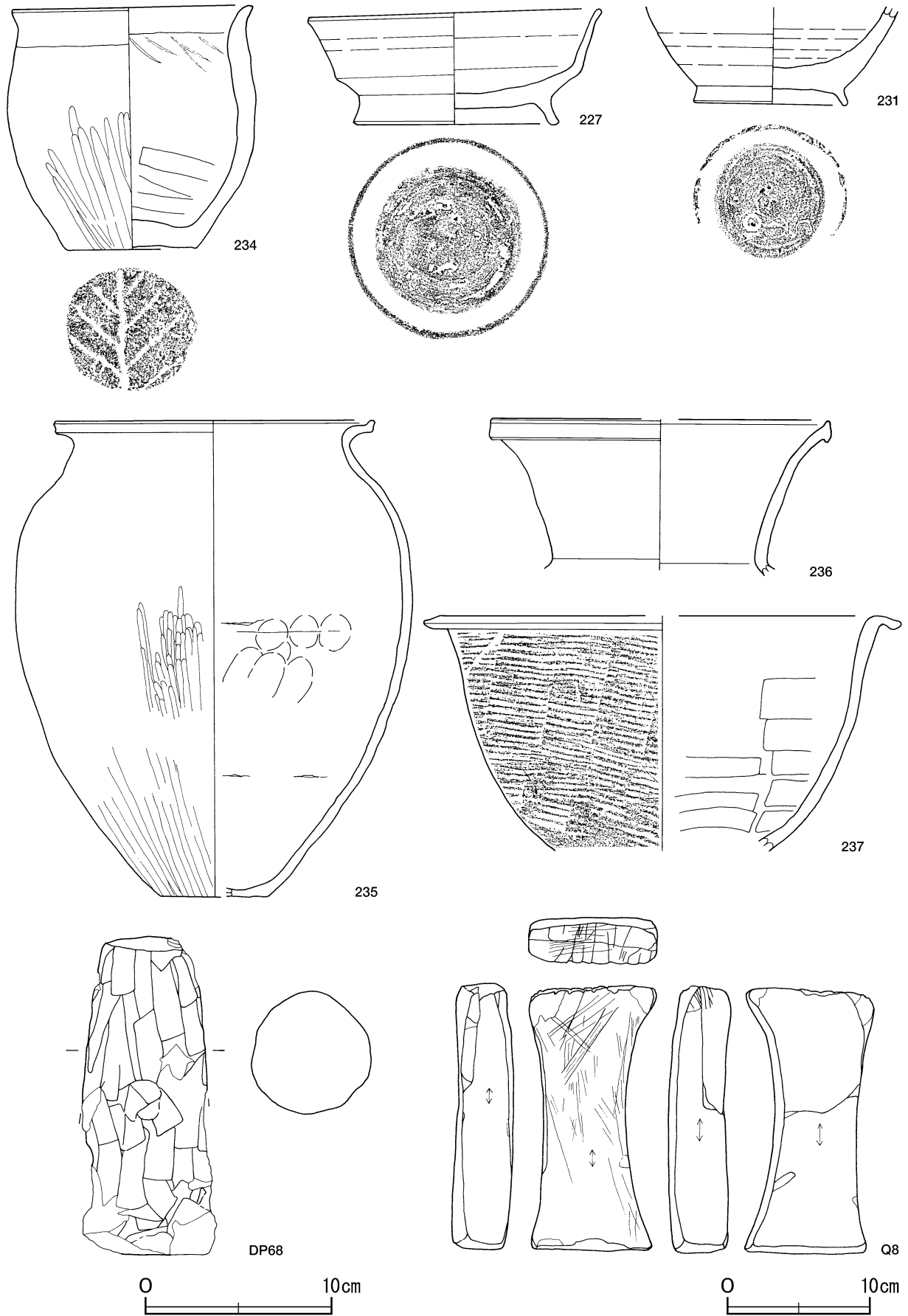
1 黒褐色 炭化物・焼土粒子少量，ローム粒子微量	2 黒褐色 焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量
--------------------------	--------------------------

遺物出土状況 土師器片1,286点（坏129，皿1，甕1,150，小形甕1，甌5），須恵器片345点（坏225，高台付坏9，蓋42，盤4，鉢1，捏鉢1，小壺1，甌1，瓶4，長頸瓶1，平瓶カ1，甕48，甌7），土製品20点（球状土錘14，管状土錘2，支脚3，紡錘車1），石器1点（砥石），金属製品1点（刀子），自然遺物1点（種子）が北部および覆土中から出土している。その他，流れ込んだ縄文土器片3点も出土している。235は竈の火床部から正位で据えられた状態で出土している。228は北西壁際，227・234・DP61は中央部の床面からそれぞれ出土している。

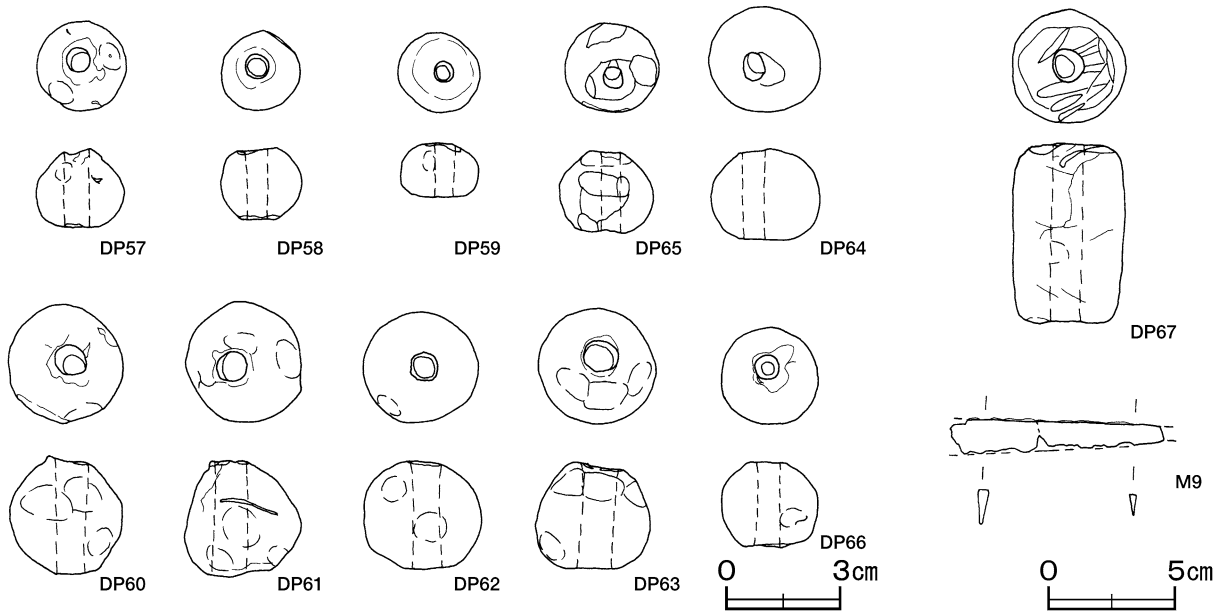
所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第125図 第36号住居跡出土遺物実測図(1)



第126图 第36号住居跡出土遺物実測図(2)



第127図 第36号住居跡出土遺物実測図(3)

第36号住居跡出土遺物観察表 (第125 ~ 127図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
224	須恵器	坏	14.1	4.6	8.3	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す 一方のヘラ削り 二次焼成	覆土中層	95% PL30
225	須恵器	坏	[14.6]	4.8	8.3	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部下端ヘラ削り 底部一方のヘラ削り 二次焼成	覆土中層	60%
226	須恵器	坏	[13.8]	4.7	8.0	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転糸切り後、多方向のヘラ削り	覆土上層	50%
227	須恵器	高台付坏	15.5	6.1	10.5	長石・石英・雲母	黄灰	良好	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	床面	85% PL32
228	須恵器	高台付坏	[15.0]	(4.7)	-	長石・雲母	灰	良好	底部回転ヘラ切り痕を残す高台貼り付け 高台剥離	床面	75% PL32
229	須恵器	蓋	16.0	2.9	-	長石・石英・雲母	灰白	良好	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	竈火床部	60% PL33
230	須恵器	蓋	13.1	2.4	-	長石・石英・黒色粒子	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土中層	70% PL33
231	須恵器	長頸瓶	-	(5.4)	8.1	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後 高台貼り付け 底部外面ヘラ書き	覆土上層	25%
232	須恵器	平瓶カ	[5.9]	(3.4)	-	長石・石英	暗灰黄	良好	内・外面器面摩滅	覆土中	5%
233	須恵器	鉢	-	(4.5)	-	長石・石英	灰	良好	体部外面櫛歯状工具による波状文	覆土中	10% PL42
237	須恵器	鉢	[33.4]	(16.7)	-	長石・石英	灰	良好	体部横位の平行叩き 内面ヘラナデ	覆土中層	30%
234	土師器	小形甕	12.7	13.1	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 工具痕 底部木葉痕	床面	95% PL38
235	土師器	甕	22.4	33.6	[7.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積痕	竈火床部	65%
236	須恵器	甕	[23.8]	(11.0)	-	長石	灰	良好	ロクロナデ	覆土中層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP57	球状土錘	2.4	2.2	0.7	8.6	雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕	覆土中	PL46
DP58	球状土錘	2.1	1.8	0.6	7.9	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り	覆土中	PL46
DP59	球状土錘	2.1	1.5	0.5	5.6	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り	覆土上層	PL46
DP60	球状土錘	3.0	3.2	0.9	25.2	雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕	覆土中	PL46
DP61	球状土錘	3.1	3.2	0.8	(26.8)	長石・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕	床面	PL46
DP62	球状土錘	3.1	2.8	0.7	25.6	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕	覆土中	PL46
DP63	球状土錘	3.1	2.8	0.9	23.8	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕	覆土上層	PL46
DP64	球状土錘	3.0	2.5	0.6	19.0	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り	覆土中	PL46
DP65	球状土錘	2.5	2.2	0.5	(12.4)	長石・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 一部欠け	覆土中	PL46
DP66	球状土錘	2.6	2.2	0.6	14.5	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕	覆土下層	PL46

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP67	管状土錘	7.1	4.5	1.3	166.2	長石・石英・雲母・赤粒子	上面・側面工具痕 二方向からの穿孔後、面取り	覆土中	PL46

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP68	支脚	(17.2)	(7.2)	(4.2)	(388.0)	長石・石英・雲母	上面赤変 ヘラ削り後、ナデ 下部欠損	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q 8	砥石	18.7	8.6	4.1	78.8	凝灰岩	砥面 4 面 中央部が薄い	覆土上層	PL48

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M 9	刀子	(8.5)	1.5	0.4	(7.2)	鉄	断面三角形	覆土上層	PL49

第40号住居跡（第128・129図）

位置 調査区中央部のK15f9区，標高12.5mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

規模と形状 長軸4.40m，短軸3.75mの長方形で，主軸方向はN - 20° - Wである。壁高は30～90cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で，中央部が踏み固められている。壁溝が南西コーナー部を除いて確認されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで103cm，燃烧部幅50cmである。袖部および燃烧部は地山を18cmほど掘り込んで，暗褐色土の上に褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面をやや掘りくぼめ，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。第6～8層は袖部の構築土，第9・10層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1 褐色	ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量	7 褐色	ローム粒子多量，粘土粒子中量
2 褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量	8 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量
3 暗赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子少量，粘土粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
4 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量	10 褐色	ローム粒子多量
5 にぶい黄褐色	炭化物・ローム粒子少量，ロームブロック微量		
6 褐色	焼土粒子多量，ローム粒子微量		

ピット 5か所。P1～P4は深さ16～34cmで，規模と位置から支柱穴と考えられる。P5は深さ31cmで，南東壁付近に位置し竈と正対していることから，出入口施設に伴うピットとみられる。

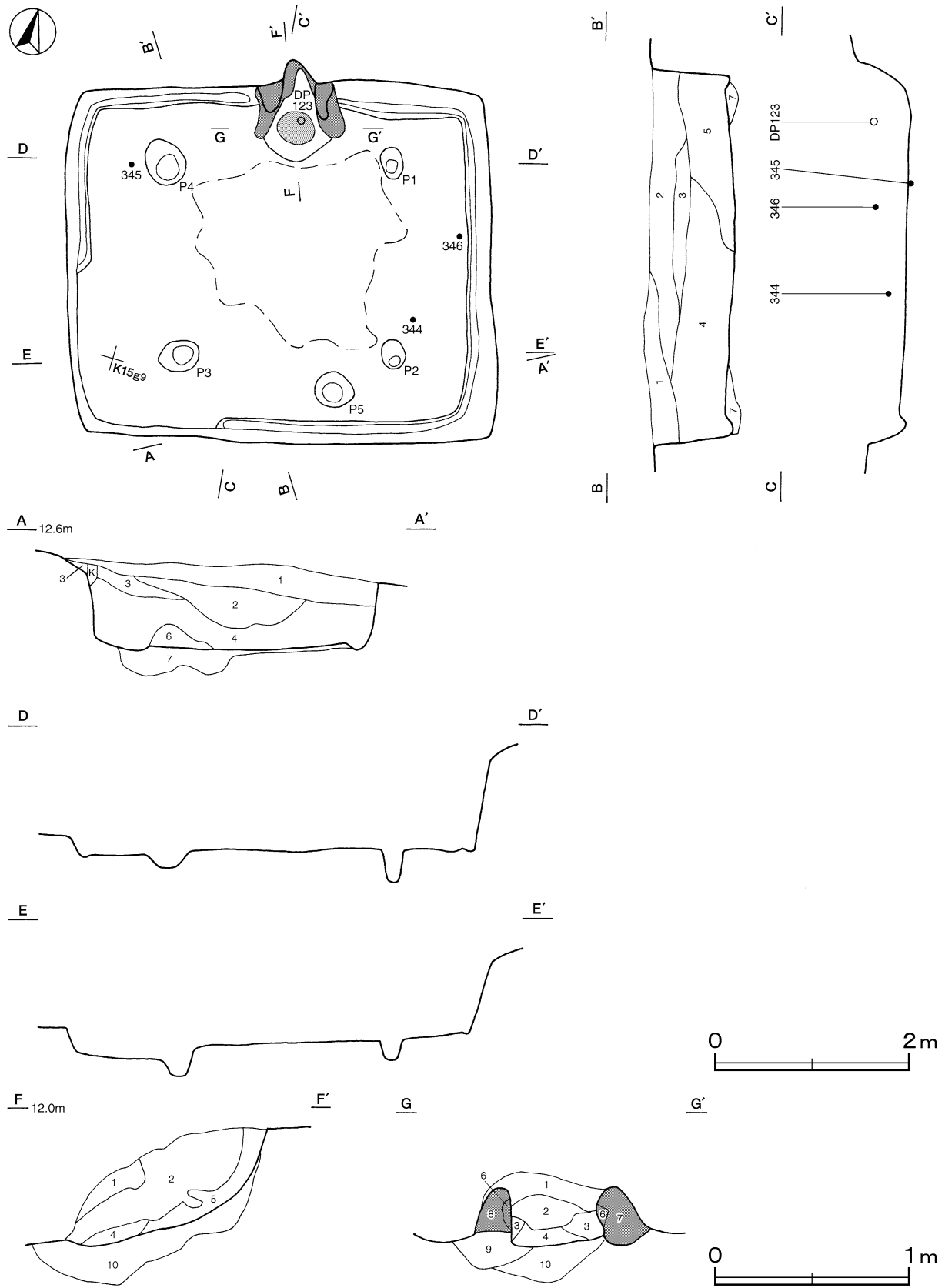
覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。第7層は貼床の構築土である。

土層解説

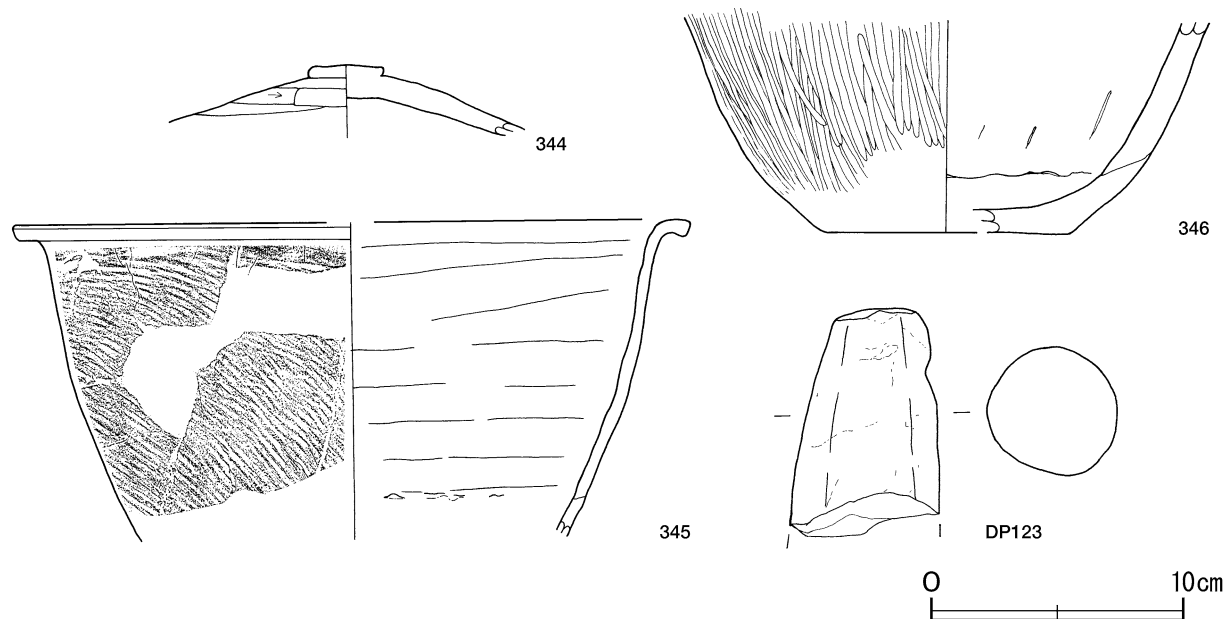
1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	5 暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化物微量
2 黒褐色	炭化物中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量	6 黒褐色	炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量	7 にぶい赤褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量
4 黒褐色	ロームブロック多量，炭化物少量，焼土ブロック微量		

遺物出土状況 土師器片219点（坏30，甕189），須恵器片19点（高台付坏1，蓋1，鉢1，長頸瓶1，甕15），土製品2点（支脚），自然遺物2点（種子）が中央部から北東部にかけて出土している。その他，流れ込んだ縄文土器片1点，混入した陶器片1点も出土している。345は北西コーナー部付近の床面，344・346は東壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。DP123は竈火床面に据えられた状態で出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第128图 第40号住居跡実測図



第129図 第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表 (第129図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
344	須恵器	蓋	-	(2.9)	-	長石・石英・雲母	灰白	良好	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土中層	70%
345	須恵器	鉢	[35.3]	(16.5)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	良好	体部斜位の平行叩き 内面無文の当て具痕	床面	25%
346	土師器	甕	-	(8.5)	[9.8]	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面輪積痕 工具痕	覆土中層	20%

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP123	支脚	(9.2)	(3.5)	5.9	(245.0)	長石・石英・赤色粒子	ナデ 指頭圧痕 下端欠損	火床面	

第45号住居跡 (第130図)

位置 調査区中央部のJ 14g2区、標高9.0mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

規模と形状 長軸4.10m、短軸3.50mの長方形で、主軸方向はN - 41° - Eである。壁高は8 ~ 25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを主体とする暗褐色土を埋めて構築されている。壁溝が北西壁から竈左袖部まで確認されている。

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで75cm、燃烧部幅46cmである。袖部は床面と同じ高さの地山ににぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。第9 ~ 11層は袖部の構築土である。火床部は床面を浅く掘りくぼめ、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、火床面から外傾し立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------------|-----------|------------------------------|
| 1 黒 色 | 粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | 炭化物・粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 8 黒褐色 | 粘土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 粘土粒子中量, 炭化物・焼土粒子少量 | 9 黒褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量 | 10 極暗褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量, 粘土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量 | 11 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量 |
| 6 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

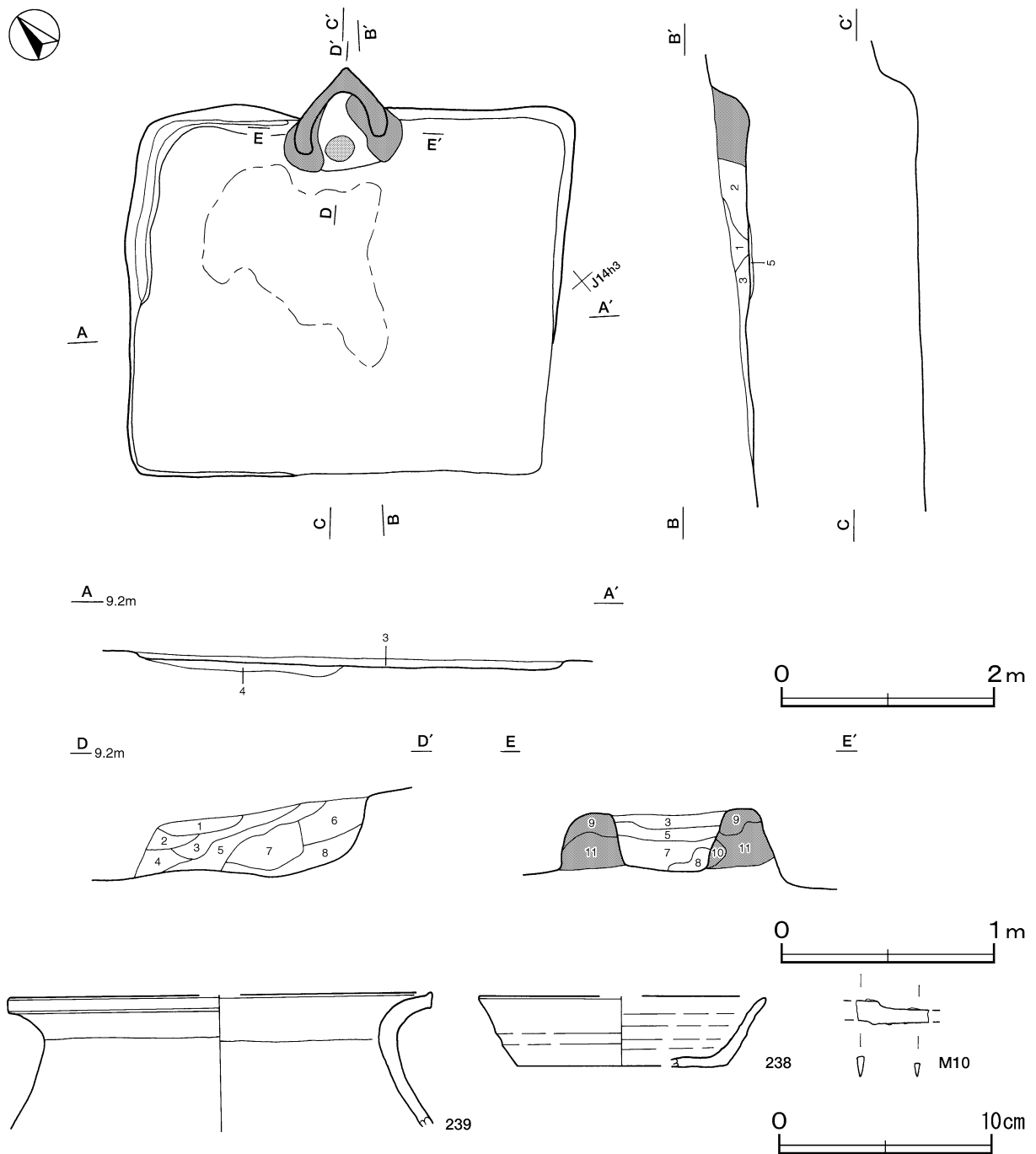
覆土 3層に分層できる。層厚は薄いだが、砂質粘土ブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。第4・5層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| | 5 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量 |

遺物出土状況 土師器片183点(坏11, 甕171, 甑1), 須恵器片27点(坏19, 蓋6, 甕2), 金属製品1点(刀子)が出土している。238・239・M10は覆土中から出土している

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第130図 第45号住居跡・出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表（第130図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
238	須恵器	坏	[13.4]	3.3	[9.7]	長石・石英	黄灰	良好	体部内・外面口ロナデ 底部不定方向のヘラ削り	覆土中	10%
239	土師器	甕	[19.9]	(6.3)	-	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 二次焼成	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M10	刀子	(3.4)	0.4	1.0	(2.7)	鉄	断面三角形 片刃	覆土中	

第46号住居跡（第131～133図）

位置 調査区中央部のJ14i2区，標高8.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第43号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺5.18mの方形で，主軸方向はN-34°-Wである。壁高は20～45cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm，燃烧部幅75cmである。袖部および燃烧部は床面と同じ高さの地山の上に暗褐色土を積み上げ，袖部はさらにその上ににぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面よりやや高く，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に15cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。第21・22層は袖部の構築土，第23層は掘方への埋土である。

竈土層解説

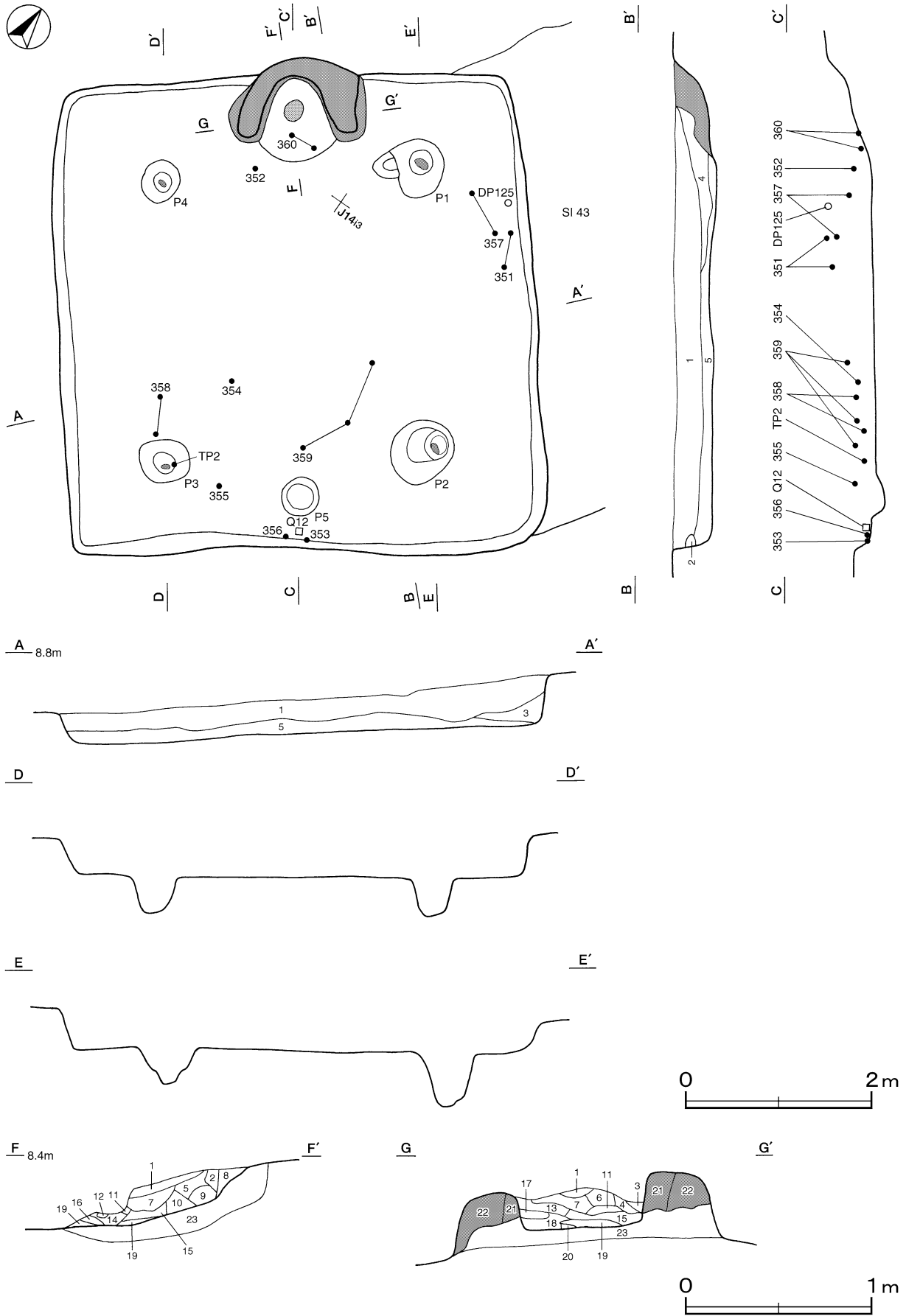
- | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 黒褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土粒子中量，炭化物少量 | 15 暗褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量 |
| 3 にぶい黄褐色 焼土ブロック少量 | 16 暗褐色 炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 暗赤褐色 焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 18 黒褐色 炭化粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 6 暗褐色 砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 | 19 暗褐色 砂質粘土ブロック中量 |
| 7 明黄褐色 焼土粒子少量，炭化物微量 | 20 暗赤褐色 焼土粒子中量，炭化物微量 |
| 8 にぶい黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | 21 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量 |
| 9 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 22 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，砂粒中量 |
| 10 黒褐色 焼土ブロック少量，炭化物微量 | 23 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 11 赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量，ロームブロック少量 | |
| 12 にぶい赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子微量 | |
| 13 赤褐色 焼土ブロック中量，砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量 | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ40～56cmで，規模と位置から支柱穴である。P5は深さ12cmで，南東壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。P1～P4の底面からは，柱のあたりが確認されている。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロック，砂質粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

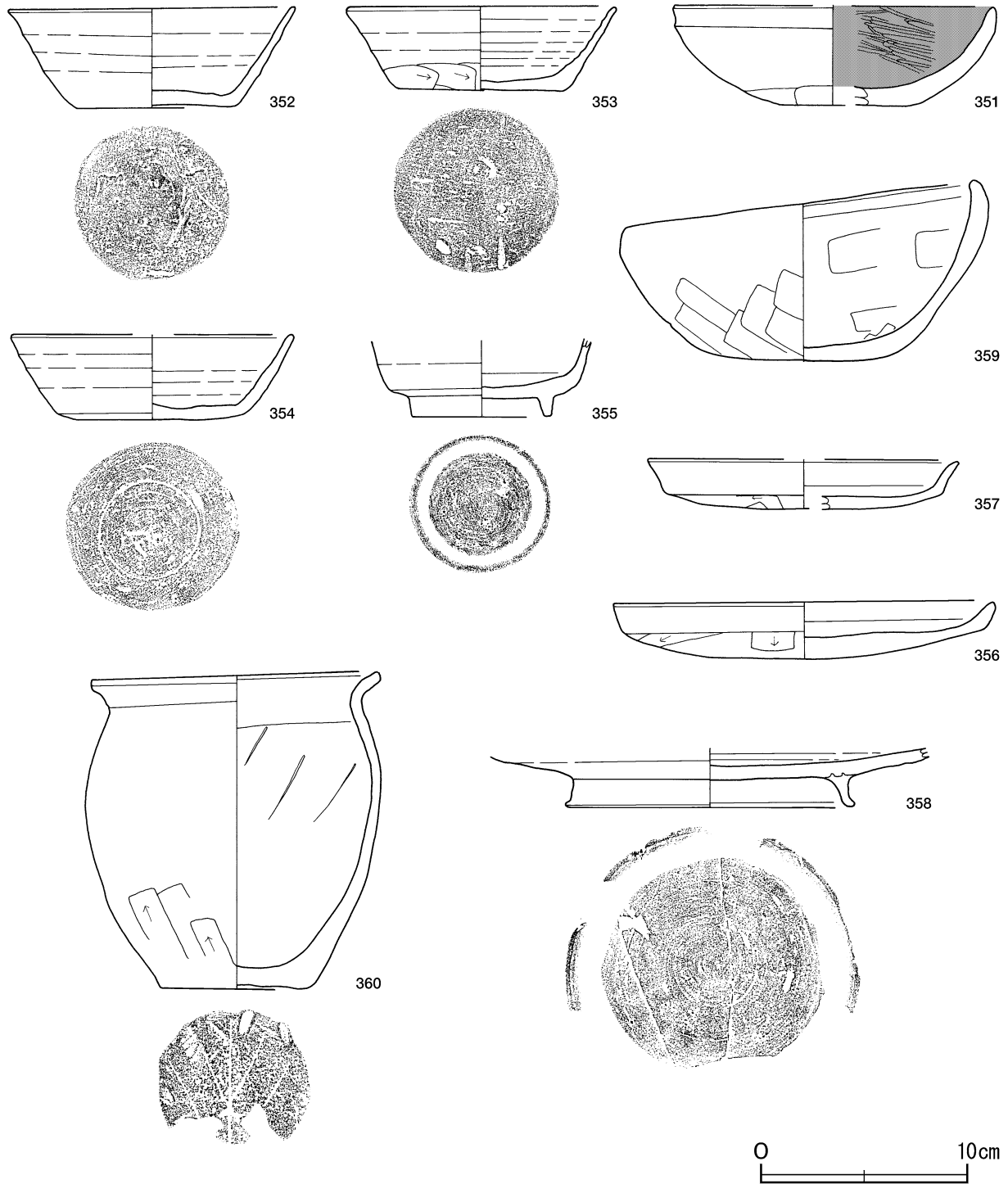
- | | |
|---------------------------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 にぶい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |



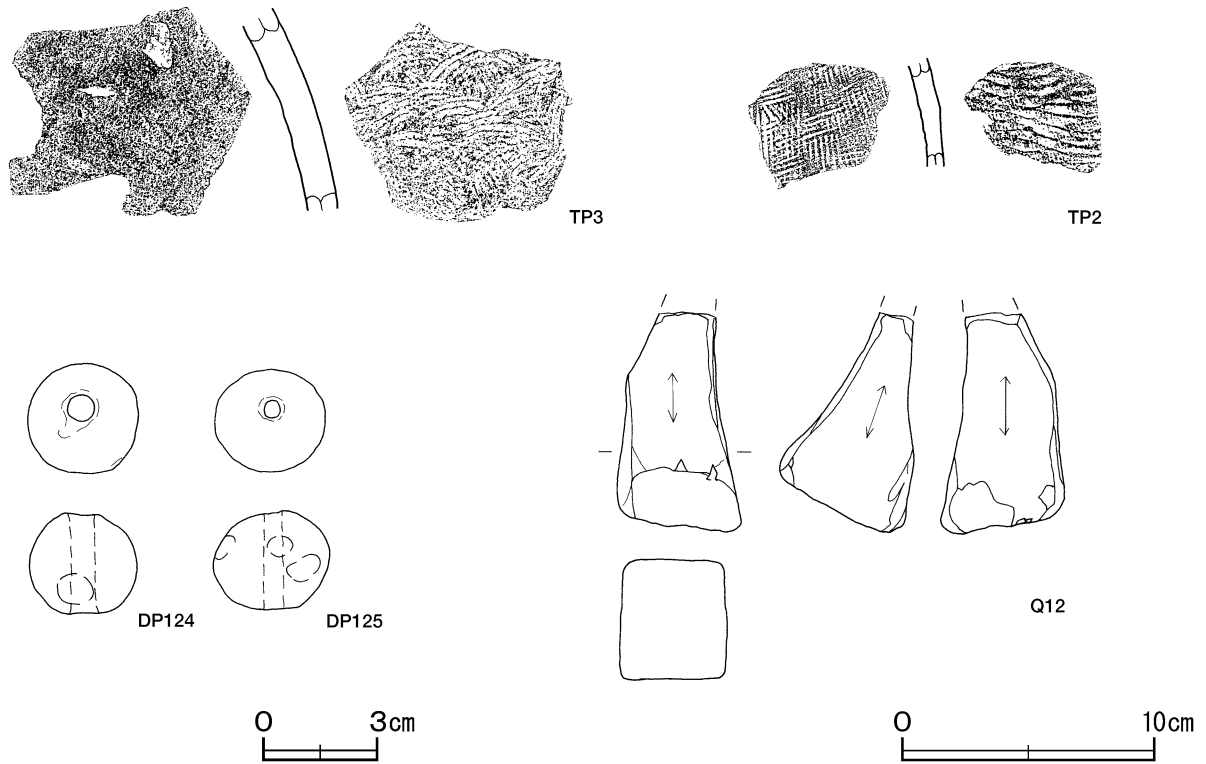
第131图 第46号住居跡実測图

遺物出土状況 土師器片468点(坏91, 高台付坏 1, 皿 4, 高坏 2, 鉄鉢形土器 1, 甕367, 小形甕 1, 甑 1), 須恵器片92点(坏60, 高台付坏 2, 蓋10, 盤 3, 壺 3, 長頸壺 1, 甕11, 不明 2), 土製品 3点(球状土錘 2, 管状土錘 1), 石器 1点(砥石) がP2・P3・P5 付近の覆土下層と北東壁際の覆土中層から出土している。その他, 流れ込んだ縄文土器片 1点も出土している。353・356は南東壁際の覆土下層, 358は南西壁付近, 352は竈の左袖部付近の覆土中層からそれぞれ出土している。351・357は北東壁際の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8世紀中葉と考えられる。



第132図 第46号住居跡出土遺物実測図(1)



第133図 第46号住居跡出土遺物実測図(2)

第46号住居跡出土遺物観察表 (第132・133図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
351	土師器	坏	[15.5]	4.9	[6.3]	赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土上層	20%
352	須恵器	坏	13.7	4.9	7.5	長石・石英・雲母	浅黄	良好	底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り	覆土中層	80%
353	須恵器	坏	12.8	4.2	8.0	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り	覆土下層	70%
354	須恵器	坏	[13.7]	4.1	8.2	長石・石英・雲母	黄灰	良好	底部回転ヘラ切り後、外周回転ヘラ削り	覆土中層	50%
355	須恵器	高台付坏	-	(3.8)	6.8	長石・石英	オリブ灰	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土中層	40%
356	土師器	皿	18.3	2.7	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部不定方向のヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	80% PL34
357	土師器	皿	[14.8]	2.4	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	底部手持ちヘラ削り	覆土上層	30%
358	須恵器	盤	-	(2.9)	13.8	長石・石英	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土中層	40%
359	土師器	鉄鉢形土器	16.8	8.8	9.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中層	80% PL36
360	土師器	小形甕	13.8	15.5	7.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端ヘラ削り 内面工具痕 木葉痕	覆土下層	75% PL38

番号	種別	器種	色調	焼成	胎土	文様の特徴	出土位置	備考
TP 2	須恵器	甕	灰	良好	長石・石英	体部擬格子状の叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土中層	PL44
TP 3	須恵器	甕	灰	良好	長石・石英	体部無文状の叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土中	PL44

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP124	球状土錘	2.9	2.7	0.7	20.9	石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	PL45
DP125	球状土錘	3.0	2.7	0.6	20.1	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土上層	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q12	砥石	(8.8)	4.9	4.8	(197.1)	凝灰岩	砥面3面 端部片側欠損 中央部が薄い	覆土下層	

第52号住居跡 (第134・135図)

位置 調査区中央部のK14c2区, 標高7.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 南東部を第53号住居, 第297号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.30m, 短軸2.75mの方形または長方形で, 主軸方向はN-30°-Wである。壁高は8~15cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 東部に向かってやや傾斜している。中央部が踏み固められている。

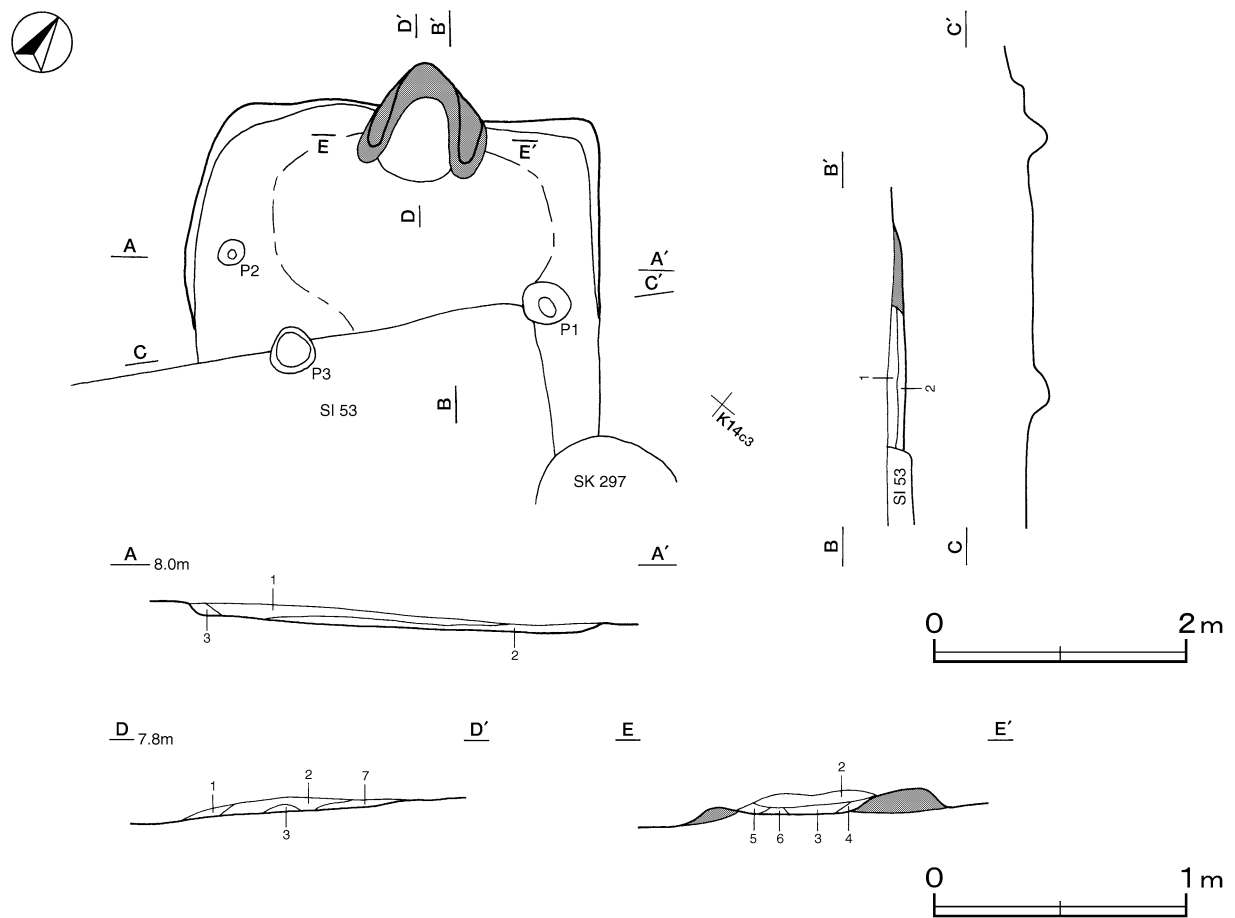
竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm, 燃烧部幅55cmである。右袖部は床面と同じ高さの地山, 左袖部は床面より低い高さの地山にそれぞれ積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 煙道部は壁外に37cm掘り込まれ, 火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量, ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| | | 7 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量 |

ピット 3か所。P1~P3は深さが15~20cmで, 性格は不明である。

覆土 3層に分層できる。層厚は薄いだが, ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。



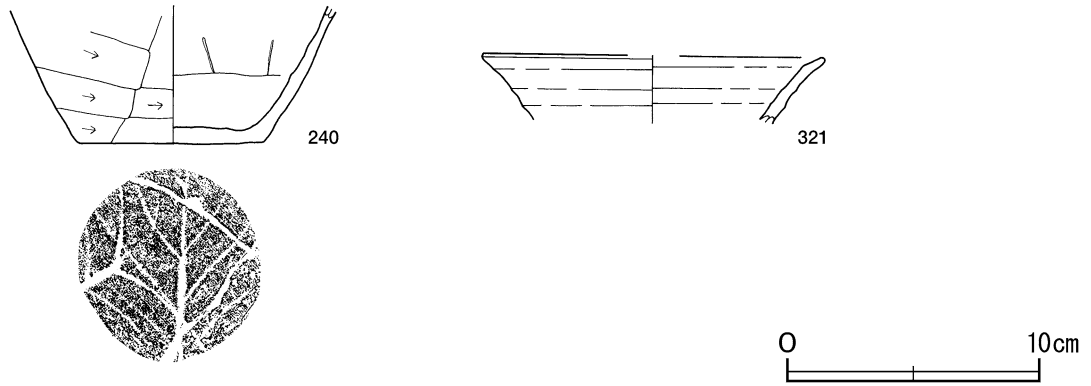
第134図 第52号住居跡実測図

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片58点（坏1，甕57），須恵器片20点（坏6，高台坏1，蓋8，甕4，甌1）が出土している。240・321は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第135図 第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表（第135図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
321	須恵器	坏	[13.4]	(2.7)	-	長石・石英	黄灰	良好	体部内・外面口クロナデ	覆土中	5%
240	土師器	甕	-	(5.9)	7.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外面ヘラナデ 下端ヘラ削り 内面ナデ 木葉痕	覆土中	10%

第53号住居跡（第136～138図）

位置 調査区中央部のK14c2区，標高8.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

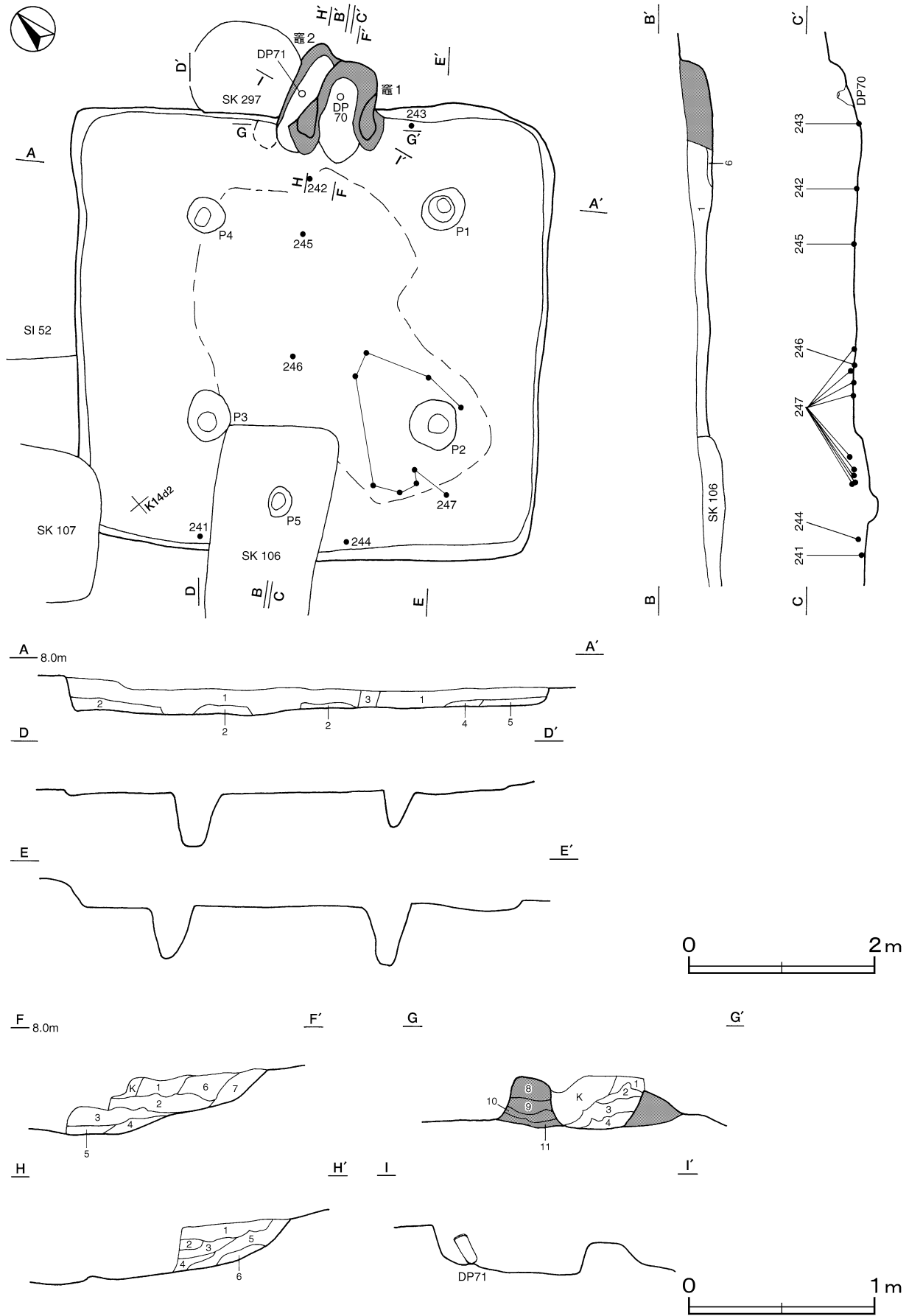
重複関係 第52号住居跡を掘り込み，南西壁を第106号土坑，西コーナー部を第107号土坑，竈付近を第297号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.23m，短軸4.90mの方形で，主軸方向はN - 45° - Eである。壁高は6～32cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 2か所。竈1は北東壁のやや東コーナー右寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで108cm，燃烧部幅45cmである。右袖部および燃烧部は地山を8cmほど掘り込んで構築されている。左袖部は竈2の焚口部の覆土を一部掘り込んで，褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面を浅く掘りくぼめている。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。第8～11層が左袖部の構築土である。

竈2は北東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cm，燃烧部幅は不明である。火床部は床面とほぼ同じ高さである。煙道部は壁外に76cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。袖部の遺存状態から，竈2から竈1へ作り替えられている。



第136图 第53号住居跡実測图

竈1土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------------|----------|---------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック多量,炭化物少量 | 8 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 9 暗褐色 | 焼土ブロック中量,ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック多量,炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 5 にぶい褐色 | 焼土粒子多量,炭化粒子少量,ローム粒子微量 | 11 赤褐色 | 焼土ブロック中量,ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | | |

竈2土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------------|--------|-------------------------|
| 1 褐灰色 | 粘土ブロック中量,焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量,ローム粒子微量 |
| 2 にぶい黄色 | 砂質粘土ブロック中量,焼土ブロック少量,ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 炭化粒子少量,焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| | | 5 明赤褐色 | 焼土ブロック中量,炭化粒子少量,ローム粒子微量 |
| | | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量,炭化粒子少量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ40～65cmで、規模と配置から支柱穴である。P5は深さ25cmで、南東壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

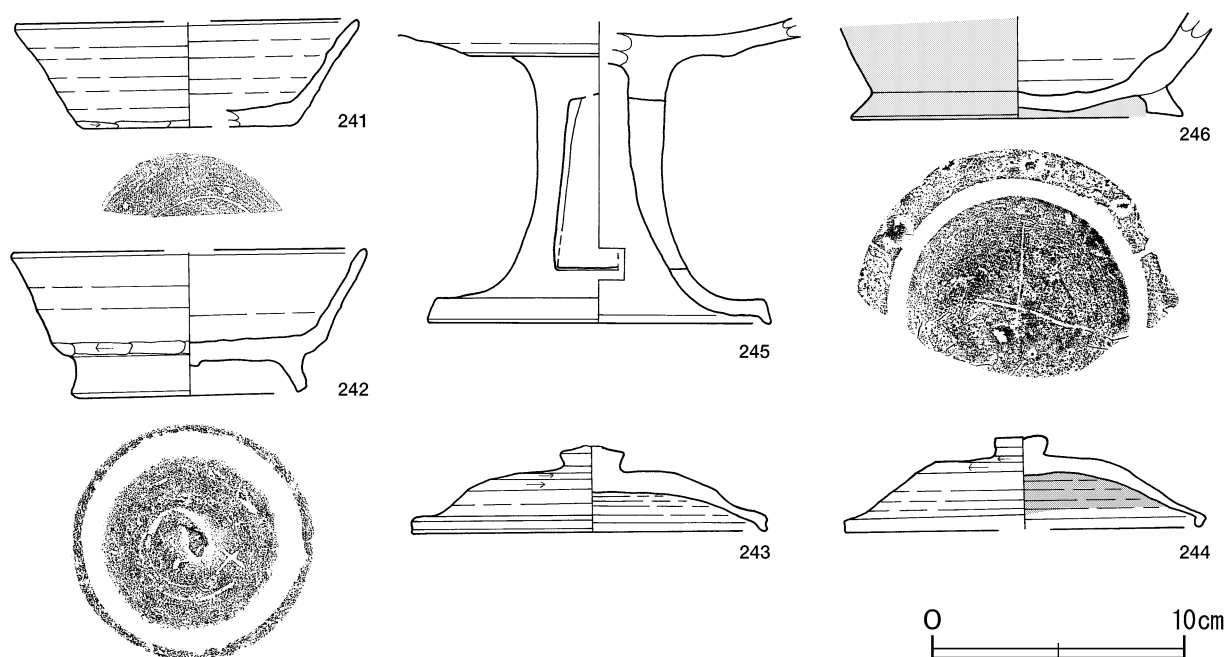
覆土 6層に分層できる。層厚は薄いだが、ロームブロック・焼土ブロックを含み不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

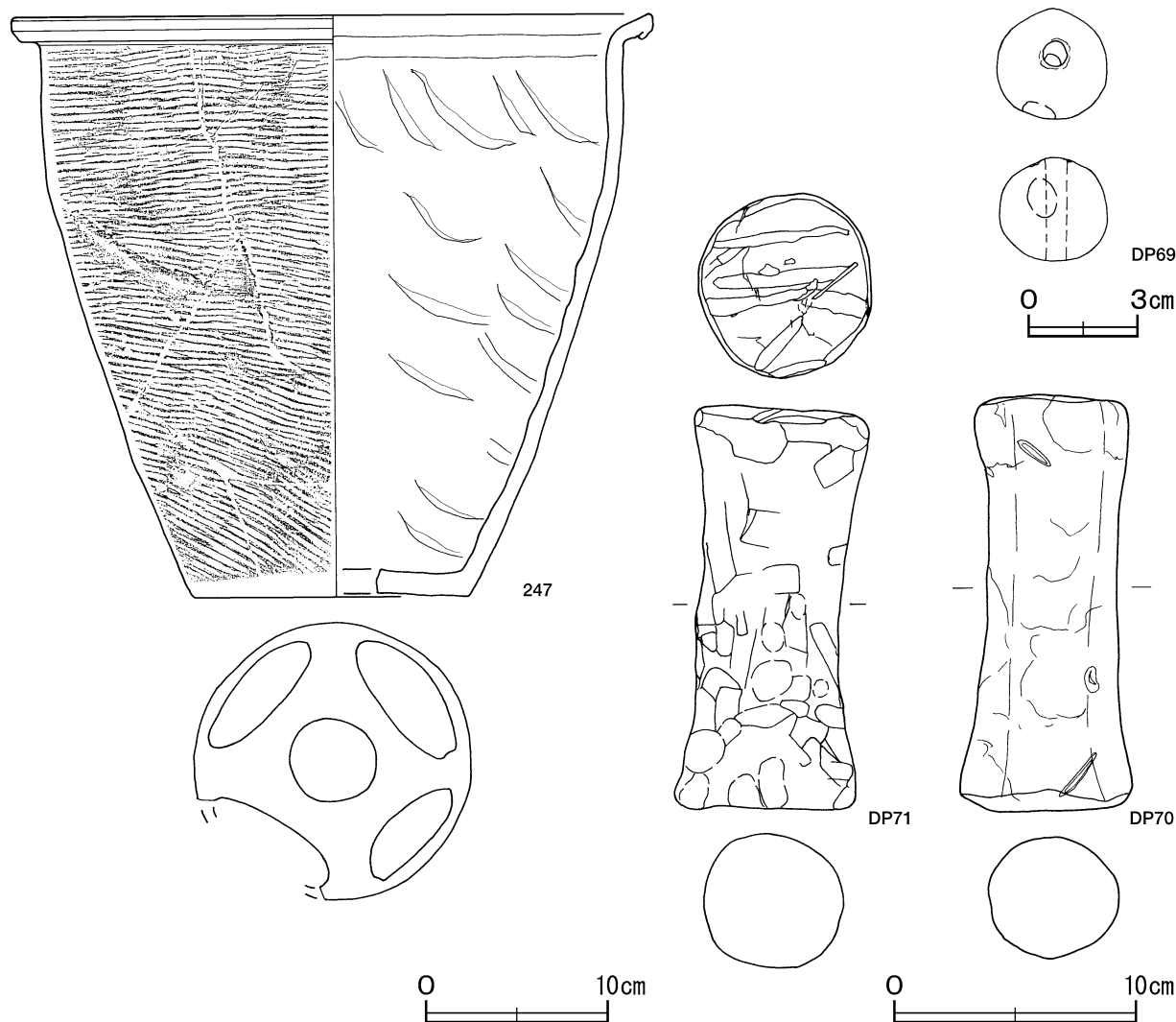
- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量,ロームブロック・炭化物少量 | 4 暗褐色 | 炭化粒子少量,ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック中量,炭化物少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量,焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量,焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量,ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片843点(坏15, 甕828), 須恵器片449点(坏196, 高台付坏22, 蓋155, 高盤12, 長頸瓶1, 甕61, 甌2), 土製品3点(球状土錘1, 支脚2)が竈および中央部から南部にかけて出土している。243は北東壁際, 242は竈の焚口部付近, 245・246は中央部, 241は南西壁際の床面からそれぞれ出土している。247は南部の床面から覆土下層にかけて出土した破片が接合したものである。244は南西壁際の覆土下層から出土している。DP70は竈1, DP71は竈2の火床面に据えられた状態で, それぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第137図 第53号住居跡出土遺物実測図(1)



第138図 第53号住居跡出土遺物実測図(2)

第53号住居跡出土遺物観察表 (第137・138図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
241	須恵器	坏	[13.4]	4.2	[8.2]	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部下端へら削り 底部回転へら切り	床面	30%
242	須恵器	高台付坏	[14.0]	5.7	8.7	長石・石英	灰	良好	体部下端へら削り 底部回転へら切り後、高台貼り付け へら書き ^{♀×♂}	床面	60% PL32・43
243	須恵器	蓋	14.8	3.7	-	長石・石英・雲母	黄灰	良好	天井部回転へら削り後、つまみ貼り付け	床面	90%
244	須恵器	蓋	[14.0]	3.7	-	長石・石英・雲母	灰白	良好	天井部回転へら削り後、つまみ貼り付け 内面朱墨痕	覆土下層	50% PL33
245	須恵器	高盤	-	(12.0)	[13.6]	長石・石英	灰白	良好	脚部外面口クロナデ 下端回転へら削り 4孔式脚部	床面	30%
246	灰釉陶器	長頸瓶	-	(4.0)	13.0	緻密・長石・石英	にぶい赤褐	良好	体部外面から底面にかけて施釉 原始灰釉 へら書き ^{♀×♂}	床面	10% PL43 鳴海32号式
247	須恵器	甌	34.6	31.7	15.1	長石・石英	褐灰	普通	体部横位の平行叩き 下端へら削り 底部5孔式 内面無文の当て具痕を残すへらナデ	床面・覆土下層	60% PL41

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP69	球状土錘	3.0	2.8	0.7	23.9	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔指頭痕	覆土中	PL45

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP70	支脚	17.3	7.0	5.3	905.0	長石・石英・雲母	へら削り後、ナデ 指頭圧痕	竈火床面	
DP71	支脚	16.8	7.4	5.7	990.0	長石・石英・雲母	上面工具痕 へら削り後、ナデ 指頭圧痕	竈火床面	PL47

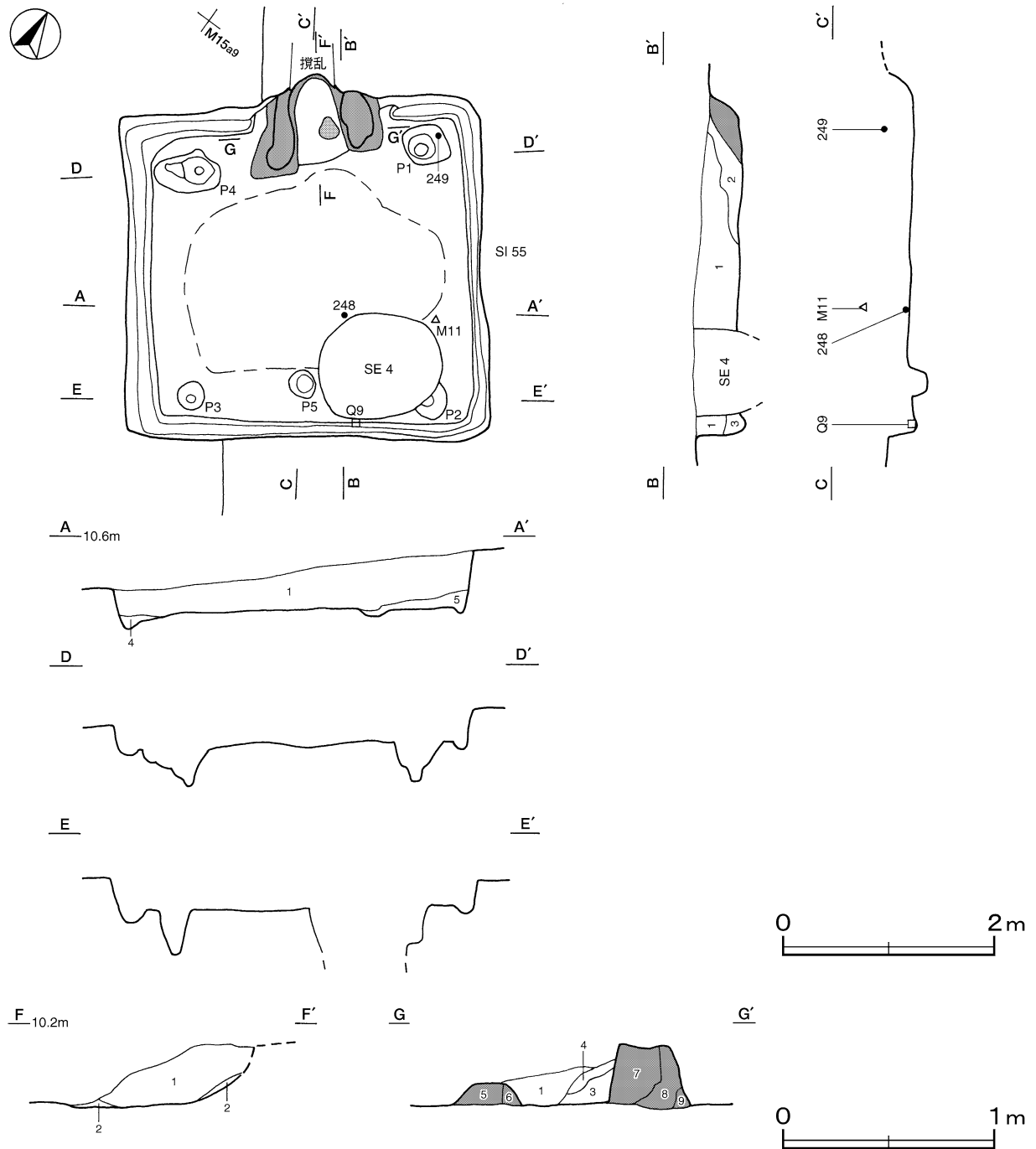
第56号住居跡 (第139・140図)

位置 調査区南東部のM15a9区、標高10.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第55号住居跡を掘り込み、東部を第4号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.45m、短軸3.27mの方形で、主軸方向はN - 36° - Wである。壁高は23~35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。



第139図 第56号住居跡実測図

竈 北西壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで80cm，燃烧部幅48cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に褐色土を積み上げて構築されている。第5～9層は袖部の構築土である。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に25cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量 | 6 にぶい橙色 焼土粒子多量，粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子中量，焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 |
| 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 粘土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 9 極暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ38～42cmで，規模と配置から支柱穴である。P5は深さ18cmで，南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットである。

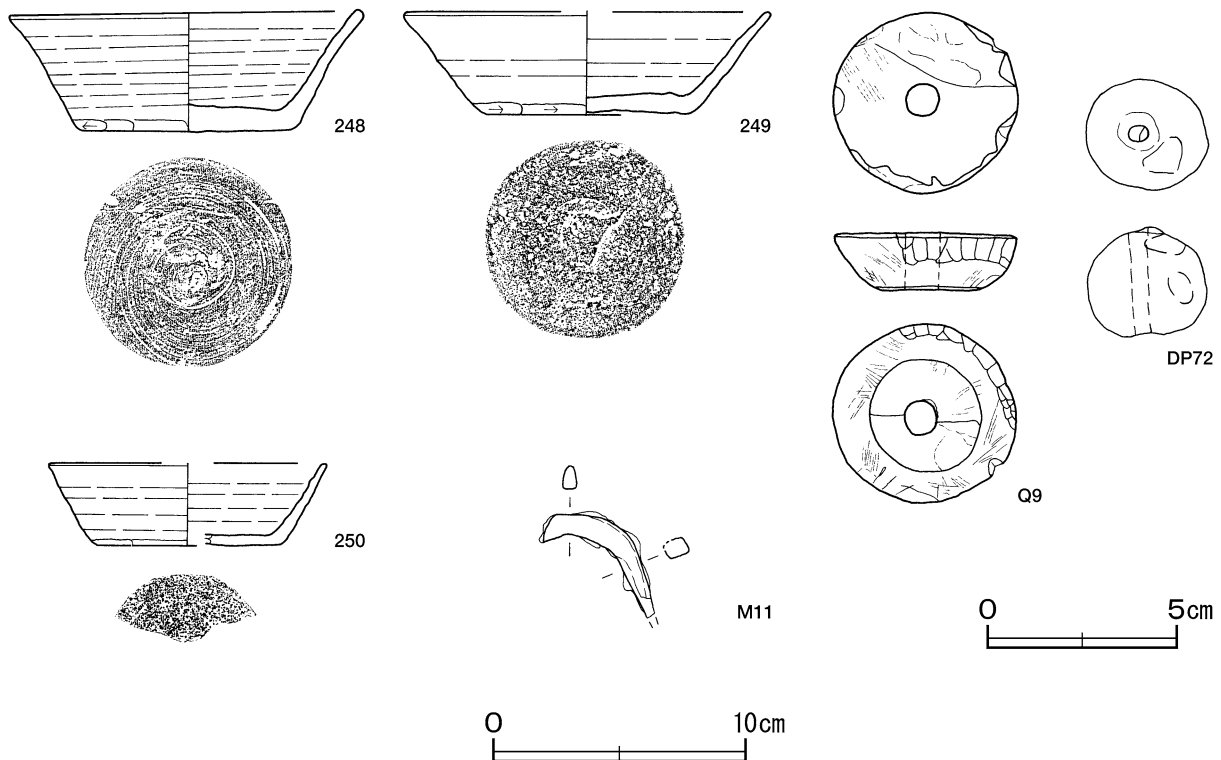
覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック少量，粘土ブロック・炭化物微量 | 5 黒褐色 焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片263点(坏22，甕240，小形甕1)，須恵器片36点(坏10，蓋12，甕14)，土製品1点(球状土錘)，石製品1点(紡錘車)，金属製品1点(不明鉄製品)が出土している。248は中央部の床面，Q9は南東壁際の壁溝内からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第140図 第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表（第140図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
248	須恵器	坏	13.8	4.8	8.4	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	床面	75%
249	須恵器	坏	[14.5]	4.1	8.0	雲母	灰白	良好	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り 二次焼成	覆土上層	50%
250	須恵器	坏	[10.8]	3.4	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	灰白	良好	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土中	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP72	球状土錘	3.3	2.9	0.5	26.8	長石・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL45

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q9	紡錘車	4.8	1.5	0.9	(40.7)	粘板岩	円錐台形 上面一部欠け	床面	PL47

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M11	不明	(4.2)	(4.7)	0.8	(12.1)	鉄	断面長方形 下部欠損	覆土上層	PL49

第57号住居跡（第141図）

位置 調査区南東部のM16b1区，標高11.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 南西コーナー部を第58号住居，西壁を第60号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.10m，短軸2.80mの長方形で，主軸方向はN - 22° - Wである。壁高は14～28cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。確認された部分では壁溝が巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで78cm，燃烧部幅42cmである。左袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に褐色土を積み上げて構築されている。第12・13層は袖部の構築土である。火床部は床面をやや掘りくぼめている。煙道部は壁外に26cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量	7 暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
3 にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量	9 灰黄褐色	砂質粘土粒子多量 焼土粒子少量，ローム粒子微量
4 赤褐色	焼土ブロック多量，ロームブロック中量	10 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
5 褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量	11 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
6 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量	12 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
		13 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量

ピット 2か所。P1は深さ10cmで，性格は不明である。P2は深さ18cmで，南壁際に位置していることから，出入口施設に伴うピットである。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

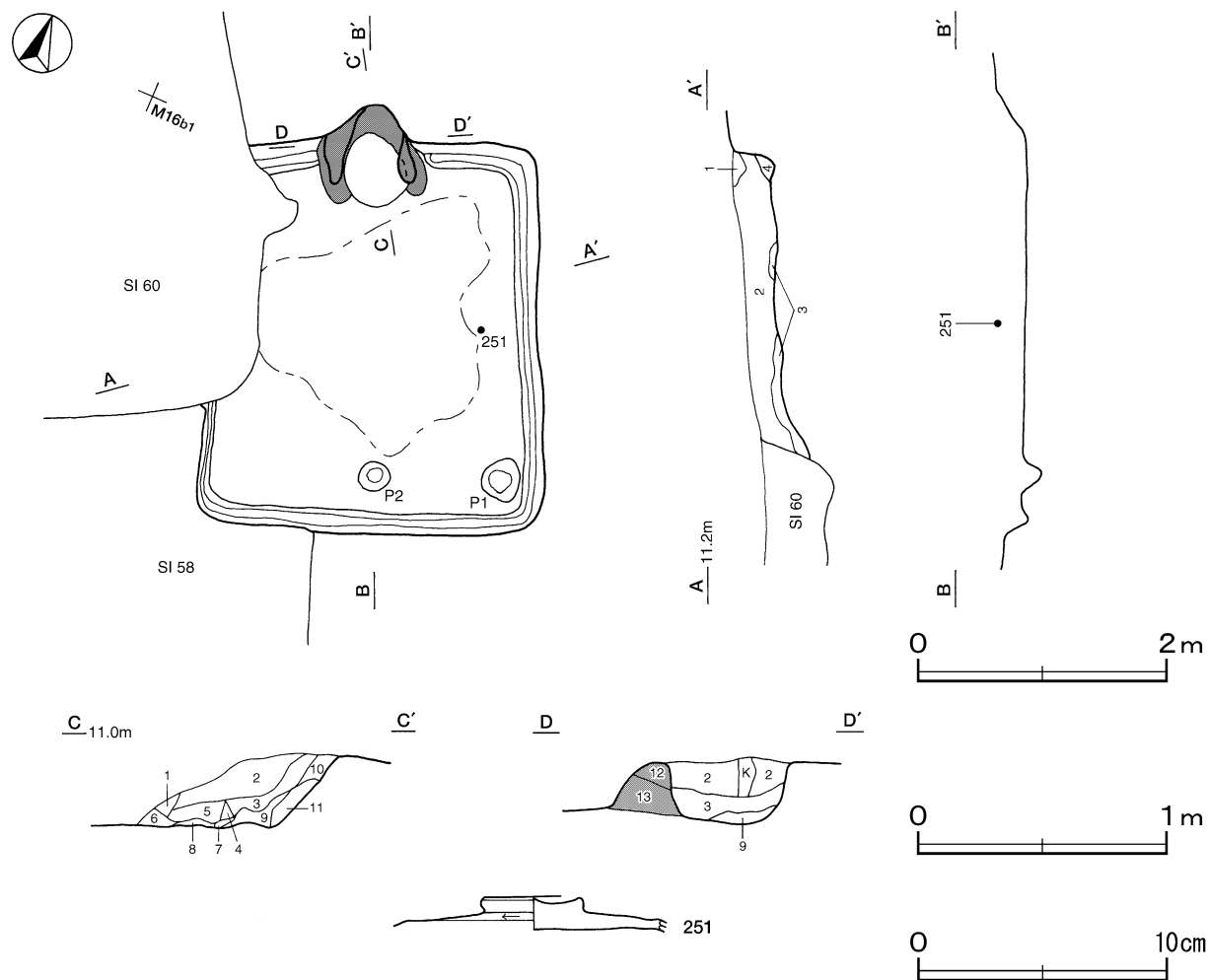
土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量	3 暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2 暗褐色	炭化物・焼土粒子少量，ロームブロック微量	4 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片119点（坏17，蓋1，甕101），須恵器片107点（坏5，蓋1，甕101）が出土している。

251は東壁付近の覆土上層から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第141図 第57号住居跡・出土遺物実測図

第57号住居跡出土遺物観察表（第141図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
251	須恵器	蓋	-	(1.4)	-	長石・黒色粒子	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土上層	5%

第61号住居跡（第142図）

位置 調査区南東部のM16a2区，標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第63号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南東部が調査区域外へ延びているため，北東・南西軸は4.45mで，北西・南東軸は1.20mが確認できただけである。壁と主柱穴から主軸方向がN - 40° - Eの方形または長方形と推測される。壁高は16～35cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。壁溝が西コーナー部から北西壁まで確認されている。

ピット 3か所。P1・P2は深さ58cm・20cmで，規模と配置から主柱穴である。P3は深さ16cmで，性格は不明である。

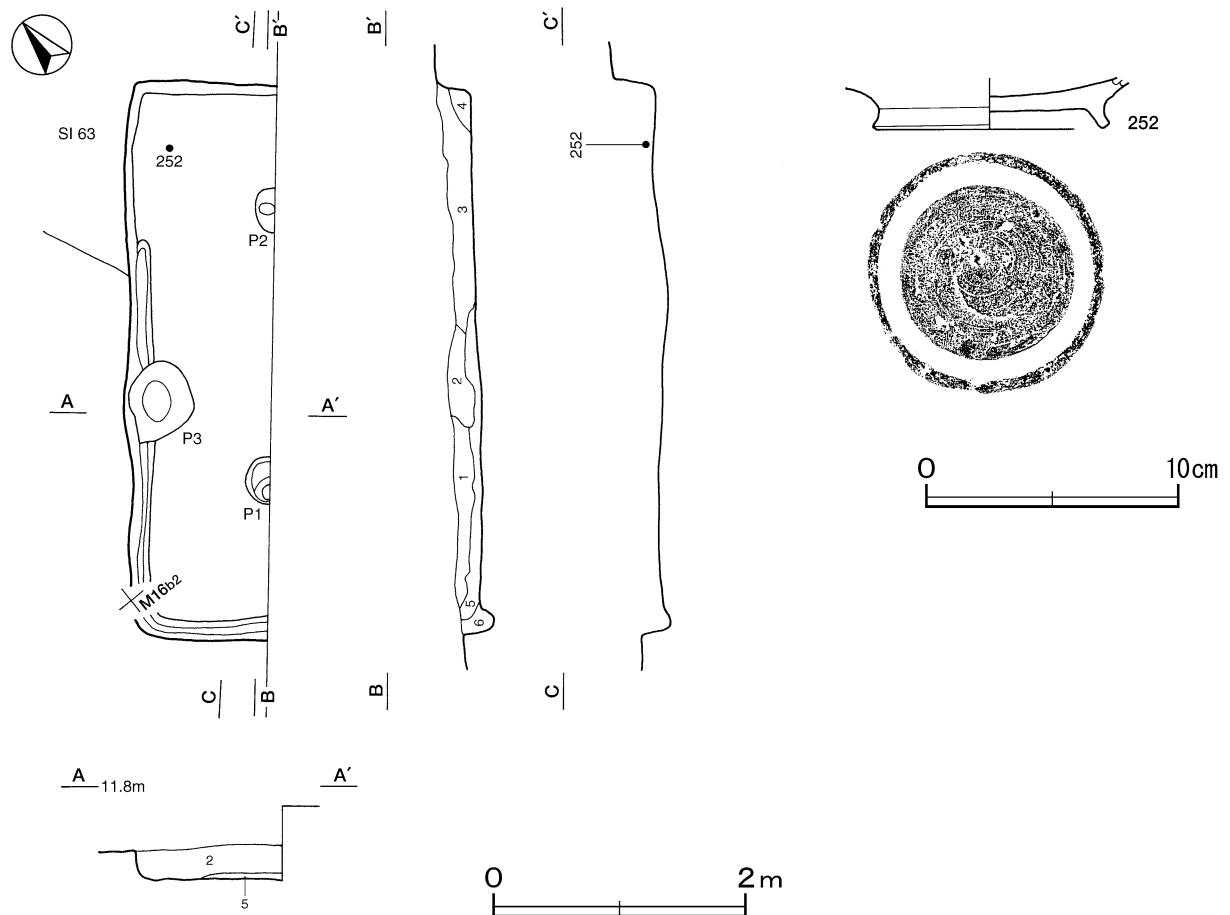
覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量,炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子少量,ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量,炭化粒子少量,焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片40点(坏7, 甕31, 甑2), 須恵器片13点(坏5, 高台付坏1, 蓋2, 甕4, 甑1)が出土している。252は北コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 時期は,出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第142図 第61号住居跡・出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表(第142図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
252	須恵器	高台付坏	-	(2.1)	9.0	長石・石英・雲母	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り後,高台貼り付け	覆土下層	30%

第64号住居跡(第143・144図)

位置 調査区南東部のL16j1区, 標高11.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第55・63・77号住居跡を掘り込み, 中央部を第109号土坑, 北東壁を第12号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.50m, 短軸4.30mの方形で, 主軸方向はN-60°-Eである。壁高は18~25cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 南西部に傾斜しており、中央部が踏み固められている。壁溝が北東壁から南コーナー部まで確認されている。炭化材が全域から放射状に確認されている。

竈 北東壁の中央部に付設されている。上部を第12号方形竈穴遺構に掘り込まれ、煙道部が攪乱を受けているため、規模は焚口部から火床部まで45cm、燃烧部幅20cmが確認できただけである。火床部は床面とほぼ同じ高さである。

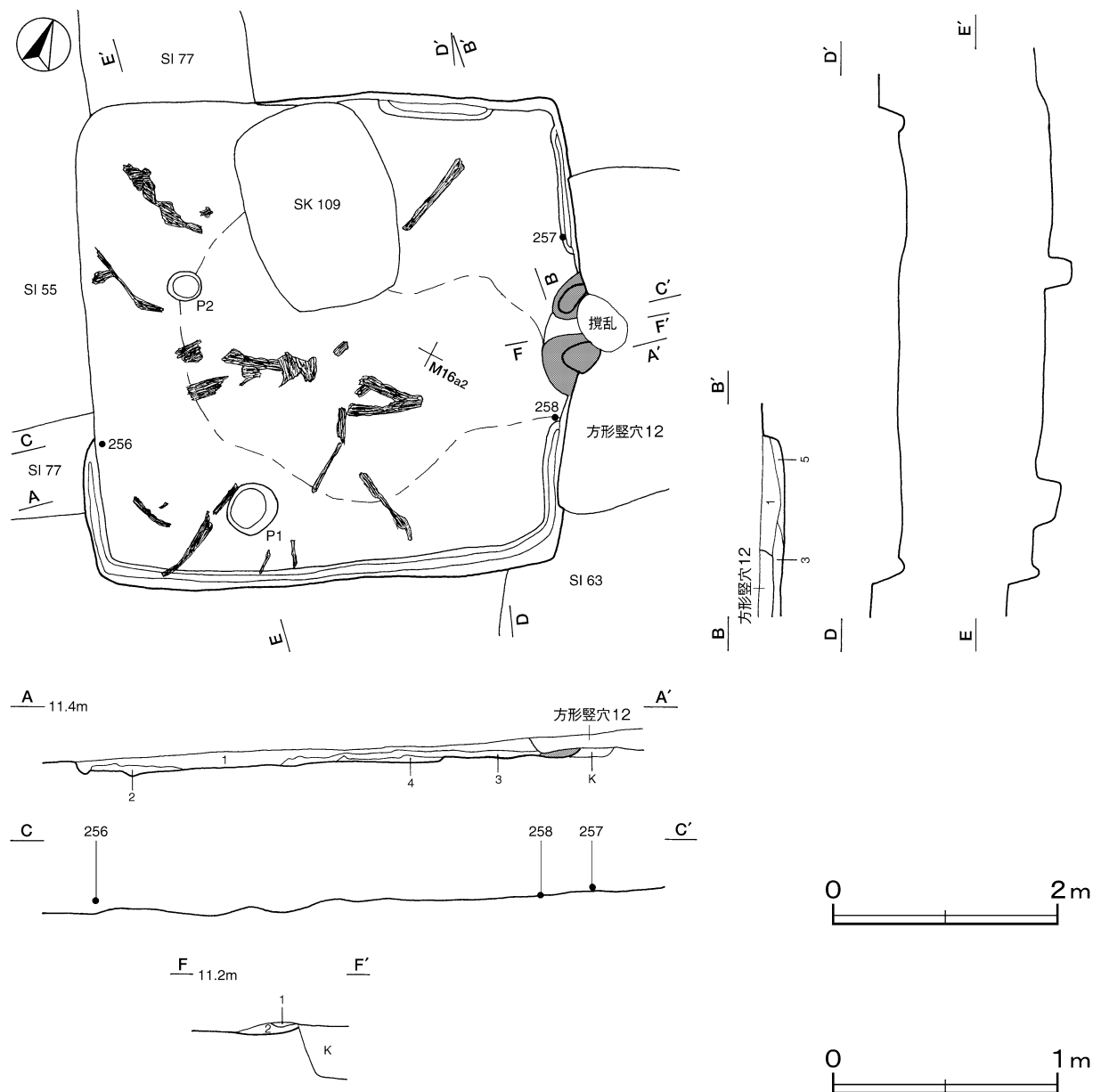
竈土層解説

1 にぶい黄褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量

2 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 2か所。P1・P2は深さ22cm・25cmで、性格は不明である。

覆土 5層に分層できる。層厚は薄いだが、ロームブロック等が含まれていることから、埋め戻されているとみられる。



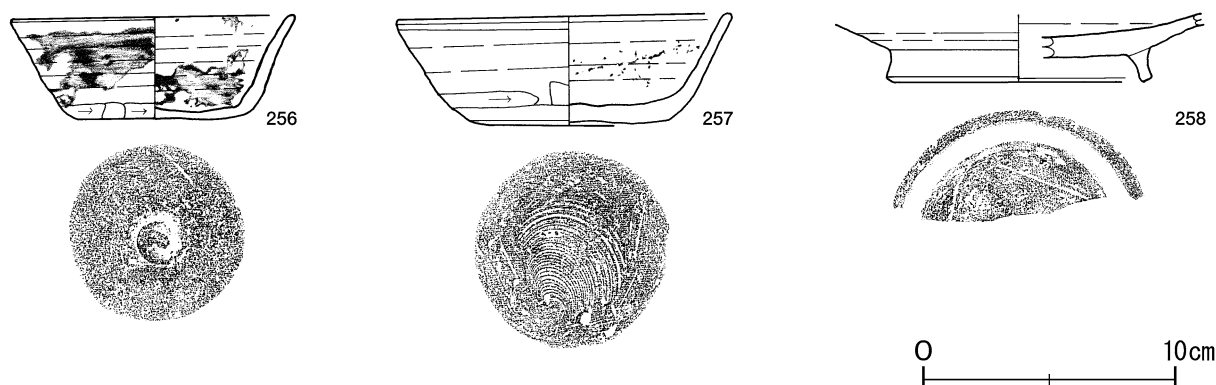
第143図 第64号住居跡実測図

土層解説

- | | |
|--|---|
| 1 暗褐色 炭化物少量，ロームブロック微量 | 4 暗褐色 炭化材多量，ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量，
ロームブロック微量 | 5 にぶい黄褐色 ローム粒子中量，粘土ブロック・炭化粒子少量，
焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 炭化材・ローム粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片276点（坏16，高坏1，甕259），須恵器片32点（坏18，高台付坏2，蓋3，甕9）が出土している。257・258は北東壁際の床面，256は南西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 炭化材が床面全域から出土していることから焼失住居である。漆が付着している坏が出土していることから，漆塗布と関わりのある住居と考えられる。時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第144図 第64号住居跡出土遺物実測図

第64号住居跡出土遺物観察表（第144図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
256	須恵器	坏	11.3	4.2	7.0	石英・雲母	暗灰黄	良好	体部下端へら削り 底部回転へら切り痕を残す 手持ちナデ 内・外面漆付着	覆土下層	95% PL30
257	須恵器	坏	13.1	4.4	7.8	長石・石英・雲母	暗灰黄	良好	体部下端へら削り 底部回転系切り痕を残す不 定方向のへら削り 内面漆付着	床面	90%
258	須恵器	高台付坏	-	(2.7)	10.0	長石・石英	暗灰黄	良好	底部回転へら削り後，高台貼り付け	床面	30%

第66号住居跡（第145・146図）

位置 調査区中央部のL15e5区，標高10.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第129号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.85m，短軸4.58mの方形で，主軸方向はN - 18° - Wである。壁高は8～37cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床である。壁溝がほぼ全周している。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで78cm，燃烧部幅40cmである。袖部および燃烧部は地山を20cmほど掘り込んで，暗褐色土の上になぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，煙道部は壁外に20cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。第6～8層は袖部の構築土，第9～11層は掘方への埋土である。

竈土層解説

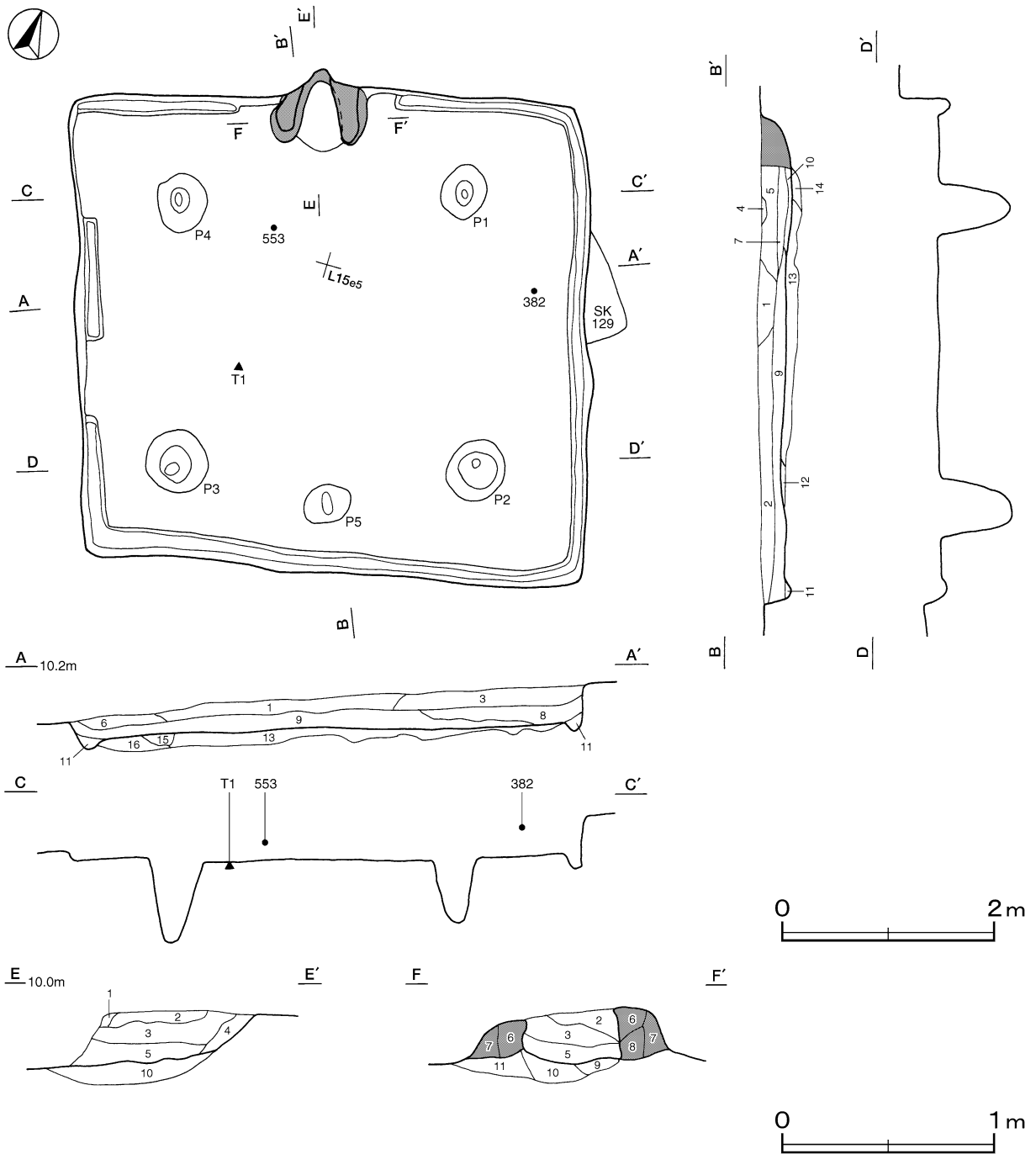
- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子微量 | 4 黒褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 暗赤褐色 ロームブロック中量 焼土ブロック・粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量 | |

- 6 にぶい黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
- 8 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量
- 9 極暗褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量

- 10 暗褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 11 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は深さ62～77cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ30cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 11層に分層できる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。第12～16層は貼床の構築土である。



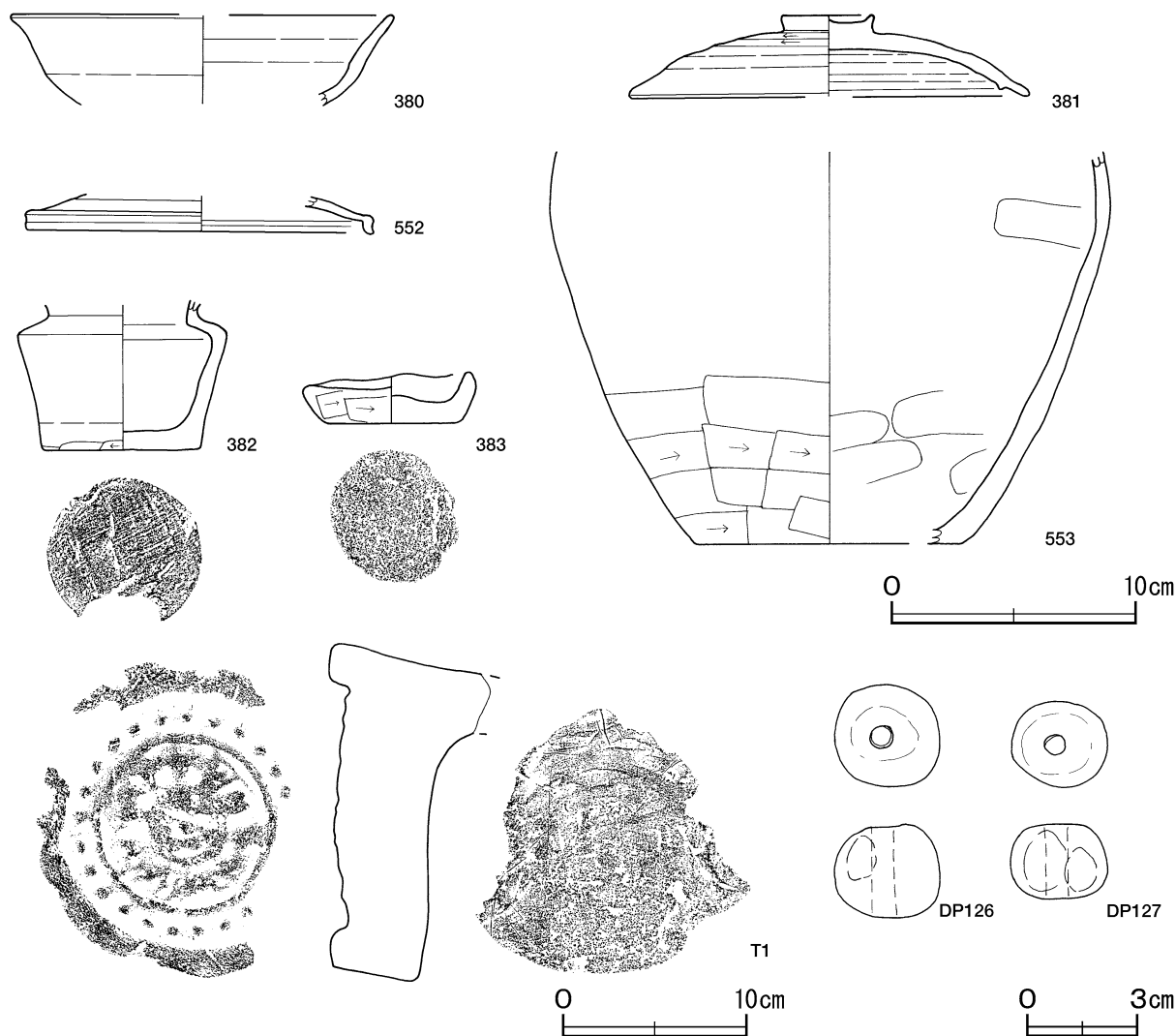
第145図 第66号住居跡実測図

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 | 10 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 11 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 12 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 13 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック多量, 炭化材中量 |
| 5 暗褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 14 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 炭化粒子少量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 15 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック多量, 炭化物少量 | 16 灰黄褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 焼土ブロック多量, ロームブロック・炭化粒子少量 | |
| 9 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片334点(坏68, 高台付坏 1, 甕263, 手捏土器 2), 須恵器片39点(坏21, 高台付坏 2, 蓋 8, 短頸壺 1, 甕 7), 土製品 2点(球状土錘), 瓦片 1点(軒丸瓦)が貼床および覆土中から出土している。T 1 は中央部の貼床の上層からほぼ正位で出土している。553は中央部の覆土中層, 382は東壁付近の覆土上層, 381・552は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 国分寺系軒丸瓦が中央部の貼床の上層からほぼ正位で出土しているが, 意味・性格は不明である。時期は, 貼床から出土している瓦および出土遺物から 8 世紀後葉と考えられる。



第146図 第66号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表 (第146図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
380	須恵器	坏	[15.6]	(3.5)	-	長石	灰	良好	体部口クロナデ	覆土中	5%
381	須恵器	蓋	[16.1]	3.3	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土中	30%
552	須恵器	蓋	[14.2]	(1.5)	-	長石	灰	良好	天井部口クロナデ	覆土中	5%
382	須恵器	短頸壺	-	(6.0)	6.4	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り	覆土上層	40%
553	土師器	甕	-	(16.1)	(10.9)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端ヘラ削り 内面ナデ	覆土中層	10%
383	土師器	手捏土器	6.7	2.2	5.4	長石・雲母・黒色粒子・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ナデ 底部一方向のヘラ削り	覆土中	80%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP126	球状土錘	2.8	2.5	0.6	19.1	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	PL46
DP127	球状土錘	2.3	2.0	0.6	11.5	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	PL46

番号	器種	高さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T 1	軒丸瓦	18.1	(16.6)	(8.7)	(2100.0)	長石・石英	素縁複弁十葉花文 (常陸国分寺7104e型式カ)	貼床上層	PL50

第72号住居跡 (第147・148図)

位置 調査区中央部のJ14j3区, 標高8.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第54・71号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.40m, 短軸4.35mの方形で, 主軸方向はN-43°-Wである。壁高は6~50cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで70cm, 燃烧部幅50cmである。袖部および燃烧部は地山を15cmほど掘り込んで, 暗褐色土の上ににぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面をやや掘りくぼめ, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に25cm掘り込まれ, 火床面から緩やかに立ち上がっている。第14層は袖部の構築土, 第15~18層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 10 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 にぶい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量 |
| 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量 | 12 明赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 13 黒褐色 炭化物・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 14 にぶい黄褐色 粘土粒子多量, 細礫中量 |
| 6 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 15 赤褐色 焼土ブロック多量 |
| 7 暗褐色 焼土ブロック中量, 炭化物微量 | 16 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 炭化物多量, 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量 | 17 暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 9 暗褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 18 黒褐色 炭化粒子微量 |

ピット 5か所。P1~P4は深さ22~50cmで, 規模と配置から主柱穴である。P5は深さ17cmで, 南東壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットである。

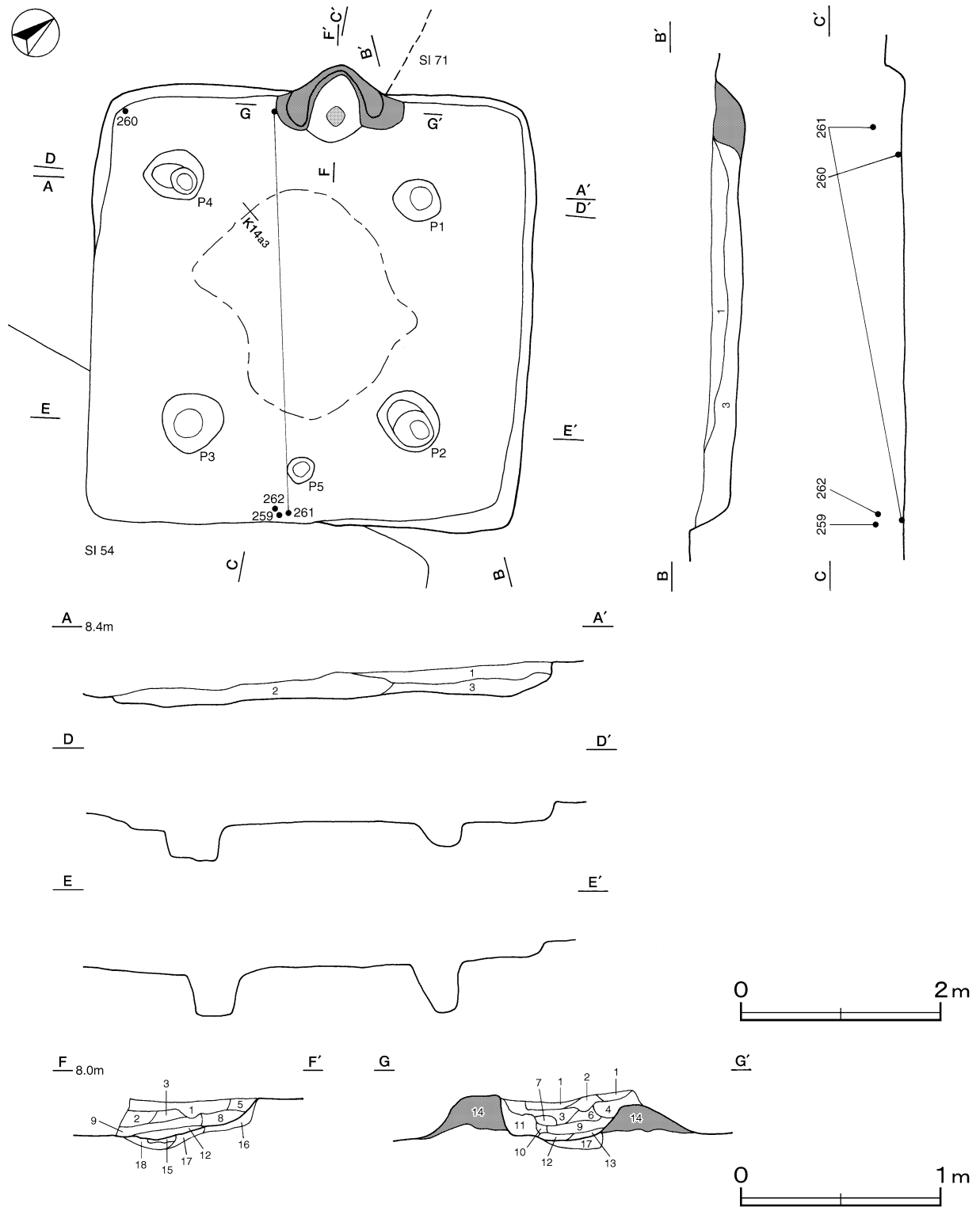
覆土 3層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

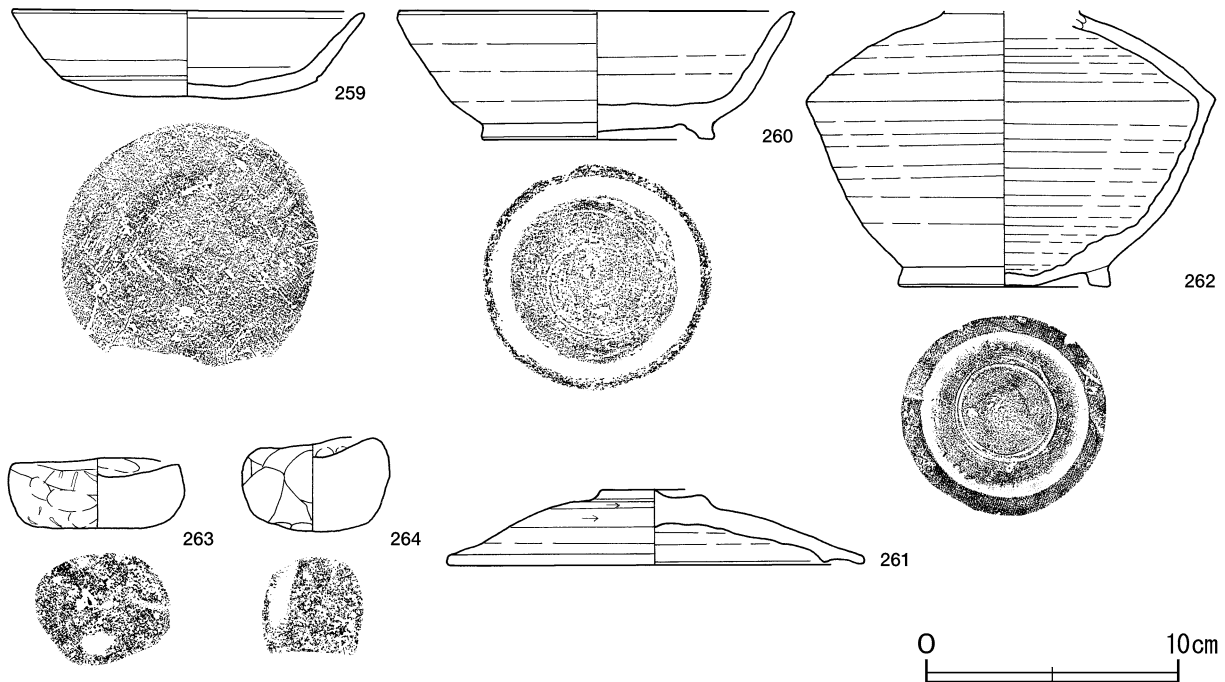
- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 3 灰黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | |

遺物出土状況 土師器片94点（坏25，甕67，手捏土器2），須恵器片17点（坏11，高台付坏1，蓋1，長頸瓶2，甕2）が出土している。260は西コーナー部壁際の床面，259・262はP5 付近の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第147図 第72号住居跡実測図



第148図 第72号住居跡出土遺物実測図

第72号住居跡出土遺物観察表 (第148図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
259	須恵器	坏	14.0	3.4	10.1	長石・石英・雲母	灰	良好	底部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土上層	80% PL30
260	須恵器	高台付坏	15.6	5.1	9.1	長石・石英・雲母	にぶい赤橙	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	床面	95% PL32
261	須恵器	蓋	16.2	3.0	-	長石・石英・雲母	灰白	良好	天井部回転ヘラ削り後, つまみ貼り付け	床面・覆土上層	60%
262	須恵器	長頸瓶	-	(11.0)	8.2	長石・石英・黒色粒子	黄灰	良好	体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	覆土上層	70% PL37
263	土師器	手捏土器	6.3	2.8	4.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	指頭痕 削痕	覆土中	90%
264	土師器	手捏土器	4.8	3.7	4.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	ナデ 指頭痕	覆土中	70% PL42

第73号住居跡 (第149・150図)

位置 調査区南東部のL15f6区, 標高10.0mの河岸段丘中位の斜面部に位置している。

規模と形状 南東部が削平されているため長軸は推定5.05m, 短軸4.90mで, 主軸方向がN-10°-Wの方形と推測される。壁高は8~20cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで96cm, 燃烧部幅42cmである。袖部はほぼ同じ高さの地山に褐色土を積み上げて構築されている。第9・10層は袖部の構築土である。火床部は床面をやや掘りくぼめている。煙道部は壁外に12cm掘り込まれ, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

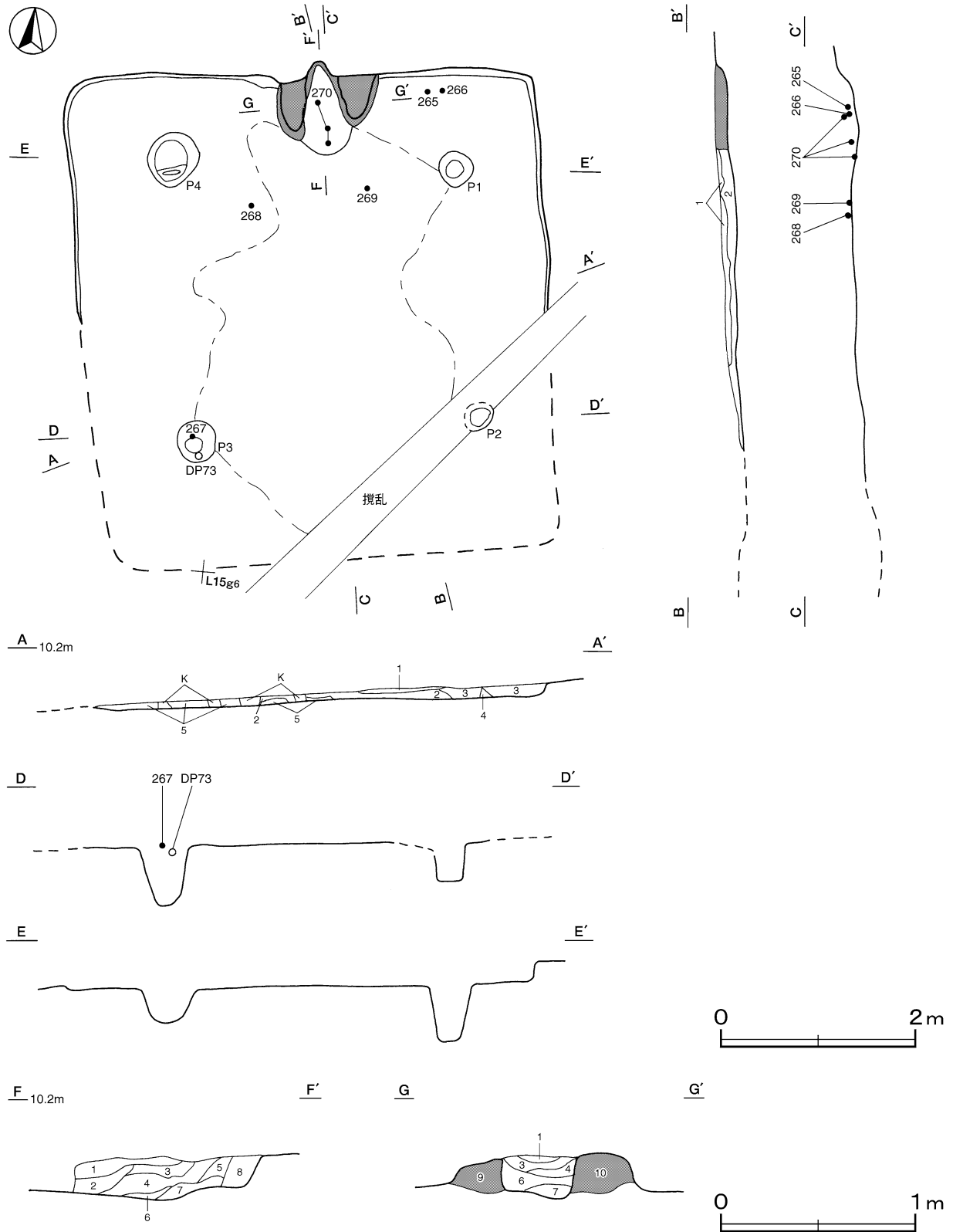
- | | | | |
|----------|--------------------------|-----------|-------------------------------|
| 1 オリーブ褐色 | 砂質粘土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物微量 | 9 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子中量, 炭化物・ローム粒子・細礫少量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量, 細礫少量, ローム粒子微量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | | |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

ピット 4か所。P1~P4は深さ35~60cmで, 規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土 5層に分層できる。不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

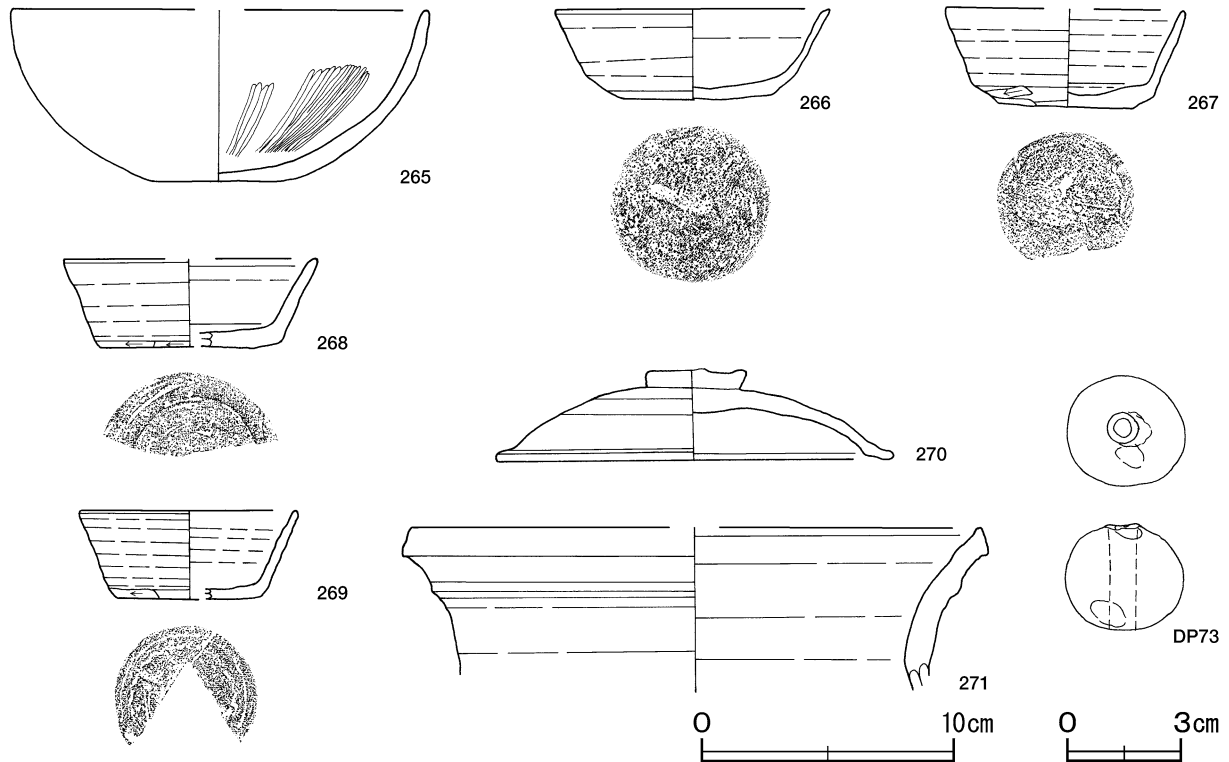
- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量,炭化物微量 | 4 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック中量,焼土粒子少量,炭化物微量 | 5 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量,焼土粒子・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | |



第149図 第73号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片247点(坏26, 蓋 1, 鉢 1, 甕219), 須恵器片48点(坏33, 高台付坏 2, 蓋 5, 甕 8), 土製品 1点(球状土錘)が出土している。その他, 混入した陶器片, 磁器片も出土している。269は中央部の床面, 267はP3の覆土上層, 265・266は北壁の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第150図 第73号住居跡出土遺物実測図

第73号住居跡出土遺物観察表 (第150図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
265	土師器	坏	[16.4]	6.8	[5.2]	石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面ヘラ削り後, ナデ 内面放射状のヘラ磨き 二次焼成	覆土下層	30%
266	須恵器	坏	10.8	3.6	6.7	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰白	良好	底部不定方向のヘラ削り	覆土下層	80% PL30
267	須恵器	坏	[9.4]	3.9	5.4	長石・石英	灰	良好	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り	P 3 上層	40%
268	須恵器	坏	[10.0]	3.5	[7.1]	長石・石英	黄灰	良好	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土下層	40%
269	須恵器	坏	8.5	3.6	5.5	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方方向のヘラ削り	床面	45% PL30
270	須恵器	蓋	15.5	(3.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り後, つまみ貼り付け	床面・覆土中層	80%
271	須恵器	甕	[22.5]	(6.5)	-	長石・石英	灰	良好	体部内・外面口口調整	覆土中	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP73	球状土錘	3.1	2.8	0.8	22.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方方向からの穿孔 指頭痕	P 3 上層	PL45

第79号住居跡 (第151 ~ 153図)

位置 調査区南東部の L 15a1区, 標高9.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.13m, 短軸3.10mの方形で, 主軸方向はN - 50° - Eである。壁高は35~47cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部西寄りが踏み固められている。壁溝が東コーナー部を除いて全周している。

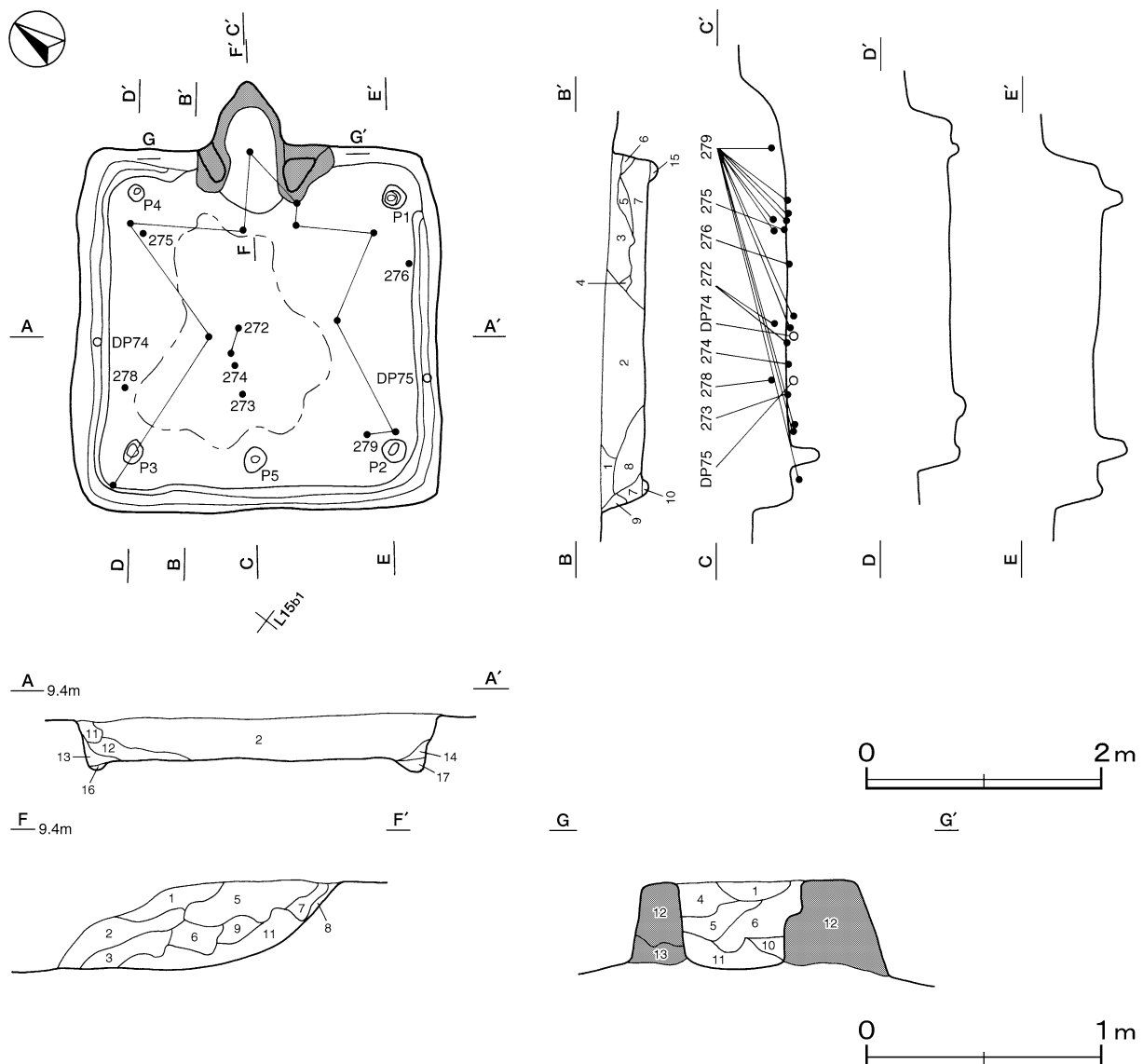
竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで112cm、燃焼部幅43cmである。袖部はほぼ同じ高さの地山に褐色土を積み上げて構築されている。第12・13層は袖部の構築土である。火床部は床面をやや掘りくぼめている。煙道部は壁外に56cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量 | 8 にぶい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量,炭化粒子少量,焼土ブロック微量 | 9 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 焼土粒子少量,炭化物微量 | 10 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 灰黄褐色 炭化粒子少量,焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 11 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 |
| 5 にぶい黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量,炭化粒子微量 | 12 にぶい黄褐色 粘土ブロック・細礫少量,焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量,炭化物微量 | 13 黒褐色 粘土粒子中量,焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量 |
| 7 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量,炭化物微量 | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ10～27cmで、規模と配置から支柱穴である。P5は深さ26cmで、南西壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

覆土 17層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。



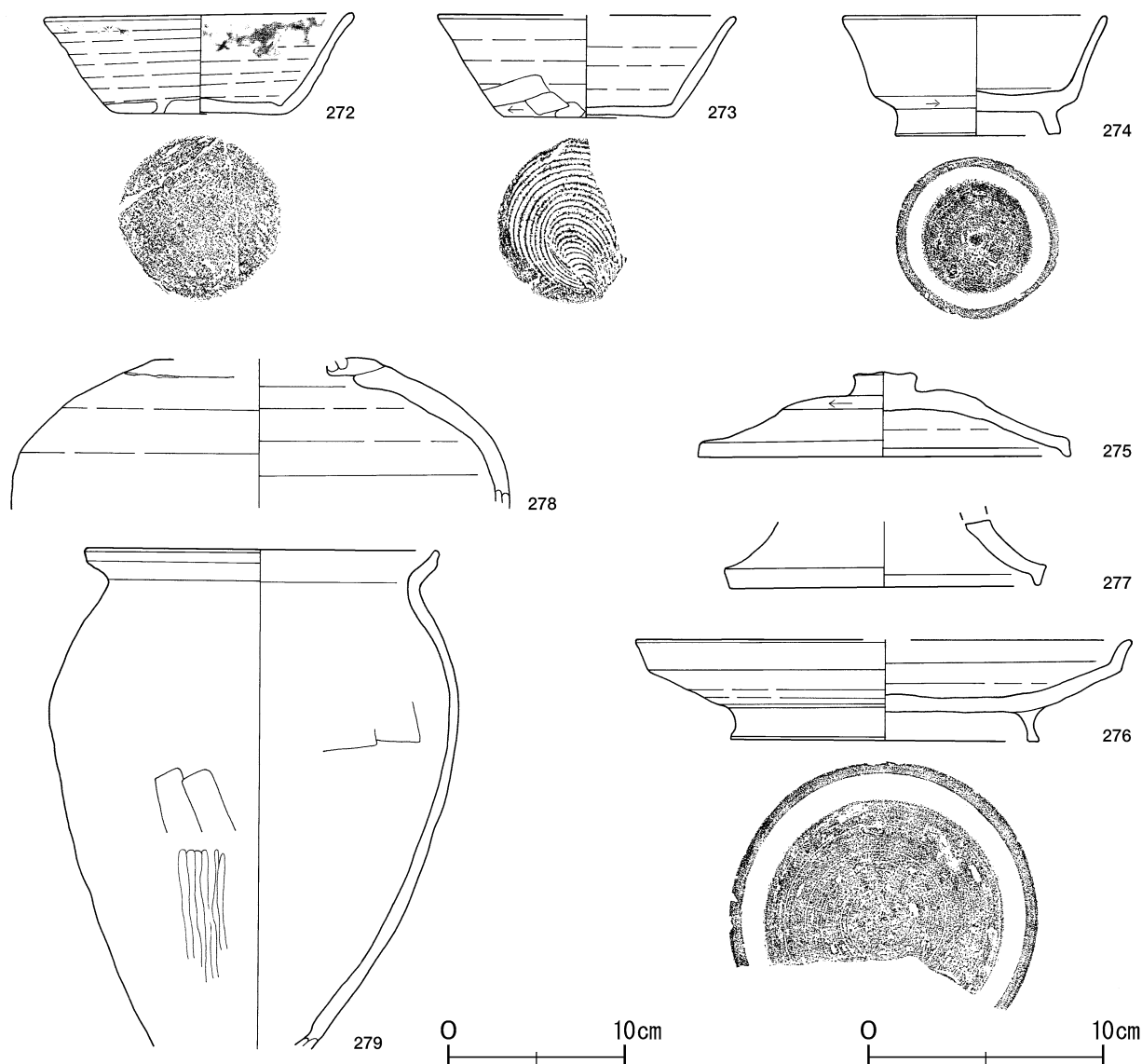
第151図 第79号住居跡実測図

土層解説

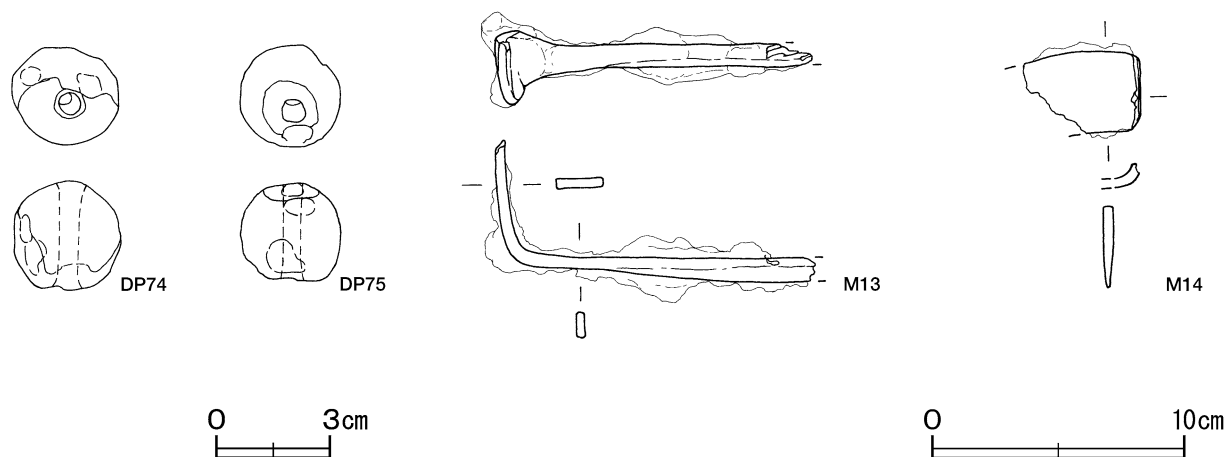
- | | |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 にぶい黄褐色 焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 11 黒褐色 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 12 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 |
| 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 | 13 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 焼土粒子少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量 | 14 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 6 褐色 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 15 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 7 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 16 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 8 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | 17 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 9 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片390点(坏11, 蓋1, 甕378), 須恵器片107点(坏41, 高台付坏9, 蓋20, 高台坏皿1, 盤1, 高盤2, 長頸瓶1, 甕32), 土製品2点(球状土錘), 金属製品2点(鎌, 不明鉄製品)が床面全体から出土している。273・274は中央部, 275は北西壁際, 276は北東壁際の床面からそれぞれ出土している。272は中央部の床面と覆土中層から出土した破片が接合したものである。DP74は北西壁際, DP75は北東壁際の壁溝内からそれぞれ出土したものである。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第152図 第79号住居跡出土遺物実測図(1)



第153図 第79号住居跡出土遺物実測図(2)

第79号住居跡出土遺物観察表 (第152・153図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
272	須恵器	坏	13.0	4.3	7.0	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部下端ヘラ削り 底部ヘラ切り	床面・覆土中層	70% PL30
273	須恵器	坏	[12.5]	4.4	7.2	長石	灰	良好	体部内・外面ロクロナデ 体部下端ヘラ削り 底部回転糸切り	床面	60%
274	須恵器	高台付坏	11.2	5.1	7.0	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	床面	80% PL32
275	須恵器	蓋	15.7	3.6	-	長石・石英	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	床面	60% PL33
276	須恵器	盤	[21.0]	4.3	10.5	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	床面	50%
277	須恵器	高盤	-	(2.8)	[13.1]	長石・石英	灰	良好	脚部下端ナデ	覆土中	10%
278	須恵器	長頸瓶	-	(6.3)	-	長石・石英	灰	良好	体部外面ロクロ目消しのナデ	覆土中層	60%
279	土師器	甕	19.6	(27.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面・覆土下層	70%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP74	球状土錘	2.8	2.9	0.8	19.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	壁溝内	PL46
DP75	球状土錘	2.7	2.6	0.5	(18.9)	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕 一部欠け	壁溝内	PL46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M13	不明	(13.0)	1.9	0.3	(68.3)	鉄	断面長方形	覆土中	PL48
M14	鎌	(4.6)	3.2	0.3	(20.6)	鉄	断面三角形	覆土中	

第81号住居跡 (第154・155図)

位置 調査区南部のL14a0区、標高9.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 北東壁を第80号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.10m、短軸2.95mの方形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁高は28~35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床である。壁溝が北コーナー部から西コーナー部まで確認されている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cm、燃焼部幅60cmである。火床部は床面をやや掘りくぼめ、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

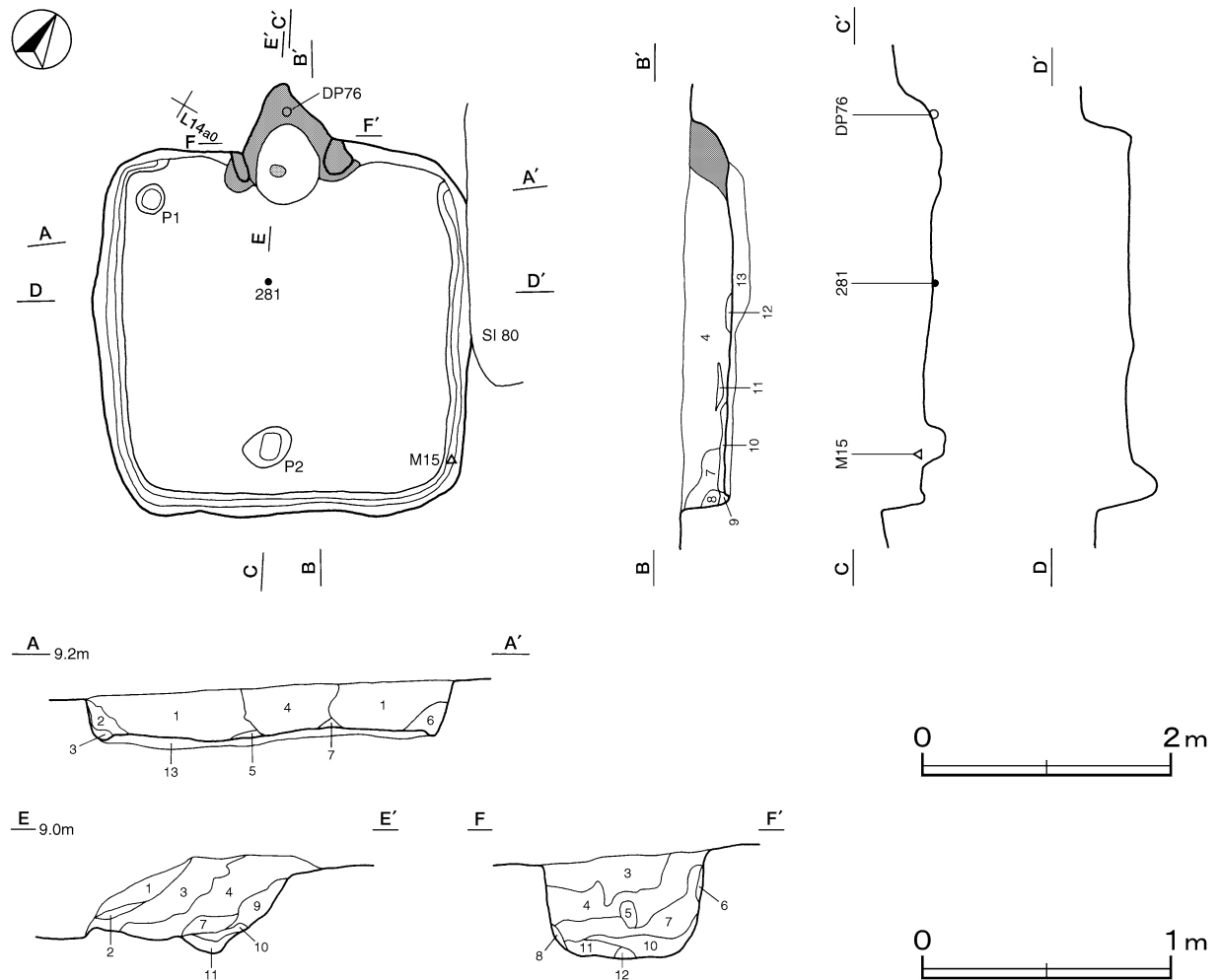
- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子中量 |
| 2 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 暗赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量 |
| 4 灰黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 焼土ブロック中量, 炭化物微量 |
| 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量 | 12 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子微量 |

ピット 2か所。P1は深さ18cmで、性格は不明である。P2は深さ16cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 12層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。第13層は貼床の構築土である。

土層解説

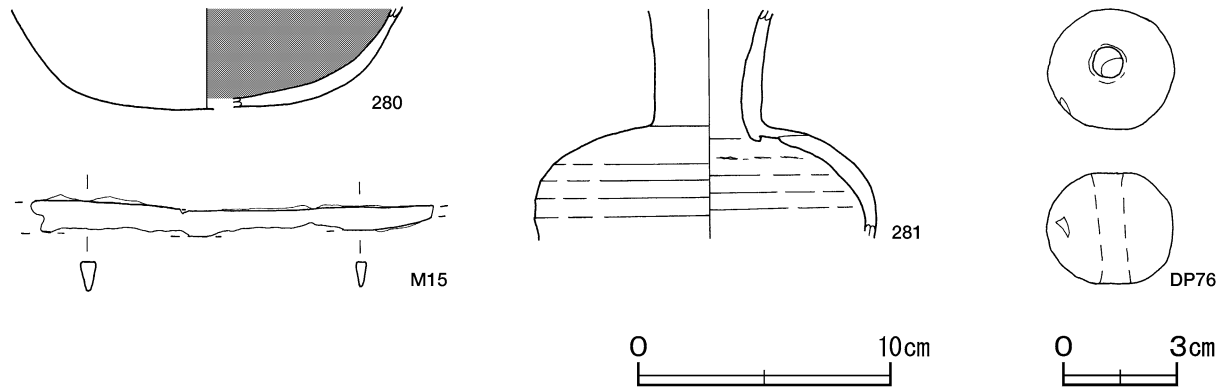
- | | |
|--------------------------------|--|
| 1 黒褐色 粘土ブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 10 褐色 粘土ブロック多量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量 | 11 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 | 12 暗褐色 粘土ブロック多量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 13 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 炭化粒子微量 | |
| 7 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | |
| 8 黒褐色 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | |



第154図 第81号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片92点（坏4，甕87，甑1），須恵器片18点（坏5，長頸瓶1，甕12），土製品1点（球状土錘），金属製品1点（刀子）が出土している。その他，流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。281は中央部の床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第155図 第81号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡出土遺物観察表（第155図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
280	土師器	坏	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面器面摩滅	覆土中	15%
281	須恵器	長頸瓶	-	(9.0)	-	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	内・外面口口調整 内面輪積痕	床面	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP76	球状土錘	3.3	3.0	0.7	30.3	長石・石英・雲母	丁寧なナデ 一方向からの穿孔後，面取り	覆土下層	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M15	刀子	(16.0)	5.0	1.1	(15.3)	鉄	断面三角形	床面	PL49

第82号住居跡（第156～158図）

位置 調査区南部のL14b9区，標高9.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.83m，短軸4.65mの方形で，主軸方向はN - 40° - Wである。壁高は30～62cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで106cm，燃烧部幅43cmである。袖部は床面よりやや高い地山ににぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。内壁は火を受けて赤変している。第14層は袖部の構築土である。火床部は床面をやや掘り下げ，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 灰黄褐色 焼土ブロック少量，炭化物微量 | 6 暗褐色 焼土ブロック中量 粘土ブロック少量 炭化物微量 |
| 2 にぶい黄褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 にぶい黄褐色 焼土ブロック中量 粘土ブロック少量 炭化物微量 |
| 3 にぶい黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子中量，炭化物微量 | 8 黒褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量，焼土ブロック少量 |
| 4 にぶい黄褐色 焼土ブロック中量，焼土粒子少量，炭化物微量 | 9 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，炭化物少量 | 10 黒褐色 焼土ブロック中量，炭化物少量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ10～24cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ40cmで、南東壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

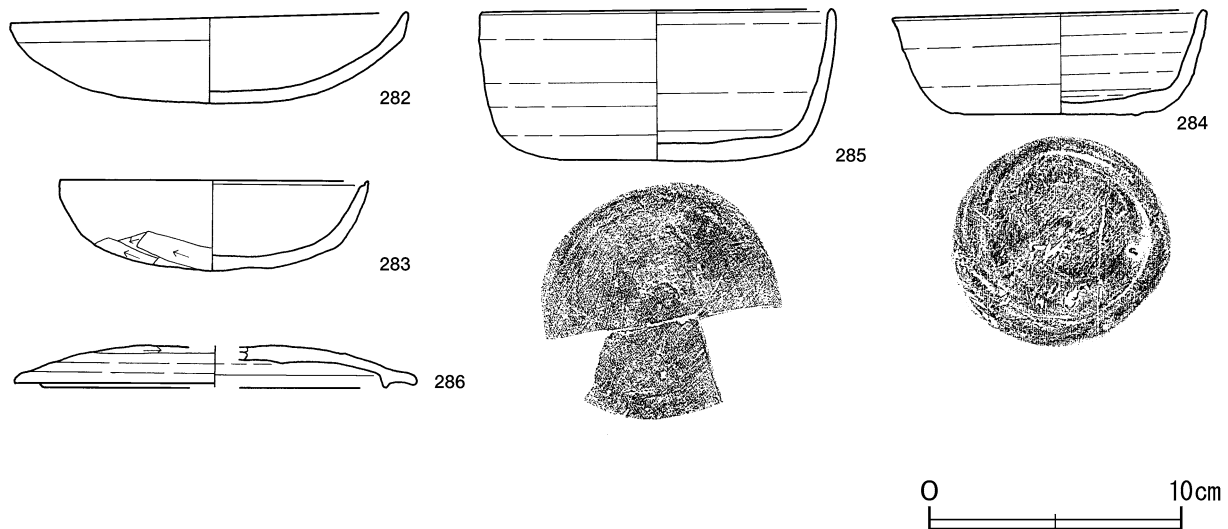
覆土 21層に分層できる。大半の層にロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。第22層は貼床の構築土である。

土層解説

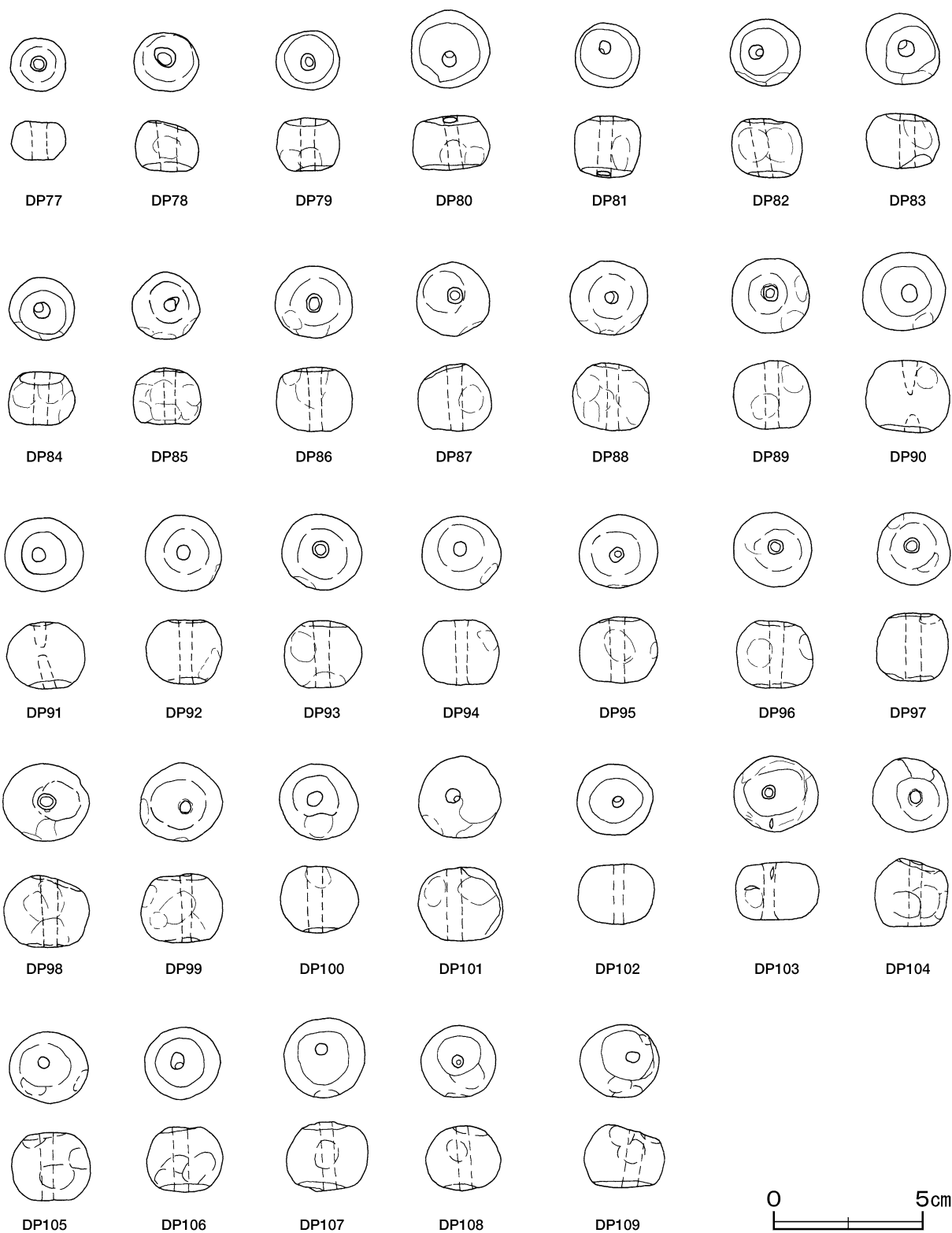
1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	13 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
2 暗褐色	焼土ブロック多量, ロームブロック中量, 炭化物少量	14 褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
3 褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量	15 暗褐色	ロームブロック中量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	16 暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5 灰褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	17 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量	18 褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
7 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	19 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量
8 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	20 黒色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
9 黒褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量	21 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
10 黒褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量	22 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
11 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量		
12 褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片842点(坏141, 甕701), 須恵器片33点(坏30, 蓋2, 甕1), 土製品33点(土玉1, 球状土錘32)が北・西・南コーナー部と中央部の床面および覆土中から出土している。283・286, DP104・105は南西壁付近からそれぞれ出土しており, 284は南西壁付近, 北東壁際・北コーナー部の床面から覆土上層にかけてそれぞれ出土したものが接合したものである。DP80・83・103は南西壁際の覆土下層から出土している。DP81・86は南西壁際, DP84・93・107～109は北西壁際, DP85・87・94・99・100は北コーナー部付近, DP91・92は竈前の覆土中層からそれぞれ連なった状態で出土している。

所見 球状土錘が床面・覆土下層・覆土中層から数個ずつ連なった状態で出土していることから廃絶後に遺棄された漁網のおもりと考えられる。当遺跡が恋瀬川に近い位置に所在していることや球状土錘が大量に出土していることから, 漁労と関わりのある住居と考えられる。時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第157図 第82号住居跡出土遺物実測図(1)



第158図 第82号住居跡出土遺物実測図(2)

第82号住居跡出土遺物観察表 (第157・158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
282	土師器	坏	15.7	3.7	-	赤色粒子	明赤褐	普通	内・外面器面荒れ	覆土中層	90%
283	土師器	坏	12.2	3.5	-	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後, ナデ 内面ナデ	床面	85%
284	須恵器	坏	12.3	4.2	8.6	長石	灰	良好	底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	床面・覆土上層	70%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
285	須恵器	坏	13.9	6.0	9.6	長石・黒色粒子	灰白	良好	底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り	覆土中層～上層	40%
286	須恵器	蓋	[15.8]	(1.7)	-	長石・石英	灰	良好	天井部回転ヘラ削り 内・外面口クロナデ	床面	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特 徴		出土位置	備考
DP77	土玉	1.8	1.3	0.5	4.1	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り		覆土中層	PL46
DP78	球状土錘	2.2	1.7	0.7	7.4	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46
DP79	球状土錘	2.1	1.8	0.5	7.6	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土下層	PL46
DP80	球状土錘	2.7	1.9	0.5	13.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土下層	PL46
DP81	球状土錘	2.2	1.8	0.5	11.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土下層	PL46
DP82	球状土錘	2.3	2.0	0.5	11.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土下層	PL46
DP83	球状土錘	2.5	1.8	0.5	(11.2)	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土下層	PL46
DP84	球状土錘	2.2	1.9	0.5	8.5	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46
DP85	球状土錘	2.3	1.8	0.4	10.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46
DP86	球状土錘	2.6	2.1	0.6	14.4	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土下層	PL46
DP87	球状土錘	2.5	2.2	0.5	14.0	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46
DP88	球状土錘	2.6	2.3	0.4	15.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46
DP89	球状土錘	2.6	2.3	0.5	16.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土下層	PL46
DP90	球状土錘	2.8	2.4	0.5	20.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 二方向からの穿孔後、面取り 未貫通 指頭痕		覆土下層	PL46
DP91	球状土錘	2.6	2.2	0.5	15.5	長石・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り		覆土中層	PL46
DP92	球状土錘	2.5	2.1	0.4	15.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46
DP93	球状土錘	2.6	2.3	0.6	15.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46
DP94	球状土錘	2.6	2.2	0.4	15.6	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46
DP95	球状土錘	2.6	2.1	0.5	15.8	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46
DP96	球状土錘	2.6	2.3	0.5	15.8	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46
DP97	球状土錘	2.4	2.3	0.5	14.3	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土上層	PL46
DP98	球状土錘	2.8	2.4	0.6	18.4	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46
DP99	球状土錘	2.7	2.3	0.4	18.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46
DP100	球状土錘	2.5	2.2	0.5	14.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46
DP101	球状土錘	2.8	2.5	0.5	19.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46
DP102	球状土錘	2.5	2.0	0.3	13.4	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り		覆土上層	PL46
DP103	球状土錘	2.8	1.9	0.4	15.2	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土下層	PL46
DP104	球状土錘	2.5	2.3	0.4	14.6	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		床面	PL46
DP105	球状土錘	2.6	2.3	0.4	15.4	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		床面	PL46
DP106	球状土錘	2.5	2.2	0.5	14.1	長石・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土下層	PL46
DP107	球状土錘	2.7	2.3	0.4	17.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46
DP108	球状土錘	2.5	2.2	0.5	13.9	長石・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46
DP109	球状土錘	2.7	2.2	0.5	14.8	長石・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕		覆土中層	PL46

第85号住居跡 (第159・160図)

位置 調査区南部のK14h8区、標高9.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 北壁を第84号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.64m、短軸2.42mの方形で、主軸方向はN - 50° - Eである。壁高は15～30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北東壁の中央部に付設されている。第84号住居に掘り込まれているため、右袖部の一部が遺存しているだけである。右袖部および焼部は地山を5cmほど掘り込んで、にぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。第4～7層は右袖部の構築土である。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物中量, 粘土ブロック・ローム粒子少量 | 4 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子多量, 炭化粒子・砂粒少量 |
| 2 にぶい黄褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 6 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・細礫少量 |
| | 7 褐色 粘土粒子多量, 砂粒中量 |

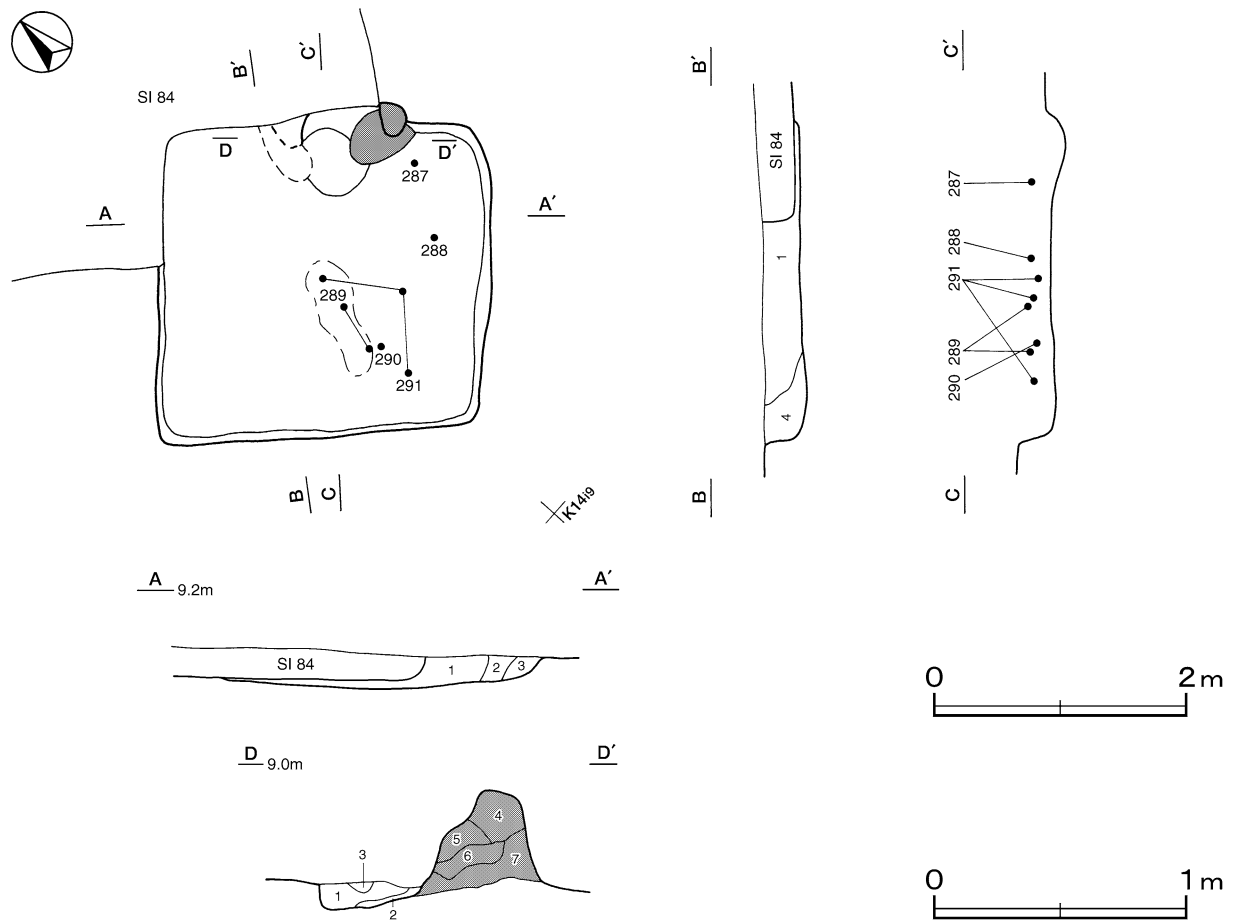
覆土 4層に分層できる。層厚は薄いだが、ロームブロック等を含み不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

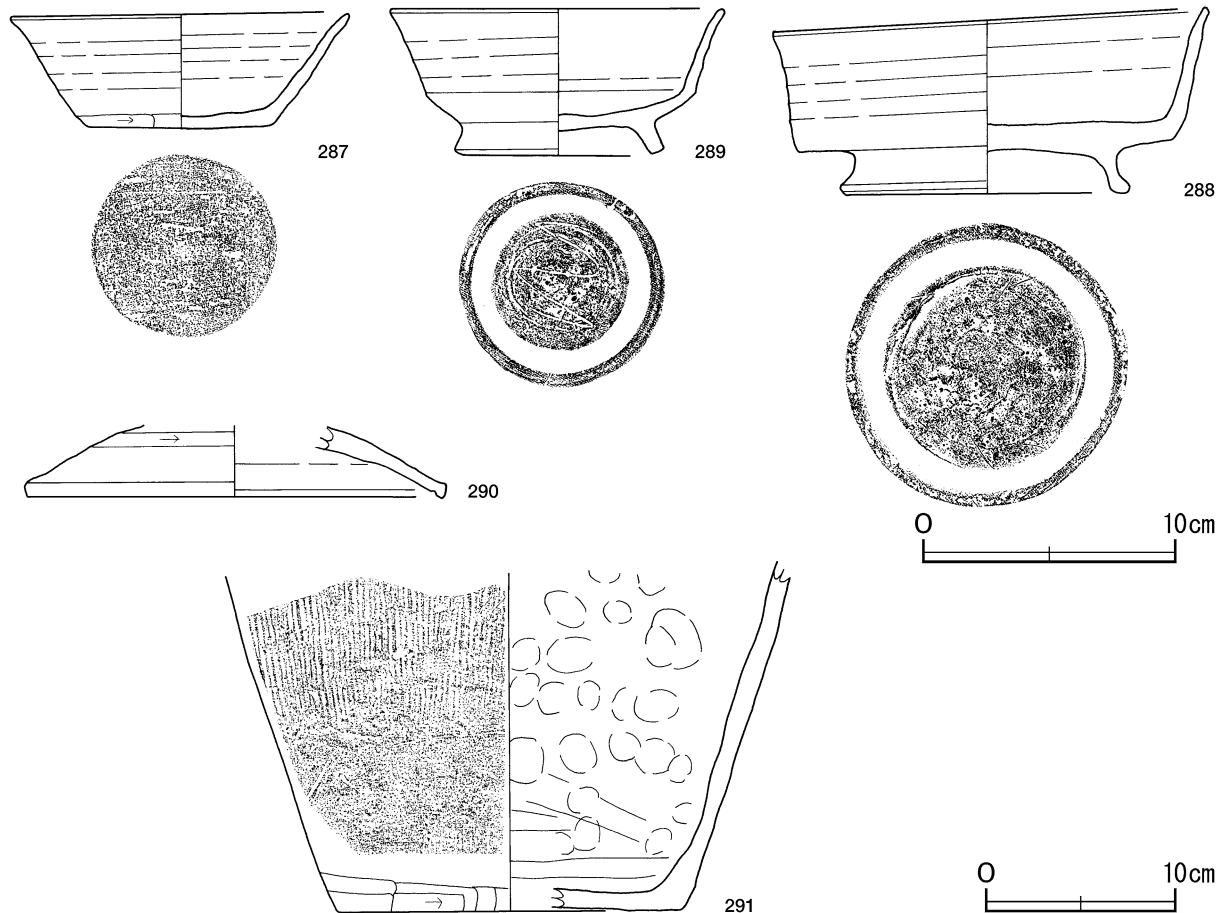
- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量 | 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片241点(甕), 須恵器片52点(坏27, 高台付坏8, 蓋8, 盤1, 甕8), 石器1点(砥石)が中央部から南東壁にかけての覆土中層を中心に出土している。287は東コーナー部, 288は南東壁付近, 289～291は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第159図 第85号住居跡実測図



第160図 第85号住居跡出土遺物実測図

第85号住居跡出土遺物観察表 (第160図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
287	須恵器	坏	13.3	4.5	7.4	長石・石英	灰	良好	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方のヘラ削り	覆土中層	80% PL31
288	須恵器	高台付坏	17.2	7.4	11.2	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	底部手持ちヘラ削り後, 高台貼り付け	覆土中層	80% PL32
289	須恵器	高台付坏	13.2	5.9	7.6	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け ヘラ書き ⁷⁾	覆土中層	90% PL32・43
290	須恵器	蓋	[16.5]	(2.8)	-	長石・石英	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	30%
291	須恵器	甕	-	(18.3)	[17.8]	長石・石英	黄灰	良好	体部縦位の平行叩き 下端ヘラ削り 底部不定方向のヘラ削り 内面ナデ 指頭痕	覆土中層	30%

第91号住居跡 (第161図)

位置 調査区南部のK14h6区, 標高8.5mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第92号住居跡を掘り込み, 南西壁を第13号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.62m, 短軸3.46mの不整形で, 主軸方向はN-32°-Wである。壁高は12~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで82cm, 燃焼部幅45cmである。袖部および燃焼部は地山を10cmほど掘り込んで, にぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面をやや掘りくぼめている。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ, 火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 にぶい黄褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量, 粘土ブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

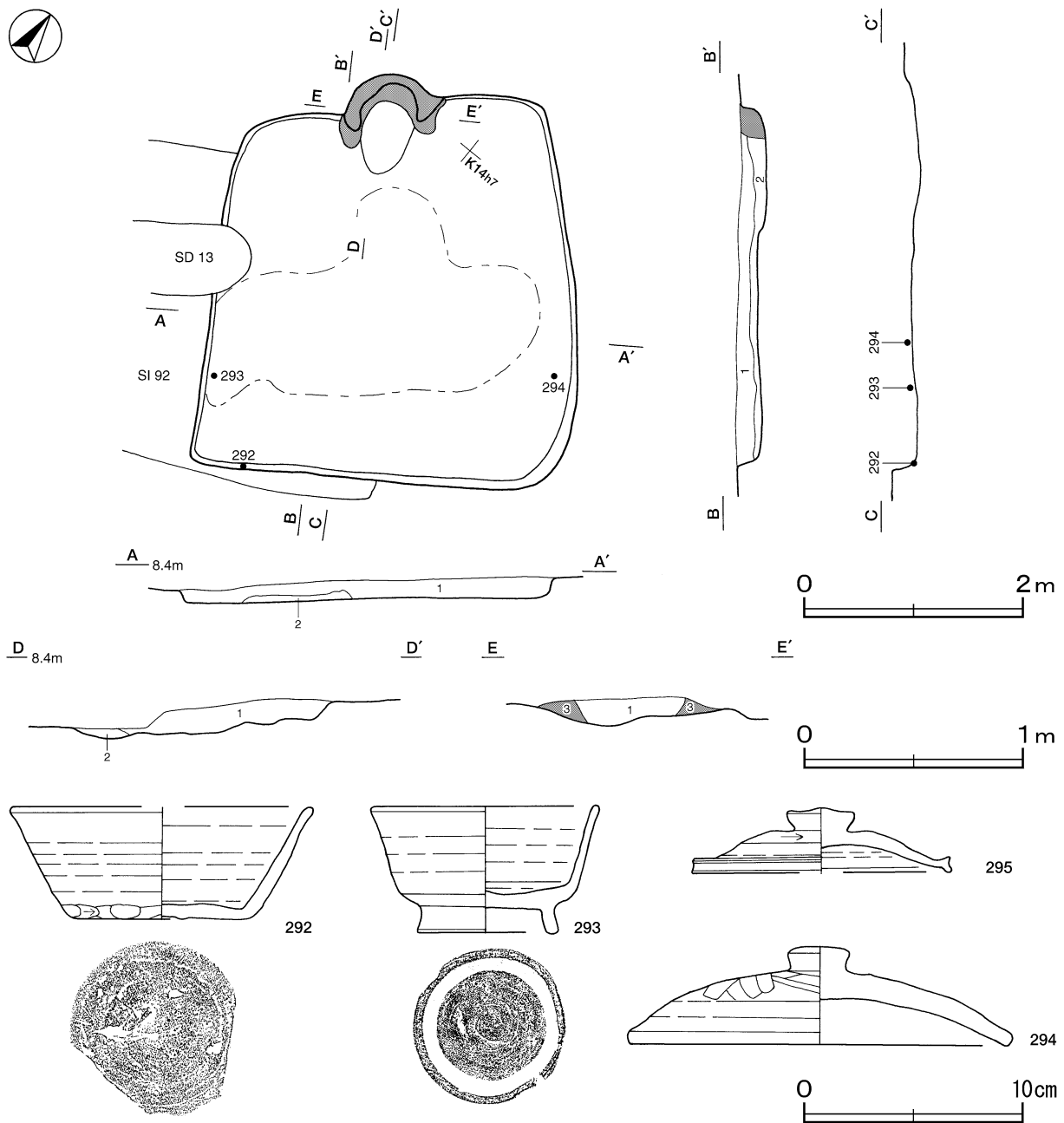
覆土 2層に分層できる。層厚は薄いだが、粘土ブロック等を含み不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量, 炭化物・焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片318点(坏14, 甕304), 須恵器片121点(坏69, 高台付坏12, 蓋20, 高盤4, 甕16)が覆土中から出土している。292は南東壁際の床面から出土している。293は南西壁際, 294は北東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第161図 第91号住居跡・出土遺物実測図

第91号住居跡出土遺物観察表 (第161図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
292	須恵器	坏	[13.5]	5.2	8.1	長石・石英・雲母	暗灰黄	良好	体部下端へラ削り 底部回転へラ切り	床面	40%
293	須恵器	高台付坏	10.2	5.8	6.4	長石・石英	灰	良好	底部回転へラ削り後、高台貼り付け	覆土下層	70% PL32
294	須恵器	蓋	17.2	4.6	-	長石・石英・雲母	灰	良好	天井部回転へラ削り後、つまみ貼り付け 不定方向の手持ちナデ	覆土下層	80% PL33
295	須恵器	蓋	[11.7]	3.0	-	長石・石英	灰	良好	天井部回転へラ削り後、つまみ貼り付け	覆土中	40% PL33

第92号住居跡 (第162・163図)

位置 調査区南部のK14h6区、標高8.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 北東部を第91号住居、西部を第13号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.03m、短軸2.86mの方形で、主軸方向はN - 62° - Eである。壁高は15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

ピット 4か所。P1・P2は深さ32cm・33cmで、規模と配置から支柱穴である。P3・P4は深さがともに35cmで、性格は不明である。

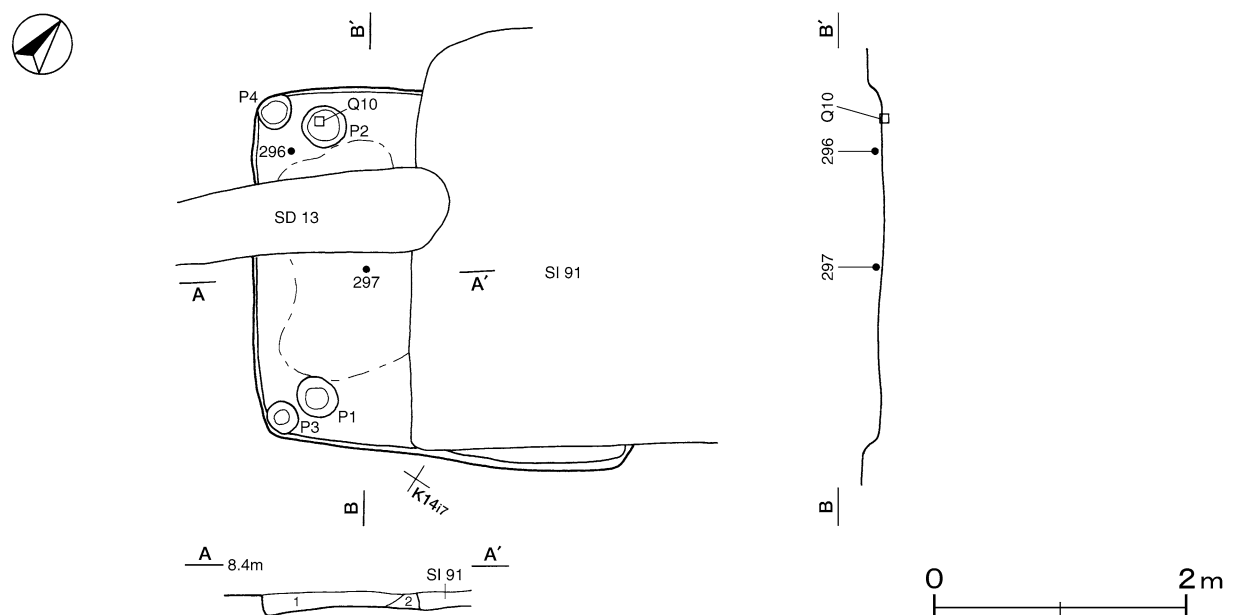
覆土 2層に分層できる。層厚は薄いが、焼土ブロック・粘土ブロックを含み不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

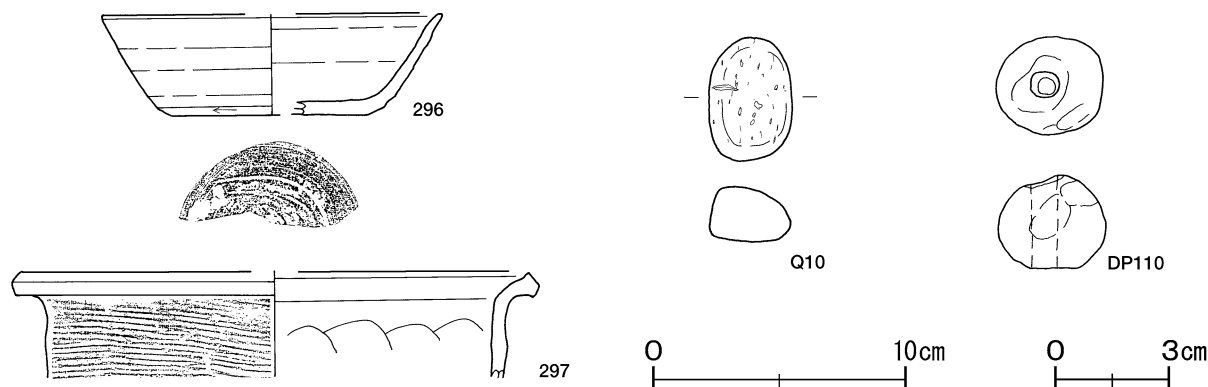
- 1 黒褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量, 炭化物微量

遺物出土状況 土師器片47点(甕46, 甑1), 須恵器片37点(坏24, 高台付坏2, 蓋9, 鉢1, 甕1), 土製品1点(球状土錘), 石製品1点(浮子カ)が出土している。Q10はP2の床面から出土している。296は北西コーナー部、297は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第162図 第92号住居跡実測図



第163図 第92号住居跡出土遺物実測図

第92号住居跡出土遺物観察表（第163図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
296	須恵器	坏	[13.4]	4.0	[7.8]	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	覆土下層	20%
297	須恵器	鉢	[26.4]	(5.5)	-	長石・石英	灰	良好	体部横位の叩き 内面無文の当て具痕	覆土下層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP110	球状土錘	2.8	2.5	0.8	18.7	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕	覆土中	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q10	浮子カ	5.0	3.3	2.2	12.5	軽石	研磨痕	床面	PL48

第94号住居跡（第164・165図）

位置 調査区中央部のK14e4区，標高8.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 北西部を第12号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第12号溝に掘り込まれているため，長軸4.24m，短軸は推定4.10mで，主軸方向がN - 35° - Wの方形と推測される。壁高は20～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。第12号溝に掘り込まれているため遺存状態が悪く，規模や形状は不明である。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に褐色土を積み上げて構築されている。第1～3層は袖部の構築土とみられる。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量，粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 | 3 褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量，粘土ブロック少量 | |

ピット 5か所。P1～P4は深さ50～60cmで，規模と配置から主柱穴である。P5は深さ20cmで，南東壁際に位置していることから，出入口施設に伴うピットである。

覆土 18層に分層できる。粘土ブロック等を含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

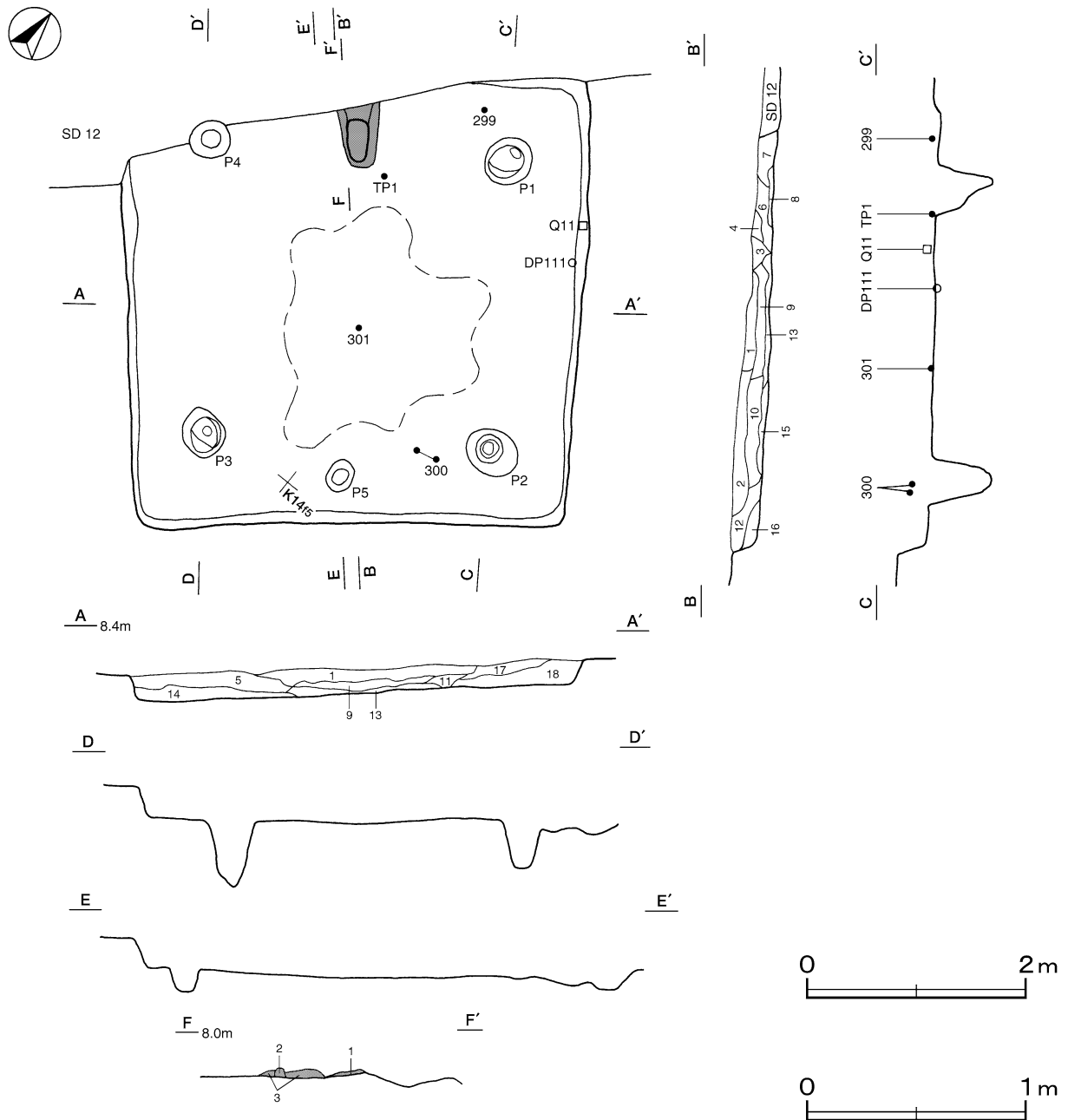
土層解説

- | | |
|---------------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 細礫多量，炭化粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 細礫多量，焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量 |
| 2 にぶい黄褐色 細礫多量，焼土粒子・炭化粒子少量 | |
| 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 にぶい黄褐色 粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量 |

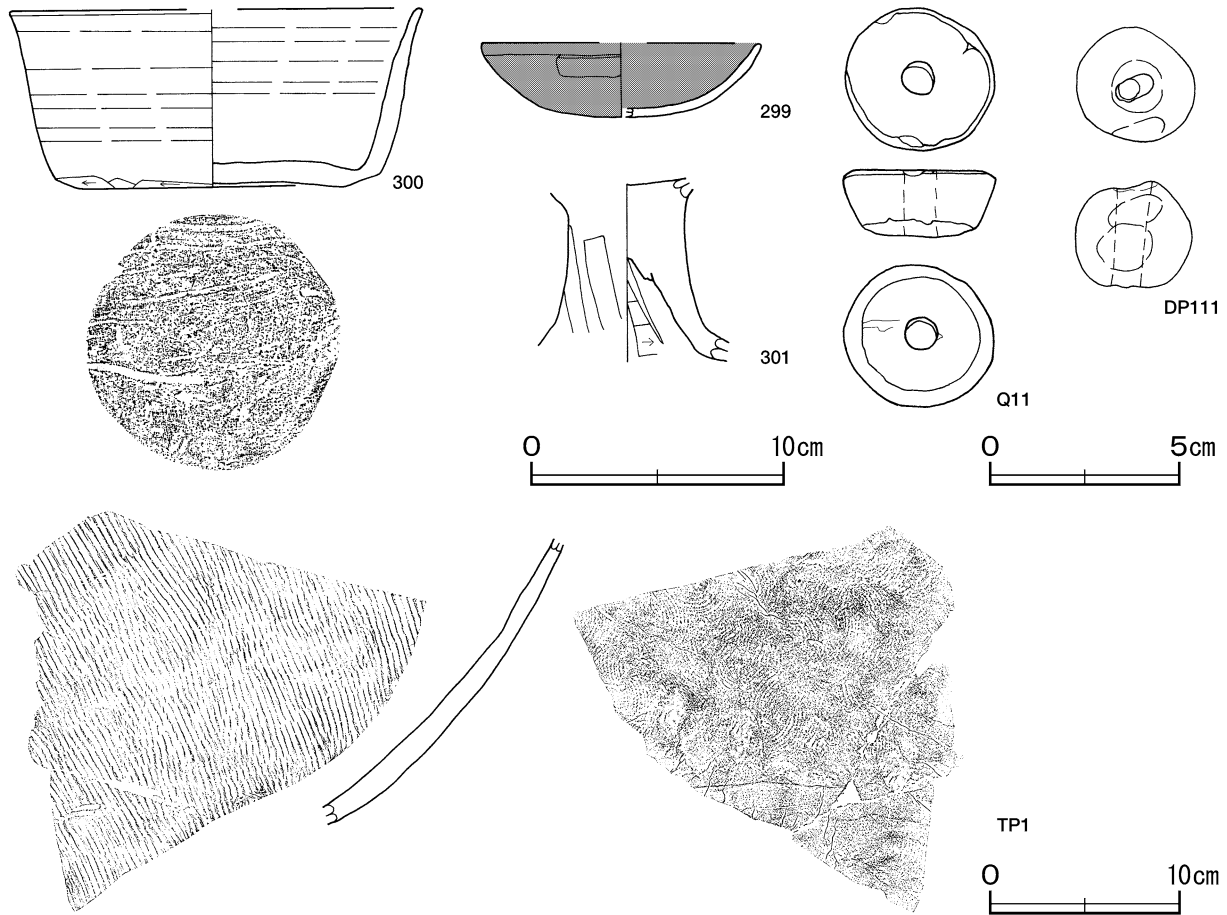
- | | | | | | |
|----|--------|------------------------------|----|--------|-----------------------------|
| 6 | にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | 13 | 暗褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 | にぶい黄褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物微量 | 14 | 褐色 | 粘土ブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 8 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 15 | 褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 9 | 黒褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子微量 | 16 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 10 | にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 17 | にぶい黄褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 11 | 暗褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 18 | 褐色 | 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 12 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | | | |

遺物出土状況 土師器片230点(坏8, 蓋1, 高坏1, 甕220), 須恵器片45点(坏32, 高台付坏1, 蓋4, 甕8), 土製品2点(球状土錘, 支脚), 石製品2点(紡錘車)が出土している。299は北西壁際, 301は中央部, DP111は北東壁際, TP1は竈付近の床面からそれぞれ出土している。300は南東壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第164図 第94号住居跡実測図



第165図 第94号住居跡出土遺物実測図

第94号住居跡出土遺物観察表（第165図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
299	土師器	坏	[11.0]	3.0	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	床面	10%
300	須恵器	坏	[16.2]	7.1	12.4	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す 一方向のヘラ削り	覆土中層	40%
301	土師器	高坏	-	(7.2)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	脚部外面ヘラナデ 内面ヘラ削り	床面	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1	須恵器	甕	長石	灰	良好	体部平行叩き 内面同心円状の当て具痕	床面	PL44

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP111	球状土錘	3.1	2.8	1.0	22.6	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔後、面取り 指頭痕	床面	PL45

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q11	紡錘車	4.0	1.7	0.9	40.1	滑石	両面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL47

第102号住居跡（第166・167図）

位置 調査区中央部のK15d1区、標高10.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 南西部を第10号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西壁が削平されているため、北西・南東軸は3.65mで、北東・南西軸は2.84mが確認できただけである。遺存する壁と竈から主軸方向がN - 43° - Eの方形または長方形と推測される。壁高は26 ~ 38cmで、外傾して立ち上がっている。

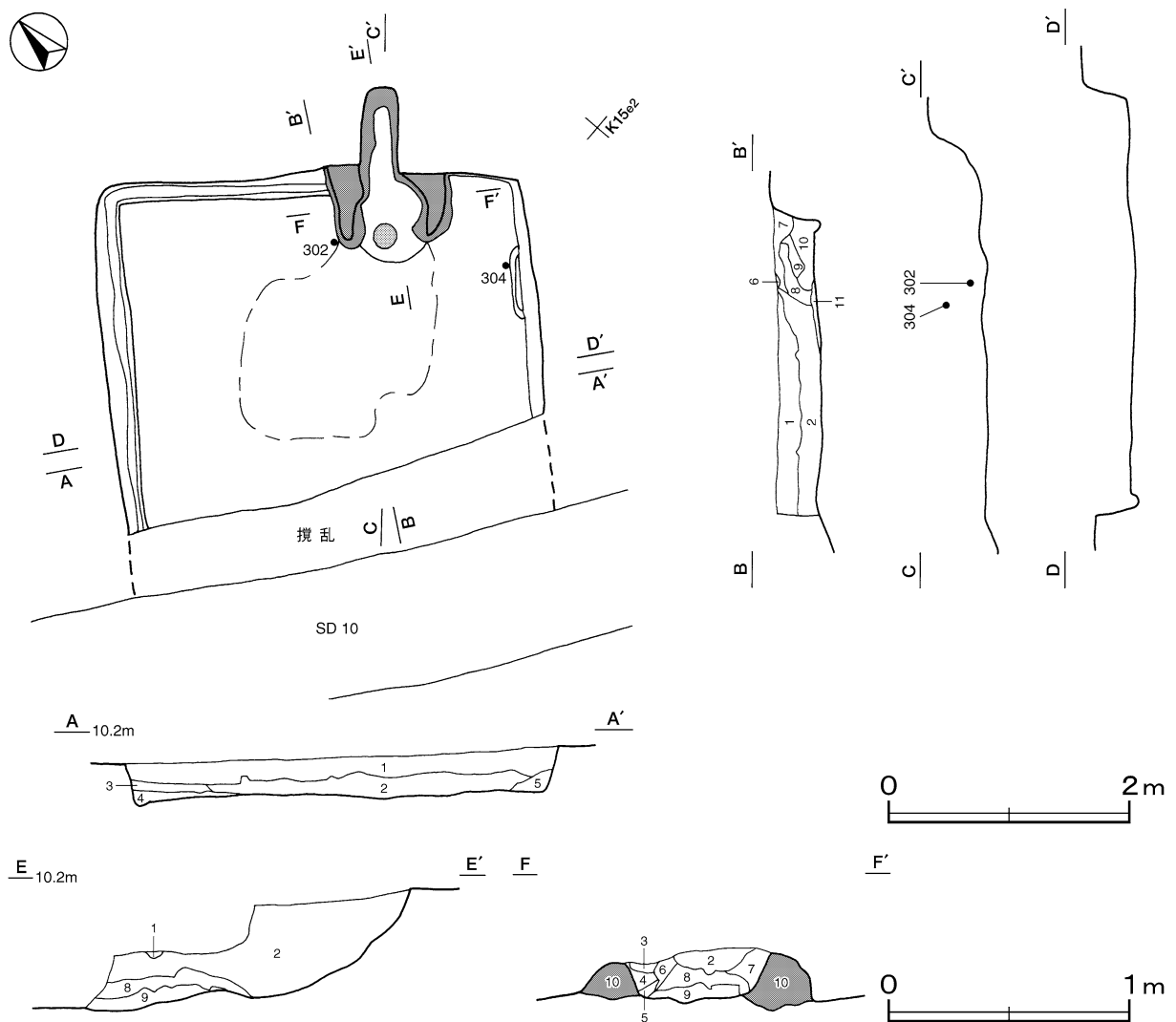
床 ほぼ平坦で、竈前面が踏み固められている。壁溝が北西壁から竈左袖部まで確認されている。

竈 北東壁の南東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで145cm、燃焼部幅55cmである。袖部および燃焼部は床面とほぼ同じ高さの地山に暗褐色土を積み上げて構築されている。第10層は袖部の構築土である。火床部は床面をやや掘りくぼめ、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に65cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 焼土粒子少量,炭化物微量 | 7 暗褐色 粘土ブロック中量,炭化粒子少量,焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子少量,粘土ブロック・炭化物微量 | 8 黒褐色 焼土ブロック・炭化物中量,粘土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 炭化物多量,焼土ブロック中量 |
| 4 暗褐色 焼土ブロック中量,炭化物微量 | 10 暗褐色 粘土粒子中量,炭化物・砂粒少量,ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 焼土ブロック中量,炭化粒子少量 | |
| 6 にぶい黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量,炭化粒子微量 | |

覆土 11層に分層できる。焼土ブロック・粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。



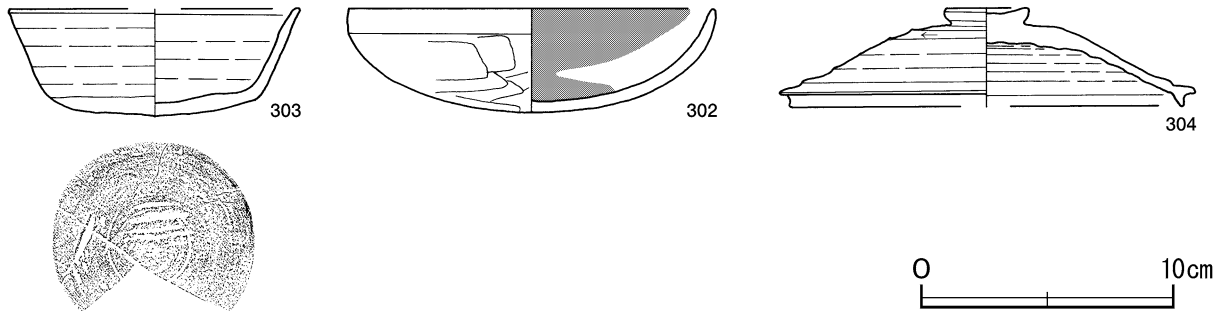
第166図 第102号住居跡実測図

土層解説

- | | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 焼土粒子少量,炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 粘土ブロック中量,炭化粒子少量,焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 粘土ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量,焼土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 粘土ブロック多量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 炭化物中量,焼土ブロック少量 |
| 6 にぶい黄褐色 焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片235点(坏30,甕204,甑1),須恵器片69点(坏44,蓋5,高盤1,甕19),土製品1点(支脚)が出土している。その他,流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。304は南東壁際の覆土中層から出土している。303は南東壁際の覆土中から出土している。

所見 時期は,出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第167図 第102号住居跡出土遺物実測図

第102号住居跡出土遺物観察表(第167図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
302	土師器	坏	14.4	4.1	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後,ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	70%
303	須恵器	坏	[11.4]	4.2	8.3	長石	灰白	良好	底部回転ヘラ削り 箕子状圧痕	覆土中	50%
304	須恵器	蓋	[15.5]	3.9	-	長石・石英	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後,つまみ貼り付け	覆土中層	60% PL33

第104号住居跡(第168~170図)

位置 調査区中央部のK15c1区,標高10.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第106号住居跡を掘り込み,南部を第16号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.15m,短軸3.94mの方形で,主軸方向はN-70°-Eである。壁高は15~25cmで,外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で,竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

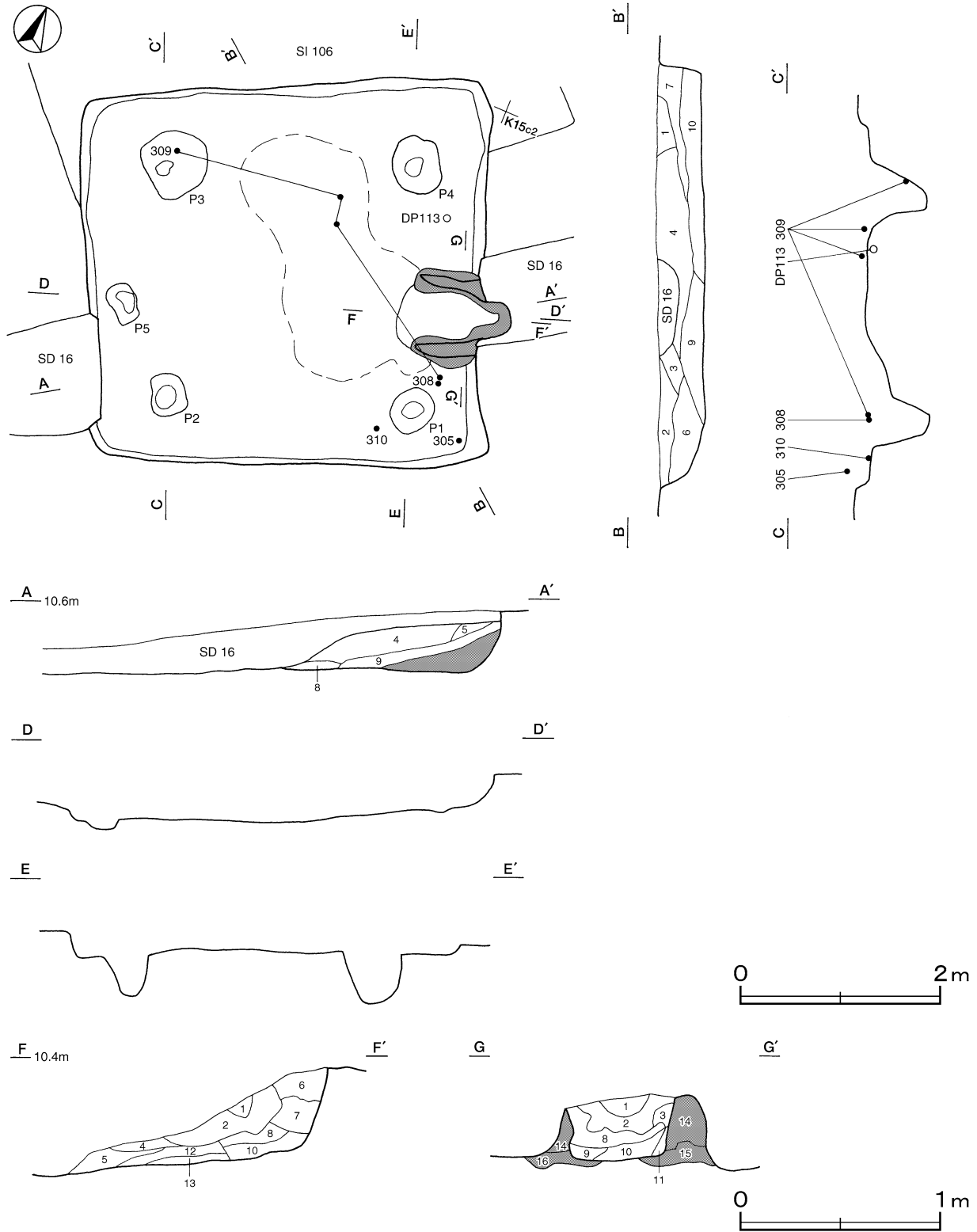
竈 北東壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cm,燃烧部幅45cmである。袖部および燃烧部は地山を10cmほど掘り込んで,灰黄褐色土を積み上げて構築されている。第14~16層は袖部の構築土である。火床部は床面とほぼ同じ高さで,煙道部は壁外に25cm掘り込まれ,火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黄褐色 粘土ブロック少量,焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 焼土ブロック少量,炭化粒子微量 |
| 3 褐灰色 粘土ブロック・焼土粒子微量 | 8 赤褐色 焼土ブロック少量,粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量,ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 5 にぶい黄褐色 ローム粒子少量,焼土ブロック・炭化物微量 | 10 灰褐色 焼土ブロック少量,ローム粒子・炭化粒子微量 |

- 11 にぶい黄褐色 粘土ブロック少量
- 12 にぶい赤褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 13 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 14 灰黄褐色 粘土粒子中量, 焼土ブロック・細礫少量

- 15 にぶい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック・砂粒少量
- 16 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量



第168図 第104号住居跡実測図

ピット 5か所。P1～P4は深さ44～58cmで、規模と配置から支柱穴である。P5は深さ15cmで、南西壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

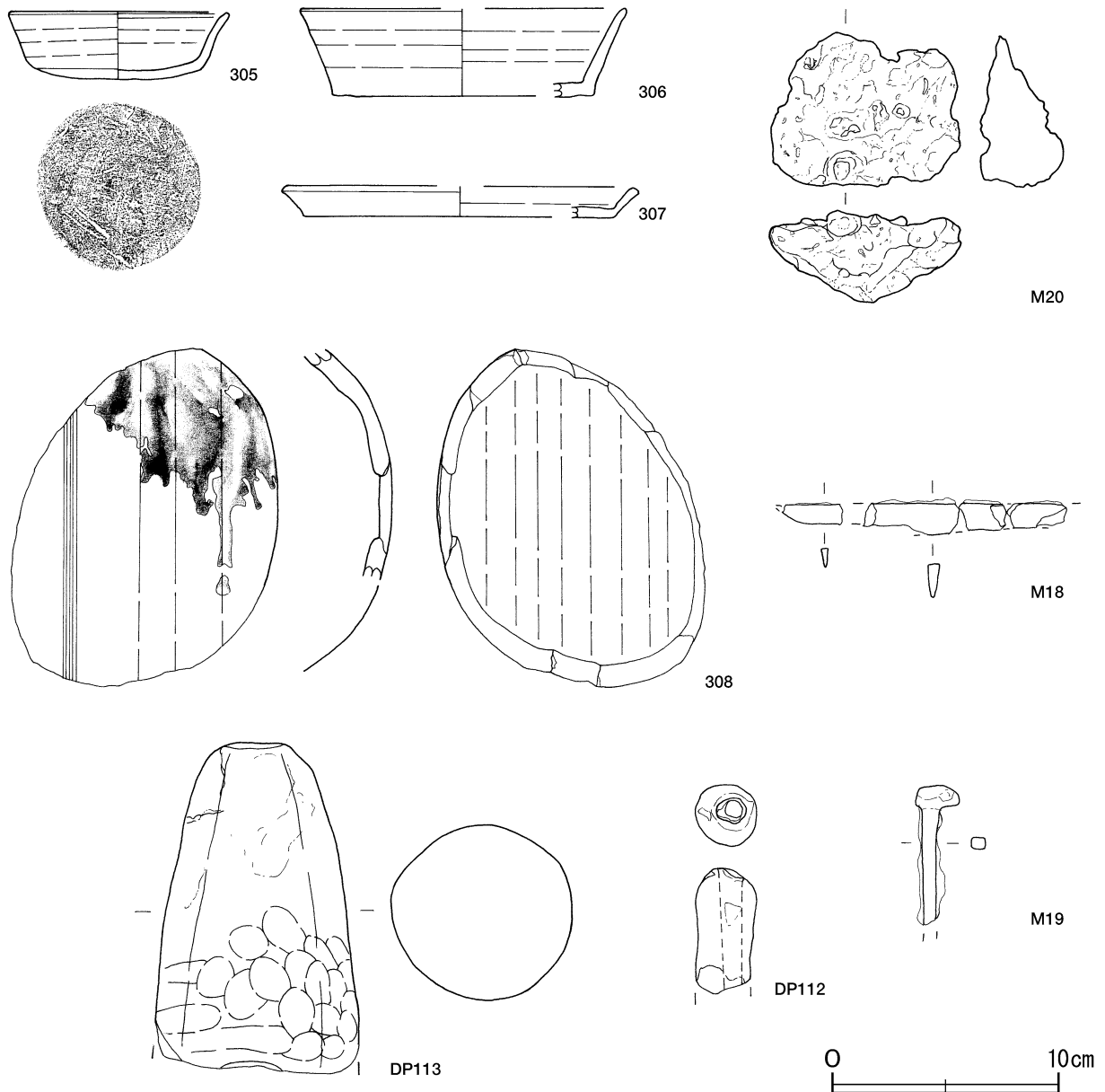
覆土 10層に分層できる。粘土ブロック・焼土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

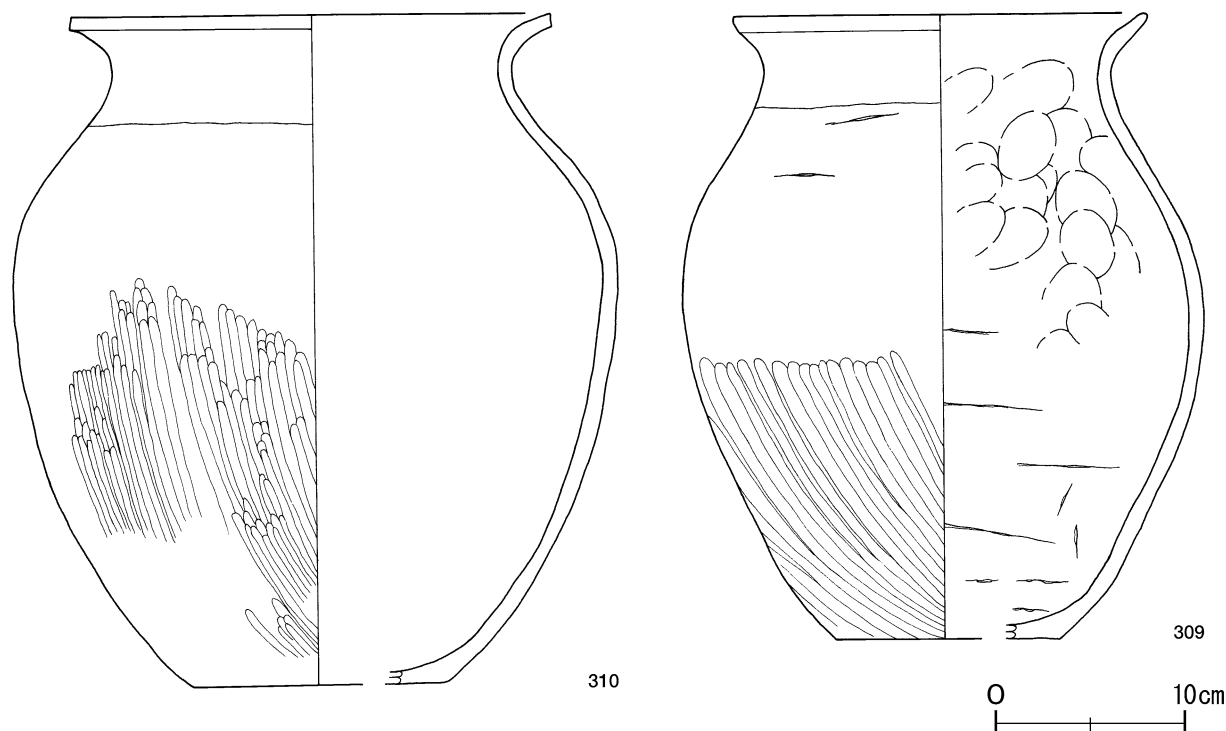
- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，粘土ブロック微量 | 6 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化物少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック中量，炭化物微量 | 7 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 |
| 4 黒褐色 焼土ブロック中量，炭化物少量 | 9 黒褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量 |
| 5 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量 |

遺物出土状況 土師器片400点（坏115，甕285），須恵器片98点（坏66，蓋14，盤2，瓶1，横瓶1，甕14），土製品2点（管状土錘，支脚），金属製品4点（刀子2，釘1，椀状滓1）が北東壁付近と中央部の床面から出土している。308・DP113は北東壁際の床面からそれぞれ出土している。309はP3の覆土中層と中央部および北東壁際の床面からそれぞれ出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第169図 第104号住居跡出土遺物実測図(1)



第170図 第104号住居跡出土遺物実測図(2)

第104号住居跡出土遺物観察表 (第169・170図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
305	須恵器	坏	9.6	3.0	7.2	長石・石英・雲母	灰	良好	底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り	覆土上層	95% PL31
306	須恵器	坏	[14.2]	3.9	[11.4]	長石	灰	良好	内・外面口口調整 底部回転ヘラ切り	覆土中	5%
307	須恵器	盤	[15.2]	1.4	[13.5]	長石・雲母	暗灰黄	良好	ロク口成形	覆土中	5%
308	須恵器	横瓶	-	(15.0)	-	長石・石英・黒色粒子	暗灰黄	良好	内・外面ロク口成形 外面ロク口目消しのナデ 底部蓋貼り付け 体部に2条の沈線が巡る	床面	15%
309	土師器	甕	21.5	32.5	[11.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内・外面輪積痕 内面指頭 圧痕 ヘラナデ	P3中層-床面	70%
310	土師器	甕	25.0	35.0	[13.1]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面器面荒れ 底部木葉痕	床面	70%

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP112	管状土錘	(5.5)	2.7	0.8	(35.8)	長石・石英・雲母	ナデ 二方向からの穿孔後、雑な面取り 一部欠け	覆土中	

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP113	支脚	(14.7)	(8.9)	4.4	(966.0)	長石・石英・赤色粒子	ナデ 指頭圧痕 下端欠損	床面	

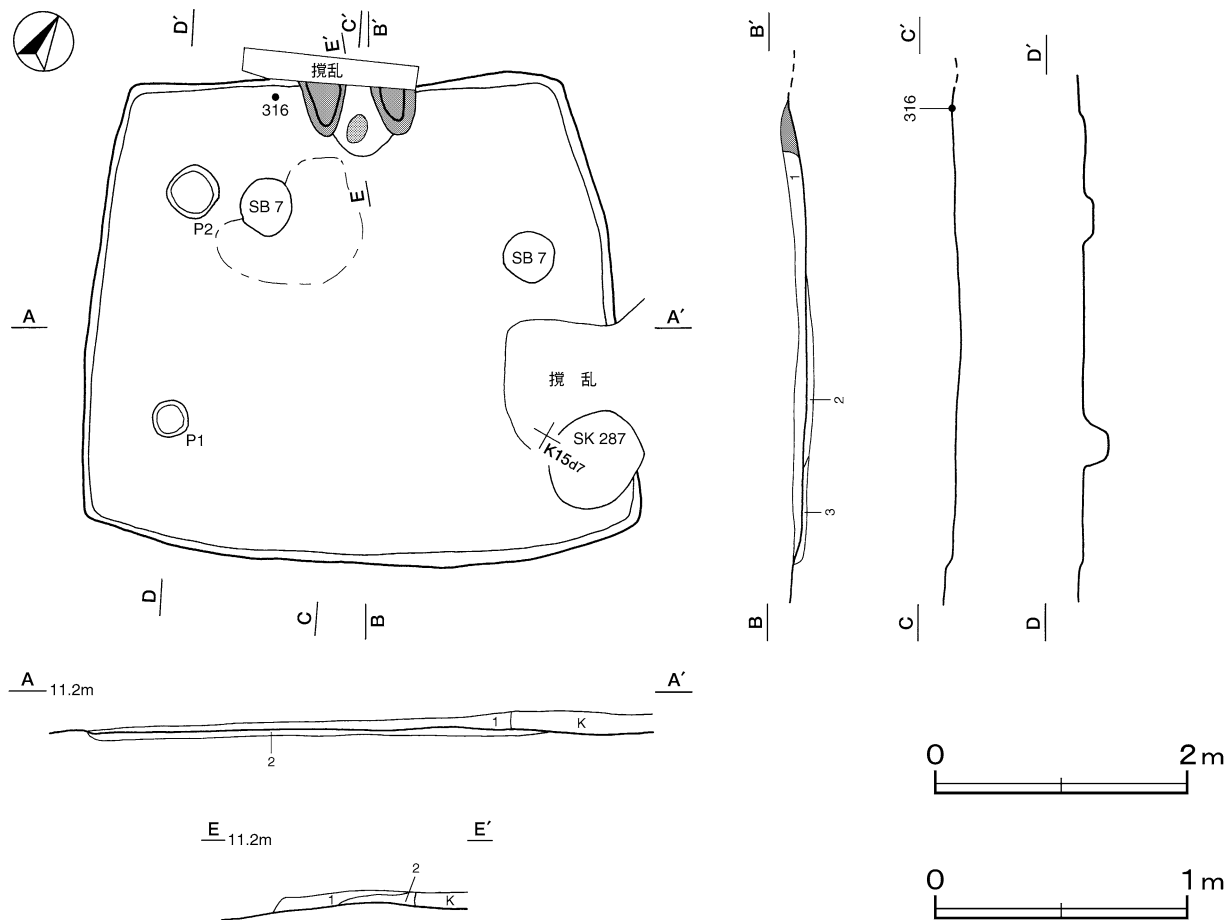
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M18	刀子	(11.8)	0.9	0.3	(10.1)	鉄	断面三角形	覆土中	
M19	釘	(6.2)	0.6	0.5	(14.4)	鉄	断面長方形 頭部平	覆土中	PL49
M20	椀状滓	6.8	8.2	4.0	210.0	鉄	火熱痕	覆土中	PL48

第108号住居跡 (第171・172図)

位置 調査区東部のK15c6区、標高11.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 北西部を第7号掘立柱建物、北東コーナー部を第287号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.40m、短軸3.87mの長方形で、主軸方向はN - 29° - Wである。壁高は5cmで、外傾して



第171図 第108号住居跡実測図

立ち上がっている。東壁中央部が攪乱を受けている。

床 ほぼ平坦な貼床で、北西部が踏み固められている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。攪乱により削平されているため、規模は焚口部から煙道部まで55cmで、
 燃烧部幅は40cmが確認できただけである。火床部は床面よりやや高く、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック中量、炭化物・粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量

ピット 2か所。P1・P2は深さ7cm・20cmで、規模と配置から支柱穴である。

覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。第2・3層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片9点(坏3, 甕6), 須恵器片2点(坏, 甕), 金属製品1点(不明)が出土している。

316は北西壁際の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第172図 第108号住居跡出土遺物実測図

第108号住居跡出土遺物観察表（第172図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
316	須臾器	坏	[14.2]	(4.6)	-	長石・石英	黄灰	良好	体部内・外面口口調整	床面	20%

第110号住居跡（第173・174図）

位置 調査区東部のK15i7区，標高11.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 北西部を第10号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.60m，短軸4.26mの方形で，主軸方向はN - 17° - Wである。壁高は28～50cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が西壁から竈左袖部まで確認されている。焼土が東壁から南西コーナー部の壁付近まで確認されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで96cm，燃烧部幅45cmである。袖部および燃烧部は地山を15cmほど掘り込んで，暗褐色土の上ににぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面をやや掘りくぼめ，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に15cm掘り込まれ，火床面からほぼ直立している。第12～14層は袖部の構築土，第15～17層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量	11 暗褐色 粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量，細礫少量
3 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量	13 にぶい黄褐色 粘土ブロック・細礫少量，焼土ブロック微量
4 黒褐色 焼土粒子少量，炭化物微量	14 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物・細礫少量
5 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化物微量	15 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子少量
6 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量	16 黒褐色 細礫中量，焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
7 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量，炭化物微量	17 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
8 暗褐色 焼土ブロック・炭化物中量	
9 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量，焼土ブロック少量	
10 暗褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量	

ピット 5か所。P1～P4は深さ10～28cmで，規模と配置から支柱穴である。P5は深さ13cmで，南壁際に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。

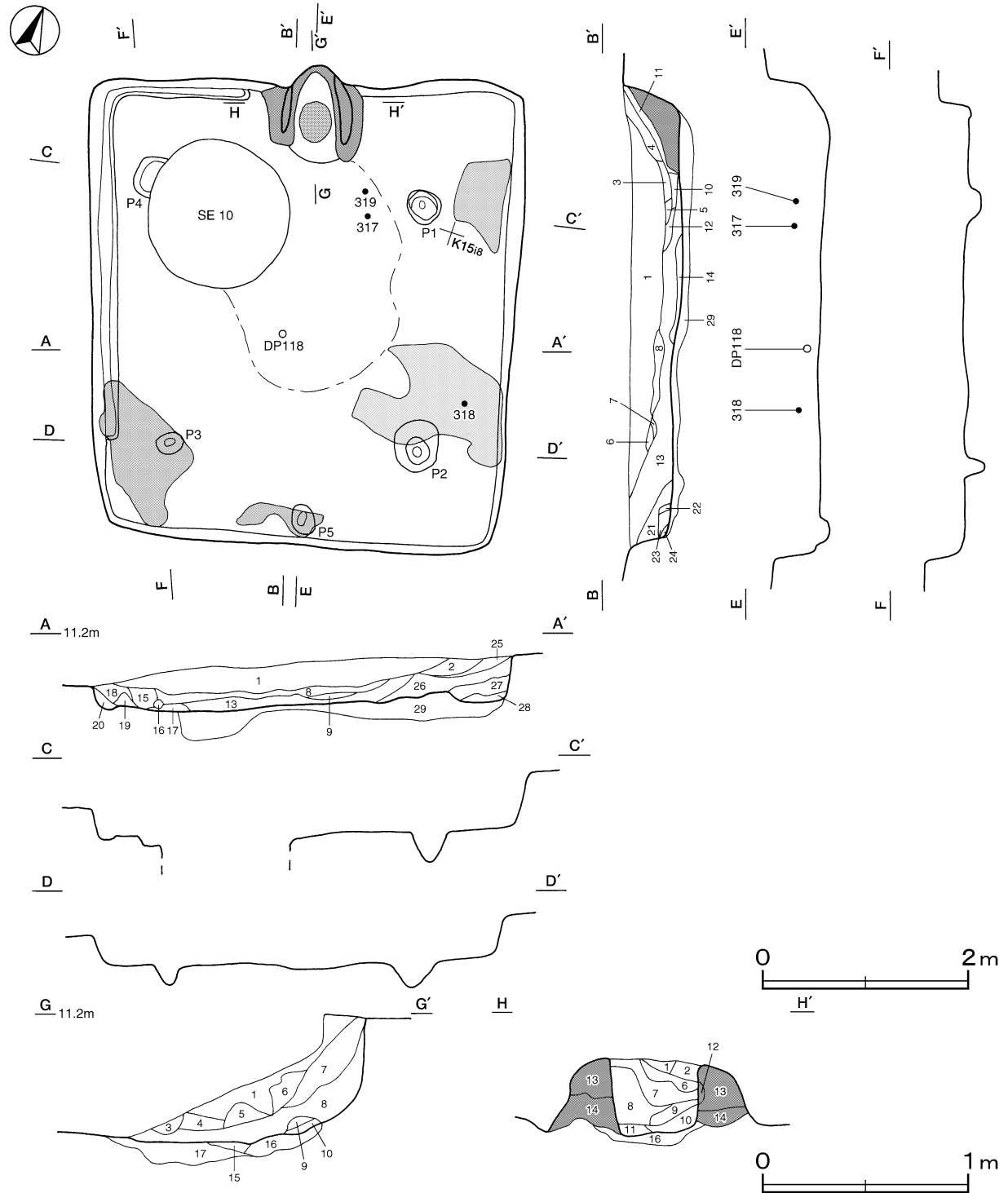
覆土 28層に分層できる。焼土ブロック・粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。第29層は貼床の構築土である。

土層解説

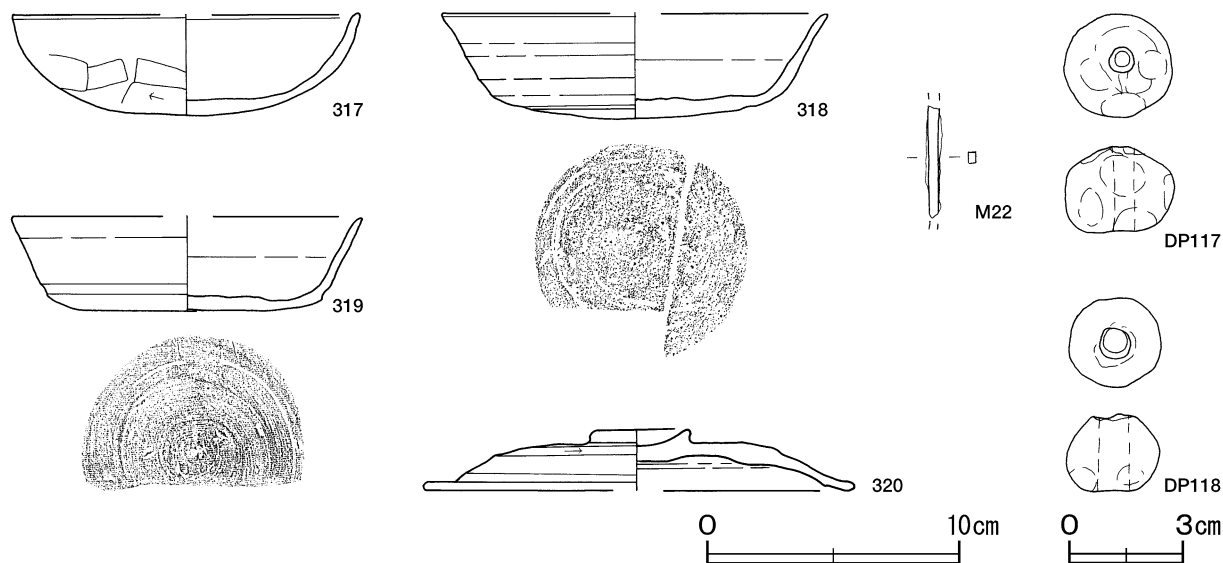
1 黒褐色 細礫多量，焼土粒子・炭化粒子微量	16 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子少量
2 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量	17 黒褐色 粘土ブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3 黒褐色 細礫中量，焼土粒子・炭化粒子少量	18 灰黄褐色 焼土粒子中量，炭化粒子・細礫少量，粘土ブロック微量
4 暗褐色 焼土ブロック少量，炭化物微量	19 灰黄褐色 粘土ブロック・細礫多量，炭化粒子微量
5 黒褐色 炭化粒子少量，焼土ブロック微量	20 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・細礫少量
6 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量	21 黒褐色 焼土ブロック中量，粘土ブロック・炭化物少量
7 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量	22 灰黄褐色 粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量
8 黒褐色 炭化粒子少量，焼土粒子微量	23 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量，炭化物中量
9 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，粘土ブロック微量	24 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
10 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量	25 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量
11 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化物微量	26 黒褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
12 灰黄褐色 粘土ブロック多量，焼土ブロック・炭化物少量	27 黒褐色 粘土ブロック・炭化物・焼土粒子少量
13 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量	28 黒褐色 炭化粒子中量，粘土ブロック・焼土粒子少量
14 灰黄褐色 粘土ブロック多量，炭化物少量，焼土ブロック微量	29 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
15 にぶい黄褐色 焼土粒子中量，炭化粒子・細礫少量，粘土ブロック微量	

遺物出土状況 土師器片489点(坏27, 甕462), 須恵器片28点(坏17, 高台付坏1, 蓋6, 鉢1, 甕3), 陶器片1点(甕), 土製品3点(球状土錘), 金属製品1点(釘)が中央部の覆土中層から出土している。317・319・DP118は中央部, 318は東壁付近の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 焼土が東壁から南西コーナー部にかけてで確認されていることから焼失住居である。時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第173図 第110号住居跡実測図



第174図 第110号住居跡出土遺物実測図

第110号住居跡出土遺物観察表 (第174図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
317	土師器	坏	[13.6]	4.0	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り後, ヘラナデ 内面ナデ	覆土中層	25%
318	須恵器	坏	[15.2]	4.2	8.6	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	40%
319	須恵器	坏	[13.8]	3.8	9.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部下端に1条の沈線が巡る 底部回転ヘラ削り	覆土中層	40% PL31
320	須恵器	蓋	[17.0]	2.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	良好	天井部回転ヘラ削り後, つまみ貼り付け	覆土中	80%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP117	球状土錘	2.9	2.3	0.6	18.4	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔後, 面取り 指頭痕	覆土中	PL45
DP118	球状土錘	2.5	2.0	0.8	11.3	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔後, 面取り 指頭痕	覆土中層	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M22	釘	(4.5)	0.3	0.4	(3.5)	鉄	断面長方形 両端部欠損	覆土中	PL49

表4 竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	竈	貯蔵穴				
5	I13e7	N-66°-W	[方形・長方形]	4.50×(1.80)	48~52	平坦	一部	2	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石製品, 金属製品, 木製品	8世紀前葉	SI2・18→本跡
7	I13d1	N-72°-W	方形・長方形	5.65×5.25	28~75	平坦	一部	2	-	3	1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	8世紀後葉	SI8→本跡→SK70
12	K15i0	N-35°-W	方形	3.12×2.97	13~32	平坦	一部	-	1	-	1	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	8世紀中葉	SI11→本跡
13	L16d4	N-7°-W	方形	3.37×3.34	20~40	平坦	-	4	1	-	1	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀前葉	SI14→本跡→SK69
23	J15j3	N-30°-W	方形	4.54×4.30	15~46	平坦	全周	4	1	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀前葉	
27	L16e4	N-35°-W	方形	3.90×3.65	40~45	平坦	全周	-	2	-	1	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	8世紀後葉	SI28・29→本跡
31	J14g6	N-46°-E	[方形・長方形]	4.87×(4.70)	20~25	平坦	一部	4	1	1	1	-	人為	土師器	8世紀前葉	SI32・51→本跡
35	J13h0	N-32°-E	方形	3.95×3.75	8~16	平坦	-	-	-	-	1	-	不明	土師器, 須恵器, 土製品, 石器	8世紀中葉	
36	J13i0	N-37°-W	長方形	5.00×4.23	20~56	平坦	-	4	1	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石器, 金属製品	8世紀後葉	
40	K15f9	N-20°-W	長方形	4.40×3.75	30~90	平坦	ほぼ全周	4	1	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀中葉	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸 x 短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	竈	貯蔵穴				
45	J14g2	N - 41° - E	長方形	4.10 x 3.50	8 ~ 25	平坦	一部	-	-	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	8世紀前葉	
46	J14i2	N - 34° - W	方形	5.18 x 5.18	20 ~ 45	平坦	-	4	1	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石器	8世紀中葉	SI43→本跡
52	K14c2	N - 30° - W	[方形・ 長方形]	3.30 x (2.75)	8 ~ 15	平坦	-	-	-	3	1	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀後葉	本跡→SI53, SK297
53	K14c2	N - 45° - E	方形	5.23 x 4.90	6 ~ 32	平坦	-	4	1	-	2	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀後葉	SI52→本跡→SK106・ 107・297
56	M15a9	N - 36° - W	方形	3.45 x 3.27	23 ~ 35	平坦	全周	4	1	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製 品, 石器, 金属製品	8世紀後葉	SI55→本跡→SE 4
57	M16b1	N - 22° - W	長方形	3.10 x 2.80	14 ~ 28	平坦	ほぼ 全周	-	1	1	1	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀前葉	本跡→SI58・60
61	M16a2	N - 40° - E	[方形・ 長方形]	4.45 x (1.20)	16 ~ 35	平坦	一部	2	-	1	-	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀後葉	SI63→本跡
64	L16j1	N - 60° - E	方形	4.50 x 4.30	18 ~ 25	平坦	一部	-	-	2	1	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀中葉	SI55・63・77→本跡 →方形竈穴12, SK109
66	L15e5	N - 18° - W	方形	4.85 x 4.58	8 ~ 37	平坦	ほぼ 全周	4	1	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 瓦	8世紀後葉	SK129→本跡
72	J14j3	N - 43° - W	方形	4.40 x 4.35	6 ~ 50	平坦	-	4	1	-	1	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀前葉	SI54・71→本跡
73	L15f6	N - 10° - W	[方形]	[5.05] x 4.90	8 ~ 20	平坦	-	4	-	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀前葉	
79	L15a1	N - 50° - E	方形	3.13 x 3.10	35 ~ 47	平坦	ほぼ 全周	4	1	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	8世紀後葉	
81	L14a0	N - 28° - W	方形	3.10 x 2.95	28 ~ 35	平坦	ほぼ 全周	-	1	1	1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	8世紀中葉	本跡→SI80
82	L14b9	N - 40° - W	方形	4.83 x 4.65	30 ~ 62	平坦	全周	4	1	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀前葉	
85	K14h8	N - 50° - E	方形	2.62 x 2.42	15 ~ 30	平坦	-	-	-	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 石器	8世紀後葉	本跡→SI84
91	K14h6	N - 32° - W	不整形	3.62 x 3.46	12 ~ 24	平坦	-	-	-	-	1	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀後葉	SI92→本跡→SD13
92	K14h6	N - 62° - E	方形	3.03 x 2.86	15	平坦	-	2	-	2	-	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石器	8世紀中葉	本跡→SI91, SD13
94	K14e4	N - 35° - W	[方形]	4.24 x (4.10)	20 ~ 30	平坦	-	4	1	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石器	8世紀後葉	本跡→SD12
102	K15d1	N - 43° - E	[方形・ 長方形]	3.65 x (2.84)	26 ~ 38	平坦	一部	-	-	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	8世紀後葉	本跡→SD10
104	K15c1	N - 70° - E	方形	4.15 x 3.94	15 ~ 25	平坦	-	4	1	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	8世紀中葉	SI106→本跡→SD16
108	K15c6	N - 29° - W	長方形	4.40 x 3.87	5	平坦	-	2	-	-	1	-	不明	土師器, 須恵器, 陶器, 金属製品	8世紀後葉	本跡→SB 7, SK287
110	K15i7	N - 17° - W	方形	4.60 x 4.26	28 ~ 50	平坦	一部	4	1	-	1	-	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 土製品, 金属製品	8世紀前葉	本跡→SE10

(2) 掘立柱建物跡

第5号掘立柱建物跡 (第175・176図)

位置 調査北部のI13d3区, 標高15.0mの河岸段丘上位の傾斜部に位置している。

重複関係 第8号住居跡を掘り込んでいる。その他, 第308・309・316・317号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向がN - 67° - Wの東西棟である。規模は, 桁行7.2m, 梁行5.4mで, 面積は38.9㎡である。柱間寸法は, 桁行1.8m (6尺), 梁行2.7m (9尺)で, 柱筋はほぼ揃っている。

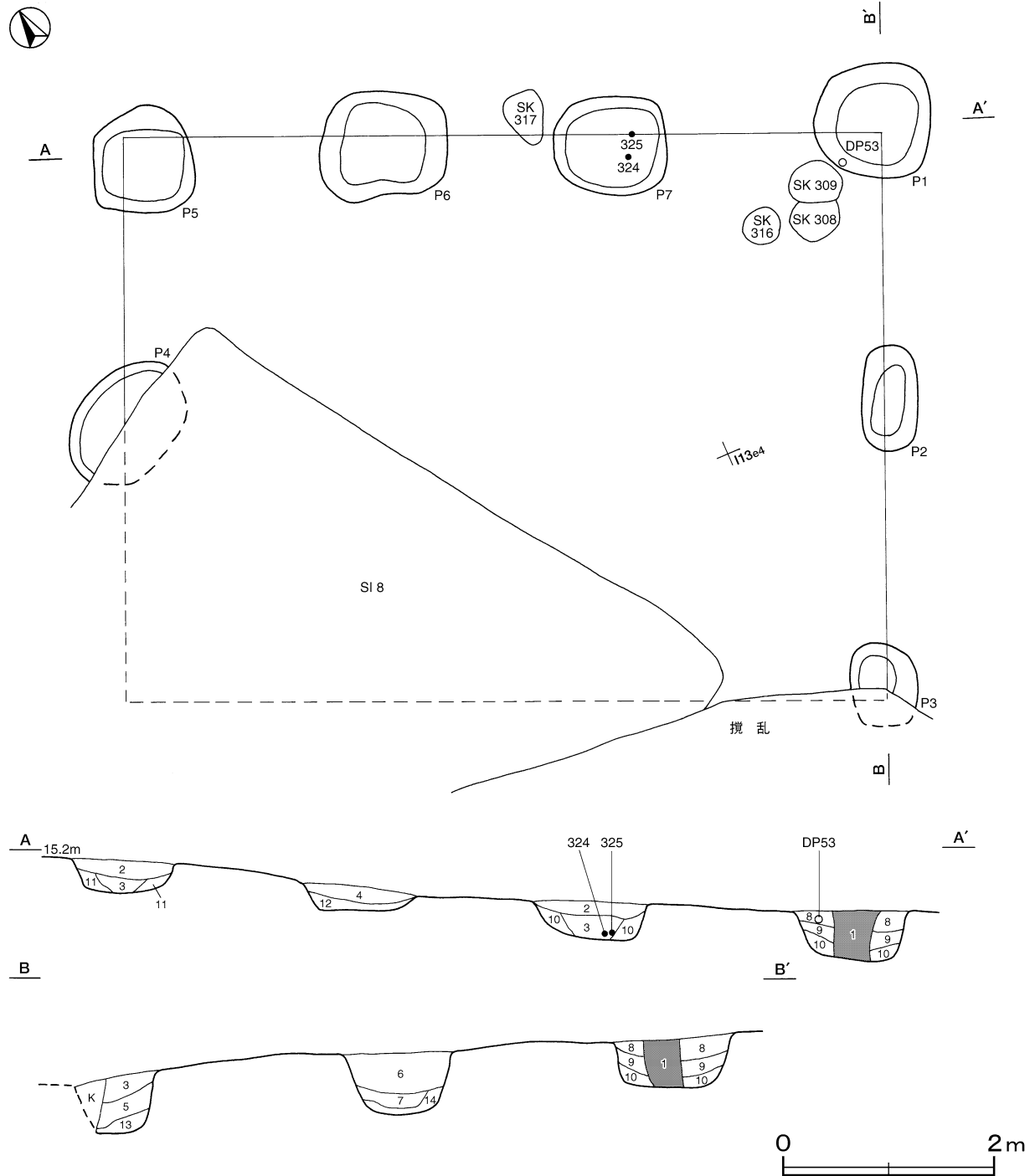
柱穴 7か所。本来10本柱で, 柱穴は10か所あったと思われるが, 南西側の3か所は第8号住居跡の覆土中を掘り込んでいたため確認することができなかった。平面形は隅丸方形で, 深さは36~60cmである。土層は, 第1層が柱痕跡, 第2~7層が柱抜き取り痕にそれぞれ相当し, 第8~14層が埋土で版築状に突き固められている。

土層解説

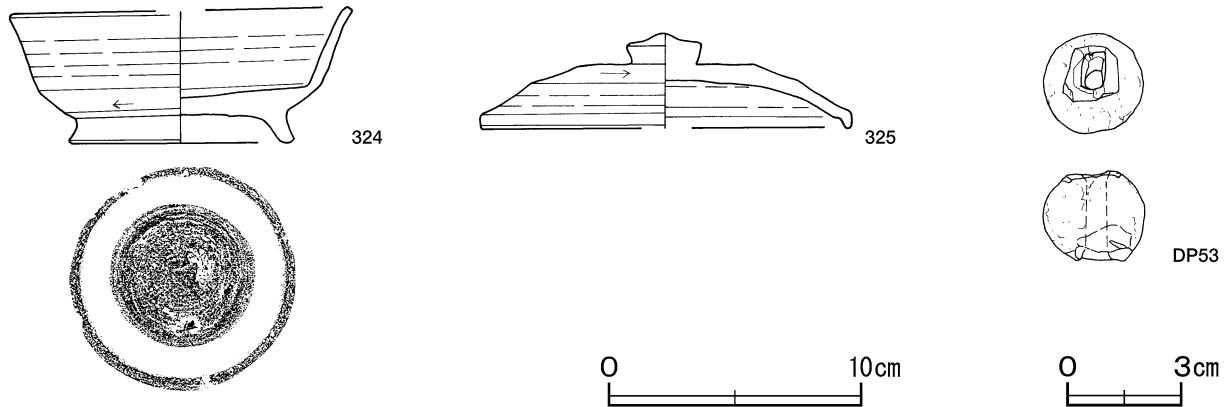
- | | | | |
|-------|---------------------------------|-----------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 11 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 粘土ブロック・炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |

遺物出土状況 土師器片155点（坏43，甕112），須恵器片44点（坏21，高台付坏2，蓋8，盤1，甕12），土製品1点（球状土錘）が出土している。324・325はP7の柱抜き取り痕の覆土下層から出土している。また，DP53はP1の埋土上層から出土している。

所見 本跡は，確認できた柱穴群から規格性のある中形の側柱建物と想定され，倉庫としての性格を有していたものと思われる。時期は，出土土器や重複関係から8世紀後葉と考えられる。



第175図 第5号掘立柱建物跡実測図



第176図 第5号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第5号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第176図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
324	須恵器	高台付坏	[13.4]	5.3	8.6	長石・石英・雲母	灰	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	P 7 柱抜き取り痕覆土下層	80% PL32
325	須恵器	蓋	[14.4]	3.8	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	P 7 柱抜き取り痕覆土下層	60% PL33

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP53	球状土錘	2.7	2.4	0.6	15.4	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	P 1 埋土上層	PL45

第6号掘立柱建物跡 (第177図)

位置 調査区中央部のK14a8区、標高10.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第38号住居跡を掘り込み、第33号住居に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-46°-Wの東西棟である。規模は、桁行5.85m、梁行3.6mで、面積は21.1㎡である。柱間寸法は、桁行1.95m(6尺5寸)、梁行1.8m(6尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形で、深さは6~40cmである。土層は、第1層が柱痕跡に相当し、第2~4層が埋土で版築状に突き固められている。

土層解説

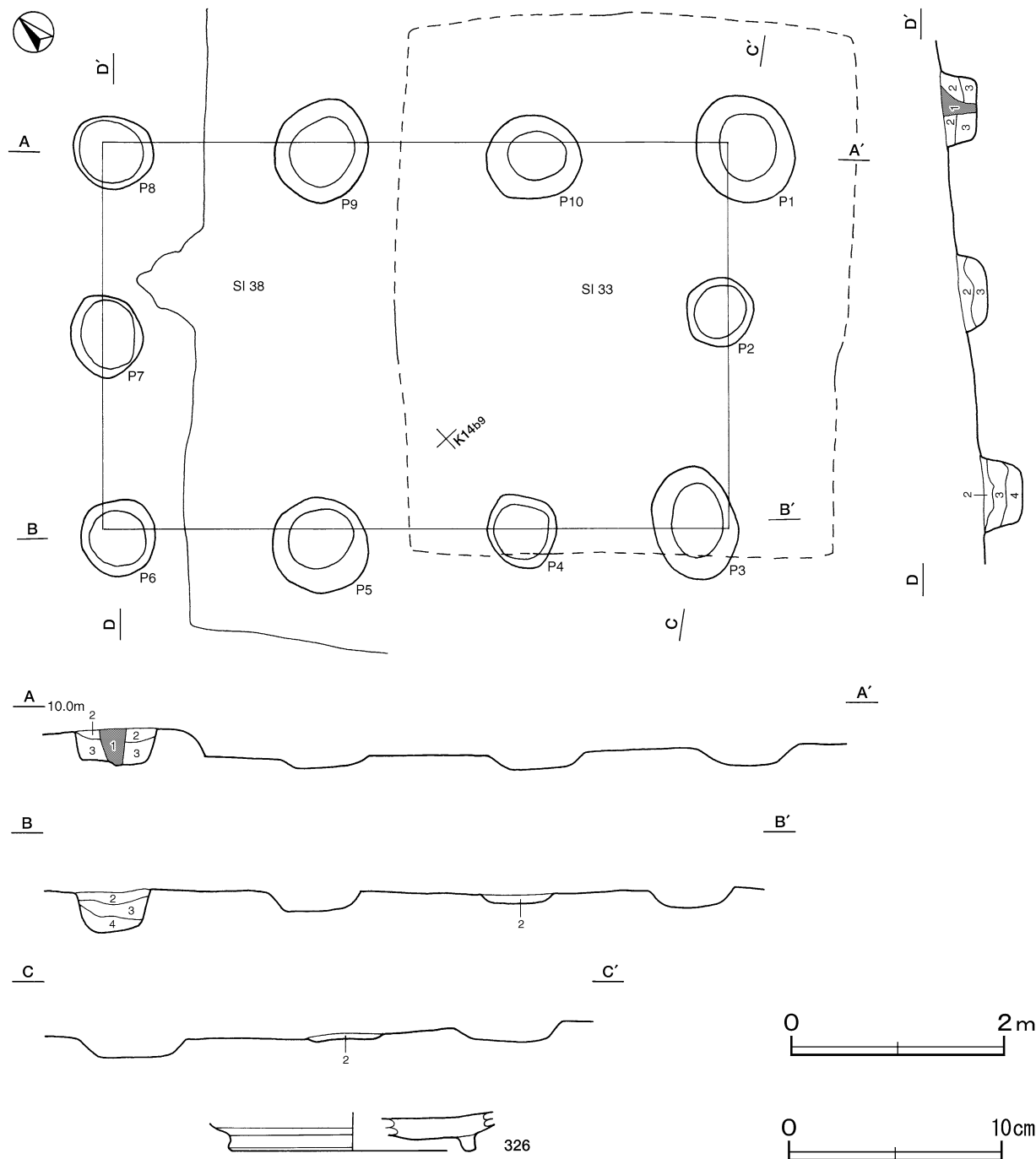
- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 黒褐色 ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片13点(坏1, 甕12), 須恵器片2点(盤, 甕)が出土している。326はP6の埋土から出土している。

所見 本跡は、確認できた柱穴群から規格性のある中形の側柱建物と想定され、倉庫としての性格を有していたものと思われる。時期は、出土土器や重複関係から8世紀後葉と考えられる。

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第177図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
326	須恵器	盤	-	(1.8)	[11.4]	長石・石英・雲母	灰黄	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	P 6 埋土中	10%



第177図 第6号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第7号掘立柱建物跡 (第178図)

位置 調査区南東部のK15c6区，標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第108号住居跡を掘り込んでいる。その他，第361・362号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN - 21° - Wの南北棟である。規模は，桁行5.85m，梁行3.9mで，面積は22.8㎡である。柱間寸法は，桁行・梁行ともに1.95m（6尺5寸）で，柱筋はほぼ揃っている。

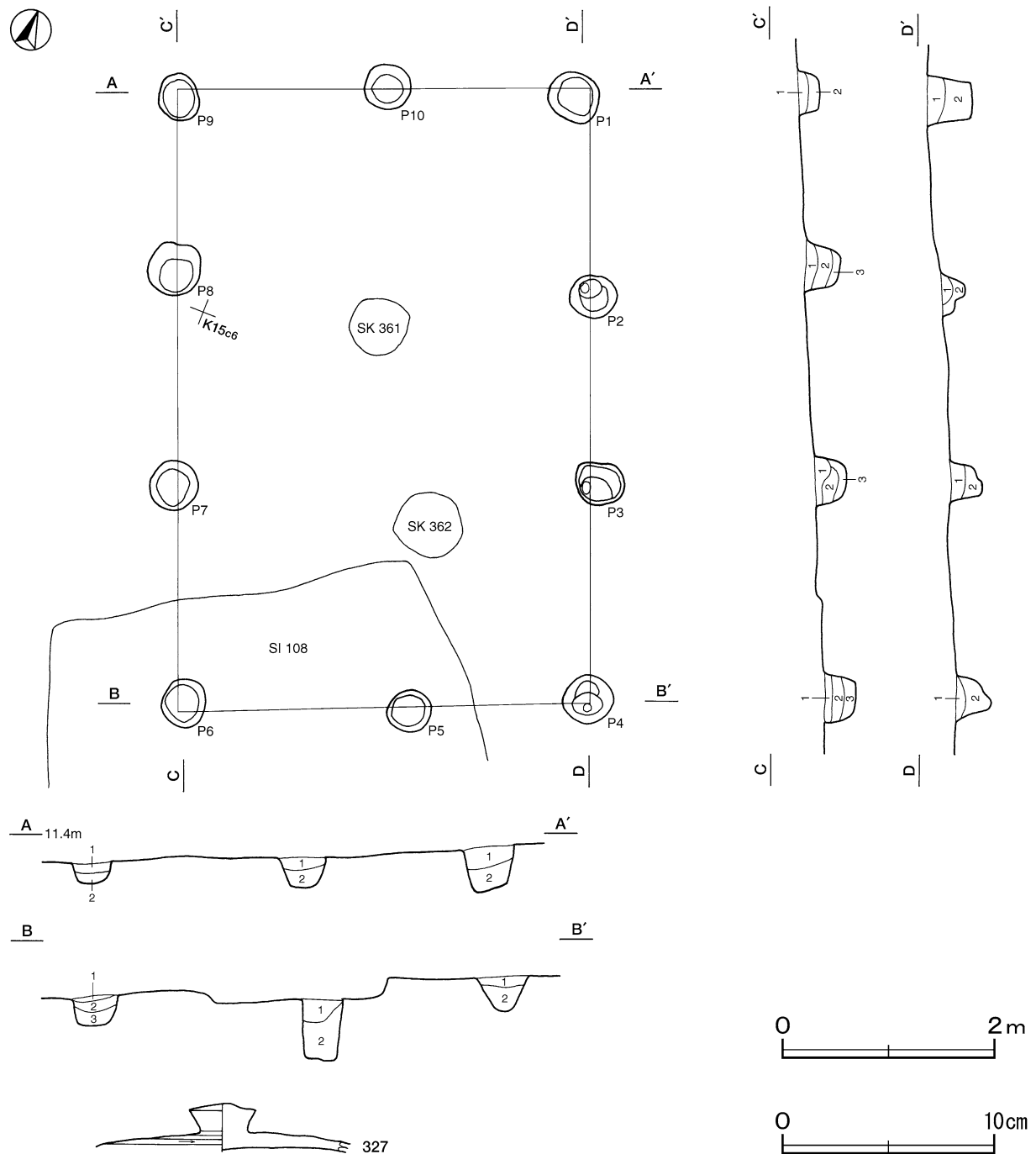
柱穴 10か所。平面形は円形で、深さは20~58cmである。土層は、第1・2層が柱抜き取り跡に相当し、第3層が埋土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片3点(坏1, 甕2), 須恵器片3点(坏2, 蓋1)が出土している。327はP9の柱抜き取り痕の覆土中から出土している。

所見 本跡は、確認できた柱穴群から規格性のある中形の側柱建物と想定され、倉庫としての性格を有していたものと思われる。時期は、出土土器や重複関係から8世紀後葉と考えられる。



第178図 第7号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第7号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第178図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
327	須恵器	蓋	-	(2.3)	-	長石・石英	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け	P9柱抜き取り痕覆土中	10%

表5 掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規模				柱穴				主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				桁×梁 (m)	面積 (㎡)	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	構造	柱穴数	平面形	深さ (cm)			
5	I13d3	N-67°-W	3×2	7.2×5.4	38.9	1.8	2.7	側柱	(7)	隅丸 方形	36~60	須恵器 球状土錘	8世紀後葉	SI8→本跡
6	K14a8	N-46°-W	3×2	5.85×3.6	21.1	1.95	1.8	側柱	10	円形	6~40	須恵器	8世紀後葉	SI38→本跡→SI33
7	K15c6	N-21°-W	3×2	5.85×3.9	22.8	1.95	1.95	側柱	10	円形	20~58	須恵器	8世紀後葉	SI108→本跡

(3) 土坑

第189号土坑（第179図）

位置 調査区南東部のK15f4区，標高10.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.80m，短径2.08mの楕円形で，長径方向はN-49°-Wである。深さは86cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。焼土ブロック・粘土ブロックや炭化物，及び貝を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック多量，炭化物・焼土粒子少量 | 4 黒褐色 粘土ブロック・貝少量，炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量 | 5 灰黄褐色 粘土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 粘土ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量，炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片6点（甕），須恵器片2点（坏，盤），鉄製品1点（不明）が出土している。328は底面から出土している。なお，貝の集中が南西壁寄りに2か所認められる。出土した貝の総数は，ヤマトシジミ440点（右殻221，左殻219，総量228.29g），カワニナ1点（0.04g）である。

所見 本跡は，土坑を掘り込んだ後，時間があまり経たないうちに，ヤマトシジミを主体とする貝殻が投棄されている。時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第258号土坑（第179図）

位置 調査区中央部のK13a9区，標高7.5mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.88m，短径0.86mの円形である。深さは38cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

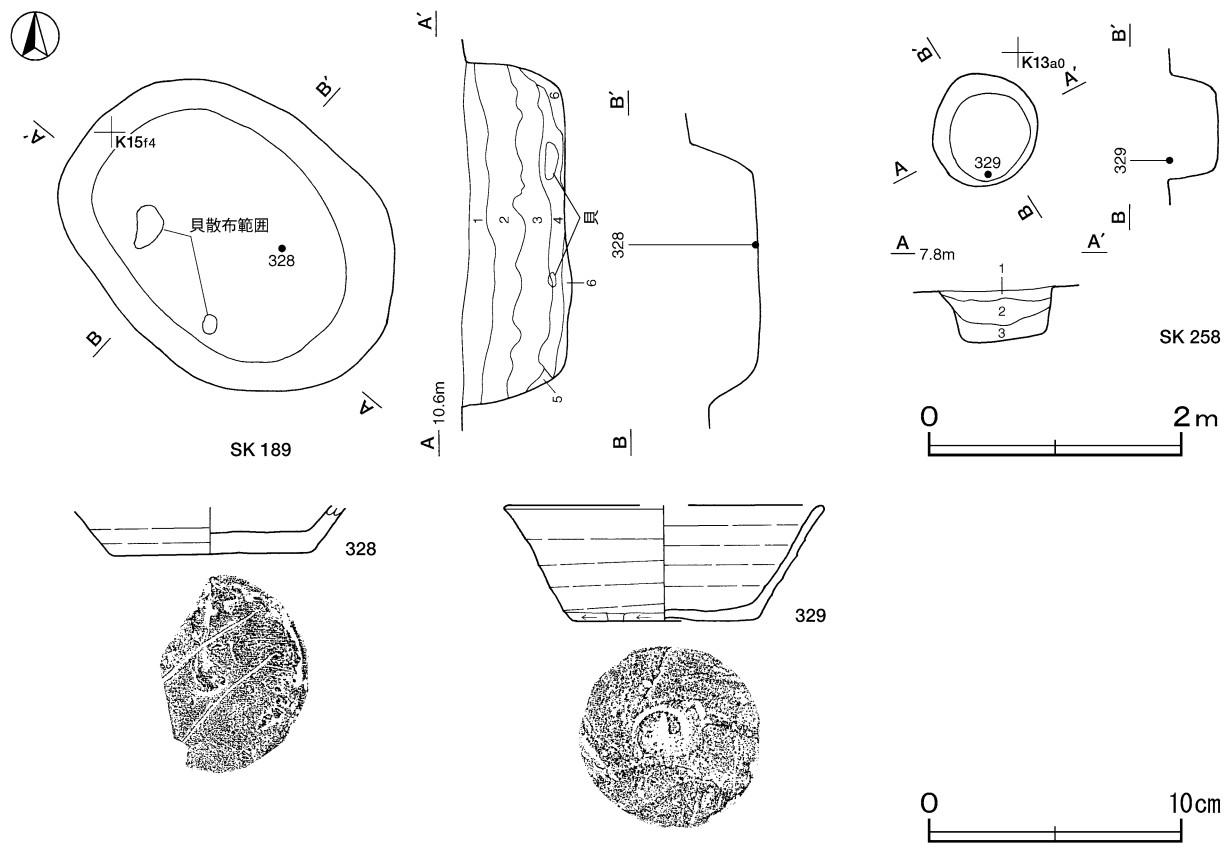
覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片21点（坏4，甕17），須恵器片1点（坏）が出土している。329は覆土上層から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。性格は不明である。



第179図 第189・258号土坑・出土遺物実測図

第189号土坑出土遺物観察表 (第179図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
328	須恵器	坏	-	(1.9)	7.6	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	底部回転ヘラ切り痕を残すヘラナデ ヘラ書き	底面	10%

第258号土坑出土遺物観察表 (第179図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
329	須恵器	坏	[12.6]	4.6	7.2	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す手持ちヘラ削り	覆土上層	80% PL31

表6 土坑一覧表

番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸 × 短径・軸 (m)	深さ (cm)						
189	K15f4	N - 49° - W	楕円形	2.80 × 2.08	86	平坦	外傾	人為	須恵器、ヤマトシジミ、カワニナ	8世紀後葉	
258	K13a9	-	円形	0.88 × 0.86	38	平坦	外傾	人為	須恵器	8世紀後葉	

3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡22軒と土坑2基および井戸跡2基が確認された。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡 (第180・181図)

位置 調査区中央部のI 13d5区, 標高15.0mの河岸段丘上位の平坦部に位置している。

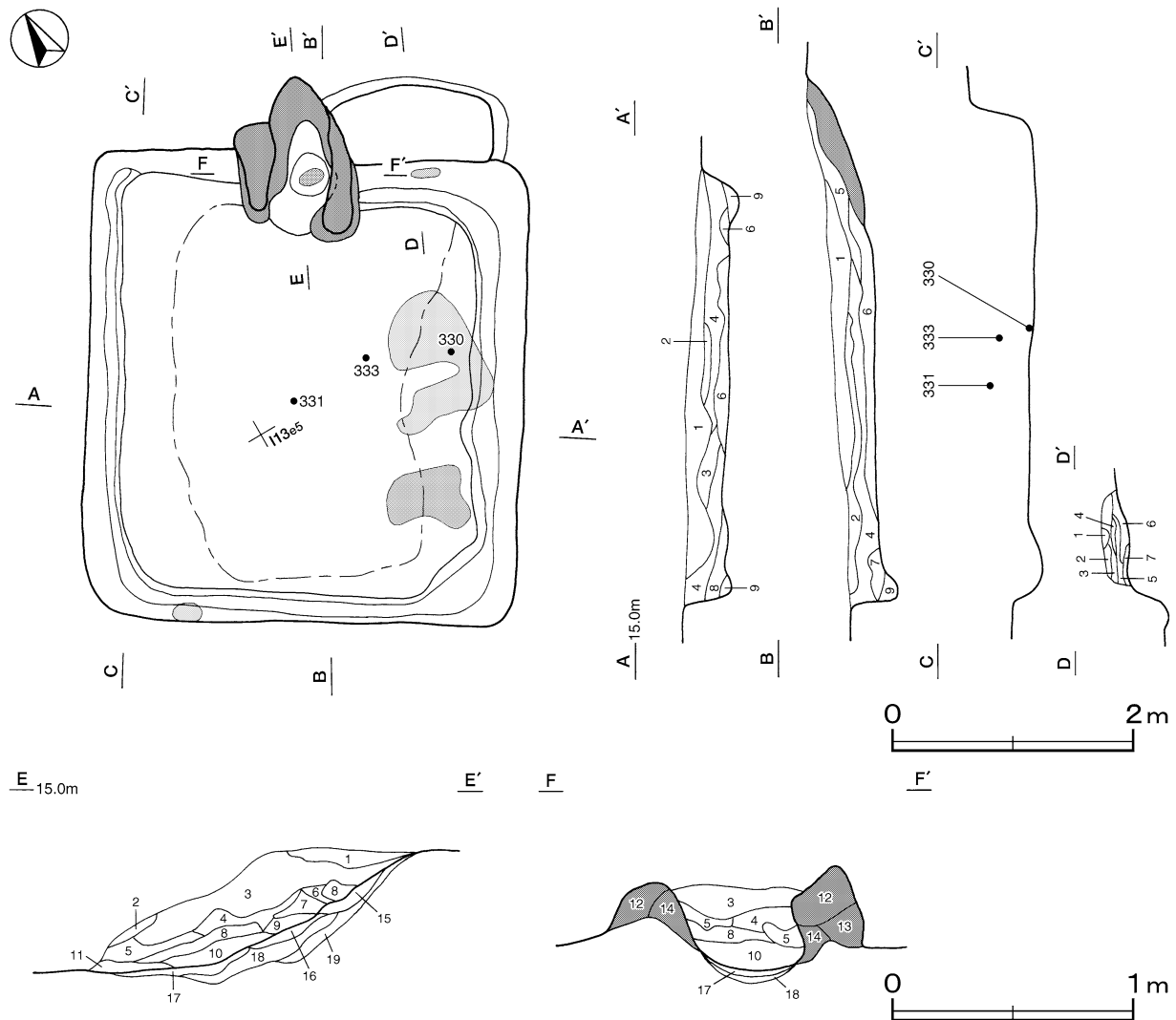
規模と形状 長軸3.88m, 短軸3.62mの方形で, 主軸方向はN - 31° - Eである。竈の東側に褐色土で構築した棚部が付設されている。奥行き70cm, 幅140cmの不整長方形で, 床面からの高さは30cmである。壁高は24~40cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 やや平坦である。東・西壁際を除いて踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。焼土が南東壁付近で確認されている。

棚土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------------|
| 1 明黄褐色 砂質粘土ブロック多量, 炭化粒子微量 | 5 暗黄褐色 砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒橙色 砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量, 炭化粒子少量 | |

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで130cm, 燃焼部幅55cmである。袖部および燃焼部は地山を14cmほど掘り込んで, 褐色土の上に暗赤褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面をやや掘りくぼめ, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ, 火床面から緩や



第180図 第1号住居跡実測図

かに立ち上がっている。第12～14層は袖部の構築土，第15～19層は掘方への埋土である。

覆土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|-----------|-------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック中量，炭化物微量 | 9 灰褐色 | 焼土ブロック中量，炭化粒子少量 |
| 2 にぶい黄橙色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，炭化粒子微量 | 10 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック中量，炭化粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 11 黒褐色 | 炭化粒子中量，焼土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 12 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 暗黄褐色 | 焼土ブロック少量，炭化粒子微量 | 13 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック多量，炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 細礫中量，焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量 |
| 7 黒褐色 | 焼土ブロック中量，炭化粒子微量 | 15 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 8 赤褐色 | 焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量 | 16 暗赤褐色 | 焼土粒子多量，炭化粒子微量 |
| | | 17 灰黄褐色 | 炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| | | 18 黄褐色 | ローム粒子多量 |
| | | 19 褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量 |

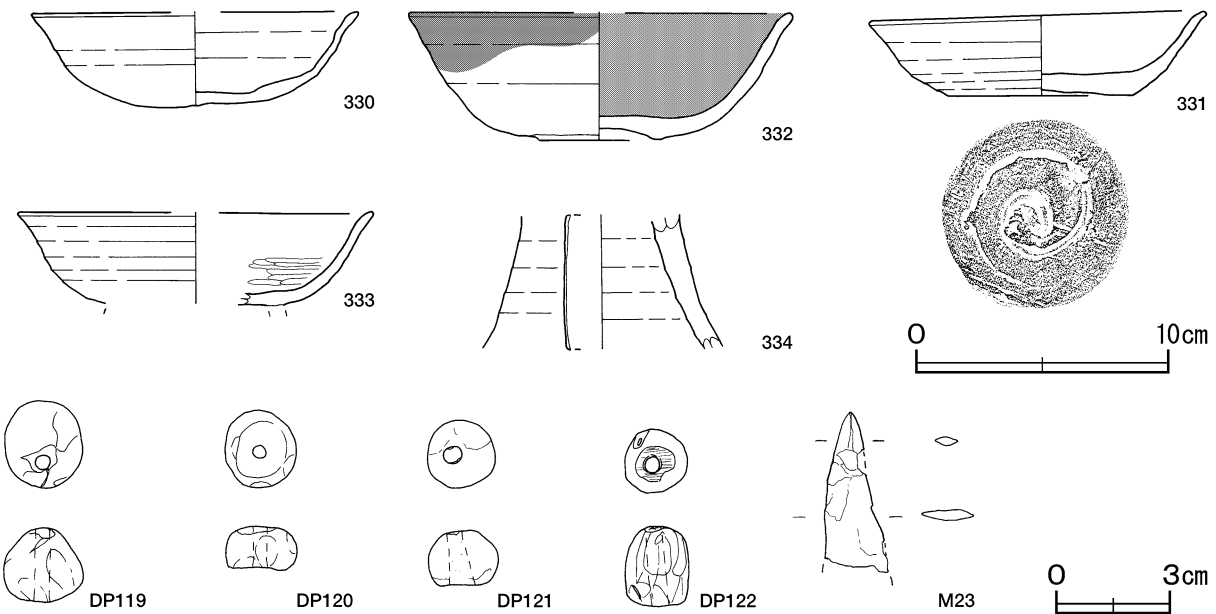
覆土 9層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片426点（坏58，椀1，高台付坏4，高台付椀1，甕362），須恵器片229点（坏60，高台付坏11，蓋17，高盤1，鉢4，壺9，甕126，甌1），土製品5点（土玉3，球状土錘1，支脚1），金属製品1点（鏃）が中央部の覆土中層および覆土中から出土している。330は南東壁際の床面，331・333は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 焼土が南東壁付近で確認されていることから焼失住居である。時期は，出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第181図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表（第181図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
330	土師器	坏	[12.8]	3.8	-	石英・雲母	明褐	普通	底部回転ヘラ切り	床面	60%
331	土師器	坏	13.3	3.4	7.4	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り痕を残すナデ	覆土中層	60%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
332	土師器	椀	[15.0]	(5.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	50%
333	土師器	高台付椀	[14.0]	3.7	-	長石・石英・雲母	橙	普通	高台剥離	覆土中層	20%
334	須恵器	高盤	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	脚部内・外面口口調整 3孔式脚部	覆土中	10%

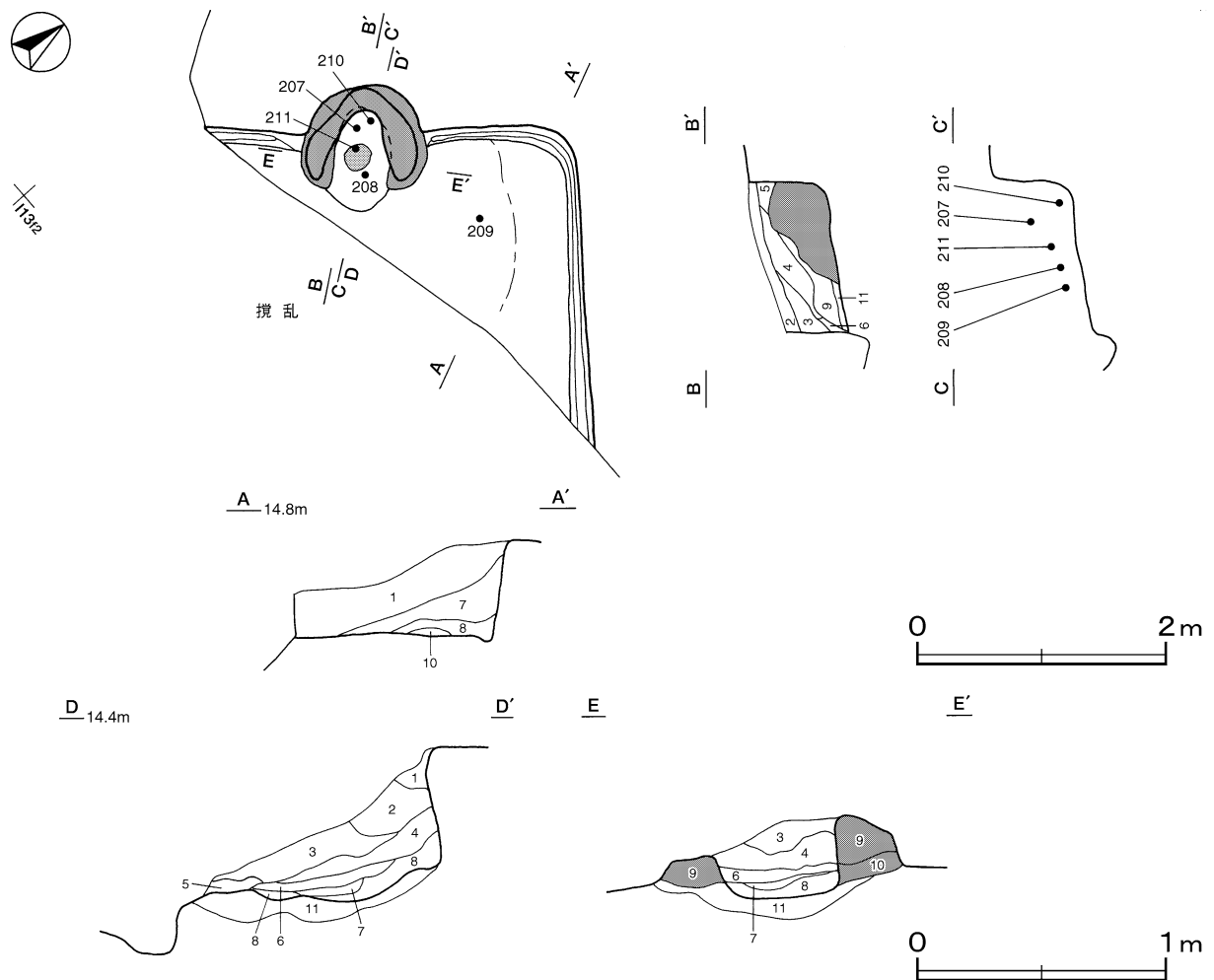
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP119	球状土錘	2.1	2.0	0.5	(8.0)	長石・雲母	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	PL46
DP120	土玉	1.9	1.1	0.5	(4.0)	長石・雲母	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	PL46
DP121	土玉	1.8	1.5	0.7	3.8	長石	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	PL46
DP122	土玉	1.6	2.1	0.5	5.3	赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	PL46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M23	鍬	(4.3)	(1.7)	0.3	(3.9)	鉄	茎部欠損 鍬身部断面両丸	覆土中	PL49

第19号住居跡 (第182・183図)

位置 調査区北西部のI 13e2区, 標高15.0mの河岸段丘上位の傾斜部に位置している。

重複関係 第8号住居跡を掘り込んでいる。



第182図 第19号住居跡実測図

規模と形状 南部が削平されているため、北西・南東軸は2.70m、北東・南西軸は2.20mが確認されただけである。遺存する壁と竈の位置から主軸方向がN-48°-Wの方形または長方形と推測される。壁高は35~70cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、遺存している部分では壁溝が確認されている。

竈 北西壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cm、燃烧部幅47cmである。袖部および燃烧部は地山を15cmほど掘り込んで、褐色土の上に粘土ブロックを積み上げて構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ、火床面からほぼ直立している。第9・10層は袖部の構築土、第11層は掘方への埋土である。

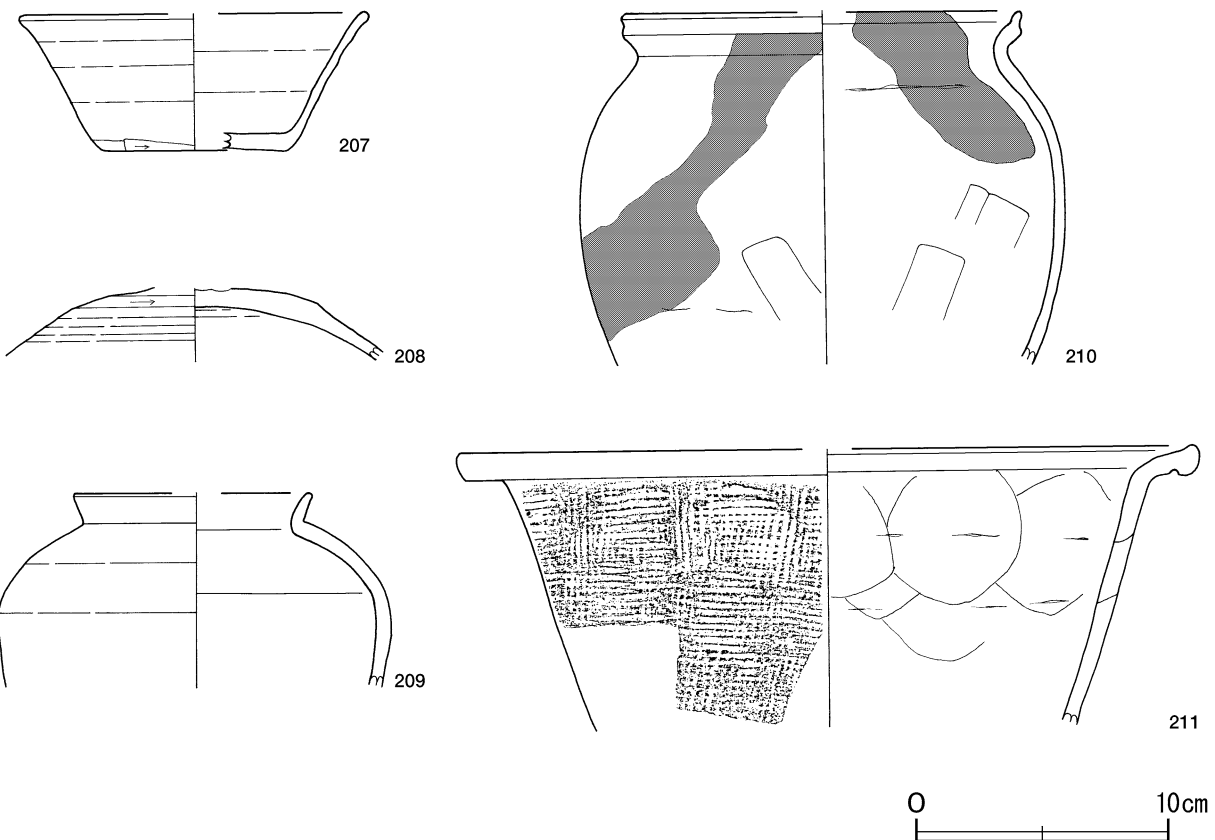
竈土層解説

- | | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック多量,炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 焼土粒子多量,炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物少量 | 8 暗赤褐色 焼土ブロック多量,砂質粘土ブロック少量,炭化物微量 |
| 3 暗褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量,ローム粒子微量 | 9 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量 |
| 4 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量,ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 5 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 11 褐色 ロームブロック多量,炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 焼土ブロック中量,炭化物微量 | |

覆土 11層に分層できる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子少量,ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量,ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 炭化物・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック中量,炭化物・焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量,ローム粒子微量 | 9 暗褐色 炭化粒子少量,ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量,炭化粒子微量 | 11 黒色 ロームブロック多量,焼土粒子中量,炭化粒子少量 |
| 6 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | |



第183図 第19号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片76点（坏9，甕67），須恵器片30点（坏16，高台付坏1，蓋4，壺1，短頸壺1，甕7）が出土している。その他，混入した陶器片1点，瓦片1点も出土している。207・208・210・211は竈の火床部から出土している。209は北コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。

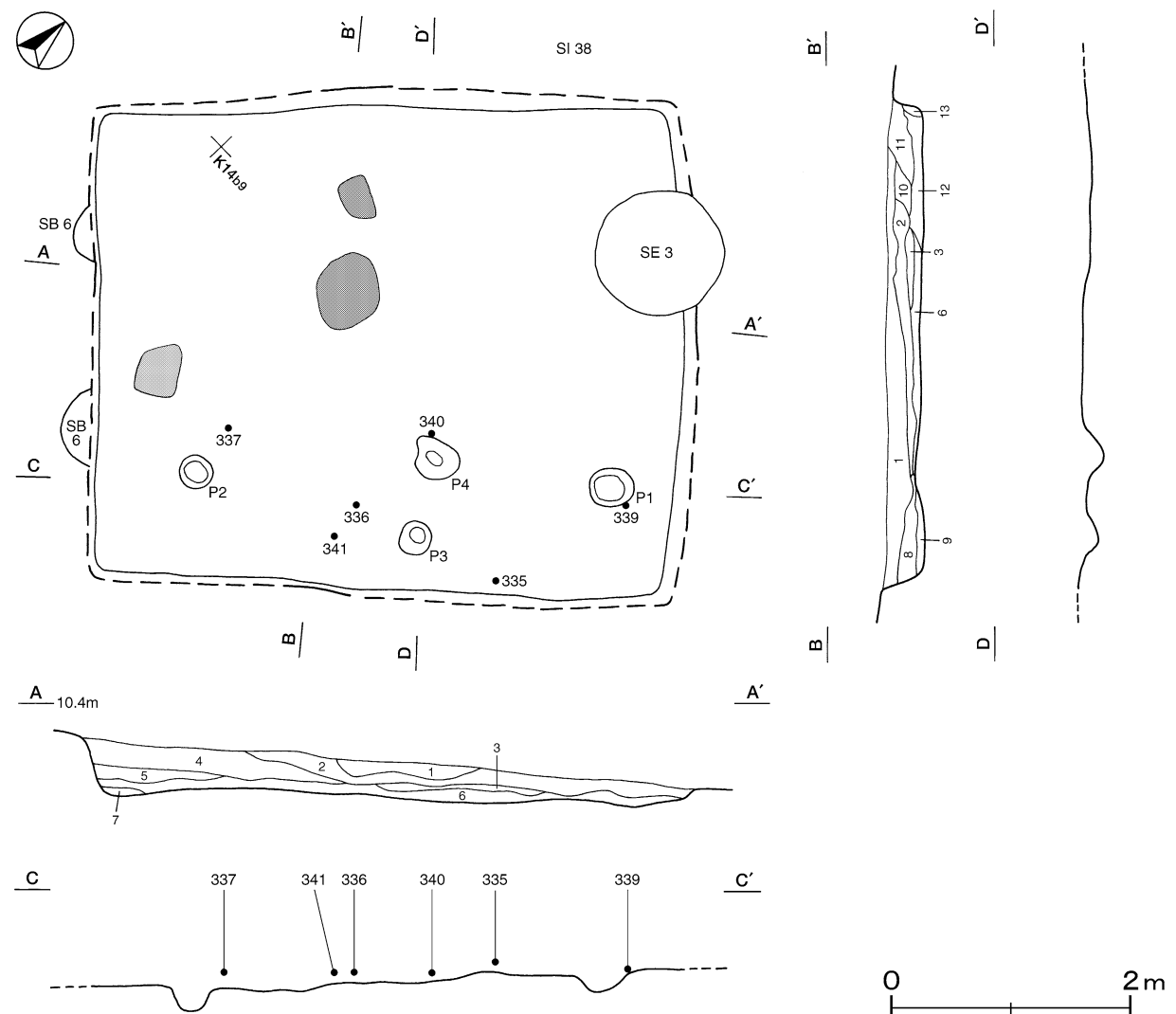
第19号住居跡出土遺物観察表（第183図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
207	須恵器	坏	[13.6]	5.5	[7.2]	長石・石英・赤褐色	灰黄褐	普通	底部不定方向のヘラ削り	竈火床部	20%
208	須恵器	蓋	-	(2.9)	-	長石・石英	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼り付け	竈火床部	25%
209	須恵器	短頸壺	[9.4]	(7.0)	-	長石・石英	灰褐	良好	体部口ロナデ	覆土下層	10%
210	土師器	甕	[15.8]	(14.0)	-	長石・石英	赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ 輪積痕	竈火床部	20%
211	須恵器	甕	[24.0]	(11.0)	-	長石・石英	灰	良好	体部縦位の平行叩き後，横位の平行叩き 内面無文の当具痕 輪積痕	竈火床部	10%

第33号住居跡（第184・185図）

位置 調査区中央部のK14b9区，標高10.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第38号住居跡，第6号掘立柱建物跡を掘り込み，北東壁を第3号井戸に掘り込まれている。



第184図 第33号住居跡実測図

規模と形状 長軸5.05m，短軸4.23mの長方形で，主軸方向はN - 45° - Eである。壁高は10～45cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。焼土が南西壁付近で確認されている。

ピット 4か所。P1・P2は深さ15cm・21cmで，規模と位置から主柱穴である。P3は深さ12cmで，南壁付近の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットである。P4は深さ16cmで，性格は不明である。

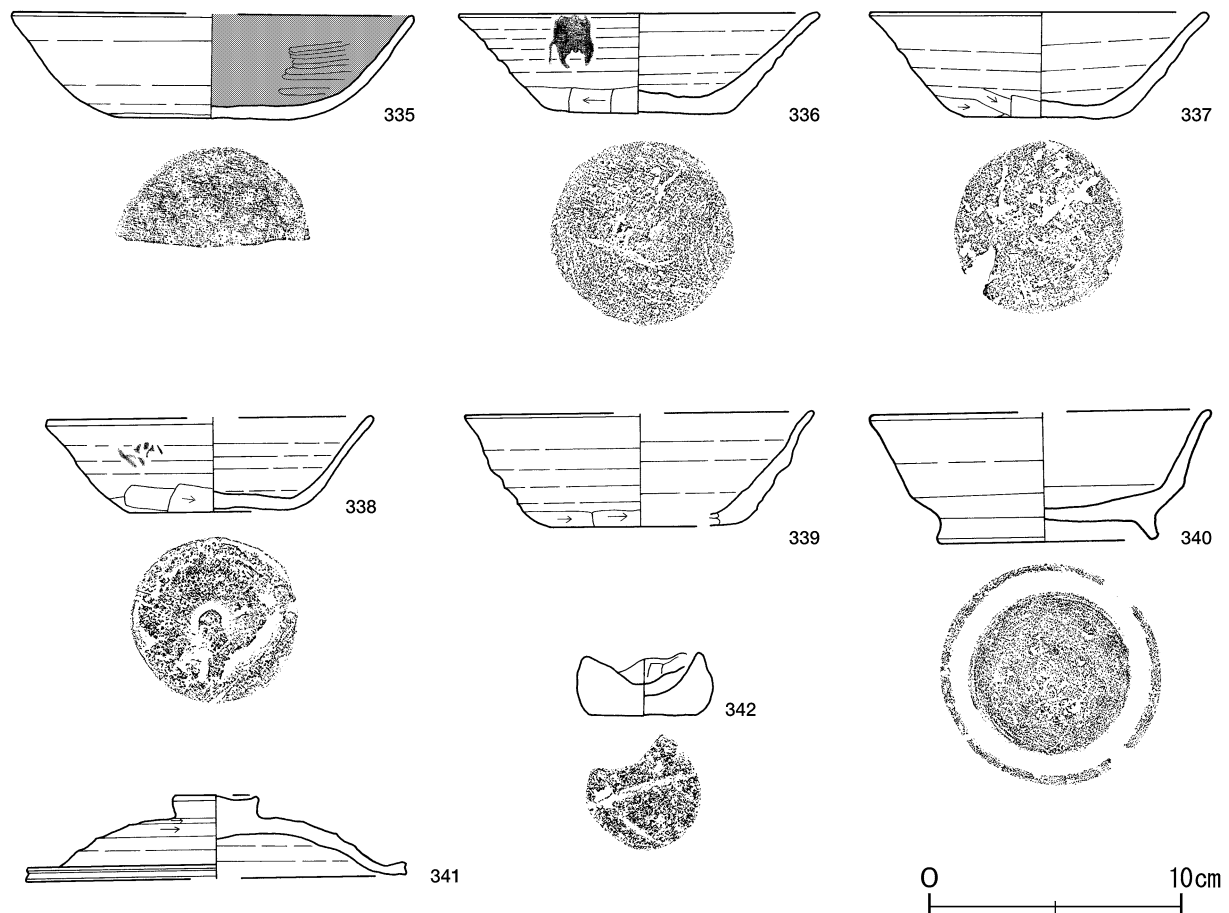
覆土 13層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------------|
| 1 極暗褐色 粘土粒子中量，ロームブロック・砂粒少量 | 8 黒褐色 粘土粒子・砂粒中量，炭化物少量，ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量 | 9 黒褐色 粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子少量，ローム粒子微量 | 10 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂粒中量，粘土ブロック・炭化物少量 |
| 4 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 11 黒褐色 炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 5 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 12 黒褐色 粘土粒子中量，焼土ブロック・砂粒少量 |
| 6 極暗褐色 粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子・砂粒少量 | 13 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子少量 |
| 7 暗褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片267点(坏31，甕235，手捏土器1)，須恵器片23点(坏15，高台付坏2，蓋1，甕5)，土製品1点(球状土錘)が出土している。その他，混入した土師質土器片1点も出土している。339は東コーナー一部付近の床面，335・336・341は南東壁際，340は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 焼土が南西壁付近で確認されていることから焼失住居と見られる。時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第185図 第33号住居跡出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表 (第185図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
335	土師器	坏	[15.8]	4.1	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り痕を残す一方のヘラ削り	覆土下層	45%
336	須恵器	坏	14.2	4.1	7.3	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り	覆土下層	95% PL31
337	須恵器	坏	13.3	4.3	6.3	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部不定方向のヘラ削り	覆土下層	80%
338	須恵器	坏	[12.8]	3.8	6.6	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り 灯明皿として使用	覆土中	65%
339	須恵器	坏	[13.8]	4.5	[7.2]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り	床面	20%
340	須恵器	高台付坏	[13.3]	5.1	5.4	長石・石英・雲母	灰オリーブ	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土下層	60%
341	須恵器	蓋	[15.0]	3.3	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	良好	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土下層	60%
342	土師器	手捏土器	4.2	2.5	4.3	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部内面ヘラナデ 外面ナデ	覆土中	80% PL42

第41号住居跡 (第186図)

位置 調査区中央部のJ15j1区、標高11.5mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第44号住居跡を掘り込み、中央部を第77・99号土坑、南部を第78号土坑、西部を第9号溝、第82・83号土坑、北東壁を第3号地下式坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西部が削平されているため、長軸は推定5.55m、短軸5.50mの方形と推測される。主軸方向はN-50°-Wである。壁高は32~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。中央部が踏み固められている。壁溝が北東壁から南コーナー部まで確認されている。

ピット 4か所。P1~P3は深さ45~55cmで、規模と位置から主柱穴である。P4は深さ34cmで、南壁付近の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

覆土 10層に分層できる。ロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

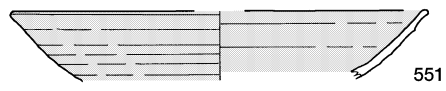
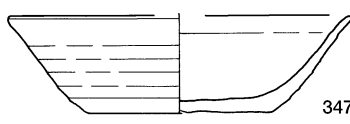
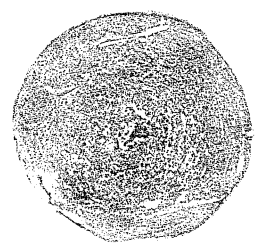
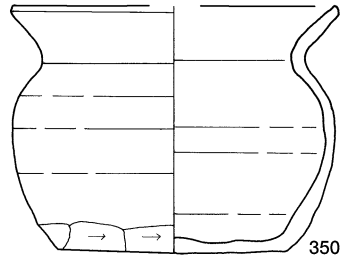
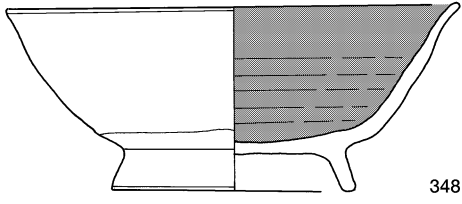
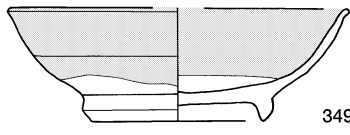
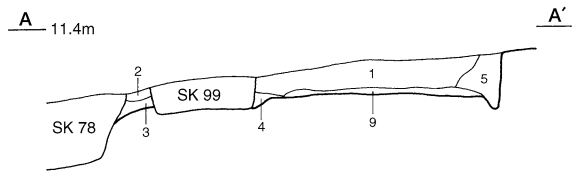
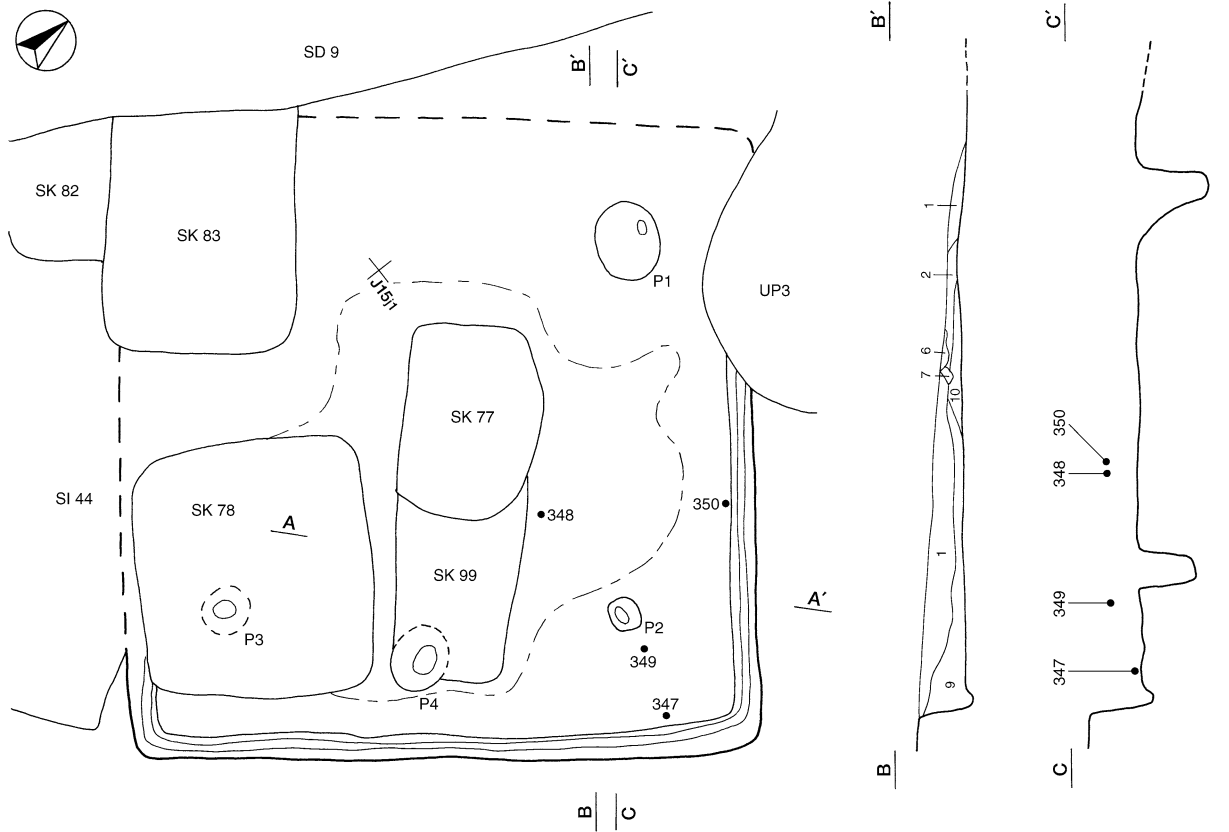
- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量,炭化粒子微量 | 6 黒褐色 焼土ブロック中量,炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 焼土粒子中量,炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量,炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子中量,焼土粒子少量,炭化粒子微量 | 9 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量,炭化物微量 | 10 暗褐色 ロームブロック中量,焼土粒子少量,炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片201点(坏54,高台付椀1,高台付坏2,鉢1,甕142,小形甕1),須恵器片21点(坏6,高台付坏1,蓋1,鉢5,甕8),灰釉陶器片2点(椀,高台付椀),鉄滓1点が出土している。その他、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。347は北東コーナー部の覆土下層,348は中央部,350は北東壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第41号住居跡出土遺物観察表 (第186図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
347	土師器	坏	[13.5]	3.9	7.1	石英・雲母	にぶい褐色	普通	底部回転ヘラ切り痕を残す一方のヘラ削り	覆土下層	40%
551	灰釉陶器	椀	[16.4]	(2.7)	-	緻密・長石・石英	灰黄	良好	体部内・外面をハケで施釉	覆土中	10%
348	土師器	高台付椀	17.8	7.5	9.5	長石	橙	普通	底部回転ヘラ切り痕を残し高台貼り付け	覆土中層	90% PL34
349	灰釉陶器	高台付椀	[13.2]	4.5	6.8	緻密・長石・石英・黒色粒子	灰白	良好	体部内・外面をハケで施釉	覆土中層	45%
350	土師器	小形甕	[12.7]	9.9	9.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部下端ヘラ削り 内面ナデ 底部回転ヘラ切り痕を残す一方のヘラ削り	覆土中層	60%



第186图 第41号住居跡・出土遺物実測図

第50号住居跡 (第187・188図)

位置 調査区中央部のJ14j4区、標高8.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第49・71号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.75m、短軸3.15mの長方形で、主軸方向はN-49°-Eである。竈の東側に地山を掘り残した棚部が付設されている。奥行き40cm、幅62cmの不整長方形で、床面からの高さは20cmである。壁高は8~20cmで、外傾して立ち上がっている。

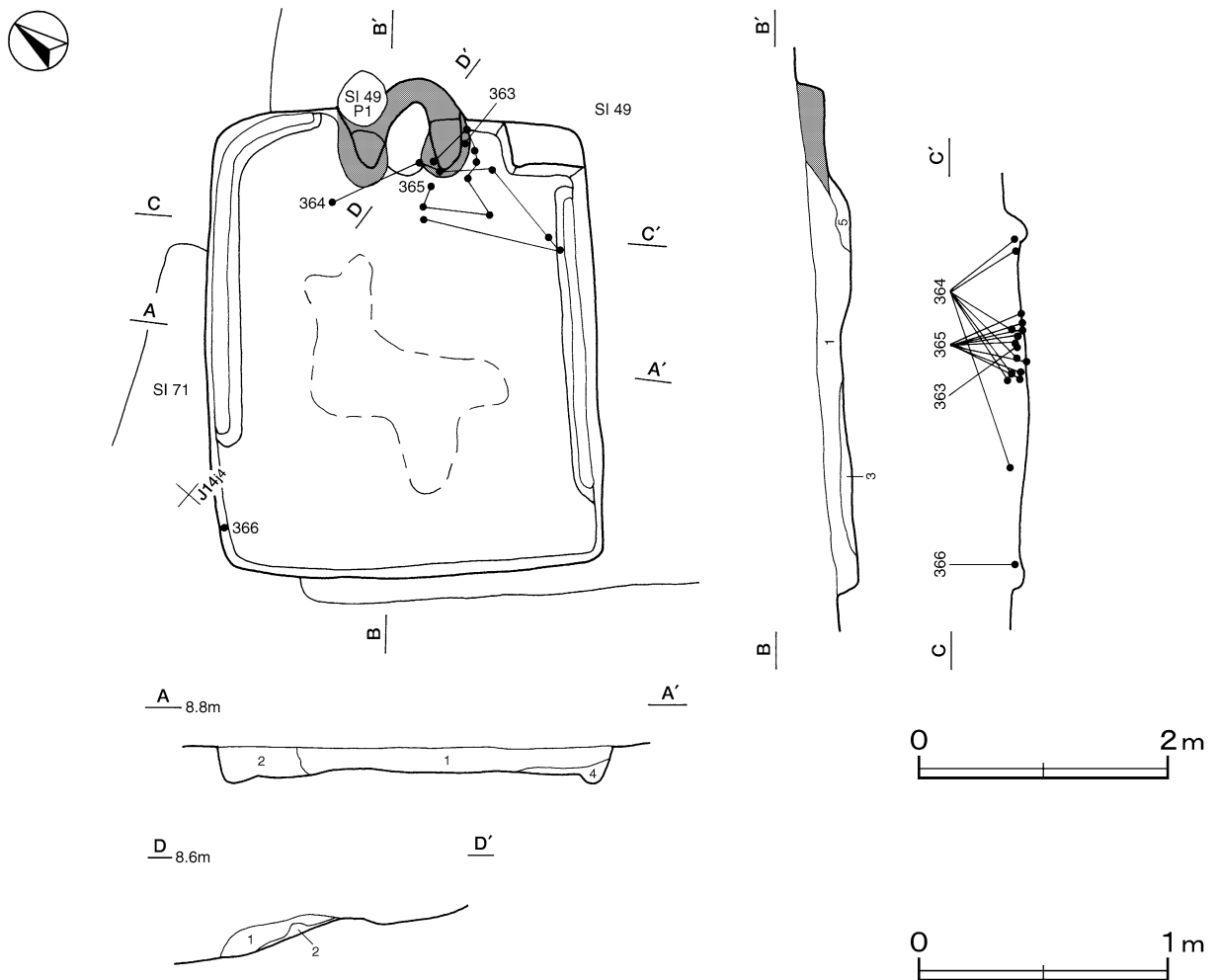
床 竈付近がやや窪んでいる。西部が踏み固められている。壁溝が竈左袖部から北西壁際と南東壁際に確認されている。

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで80cm、燃烧部幅40cmである。火床部は床面よりやや高い。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子中量 焼土ブロック少量 2 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子中量

覆土 5層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロック、砂質粘土ブロックなどを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。



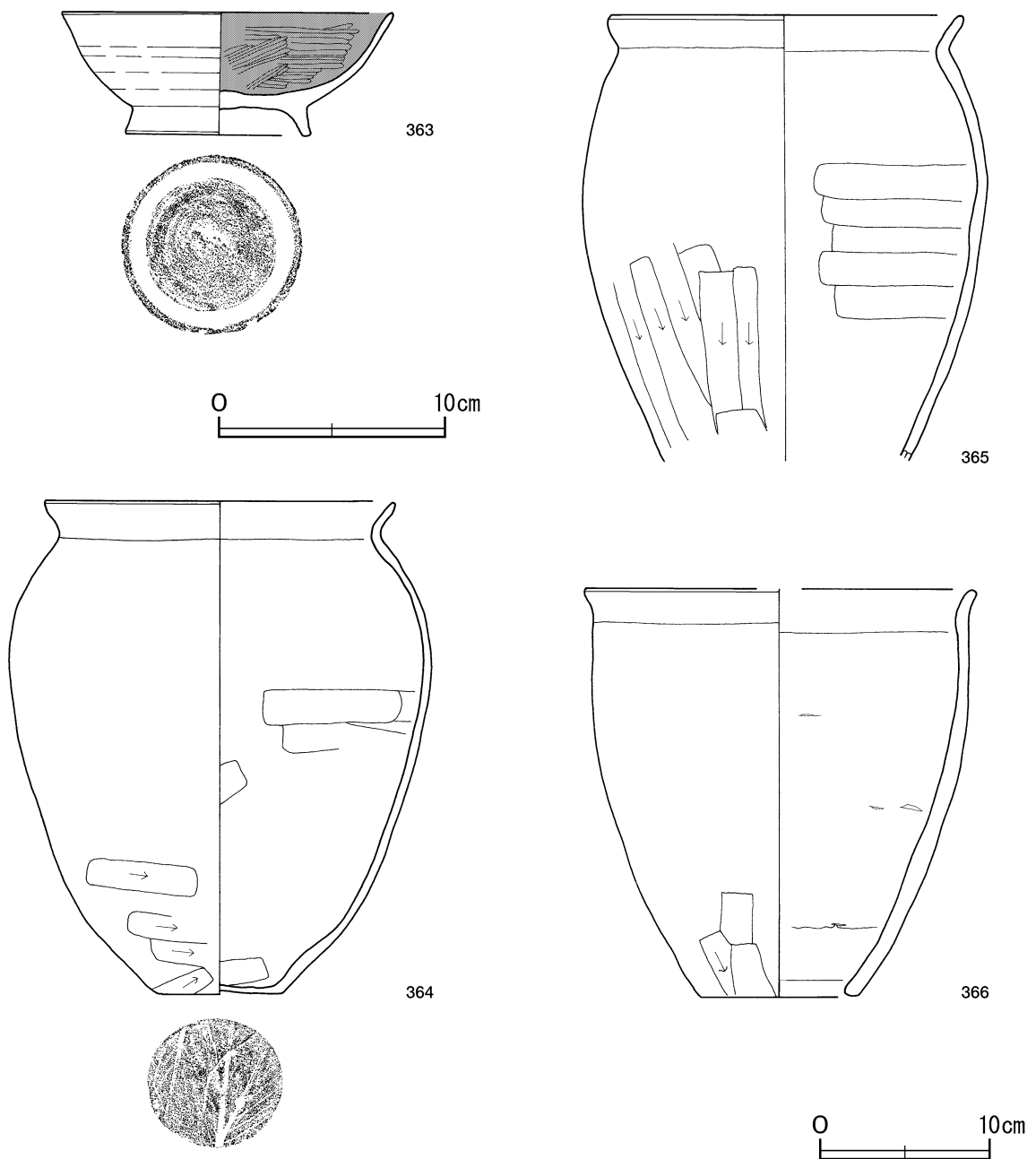
第187図 第50号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 4 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物微量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子中量, 炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量, 炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片91点(坏26, 高台付坏1, 甕63, 甑1), 須恵器片7点(坏3, 高台付坏1, 壺1, 甕2)が出土している。363は竈の右袖部から出土している。364は南東壁際の床面と, 竈の右袖部と竈手前の覆土下層から出土した破片が, それぞれ接合したものである。365は竈の右袖部東寄りの覆土下層と床面から出土した破片がそれぞれ接合したものである。364は出土状況から右袖部の構築材として使用されていたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から10世紀前葉と考えられる。



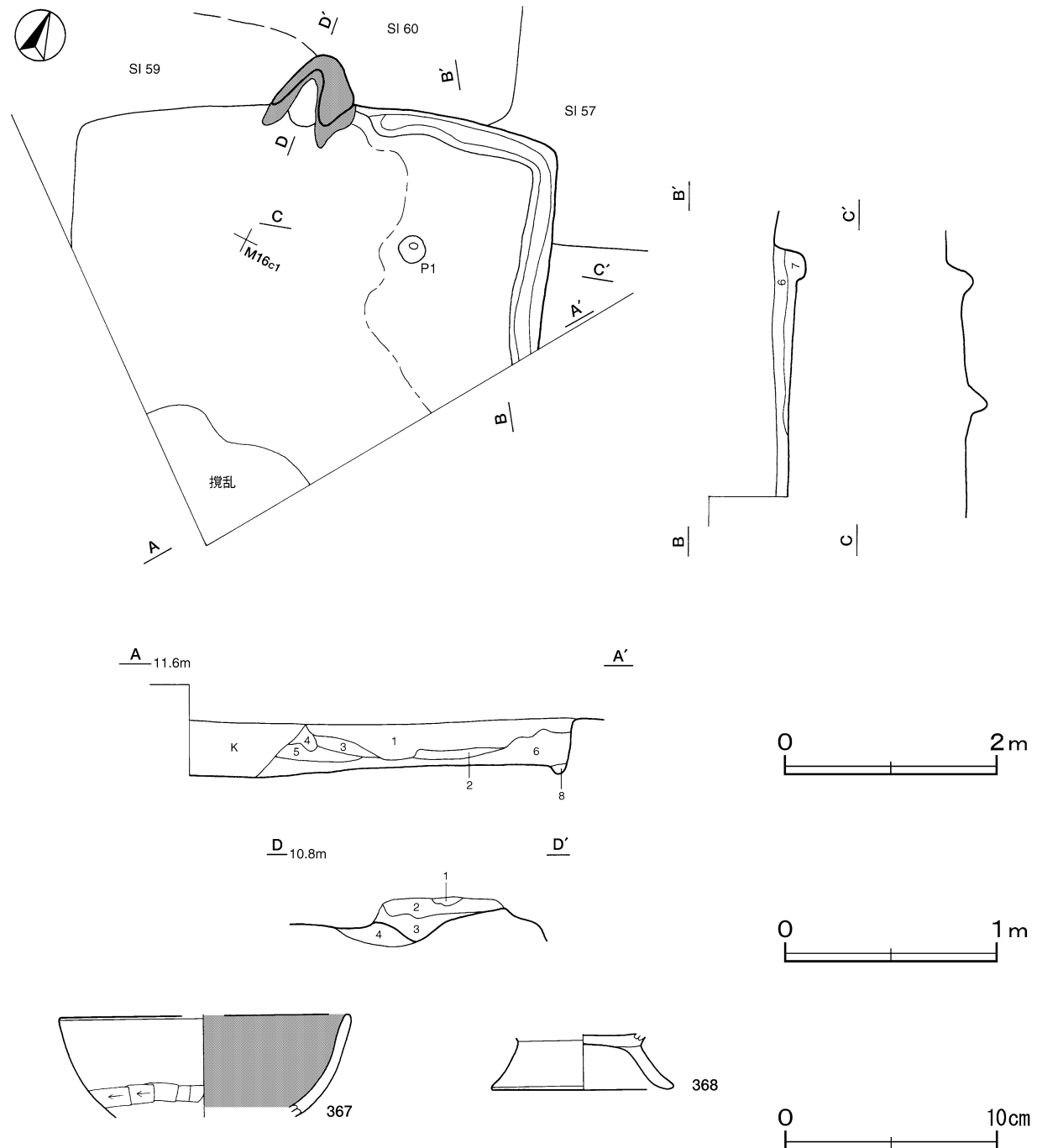
第188図 第50号住居跡出土遺物実測図

第50号住居跡出土遺物観察表 (第188図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
363	土師器	高台付坏	14.6	5.6	8.2	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け 体部内面ヘラ磨き	覆土下層	85% PL32
364	土師器	甗	20.6	28.9	7.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面~覆土下層	50%
365	土師器	甗	20.5	(26.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面~覆土下層	70%
366	土師器	甑	[22.6]	23.7	[9.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面工具痕 輪積痕	床面	35%

第58号住居跡 (第189図)

位置 調査区中央部のM16b1区, 標高11.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。



第189図 第58号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第57・59・60号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びているため、北東・南西軸は4.50m、北西・南東軸は4.20mが確認できただけである。遺存する壁から主軸方向がN - 25° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は20～40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦である。竈右袖部手前から南部まで踏み固められている。壁溝が北東壁から南東壁まで確認されている。

竈 北西壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで60cm、燃焼部幅30cmである。袖部および燃焼部は地山を23cmほど掘り込んで、暗褐色土の上に砂質粘土ブロックを積み上げて構築されている。火床部は床面を掘りくぼめ、煙道部は壁外に50cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。第4層は掘方への埋土である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック多量,炭化物微量 | 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック中量,砂質粘土ブロック少量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量,焼土粒子・炭化粒子少量 |

ピット 深さ20cmで、規模と位置から支柱穴とみられる。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックなどを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量,ローム粒子微量 | 5 黒褐色 炭化物・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 炭化物少量,焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 炭化物・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック少量,ローム粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子中量,炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片86点(坏26,高台付坏2,高台付椀1,蓋1,甕56),須恵器片20点(坏15,蓋2,甕3)が出土している。367・368は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀中葉と考えられる。

第58号住居跡出土遺物観察表(第189図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
367	土師器	坏	[13.6]	(4.8)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	20%
368	土師器	高台付椀	-	(2.5)	[8.5]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後,高台貼り付け	覆土中	10%

第59号住居跡(第190・191図)

位置 調査区中央部のM15b0区,標高10.5mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第60号住居跡を掘り込み,北東壁を第58号住居,北西部を第67号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区外へ延びているため、北西・南東軸は3.25mで、北東・南西軸は3.15mが確認できただけである。主軸方向がN - 26° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は5～40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。南部が踏み固められている。壁溝が北東壁から南東壁まで確認されている。

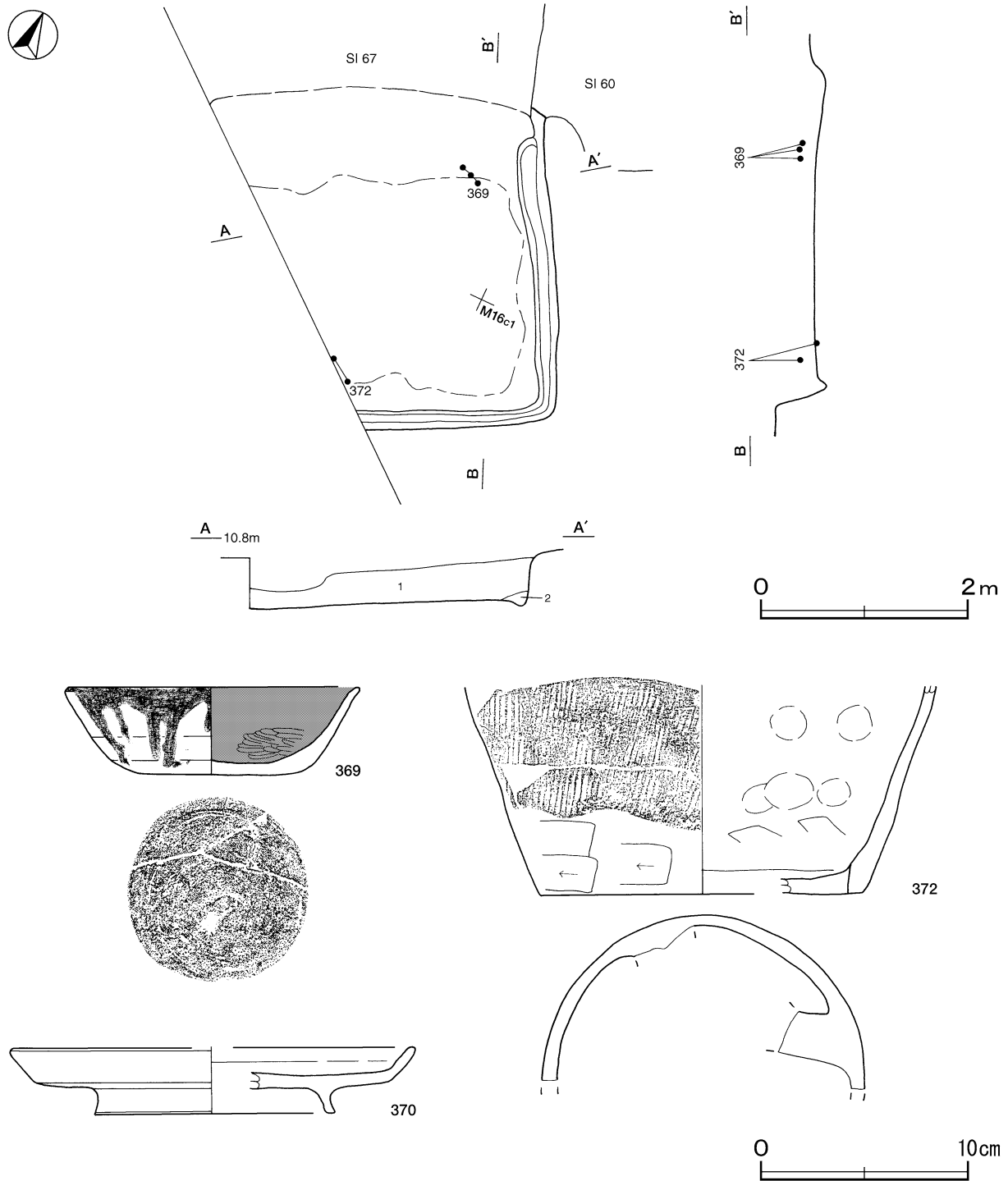
覆土 2層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

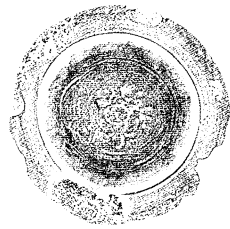
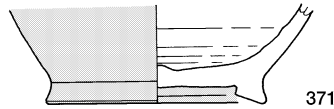
- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック中量,炭化物少量,ロームブロック | 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
|------------------------------|---------------------------|

遺物出土状況 土師器片277点（坏68，高台付坏1，高台付椀1，埴1，高坏1，甕205），須恵器片140点（坏64，高台付坏3，蓋5，盤1，高盤1，甕65，甑1），灰釉陶器片1点（長頸瓶），土製品1点（管状土錘）が出土している。その他，流れ込んだ縄文土器片7点も出土している。369は北東壁付近の覆土下層，370・371は覆土中からそれぞれ出土している。372は南東壁付近の床面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第190図 第59号住居跡・出土遺物実測図



第191図 第59号住居跡出土遺物実測図

第59号住居跡出土遺物観察表 (第191図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
369	土師器	坏	14.0	4.3	8.5	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り 油煙付着	覆土下層	90% PL28
370	須恵器	盤	[19.5]	3.2	[11.5]	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土中	15%
371	灰釉陶器	長頸瓶	-	(4.0)	8.8	緻密・長石・石英	灰	良好	体部から底部にかけて施釉	覆土中	10%
372	須恵器	甌	-	(10.1)	[15.5]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	良好	体部斜位の平行叩き 下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 指頭圧痕 工具痕	床面・覆土下層	10%

第60号住居跡 (第192・193図)

位置 調査区中央部のM16b1区，標高11.0mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第55・57・77号住居跡を掘り込み，南部を第58・59号住居，西部を第67号住居に掘り込まれている。

規模と形状 西部が掘り込まれているため，北西・南東軸は3.38mで，北東・南西軸は2.00mが確認できただけである。主軸方向がN-35°-Wの方形または長方形と推測される。壁高は12~40cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。確認できた部分の竈1から中央部にかけて踏み固められている。確認された部分では壁溝が巡っている。

竈 2か所。竈1は北東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで105cm，燃烧部幅50cmである。左袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に積み上げて構築されている。火床部は床面を掘りくぼめ，煙道部は壁外に25cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がり端部で直立している。

竈2は北西壁に付設されている。左袖部が第67号住居に掘り込まれているため，規模は焚口部から煙道部まで80cmが確認できただけである。火床部は床面よりやや高い。袖部の遺存状態から，竈2から竈1へ作り替えられている。

竈1土層解説

1	灰褐色	粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量	5	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量，粘土粒子微量
2	暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量	6	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	7	にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック少量

竈2土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------------|
| 1 灰褐色 粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, 粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |

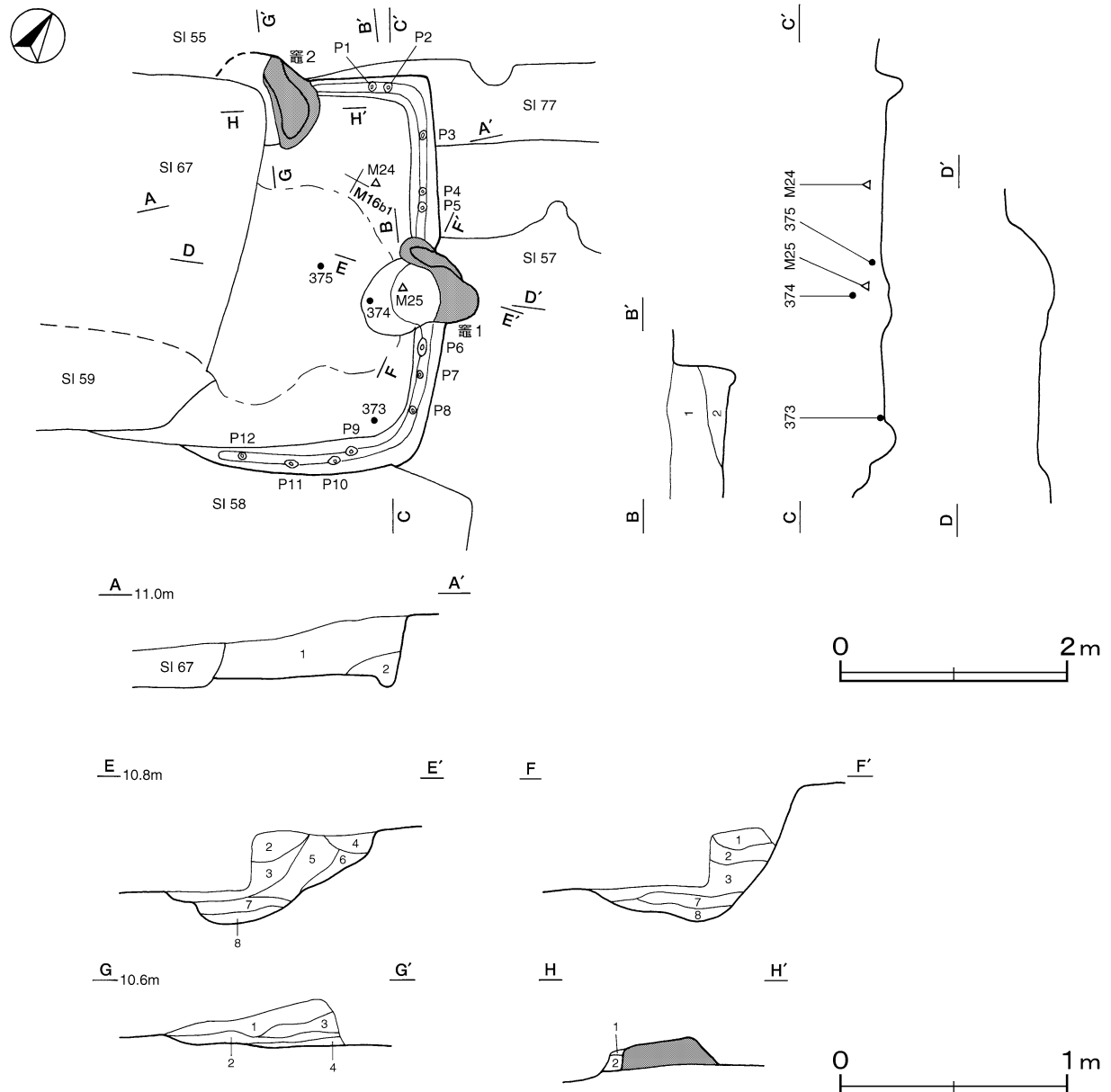
ピット 12か所。P1 ~ P12 は深さ5 ~ 13cmで、規模と位置から壁柱穴である。

覆土 2層に分層できる。暗褐色土を基本とする単一層で、一度に埋め戻されている。第2層は壁溝の覆土である。

土層解説

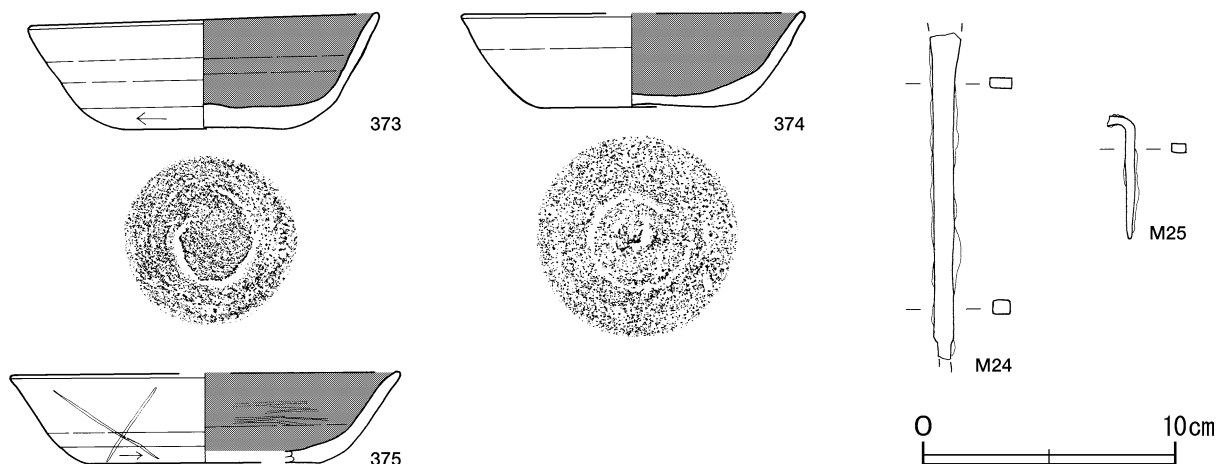
- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
|-------------------------|----------------------------|

遺物出土状況 土師器片305点(坏66, 椀1, 高台付坏5, 蓋1, 甕231, 小形甕1), 須恵器片89点(坏42, 高台付坏3, 鉢39, 甕5), 金属製品2点(鏃, 釘)が北東壁の床面から覆土上層にかけて出土している。その他, 混入した陶器片1点も出土している。373は東コーナー部の床面, 375は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。M24は北東壁際付近の覆土中層, 374は竈1の覆土上層からそれぞれ出土している。



第192図 第60号住居跡実測図

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第193図 第60号住居跡出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表（第193図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
373	土師器	坏	13.7	4.6	6.3	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	床面	90% PL28
374	土師器	坏	[13.5]	3.7	8.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面口口成形 底部回転ヘラ切り	覆土上層	60%
375	土師器	坏	[15.4]	3.5	[9.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 刻書『x』 内面ヘラ磨き	覆土下層	25% PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	土師器	出土位置	備考
M24	鏃	(13.0)	1.0	0.5	(32.4)	鉄	断面長方形	覆土中層	PL49
M25	釘	(4.9)	0.5	0.3	(4.1)	鉄	断面長方形 頭部平面形	覆土中層	PL49

第62号住居跡（第194図）

位置 調査区中央部のK14c1区，標高7.5mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第107号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南西部が調査区域外へ延びているため，北東・南西軸は3.16mで，北西・南東軸は3.05mが確認できただけである。壁と竈から主軸方向がN-48°-Wの方形または長方形と推測される。壁高は36cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。確認された部分では壁溝が巡っている。

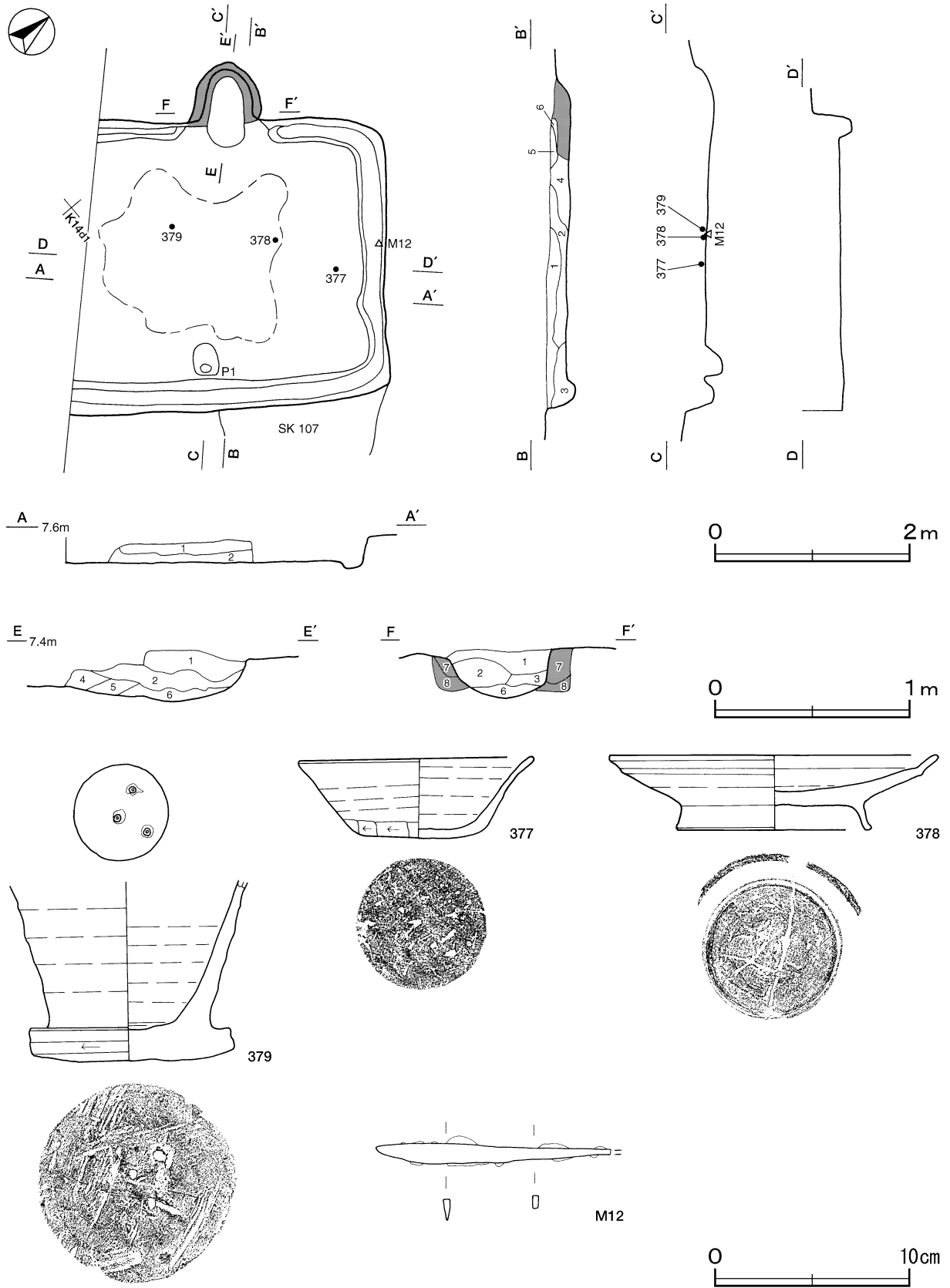
竈 北西壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで80cm，燃烧部幅50cmである。袖部は地山を20cmほど掘り込んで，暗褐色土を積み上げて構築されている。第7・8層は袖部の構築土である。火床部は床面をやや掘りくぼめ，煙道部は壁外に55cm掘り込まれ，火床面から外傾し端部で直立している。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 灰黄褐色 焼土ブロック中量，粘土ブロック・炭化物少量 | 5 灰黄褐色 焼土ブロック中量，炭化物少量 |
| 2 灰黄褐色 焼土ブロック中量，炭化物少量 | 6 灰黄褐色 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子少量 | 7 黒褐色 粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量 |
| 4 灰黄褐色 焼土ブロック中量，粘土ブロック・炭化物少量 | 8 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子中量 |

ピット 深さが18cmで，南東壁際に位置し竈と正対していることから，出入口施設に伴うピットとみられる。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。



第194図 第62号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

- | | |
|------------------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック少量,炭化物微量 | 4 暗褐色 焼土ブロック中量,炭化物少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化物微量 | 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量,ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量,粘土ブロック微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片65点(甕),須恵器42点(坏23,蓋9,高盤1,盤1,甕7,捏鉢1),金属製品1点(刀子)が出土している。378・379は中央部,377は北東壁付近の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は,出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第62号住居跡出土遺物観察表(第194図)

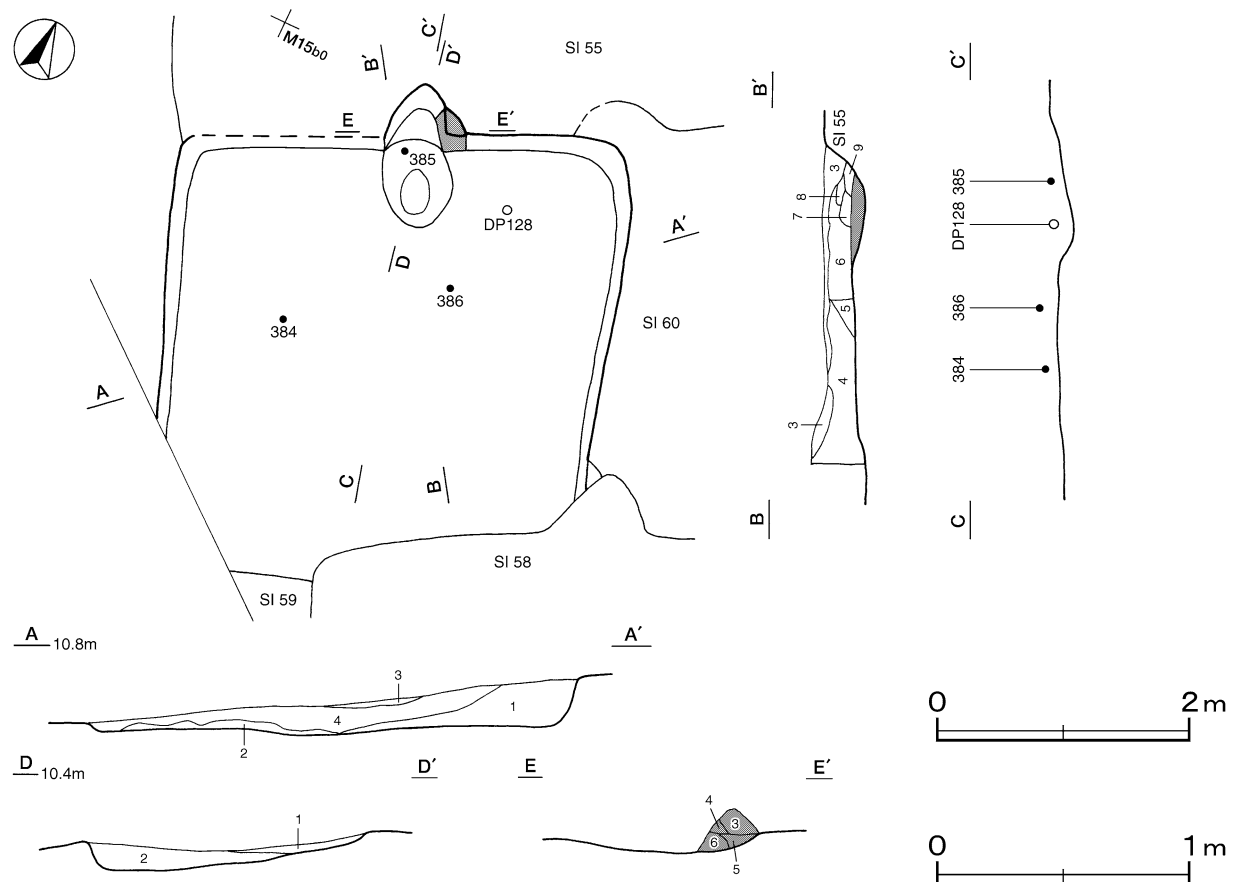
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
377	須恵器	坏	12.8	4.5	6.9	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端へら削り 底部不定方向のへら削り	床面	85% PL31
378	須恵器	盤	16.8	3.9	9.5	長石・石英・雲母	灰黄	良好	底部回転へら削り後,高台貼り付け	床面	75% PL34
379	須恵器	捏鉢	-	(9.3)	10.3	長石・石英	灰	良好	体部下端へら削り 底部不定方向のへら削り 3孔	床面	60% PL36

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M12	刀子	(12.0)	1.1	0.4	(10.9)	鉄	断面三角形	床面	PL49

第67号住居跡(第195・196図)

位置 調査区南東部のM15b0区,標高10.5mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第55・59・60号住居跡を掘り込み,南部を第58号住居に掘り込まれている。



第195図 第67号住居跡実測図

規模と形状 南部を掘り込まれているため、東西軸は3.65mで、南北軸は3.65mが確認できただけである。遺存する壁と竈から主軸方向がN - 15° - Wの方形または長方形と推測される。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで114cm、燃焼部幅55cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山に黒褐色土を積み上げて構築されている。第3～6層は袖部の構築土である。火床部は床面をやや掘りくぼめ、煙道部は壁外に35cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 灰黄褐色 炭化粒子・焼土粒子・細礫微量 |

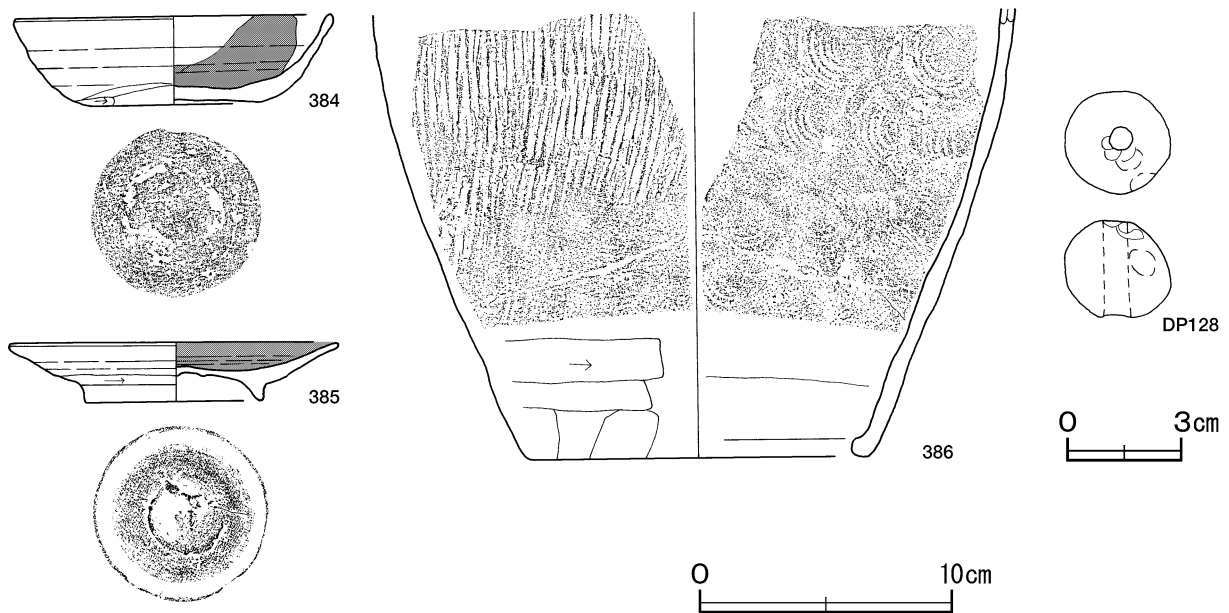
覆土 9層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロック, 粘土ブロックなどを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量 | 5 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 暗褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 焼土粒子少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| | 9 にぶい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片99点(坏19, 高台付坏1, 高台坏皿1, 甕78), 須恵器片16点(坏8, 蓋4, 甕2, 甌2), 土製品1点(球状土錘)が出土している。385は竈の火床面, DP128は北東コーナー部, 384は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第196図 第67号住居跡出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表(第196図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
384	土師器	坏	12.7	3.5	7.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	覆土下層	95%
385	土師器	高台付皿	13.1	2.4	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け	覆土下層	95% PL34
386	須恵器	甌	-	(17.7)	[13.5]	石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部縦位の平行叩き 下部ヘラ削り 内面同心円状の当て具痕 下部ナデ	覆土下層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP128	球状土錘	2.9	2.5	0.6	17.7	雲母	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土下層	PL45

第69号住居跡 (第197・198図)

位置 調査区中央部のL16h1区, 標高11.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。

重複関係 第68・70号住居跡を掘り込み, 北部を第116号土坑, 東部を第118・121号土坑, 中央部を第13号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 住居や土坑に掘り込まれているため, 床面の一部と竈の一部を確認しただけであるが, 状況から同一住居跡と判断した。確認できた床面は北西・南東軸2.45m, 北東・南西軸1.65mである。主軸方向がN - 53° - Eの方形または長方形と推測される。

床 ほぼ平坦である。

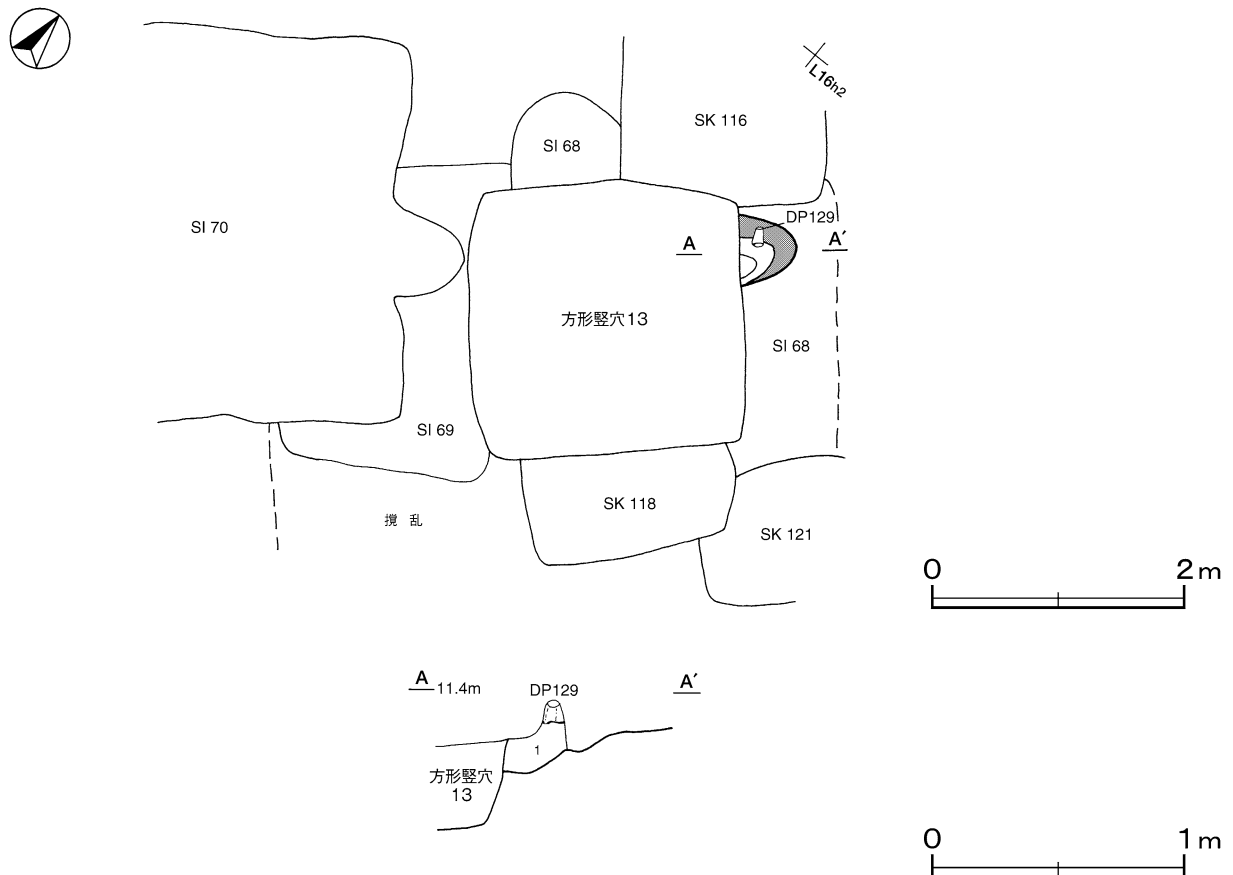
竈 北東壁に付設されている。中央部を第13号方形竪穴遺構に掘り込まれているため, 規模は焚口部から煙道部まで45cmが確認できただけである。

竈土層解説

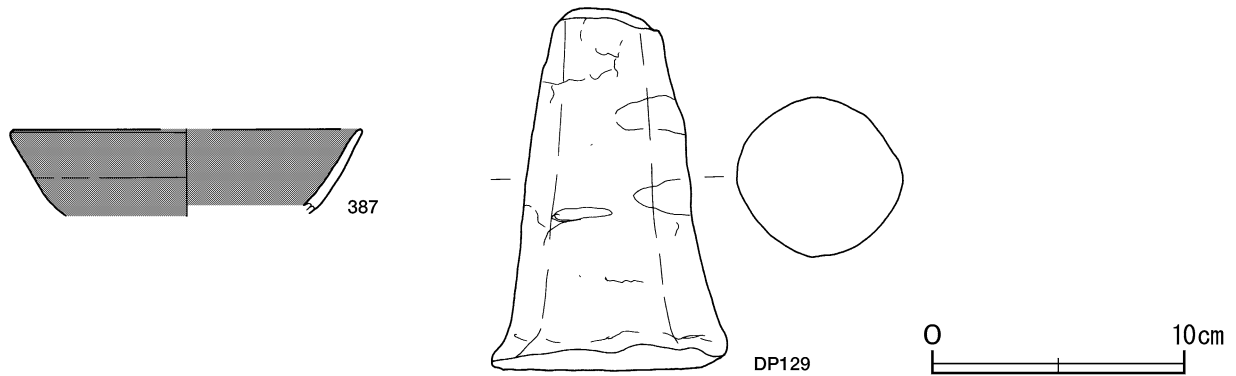
- 1 暗褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量, ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片15点 (坏2, 甕13), 土製品1点 (支脚) が出土している。DP129は竈の火床面に据えられた状態で出土している。387は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第197図 第69号住居跡実測図



第198図 第69号住居跡出土遺物実測図

第69号住居跡出土遺物観察表 (第198図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
387	土師器	坏	[13.8]	(3.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口く口成形 体部内・外面器面摩滅	覆土中	10%

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP129	支脚	14.5	9.3	4.5	885.0	長石・石英	ナデ 指頭圧痕	火床面	PL47

第70号住居跡 (第199・200図)

位置 調査区中央部のL16h1区、標高11.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

重複関係 第68号住居跡を掘り込み、北東コーナー部を第69号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.20m、短軸2.96mの方形で、主軸方向はN - 50° - Eである。壁高は6 ~ 18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。竈手前から東部が踏み固められている。

竈 北東壁の中央部やや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで62cm、燃烧部幅50cmである。袖部および燃烧部は地山を20cmほど掘り込んで、黒褐色土の上に砂質粘土ブロックが中量含んだ黒褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面をやや掘りくぼめ、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に55cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。第4層は袖部の構築土、第5層は掘方への埋土である。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 | 4 黒褐色 砂質粘土ブロック中量,ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック多量,炭化物・ローム粒子少量 | 5 黒褐色 焼土粒子中量,砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック中量,砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | |

覆土 2層に分層できる。粘土ブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

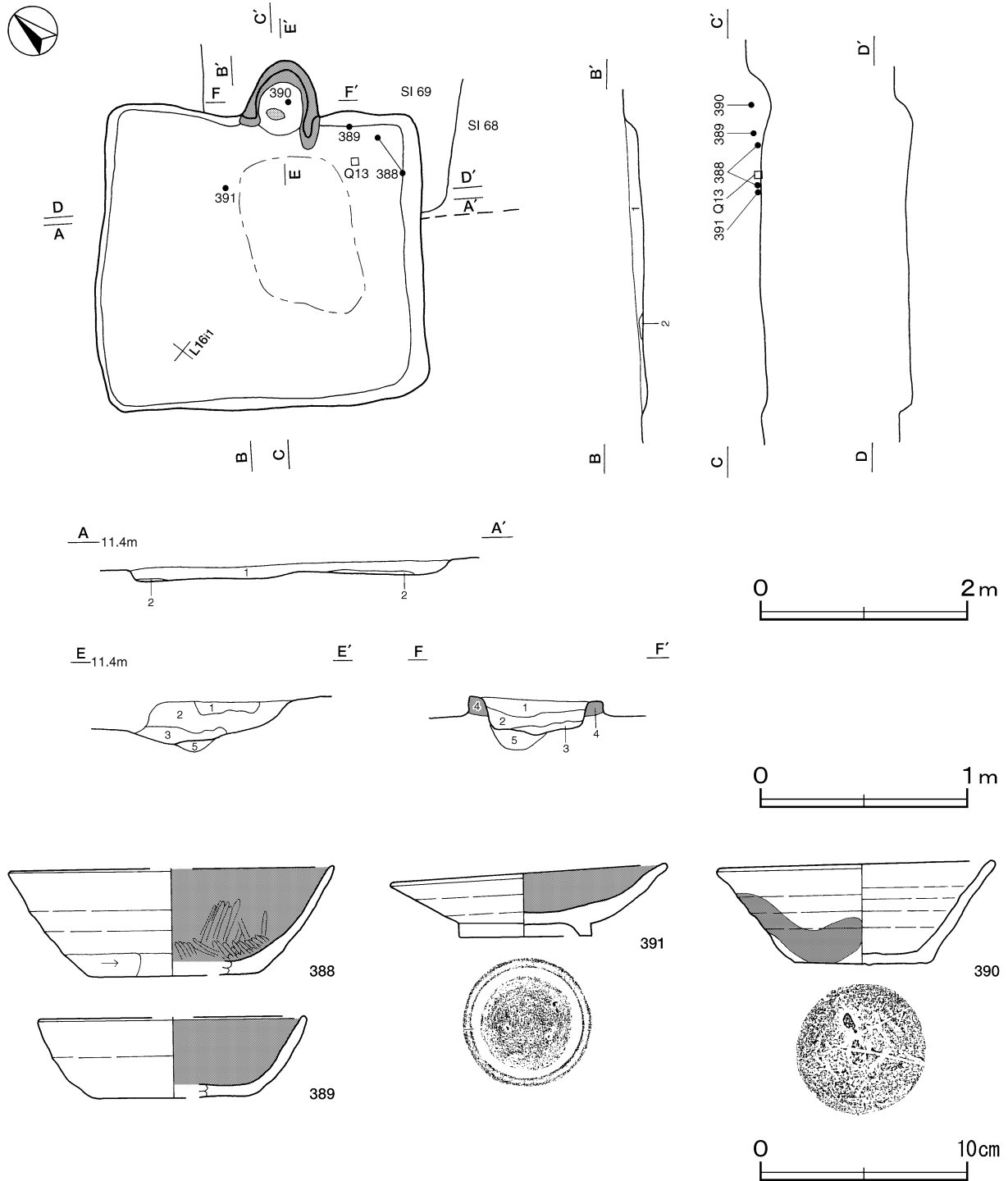
土層解説

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 2 暗褐色 粘土ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
|--------------------------|----------------------------|

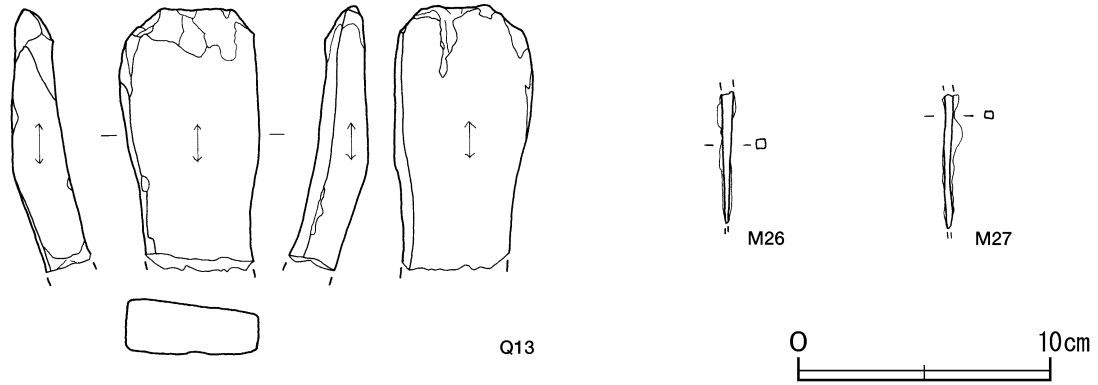
遺物出土状況 土師器片104点(坏13, 椀1, 高台付坏1, 高台付皿1, 甕88), 須恵器片24点(坏11, 高台付坏2, 鉢1, 甕9, 甑1), 土製品6点(管状土錘1, 支脚5), 石器1点(砥石), 金属製品3点(鉄鏝2, 釘1)が出土している。その他、混入した陶器片1点も出土している。390は竈の火床部の覆土上層, 388は東

コーナー部の覆土下層, 391は中央部の床面からそれぞれ出土している。Q13は東コーナー部の床面, M26・M27は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第199図 第70号住居跡・出土遺物実測図



第200図 第70号住居跡出土遺物実測図

第70号住居跡出土遺物観察表（第200図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
388	土師器	坏	[15.6]	5.2	[8.2]	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土下層	30%
389	土師器	坏	[13.0]	3.9	[7.0]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面器面摩滅	覆土中層	20%
390	須恵器	坏	13.4	5.0	6.5	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り ヘラ記号『x _a 』	覆土上層	95% PL31・43
391	土師器	高台付皿	13.1	3.5	6.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	床面	100% PL34

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	砥石	(10.5)	5.5	3.2	(177.4)	凝灰岩	端部欠損 砥面4面	床面	PL48

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M26	鍬	(5.2)	0.4	0.4	(2.3)	鉄	鍬身部欠損 断面長方形	覆土中	PL49
M27	鍬	(5.3)	0.4	0.3	(1.9)	鉄	鍬身部欠損 断面長方形	覆土中	PL49

第80号住居跡（第201図）

位置 調査区中央部のK14j0区，標高9.0mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 第81号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.68m，短軸2.58mの方形で，主軸方向はN - 34° - Eである。竈の北西側に地山を掘り残した棚部が付設されている。奥行き50cm，幅70cmの不整長方形で，床面からの高さは10cmである。壁高は8～10cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。中央部が踏み固められている。

竈 北東壁の中央部やや北寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cm，燃烧部幅40cmである。袖部および燃烧部は床面とほぼ同じ高さの地山に積み上げて構築されている。火床部は床面をやや掘りくぼめ，火床面の端部で，焼土が確認されている。煙道部は壁外に25cm掘り込まれ，火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|--------------------------|---|--------|-----------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量 | 5 | 灰黄褐色 | 焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量，炭化物微量 | 6 | にぶい黄褐色 | 炭化粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 3 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量，炭化粒子少量 | 7 | にぶい黄褐色 | 焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 4 | 灰黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量 |
| | | | 9 | 褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 |

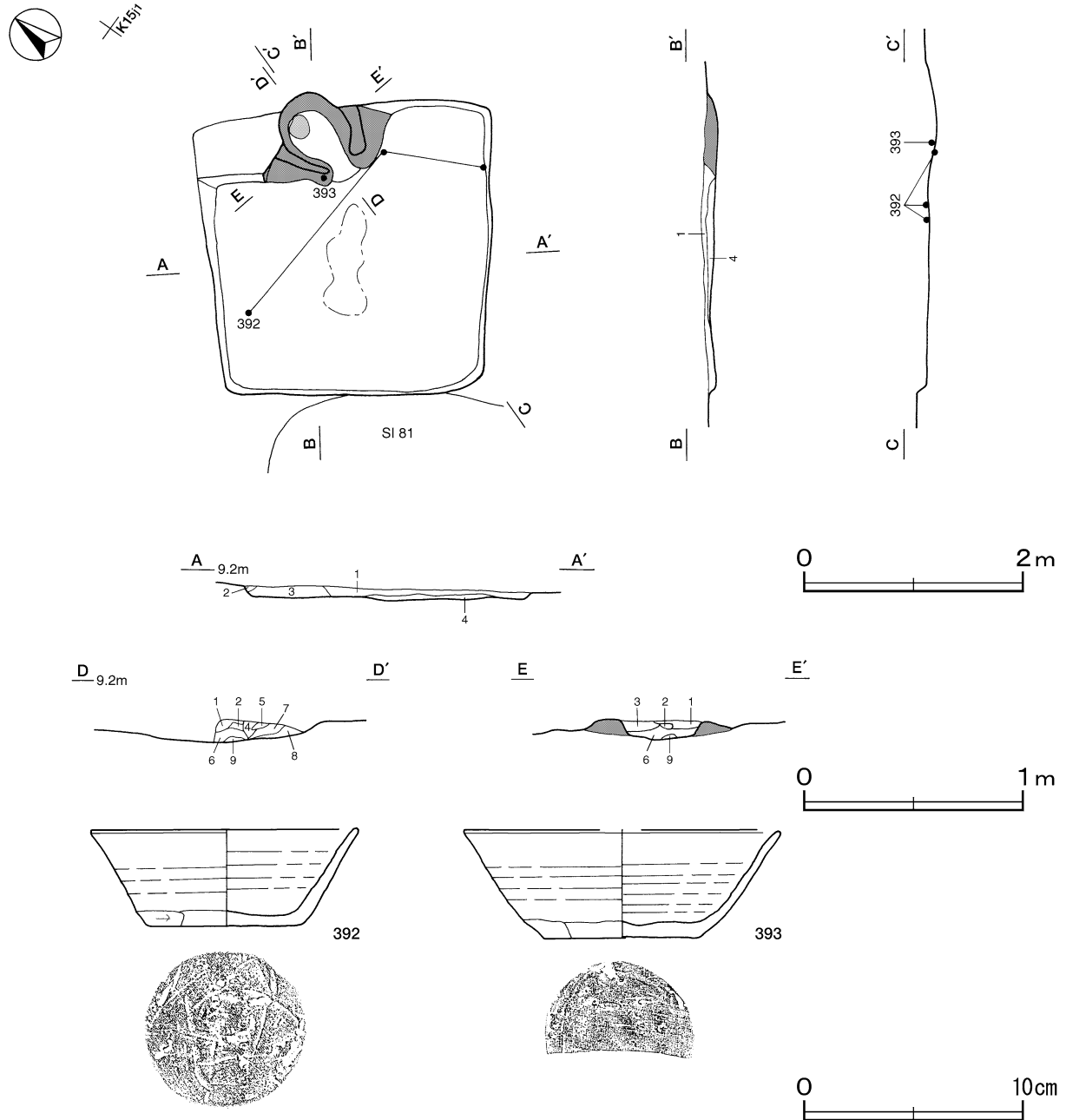
覆土 4層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 3 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 砂質粘土ブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片50点(甕), 須恵器片11点(坏6, 高台付坏1, 蓋1, 甕3)が出土している。392は東・西コーナー部竈右袖付近の床面, 393は左袖部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



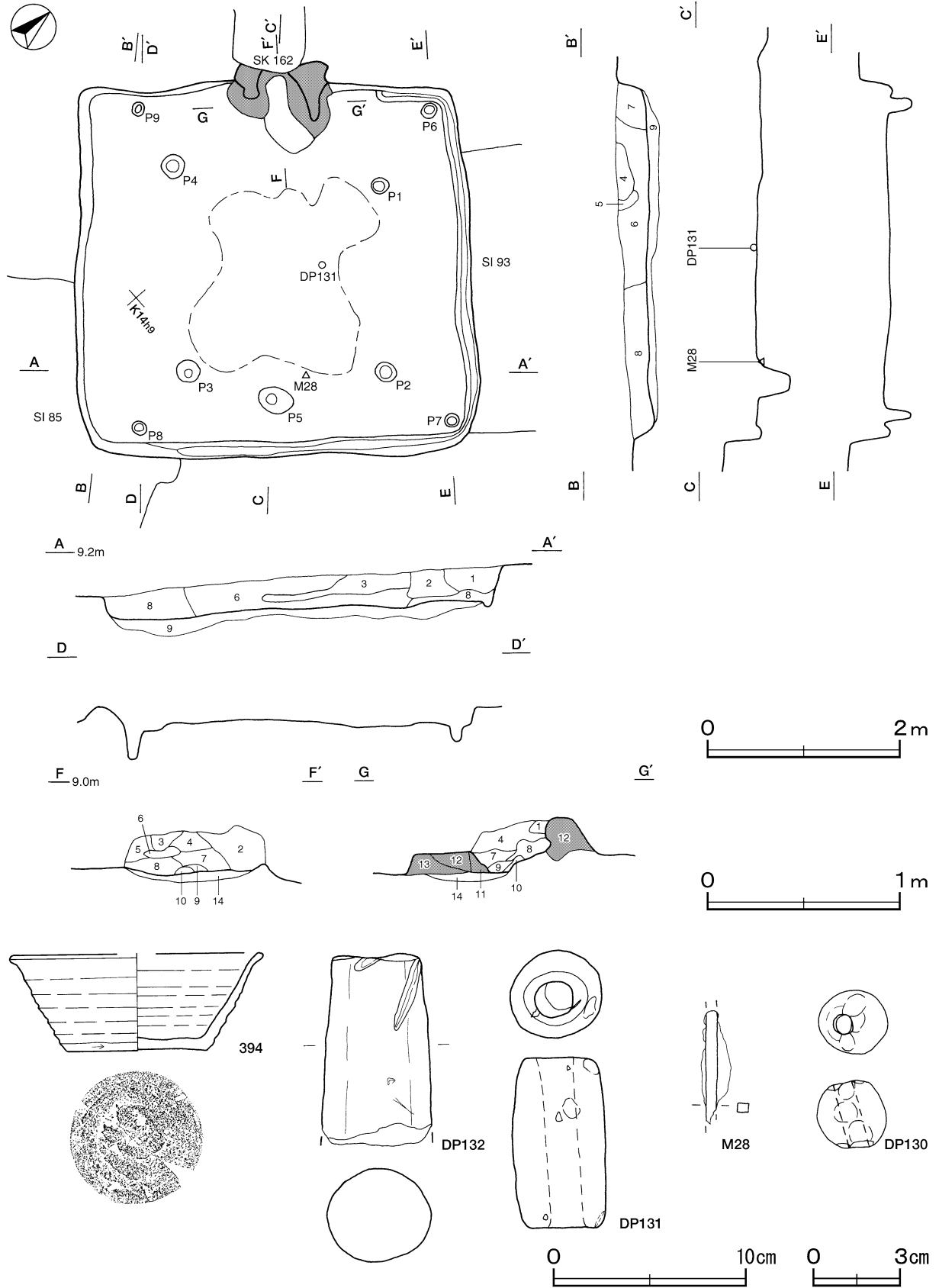
第201図 第80号住居跡・出土遺物実測図

第80号住居跡出土遺物観察表 (第201図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
392	須恵器	坏	12.0	4.5	7.2	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り	床面	90% PL31
393	須恵器	坏	[14.4]	5.0	7.0	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土下層	50%

第84号住居跡 (第202図)

位置 調査区中央部のK14g8区, 標高9.0mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。



第202図 第84号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第85, 93号住居跡を掘り込み、竈の一部を第162号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.14m, 短軸3.95mの方形で、主軸方向はN - 50° - Wである。壁高は20~35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が北コーナー部から南東壁まで確認されている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。第162号土坑に掘り込まれているため、規模は焚口部から煙道部まで85cm, 燃烧部幅42cmが確認できただけである。左袖部および燃烧部は地山を5cmほど掘り込み、ローム粒子・粘土粒子を含むにぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面をやや掘りくぼめている。第11~13層は袖部の構築土、第14層は掘方への埋土である。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	焼土ブロック多量, ロームブロック中量, 炭化物少量	9 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
3 黒褐色	焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子少量	10 暗褐色	粘土ブロック多量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量	11 にぶい黄褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量
5 黒色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	12 にぶい黄褐色	粘土粒子中量, 炭化物・細礫・砂粒少量
6 暗褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量	13 にぶい黄褐色	粘土粒子・細礫中量, 砂粒少量
7 暗褐色	ロームブロック多量, 焼土ブロック中量, 炭化物少量	14 にぶい黄褐色	焼土ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量

ピット 9か所。P1~P4は深さ27~55cmで、規模と位置から支柱穴である。P5は深さ35cmで、南東壁付近の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。P6~P9は深さ18~35cmで、規模と位置から補助柱穴とみられる。

覆土 8層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。第9層は貼床の構築土である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物中量	5 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
2 黒褐色	焼土ブロック中量, 炭化物少量, ローム粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック多量, 炭化物中量, 焼土ブロック少量	7 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量	8 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
		9 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片383点(坏14, 甕369), 須恵器片29点(坏16, 高台付坏7, 蓋3, 甕3), 土製品5点(球状土錘1, 管状土錘3, 支脚1), 金属製品3点(釘)が覆土中から出土している。M28はP5付近の床面, DP131は中央部の覆土下層, 394は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第84号住居跡出土遺物観察表(第202図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
394	須恵器	坏	[12.9]	5.1	7.3	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土中	35%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP130	球状土錘	2.3	2.3	0.7	11.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	PL46

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP131	管状土錘	8.9	4.8	1.7	196.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	ナデ 二方向からの穿孔後, 面取り	覆土下層	PL46

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP132	支脚	(10.0)	(5.7)	(4.7)	(306.0)	長石・石英・赤色粒子	ナデ 指頭圧痕 下端欠損	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M28	釘	(5.9)	0.6	0.5	(14.7)	鉄	頭部・脚部欠損 断面長方形	床面	

第87号住居跡 (第203・204図)

位置 調査区中央部のK14j9区, 標高9.0mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

規模と形状 西側が削平されているため, 北西・南東軸は2.56m, 北東・南西軸は2.25mが確認できただけである。遺存する壁と竈から主軸方向がN - 35° - Wの長方形と推測される。壁高は15cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。中央部が踏み固められている。

竈 北コーナー部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで58cm, 燃烧部幅30cmである。袖部および燃烧部は床面とほぼ同じ高さの地山に粘土ブロックを積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外への掘り込みがなく, 火床面から外傾し壁内で立ち上がっている。

竈土層解説

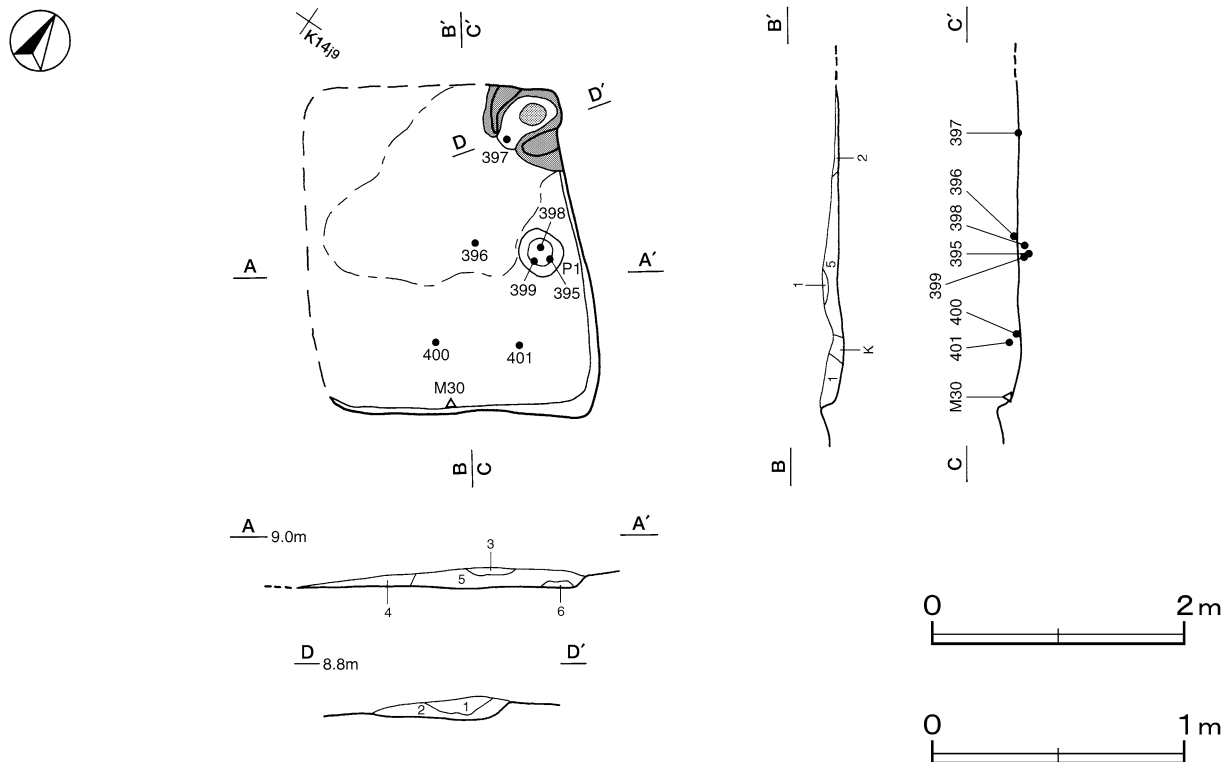
- 1 黒褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子微量 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

ピット 深さ12cmで, 北東壁際の中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットとみられる。

覆土 6層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

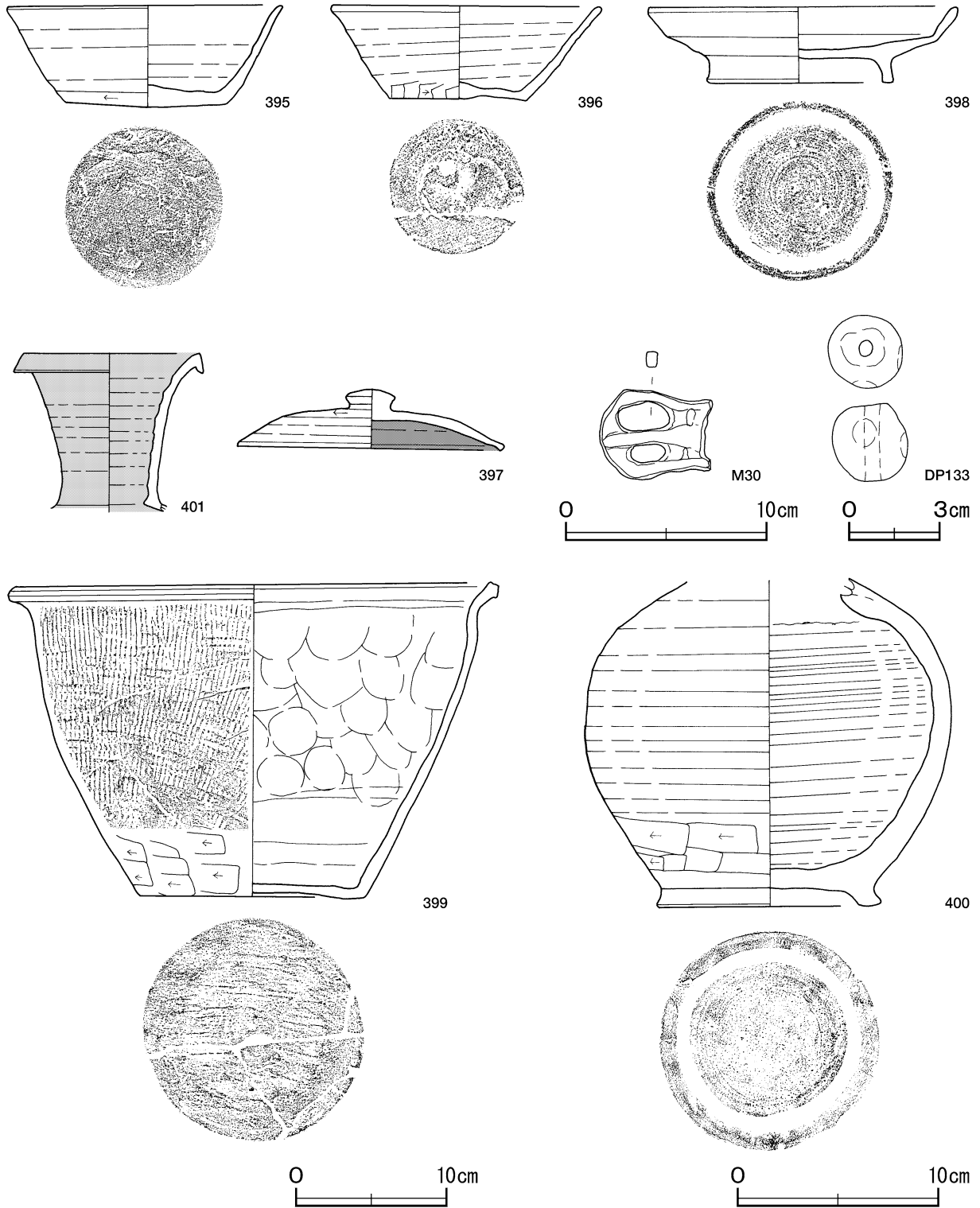
- 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, 炭化粒子微量 4 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
 2 にぶい黄褐色 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 5 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
 3 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 6 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量



第203図 第87号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片33点(蓋1, 甕32), 須恵器片15点(坏4, 高台付坏1, 蓋2, 盤2, 鉢1, 長頸瓶1, 甕4), 灰釉陶器片1点(長頸瓶), 土製品1点(球状土錘), 金属製品1点(鉸具)が出土している。395・398・399はP1の覆土下層, 397は竈の火床面, 400は南東壁付近の床面, M30は南東壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第204図 第87号住居跡出土遺物実測図

第87号住居跡出土遺物観察表 (第203・204図)

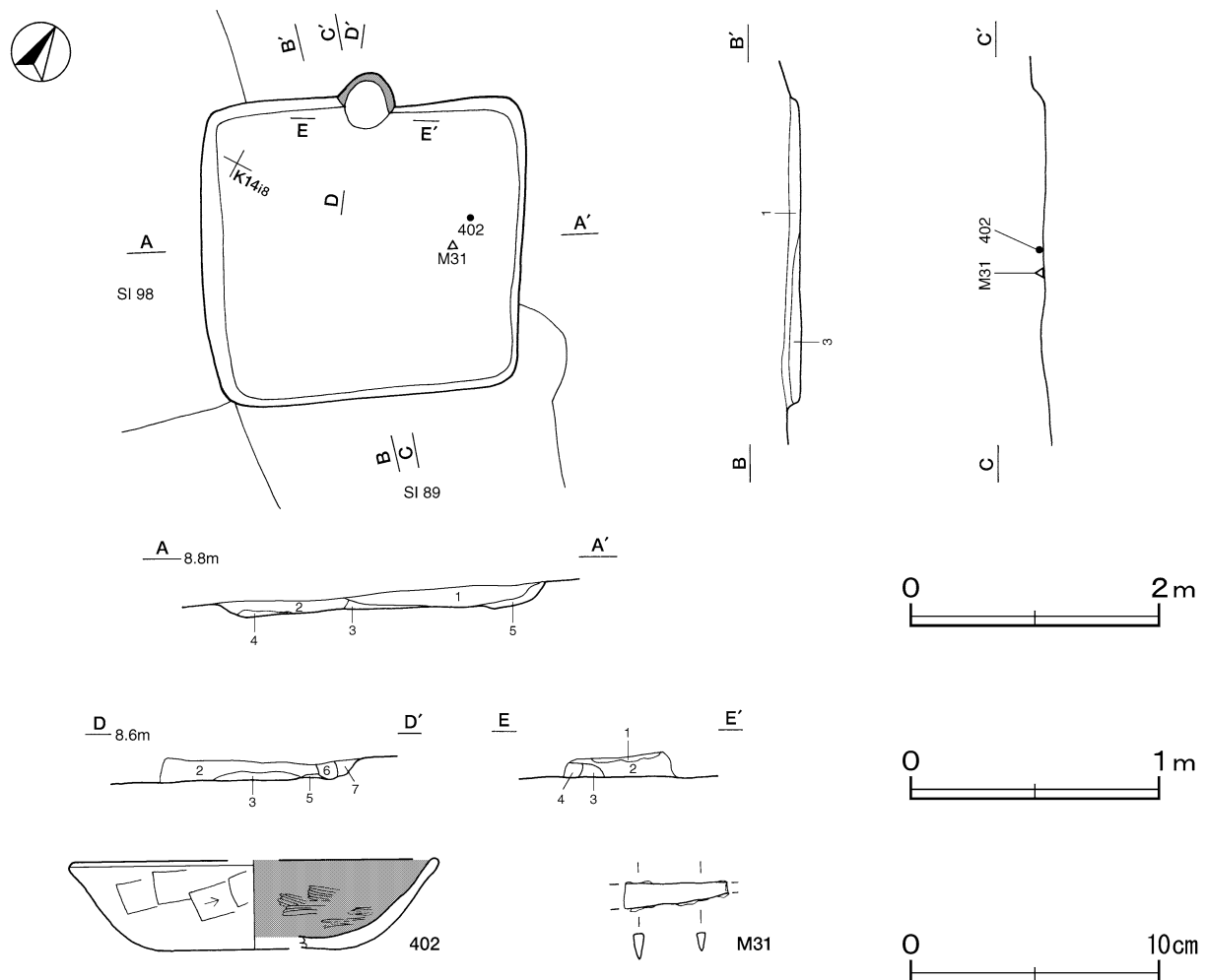
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
395	須恵器	坏	13.6	5.0	8.0	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部不定方向のヘラ削り	P 1 上層	100% PL31
396	須恵器	坏	13.0	4.6	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す不定方向のヘラ削り	床面	80%
397	土師器	蓋	13.2	3.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	床面	90% PL33
398	須恵器	盤	15.2	3.9	9.0	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	P 1 上層	95% PL34
399	須恵器	鉢	31.2	20.8	15.0	長石・石英・雲母	灰	良好	体部外面縦位の平行叩き後、横位の平行叩き 下端ヘラ削り 内面無文当て具痕を残すヘラナデ	P 1 上層	90% PL41
400	須恵器	長頸瓶	-	(16.3)	11.2	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け 内面ナデ	床面	80% PL37
401	灰釉陶器	長頸瓶	8.9	(8.0)	-	緻密・長石・石英	灰	良好	口縁部内・外面に釉施	覆土下層	20% PL37

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP133	球状土錘	2.5	2.5	0.5	16.1	長石・石英・雲母	ナデ 上下穿孔面の両端を面取り 指頭痕	覆土中	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M30	鉸具	5.6	4.5	0.7	58.0	鉄	2軸式	覆土中層	PL49

第88号住居跡 (第205図)

位置 調査区中央部のK14i8区, 標高8.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。



第205図 第88号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第89・98号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.60m, 短軸2.45mの方形で, 主軸方向はN - 28° - Wである。壁高は6 ~ 10cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで45cm, 燃烧部幅35cmである。袖部および燃烧部は床面とほぼ同じ高さの地山に粘土ブロックを積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 煙道部は壁外に20cm掘り込まれ, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量 | 5 にぶい黄褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 炭化粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 炭化物・焼土粒子少量, 粘土ブロック微量 | 7 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | |

覆土 5層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量 | 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 炭化物・焼土粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片28点(坏13, 甕15), 須恵器片5点(坏2, 甕3), 土製品1点(不明), 金属製品1点(刀子)が出土している。402・M31は東壁付近の床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から10世紀前葉と考えられる。

第88号住居跡出土遺物観察表(第205図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
402	土師器	坏	[14.6]	3.6	[8.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面, 底面へラ削り 内面へラ磨き	床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M31	刀子	(4.3)	1.0	0.4	(4.0)	鉄	切先・茎部欠損 断面三角形	床面	

第89号住居跡(第206図)

位置 調査区中央部のK14i8区, 標高8.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第98号住居跡を掘り込み, 北西部を第88号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北東・南西軸は2.20mで, 北西・南東軸は2.05mが確認できただけで, 主軸方向がN - 43° - Eの長方形と推測される。壁高は10 ~ 12cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

竈 北東壁に付設されている。第88住居に掘り込まれているため, 規模は焚口部から煙道部まで70cm, 右袖部のみ60cmが確認できただけである。袖部および燃烧部は床面とほぼ同じ高さの地山に粘土ブロックを積み上げて構築されている。火床部は床面よりやや高い。煙道部は壁外へ20cm掘り込み, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子中量, ロームブロック少量 | 4 黒褐色 焼土粒子少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 灰黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 6 にぶい褐色 粘土ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

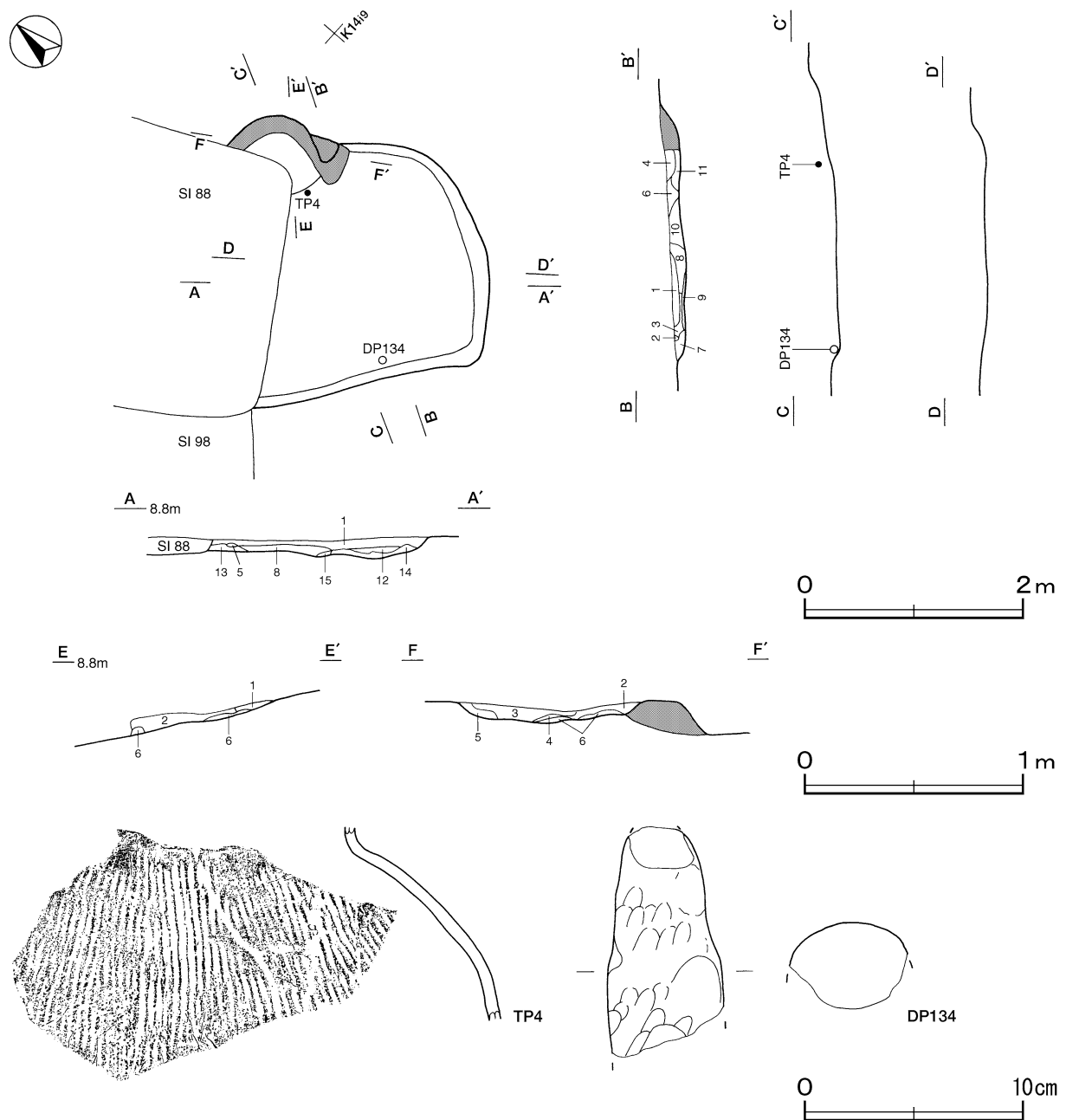
覆土 15層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量 | 9 灰黄褐色 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック・炭化物微量 | 10 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 粘土ブロック多量 | 11 にぶい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 | 12 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 粘土ブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 | 13 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 黒褐色 炭化粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子少量 | 15 明黄褐色 炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片119点(坏51, 甕68), 須恵器片24点(坏6, 高台付坏2, 蓋2, 甕14), 土製品1点(支脚)が出土している。DP134は南西壁際の床面, TP4は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第206図 第89号住居跡・出土遺物実測図

第89号住居跡出土遺物観察表 (第207図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP 4	須恵器	甕	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	良好	体部外面縦位の平行叩き 内面無文の当て具痕	覆土中	PL44

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP134	支脚	(10.5)	-	-	(116.0)	長石・石英・雲母・赤粘土	ナデ 指頭圧痕 両端部欠損	床面	

第90号住居跡 (第207・208図)

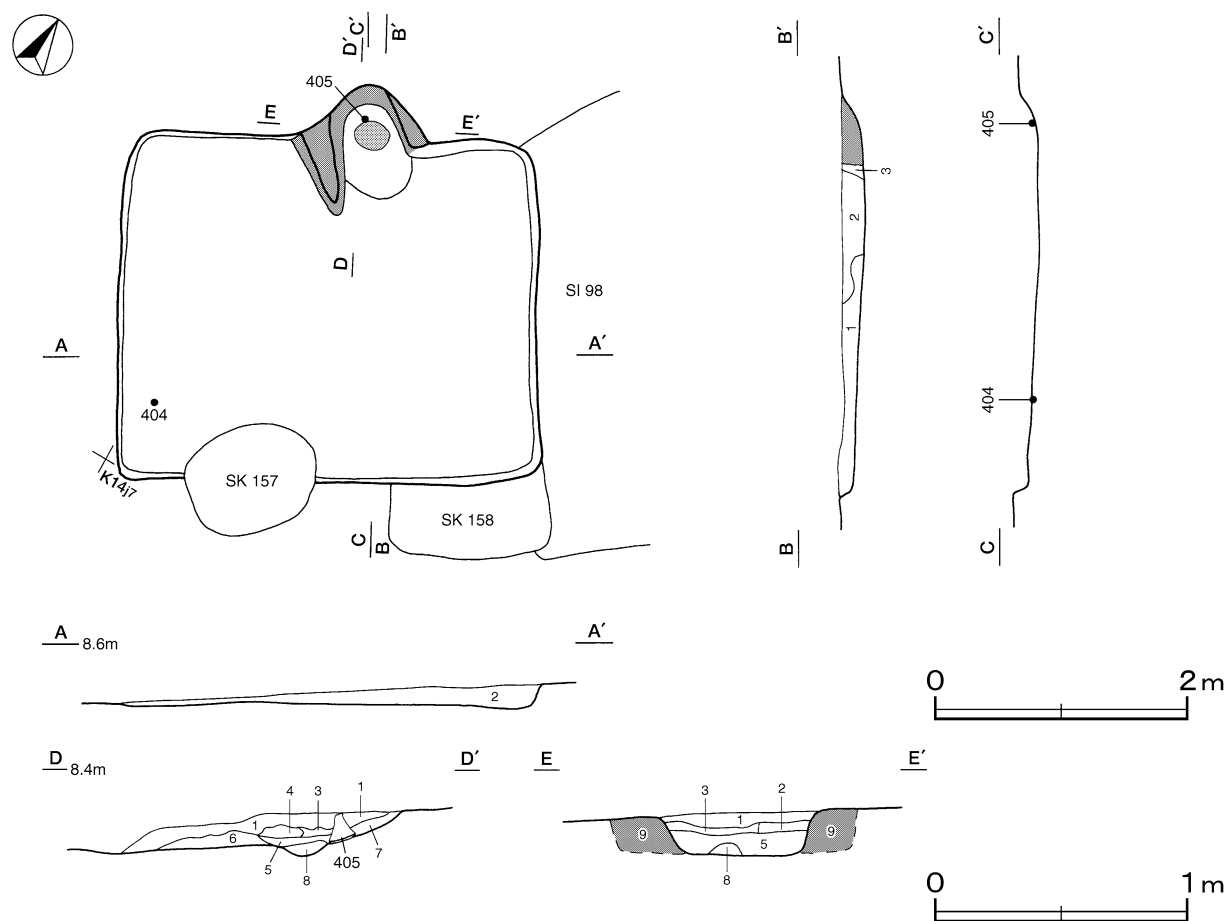
位置 調査区中央部のK 14 i 7区, 標高8.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第98号住居跡, 第158号土坑を掘り込み, 第157号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.37m, 短軸2.72mの長方形で, 主軸方向はN - 28° - Wである。壁高は12~20cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm, 燃烧部幅50cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に暗褐色土を積み上げて構築されている。第9層は袖部の構築土である。火床部は床面を12cm掘りくぼめて使用しており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ40cm掘り込み, 火床面から緩やかに立ち上がっている。



第207図 第90号住居跡実測図

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 |
| 2 灰黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 8 褐色 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量 | |
| 5 黒褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック・炭化物少量 | |
| 6 黒褐色 炭化物多量, 粘土ブロック少量 | |

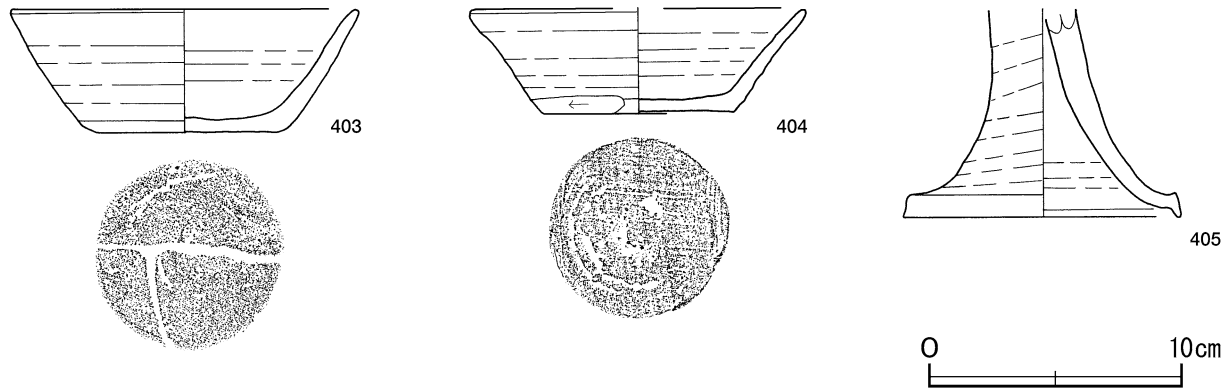
覆土 3層に分層できる。焼土ブロック・粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック多量, 炭化物中量, 焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片97点(坏8, 甕89), 須恵器片44点(坏23, 高台付坏2, 蓋9, 高盤1, 甕9)が出土している。405は竈の火床面, 404は南西壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第208図 第90号住居跡出土遺物実測図

第90号住居跡出土遺物観察表 (第208図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
403	須恵器	坏	13.4	4.9	7.3	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部下端手持ちへら削り後, 擦れ 底部へら削り	覆土中	90% PL31
404	須恵器	坏	[13.1]	4.2	7.4	長石・石英・雲母	灰	良好	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り痕を残す一方向のへら削り	床面	40%
405	須恵器	高盤	-	(8.3)	10.8	長石	灰	良好	ロクロナデ	床面	40% PL34

第96号住居跡 (第209・210図)

位置 調査区中央部のK14e6区, 標高8.5mの河岸段丘下位の傾斜部に位置している。

重複関係 第97号住居跡を掘り込み, 竈の一部を第163号土坑, 中央部を第182・184号土坑, 北東部を第183号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.04m, 短軸3.52mの長方形で, 主軸方向はN-46°-Eである。壁高は8~12cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 南西側にやや傾斜している。

竈 北東壁東寄りに付設されている。竈煙道部付近を第163号土坑に掘り込まれているため, 規模は焚口から40cm, 袖部幅40cmが確認できただけである。袖部は地山と同じ高さの床面に粘土ブロックを積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さである。

甕土層解説

- | | |
|----------------------------------|------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 | 4 暗褐色 炭化物中量, 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量 | 5 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック・炭化物少量 | |

ピット 深さ10cmで, 性格は不明である。

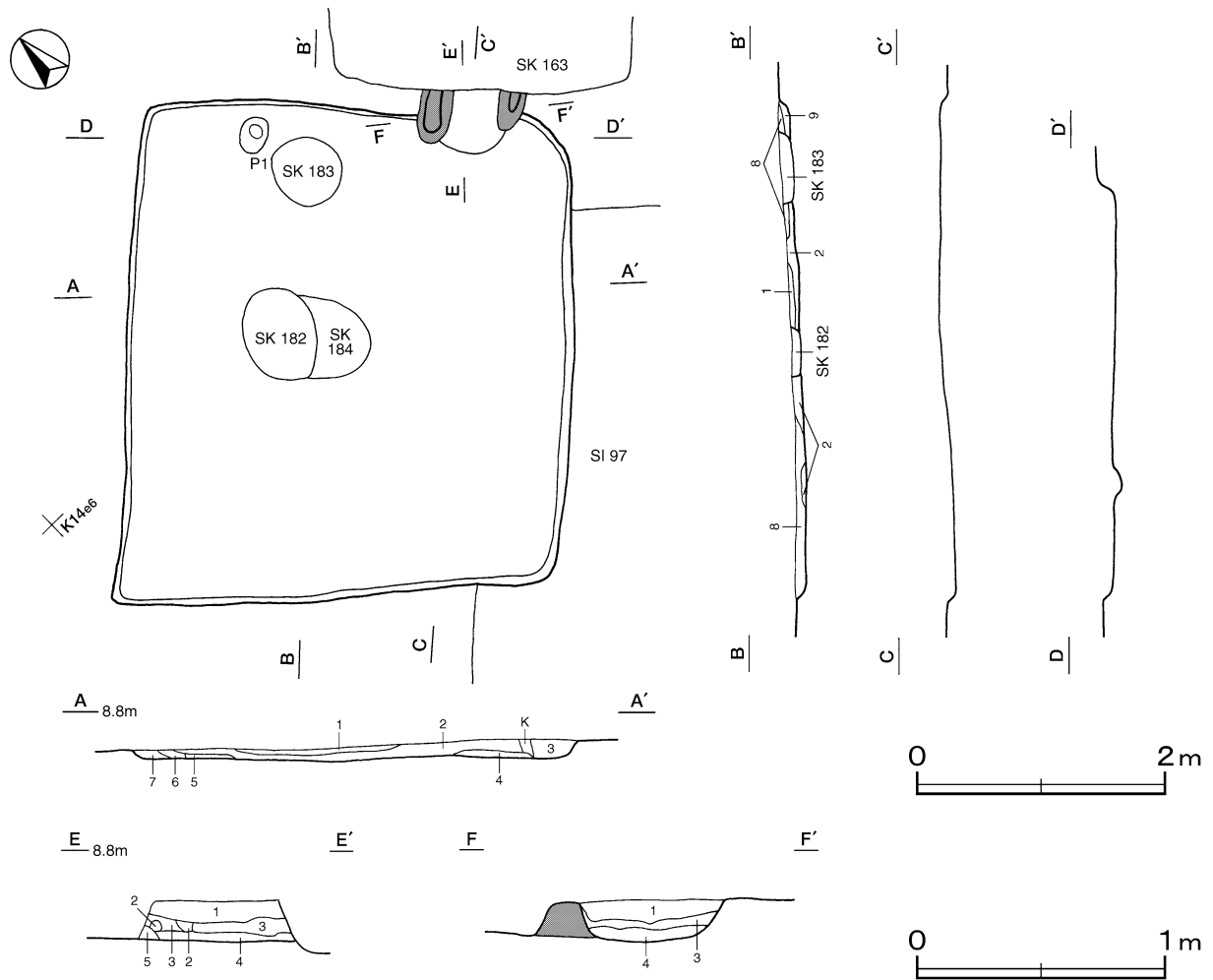
覆土 9層に分層できる。粘土ブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

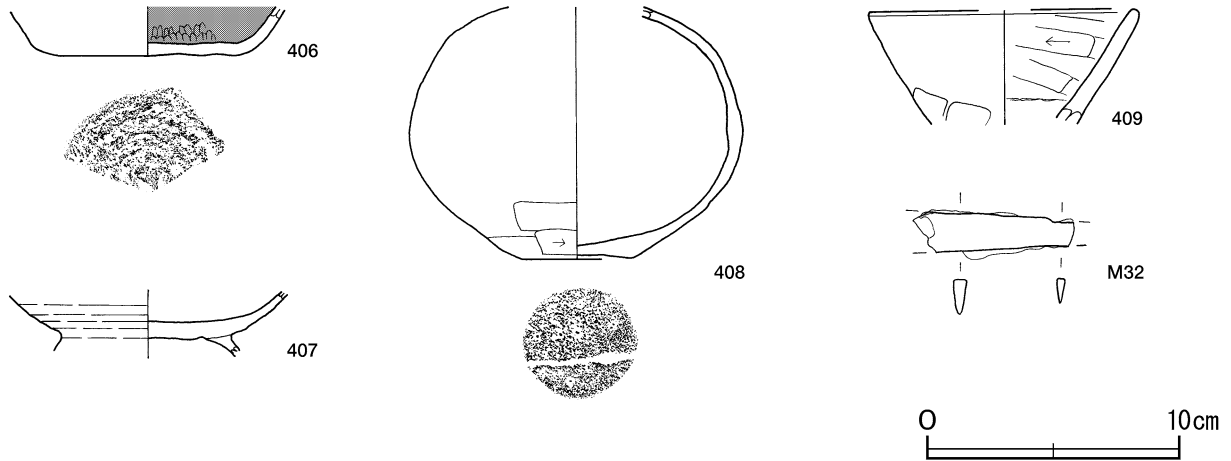
- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 炭化物・焼土粒子微量 | 7 黄褐色 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 粘土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい黄褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片106点(坏42, 高台付坏1, 甕63), 須恵器片28点(坏10, 高台付坏4, 蓋3, 短頸壺1, 甕10), 金属製品1点(刀子)が出土している。406~409は覆土中からそれぞれ出土している。その他, 流れ込んだ土師器片3点も出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第209図 第96号住居跡実測図



第210図 第96号住居跡出土遺物実測図

第96号住居跡出土遺物観察表（第210図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
406	土師器	坏	-	(1.9)	[7.4]	長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土中	15%
407	土師器	高台付坏	-	(2.6)	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り痕を残し高台貼り付け	覆土中	25%
408	土師器	埴	-	(10.0)	4.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部下端ヘラ削り 内面器面荒れ	覆土中	40%
409	土師器	埴	[10.6]	(4.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラ削り	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M32	刀子	(6.4)	1.4	0.5	(16.5)	鉄	切先・茎部欠損 断面三角形	覆土中	

第99号住居跡（第211図）

位置 調査区中央部のK14h5区、標高8.5mの河岸段丘下位の平坦部に位置している。

重複関係 北部が第14号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西側が調査区域外へ延び、北部が第14号溝に掘り込まれているため、北西・南東軸は2.70m、北東・南西軸1.96mが確認できただけである。遺存する柱穴と壁から、主軸方向がN - 34° - Wの方形または長方形と推測される。壁高は20～30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 西側へ傾斜している。確認された部分では壁溝が巡っている。

ピット 深さ34cmで、規模と位置から支柱穴とみられる。

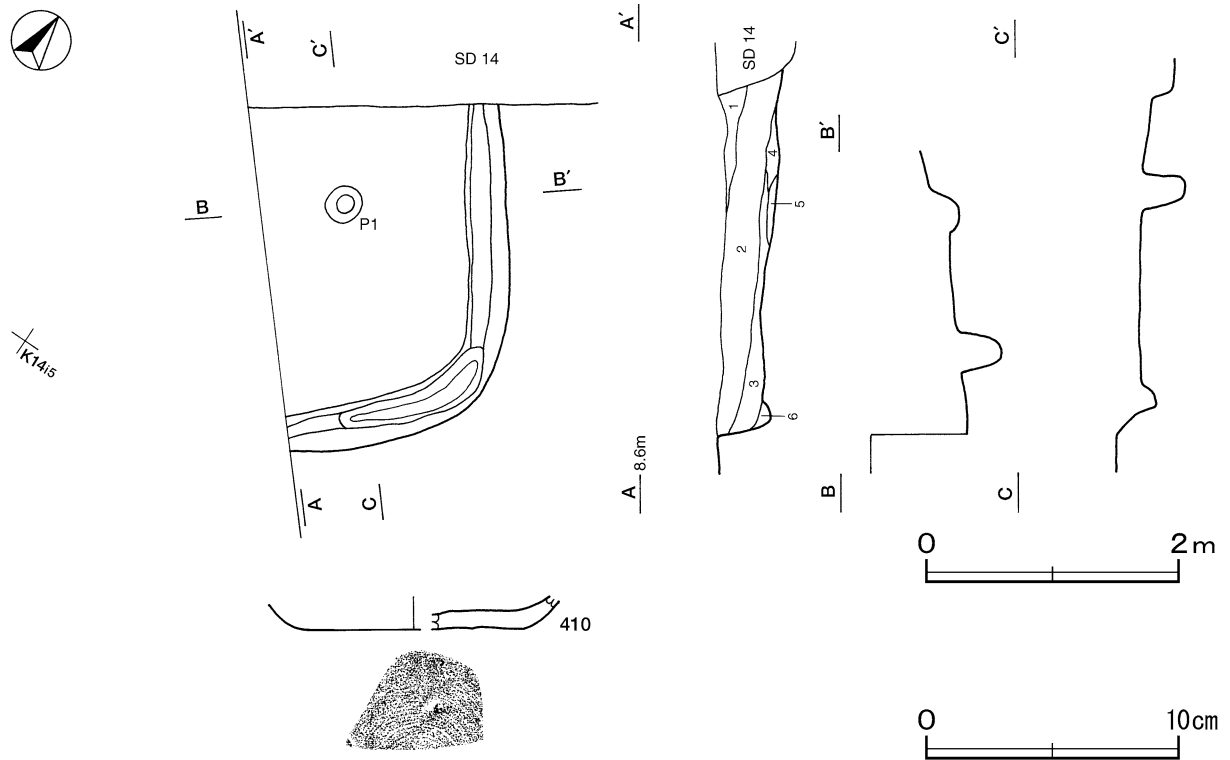
覆土 6層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック・粘土ブロック
微量 | 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子中量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片1点（坏）が覆土中から出土している。

所見 出土土器が少ないため時期判断は難しいが、遺存する遺構の状態や出土土器から10世紀中葉と考えられる。



第211図 第99号住居跡・出土遺物実測図

第99号住居跡出土遺物観察表（第211図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
410	土師器	坏	-	(1.3)	[8.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部内・外面器面摩滅 底部回転系切り	覆土中	5%

第105号住居跡（第212・213図）

位置 調査区南東部のK15g5区，標高10.0mの河岸段丘中位の傾斜部に位置している。

規模と形状 長軸4.08m，短軸3.15mの長方形で，主軸方向はN - 36° - Wである。壁高は15～45cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。壁溝が全周している。

竈 北西壁中央部のやや北寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cm，燃烧部幅65cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さの地山ににぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。第10層が袖部の構築土である。火床部は床面を浅く掘りくぼめて使用している。煙道部は壁外へ60cm掘り込み，火床面から外傾して立ち上がり，端部で外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|-----------|------------------|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 にぶい黄褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | 焼土ブロック少量，炭化粒子微量 | 8 褐色 | 焼土ブロック中量，炭化物少量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量 | 9 黒褐色 | 炭化粒子微量 |
| 5 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量，細礫・砂粒少量 |

ピット 4か所。P1～P3は深さ10cm～20cmで、規模と位置から支柱穴である。P4は深さ20cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

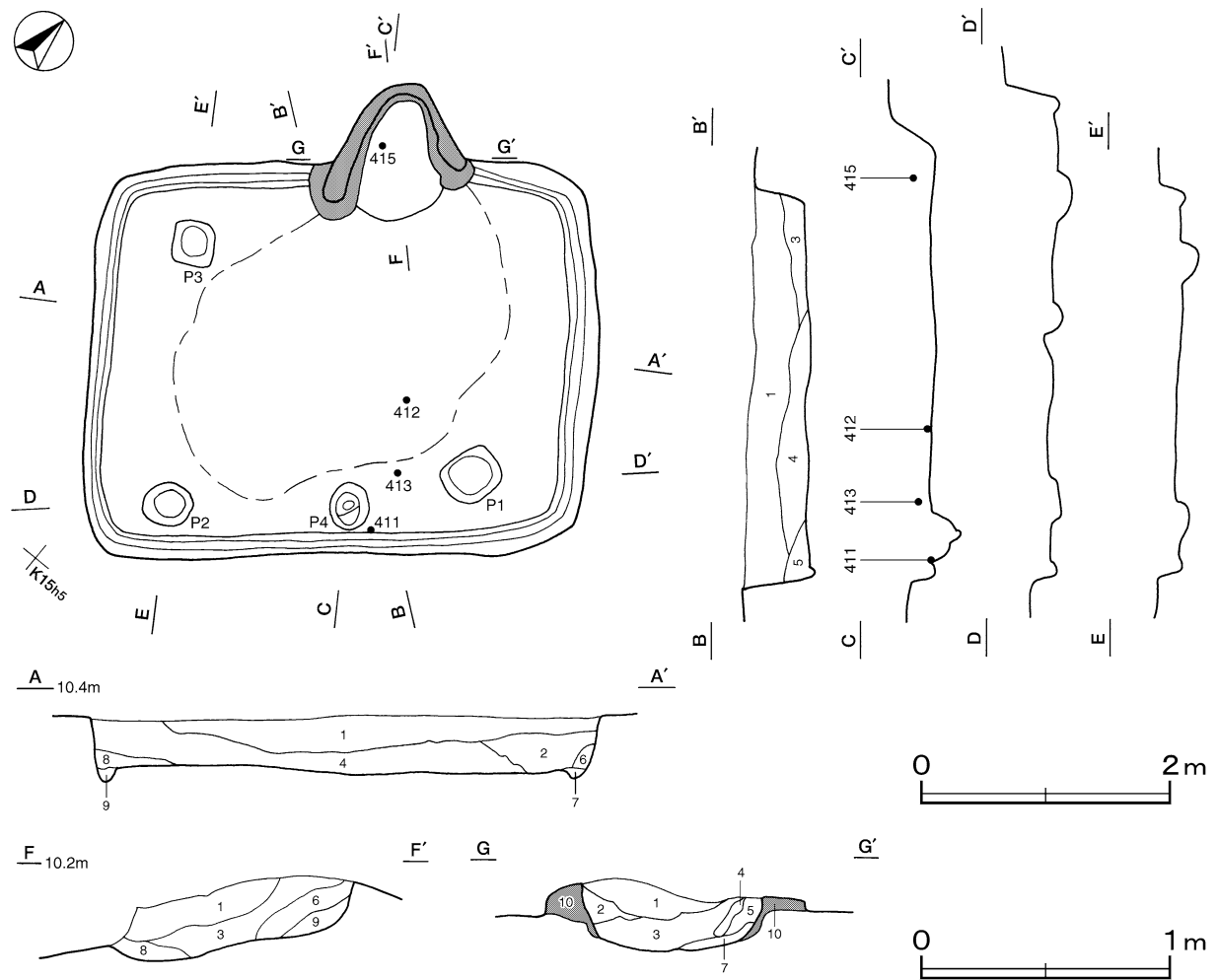
覆土 9層に分層できる。砂質粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

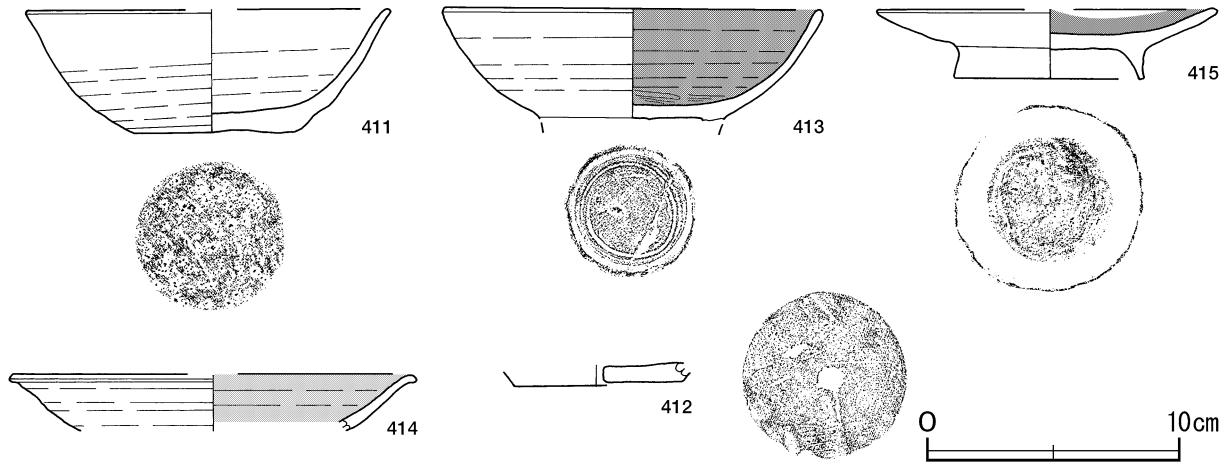
- | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 黒褐色 砂質粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 8 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 |
| 4 黒褐色 砂質粘土ブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 9 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片254点(坏39, 高台付椀2, 高台付皿1, 甕212), 須恵器片49点(坏8, 高台付坏1, 蓋1, 鉢3, 壺3, 甕32, 甌1)が出土している。その他, 流れ込んだ縄文土器片2点, 混入した陶器片1点も出土している。411は南東壁際, 412は中央部の床面からそれぞれ出土している。413は南東壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第212図 第105号住居跡実測図



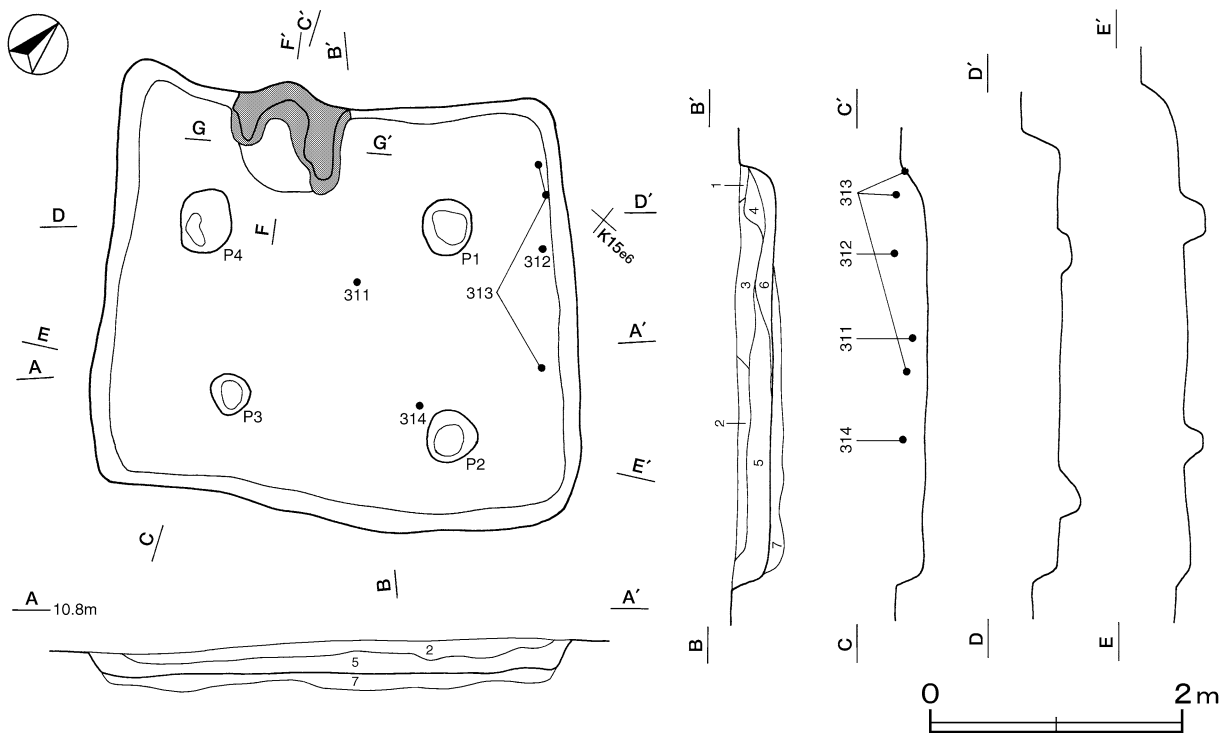
第213図 第105号住居跡出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表（第213図）

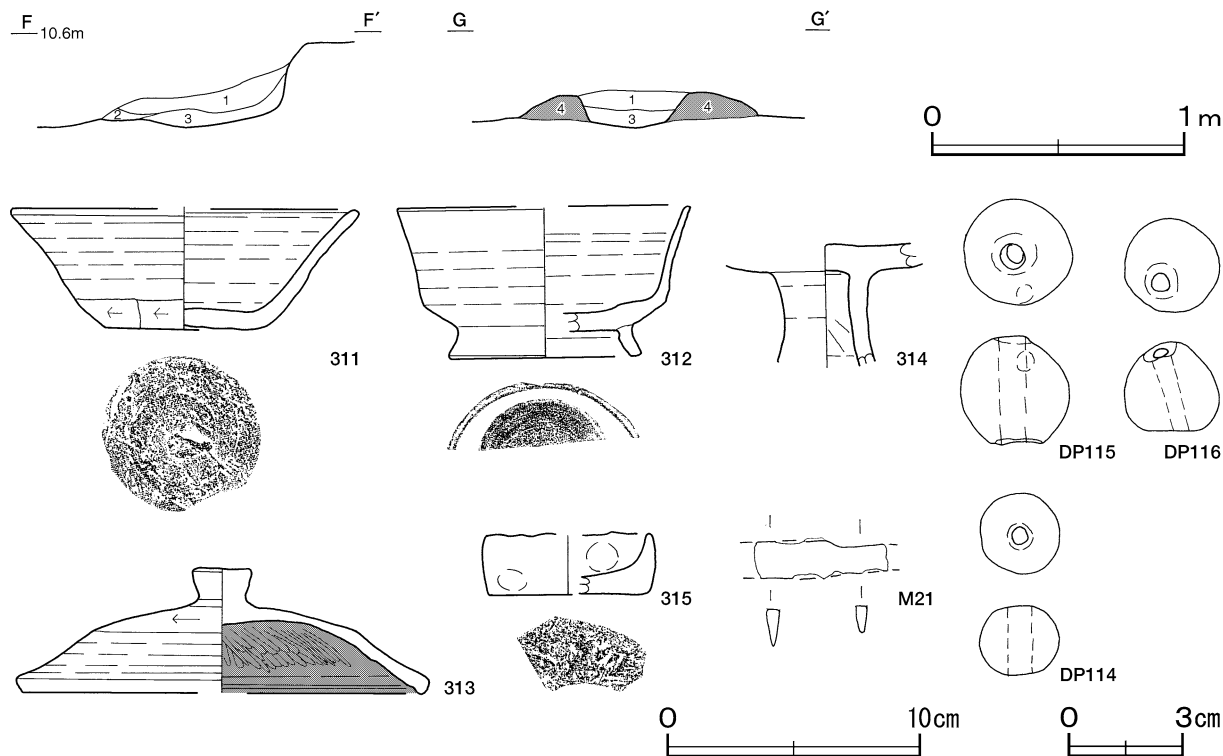
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
411	土師器	坏	[14.4]	4.9	6.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部不定方向のヘラ削り	床面	75% PL28
412	須恵器	坏	-	(0.8)	6.6	長石・雲母	灰	良好	底部不定方向のヘラ削り 孔径0.8cm 重量56g 紡錘車転用カ	床面	20% PL31
414	灰釉陶器	椀	[15.8]	(2.3)	-	緻密・長石・石英・黒色粒子	灰黄	良好	口縁部内面に施釉	覆土中	5%
413	土師器	高台付椀	[14.8]	(4.4)	-	石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	底部回転ヘラ削り 高台剥離	覆土下層	45%
415	土師器	高台付皿	13.5	2.9	7.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土中層	70% PL34

第107号住居跡（第214・215図）

位置 調査区東部のK15e5区、標高10.5mの河岸段丘中位の平坦部に位置している。



第214図 第107号住居跡実測図



第215図 第107号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 長軸3.90m，短軸3.34mの長方形で，主軸方向はN - 35° - Wである。壁高は20～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床である。

竈 北西壁中央部の西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで85cm，燃烧部幅50cmである。袖部および燃烧部は床面とほぼ同じ高さの地山に暗褐色土を積み上げて構築されている。第4層は袖部の構築土である。火床部は床面をやや掘りくぼめている。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ，火床面から直立している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | | |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 4か所。P1～P4は深さ10～24cmで，規模と配置から支柱穴である。

覆土 6層に分層できる。粘土ブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。第7層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量，粘土ブロック微量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック多量，炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 5 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 | 粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 7 黒褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片193点(坏12，蓋1，甕179，手捏土器1)，須恵器片83点(坏36，高台付坏5，蓋2，盤2，高盤1，甕37)，土製品4点(球状土錘)，石器1点(砥石)，金属製品1点(刀子)が出土している。311は中央部の覆土中層，312・313は北東壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第107号住居跡出土遺物観察表 (第214・215図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
311	須恵器	坏	[13.7]	4.8	6.3	長石・石英・雲母	暗灰黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土中層	60%
312	須恵器	高台付坏	[11.4]	6.0	[7.5]	長石・石英	暗灰	良好	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土上層	35%
313	土師器	蓋	[15.8]	4.9	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土上層	25%
314	須恵器	高盤	-	(4.9)	-	長石・石英	暗灰	良好	脚部内・外面口クロナデ	覆土上層	20%
315	土師器	手捏土器	[6.4]	2.4	[6.1]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ナデ 指頭痕	覆土中	40%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP114	球状土錘	2.1	1.9	0.6	7.7	長石・雲母	ナデ 上下穿孔面の両端を面取り 指頭痕	覆土中	PL46
DP115	球状土錘	2.9	2.8	0.7	20.2	長石・石英・雲母	ナデ 上下穿孔面の両端を面取り 指頭痕	覆土中	PL46
DP116	球状土錘	2.5	2.3	0.5	13.8	長石・石英・雲母	ナデ 上下穿孔面の両端を面取り 指頭痕	覆土中	PL46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M21	刀子	(5.3)	1.5	0.5	(7.5)	鉄	切先・茎部欠損 片刃	覆土中	

表7 竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴	棚状 施設				
1	I13d5	N-31°-E	方形	3.88 × 3.62	24~40	平坦	全周	-	-	-	1	-	1	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	10世紀前葉	
19	I13e2	N-48°-W	[方形・ 長方形]	(2.70)×(2.20)	35~70	平坦	一部	-	-	-	1	-	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀中葉	S18→本跡
33	K14b9	N-45°-E	長方形	5.05 × 4.23	10~45	平坦	-	2	1	1	-	-	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀中葉	S138 SB6→ 本跡→SE3
41	J15j1	N-50°-W	[方形]	[5.55]×5.50	32~40	平坦	一部	3	1	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器	9世紀後葉	S144→本跡→SK77-78 ・82-83-99 Jp3 SD9
50	J14j4	N-49°-E	長方形	3.75 × 3.15	8~20	平坦	一部	-	-	-	1	-	1	人為	土師器, 須恵器	10世紀前葉	S149-71→本跡
58	M16b1	N-25°-W	[方形・ 長方形]	(4.50)×(4.20)	20~40	平坦	一部	1	-	-	1	-	-	人為	土師器, 須恵器	10世紀中葉	S157-59-60→ 本跡
59	M15b0	N-26°-W	[方形・ 長方形]	[3.25]×(3.15)	5~40	平坦	一部	-	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土製品	9世紀中葉	S160→本跡→ S158-67
60	M16b1	N-35°-W	[方形・ 長方形]	3.38 × (2.00)	12~40	平坦	一部	-	-	壁柱 穴12	2	-	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	9世紀後葉	S155-57-77→本 跡→S158-59-67
62	K14c1	N-48°-W	[方形・ 長方形]	(3.16)×3.05	36	平坦	(全周)	-	1	-	1	-	-	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	9世紀前葉	SK107→本跡
67	M15b0	N-15°-W	[方形・ 長方形]	(3.65)×3.65	-	平坦	-	-	-	-	1	-	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀後葉	S155-59-60→ 本跡→S158
69	L16h1	N-53°-E	[方形・ 長方形]	(2.45)×(1.65)	-	平坦	-	-	-	-	1	-	-	-	土師器, 土製品	10世紀前葉	S168-70→本跡→方形 竪穴13 SK116-118-121
70	L16h1	N-50°-E	方形	3.20 × 2.96	6~18	平坦	-	-	-	-	1	-	-	人為	土師器, 須恵器, 土製 品, 石器, 金属製品	9世紀中葉	S168→本跡→ S169
80	K14j0	N-34°-E	方形	2.68 × 2.58	8~10	平坦	-	-	-	-	1	-	1	人為	土師器, 須恵器	9世紀中葉	S181→本跡
84	K14g8	N-50°-W	方形	4.14 × 3.95	20~35	平坦	一部	4	1	4	1	-	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	9世紀前葉	S185-93→本跡 →SK162
87	K14j9	N-35°-W	[長方形]	2.56 × [2.25]	15	平坦	-	-	1	-	1	-	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	9世紀前葉	
88	K14i8	N-28°-W	方形	2.60 × 2.45	6~10	平坦	-	-	-	-	1	-	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	10世紀前葉	S189-98→本跡
89	K14i8	N-43°-E	[長方形]	2.20 × (2.05)	10~12	平坦	-	-	-	-	1	-	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀後葉	S198→本跡→ S188
90	K14i7	N-28°-W	長方形	3.37 × 2.72	12~20	平坦	-	-	-	-	1	-	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀前葉	S198 SK158→ 本跡→SK157
96	K14e6	N-46°-E	長方形	4.04 × 3.52	8~12	平坦	-	-	-	1	1	-	-	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	9世紀後葉	S197→本跡→ SK163-182-184
99	K14h5	N-34°-W	[方形・ 長方形]	(2.70)×(1.96)	20~30	平坦	一部	1	-	-	-	-	-	人為	土師器	10世紀中葉	本跡→SD14
105	K15g5	N-36°-W	長方形	4.08 × 3.15	15~45	平坦	全周	3	1	-	1	-	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀後葉	
107	K15e5	N-35°-W	長方形	3.90 × 3.34	20~30	平坦	-	4	-	-	1	-	-	人為	土師器, 須恵器, 土製 品, 石器, 金属製品	9世紀中葉	

茨城県教育財団文化財調査報告第311集

田 島 遺 跡
(三 面 寺 地 区)

一般国道6号千代田石岡バイパス
(かすみがうら市市川～石岡市東大橋)
事業地内埋蔵文化財調査報告書3

上 巻

平成21(2009)年3月18日 印刷
平成21(2009)年3月23日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団
〒310 0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029 - 225 - 6587

印刷 (有)川田プリント
〒310 - 0041 水戸市上水戸4丁目6 - 53
TEL 029 - 253 - 5551